

門真市

子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

門真市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学

目次

はじめに	2
I 調査概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査方法	3
3. 調査内容	3
4. 調査対象者	3
5. 調査実施日	3
6. 調査配布・回収率(数)	3
7. 調査実施主体	5
8. 研究者一覧	5
9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い	5
II 調査結果	7
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕	7
2. 単純集計結果〔保護者〕	84
3. クロス集計および分析結果	182
3－1. 基本情報	182
(1) 経済状況	182
(2) 家庭状況（制度等）	201
3－2. 雇用	248
3－3. 健康	256
3－4. 家庭生活、学習	299
3－5. 対人関係	359
III 総合考察	426
1) 大阪府共同調査の意義	426
2) 単純集計	426
3) クロス集計	429
まとめ	431
IV 資料編	439

はじめに

2014年1月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されたことをスタートに、2014年8月「子供の貧困対策に関する大綱」が策定された。これら政府の動きを受けて、大阪市や大阪府内自治体含む大阪府は約10万件にも及ぶ子どもの生活に関する実態調査に共同で取り組んだ。府内すべてを網羅したこと、同じ調査で実施したことの意味は、大きい。なぜなら、各自治体がばらばらに実施し結果を見せても共通の指標にならず、この数値がどうなのか、意味があるのか、よくわからない実態も少なくない。世間でもかなり話題になり、マスコミに多数取り上げられた。この頃には、子どもの貧困が広く知られ社会問題化されつつあったが、この大規模な調査の動きは拍車をかけたのみならず、データ数の多さから、全て実証され、以下に示す政策にも少なからず影響をもたらした。

2019年6月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が5年ぶりに見直され、「子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が施行された。それを受けて、同年11月「子供の貧困対策に関する大綱～日本の将来を担う子供たちを誰一人取り残すことがない社会に向けて～」が再策定された。大綱では、「支援が届いていない、又は届きにくい子ども・家庭に配慮して対策を推進する」、「困窮層が多様であること」、「社会的孤立に陥ることのないように配慮する」など新たな視点が基本方針として追加され、ヤングケアラーと思われる子どもや、外国籍や障がいを持つ子どもたちなど、具体的な困窮層の子どもや家庭が示された。同時に、2023年4月にこども家庭庁が発足され、貧困をはじめとする子どもを取り巻く社会問題にシームレスに向き合い、途切れない政策・支援を打ち立てていくことが期待されている。

こうして子どもの貧困に関する社会的認知や政策が知られるようになったが、子どもの実態はどう変わったのであろうか。政策の効果は表れたであろうか。そんな思いをもって、大阪府では再度府内自治体とともに子どもの生活に関する実態調査が共同実施されることになった。全国的にここまで一体的に実施する都道府県は存在せず、大阪府が、大阪府内の大半を占める大阪市も含めて牽引した役割は大きい。

子どもの貧困については、前回と同様に、その国の貧困線未満の所得で暮らす相対的貧困の17歳以下の子どもの存在および生活状況を指す相対的貧困率でとらえる。OECDや厚生労働省調査の貧困率には等価可処分所得の中央値の50%が使用されているが、絶対的なものではなく、EU、ユニセフは公式の貧困基準のひとつに中央値の60%を使用（ただし、常に60%基準採用ではない）している。前回同様、60%のラインも含め検討している。子どもの相対的貧困率については、発表主体、統計利用データ年次によって変動する。内容的には、タウンゼンドの定義を元にChild Poverty Action Group (CPAG) が示している、①所得や資産など経済的資本 (capital) の欠如、②健康や教育など人的資本 (human capital) の欠如、③つながりやネットワークなど社会関係資本 (social capital) の欠如、の3つの資本の欠如を基本的な枠組みとしてとらえる。

I 調査概要

1. 調査の目的

門真市では、子どもたちが積極的に自分の生き方を選択し、自立できるよう様々な施策を実施している中、今後、効果的な子どもの貧困対策を検証するために調査を実施し、得られた結果を分析することによって、支援を必要とする子どもや家庭に対する方策を検証することを目的としている。

2. 調査方法

門真市内の調査対象の世帯に、学校を通じて調査票を配付し、回収を得たもの。

3. 調査内容

巻末の調査票参照

4. 調査対象者

小学校5年生・その保護者（864世帯）、中学校2年生・その保護者（815世帯）

5. 調査実施日

門真市：令和5年7月7日～令和5年7月20日

大阪府内全自治体：令和5年6月27日～令和5年9月30日

6. 調査配布・回収率(数)

表1. 調査票の回収状況

		回収率(%)	回収数	配布数
門真市	小学5年生	53.6	463	864
	小学5年生の保護者	52.5	454	864
	中学2年生	48.6	396	815
	中学2年生の保護者	47.0	383	815
	小学5年生・中学2年生合計	51.2	859	1,679
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	49.9	837	1,679
	計	50.5	1,696	3,358
大阪府全自治体	小学5年生	56.2	23,289	41,458
	小学5年生の保護者	55.0	22,819	41,458
	中学2年生	51.4	19,990	38,911
	中学2年生の保護者	49.8	19,390	38,911
	小学5年生・中学2年生合計	54.0	43,370	80,369
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	53.9	43,358	80,369
	計	54.0	86,728	160,738

※大阪府内全自治体の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

大阪府内全自治体回収状況配布・回収方法別

		回収率(%)	回収数	配布数
学校配布・学校回収	小学5年生	61.6	15,927	25,852
	小学5年生の保護者	62.6	16,178	25,852
	中学2年生	58.3	13,712	23,539
	中学2年生の保護者	58.2	13,707	23,539
	小学5年生・中学2年生合計	60.1	29,674	49,391
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	60.7	29,977	49,391
	計	60.4	59,651	98,782
学校配布・郵送回収	小学5年生	22.6	1,401	6,191
	小学5年生の保護者	22.2	1,376	6,191
	中学2年生	15.3	936	6,099
	中学2年生の保護者	15.5	943	6,099
	小学5年生・中学2年生合計	19.2	2,362	12,290
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	2,361	12,290
	計	19.2	4,723	24,580
郵送配布・郵送回収	小学5年生	21.3	2,003	9,415
	小学5年生の保護者	21.0	1,978	9,415
	中学2年生	17.8	1,646	9,273
	中学2年生の保護者	17.8	1,653	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	19.7	3,676	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.7	3,675	18,688
	計	19.7	7,351	37,376
学校配布・WEB回答	小学5年生	23.0	3,007	13,068
	小学5年生の保護者	17.0	2,228	13,068
	中学2年生	21.3	2,714	12,718
	中学2年生の保護者	16.0	2,037	12,718
	小学5年生・中学2年生合計	22.2	5,723	25,786
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	4,949	25,786
	計	20.7	10,672	51,572
郵送配布・WEB回答	小学5年生	10.1	951	9,415
	小学5年生の保護者	11.2	1,059	9,415
	中学2年生	10.6	982	9,273
	中学2年生の保護者	11.3	1,050	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	10.4	1,935	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	12.8	2,396	18,688
	計	11.6	4,331	37,376

※各配布・回収方法の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

なお、未就学児童の保護者を対象とした調査も大阪府内の3自治体において実施した。さらに1自治体では、小5・中2以外の学年の児童とその保護者を対象とした調査も実施した。これらの合計配布数は、19,513件、回収数は、14,626件、回収率75.0%であった。

7. 調査実施主体

門真市

調査研究業務受託者

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

8. 研究者一覧

担当者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

教授 山野 則子（業務責任者）

特任講師 橋本 磨和

シニア研究員 永田 麻衣 佐伯 厘咲 李 孟

協力者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

准教授 嵯峨 嘉子

研究補助者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 経済学研究科

准教授 牛 冰

武庫川女子大学 社会情報学部 社会情報学科 助教 駒田 安紀

大阪商業大学 公共学部 公共学科 助教 林 萍萍

奈良佐保短期大学 地域こども学科 講師 河村 信子

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

研究員 黄 健育 渡邊 陽亮

大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 専攻社会福祉学分野 林 慎吾

松浦 孝範 久地井 寿哉 渡邊 祐作

9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い

本報告書においては、門真市と大阪府内全自治体をそれぞれ掲載している。門真市のデータについては既に「I 調査概要 2～8」で述べた方法で収集したものである。大阪府内全自治体については、大阪府25市町村のデータに共同実施18市町のデータを統合したものである。これら全自治体においては、小学生・中学生27問、保護者26問をそれぞれ共通設問として調査項目を設計し、全体を統合して扱うあるいは比較することが可能なものとした。なお、一部の市においては、これらの共通設問とは別途把握したい内容がある場合に限り、追加で独自設問を設けている。

調査の結果、府と他共同実施18市町との間で回収率や回収数に差が生じた。府では、予めサンプリングした対象8000件への配布を行いその約30%の回収となったのに対し、他共同実施市ではほとんどの市が全数配布の結果、高いところでは70%を超える回収率となっている。このため、自治体間で回収率あるいはサンプルサイズの補正を行うか否かについて検討し、補正は行わないとの結論に達した。

1点目の理由としては、今回の調査では調査票配布の方法に郵送配布と学校配布の2種類があり、いずれを用いるかは自治体の状況に基づいて決定された。配布方法が異なることで回収率に差が生じることは避けられないものであった。

2点目の理由としては、このような状況に対して、例えば回収率の高かった自治体について

データの再サンプリングなどの方法を用いて削減を行うことも意見が出された。しかし、その場合、どのような基準で選択するのかが恣意的になってしまうこと、削減後の結果を提示した場合、施策を提言するための貴重な調査結果であるにもかかわらずその一部が掬い取られないことになり、全数調査をした市においては意義が失われてしまう。

このような理由から、大阪府内全自治体のデータは回収したデータをすべて統合したものとなっている。

本報告書では、「門真市」、「大阪府内全自治体」両者のグラフを掲載しているため、このように書き分けて論じていく。

なお、報告書においてはパーセンテージを用いて記述し、議論を進める。この中で、パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う（合計する・差を把握する・何倍かに着目する）ことがあるが、実際に示された数値で算出しても結果が異なることがある。これは、示されている数値は小数第二位以下を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。

Ⅱ 調査結果

1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕

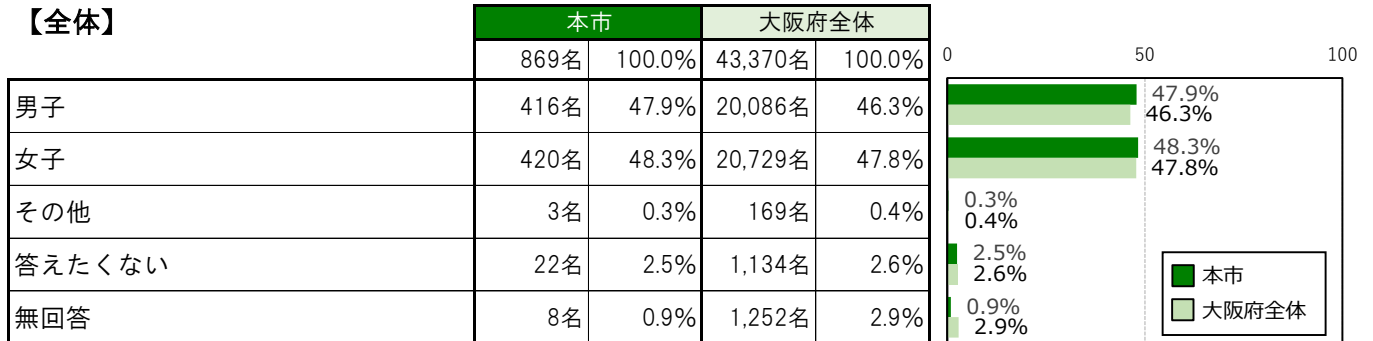
門真市

回答者の属性

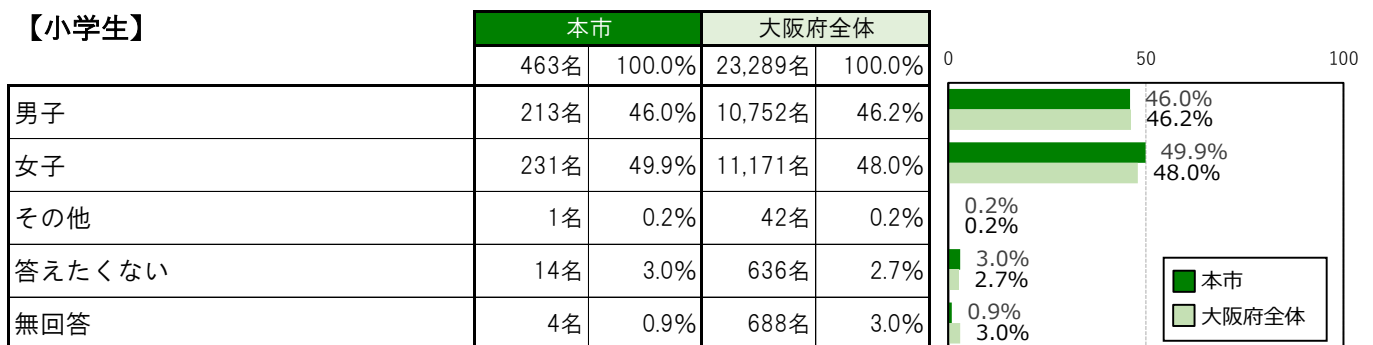
問27 性別

全体は、「女子」が48.3%で最も多く、次いで「男子」が47.9%となっている。
小学生は、「女子」が49.9%で最も多く、次いで「男子」が46.0%となっている。
中学生は、「男子」が50.3%で最も多く、次いで「女子」が46.5%となっている。

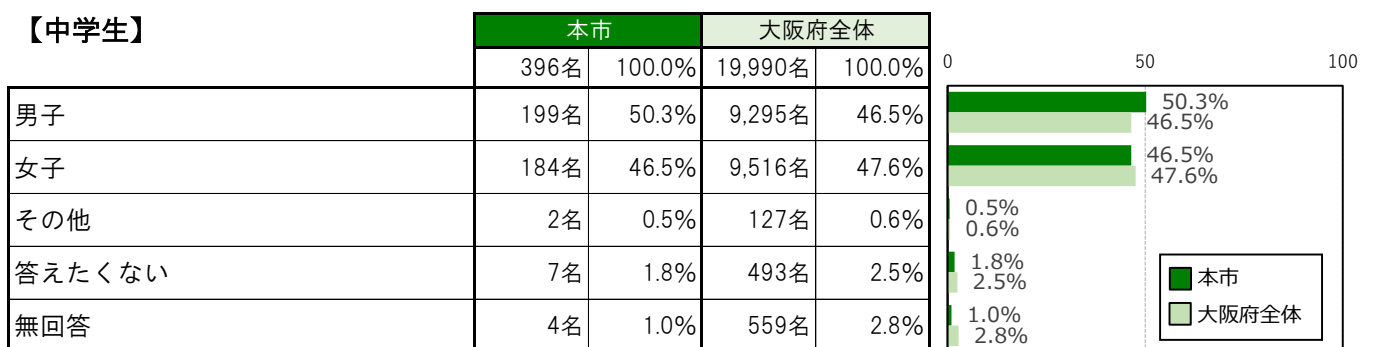
【全体】



【小学生】



【中学生】



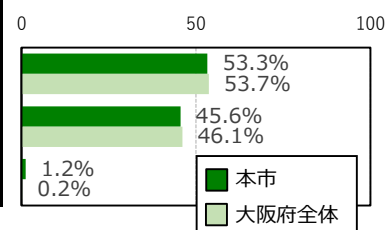
回答者の属性

問1 学年

子どもの学年は、「小学生」が463名・53.3%、「中学生」が396名・45.6%となっている。

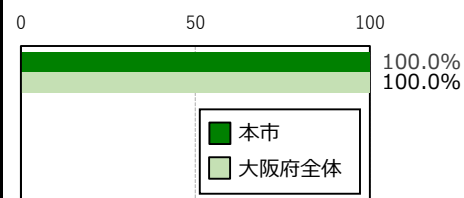
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	869名	100.0%	43,370名	100.0%
小学生	463名	53.3%	23,289名	53.7%
中学生	396名	45.6%	19,990名	46.1%
無回答	10名	1.2%	91名	0.2%



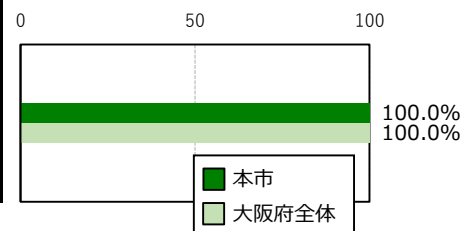
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	463名	100.0%	23,289名	100.0%
小学生	463名	100.0%	23,289名	100.0%
中学生	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	396名	100.0%	19,990名	100.0%
小学生	-	-	-	-
中学生	396名	100.0%	19,990名	100.0%
無回答	-	-	-	-



ふだんの生活のことについて

問2 起床時間の規則性

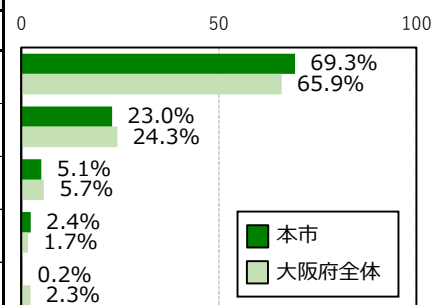
全体は、「起きている」が69.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が23.0%、「あまり、起きていない」が5.1%、「起きていない」が2.4%となっている。

小学生は、「起きている」が68.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が23.8%、「あまり、起きていない」が5.4%、「起きていない」が1.7%となっている。

中学生は、「起きている」が69.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が22.0%、「あまり、起きていない」が4.8%、「起きていない」が3.0%となっている。

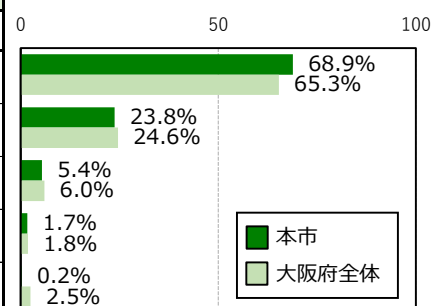
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	602名	69.3%	28,594名	65.9%
どちらかといえば、起きている	200名	23.0%	10,539名	24.3%
あまり、起きていない	44名	5.1%	2,478名	5.7%
起きていない	21名	2.4%	741名	1.7%
無回答	2名	0.2%	1,018名	2.3%



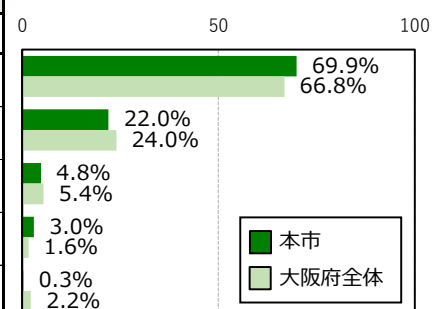
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	319名	68.9%	15,198名	65.3%
どちらかといえば、起きている	110名	23.8%	5,722名	24.6%
あまり、起きていない	25名	5.4%	1,386名	6.0%
起きていない	8名	1.7%	410名	1.8%
無回答	1名	0.2%	573名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	277名	69.9%	13,344名	66.8%
どちらかといえば、起きている	87名	22.0%	4,791名	24.0%
あまり、起きていない	19名	4.8%	1,088名	5.4%
起きていない	12名	3.0%	328名	1.6%
無回答	1名	0.3%	439名	2.2%



ふだんの生活のことについて

問3 就寝時間

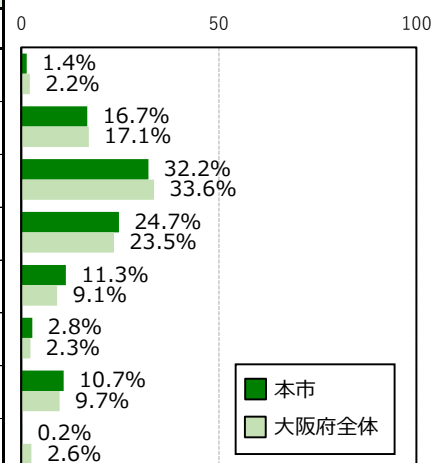
全体は、「午後10時台」が32.2%で最も多く、次いで「午後11時台」が24.7%、「午後9時台」が16.7%、「午前0時台」が11.3%となっている。

小学生は、「午後10時台」が41.3%で最も多く、次いで「午後9時台」が25.5%、「午後11時台」が17.7%、「きまっていない」が6.9%となっている。

中学生は、「午後11時台」が32.6%で最も多く、次いで「午後10時台」が21.7%、「午前0時台」が19.2%、「きまっていない」が15.2%となっている。

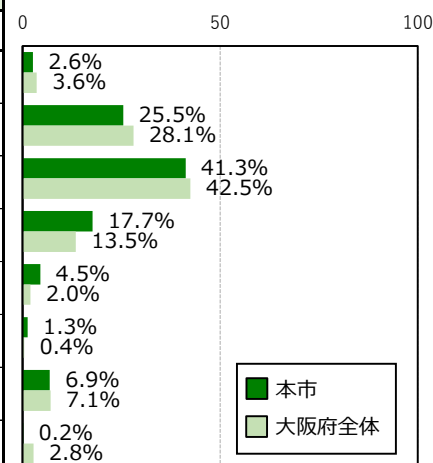
【全体】

	本市		大阪府全体	
	869名	100.0%	43,370名	100.0%
午後9時より前	12名	1.4%	963名	2.2%
午後9時台	145名	16.7%	7,400名	17.1%
午後10時台	280名	32.2%	14,573名	33.6%
午後11時台	215名	24.7%	10,204名	23.5%
午前0時台	98名	11.3%	3,927名	9.1%
午前1時より後	24名	2.8%	979名	2.3%
きまっていない	93名	10.7%	4,213名	9.7%
無回答	2名	0.2%	1,111名	2.6%



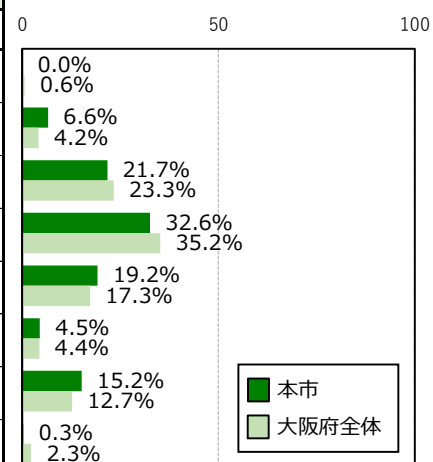
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	463名	100.0%	23,289名	100.0%
午後9時より前	12名	2.6%	845名	3.6%
午後9時台	118名	25.5%	6,553名	28.1%
午後10時台	191名	41.3%	9,894名	42.5%
午後11時台	82名	17.7%	3,139名	13.5%
午前0時台	21名	4.5%	455名	2.0%
午前1時より後	6名	1.3%	95名	0.4%
きまっていない	32名	6.9%	1,660名	7.1%
無回答	1名	0.2%	648名	2.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	396名	100.0%	19,990名	100.0%
午後9時より前	-	-	113名	0.6%
午後9時台	26名	6.6%	830名	4.2%
午後10時台	86名	21.7%	4,655名	23.3%
午後11時台	129名	32.6%	7,043名	35.2%
午前0時台	76名	19.2%	3,464名	17.3%
午前1時より後	18名	4.5%	883名	4.4%
きまっていない	60名	15.2%	2,544名	12.7%
無回答	1名	0.3%	458名	2.3%



ふだんの生活のことについて

問4（１）朝食の頻度

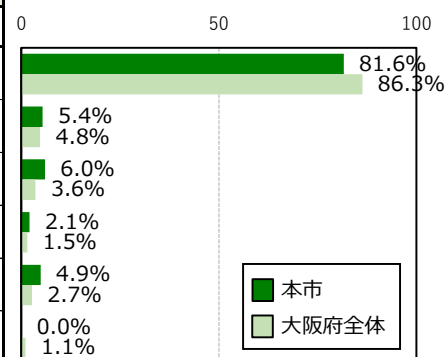
全体は、「毎日またはほとんど毎日」が81.6%で最も多く、次いで「週に2～3回」が6.0%、「週に4～5回」が5.4%、「食べない」が4.9%となっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が84.7%で最も多く、次いで「週に2～3回」が5.2%、「週に4～5回」が4.8%、「食べない」が3.7%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が77.8%で最も多く、次いで「週に2～3回」が6.8%、「食べない」が6.6%、「週に4～5回」が6.3%となっている。

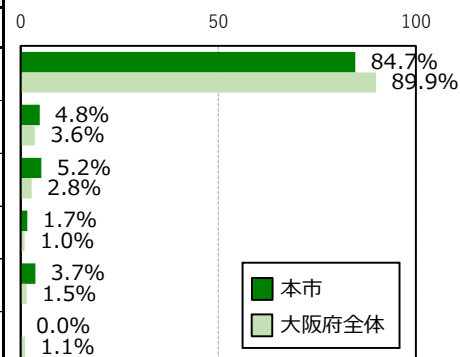
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
毎日またはほとんど毎日	709名	81.6%	37,447名	86.3%
週に4～5回	47名	5.4%	2,062名	4.8%
週に2～3回	52名	6.0%	1,564名	3.6%
週に1回程度	18名	2.1%	649名	1.5%
食べない	43名	4.9%	1,180名	2.7%
無回答	-	-	468名	1.1%



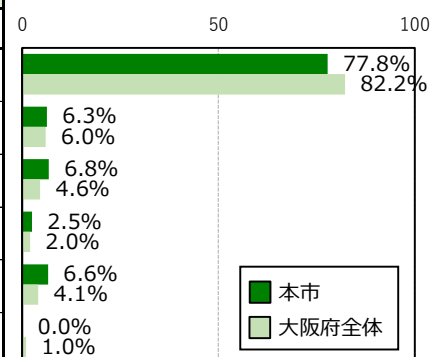
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
毎日またはほとんど毎日	392名	84.7%	20,939名	89.9%
週に4～5回	22名	4.8%	849名	3.6%
週に2～3回	24名	5.2%	647名	2.8%
週に1回程度	8名	1.7%	241名	1.0%
食べない	17名	3.7%	359名	1.5%
無回答	-	-	254名	1.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
毎日またはほとんど毎日	308名	77.8%	16,433名	82.2%
週に4～5回	25名	6.3%	1,207名	6.0%
週に2～3回	27名	6.8%	913名	4.6%
週に1回程度	10名	2.5%	408名	2.0%
食べない	26名	6.6%	820名	4.1%
無回答	-	-	209名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問４（２）朝食を食べない理由

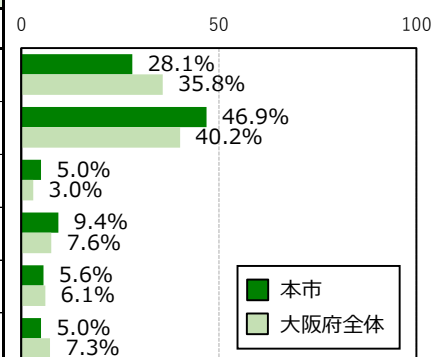
全体は、「おなかがすいていない」が46.9%で最も多く、次いで「時間がない」が28.1%、「食べる習慣がない」が9.4%、「用意されていない」が5.0%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が50.7%で最も多く、次いで「時間がない」が29.6%、「用意されていない」が5.6%、「食べる習慣がない」が4.2%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が44.3%で最も多く、次いで「時間がない」が26.1%、「食べる習慣がない」が13.6%、「用意されていない」が4.5%となっている。

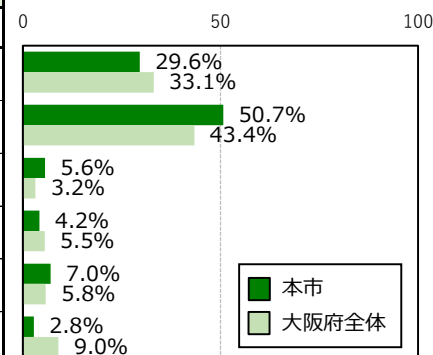
【全体】

	本市		大阪府全体	
	160名	100.0%	5,455名	100.0%
時間がない	45名	28.1%	1,954名	35.8%
おなかがすいていない	75名	46.9%	2,194名	40.2%
用意されていない	8名	5.0%	162名	3.0%
食べる習慣がない	15名	9.4%	414名	7.6%
わからない	9名	5.6%	334名	6.1%
無回答	8名	5.0%	397名	7.3%



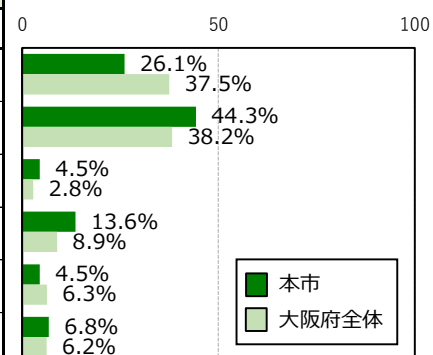
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	71名	100.0%	2,096名	100.0%
時間がない	21名	29.6%	694名	33.1%
おなかがすいていない	36名	50.7%	909名	43.4%
用意されていない	4名	5.6%	68名	3.2%
食べる習慣がない	3名	4.2%	116名	5.5%
わからない	5名	7.0%	121名	5.8%
無回答	2名	2.8%	188名	9.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	88名	100.0%	3,348名	100.0%
時間がない	23名	26.1%	1,257名	37.5%
おなかがすいていない	39名	44.3%	1,280名	38.2%
用意されていない	4名	4.5%	94名	2.8%
食べる習慣がない	12名	13.6%	298名	8.9%
わからない	4名	4.5%	212名	6.3%
無回答	6名	6.8%	207名	6.2%



ふだんの生活のことについて

問5（１）夕食の頻度

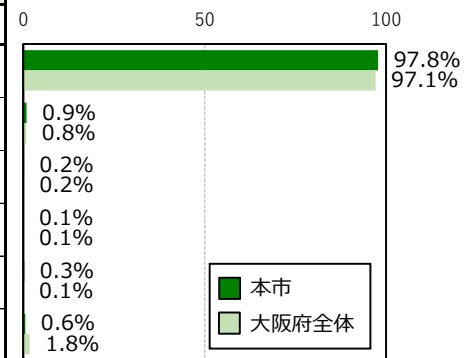
全体は、「毎日またはほとんど毎日」が97.8%で最も多く、次いで「週に4～5回」が0.9%となっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が97.6%で最も多く、次いで「週に4～5回」が0.9%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が98.0%で最も多く、次いで「週に4～5回」が1.0%となっている。

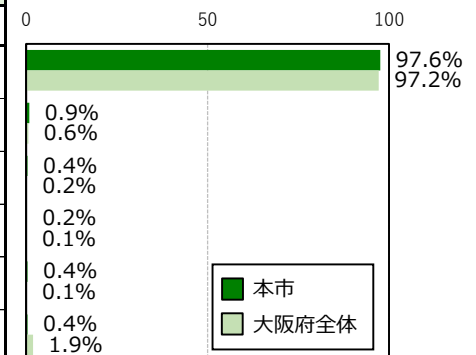
【全体】

	本市		大阪府全体	
	869名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	850名	97.8%	42,110名	97.1%
週に4～5回	8名	0.9%	327名	0.8%
週に2～3回	2名	0.2%	100名	0.2%
週に1回程度	1名	0.1%	31名	0.1%
食べない	3名	0.3%	32名	0.1%
無回答	5名	0.6%	770名	1.8%



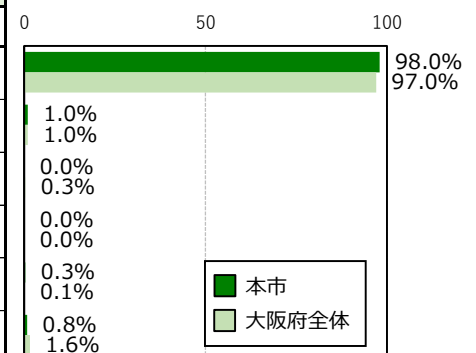
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	463名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	452名	97.6%	22,637名	97.2%
週に4～5回	4名	0.9%	132名	0.6%
週に2～3回	2名	0.4%	39名	0.2%
週に1回程度	1名	0.2%	23名	0.1%
食べない	2名	0.4%	16名	0.1%
無回答	2名	0.4%	442名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	396名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	388名	98.0%	19,393名	97.0%
週に4～5回	4名	1.0%	195名	1.0%
週に2～3回	-	-	60名	0.3%
週に1回程度	-	-	8名	0.0%
食べない	1名	0.3%	16名	0.1%
無回答	3名	0.8%	318名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問5（2）夕食を食べない理由

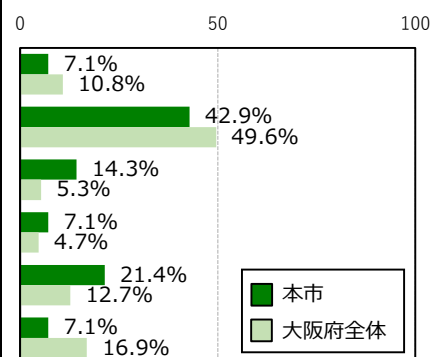
全体は、「おなかがすいていない」が42.9%で最も多く、次いで「用意されていない」が14.3%、「時間がない」、「食べる習慣がない」がそれぞれ7.1%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が44.4%で最も多く、次いで「用意されていない」が22.2%、「時間がない」が11.1%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が40.0%で最も多く、次いで「食べる習慣がない」が20.0%となっている。

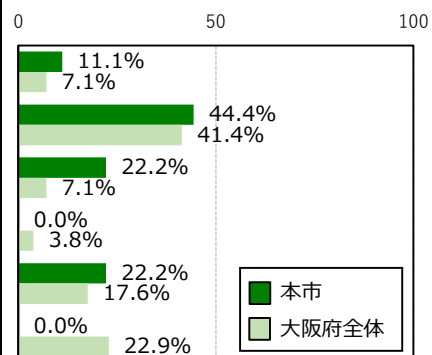
【全体】

	本市		大阪府全体	
	14名	100.0%	490名	100.0%
時間がない	1名	7.1%	53名	10.8%
おなかがすいていない	6名	42.9%	243名	49.6%
用意されていない	2名	14.3%	26名	5.3%
食べる習慣がない	1名	7.1%	23名	4.7%
わからない	3名	21.4%	62名	12.7%
無回答	1名	7.1%	83名	16.9%



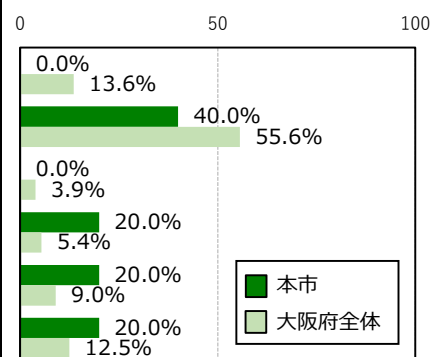
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	9名	100.0%	210名	100.0%
時間がない	1名	11.1%	15名	7.1%
おなかがすいていない	4名	44.4%	87名	41.4%
用意されていない	2名	22.2%	15名	7.1%
食べる習慣がない	-	-	8名	3.8%
わからない	2名	22.2%	37名	17.6%
無回答	-	-	48名	22.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	5名	100.0%	279名	100.0%
時間がない	-	-	38名	13.6%
おなかがすいていない	2名	40.0%	155名	55.6%
用意されていない	-	-	11名	3.9%
食べる習慣がない	1名	20.0%	15名	5.4%
わからない	1名	20.0%	25名	9.0%
無回答	1名	20.0%	35名	12.5%



ふだんの生活のことについて

問6（１）休日の昼食の頻度

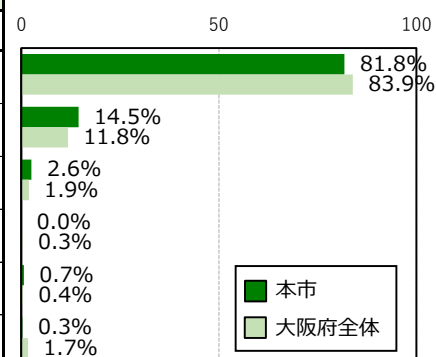
全体は、「必ず食べる」が81.8%で最も多く、次いで「食べることが多い」が14.5%、「食べないことが多い」が2.6%となっている。

小学生は、「必ず食べる」が86.2%で最も多く、次いで「食べることが多い」が11.0%、「食べないことが多い」が2.2%となっている。

中学生は、「必ず食べる」が76.8%で最も多く、次いで「食べることが多い」が18.4%、「食べないことが多い」が3.3%となっている。

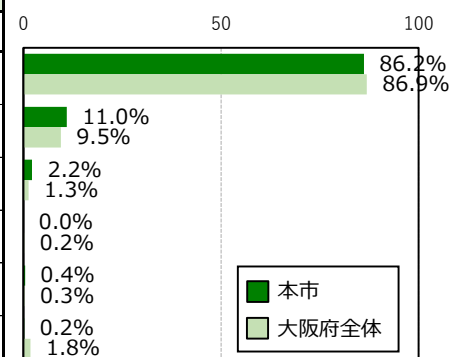
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
必ず食べる	711名	81.8%	36,388名	83.9%
食べるが多い	126名	14.5%	5,118名	11.8%
食べないことが多い	23名	2.6%	830名	1.9%
食べない	-	-	117名	0.3%
わからない	6名	0.7%	180名	0.4%
無回答	3名	0.3%	737名	1.7%



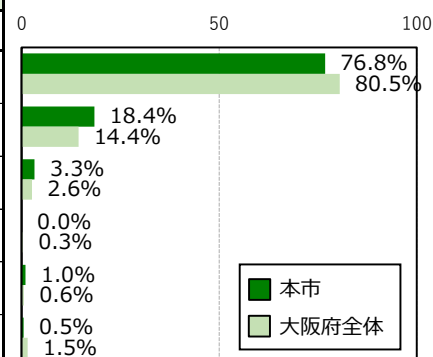
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
必ず食べる	399名	86.2%	20,227名	86.9%
食べるが多い	51名	11.0%	2,221名	9.5%
食べないことが多い	10名	2.2%	306名	1.3%
食べない	-	-	51名	0.2%
わからない	2名	0.4%	62名	0.3%
無回答	1名	0.2%	422名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
必ず食べる	304名	76.8%	16,090名	80.5%
食べるが多い	73名	18.4%	2,886名	14.4%
食べないことが多い	13名	3.3%	524名	2.6%
食べない	-	-	66名	0.3%
わからない	4名	1.0%	117名	0.6%
無回答	2名	0.5%	307名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問6（２）休日に昼食を食べない理由

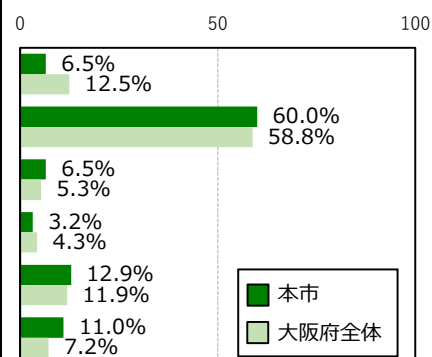
全体は、「おなかがすいていない」が60.0%で最も多く、次いで「時間がない」、「用意されていない」がそれぞれ6.5%、「食べる習慣がない」が3.2%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が61.9%で最も多く、次いで「時間がない」、「用意されていない」がそれぞれ6.3%、「食べる習慣がない」が3.2%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が57.8%で最も多く、次いで「時間がない」、「用意されていない」がそれぞれ6.7%、「食べる習慣がない」が3.3%となっている。

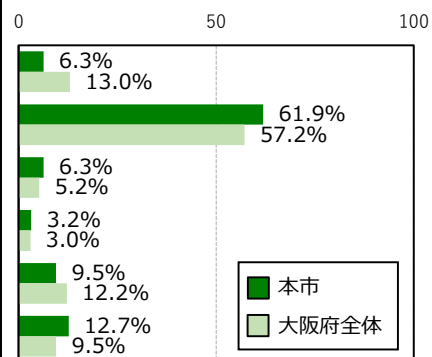
【全体】

	本市		大阪府全体	
	155名	100.0%	6,245名	100.0%
時間がない	10名	6.5%	783名	12.5%
おなかがすいていない	93名	60.0%	3,674名	58.8%
用意されていない	10名	6.5%	328名	5.3%
食べる習慣がない	5名	3.2%	266名	4.3%
わからない	20名	12.9%	744名	11.9%
無回答	17名	11.0%	450名	7.2%



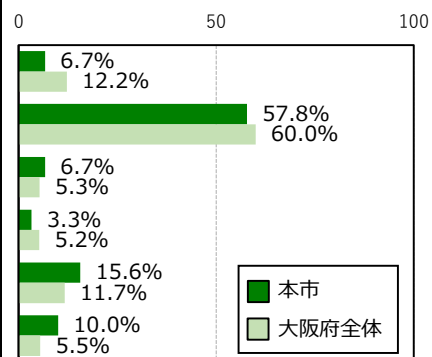
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	63名	100.0%	2,640名	100.0%
時間がない	4名	6.3%	343名	13.0%
おなかがすいていない	39名	61.9%	1,510名	57.2%
用意されていない	4名	6.3%	136名	5.2%
食べる習慣がない	2名	3.2%	78名	3.0%
わからない	6名	9.5%	321名	12.2%
無回答	8名	12.7%	252名	9.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	90名	100.0%	3,593名	100.0%
時間がない	6名	6.7%	438名	12.2%
おなかがすいていない	52名	57.8%	2,156名	60.0%
用意されていない	6名	6.7%	192名	5.3%
食べる習慣がない	3名	3.3%	188名	5.2%
わからない	14名	15.6%	422名	11.7%
無回答	9名	10.0%	197名	5.5%



ふだんの生活のことについて

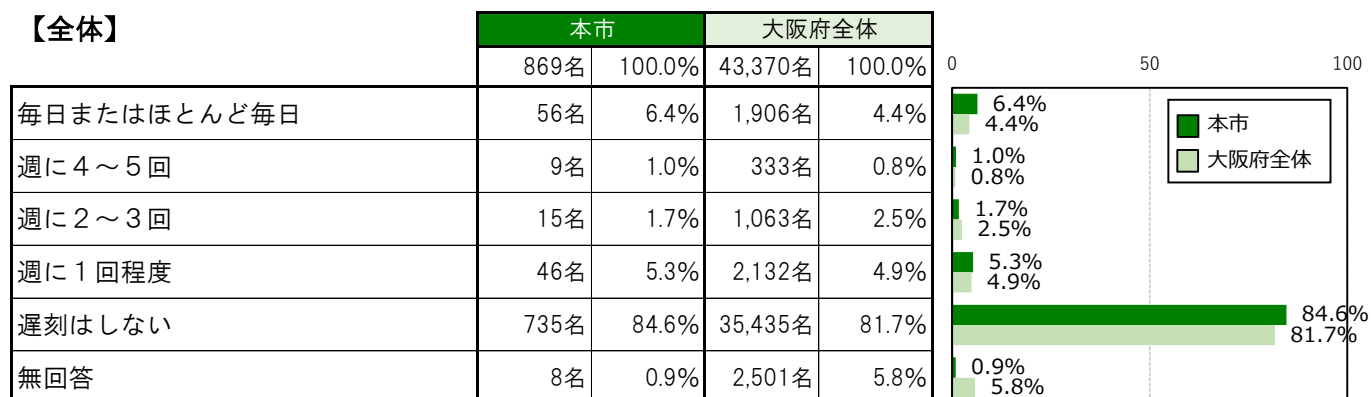
問7 学校への遅刻

全体は、「遅刻はしない」が84.6%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が6.4%、「週に1回程度」が5.3%、「週に2～3回」が1.7%となっている。

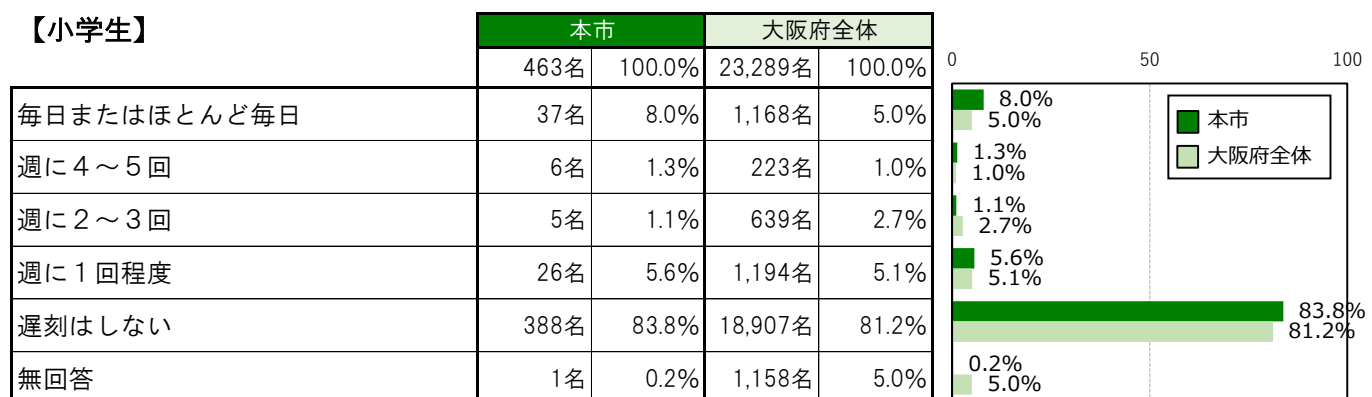
小学生は、「遅刻はしない」が83.8%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が8.0%、「週に1回程度」が5.6%、「週に4～5回」が1.3%となっている。

中学生は、「遅刻はしない」が85.9%で最も多く、次いで「週に1回程度」が5.1%、「毎日またはほとんど毎日」が4.0%、「週に2～3回」が2.5%となっている。

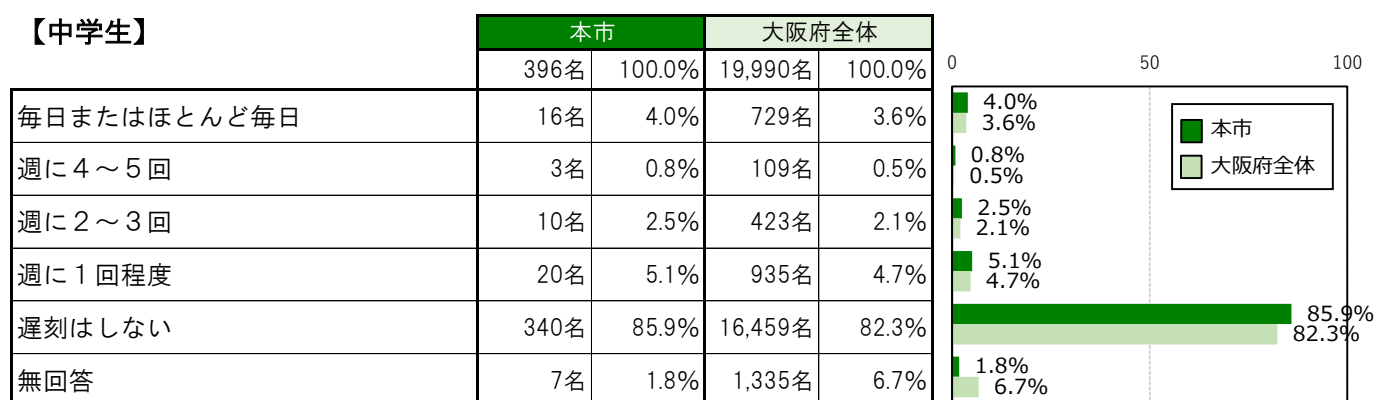
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

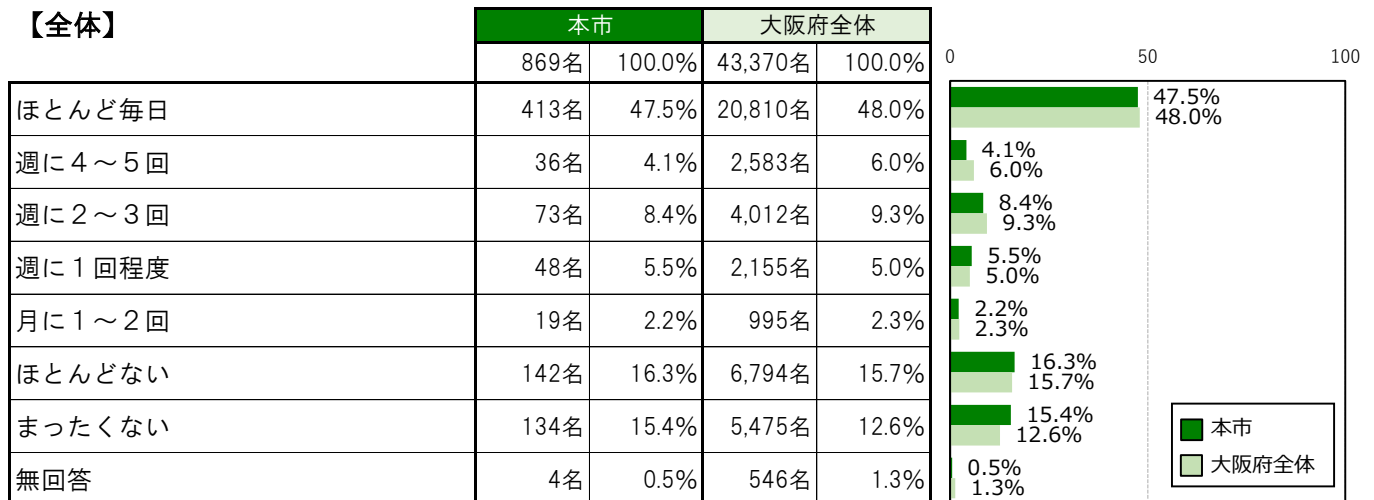
問8 保護者との関係性 ①おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか

全体は、「ほとんど毎日」が47.5%で最も多く、次いで「ほとんどない」が16.3%、「まったくない」が15.4%、「週に2～3回」が8.4%となっている。

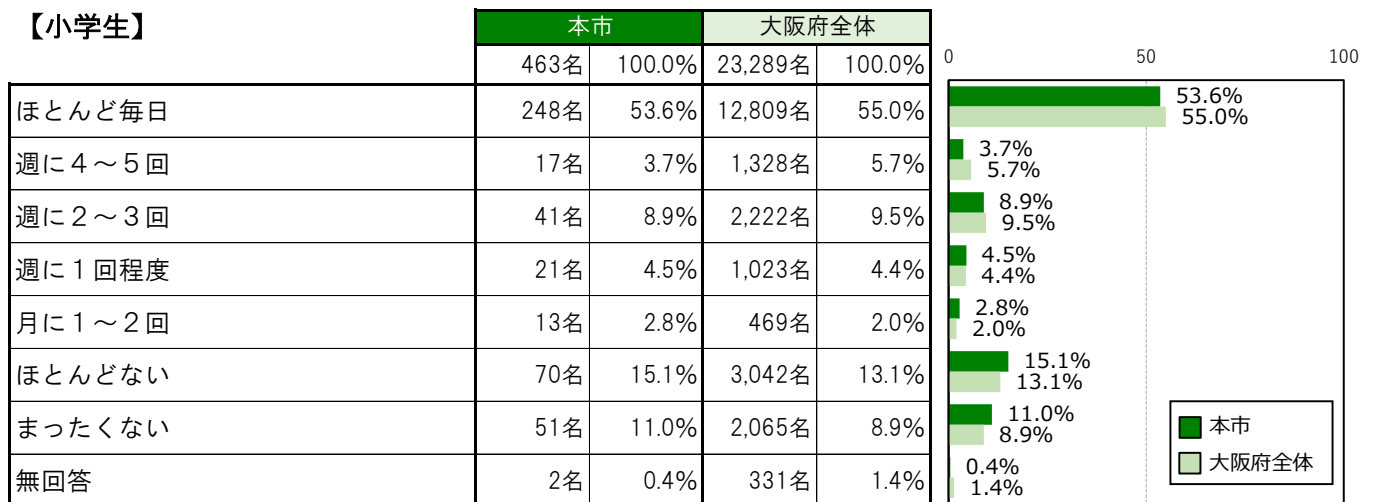
小学生は、「ほとんど毎日」が53.6%で最も多く、次いで「ほとんどない」が15.1%、「まったくない」が11.0%、「週に2～3回」が8.9%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が40.7%で最も多く、次いで「まったくない」が20.5%、「ほとんどない」が17.4%、「週に2～3回」が8.1%となっている。

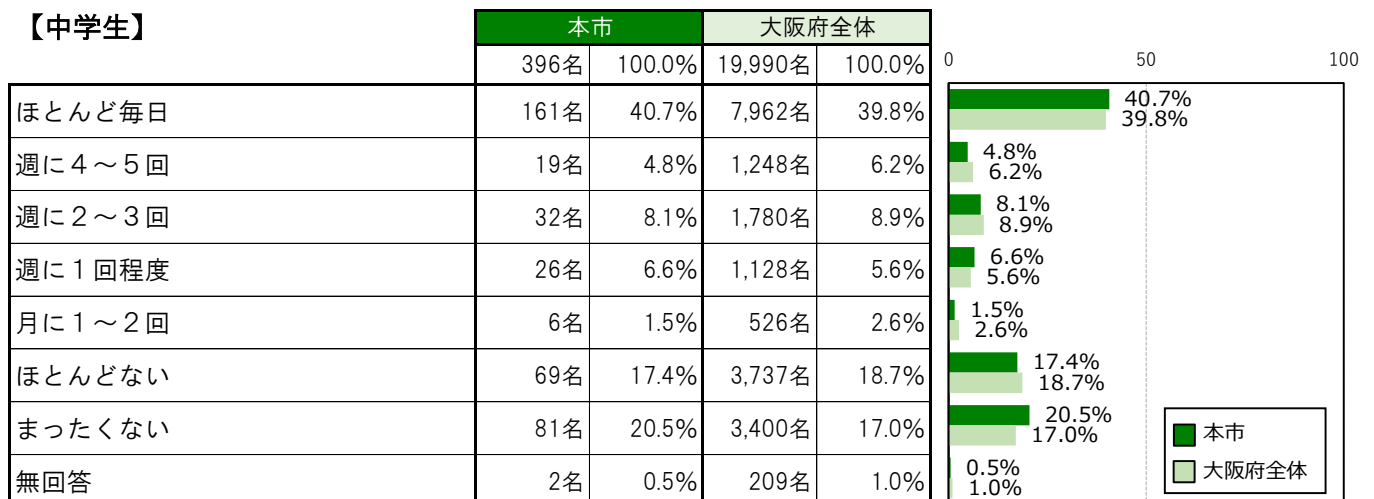
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ②おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか

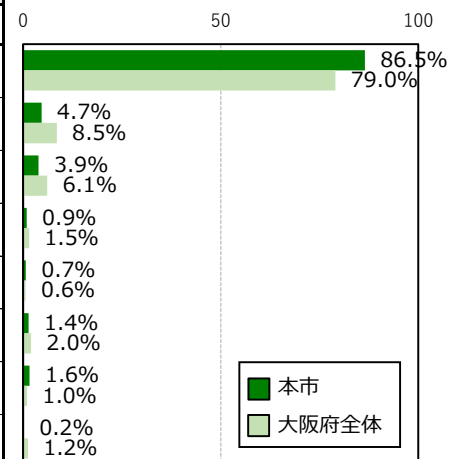
全体は、「ほとんど毎日」が86.5%で最も多く、次いで「週に4～5回」が4.7%、「週に2～3回」が3.9%、「まったくない」が1.6%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が91.4%で最も多く、次いで「週に4～5回」が2.8%、「週に2～3回」が2.6%、「ほとんどない」が1.1%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が80.8%で最も多く、次いで「週に4～5回」が6.8%、「週に2～3回」が5.6%、「まったくない」が2.8%となっている。

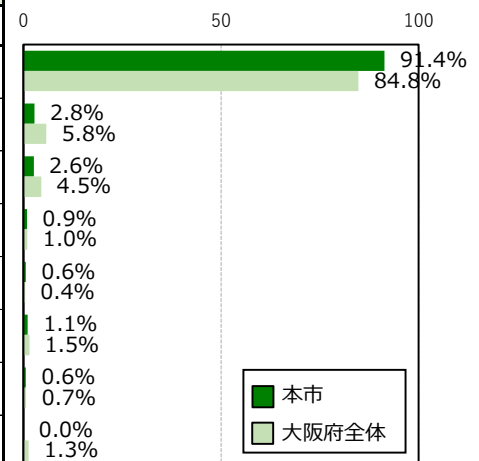
【全体】

	本市		大阪府全体	
	869名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	752名	86.5%	34,246名	79.0%
週に4～5回	41名	4.7%	3,679名	8.5%
週に2～3回	34名	3.9%	2,667名	6.1%
週に1回程度	8名	0.9%	656名	1.5%
月に1～2回	6名	0.7%	262名	0.6%
ほとんどない	12名	1.4%	889名	2.0%
まったくない	14名	1.6%	455名	1.0%
無回答	2名	0.2%	516名	1.2%



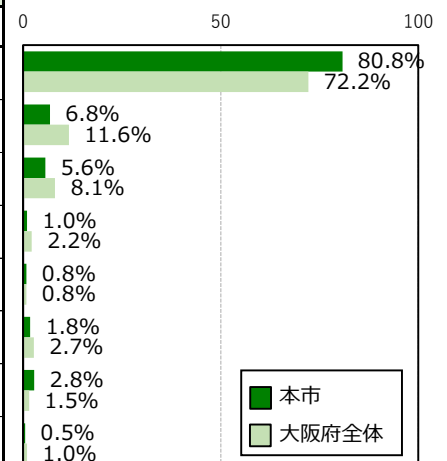
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	463名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	423名	91.4%	19,748名	84.8%
週に4～5回	13名	2.8%	1,360名	5.8%
週に2～3回	12名	2.6%	1,048名	4.5%
週に1回程度	4名	0.9%	222名	1.0%
月に1～2回	3名	0.6%	100名	0.4%
ほとんどない	5名	1.1%	349名	1.5%
まったくない	3名	0.6%	154名	0.7%
無回答	-	-	308名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	396名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	320名	80.8%	14,429名	72.2%
週に4～5回	27名	6.8%	2,310名	11.6%
週に2～3回	22名	5.6%	1,616名	8.1%
週に1回程度	4名	1.0%	431名	2.2%
月に1～2回	3名	0.8%	162名	0.8%
ほとんどない	7名	1.8%	539名	2.7%
まったくない	11名	2.8%	301名	1.5%
無回答	2名	0.5%	202名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ③おうちの大人の人に朝、起こしてもらうか

全体は、「ほとんど毎日」が49.3%で最も多く、次いで「週に4～5回」、「まったくない」がそれぞれ12.3%、「ほとんどない」が10.4%、「週に2～3回」が7.9%となっている。

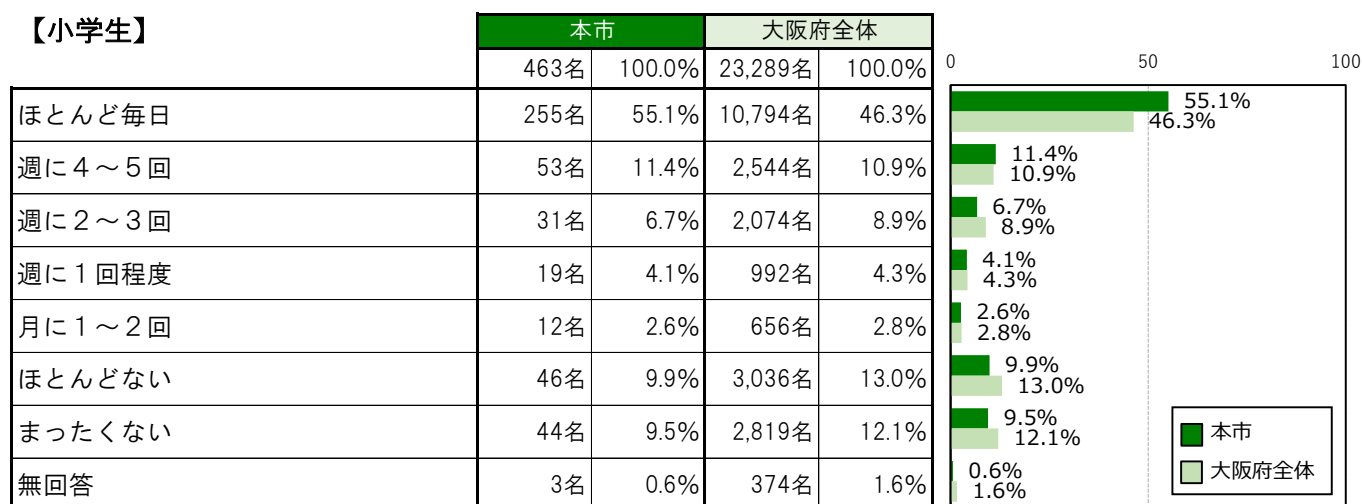
小学生は、「ほとんど毎日」が55.1%で最も多く、次いで「週に4～5回」が11.4%、「ほとんどない」が9.9%、「まったくない」が9.5%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が42.9%で最も多く、次いで「まったくない」が15.2%、「週に4～5回」が13.4%、「ほとんどない」が10.9%となっている。

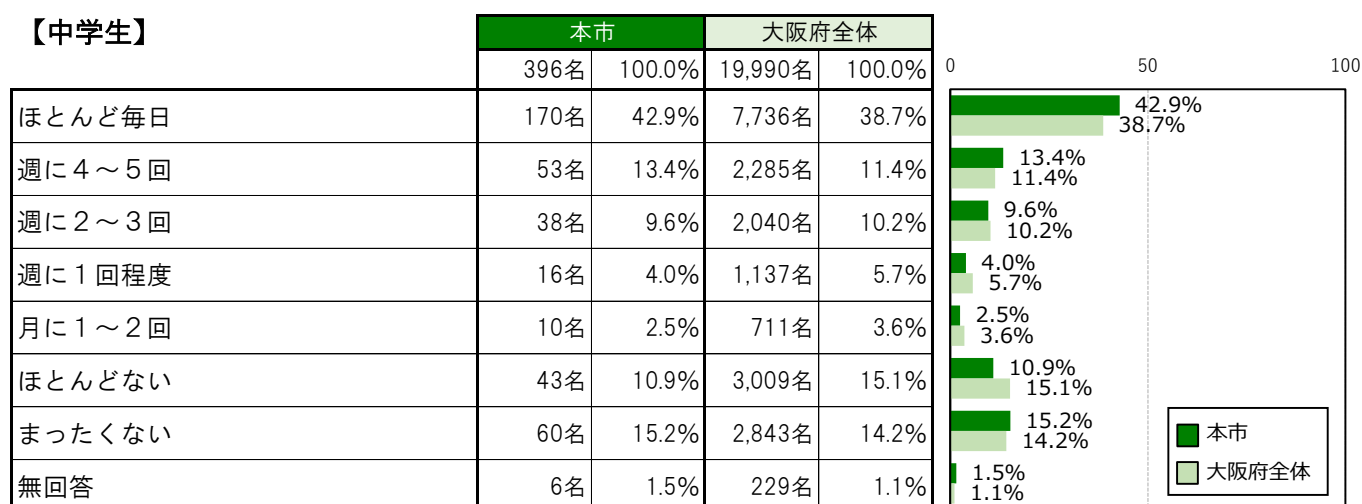
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ④おうちの手伝いをしているか

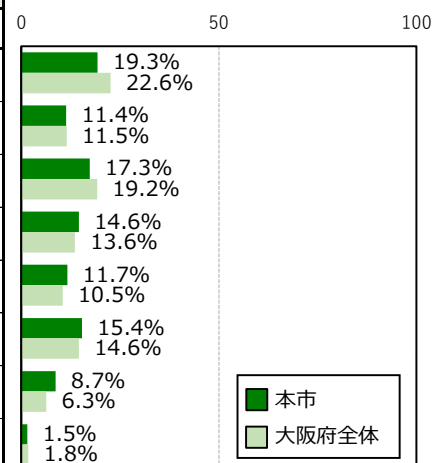
全体は、「ほとんど毎日」が19.3%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.3%、「ほとんどない」が15.4%、「週に1回程度」が14.6%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が19.9%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が19.0%、「週に1回程度」が16.6%、「週に4～5回」が13.0%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が19.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.9%、「週に2～3回」が14.4%、「週に1回程度」が12.1%となっている。

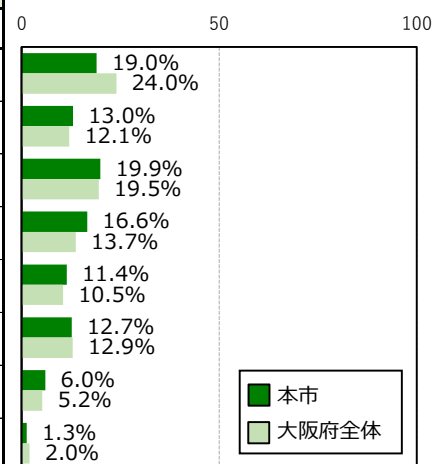
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	168名	19.3%	9,795名	22.6%
週に4～5回	99名	11.4%	5,006名	11.5%
週に2～3回	150名	17.3%	8,307名	19.2%
週に1回程度	127名	14.6%	5,879名	13.6%
月に1～2回	102名	11.7%	4,561名	10.5%
ほとんどない	134名	15.4%	6,329名	14.6%
まったくない	76名	8.7%	2,722名	6.3%
無回答	13名	1.5%	771名	1.8%



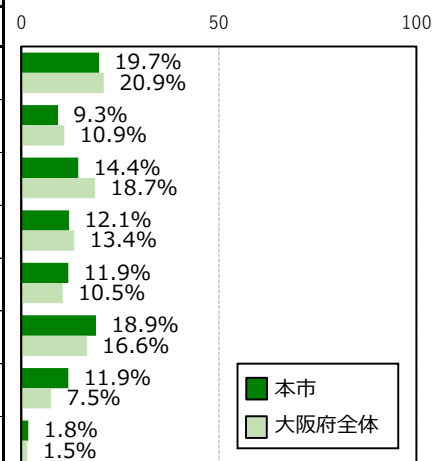
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	88名	19.0%	5,601名	24.0%
週に4～5回	60名	13.0%	2,812名	12.1%
週に2～3回	92名	19.9%	4,552名	19.5%
週に1回程度	77名	16.6%	3,186名	13.7%
月に1～2回	53名	11.4%	2,448名	10.5%
ほとんどない	59名	12.7%	3,000名	12.9%
まったくない	28名	6.0%	1,219名	5.2%
無回答	6名	1.3%	471名	2.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	78名	19.7%	4,171名	20.9%
週に4～5回	37名	9.3%	2,187名	10.9%
週に2～3回	57名	14.4%	3,741名	18.7%
週に1回程度	48名	12.1%	2,684名	13.4%
月に1～2回	47名	11.9%	2,103名	10.5%
ほとんどない	75名	18.9%	3,319名	16.6%
まったくない	47名	11.9%	1,494名	7.5%
無回答	7名	1.8%	291名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑤おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

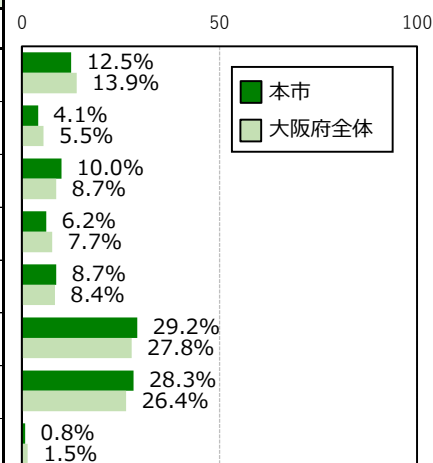
全体は、「ほとんどない」が29.2%で最も多く、次いで「まったくない」が28.3%、「ほとんど毎日」が12.5%、「週に2～3回」が10.0%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が26.6%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が20.3%、「週に2～3回」が14.7%、「まったくない」が14.3%となっている。

中学生は、「まったくない」が44.2%で最も多く、次いで「ほとんどない」が32.3%、「月に1～2回」が7.8%、「週に2～3回」が4.8%となっている。

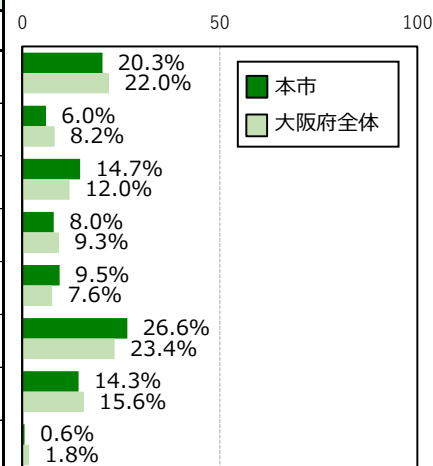
【全体】

	本市		大阪府全体	
	869名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	109名	12.5%	6,031名	13.9%
週に4～5回	36名	4.1%	2,392名	5.5%
週に2～3回	87名	10.0%	3,792名	8.7%
週に1回程度	54名	6.2%	3,336名	7.7%
月に1～2回	76名	8.7%	3,640名	8.4%
ほとんどない	254名	29.2%	12,077名	27.8%
まったくない	246名	28.3%	11,452名	26.4%
無回答	7名	0.8%	650名	1.5%



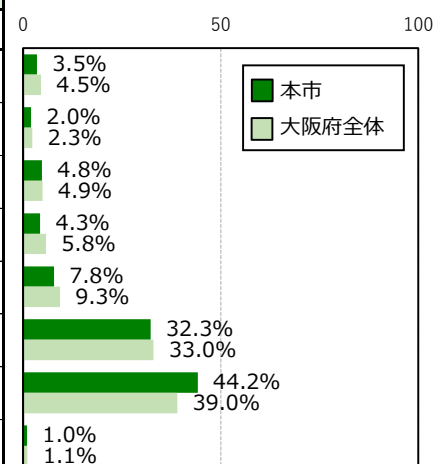
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	463名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	94名	20.3%	5,112名	22.0%
週に4～5回	28名	6.0%	1,921名	8.2%
週に2～3回	68名	14.7%	2,804名	12.0%
週に1回程度	37名	8.0%	2,176名	9.3%
月に1～2回	44名	9.5%	1,777名	7.6%
ほとんどない	123名	26.6%	5,454名	23.4%
まったくない	66名	14.3%	3,626名	15.6%
無回答	3名	0.6%	419名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	396名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	14名	3.5%	905名	4.5%
週に4～5回	8名	2.0%	465名	2.3%
週に2～3回	19名	4.8%	983名	4.9%
週に1回程度	17名	4.3%	1,151名	5.8%
月に1～2回	31名	7.8%	1,857名	9.3%
ほとんどない	128名	32.3%	6,601名	33.0%
まったくない	175名	44.2%	7,803名	39.0%
無回答	4名	1.0%	225名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑥おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか

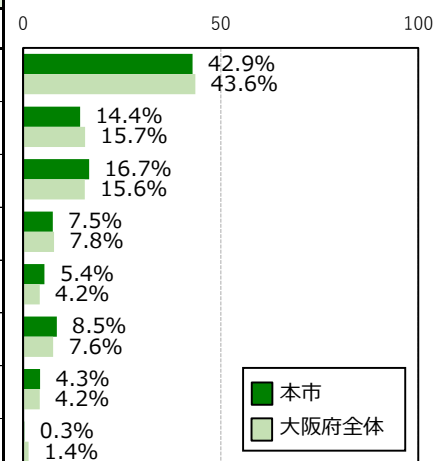
全体は、「ほとんど毎日」が42.9%で最も多く、次いで「週に2～3回」が16.7%、「週に4～5回」が14.4%、「ほとんどない」が8.5%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が49.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が16.4%、「週に4～5回」が13.8%、「ほとんどない」が8.4%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が35.9%で最も多く、次いで「週に2～3回」が16.9%、「週に4～5回」が14.9%、「週に1回程度」が9.6%となっている。

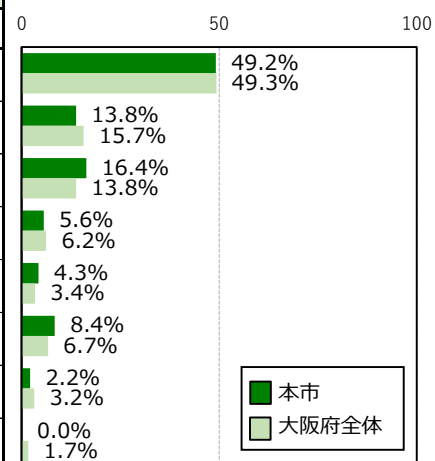
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	373名	42.9%	18,891名	43.6%
週に4～5回	125名	14.4%	6,809名	15.7%
週に2～3回	145名	16.7%	6,773名	15.6%
週に1回程度	65名	7.5%	3,386名	7.8%
月に1～2回	47名	5.4%	1,801名	4.2%
ほとんどない	74名	8.5%	3,283名	7.6%
まったくない	37名	4.3%	1,802名	4.2%
無回答	3名	0.3%	625名	1.4%



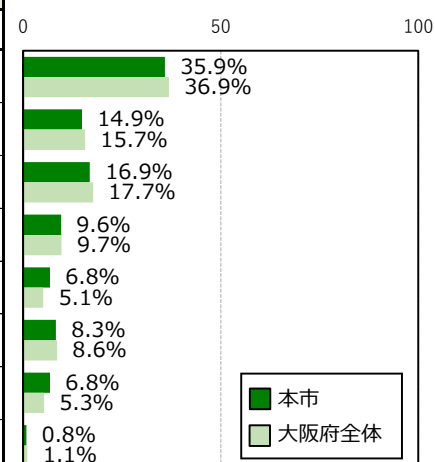
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	228名	49.2%	11,483名	49.3%
週に4～5回	64名	13.8%	3,660名	15.7%
週に2～3回	76名	16.4%	3,225名	13.8%
週に1回程度	26名	5.6%	1,447名	6.2%
月に1～2回	20名	4.3%	783名	3.4%
ほとんどない	39名	8.4%	1,558名	6.7%
まったくない	10名	2.2%	739名	3.2%
無回答	-	-	394名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	142名	35.9%	7,374名	36.9%
週に4～5回	59名	14.9%	3,138名	15.7%
週に2～3回	67名	16.9%	3,533名	17.7%
週に1回程度	38名	9.6%	1,933名	9.7%
月に1～2回	27名	6.8%	1,015名	5.1%
ほとんどない	33名	8.3%	1,716名	8.6%
まったくない	27名	6.8%	1,056名	5.3%
無回答	3名	0.8%	225名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑦おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

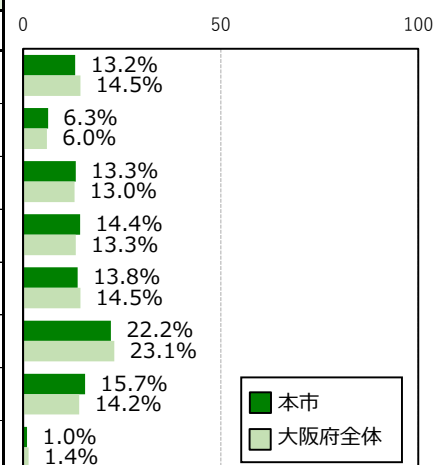
全体は、「ほとんどない」が22.2%で最も多く、次いで「まったくない」が15.7%、「週に1回程度」が14.4%、「月に1～2回」が13.8%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が19.2%で最も多く、次いで「週に1回程度」が17.7%、「ほとんどない」が16.0%、「ほとんど毎日」が15.8%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が29.3%で最も多く、次いで「まったくない」が24.0%、「月に1～2回」が15.2%、「ほとんど毎日」、「週に1回程度」がそれぞれ10.6%となっている。

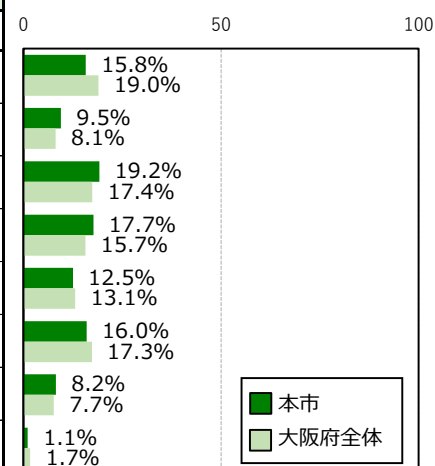
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	115名	13.2%	6,287名	14.5%
週に4～5回	55名	6.3%	2,582名	6.0%
週に2～3回	116名	13.3%	5,629名	13.0%
週に1回程度	125名	14.4%	5,782名	13.3%
月に1～2回	120名	13.8%	6,304名	14.5%
ほとんどない	193名	22.2%	10,004名	23.1%
まったくない	136名	15.7%	6,164名	14.2%
無回答	9名	1.0%	618名	1.4%



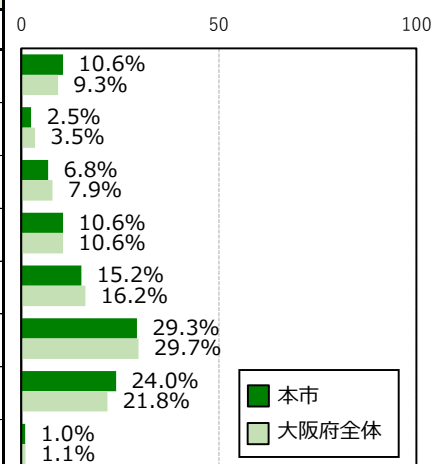
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	73名	15.8%	4,417名	19.0%
週に4～5回	44名	9.5%	1,880名	8.1%
週に2～3回	89名	19.2%	4,047名	17.4%
週に1回程度	82名	17.7%	3,656名	15.7%
月に1～2回	58名	12.5%	3,054名	13.1%
ほとんどない	74名	16.0%	4,038名	17.3%
まったくない	38名	8.2%	1,801名	7.7%
無回答	5名	1.1%	396名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	42名	10.6%	1,860名	9.3%
週に4～5回	10名	2.5%	693名	3.5%
週に2～3回	27名	6.8%	1,571名	7.9%
週に1回程度	42名	10.6%	2,114名	10.6%
月に1～2回	60名	15.2%	3,240名	16.2%
ほとんどない	116名	29.3%	5,944名	29.7%
まったくない	95名	24.0%	4,352名	21.8%
無回答	4名	1.0%	216名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑧おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか

全体は、「ほとんど毎日」が20.6%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.8%、「週に2～3回」が16.8%、「週に1回程度」が12.3%となっている。

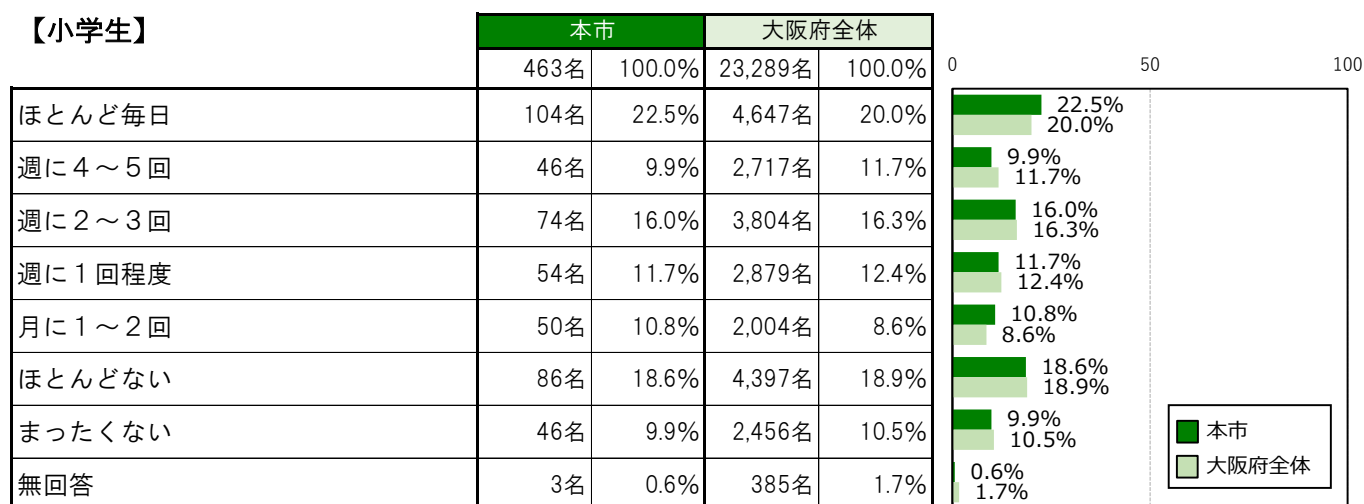
小学生は、「ほとんど毎日」が22.5%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.6%、「週に2～3回」が16.0%、「週に1回程度」が11.7%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が18.4%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.7%、「ほとんどない」が16.9%、「まったくない」が13.9%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

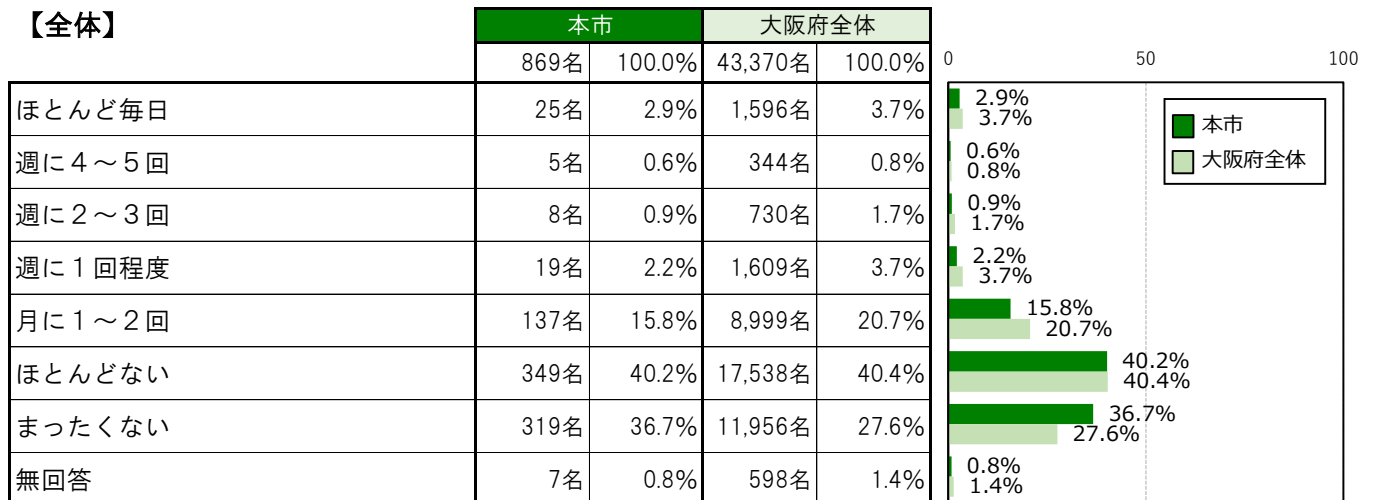
問 8 保護者との関係性 ⑨おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をするか

全体は、「ほとんどない」が40.2%で最も多く、次いで「まったくない」が36.7%、「月に1～2回」が15.8%、「ほとんど毎日」が2.9%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が42.3%で最も多く、次いで「まったくない」が28.7%、「月に1～2回」が21.0%、「ほとんど毎日」、「週に1回程度」がそれぞれ3.0%となっている。

中学生は、「まったくない」が45.5%で最も多く、次いで「ほとんどない」が37.9%、「月に1～2回」が9.8%、「ほとんど毎日」が2.8%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

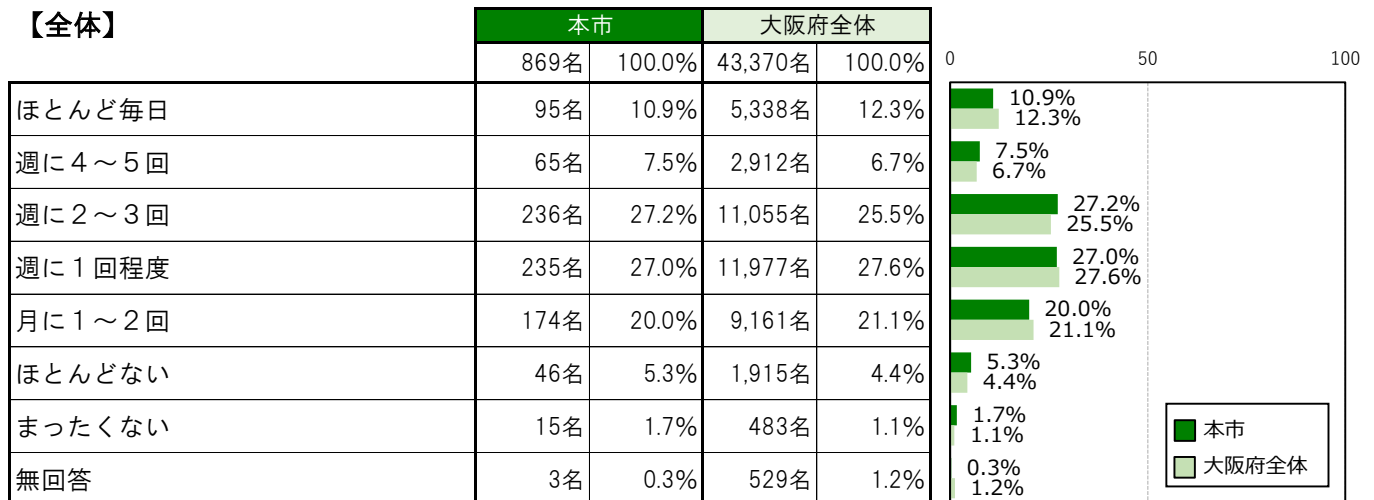
問 8 保護者との関係性 ⑩おうちの大人の人と一緒に外出するか（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）

全体は、「週に2～3回」が27.2%で最も多く、次いで「週に1回程度」が27.0%、「月に1～2回」が20.0%、「ほとんど毎日」が10.9%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が33.3%で最も多く、次いで「週に1回程度」が25.5%、「月に1～2回」が14.9%、「ほとんど毎日」が12.3%となっている。

中学生は、「週に1回程度」が28.8%で最も多く、次いで「月に1～2回」が25.8%、「週に2～3回」が19.9%、「ほとんど毎日」が9.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問 9 毎日の生活で楽しいこと

全体は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が81.7%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が64.8%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が54.2%、「ひとりで過ごしているとき」が45.6%となっている。

小学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が84.0%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が77.3%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が57.9%、「塾や習いごとで過ごしているとき」が37.1%となっている。

中学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が79.3%で最も多く、次いで「ひとりで過ごしているとき」が55.1%、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が50.3%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が49.5%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

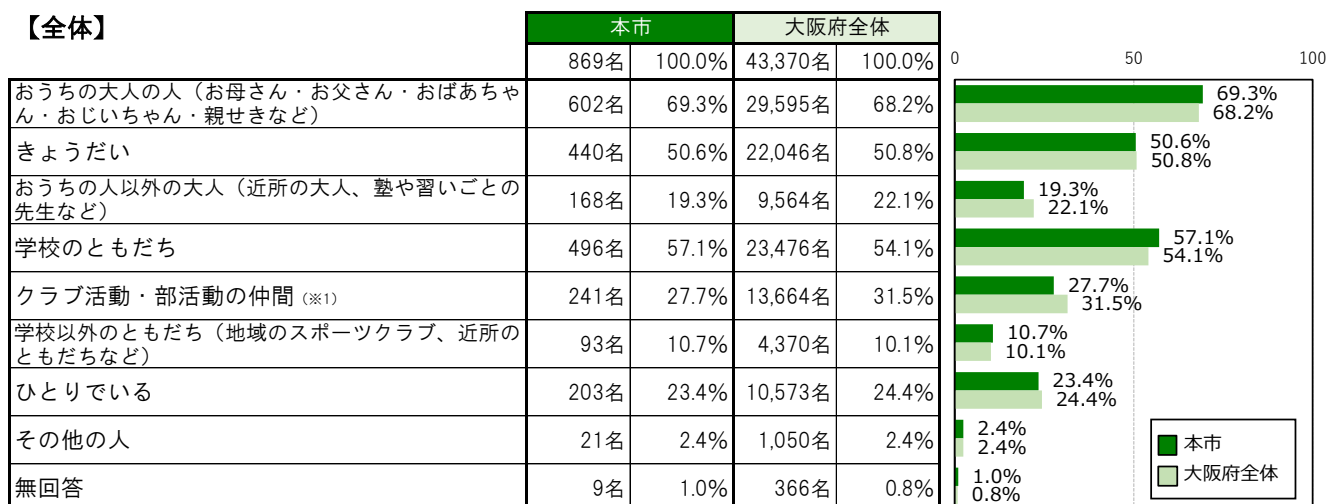
問10 放課後を一緒に過ごす人

全体は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が69.3%で最も多く、次いで「学校のともだち」が57.1%、「きょうだい」が50.6%、「クラブ活動・部活動の仲間」が27.7%となっている。

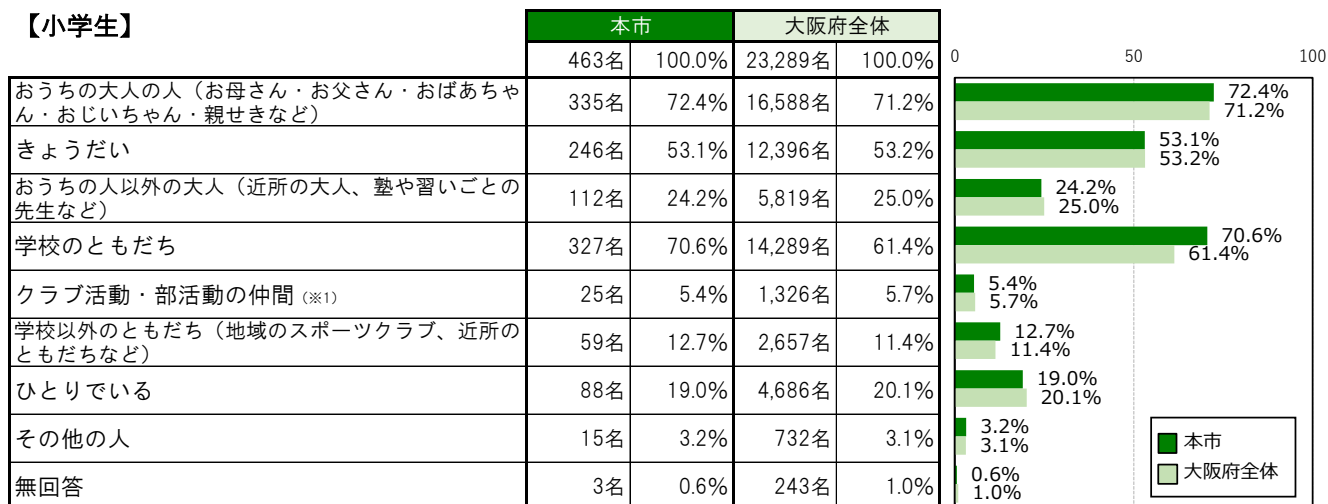
小学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が72.4%で最も多く、次いで「学校のともだち」が70.6%、「きょうだい」が53.1%、「おうちの人以上の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」が24.2%となっている。

中学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が65.9%で最も多く、次いで「クラブ活動・部活動の仲間」が54.0%、「きょうだい」が47.5%、「学校のともだち」が41.7%となっている。

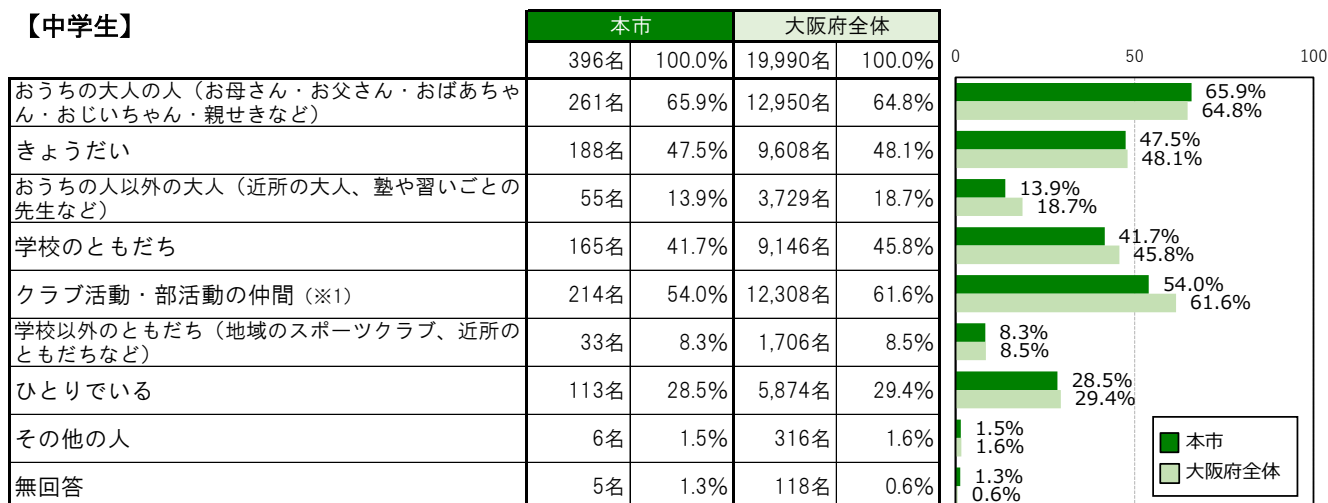
【全体】



【小学生】



【中学生】



※1 2016年調査では「クラブ活動の仲間」

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、全体は、「うちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が14.8ポイント高いが、「クラブ活動の仲間」が7.5ポイント低くなっている。

小学生は、「うちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が12.7ポイント高いが、「ひとりでのいる」が4.9ポイント低くなっている。

中学生は、「うちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が16.5ポイント高いが、「クラブ活動の仲間」が9.8ポイント低くなっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



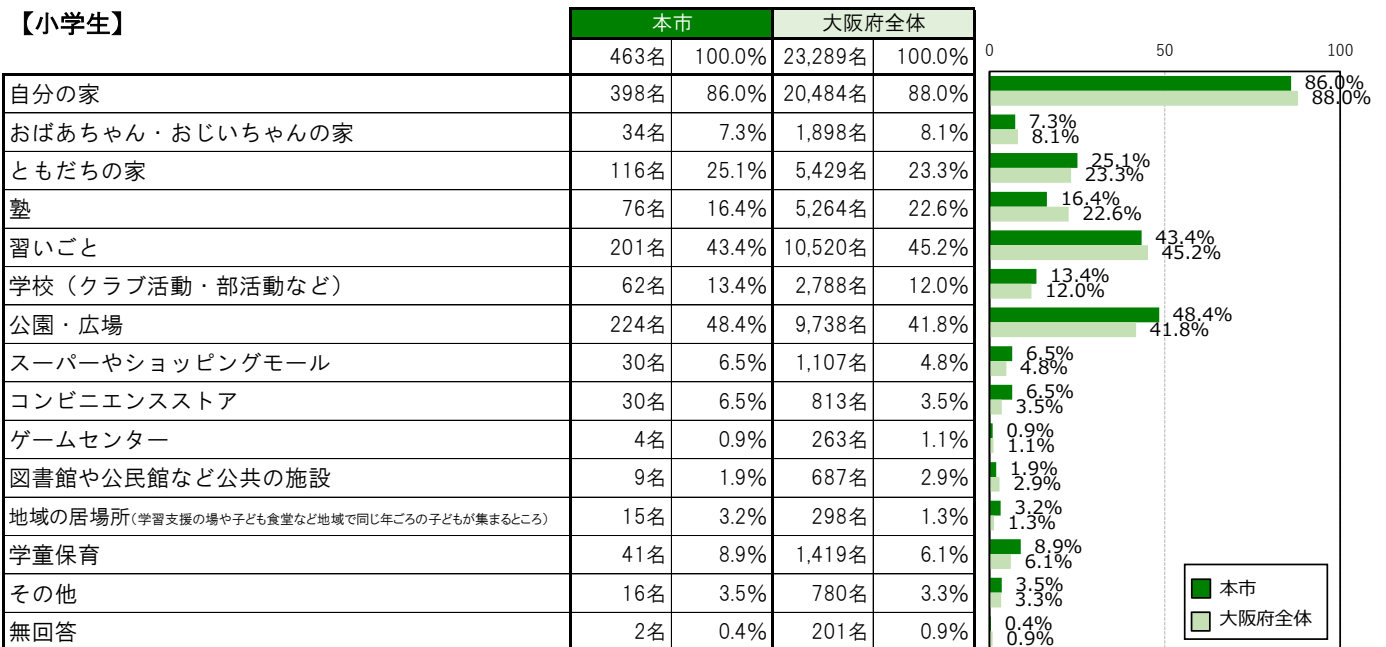
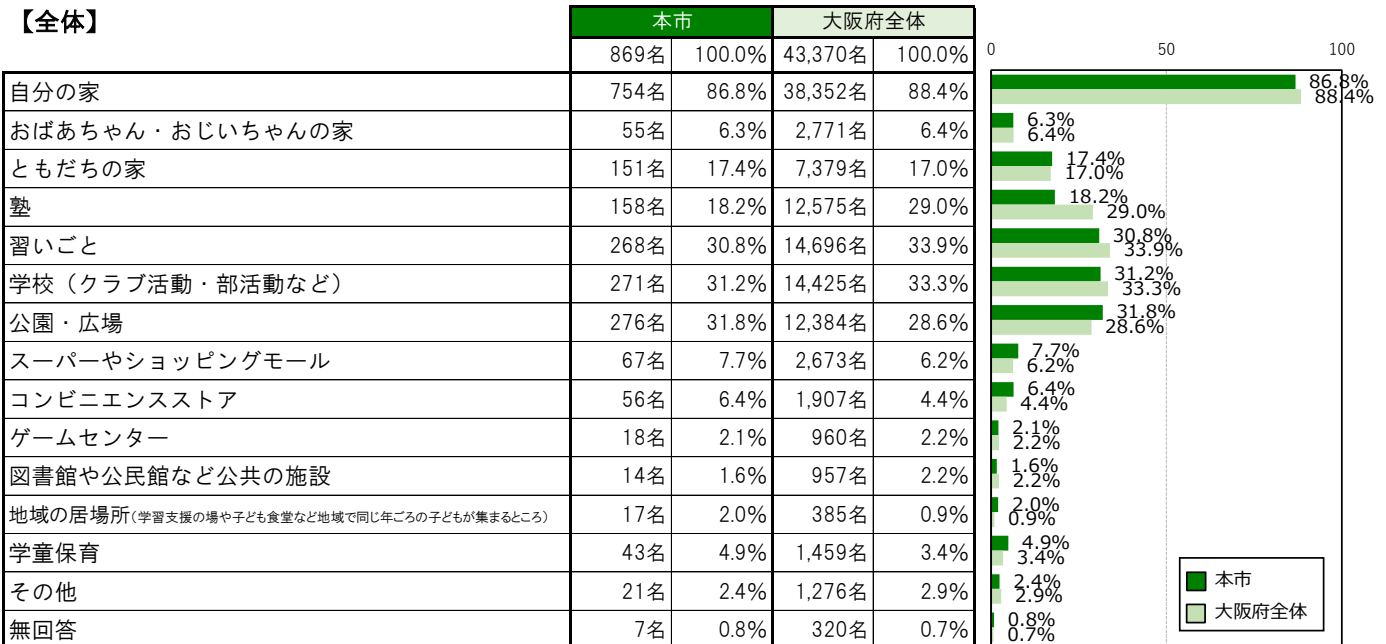
ふだんの生活のことについて

問11 放課後を過ごす場所

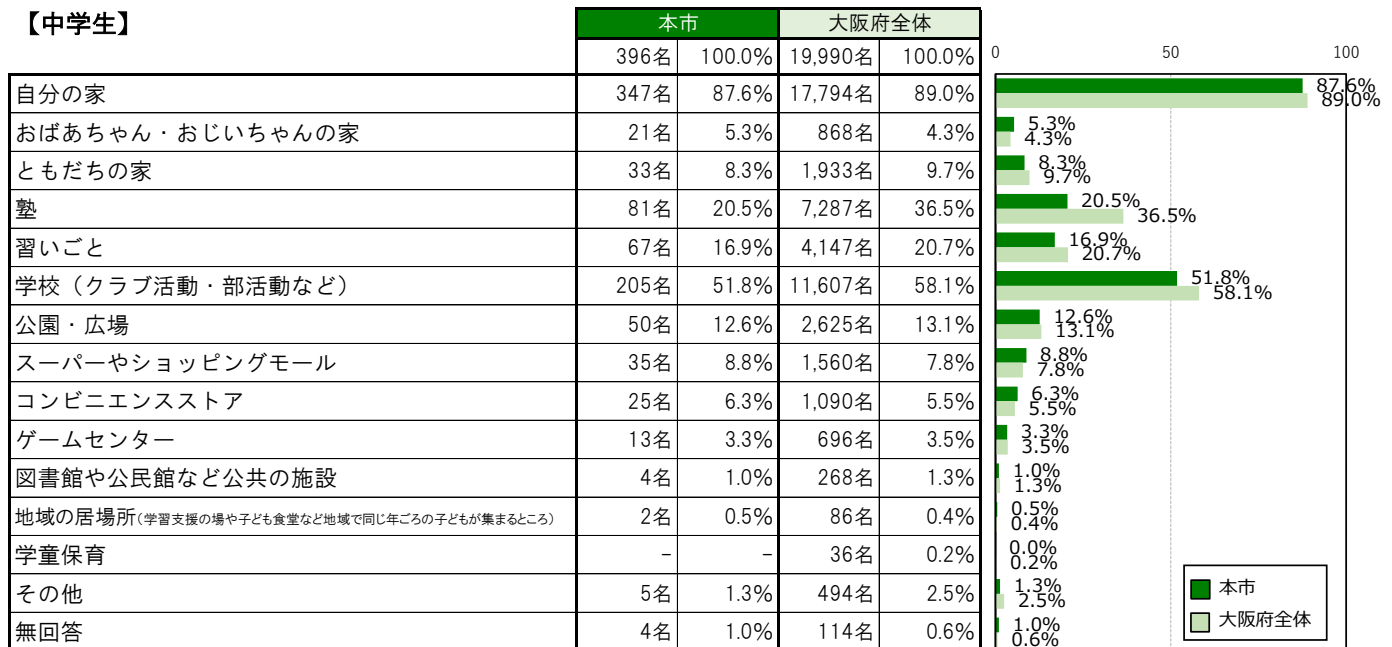
全体は、「自分の家」が86.8%で最も多く、次いで「公園・広場」が31.8%、「学校（クラブ活動・部活動など）」が31.2%、「習いごと」が30.8%となっている。

小学生は、「自分の家」が86.0%で最も多く、次いで「公園・広場」が48.4%、「習いごと」が43.4%、「ともだちの家」が25.1%となっている。

中学生は、「自分の家」が87.6%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が51.8%、「塾」が20.5%、「習いごと」が16.9%となっている。



【中学生】



ふだんの生活のことについて

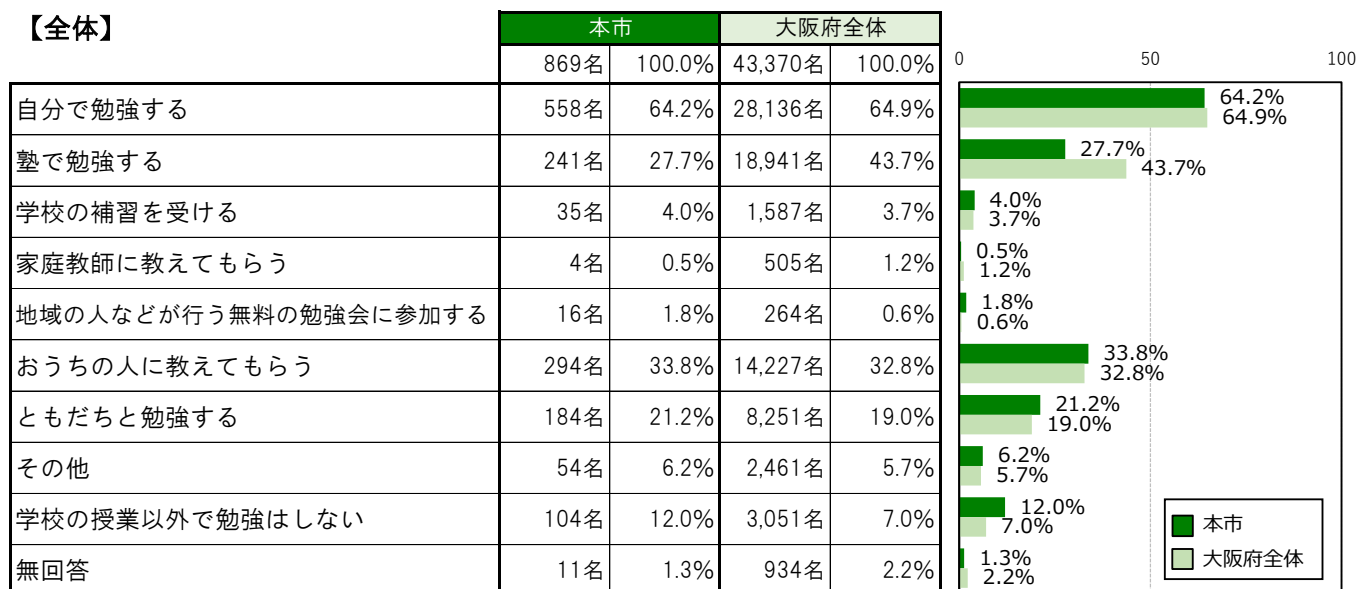
問12 授業以外の勉強状況

全体は、「自分で勉強する」が64.2%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が33.8%、「塾で勉強する」が27.7%、「ともだちと勉強する」が21.2%となっている。

小学生は、「自分で勉強する」が62.6%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が46.9%、「ともだちと勉強する」が25.3%、「塾で勉強する」が23.5%となっている。

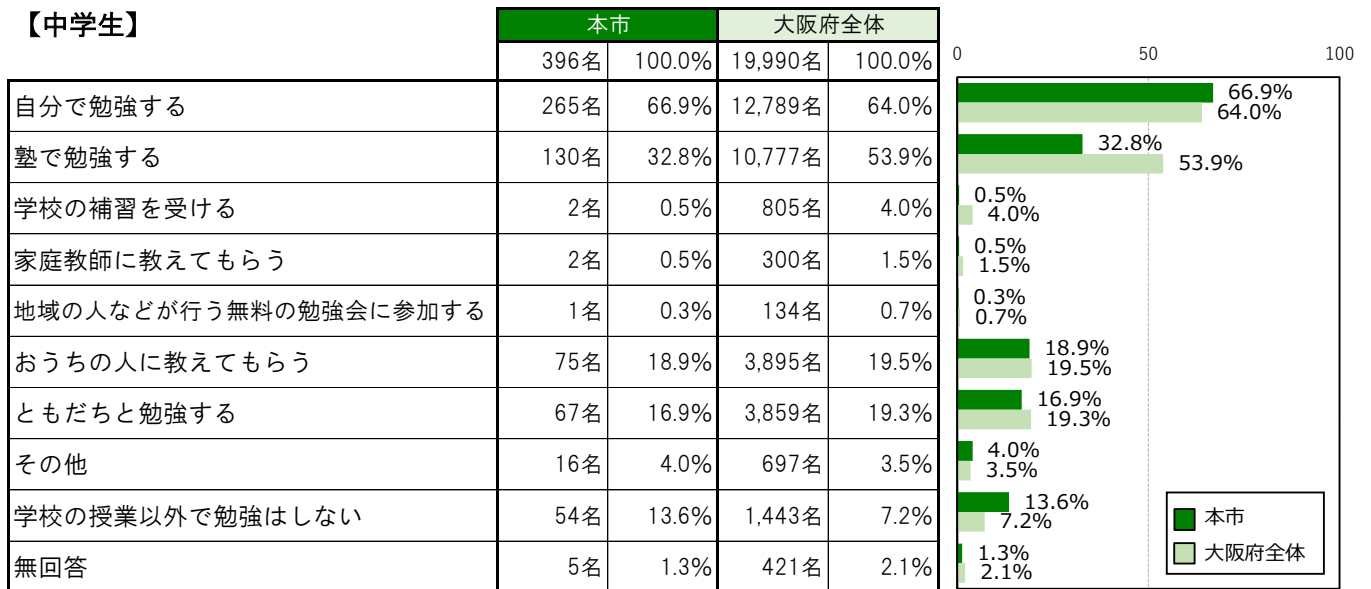
中学生は、「自分で勉強する」が66.9%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が32.8%、「おうちの人に教えてもらう」が18.9%、「ともだちと勉強する」が16.9%となっている。

【全体】



【小学生】





ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）

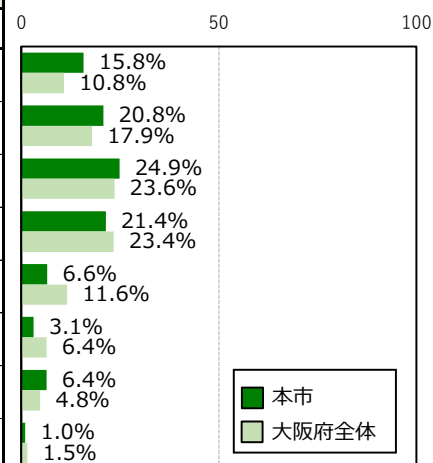
全体は、「30分以上、1時間より少ない」が24.9%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が21.4%、「30分より少ない」が20.8%、「まったくしない」が15.8%となっている。

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が27.2%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が23.1%、「30分より少ない」が17.1%、「まったくしない」が16.0%となっている。

中学生は、「30分より少ない」が25.3%で最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が22.5%、「1時間以上、2時間より少ない」が19.9%、「まったくしない」が15.2%となっている。

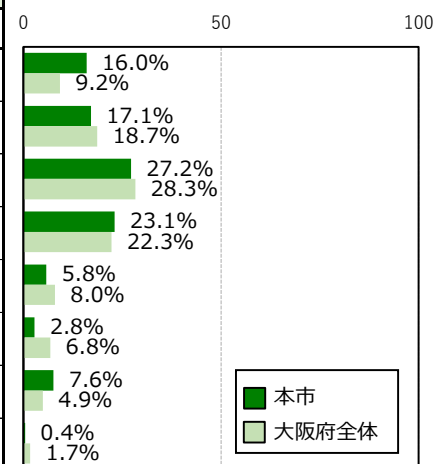
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
まったくしない	137名	15.8%	4,696名	10.8%
30分より少ない	181名	20.8%	7,745名	17.9%
30分以上、1時間より少ない	216名	24.9%	10,239名	23.6%
1時間以上、2時間より少ない	186名	21.4%	10,157名	23.4%
2時間以上、3時間より少ない	57名	6.6%	5,024名	11.6%
3時間以上	27名	3.1%	2,762名	6.4%
わからない	56名	6.4%	2,098名	4.8%
無回答	9名	1.0%	649名	1.5%



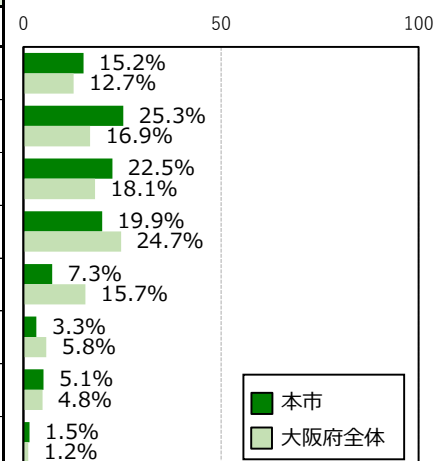
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
まったくしない	74名	16.0%	2,154名	9.2%
30分より少ない	79名	17.1%	4,360名	18.7%
30分以上、1時間より少ない	126名	27.2%	6,598名	28.3%
1時間以上、2時間より少ない	107名	23.1%	5,196名	22.3%
2時間以上、3時間より少ない	27名	5.8%	1,865名	8.0%
3時間以上	13名	2.8%	1,589名	6.8%
わからない	35名	7.6%	1,131名	4.9%
無回答	2名	0.4%	396名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
まったくしない	60名	15.2%	2,534名	12.7%
30分より少ない	100名	25.3%	3,373名	16.9%
30分以上、1時間より少ない	89名	22.5%	3,617名	18.1%
1時間以上、2時間より少ない	79名	19.9%	4,943名	24.7%
2時間以上、3時間より少ない	29名	7.3%	3,147名	15.7%
3時間以上	13名	3.3%	1,168名	5.8%
わからない	20名	5.1%	959名	4.8%
無回答	6名	1.5%	249名	1.2%



ふだんの生活のことについて

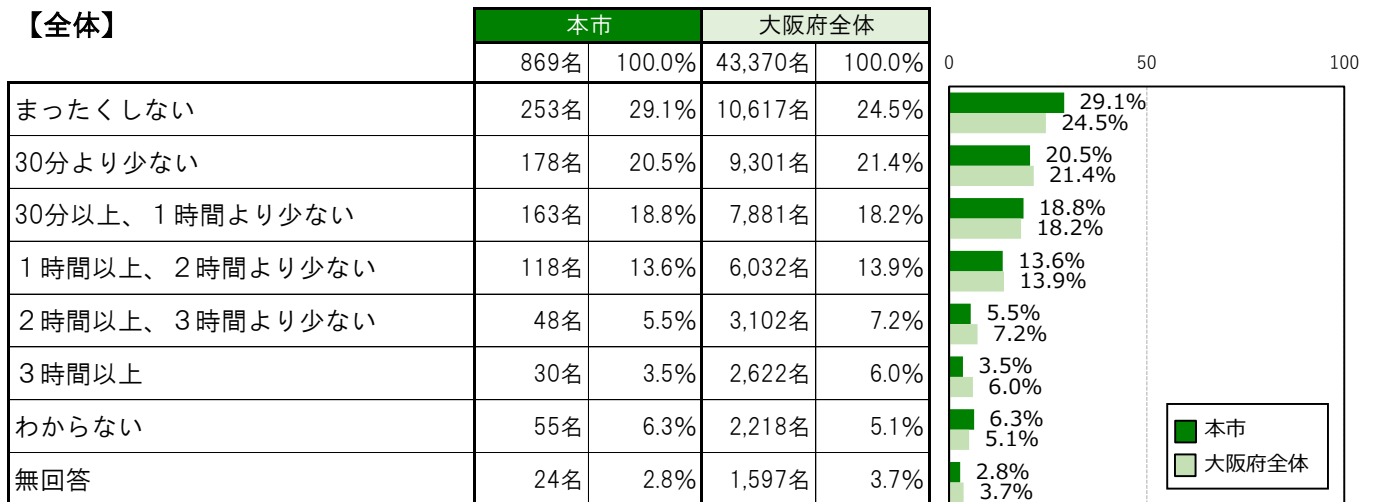
問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）

全体は、「まったくしない」が29.1%で最も多く、次いで「30分より少ない」が20.5%、「30分以上、1時間より少ない」が18.8%、「1時間以上、2時間より少ない」が13.6%となっている。

小学生は、「まったくしない」が29.6%で最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が22.0%、「30分より少ない」が20.3%、「1時間以上、2時間より少ない」が12.7%となっている。

中学生は、「まったくしない」が28.3%で最も多く、次いで「30分より少ない」が21.2%、「30分以上、1時間より少ない」が15.4%、「1時間以上、2時間より少ない」が14.4%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問14（１）学校の勉強で気持ちに近いもの

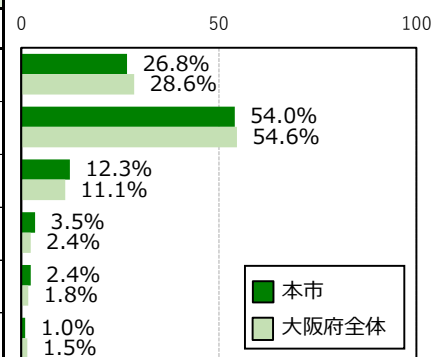
全体は、「だいたいわかる」が54.0%で最も多く、次いで「よくわかる」が26.8%、「あまりわからない」が12.3%、「ほとんどわからない」が3.5%となっている。

小学生は、「だいたいわかる」が55.1%で最も多く、次いで「よくわかる」が35.4%、「あまりわからない」が5.8%、「ほとんどわからない」が1.7%となっている。

中学生は、「だいたいわかる」が53.3%で最も多く、次いで「あまりわからない」が19.7%、「よくわかる」が16.9%、「ほとんどわからない」が5.6%となっている。

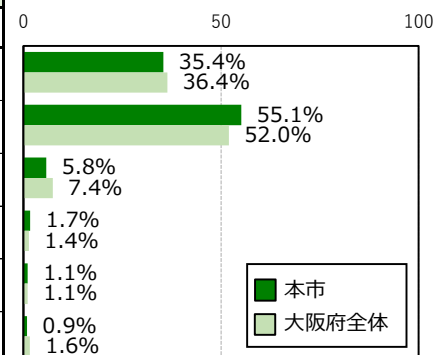
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくわかる	233名	26.8%	12,407名	28.6%
だいたいわかる	469名	54.0%	23,680名	54.6%
あまりわからない	107名	12.3%	4,834名	11.1%
ほとんどわからない	30名	3.5%	1,047名	2.4%
わからない	21名	2.4%	762名	1.8%
無回答	9名	1.0%	640名	1.5%



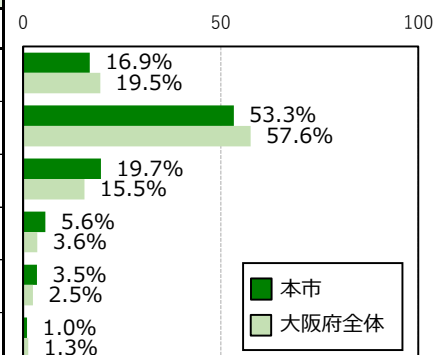
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくわかる	164名	35.4%	8,481名	36.4%
だいたいわかる	255名	55.1%	12,116名	52.0%
あまりわからない	27名	5.8%	1,721名	7.4%
ほとんどわからない	8名	1.7%	331名	1.4%
わからない	5名	1.1%	258名	1.1%
無回答	4名	0.9%	382名	1.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくわかる	67名	16.9%	3,902名	19.5%
だいたいわかる	211名	53.3%	11,516名	57.6%
あまりわからない	78名	19.7%	3,103名	15.5%
ほとんどわからない	22名	5.6%	715名	3.6%
わからない	14名	3.5%	500名	2.5%
無回答	4名	1.0%	254名	1.3%



ふだんの生活のことについて

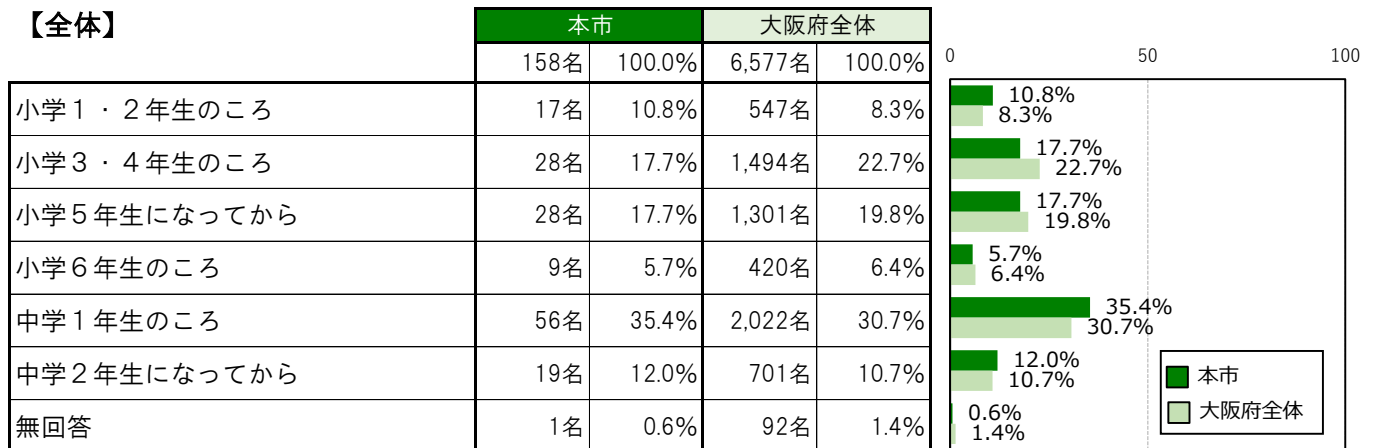
問14（2）授業がわからなくなった時期

全体は、「中学1年生のころ」が35.4%で最も多く、次いで「小学3・4年生のころ」、「小学5年生になってから」がそれぞれ17.7%、「中学2年生になってから」が12.0%となっている。

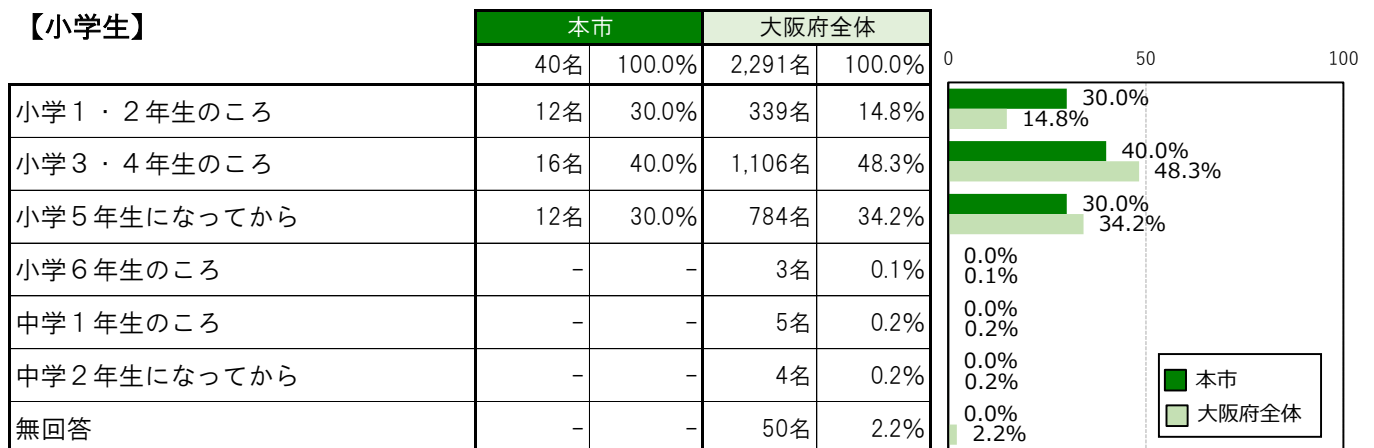
小学生は、「小学3・4年生のころ」が40.0%で最も多く、次いで「小学1・2年生のころ」、「小学5年生になってから」がそれぞれ30.0%となっている。

中学生は、「中学1年生のころ」が48.2%で最も多く、次いで「中学2年生になってから」が14.9%、「小学5年生になってから」が14.0%、「小学3・4年生のころ」が10.5%となっている。

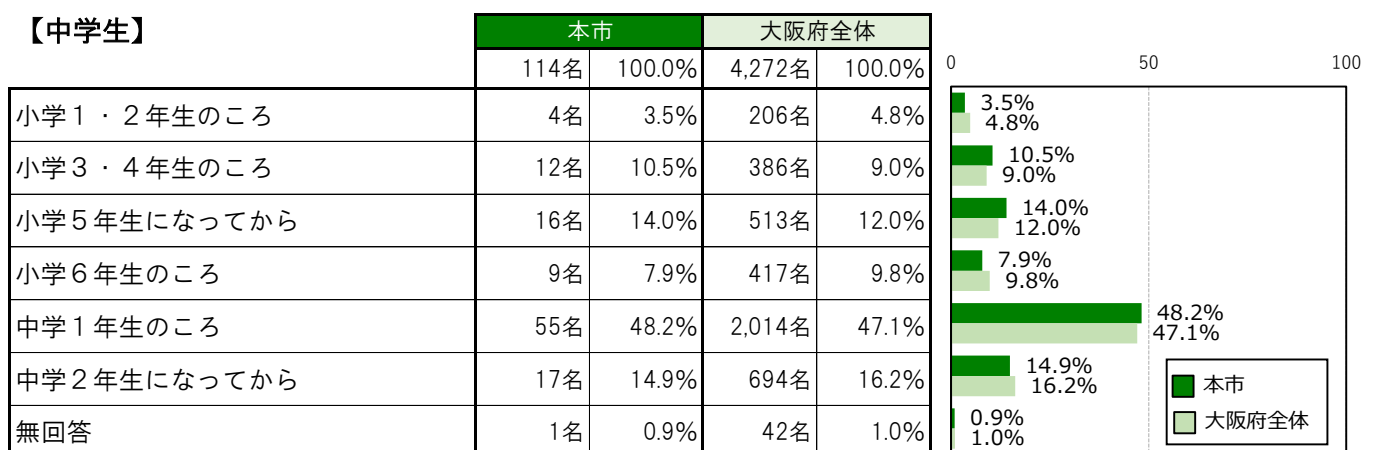
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問15 授業以外の読書時間

全体は、「まったくしない」が57.8%で最も多く、次いで「30分より少ない」が23.2%、「30分以上、1時間より少ない」が8.1%、「1時間以上、2時間より少ない」が3.5%となっている。

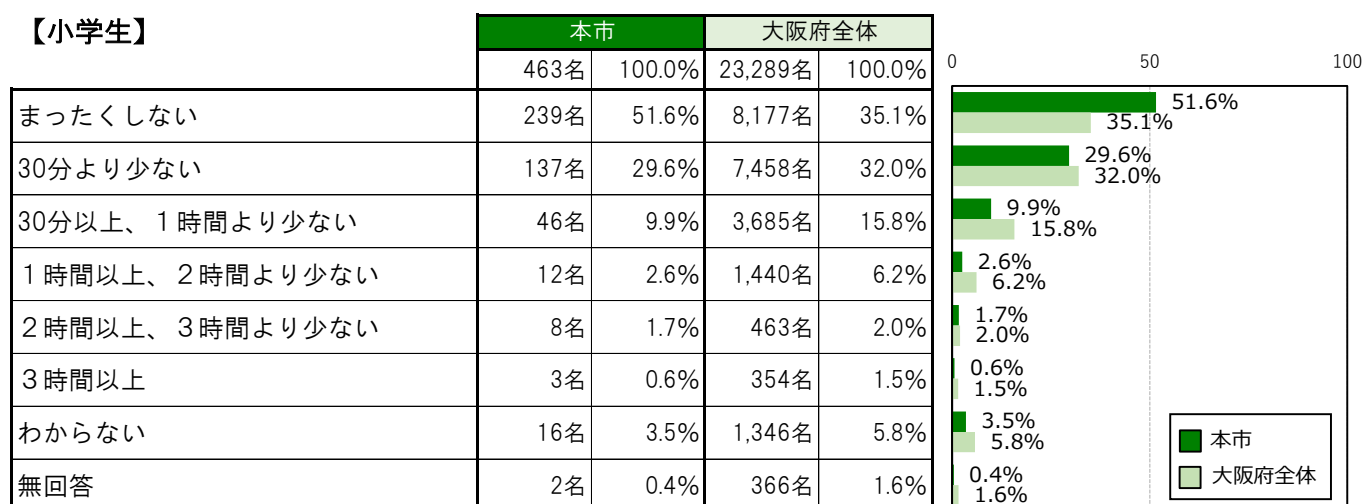
小学生は、「まったくしない」が51.6%で最も多く、次いで「30分より少ない」が29.6%、「30分以上、1時間より少ない」が9.9%、「1時間以上、2時間より少ない」が2.6%となっている。

中学生は、「まったくしない」が64.6%で最も多く、次いで「30分より少ない」が16.2%、「30分以上、1時間より少ない」が6.1%、「1時間以上、2時間より少ない」が4.5%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



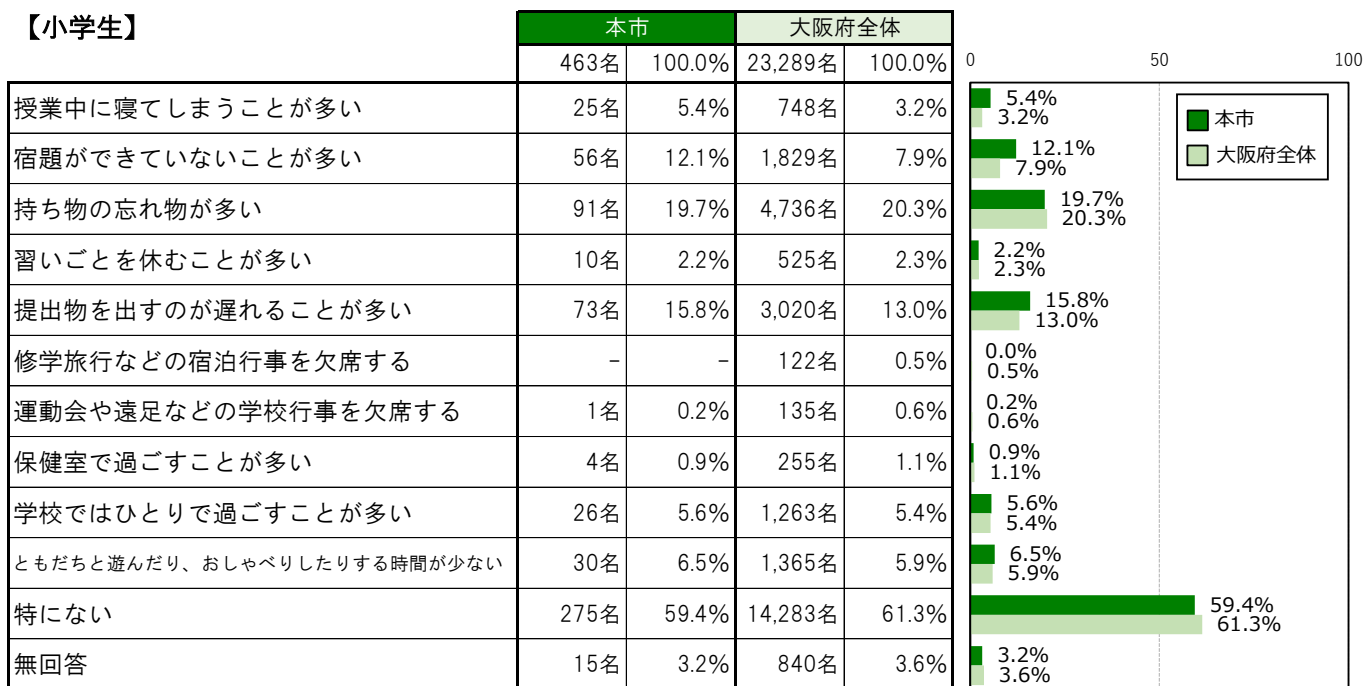
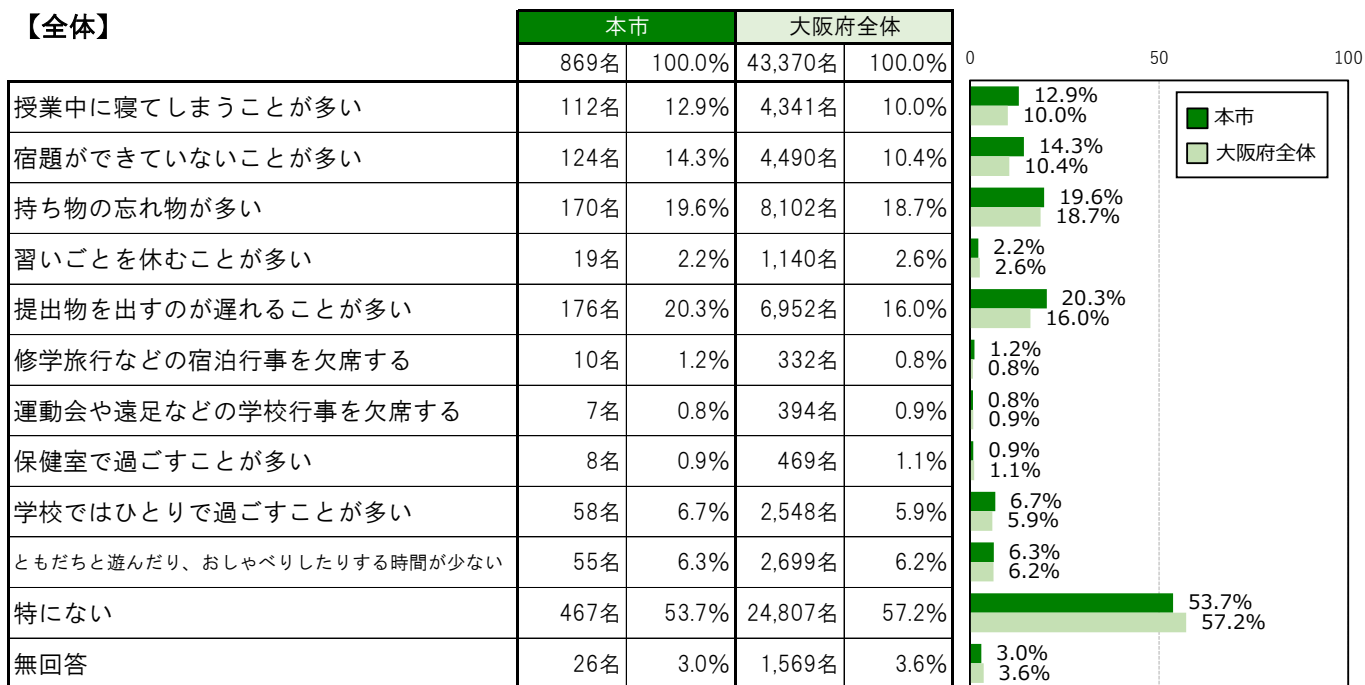
ふだんの生活のことについて

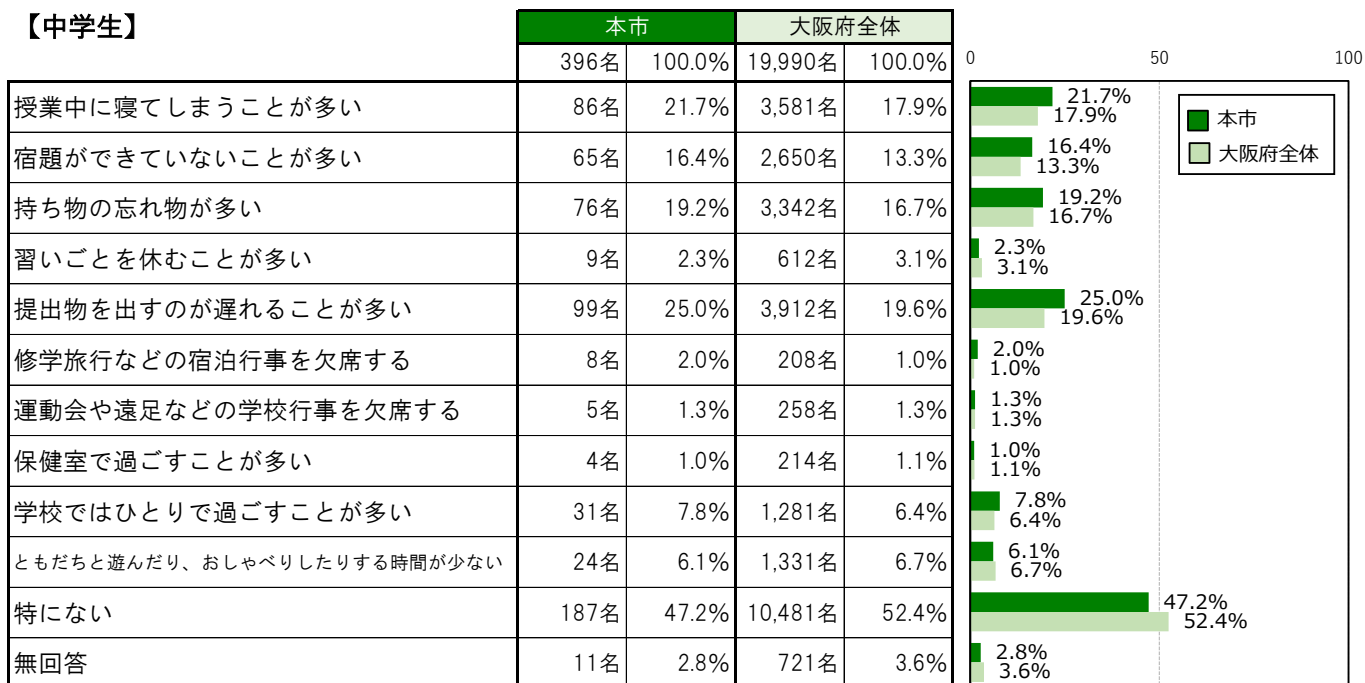
問16 学校や学校の行事等の状況

全体は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が20.3%で最も多く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が19.6%、「宿題ができていないことが多い」が14.3%、「授業中に寝てしまうことが多い」が12.9%となっている。

小学生は、「持ち物の忘れ物が多い」が19.7%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が15.8%、「宿題ができていないことが多い」が12.1%、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が6.5%となっている。

中学生は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が25.0%で最も多く、次いで「授業中に寝てしまうことが多い」が21.7%、「持ち物の忘れ物が多い」が19.2%となっている。





ふだんの生活のことについて

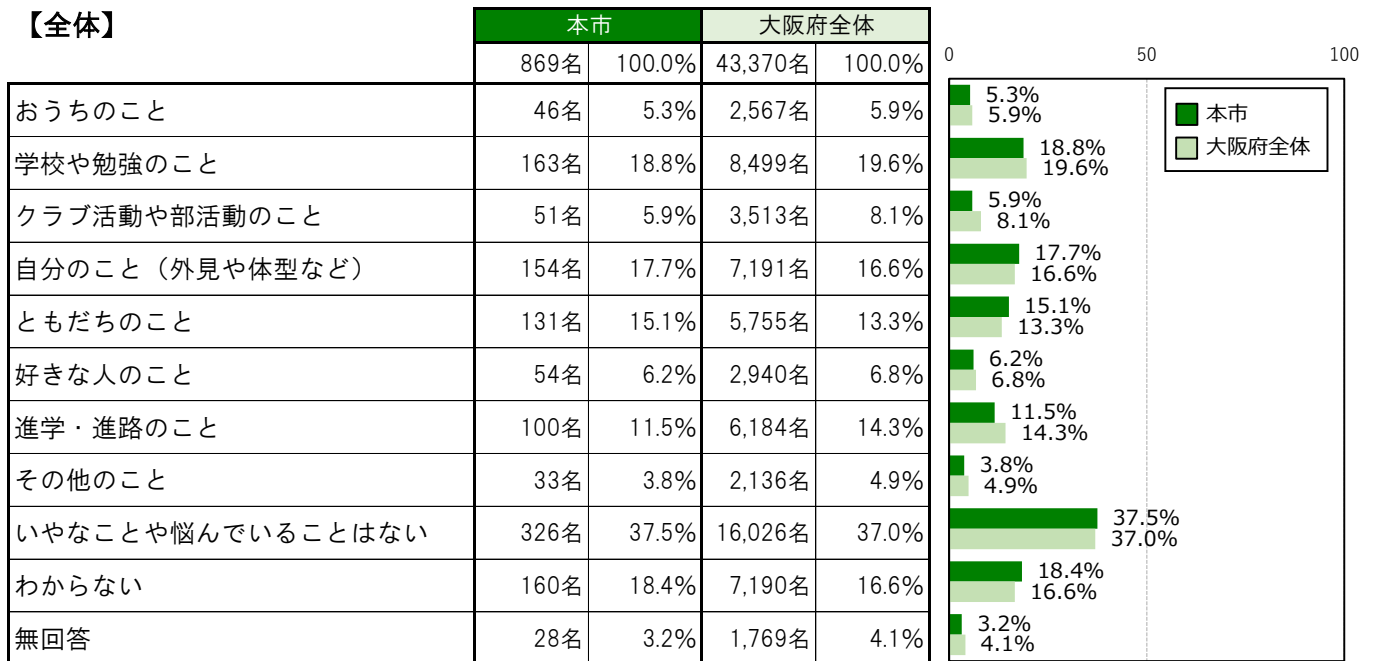
問17 嫌なことや悩んでいること

全体は、「いやなことや悩んでいることはない」が37.5%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が18.8%、「自分のこと（外見や体型など）」が17.7%、「ともだちのこと」が15.1%となっている。

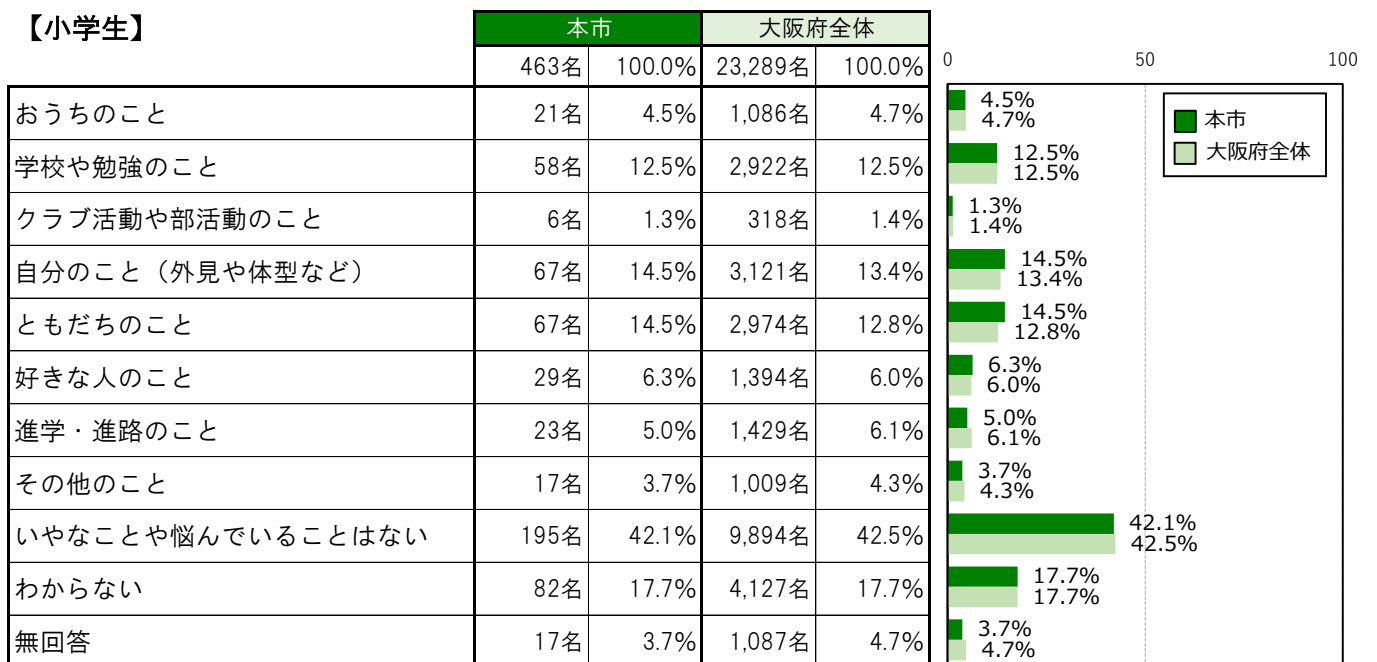
小学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が42.1%で最も多く、次いで「自分のこと（外見や体型など）」、「ともだちのこと」がそれぞれ14.5%、「学校や勉強のこと」が12.5%となっている。

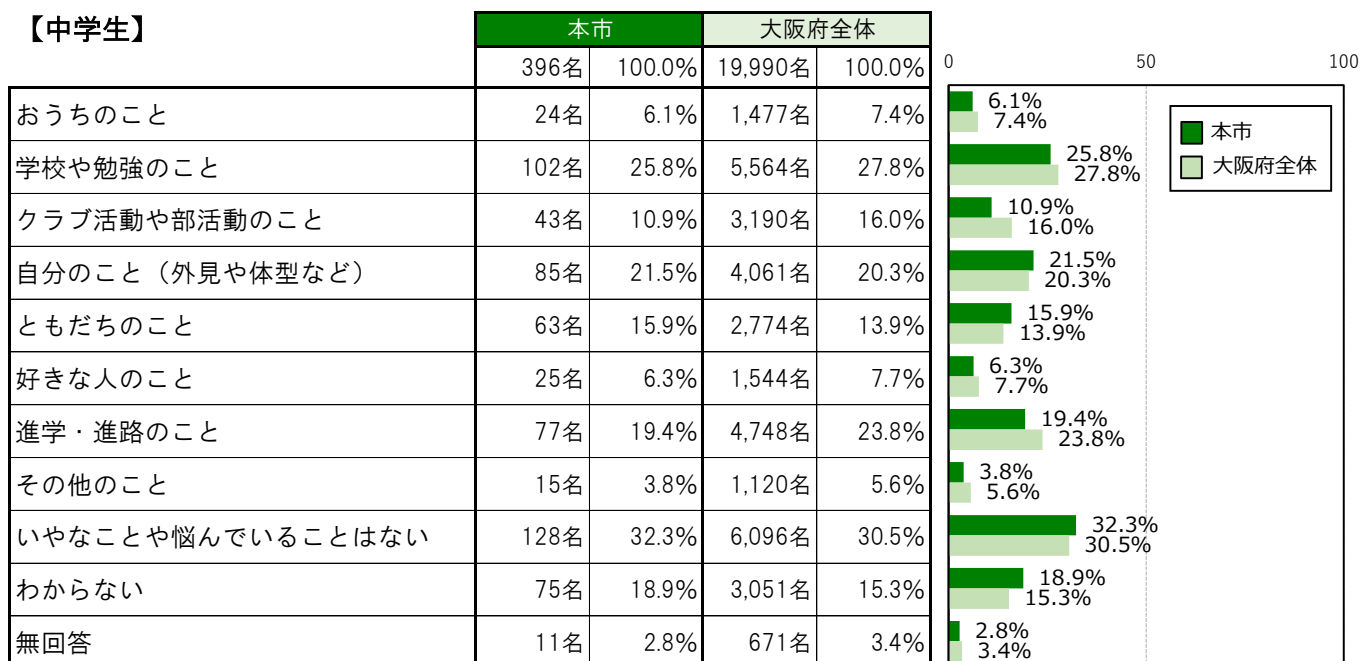
中学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が32.3%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が25.8%、「自分のこと（外見や体型など）」が21.5%となっている。

【全体】



【小学生】





ふだんの生活のことについて

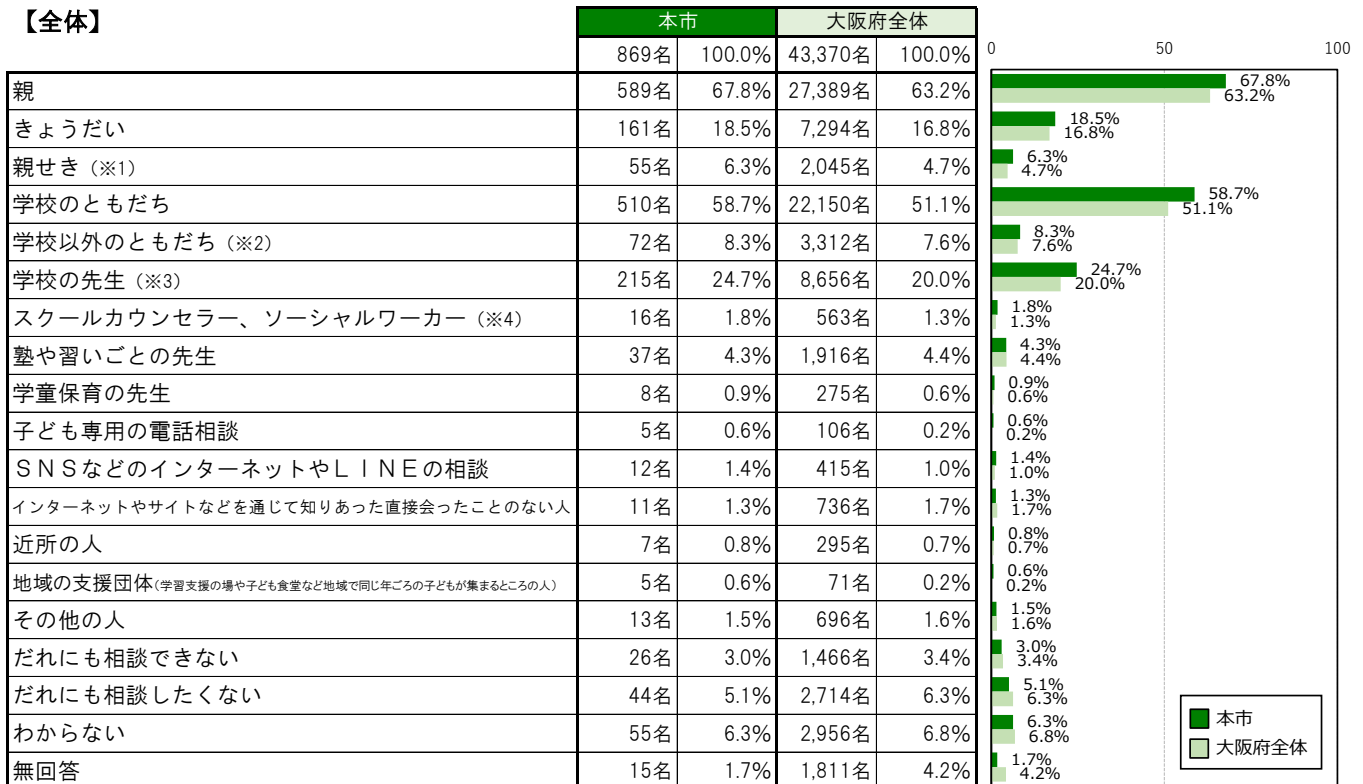
問18 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

全体は、「親」が67.8%で最も多く、次いで「学校のともだち」が58.7%、「学校の先生」が24.7%、「きょうだい」が18.5%となっている。

小学生は、「親」が76.5%で最も多く、次いで「学校のともだち」が55.7%、「学校の先生」が30.9%、「きょうだい」が19.4%となっている。

中学生は、「学校のともだち」が62.6%で最も多く、次いで「親」が58.1%、「学校の先生」が17.9%、「きょうだい」が17.4%となっている。

【全体】



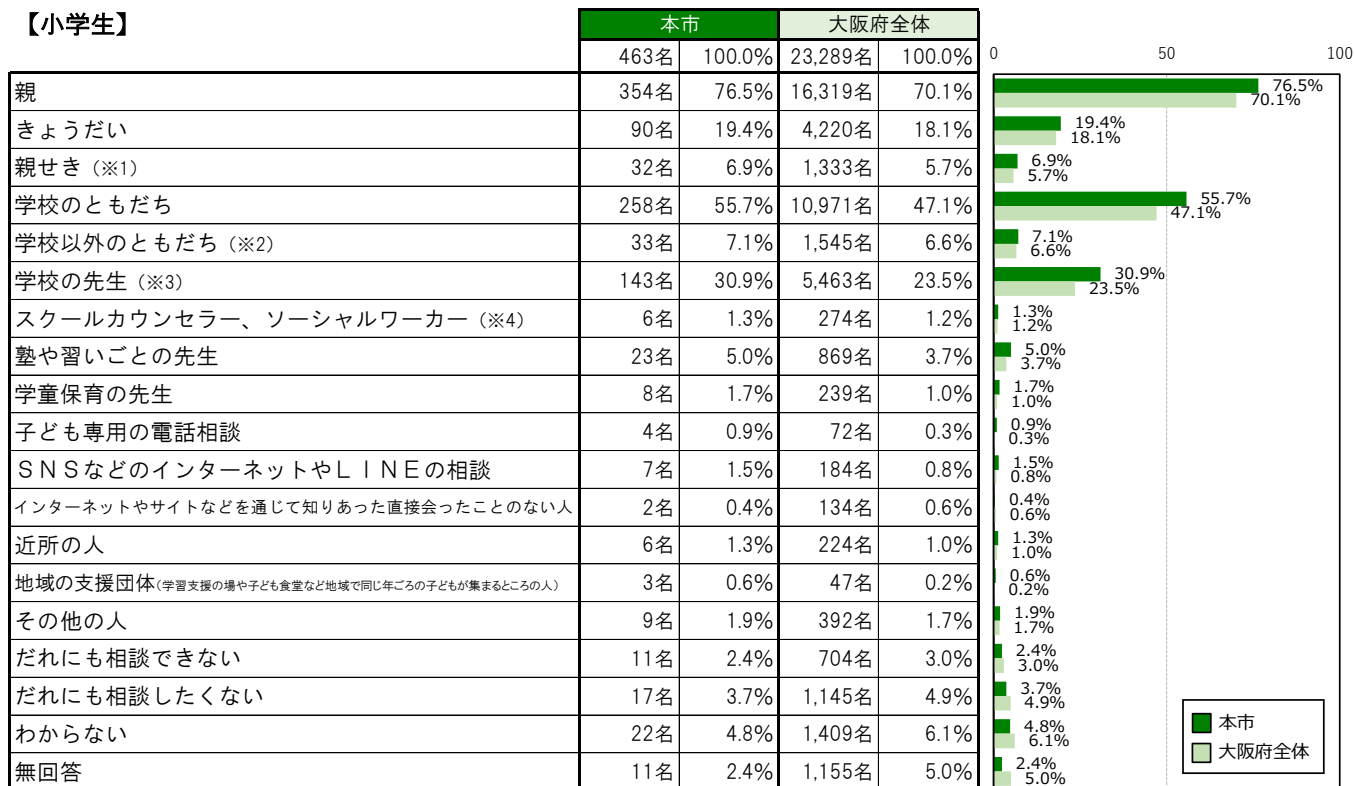
※1 2016年調査では「おじ、おばなど親戚」

※2 2016年調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」

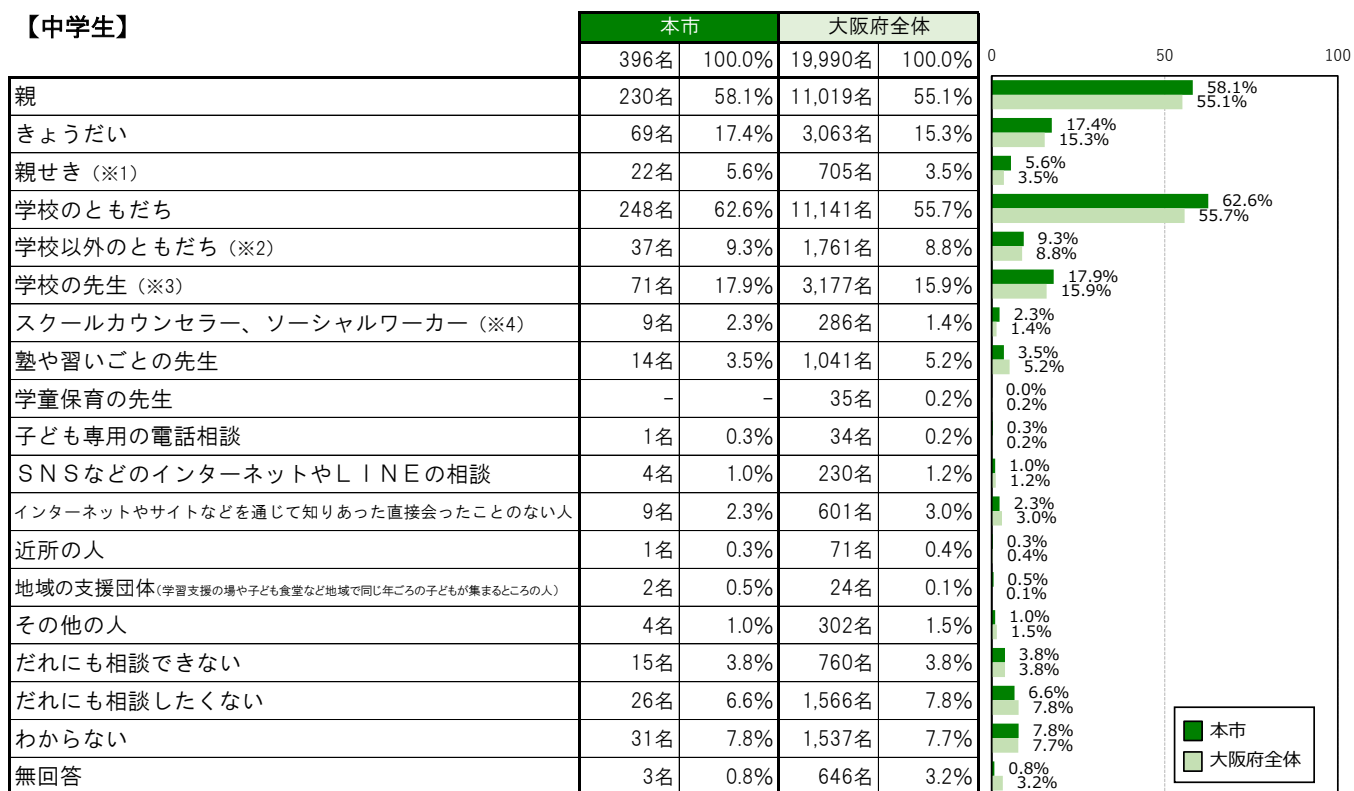
※3 2016年調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」

※4 2016年調査では「スクールカウンセラー」

【小学生】



【中学生】



※1 2016年調査では「おじ、おばなど親戚」

※2 2016年調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」

※3 2016年調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」

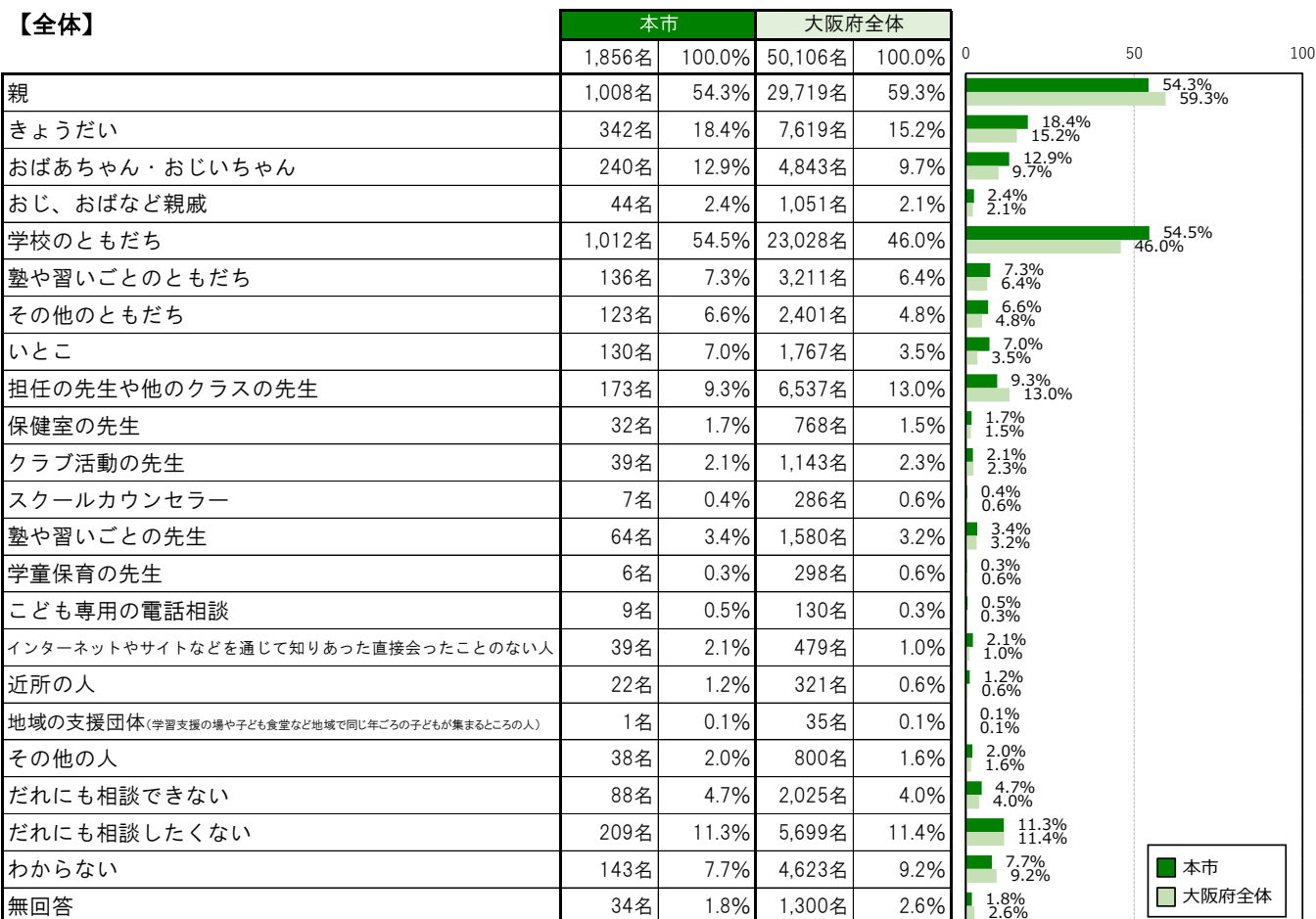
※4 2016年調査では「スクールカウンセラー」

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「学校の先生」（2016年度は「担任の先生や他のクラスの先生」と「保健室の先生」をあわせた割合）が13.7ポイント高くなっている。

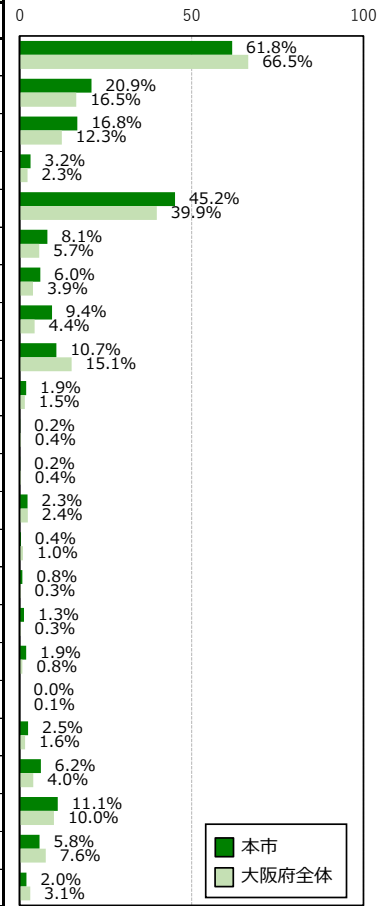
小学生は、「学校の先生」が18.3ポイント高くなっている。

中学生は、「親」が11.1ポイント高くなっている。



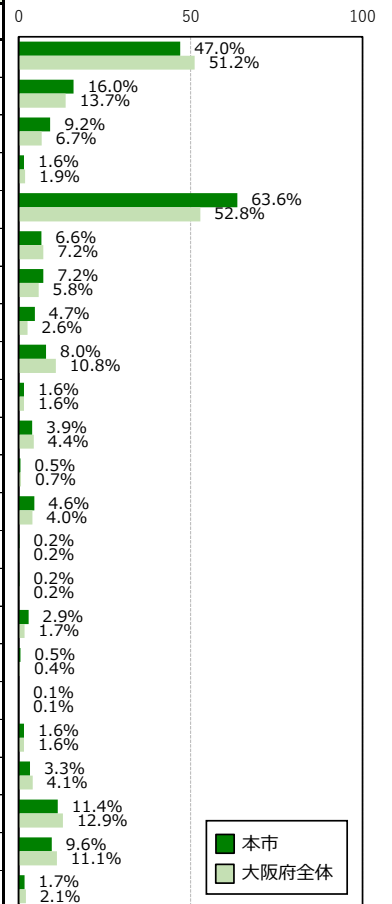
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	918名	100.0%	26,540名	100.0%
親	567名	61.8%	17,649名	66.5%
きょうだい	192名	20.9%	4,384名	16.5%
おばあちゃん・おじいちゃん	154名	16.8%	3,258名	12.3%
おじ、おばなど親戚	29名	3.2%	613名	2.3%
学校のともだち	415名	45.2%	10,593名	39.9%
塾や習いごとのともだち	74名	8.1%	1,523名	5.7%
その他のともだち	55名	6.0%	1,039名	3.9%
いとこ	86名	9.4%	1,156名	4.4%
担任の先生や他のクラスの先生	98名	10.7%	3,997名	15.1%
保健室の先生	17名	1.9%	399名	1.5%
クラブ活動の先生	2名	0.2%	116名	0.4%
スクールカウンセラー	2名	0.2%	116名	0.4%
塾や習いごとの先生	21名	2.3%	628名	2.4%
学童保育の先生	4名	0.4%	253名	1.0%
こども専用の電話相談	7名	0.8%	91名	0.3%
インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人	12名	1.3%	83名	0.3%
近所の人	17名	1.9%	224名	0.8%
地域の支援団体(学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所の人)	-	-	17名	0.1%
その他の人	23名	2.5%	417名	1.6%
だれにも相談できない	57名	6.2%	1,050名	4.0%
だれにも相談したくない	102名	11.1%	2,652名	10.0%
わからない	53名	5.8%	2,015名	7.6%
無回答	18名	2.0%	811名	3.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	938名	100.0%	23,558名	100.0%
親	441名	47.0%	12,068名	51.2%
きょうだい	150名	16.0%	3,235名	13.7%
おばあちゃん・おじいちゃん	86名	9.2%	1,584名	6.7%
おじ、おばなど親戚	15名	1.6%	438名	1.9%
学校のともだち	597名	63.6%	12,434名	52.8%
塾や習いごとのともだち	62名	6.6%	1,688名	7.2%
その他のともだち	68名	7.2%	1,362名	5.8%
いとこ	44名	4.7%	611名	2.6%
担任の先生や他のクラスの先生	75名	8.0%	2,540名	10.8%
保健室の先生	15名	1.6%	369名	1.6%
クラブ活動の先生	37名	3.9%	1,027名	4.4%
スクールカウンセラー	5名	0.5%	170名	0.7%
塾や習いごとの先生	43名	4.6%	952名	4.0%
学童保育の先生	2名	0.2%	45名	0.2%
こども専用の電話相談	2名	0.2%	39名	0.2%
インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人	27名	2.9%	396名	1.7%
近所の人	5名	0.5%	97名	0.4%
地域の支援団体(学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所の人)	1名	0.1%	18名	0.1%
その他の人	15名	1.6%	383名	1.6%
だれにも相談できない	31名	3.3%	975名	4.1%
だれにも相談したくない	107名	11.4%	3,047名	12.9%
わからない	90名	9.6%	2,607名	11.1%
無回答	16名	1.7%	485名	2.1%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

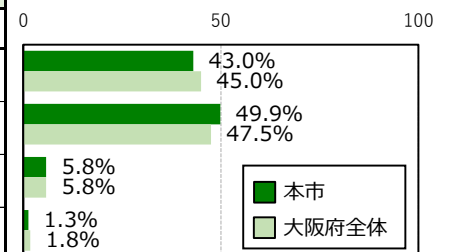
全体は、「ときどきそうだ」が49.9%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が43.0%、「そんなことはない」が5.8%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が47.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が47.1%、「そんなことはない」が3.9%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が53.0%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が38.1%、「そんなことはない」が8.1%となっている。

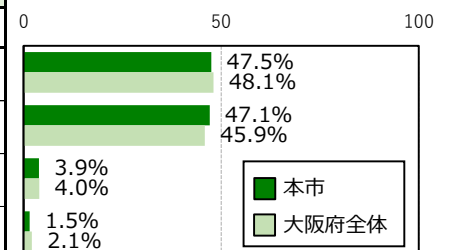
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	374名	43.0%	19,505名	45.0%
ときどきそうだ	434名	49.9%	20,583名	47.5%
そんなことはない	50名	5.8%	2,517名	5.8%
無回答	11名	1.3%	765名	1.8%



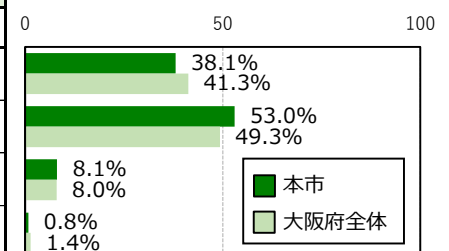
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	220名	47.5%	11,206名	48.1%
ときどきそうだ	218名	47.1%	10,683名	45.9%
そんなことはない	18名	3.9%	922名	4.0%
無回答	7名	1.5%	478名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	151名	38.1%	8,256名	41.3%
ときどきそうだ	210名	53.0%	9,858名	49.3%
そんなことはない	32名	8.1%	1,595名	8.0%
無回答	3名	0.8%	281名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

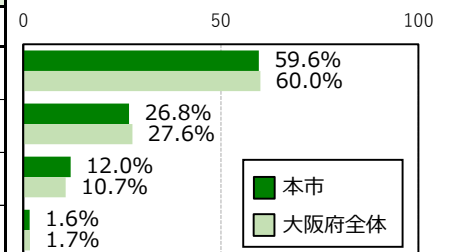
全体は、「いつもそうだ」が59.6%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が26.8%、「そんなことはない」が12.0%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が65.0%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が25.3%、「そんなことはない」が7.8%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が53.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が28.5%、「そんなことはない」が16.9%となっている。

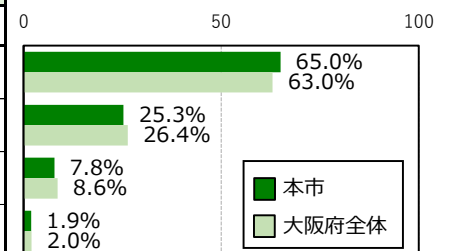
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	518名	59.6%	26,039名	60.0%
ときどきそうだ	233名	26.8%	11,956名	27.6%
そんなことはない	104名	12.0%	4,638名	10.7%
無回答	14名	1.6%	737名	1.7%



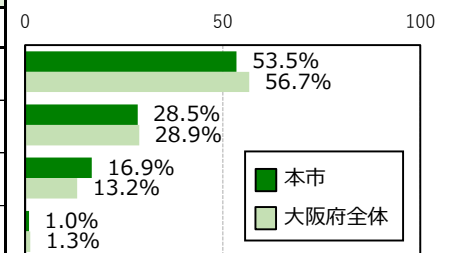
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	301名	65.0%	14,666名	63.0%
ときどきそうだ	117名	25.3%	6,154名	26.4%
そんなことはない	36名	7.8%	1,996名	8.6%
無回答	9名	1.9%	473名	2.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	212名	53.5%	11,325名	56.7%
ときどきそうだ	113名	28.5%	5,773名	28.9%
そんなことはない	67名	16.9%	2,634名	13.2%
無回答	4名	1.0%	258名	1.3%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

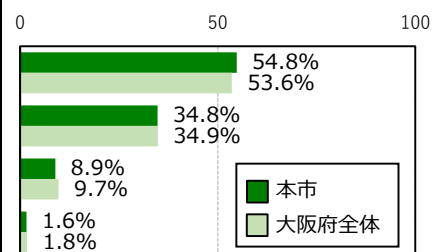
全体は、「いつもそうだ」が54.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が34.8%、「そんなことはない」が8.9%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が66.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が26.1%、「そんなことはない」が5.2%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が44.7%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が41.4%、「そんなことはない」が13.1%となっている。

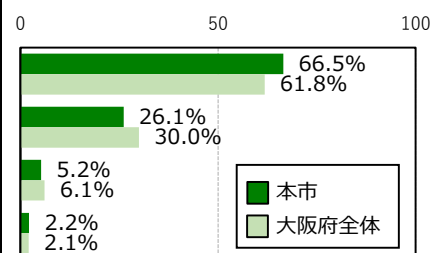
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	476名	54.8%	23,234名	53.6%
ときどきそうだ	302名	34.8%	15,146名	34.9%
そんなことはない	77名	8.9%	4,217名	9.7%
無回答	14名	1.6%	773名	1.8%



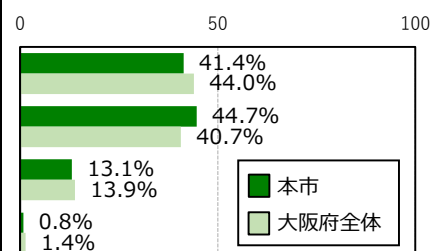
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	308名	66.5%	14,397名	61.8%
ときどきそうだ	121名	26.1%	6,978名	30.0%
そんなことはない	24名	5.2%	1,431名	6.1%
無回答	10名	2.2%	483名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	164名	41.4%	8,796名	44.0%
ときどきそうだ	177名	44.7%	8,128名	40.7%
そんなことはない	52名	13.1%	2,782名	13.9%
無回答	3名	0.8%	284名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

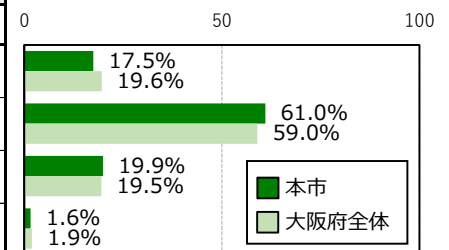
全体は、「ときどきそうだ」が61.0%で最も多く、次いで「そんなことはない」が19.9%、「いつもそうだ」が17.5%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が64.1%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が20.1%、「そんなことはない」が13.8%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が57.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が27.0%、「いつもそうだ」が14.4%となっている。

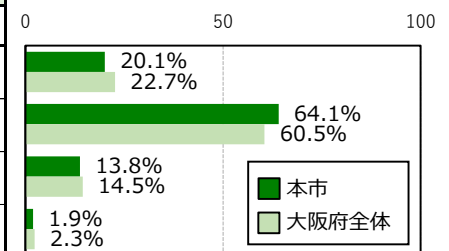
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	152名	17.5%	8,503名	19.6%
ときどきそうだ	530名	61.0%	25,567名	59.0%
そんなことはない	173名	19.9%	8,460名	19.5%
無回答	14名	1.6%	840名	1.9%



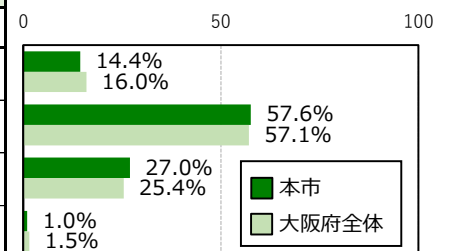
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	93名	20.1%	5,283名	22.7%
ときどきそうだ	297名	64.1%	14,099名	60.5%
そんなことはない	64名	13.8%	3,367名	14.5%
無回答	9名	1.9%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	57名	14.4%	3,199名	16.0%
ときどきそうだ	228名	57.6%	11,416名	57.1%
そんなことはない	107名	27.0%	5,081名	25.4%
無回答	4名	1.0%	294名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

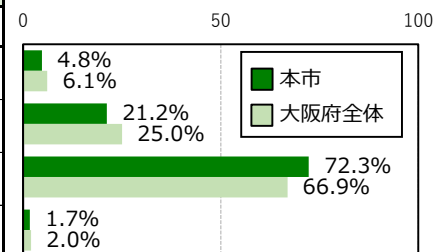
全体は、「そんなことはない」が72.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が21.2%、「いつもそうだ」が4.8%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が76.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が18.6%、「いつもそうだ」が2.8%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が68.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が24.0%、「いつもそうだ」が7.1%となっている。

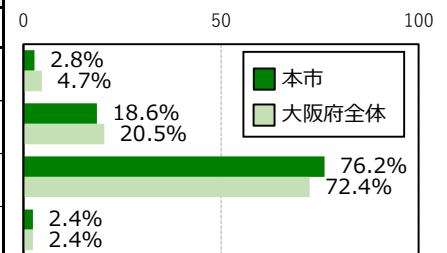
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	42名	4.8%	2,628名	6.1%
ときどきそうだ	184名	21.2%	10,860名	25.0%
そんなことはない	628名	72.3%	29,021名	66.9%
無回答	15名	1.7%	861名	2.0%



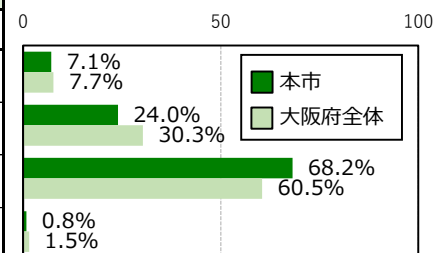
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	13名	2.8%	1,091名	4.7%
ときどきそうだ	86名	18.6%	4,776名	20.5%
そんなことはない	353名	76.2%	16,872名	72.4%
無回答	11名	2.4%	550名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	28名	7.1%	1,534名	7.7%
ときどきそうだ	95名	24.0%	6,057名	30.3%
そんなことはない	270名	68.2%	12,095名	60.5%
無回答	3名	0.8%	304名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

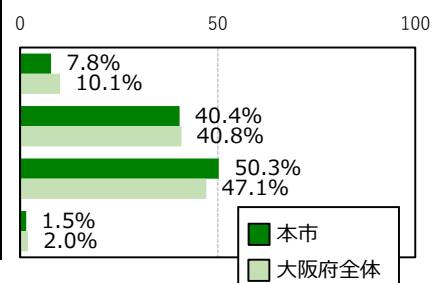
全体は、「そんなことはない」が50.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が40.4%、「いつもそうだ」が7.8%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が53.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が38.2%、「いつもそうだ」が6.3%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が47.0%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が42.9%、「いつもそうだ」が9.3%となっている。

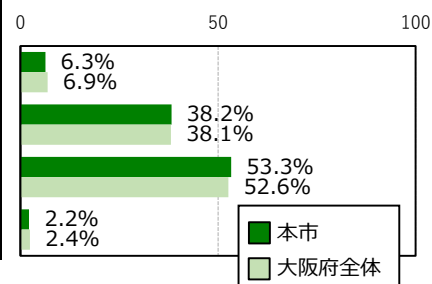
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	68名	7.8%	4,369名	10.1%
ときどきそうだ	351名	40.4%	17,713名	40.8%
そんなことはない	437名	50.3%	20,421名	47.1%
無回答	13名	1.5%	867名	2.0%



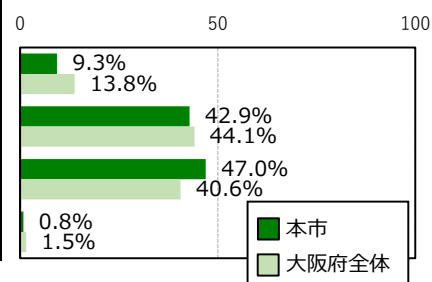
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	29名	6.3%	1,616名	6.9%
ときどきそうだ	177名	38.2%	8,865名	38.1%
そんなことはない	247名	53.3%	12,251名	52.6%
無回答	10名	2.2%	557名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	37名	9.3%	2,750名	13.8%
ときどきそうだ	170名	42.9%	8,814名	44.1%
そんなことはない	186名	47.0%	8,122名	40.6%
無回答	3名	0.8%	304名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

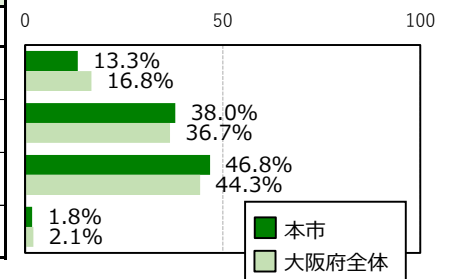
全体は、「そんなことはない」が46.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が38.0%、「いつもそうだ」が13.3%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が51.0%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が36.7%、「いつもそうだ」が9.7%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が41.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が39.9%、「いつもそうだ」が17.4%となっている。

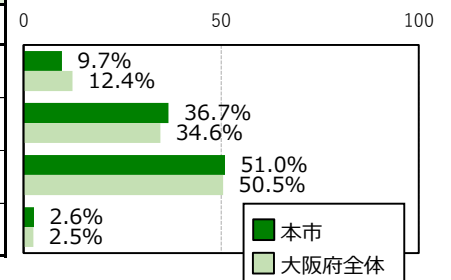
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	116名	13.3%	7,300名	16.8%
ときどきそうだ	330名	38.0%	15,932名	36.7%
そんなことはない	407名	46.8%	19,222名	44.3%
無回答	16名	1.8%	916名	2.1%



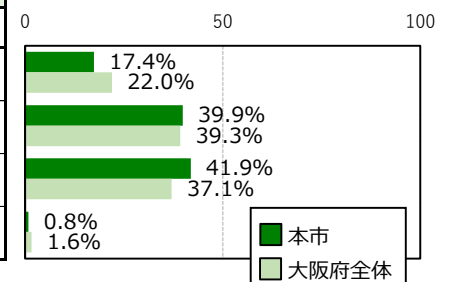
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	45名	9.7%	2,893名	12.4%
ときどきそうだ	170名	36.7%	8,049名	34.6%
そんなことはない	236名	51.0%	11,759名	50.5%
無回答	12名	2.6%	588名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	69名	17.4%	4,399名	22.0%
ときどきそうだ	158名	39.9%	7,848名	39.3%
そんなことはない	166名	41.9%	7,422名	37.1%
無回答	3名	0.8%	321名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

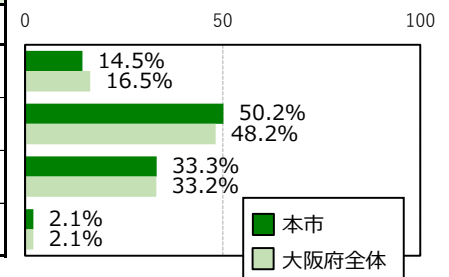
全体は、「ときどきそうだ」が50.2%で最も多く、次いで「そんなことはない」が33.3%、「いつもそうだ」が14.5%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が47.9%で最も多く、次いで「そんなことはない」が40.2%、「いつもそうだ」が8.9%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が53.3%で最も多く、次いで「そんなことはない」が25.0%、「いつもそうだ」が21.0%となっている。

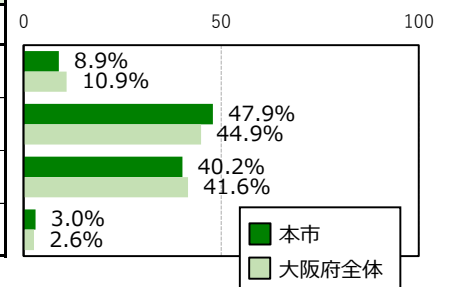
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	126名	14.5%	7,152名	16.5%
ときどきそうだ	436名	50.2%	20,902名	48.2%
そんなことはない	289名	33.3%	14,387名	33.2%
無回答	18名	2.1%	929名	2.1%



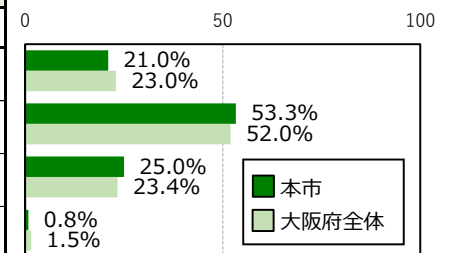
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	41名	8.9%	2,541名	10.9%
ときどきそうだ	222名	47.9%	10,454名	44.9%
そんなことはない	186名	40.2%	9,677名	41.6%
無回答	14名	3.0%	617名	2.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	83名	21.0%	4,606名	23.0%
ときどきそうだ	211名	53.3%	10,396名	52.0%
そんなことはない	99名	25.0%	4,682名	23.4%
無回答	3名	0.8%	306名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

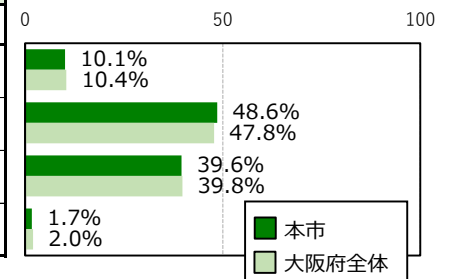
全体は、「ときどきそうだ」が48.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が39.6%、「いつもそうだ」が10.1%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が46.4%で最も多く、次いで「そんなことはない」が39.3%、「いつもそうだ」が11.9%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が51.3%で最も多く、次いで「そんなことはない」が40.2%、「いつもそうだ」が7.8%となっている。

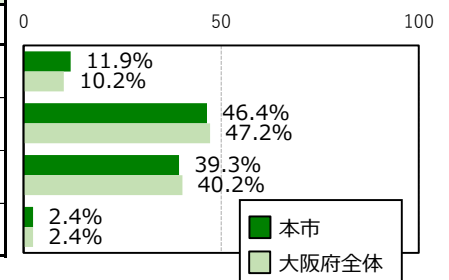
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	88名	10.1%	4,525名	10.4%
ときどきそうだ	422名	48.6%	20,712名	47.8%
そんなことはない	344名	39.6%	17,270名	39.8%
無回答	15名	1.7%	863名	2.0%



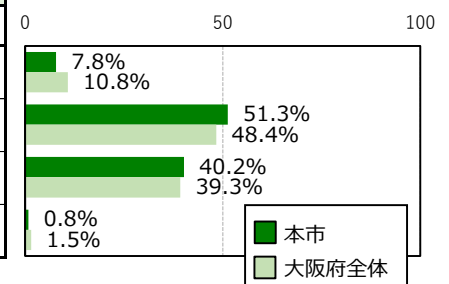
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	55名	11.9%	2,364名	10.2%
ときどきそうだ	215名	46.4%	10,997名	47.2%
そんなことはない	182名	39.3%	9,370名	40.2%
無回答	11名	2.4%	558名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	31名	7.8%	2,152名	10.8%
ときどきそうだ	203名	51.3%	9,674名	48.4%
そんなことはない	159名	40.2%	7,865名	39.3%
無回答	3名	0.8%	299名	1.5%



ふだんの生活のことについて

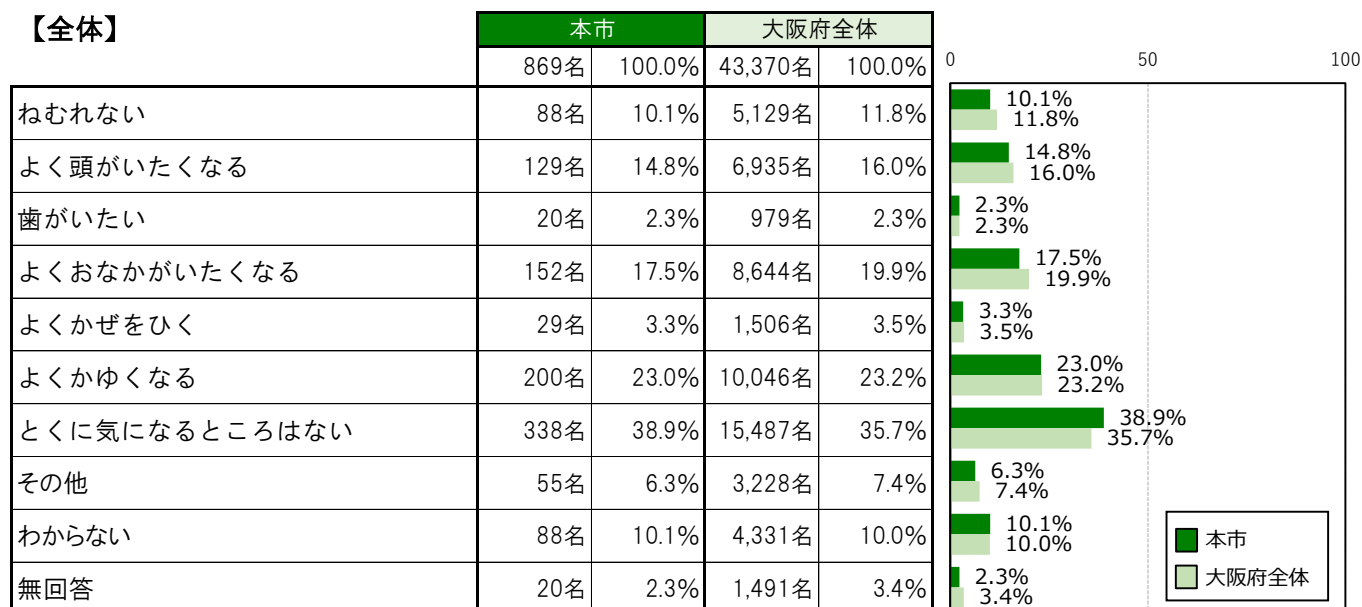
問20 自分の体の状態で気になること

全体は、「とくに気になるところはない」が38.9%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が23.0%、「よくおなかがいたくなる」が17.5%、「よく頭がいたくなる」が14.8%となっている。

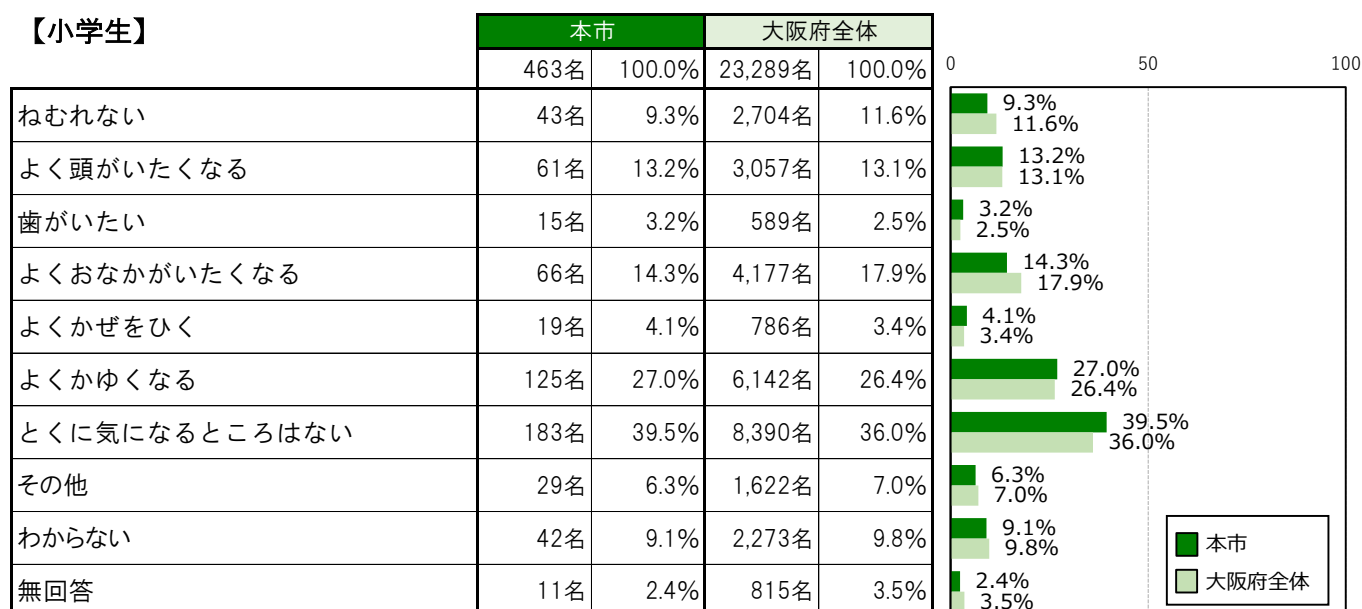
小学生は、「とくに気になるところはない」が39.5%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が27.0%、「よくおなかがいたくなる」が14.3%、「よく頭がいたくなる」が13.2%となっている。

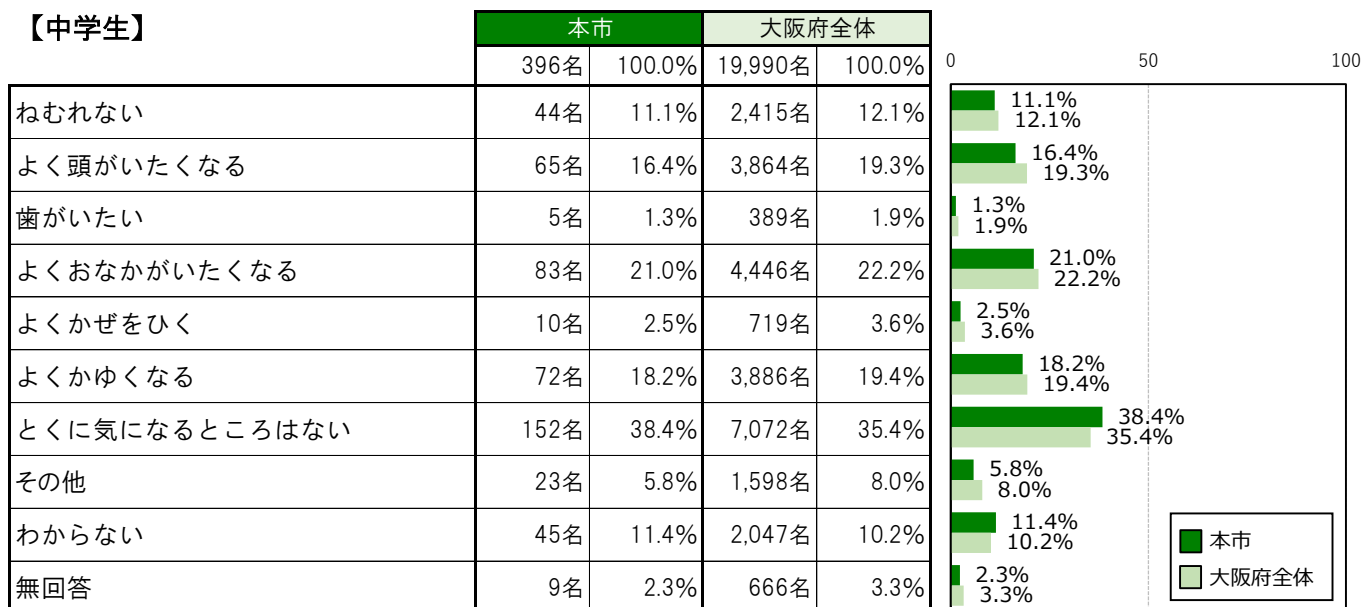
中学生は、「とくに気になるところはない」が38.4%で最も多く、次いで「よくおなかがいたくなる」が21.0%、「よくかゆくなる」が18.2%、「よく頭がいたくなる」が16.4%となっている。

【全体】



【小学生】





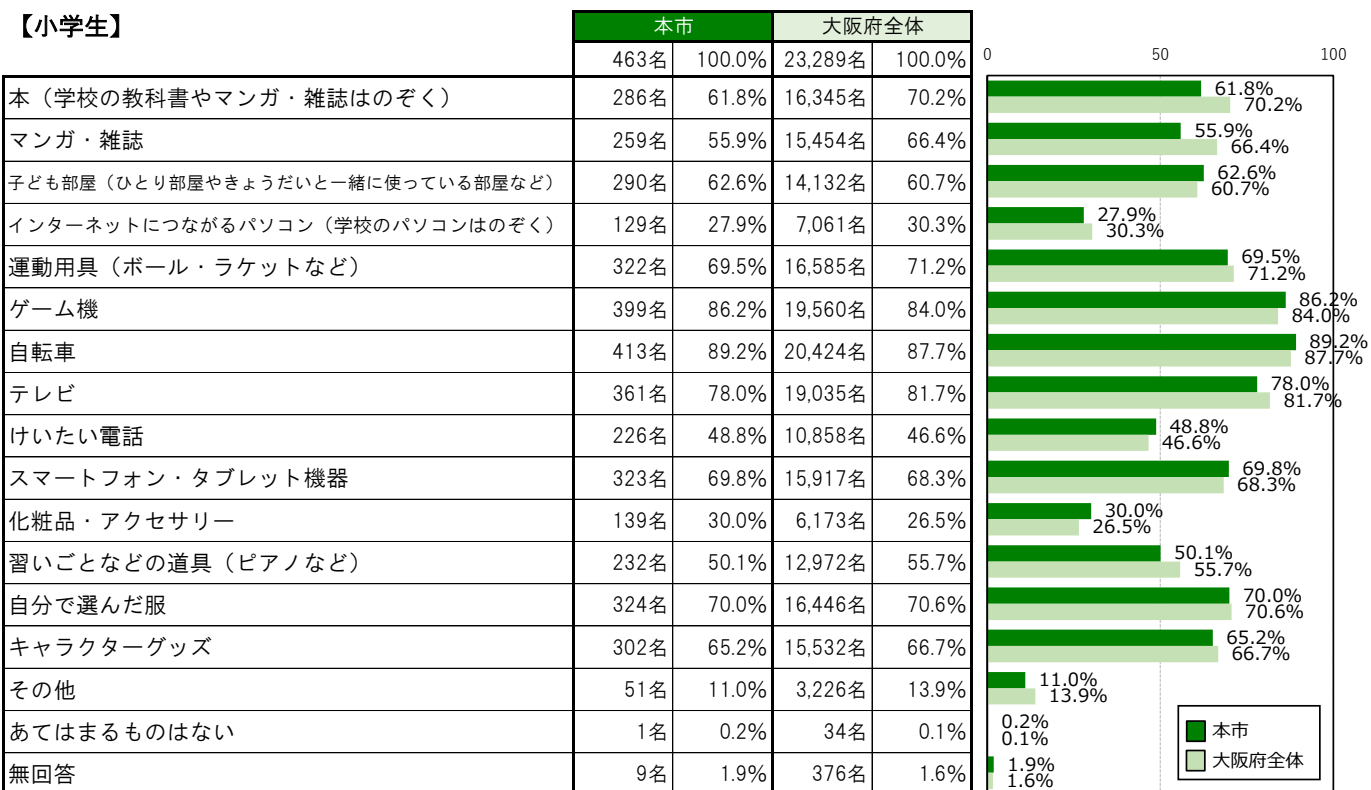
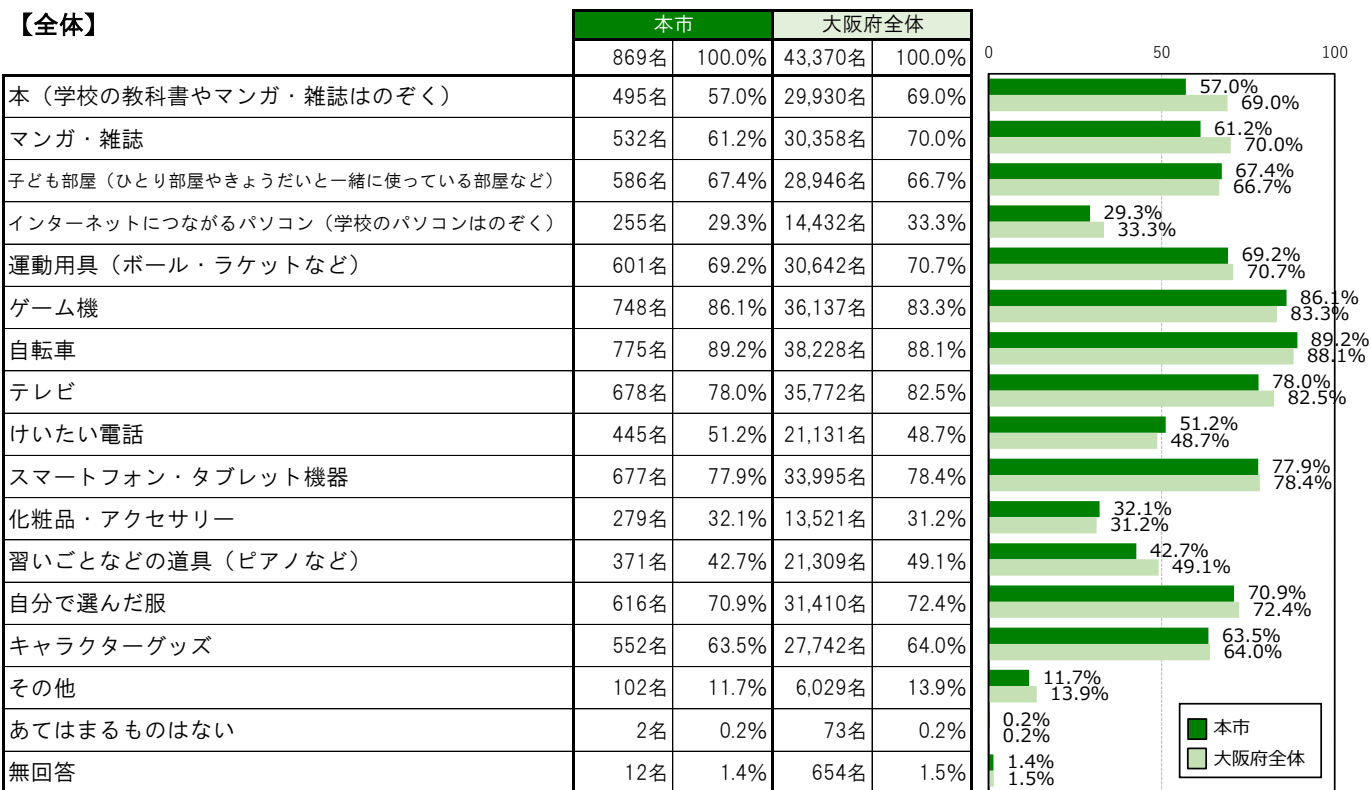
ふだんの生活のことについて

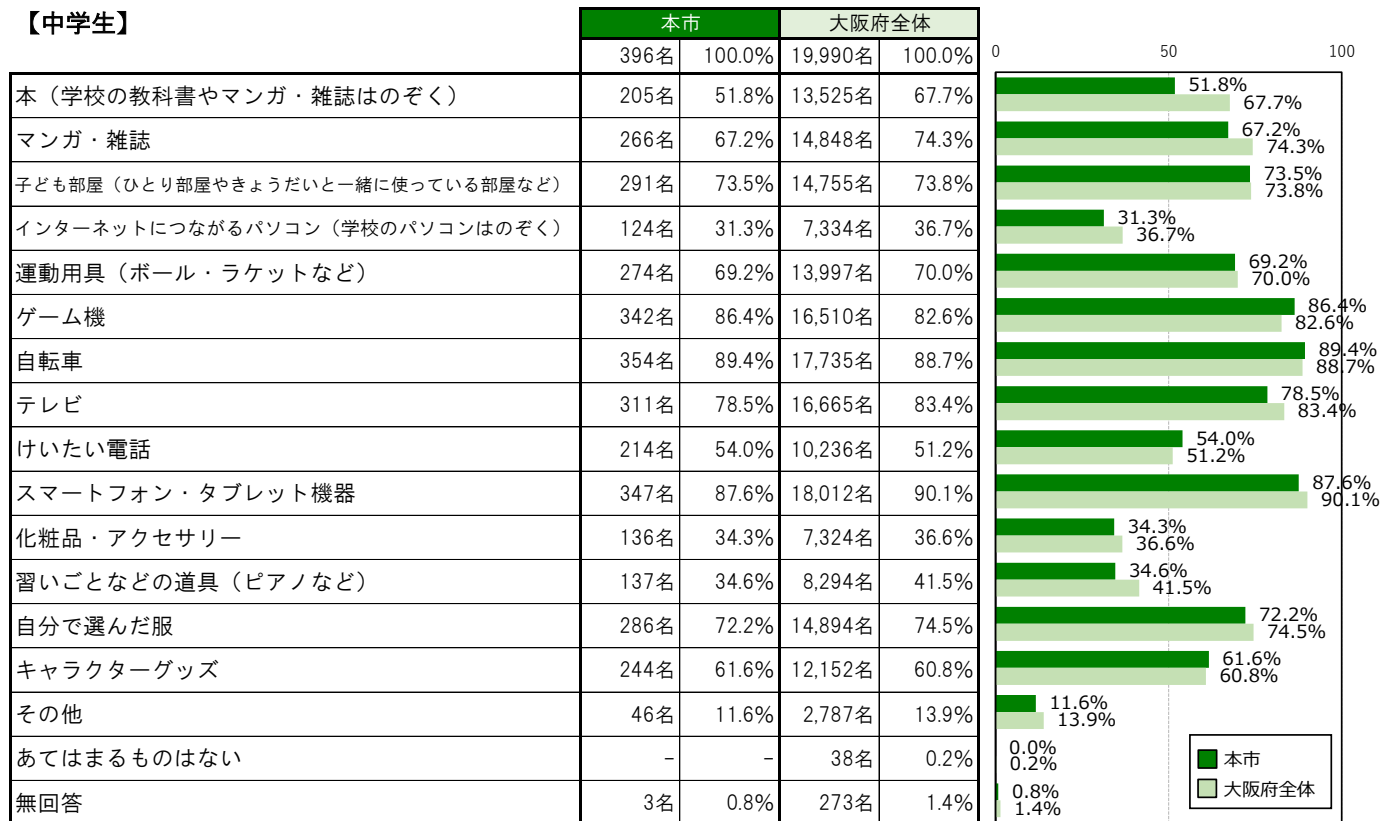
問21 持っているもの、使うことができるもの

全体は、「自転車」が89.2%で最も多く、次いで「ゲーム機」が86.1%、「テレビ」が78.0%、「スマートフォン・タブレット機器」が77.9%となっている。

小学生は、「自転車」が89.2%で最も多く、次いで「ゲーム機」が86.2%、「テレビ」が78.0%、「自分で選んだ服」が70.0%となっている。

中学生は、「自転車」が89.4%で最も多く、次いで「スマートフォン・タブレット機器」が87.6%、「ゲーム機」が86.4%、「テレビ」が78.5%となっている。





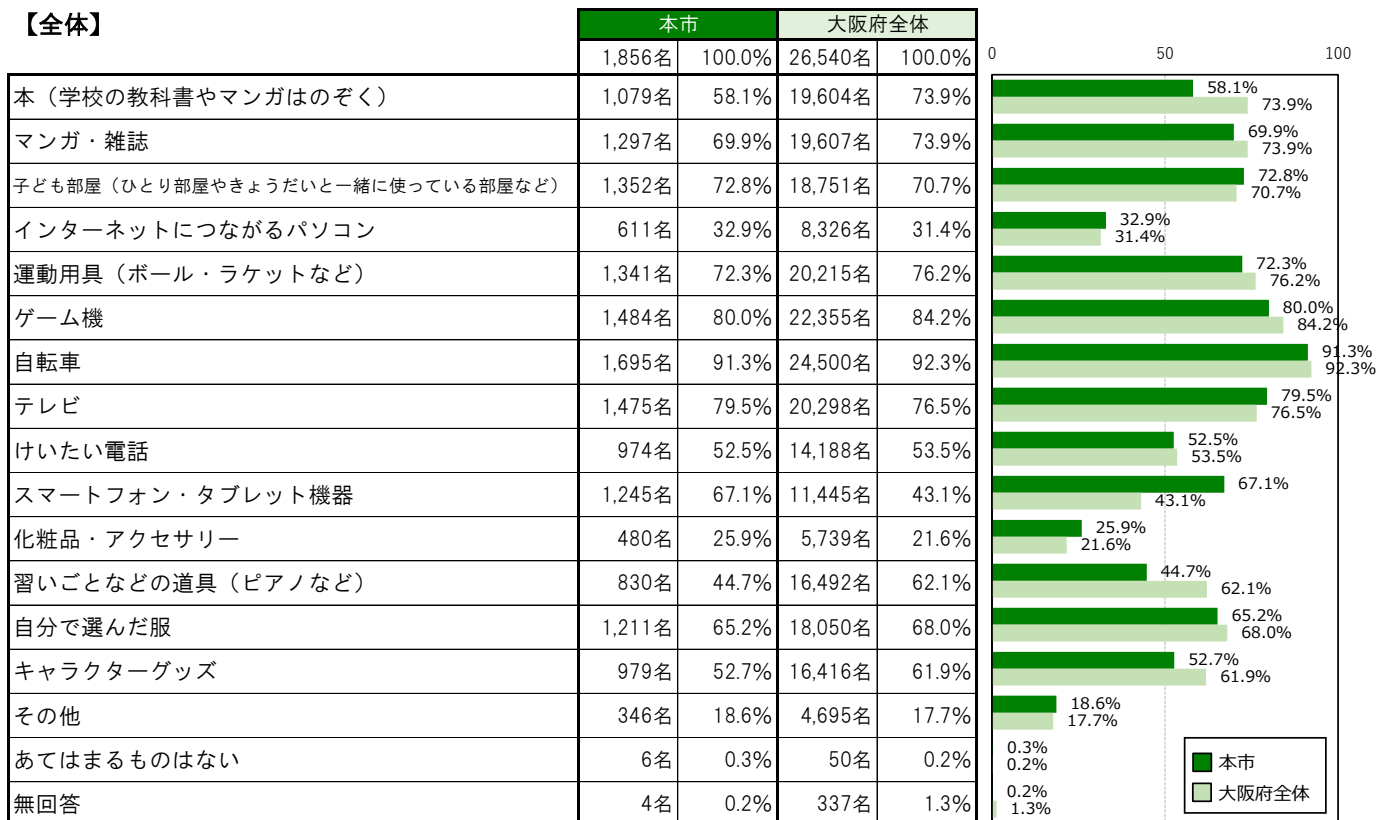
●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、全体は、「スマートフォン・タブレット機器」と「キャラクターグッズ」は10.8ポイント高いが、「マンガ・雑誌」は8.7ポイント低くなっている。

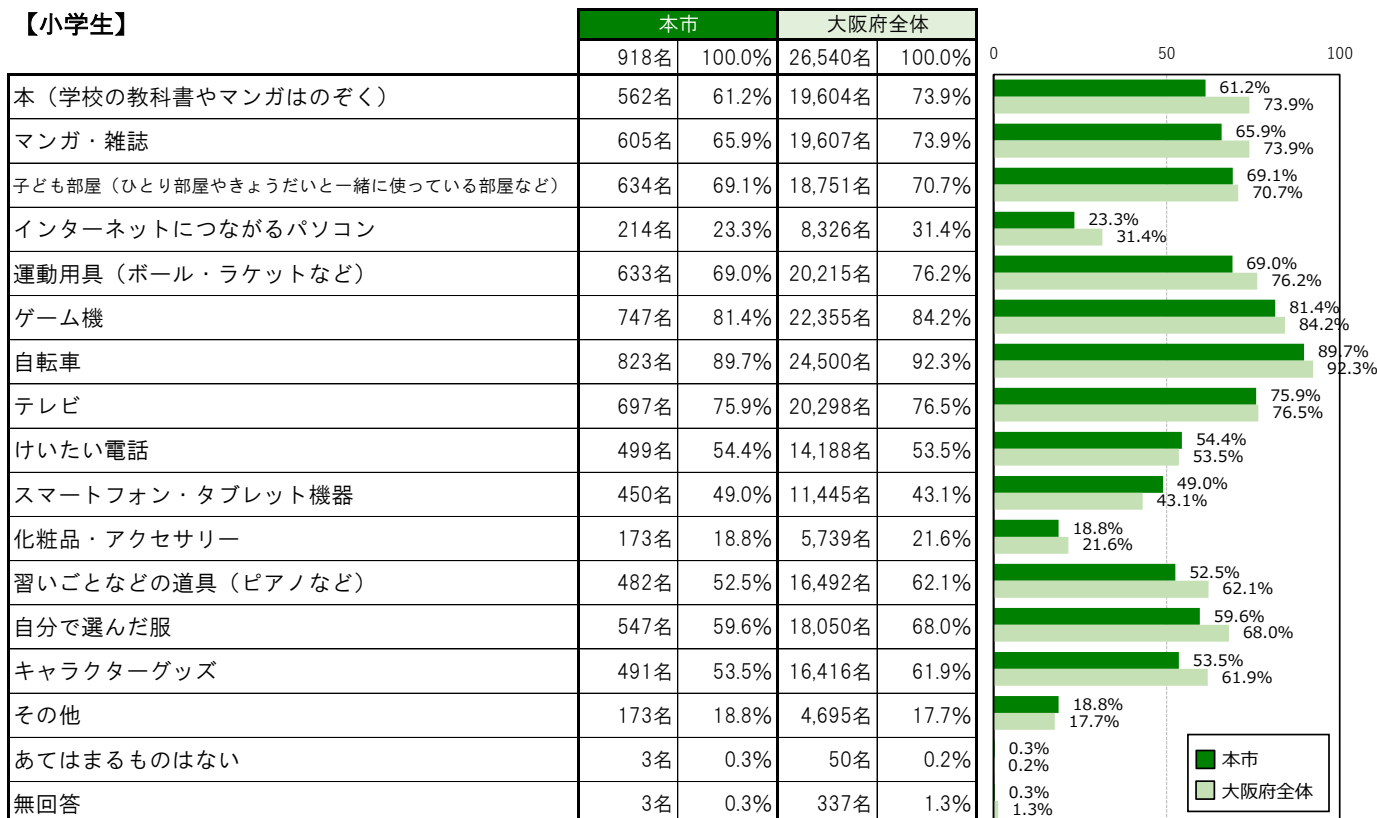
小学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は20.8ポイント高いが、「マンガ・雑誌」は10.0ポイント低くなっている。

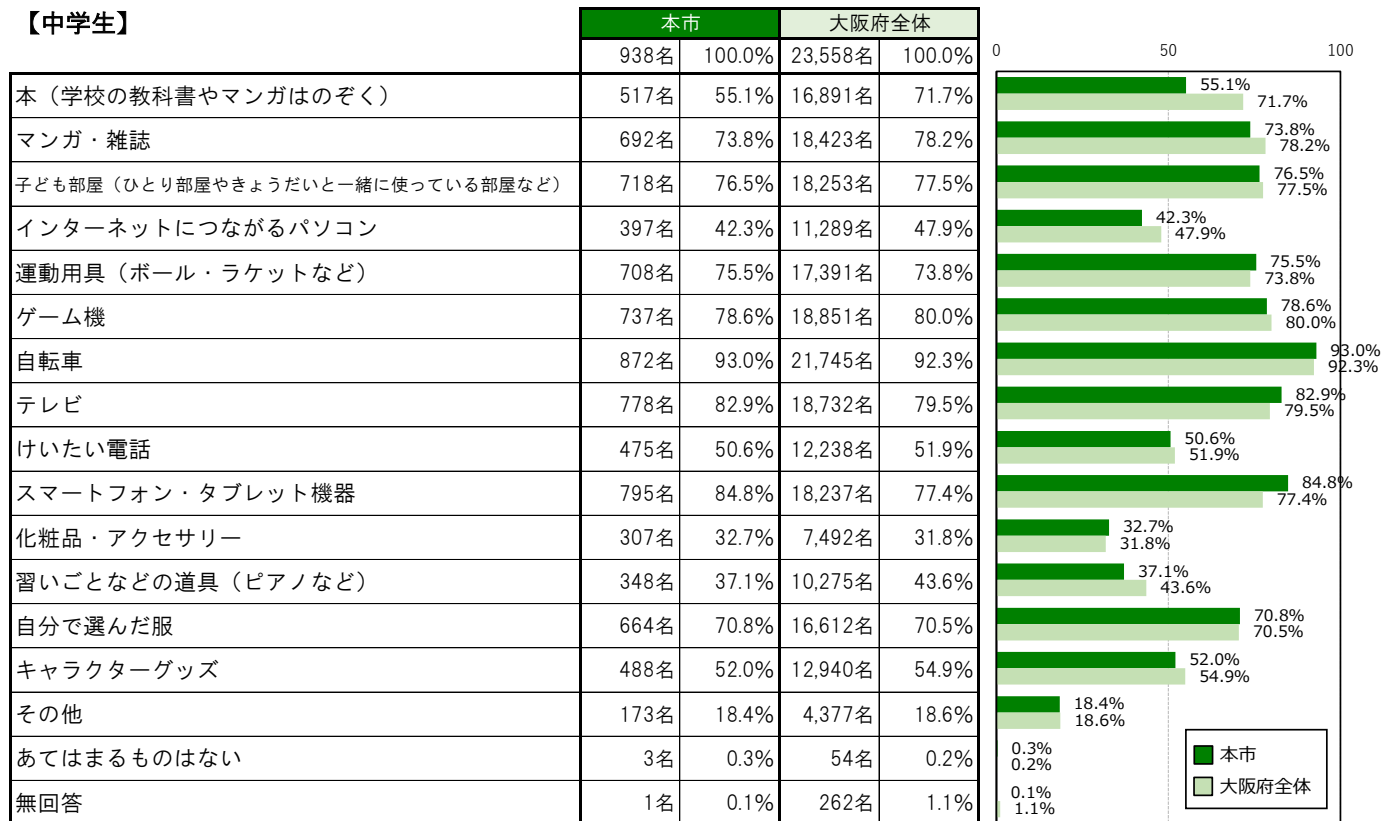
中学生は、「キャラクターグッズ」は9.6ポイント高いが、「インターネットにつながるパソコン」は11.0ポイント低くなっている。

【全体】



【小学生】





ふだん考えていることについて

問22 すぐに立ち直ることができる

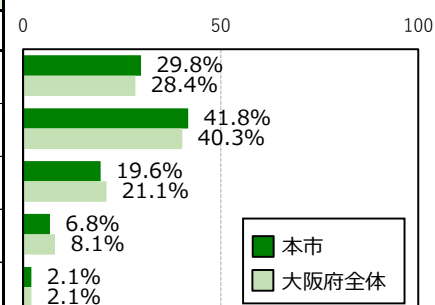
全体は、「どちらかというと思う」が41.8%で最も多く、次いで「そう思う」が29.8%、「どちらかというと思わない」が19.6%、「そう思わない」が6.8%となっている。

小学生は、「どちらかというと思う」が40.6%で最も多く、次いで「そう思う」が33.9%、「どちらかというと思わない」が16.2%、「そう思わない」が6.9%となっている。

中学生は、「どちらかというと思う」が42.7%で最も多く、次いで「そう思う」が25.3%、「どちらかというと思わない」が23.7%、「そう思わない」が6.6%となっている。

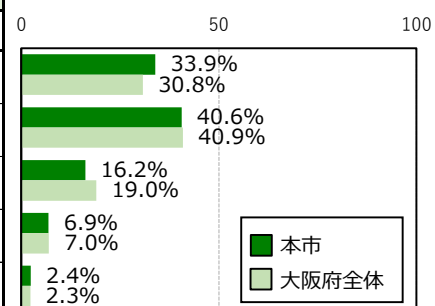
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
そう思う	259名	29.8%	12,318名	28.4%
どちらかというと思う	363名	41.8%	17,480名	40.3%
どちらかというと思わない	170名	19.6%	9,144名	21.1%
そう思わない	59名	6.8%	3,521名	8.1%
無回答	18名	2.1%	907名	2.1%



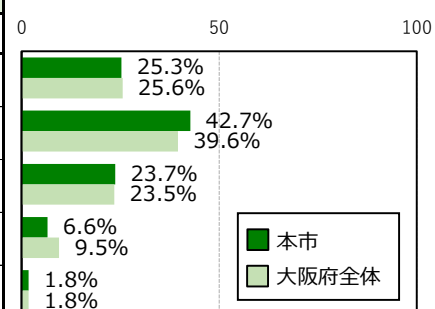
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
そう思う	157名	33.9%	7,172名	30.8%
どちらかというと思う	188名	40.6%	9,521名	40.9%
どちらかというと思わない	75名	16.2%	4,431名	19.0%
そう思わない	32名	6.9%	1,625名	7.0%
無回答	11名	2.4%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
そう思う	100名	25.3%	5,119名	25.6%
どちらかというと思う	169名	42.7%	7,917名	39.6%
どちらかというと思わない	94名	23.7%	4,703名	23.5%
そう思わない	26名	6.6%	1,891名	9.5%
無回答	7名	1.8%	360名	1.8%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（１）自分に自信がある

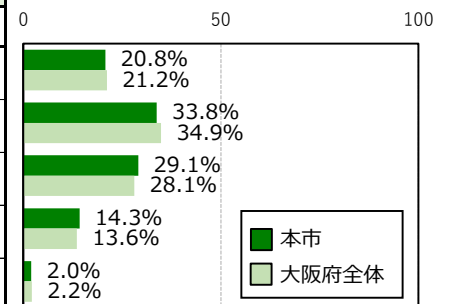
全体は、「どちらかというところがある」が33.8%で最も多く、次いで「どちらかというところはない」が29.1%、「ある」が20.8%、「ない」が14.3%となっている。

小学生は、「どちらかというところがある」が36.9%で最も多く、次いで「ある」が26.8%、「どちらかというところはない」が23.8%、「ない」が10.2%となっている。

中学生は、「どちらかというところはない」が35.1%で最も多く、次いで「どちらかというところがある」が30.3%、「ない」が18.9%、「ある」が14.1%となっている。

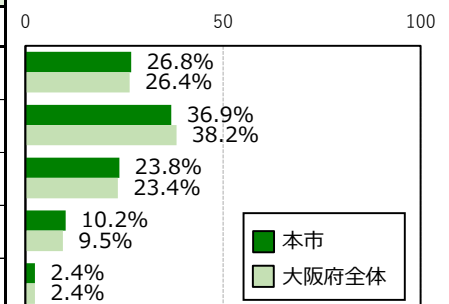
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	181名	20.8%	9,192名	21.2%
どちらかというところがある	294名	33.8%	15,132名	34.9%
どちらかというところはない	253名	29.1%	12,192名	28.1%
ない	124名	14.3%	5,898名	13.6%
無回答	17名	2.0%	956名	2.2%



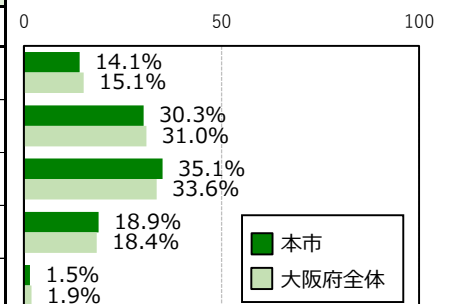
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	124名	26.8%	6,157名	26.4%
どちらかというところがある	171名	36.9%	8,904名	38.2%
どちらかというところはない	110名	23.8%	5,450名	23.4%
ない	47名	10.2%	2,211名	9.5%
無回答	11名	2.4%	567名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	56名	14.1%	3,011名	15.1%
どちらかというところがある	120名	30.3%	6,202名	31.0%
どちらかというところはない	139名	35.1%	6,716名	33.6%
ない	75名	18.9%	3,679名	18.4%
無回答	6名	1.5%	382名	1.9%



ふだん考えていることについて

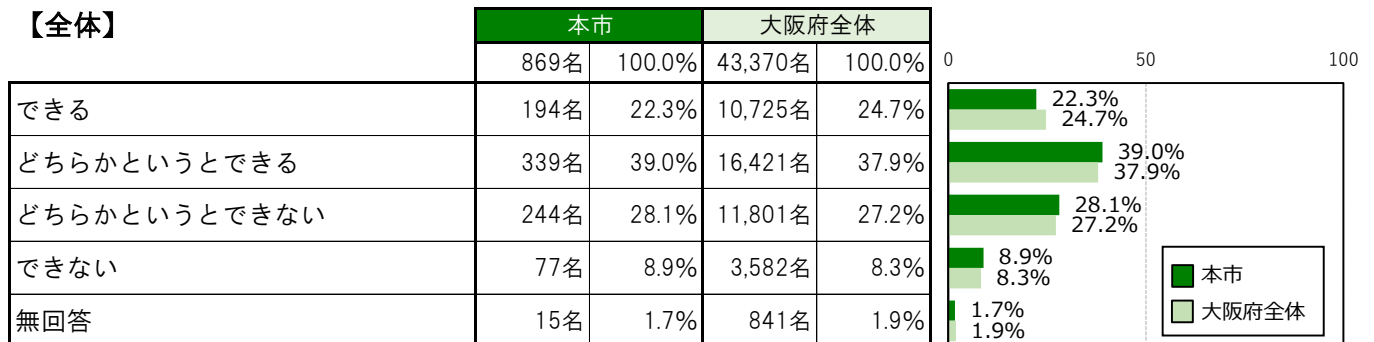
問23 ふだん考えていること（2）自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

全体は、「どちらかというとできる」が39.0%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が28.1%、「できる」が22.3%、「できない」が8.9%となっている。

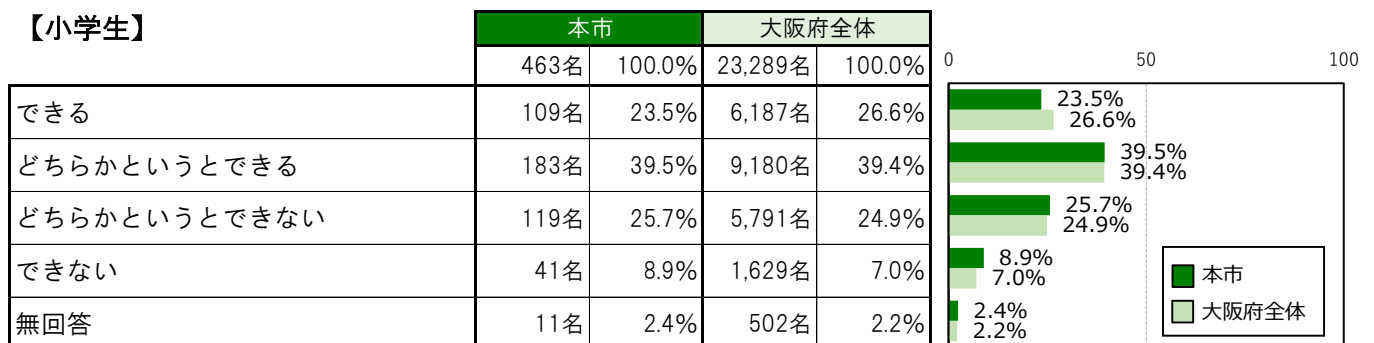
小学生は、「どちらかというとできる」が39.5%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が25.7%、「できる」が23.5%、「できない」が8.9%となっている。

中学生は、「どちらかというとできる」が38.6%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が30.3%、「できる」が21.0%、「できない」が9.1%となっている。

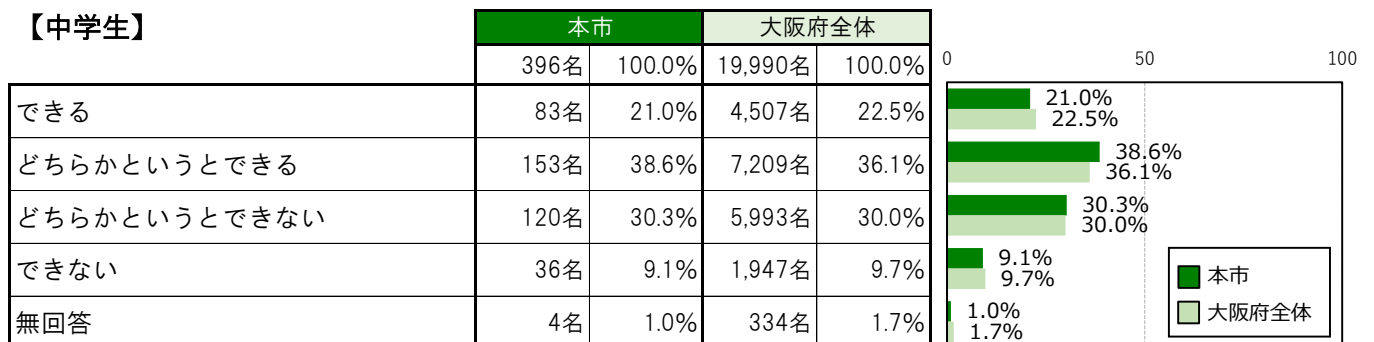
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（3）自分の将来の夢や目標を持っている

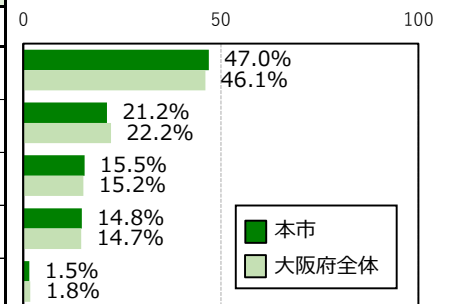
全体は、「持っている」が47.0%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が21.2%、「どちらかというを持っていない」が15.5%、「持っていない」が14.8%となっている。

小学生は、「持っている」が61.8%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が16.2%、「どちらかというを持っていない」が12.5%、「持っていない」が7.3%となっている。

中学生は、「持っている」が29.8%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が27.0%、「持っていない」が23.5%、「どちらかというを持っていない」が18.9%となっている。

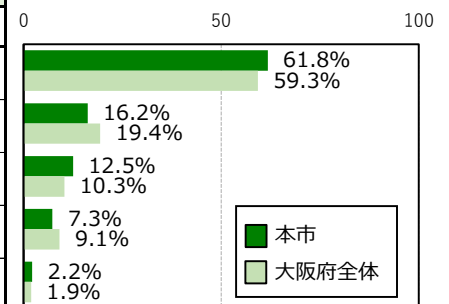
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持っている	408名	47.0%	19,990名	46.1%
どちらかというを持っている	184名	21.2%	9,645名	22.2%
どちらかというを持っていない	135名	15.5%	6,609名	15.2%
持っていない	129名	14.8%	6,354名	14.7%
無回答	13名	1.5%	772名	1.8%



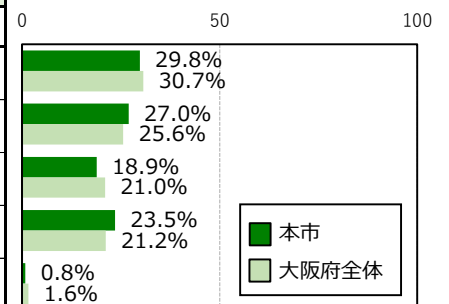
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持っている	286名	61.8%	13,811名	59.3%
どちらかというを持っている	75名	16.2%	4,518名	19.4%
どちらかというを持っていない	58名	12.5%	2,398名	10.3%
持っていない	34名	7.3%	2,108名	9.1%
無回答	10名	2.2%	454名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持っている	118名	29.8%	6,139名	30.7%
どちらかというを持っている	107名	27.0%	5,108名	25.6%
どちらかというを持っていない	75名	18.9%	4,195名	21.0%
持っていない	93名	23.5%	4,235名	21.2%
無回答	3名	0.8%	313名	1.6%



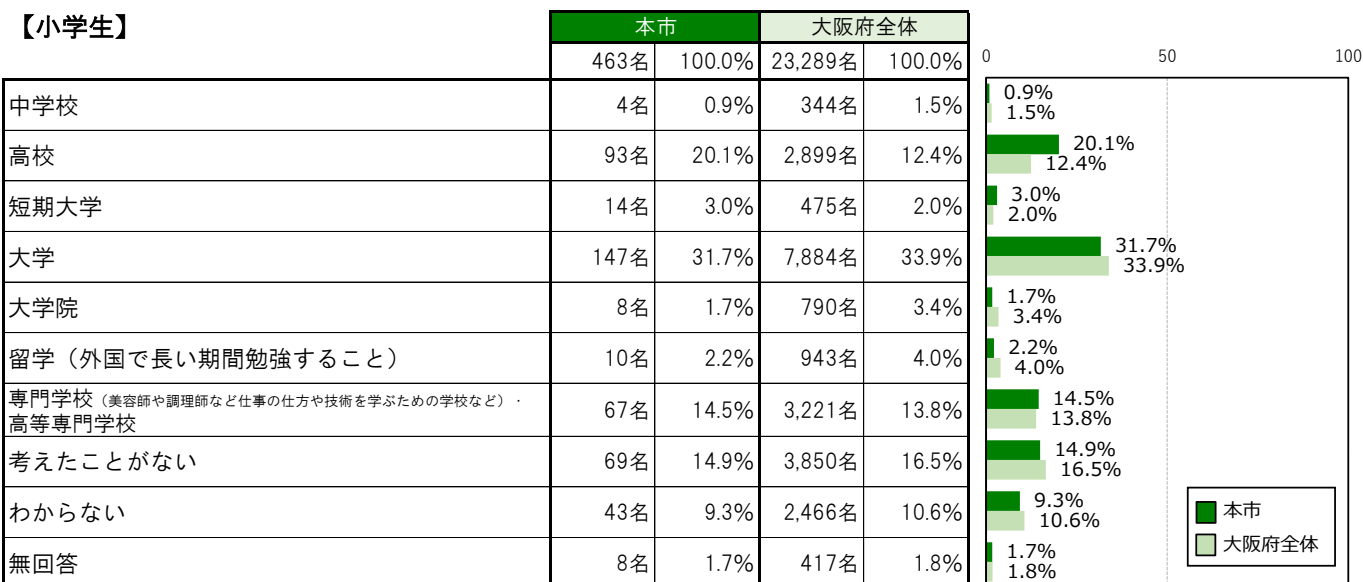
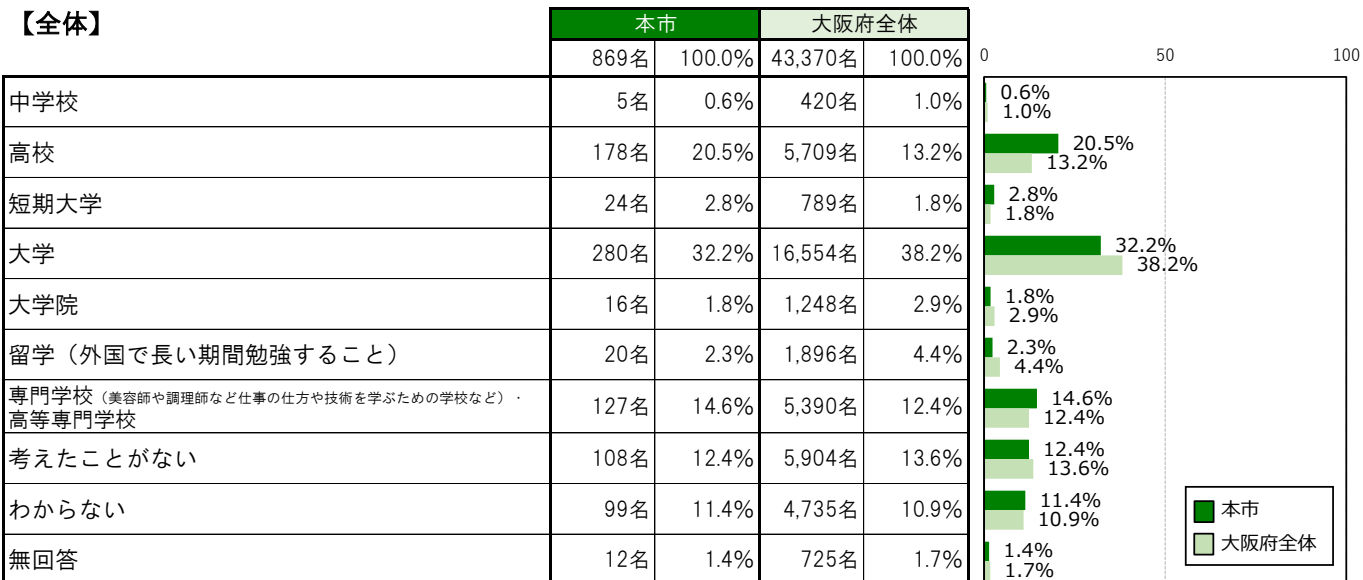
ふだん考えていることについて

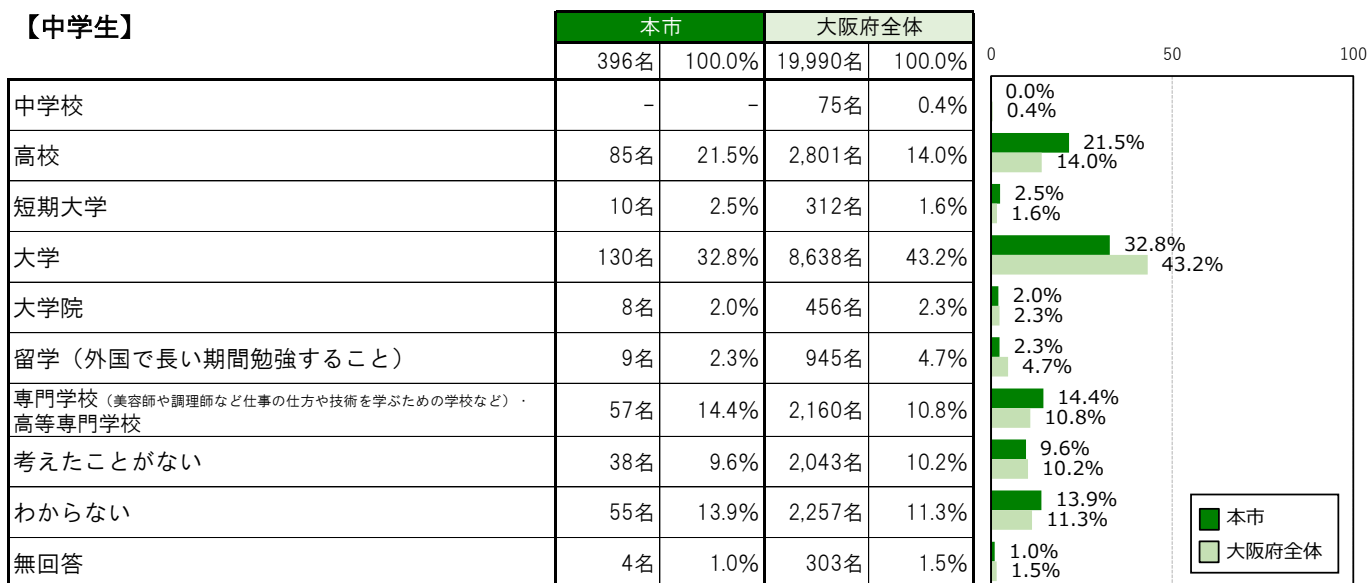
問24 希望する進学先

全体は、「大学」が32.2%で最も多く、次いで「高校」が20.5%、「専門学校・高等専門学校」が14.6%、「考えたことがない」が12.4%となっている。

小学生は、「大学」が31.7%で最も多く、次いで「高校」が20.1%、「考えたことがない」が14.9%、「専門学校・高等専門学校」が14.5%となっている。

中学生は、「大学」が32.8%で最も多く、次いで「高校」が21.5%、「専門学校・高等専門学校」が14.4%、「考えたことがない」が9.6%となっている。





あなたのことについて

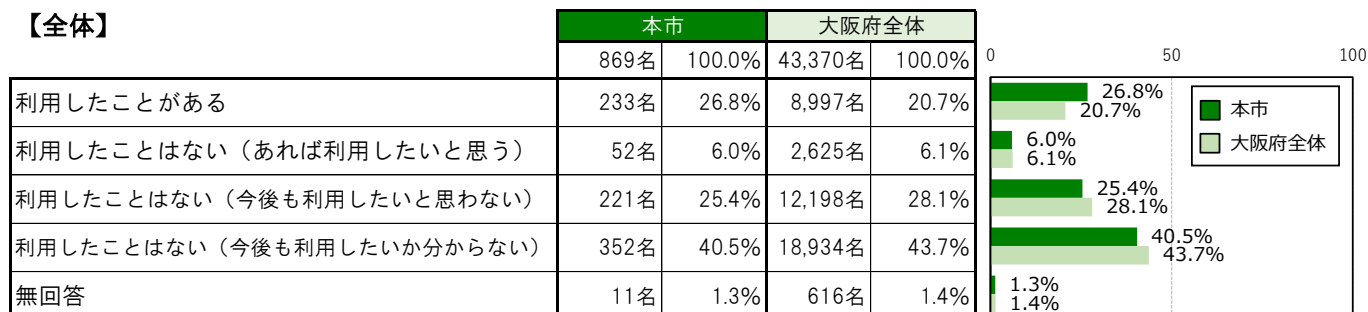
問25（１）子どもの居場所の利用状況 ①平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が40.5%で最も多く、次いで「利用したことがある」が26.8%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が25.4%となっている。

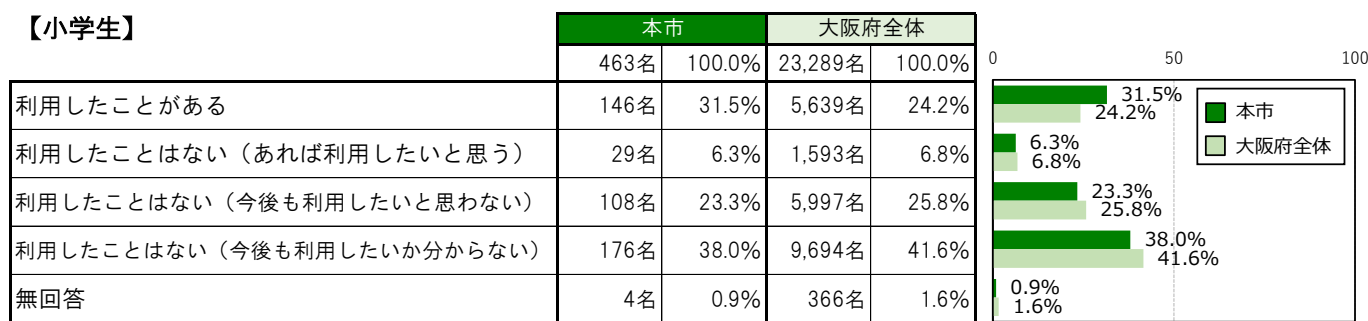
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が38.0%で最も多く、次いで「利用したことがある」が31.5%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が23.3%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が43.7%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.5%、「利用したことがある」が20.2%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

②昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が47.6%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が21.7%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が17.4%となっている。

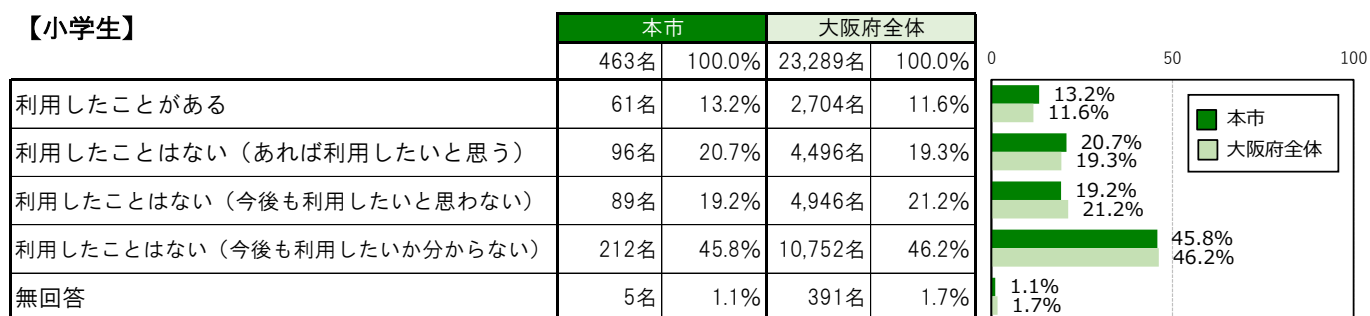
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が45.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が20.7%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が19.2%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が50.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が24.5%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

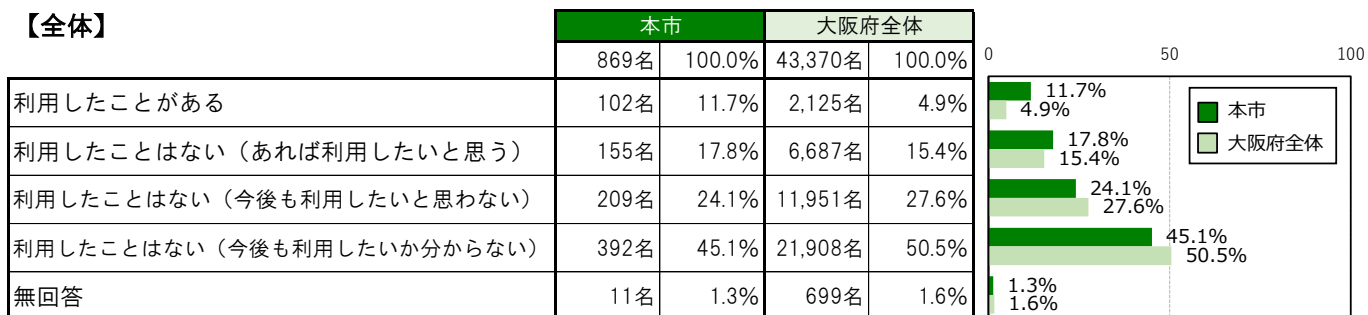
③勉強を無料か安い料金をみてくれる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が45.1%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が24.1%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が17.8%、「利用したことがある」が11.7%となっている。

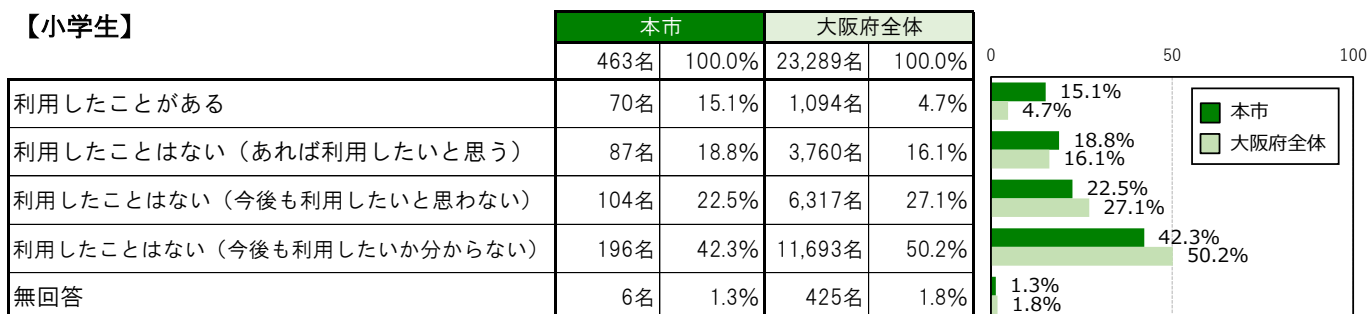
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が42.3%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が22.5%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が18.8%、「利用したことがある」が15.1%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.2%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が26.5%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が16.7%、「利用したことがある」が7.3%となっている。

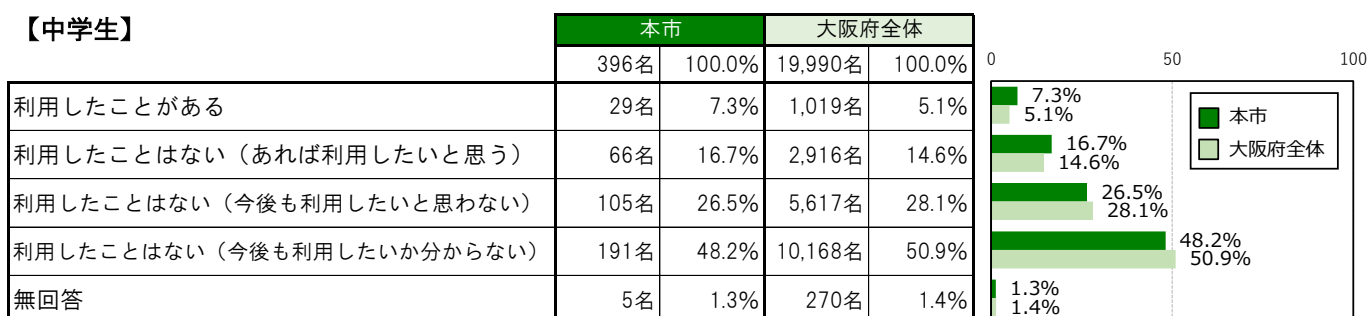
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

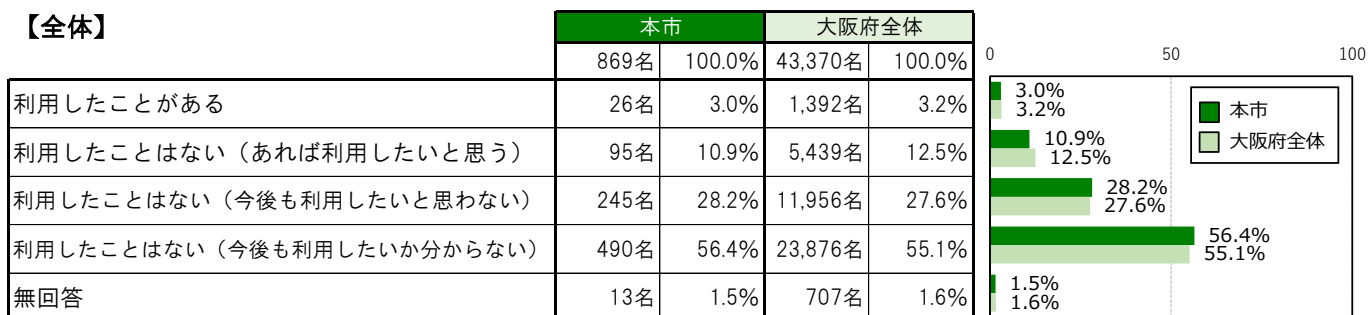
問25（１）子どもの居場所の利用状況 ④何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が56.4%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.2%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が10.9%、「利用したことがある」が3.0%となっている。

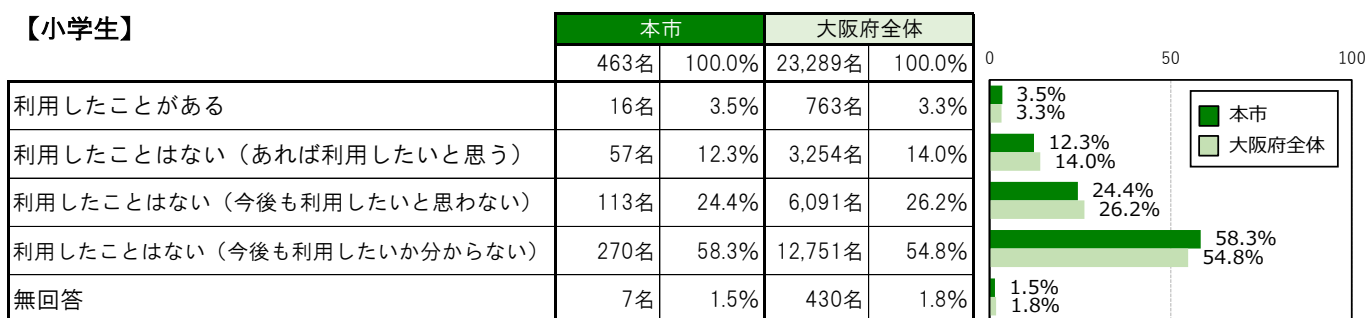
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が58.3%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が24.4%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が12.3%、「利用したことがある」が3.5%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が54.5%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が32.1%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が9.6%、「利用したことがある」が2.3%となっている。

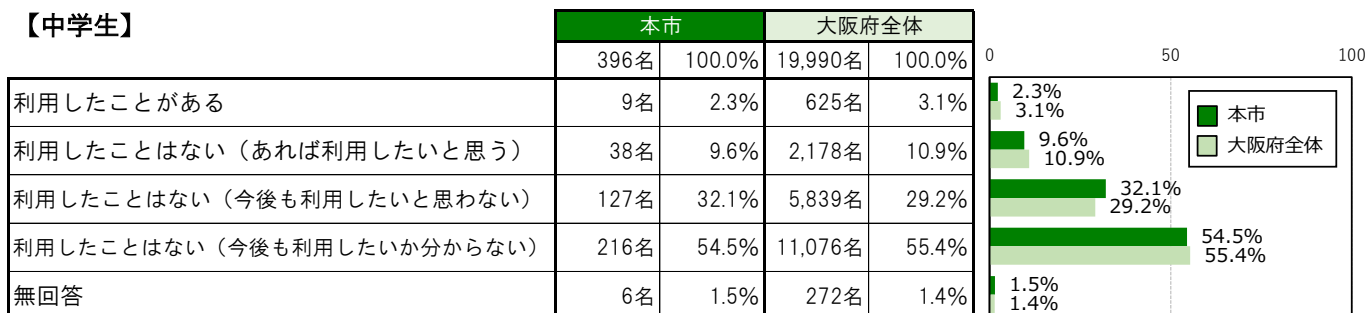
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

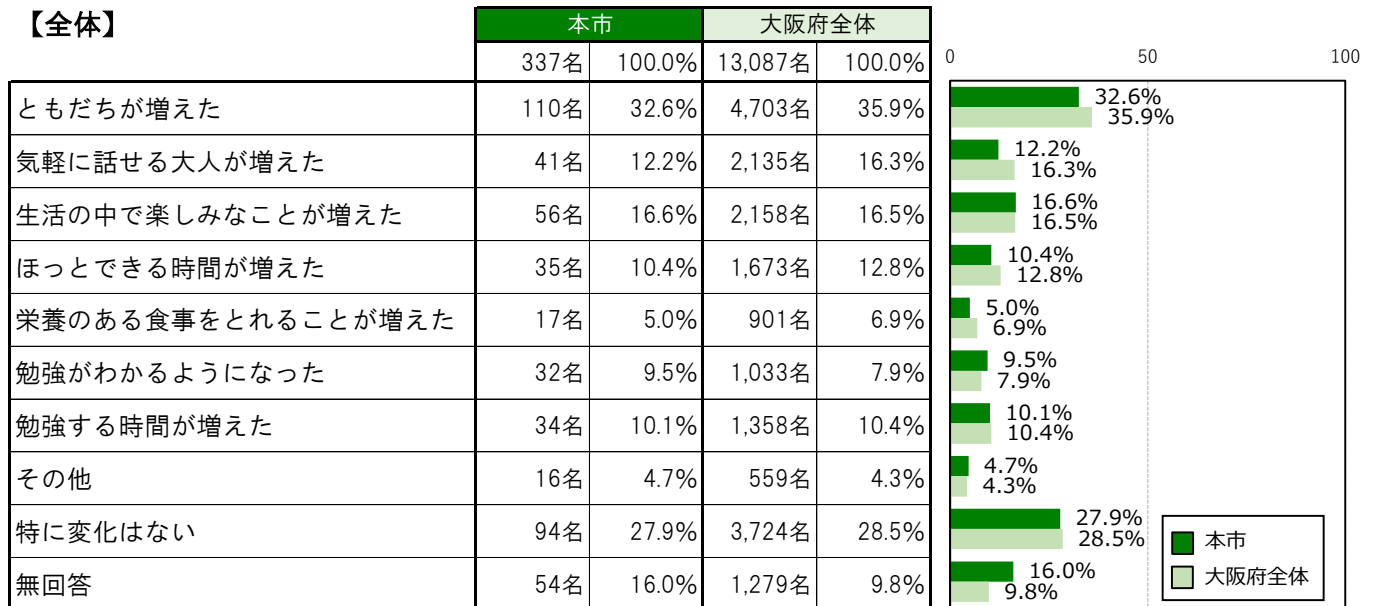
問25（２）子どもの居場所を利用したときの変化

全体は、「ともだちが増えた」が32.6%で最も多く、次いで「生活の中で楽しみなことが増えた」が16.6%、「気軽に話せる大人が増えた」が12.2%、「ほっとできる時間が増えた」が10.4%となっている。

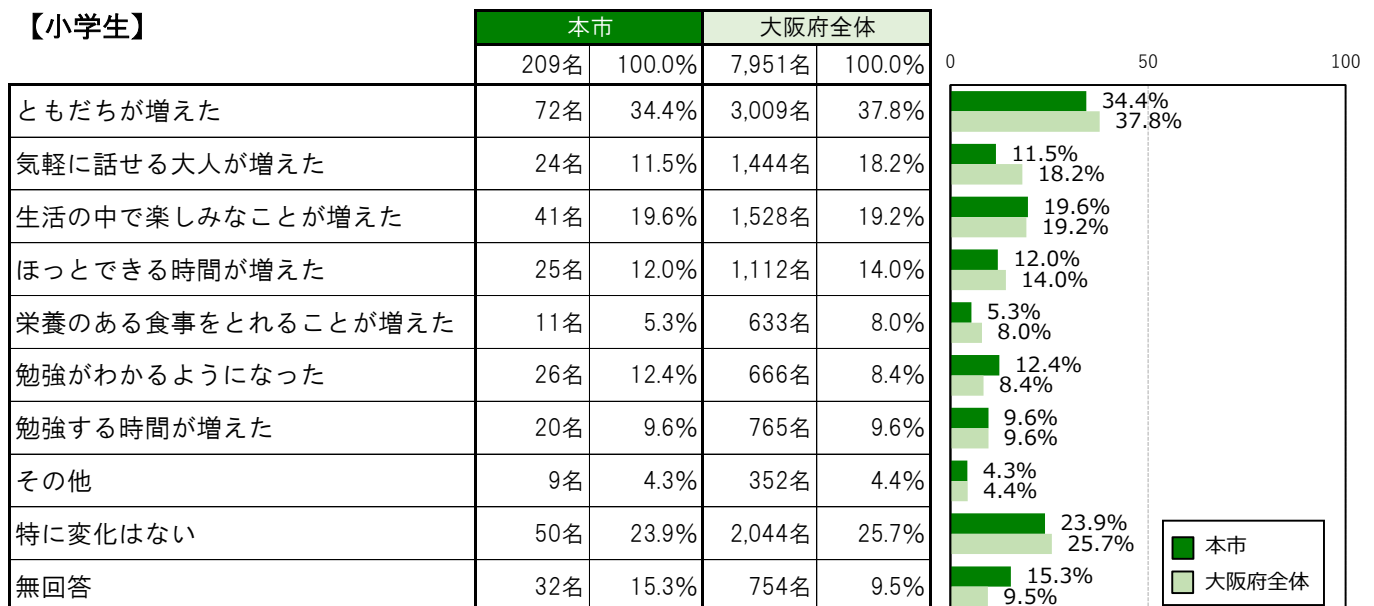
小学生は、「ともだちが増えた」が34.4%で最も多く、次いで「生活の中で楽しみなことが増えた」が19.6%、「勉強がわかるようになった」が12.4%、「ほっとできる時間が増えた」が12.0%となっている。

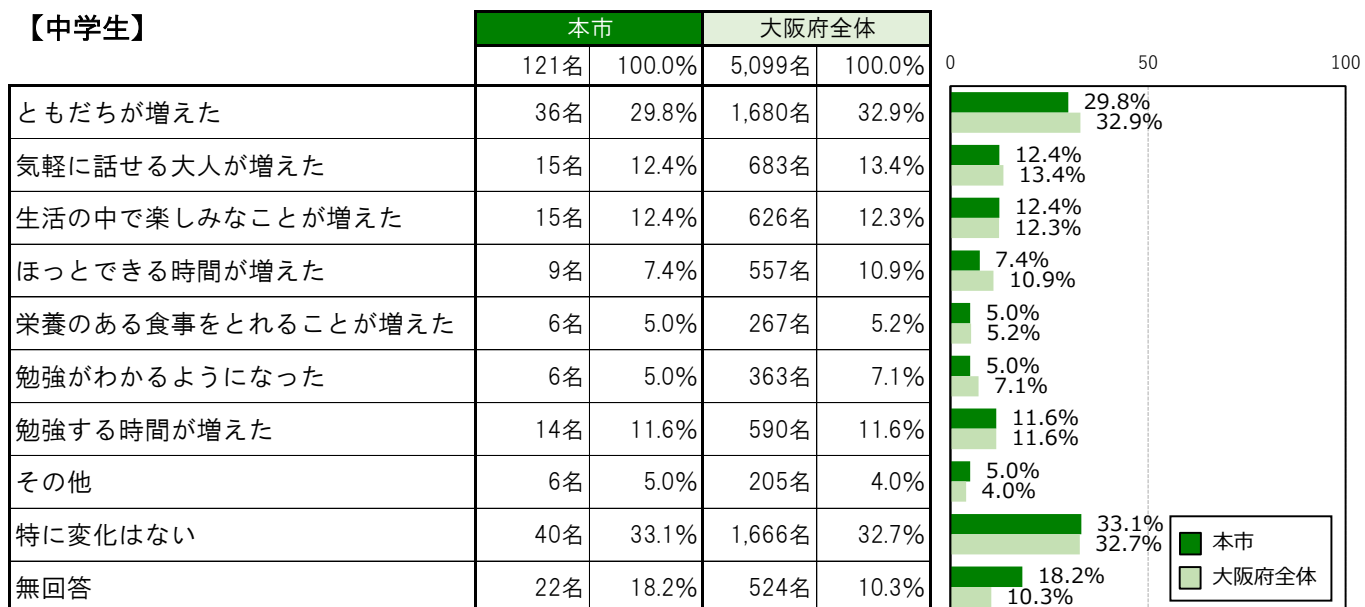
中学生は、「ともだちが増えた」が29.8%で最も多く、次いで「気軽に話せる大人が増えた」、「生活の中で楽しみなことが増えた」がそれぞれ12.4%、「勉強する時間が増えた」が11.6%、「ほっとできる時間が増えた」が7.4%となっている。

【全体】



【小学生】





あなたのことについて

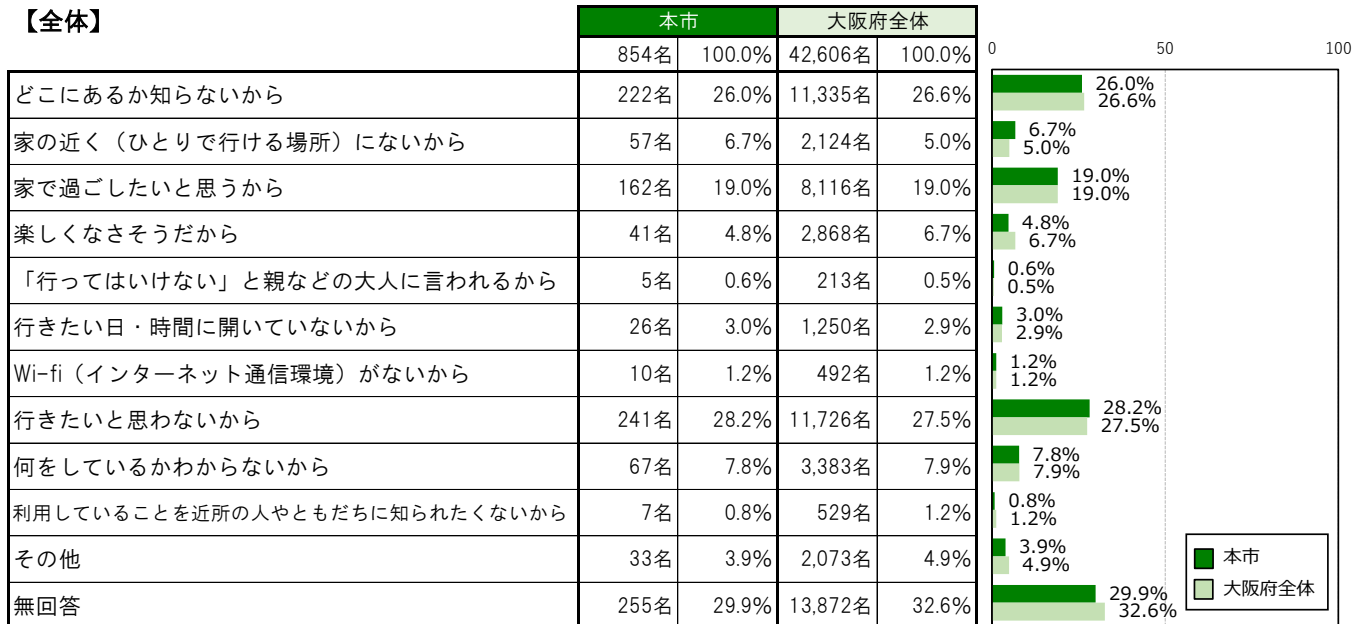
問25（3）子どもの居場所を利用したことがない理由

全体は、「行きたいと思わないから」が28.2%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が26.0%、「家で過ごしたいと思うから」が19.0%、「何をしているかわからないから」が7.8%となっている。

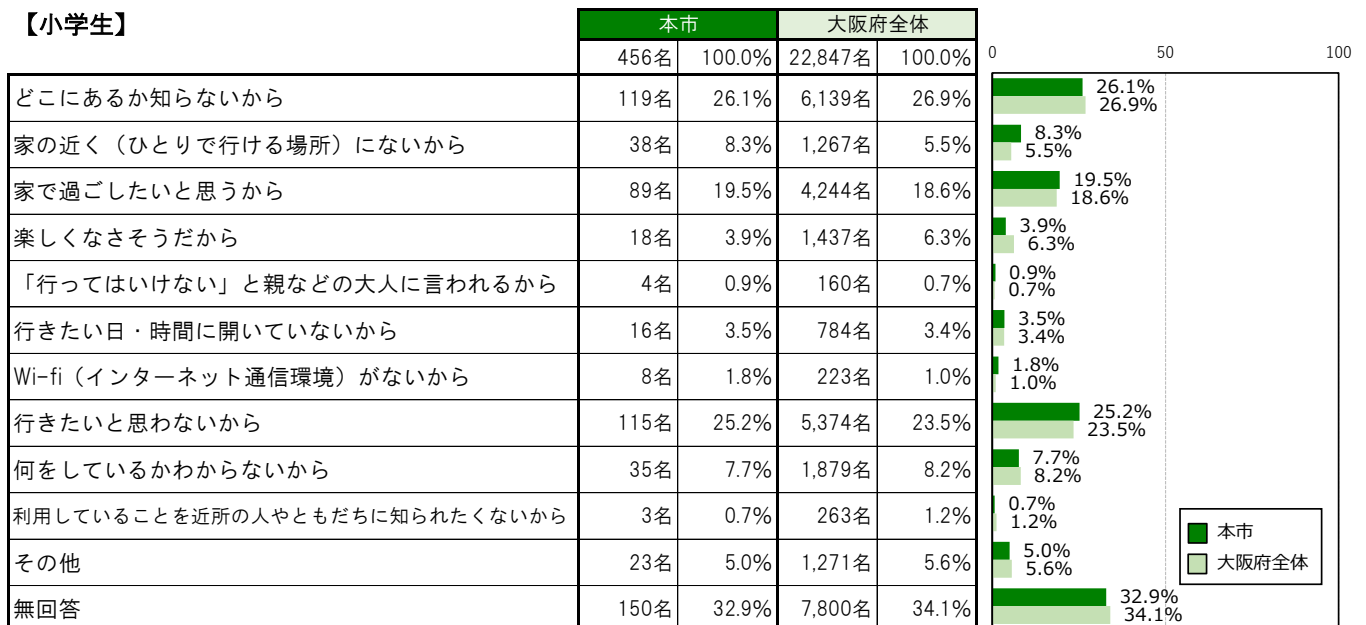
小学生は、「どこにあるか知らないから」が26.1%で最も多く、次いで「行きたいと思わないから」が25.2%、「家で過ごしたいと思うから」が19.5%、「家の近く（ひとりでできる場所）にないから」が8.3%となっている。

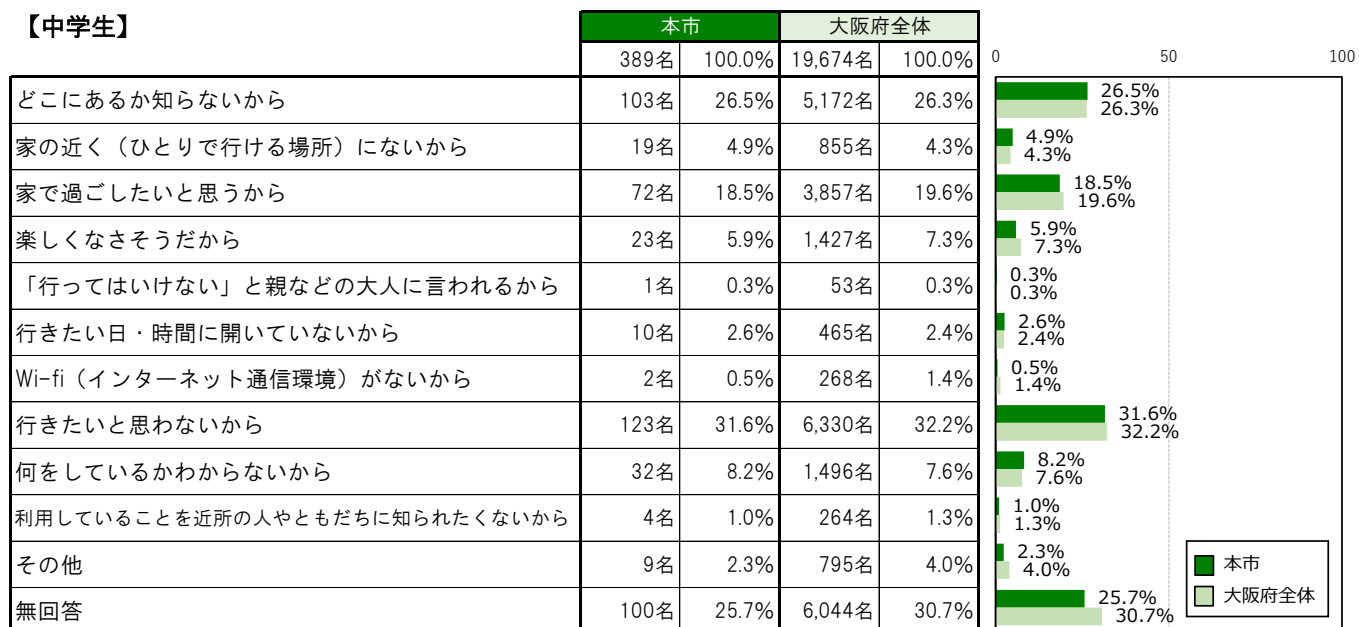
中学生は、「行きたいと思わないから」が31.6%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が26.5%、「家で過ごしたいと思うから」が18.5%、「何をしているかわからないから」が8.2%となっている。

【全体】



【小学生】





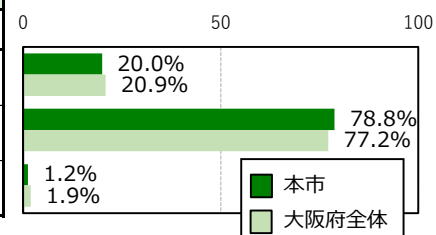
あなたのことについて

問26（１）自分が世話をしている人の有無

全体は、「いる」が20.0%、「いない」が78.8%となっている。
 小学生は、「いる」が24.2%、「いない」が74.7%となっている。
 中学生は、「いる」が14.6%、「いない」が84.1%となっている。

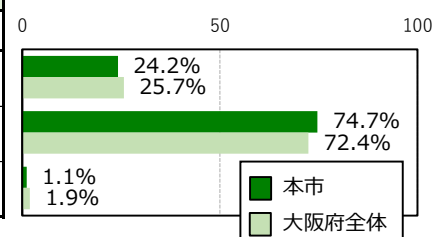
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	869名	100.0%	43,370名	100.0%
いる	174名	20.0%	9,054名	20.9%
いない	685名	78.8%	33,476名	77.2%
無回答	10名	1.2%	840名	1.9%



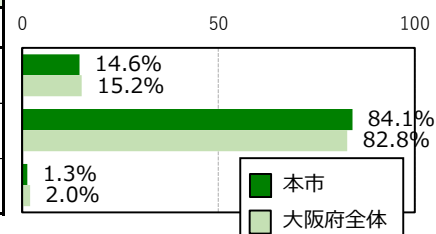
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	463名	100.0%	23,289名	100.0%
いる	112名	24.2%	5,988名	25.7%
いない	346名	74.7%	16,856名	72.4%
無回答	5名	1.1%	445名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	396名	100.0%	19,990名	100.0%
いる	58名	14.6%	3,045名	15.2%
いない	333名	84.1%	16,553名	82.8%
無回答	5名	1.3%	392名	2.0%



あなたのことについて

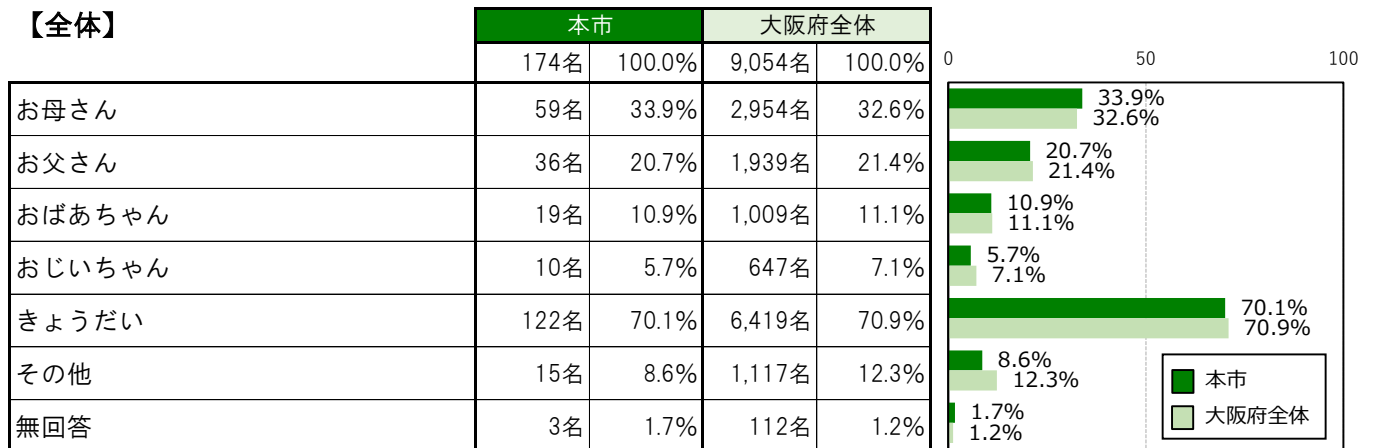
問26（2）世話をしている相手

全体は、「きょうだい」が70.1%で最も多く、次いで「お母さん」が33.9%、「お父さん」が20.7%、「おばあちゃん」が10.9%となっている。

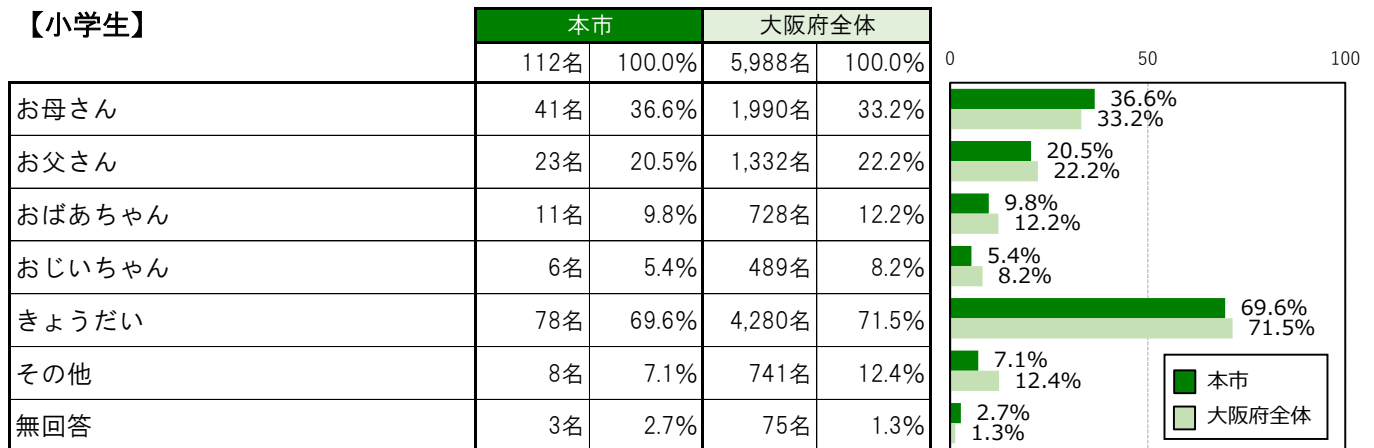
小学生は、「きょうだい」が69.6%で最も多く、次いで「お母さん」が36.6%、「お父さん」が20.5%、「おばあちゃん」が9.8%となっている。

中学生は、「きょうだい」が70.7%で最も多く、次いで「お母さん」が27.6%、「お父さん」が20.7%、「おばあちゃん」が13.8%となっている。

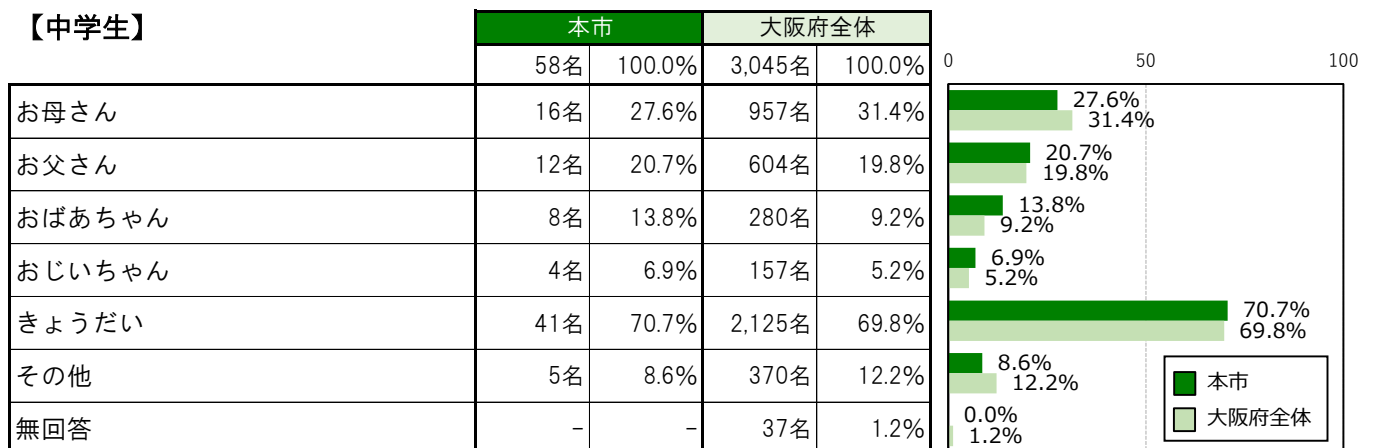
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

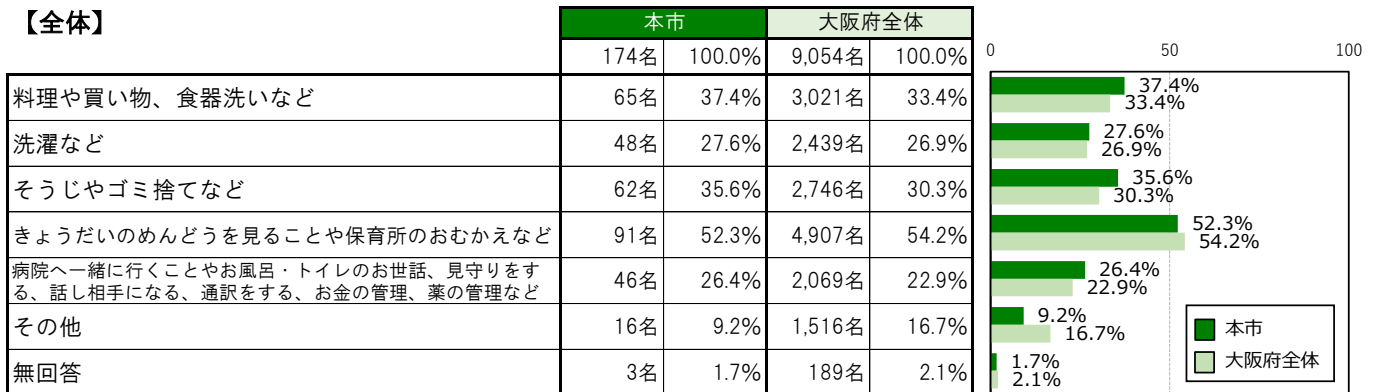
問26（3）世話をやっている内容

全体は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が52.3%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が37.4%、「そうじやゴミ捨てなど」が35.6%、「洗濯など」が27.6%となっている。

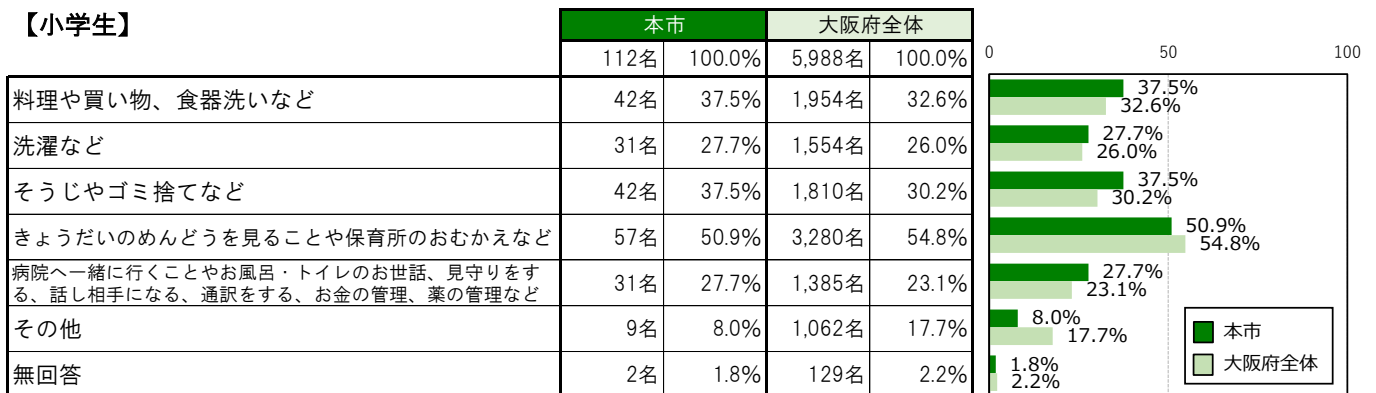
小学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が50.9%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」、「そうじやゴミ捨てなど」がそれぞれ37.5%、「洗濯など」、「病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など」がそれぞれ27.7%となっている。

中学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が55.2%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が37.9%、「そうじやゴミ捨てなど」が31.0%、「洗濯など」が27.6%となっている。

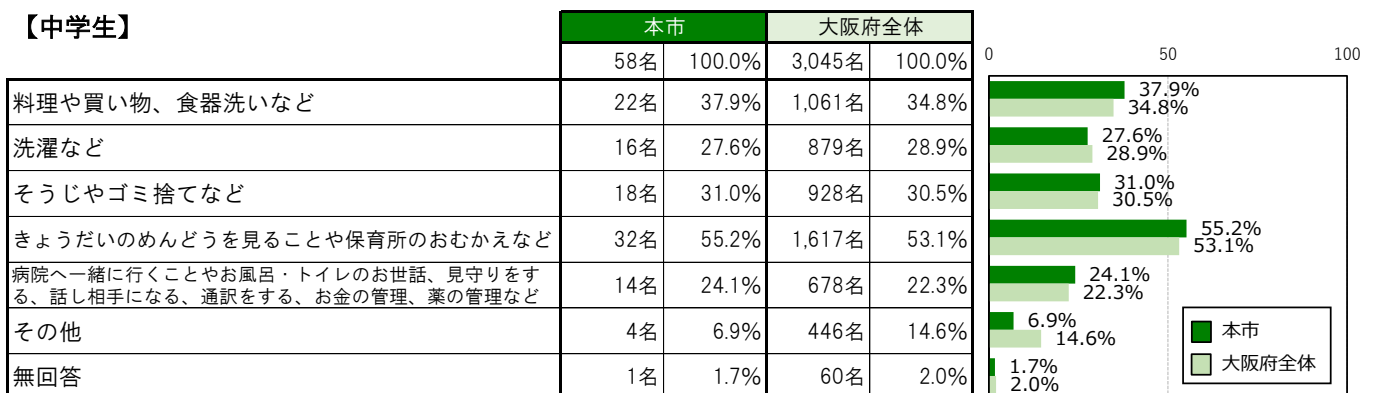
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問26（５）世話をする頻度

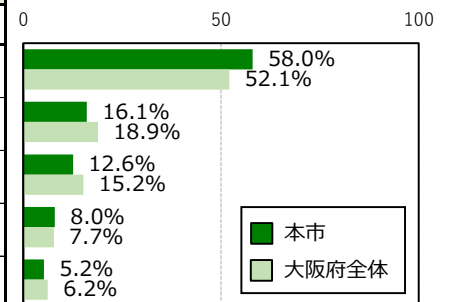
全体は、「ほぼ毎日」が58.0%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が16.1%、「週に1日または2日」が12.6%、「1か月に数日」が8.0%となっている。

小学生は、「ほぼ毎日」が55.4%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が18.8%、「週に1日または2日」が12.5%、「1か月に数日」が8.0%となっている。

中学生は、「ほぼ毎日」が60.3%で最も多く、次いで「週に1日または2日」が13.8%、「週に3日～5日」が12.1%、「1か月に数日」が8.6%となっている。

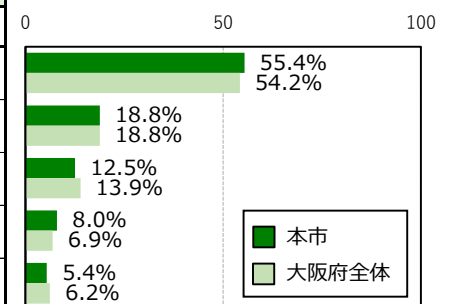
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	101名	58.0%	4,716名	52.1%
週に3日～5日	28名	16.1%	1,708名	18.9%
週に1日または2日	22名	12.6%	1,375名	15.2%
1か月に数日	14名	8.0%	694名	7.7%
無回答	9名	5.2%	561名	6.2%



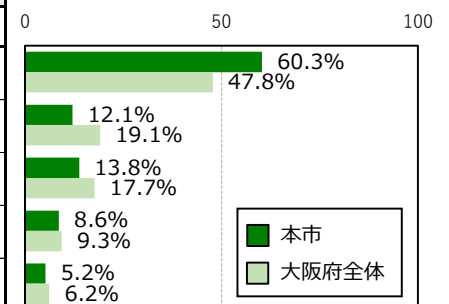
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	62名	55.4%	3,246名	54.2%
週に3日～5日	21名	18.8%	1,125名	18.8%
週に1日または2日	14名	12.5%	832名	13.9%
1か月に数日	9名	8.0%	412名	6.9%
無回答	6名	5.4%	373名	6.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	35名	60.3%	1,455名	47.8%
週に3日～5日	7名	12.1%	582名	19.1%
週に1日または2日	8名	13.8%	538名	17.7%
1か月に数日	5名	8.6%	282名	9.3%
無回答	3名	5.2%	188名	6.2%



あなたのことについて

問26（6）学校がある日に世話をする1日の時間

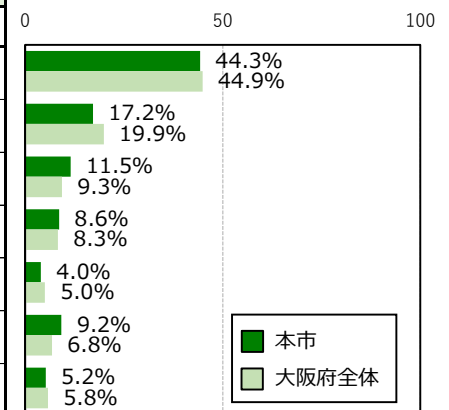
全体は、「1時間より少ない」が44.3%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が17.2%、「2時間以上、3時間より少ない」が11.5%、「7時間より多い」が9.2%となっている。

小学生は、「1時間より少ない」が47.3%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が14.3%、「7時間より多い」が12.5%、「2時間以上、3時間より少ない」が8.9%となっている。

中学生は、「1時間より少ない」が39.7%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が20.7%、「2時間以上、3時間より少ない」が17.2%、「3時間以上、5時間より少ない」が12.1%となっている。

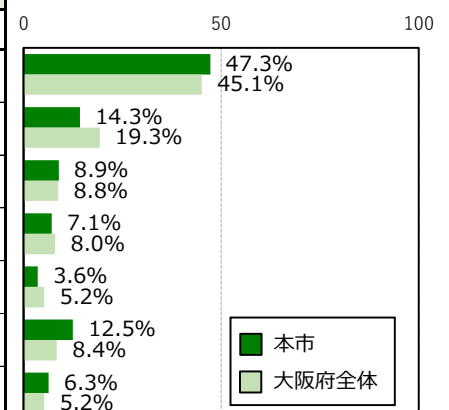
【全体】

	本市		大阪府全体	
	174名	100.0%	9,054名	100.0%
1時間より少ない	77名	44.3%	4,062名	44.9%
1時間以上、2時間より少ない	30名	17.2%	1,805名	19.9%
2時間以上、3時間より少ない	20名	11.5%	843名	9.3%
3時間以上、5時間より少ない	15名	8.6%	751名	8.3%
5時間以上、7時間より少ない	7名	4.0%	450名	5.0%
7時間より多い	16名	9.2%	617名	6.8%
無回答	9名	5.2%	526名	5.8%



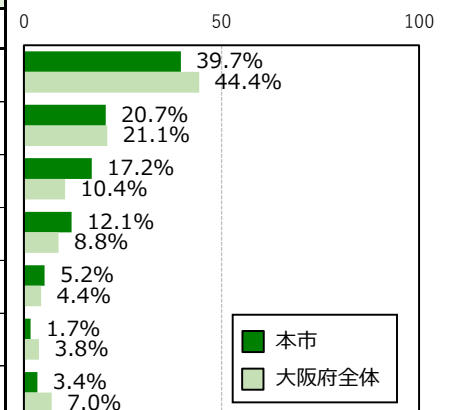
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	112名	100.0%	5,988名	100.0%
1時間より少ない	53名	47.3%	2,700名	45.1%
1時間以上、2時間より少ない	16名	14.3%	1,156名	19.3%
2時間以上、3時間より少ない	10名	8.9%	525名	8.8%
3時間以上、5時間より少ない	8名	7.1%	482名	8.0%
5時間以上、7時間より少ない	4名	3.6%	314名	5.2%
7時間より多い	14名	12.5%	500名	8.4%
無回答	7名	6.3%	311名	5.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	58名	100.0%	3,045名	100.0%
1時間より少ない	23名	39.7%	1,353名	44.4%
1時間以上、2時間より少ない	12名	20.7%	644名	21.1%
2時間以上、3時間より少ない	10名	17.2%	316名	10.4%
3時間以上、5時間より少ない	7名	12.1%	267名	8.8%
5時間以上、7時間より少ない	3名	5.2%	135名	4.4%
7時間より多い	1名	1.7%	116名	3.8%
無回答	2名	3.4%	214名	7.0%



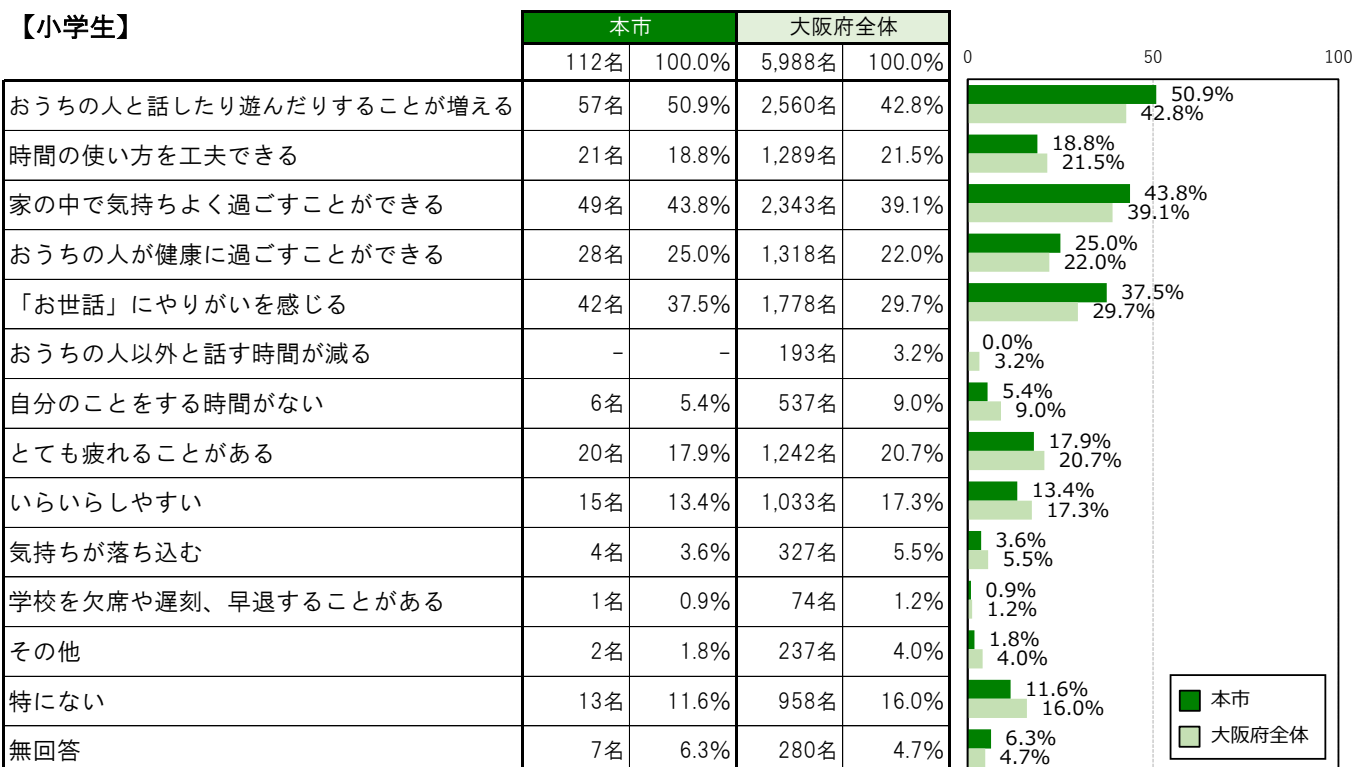
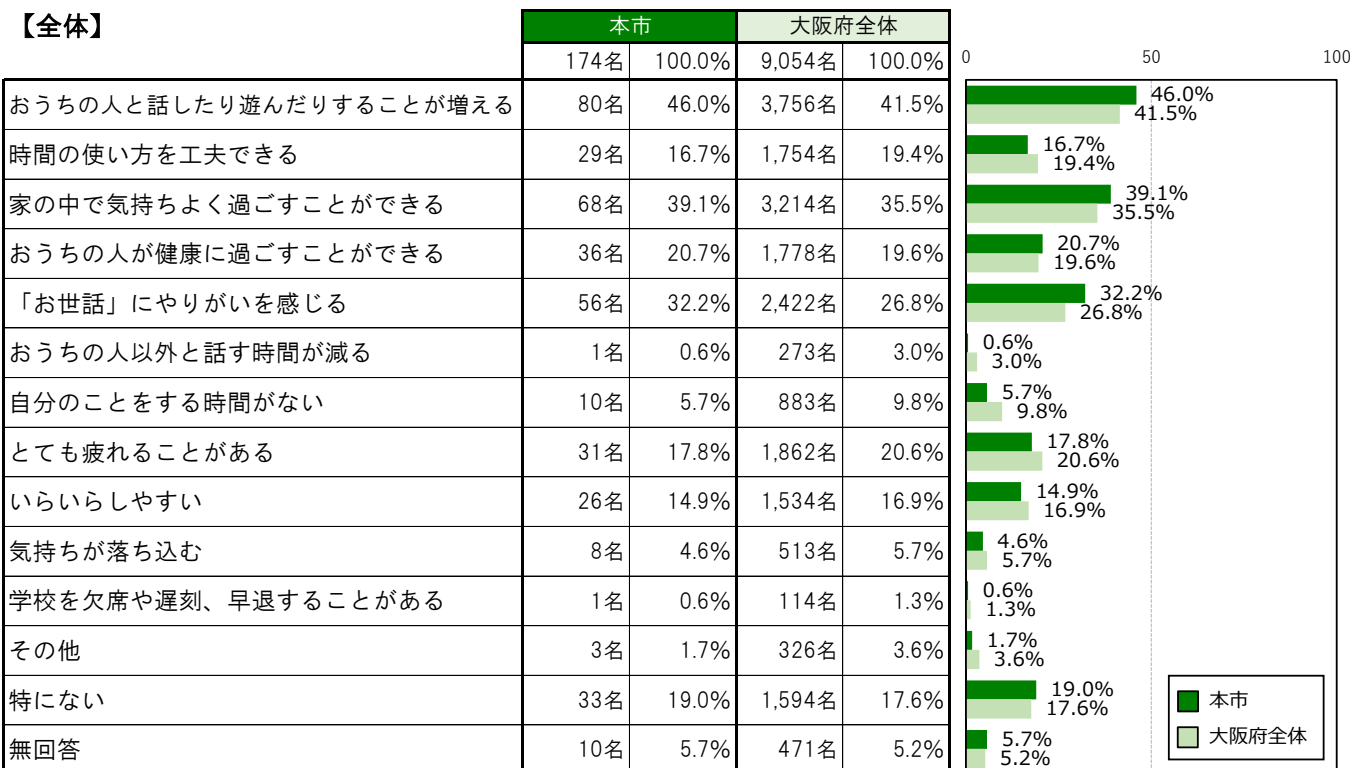
あなたのことについて

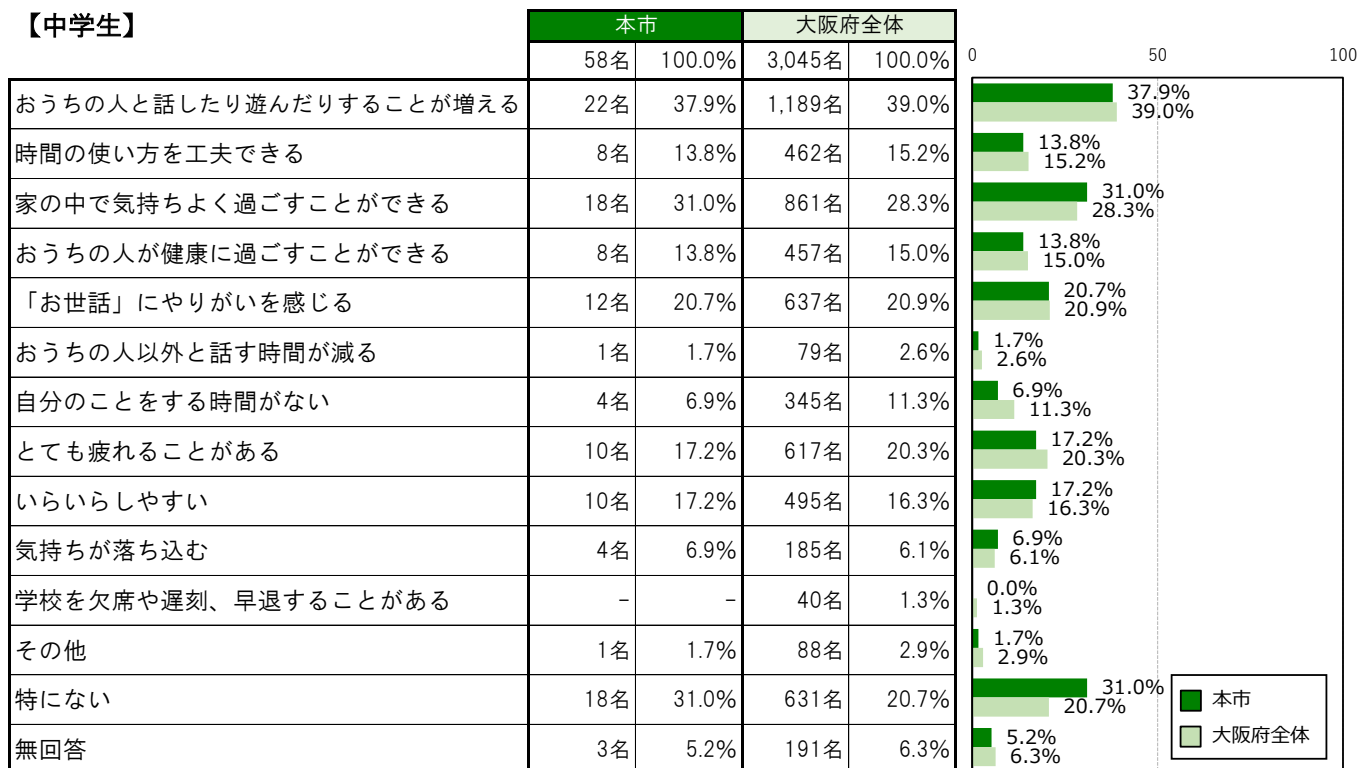
問26（7）世話をしていることの影響

全体は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が46.0%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が39.1%、「「お世話」にやりがいを感じる」が32.2%、「おうちの人健康に過ごすことができる」が20.7%となっている。

小学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が50.9%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が43.8%、「「お世話」にやりがいを感じる」が37.5%、「おうちの人健康に過ごすことができる」が25.0%となっている。

中学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が37.9%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が31.0%、「「お世話」にやりがいを感じる」が20.7%、「とても疲れることがある」、「いらいらしやすい」がそれぞれ17.2%となっている。





2. 単純集計結果〔保護者〕

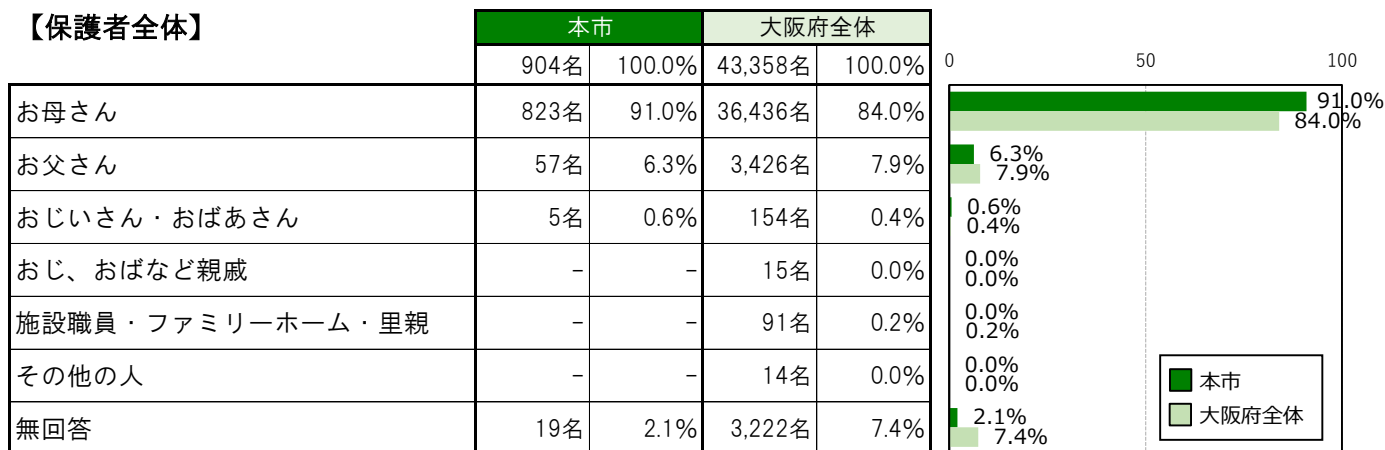
門真市

子どもとの関係について

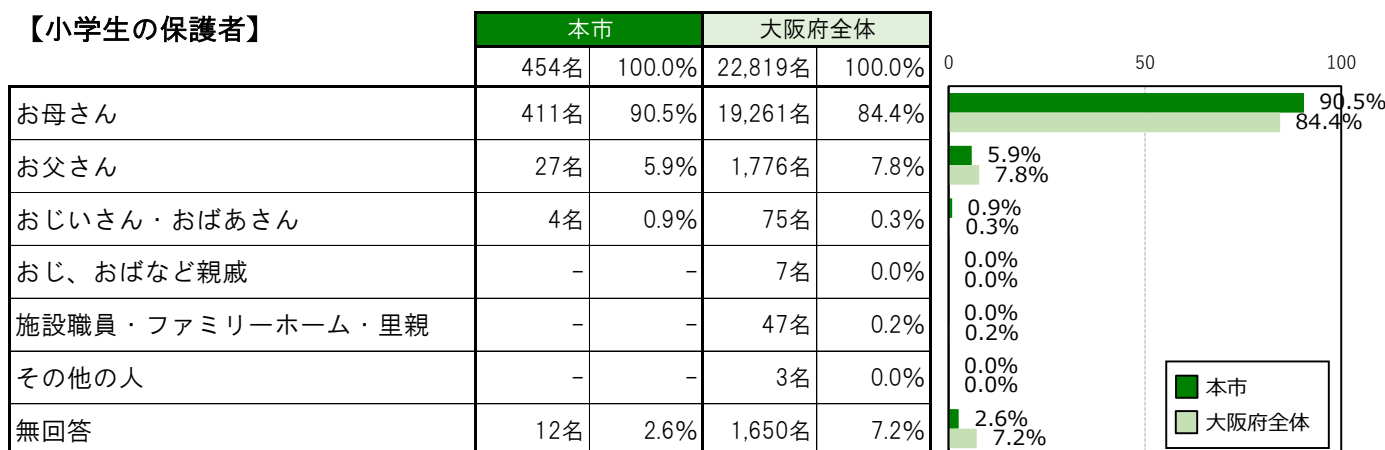
問1 子どもとの続柄

保護者全体は、「お母さん」が91.0%で最も多く、次いで「お父さん」が6.3%となっている。
小学生の保護者は、「お母さん」が90.5%で最も多く、次いで「お父さん」が5.9%となっている。
中学生の保護者は、「お母さん」が91.1%で最も多く、次いで「お父さん」が7.0%となっている。

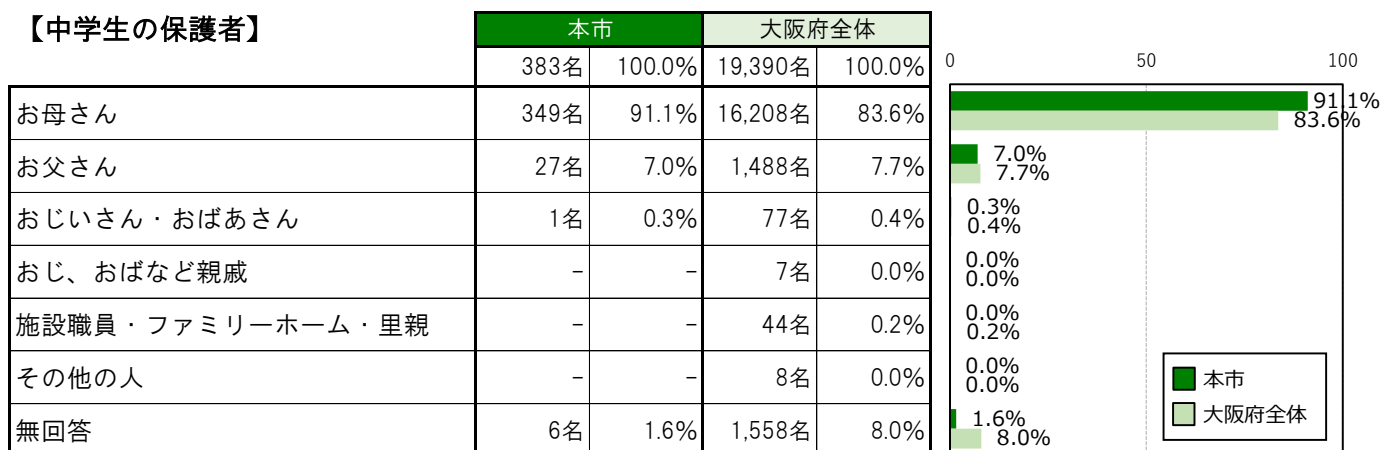
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問2 世帯構成 ①おばあさん

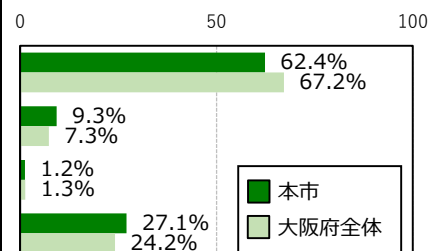
保護者全体は、「いない」が62.4%で最も多く、次いで「1人」が9.3%、「2人」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が65.2%で最も多く、次いで「1人」が9.3%、「2人」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が61.9%で最も多く、次いで「1人」が9.4%となっている。

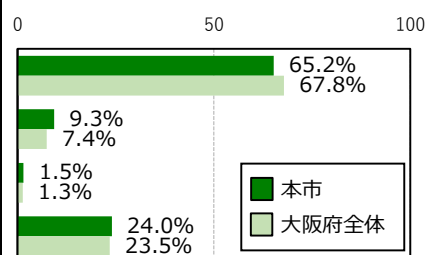
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	564名	62.4%	29,081名	67.2%
1人	84名	9.3%	3,181名	7.3%
2人	11名	1.2%	555名	1.3%
無回答	245名	27.1%	10,483名	24.2%



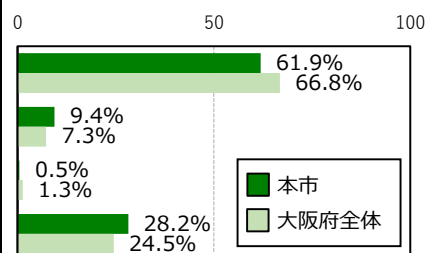
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	296名	65.2%	15,456名	67.8%
1人	42名	9.3%	1,681名	7.4%
2人	7名	1.5%	286名	1.3%
無回答	109名	24.0%	5,363名	23.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	237名	61.9%	12,942名	66.8%
1人	36名	9.4%	1,422名	7.3%
2人	2名	0.5%	257名	1.3%
無回答	108名	28.2%	4,744名	24.5%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ②おじいさん

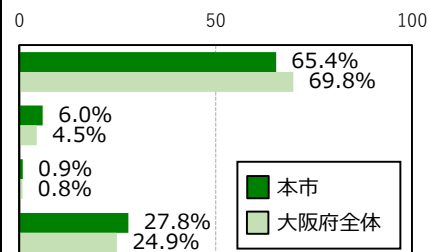
保護者全体は、「いない」が65.4%で最も多く、次いで「1人」が6.0%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が67.8%で最も多く、次いで「1人」が5.9%、「2人」が1.3%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が65.3%で最も多く、次いで「1人」が5.7%となっている。

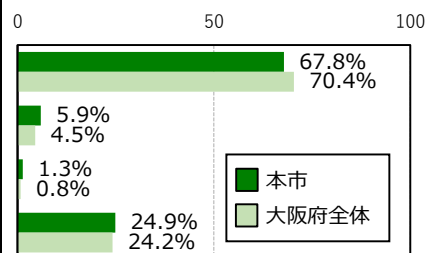
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	591名	65.4%	30,230名	69.8%
1人	54名	6.0%	1,932名	4.5%
2人	8名	0.9%	340名	0.8%
無回答	251名	27.8%	10,798名	24.9%



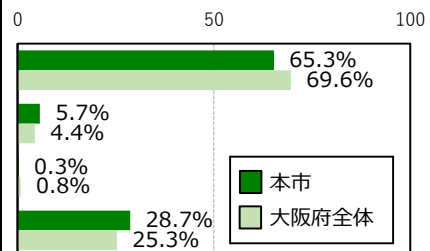
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	308名	67.8%	16,050名	70.4%
1人	27名	5.9%	1,031名	4.5%
2人	6名	1.3%	186名	0.8%
無回答	113名	24.9%	5,519名	24.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	250名	65.3%	13,474名	69.6%
1人	22名	5.7%	853名	4.4%
2人	1名	0.3%	148名	0.8%
無回答	110名	28.7%	4,890名	25.3%



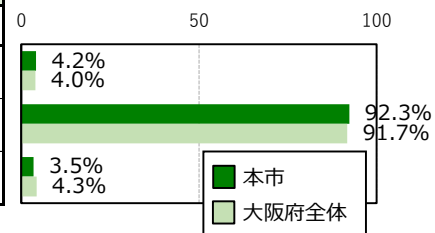
世帯の状況について

問2 世帯構成 ③お母さん

保護者全体は、「いない」が4.2%、「1人」が92.3%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が4.8%、「1人」が92.5%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が4.2%、「1人」が90.6%となっている。

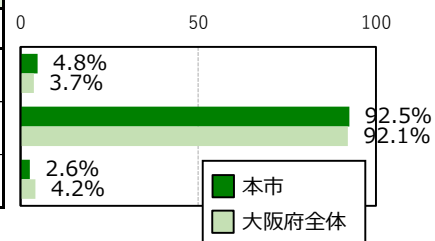
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	38名	4.2%	1,729名	4.0%
1人	834名	92.3%	39,706名	91.7%
無回答	32名	3.5%	1,865名	4.3%



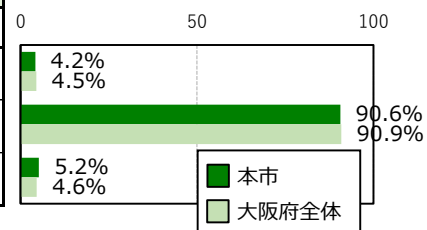
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	22名	4.8%	841名	3.7%
1人	420名	92.5%	20,990名	92.1%
無回答	12名	2.6%	955名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	16名	4.2%	872名	4.5%
1人	347名	90.6%	17,597名	90.9%
無回答	20名	5.2%	896名	4.6%



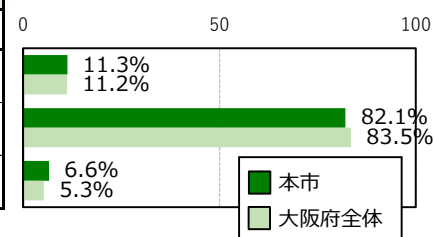
世帯の状況について

問2 世帯構成 ④お父さん

保護者全体は、「いない」が11.3%、「1人」が82.1%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が11.5%、「1人」が83.5%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が12.3%、「1人」が79.4%となっている。

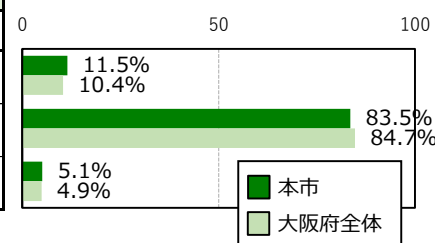
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	102名	11.3%	4,852名	11.2%
1人	742名	82.1%	36,166名	83.5%
無回答	60名	6.6%	2,282名	5.3%



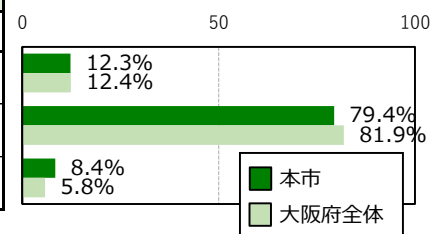
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	52名	11.5%	2,372名	10.4%
1人	379名	83.5%	19,301名	84.7%
無回答	23名	5.1%	1,113名	4.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	47名	12.3%	2,394名	12.4%
1人	304名	79.4%	15,852名	81.9%
無回答	32名	8.4%	1,119名	5.8%



世帯の状況について

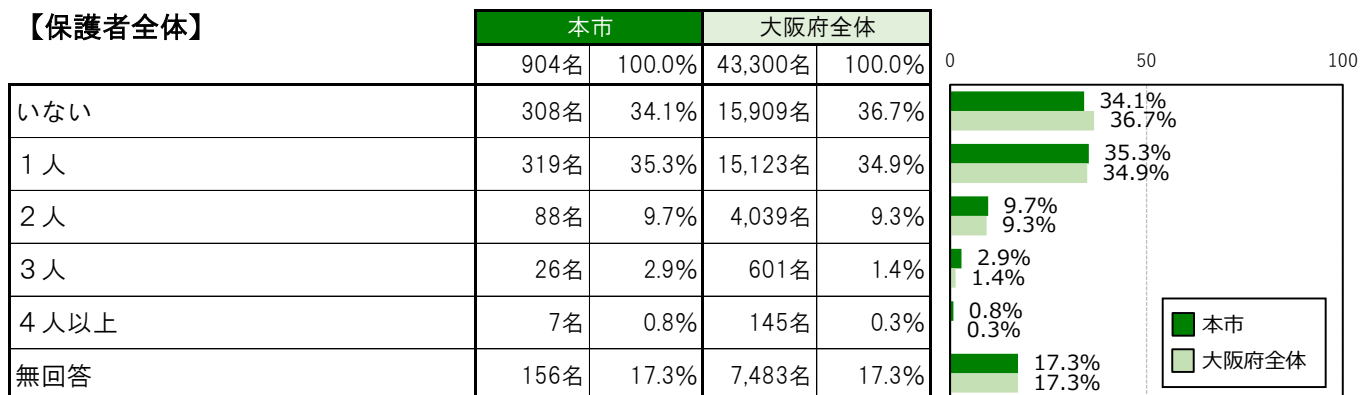
問2 世帯構成 ⑤姉・兄

保護者全体は、「1人」が35.3%で最も多く、次いで「いない」が34.1%、「2人」が9.7%、「3人」が2.9%となっている。

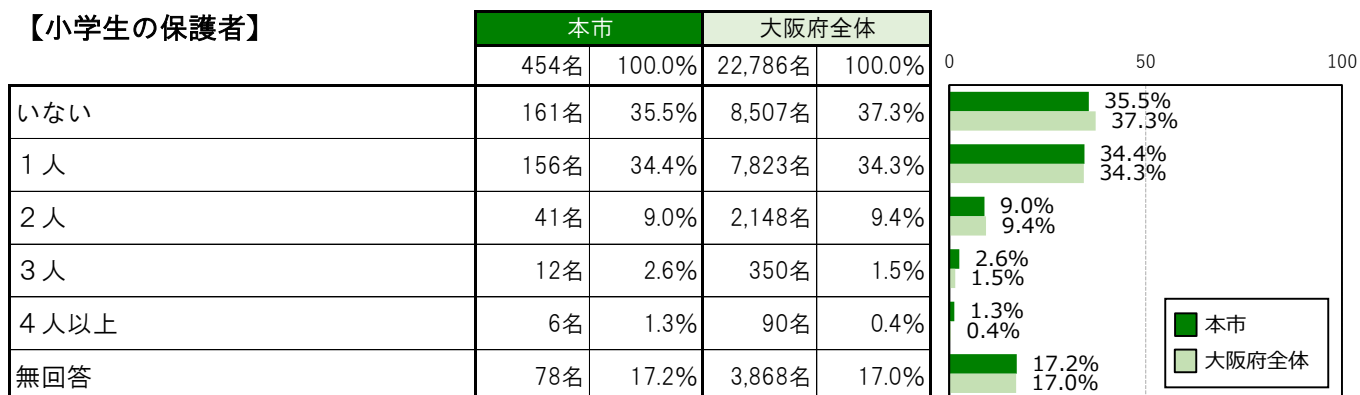
小学生の保護者は、「いない」が35.5%で最も多く、次いで「1人」が34.4%、「2人」が9.0%、「3人」が2.6%となっている。

中学生の保護者は、「1人」が35.5%で最も多く、次いで「いない」が32.6%、「2人」が11.0%、「3人」が2.9%となっている。

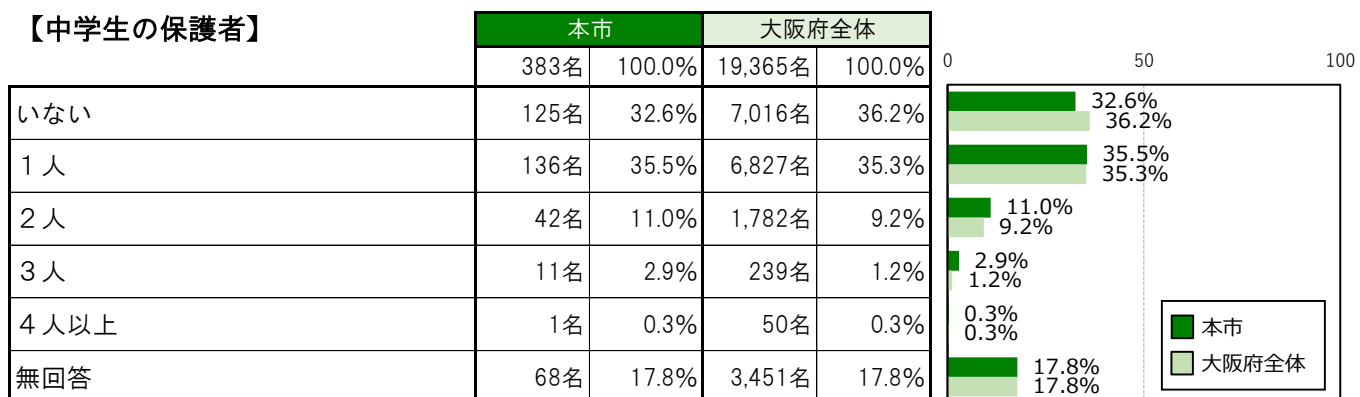
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

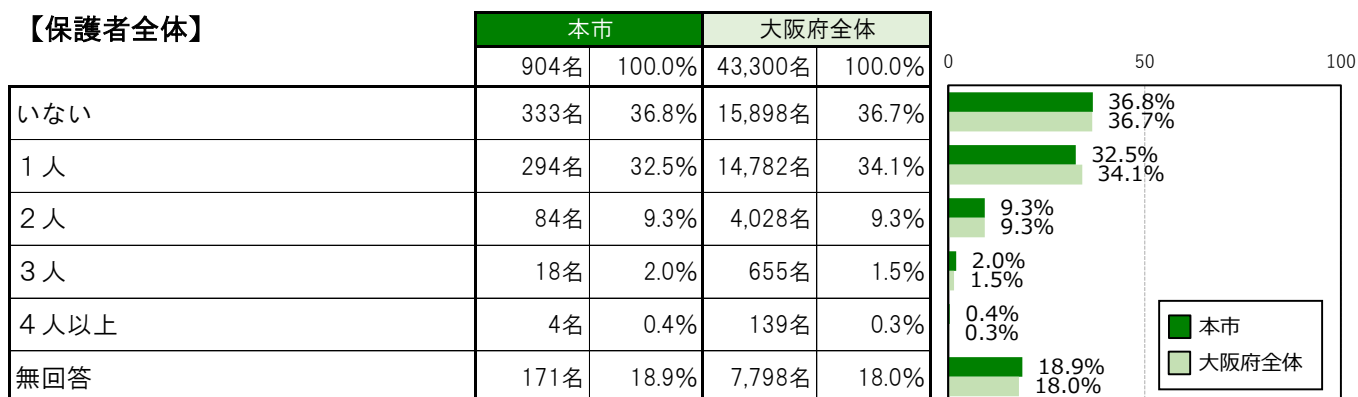
問2 世帯構成 ⑥妹・弟

保護者全体は、「いない」が36.8%で最も多く、次いで「1人」が32.5%、「2人」が9.3%、「3人」が2.0%となっている。

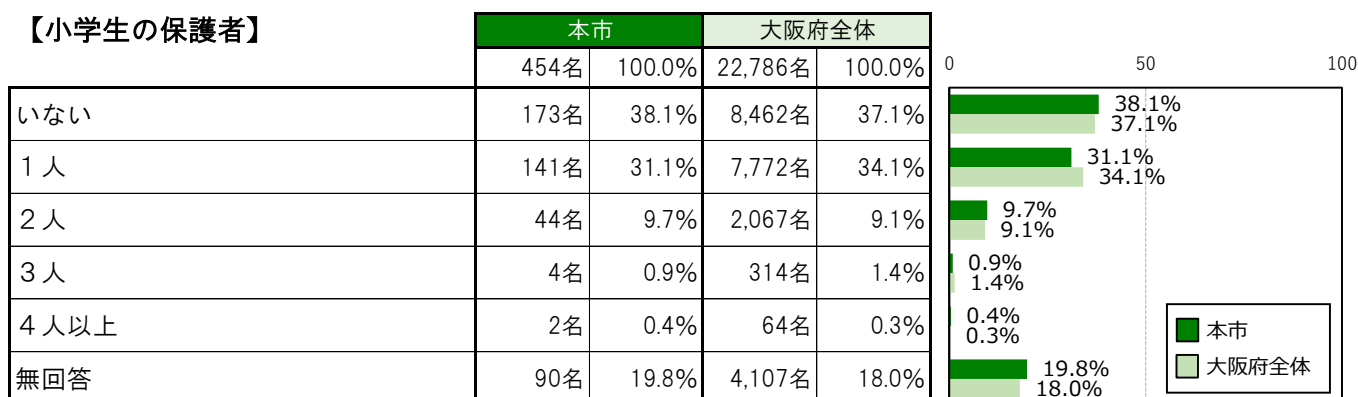
小学生の保護者は、「いない」が38.1%で最も多く、次いで「1人」が31.1%、「2人」が9.7%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が38.4%で最も多く、次いで「1人」が31.6%、「2人」が8.4%、「3人」が2.9%となっている。

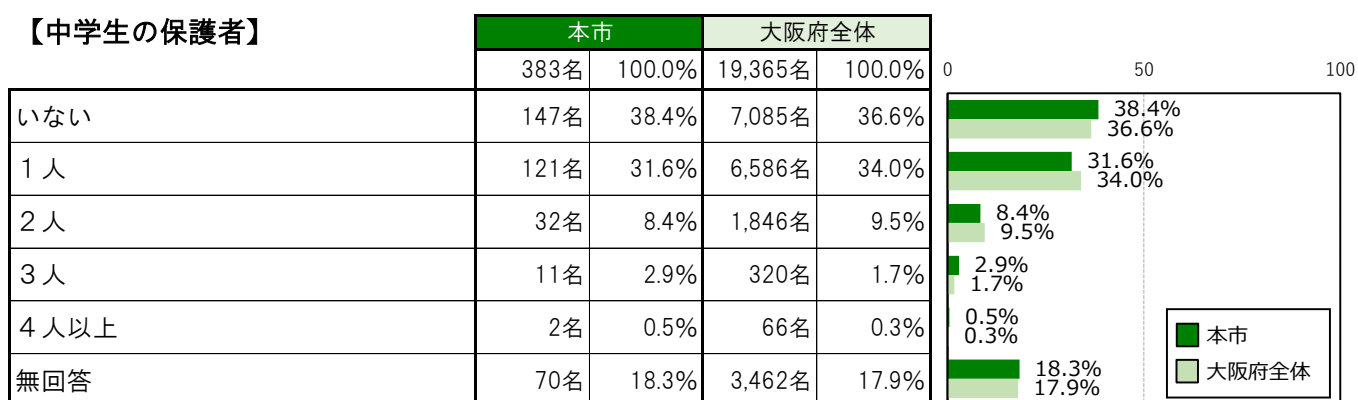
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

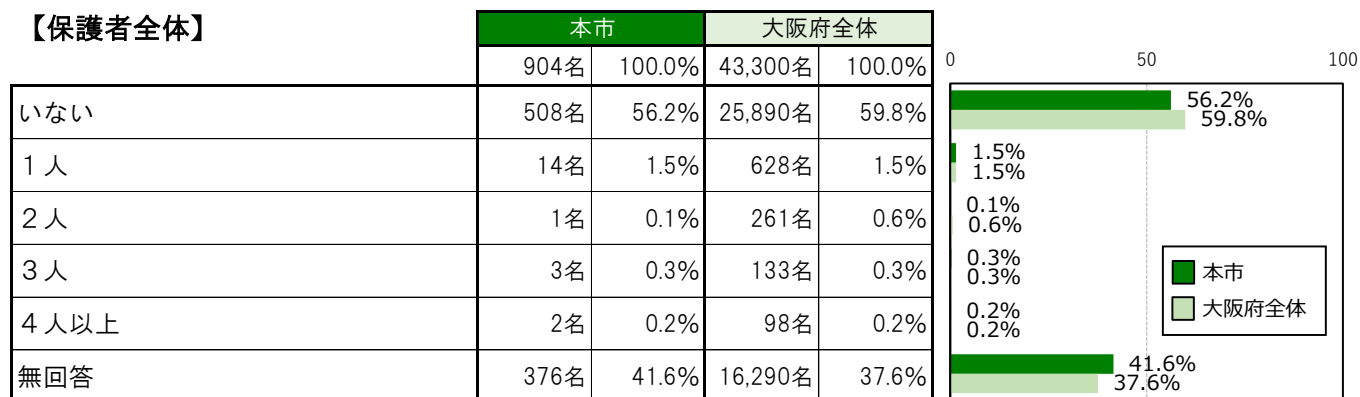


世帯の状況について

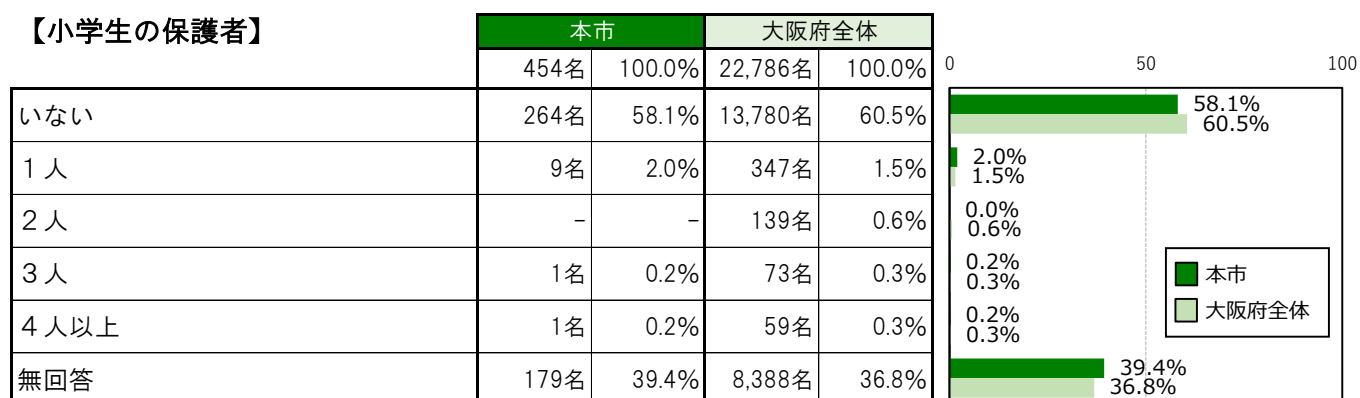
問2 世帯構成 ⑦その他

保護者全体は、「いない」が56.2%で最も多く、次いで「1人」が1.5%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が58.1%で最も多く、次いで「1人」が2.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が56.1%で最も多く、次いで「1人」が1.3%となっている。

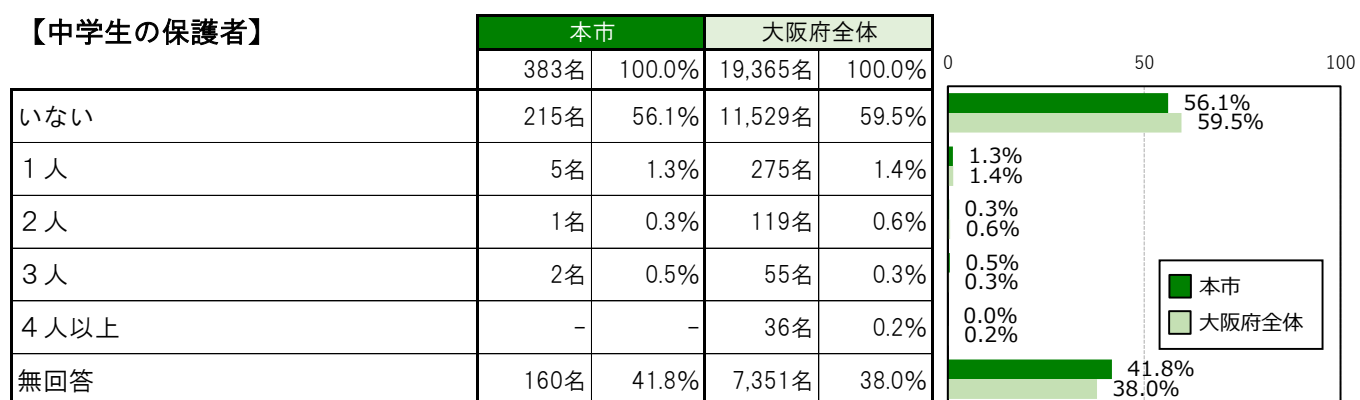
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問2 世帯構成 ＜世帯員の続柄＞

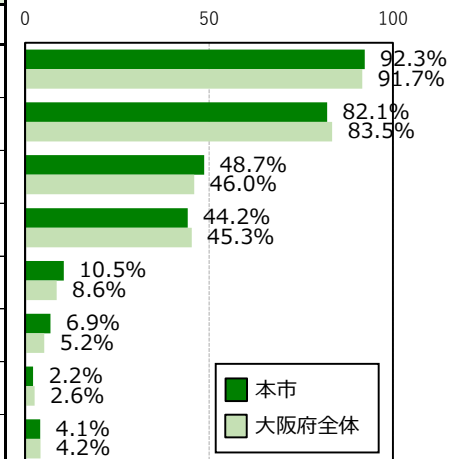
保護者全体は、「お母さん」が92.3%で最も多く、次いで「お父さん」が82.1%、「姉・兄」が48.7%、「妹・弟」が44.2%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が92.5%で最も多く、次いで「お父さん」が83.5%、「姉・兄」が47.4%、「妹・弟」が42.1%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が90.6%で最も多く、次いで「お父さん」が79.4%、「姉・兄」が49.6%、「妹・弟」が43.3%となっている。

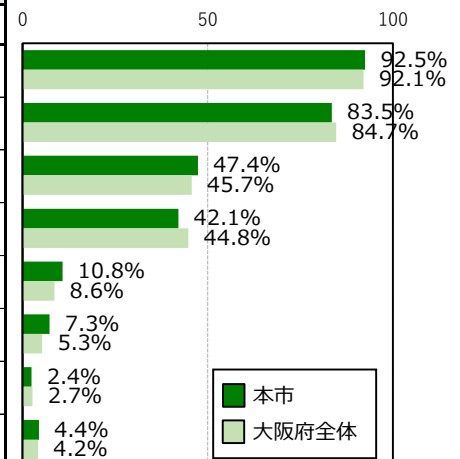
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	834名	92.3%	39,706名	91.7%
お父さん	742名	82.1%	36,166名	83.5%
姉・兄	440名	48.7%	19,908名	46.0%
妹・弟	400名	44.2%	19,604名	45.3%
おばあさん	95名	10.5%	3,736名	8.6%
おじいさん	62名	6.9%	2,272名	5.2%
その他	20名	2.2%	1,120名	2.6%
無回答	37名	4.1%	1,839名	4.2%



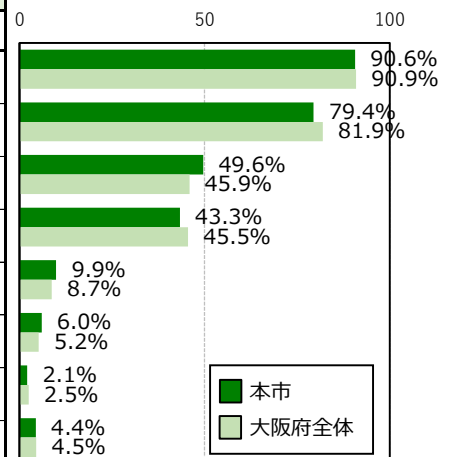
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	420名	92.5%	20,990名	92.1%
お父さん	379名	83.5%	19,301名	84.7%
姉・兄	215名	47.4%	10,411名	45.7%
妹・弟	191名	42.1%	10,217名	44.8%
おばあさん	49名	10.8%	1,967名	8.6%
おじいさん	33名	7.3%	1,217名	5.3%
その他	11名	2.4%	618名	2.7%
無回答	20名	4.4%	953名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	347名	90.6%	17,597名	90.9%
お父さん	304名	79.4%	15,852名	81.9%
姉・兄	190名	49.6%	8,898名	45.9%
妹・弟	166名	43.3%	8,818名	45.5%
おばあさん	38名	9.9%	1,679名	8.7%
おじいさん	23名	6.0%	1,001名	5.2%
その他	8名	2.1%	485名	2.5%
無回答	17名	4.4%	876名	4.5%



世帯の状況について

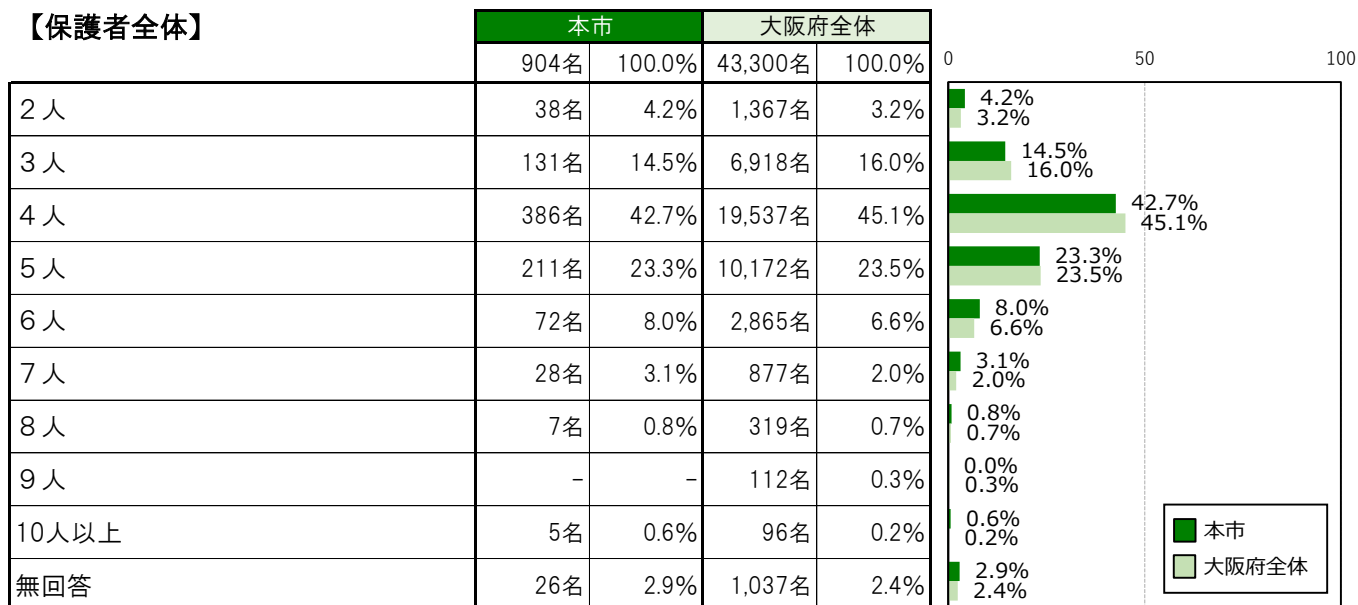
問2 世帯構成 ⑧世帯人数

保護者全体は、「4人」が42.7%で最も多く、次いで「5人」が23.3%、「3人」が14.5%、「6人」が8.0%となっている。

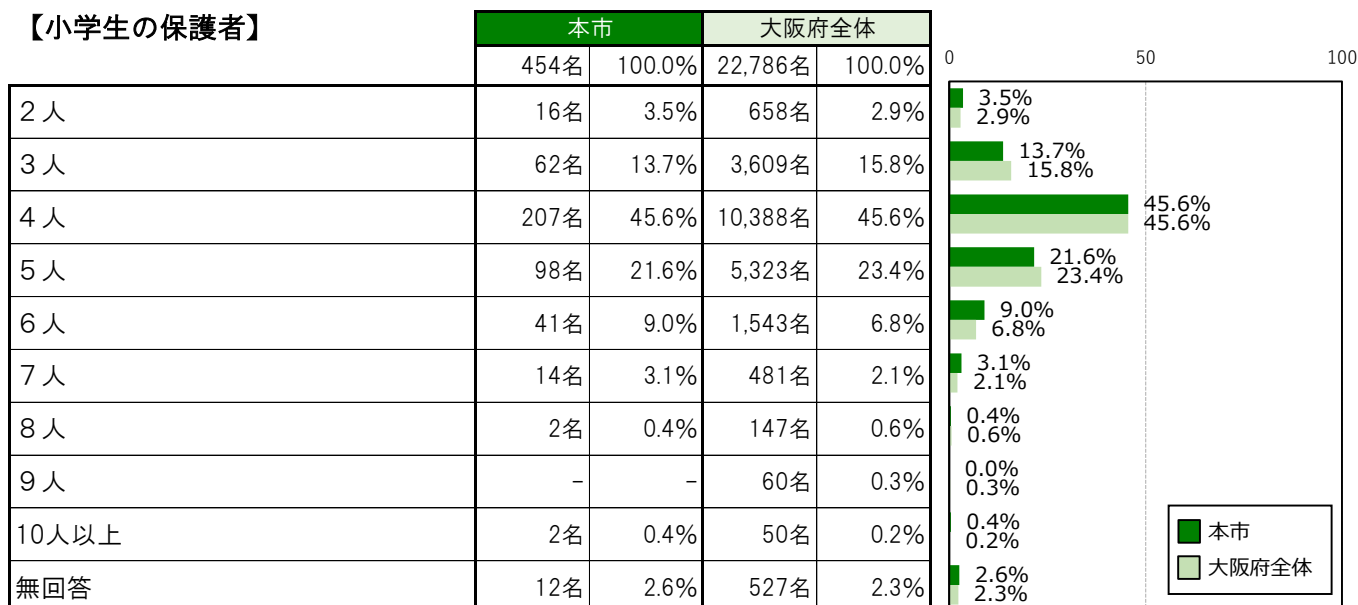
小学生の保護者は、「4人」が45.6%で最も多く、次いで「5人」が21.6%、「3人」が13.7%、「6人」が9.0%となっている。

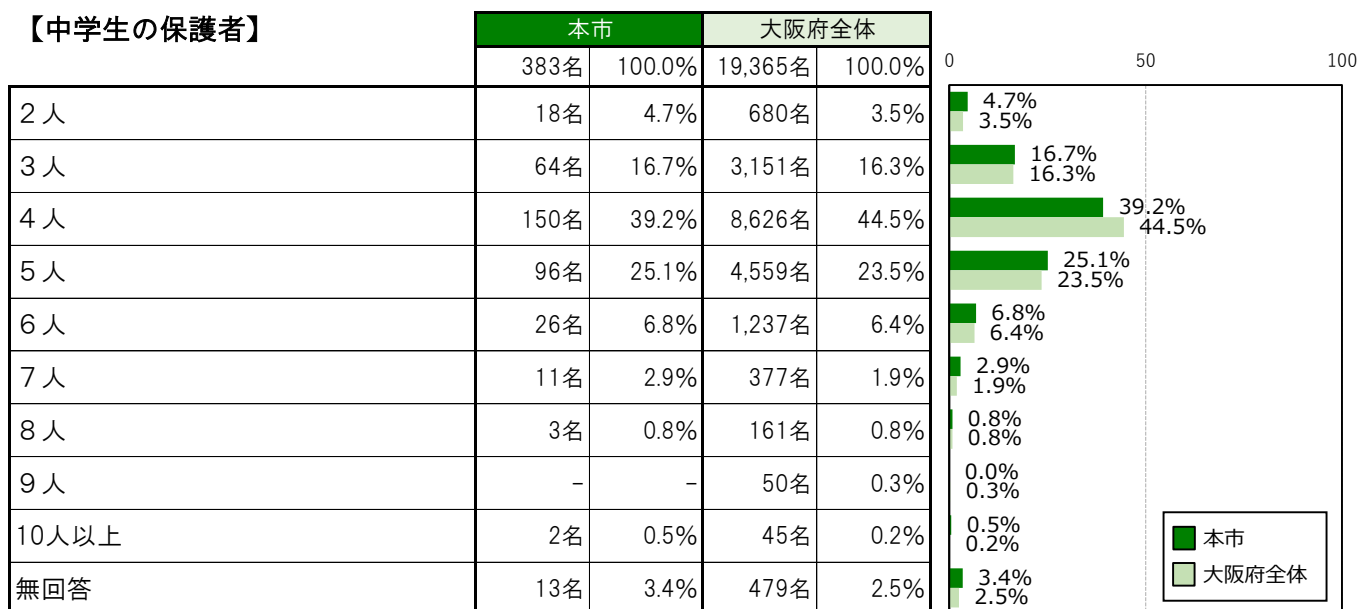
中学生の保護者は、「4人」が39.2%で最も多く、次いで「5人」が25.1%、「3人」が16.7%、「6人」が6.8%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





世帯の状況について

問3 親の婚姻状況

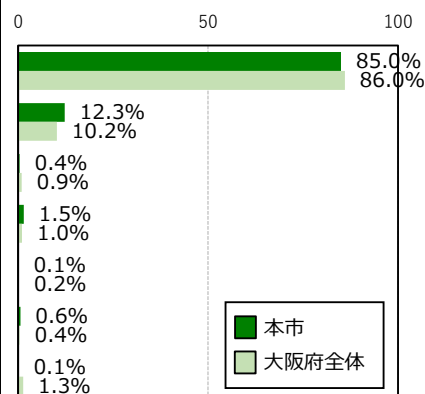
保護者全体は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が85.0%で最も多く、次いで「離婚」が12.3%、「未婚」が1.5%となっている。

小学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が86.3%で最も多く、次いで「離婚」が11.2%、「未婚」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が82.8%で最も多く、次いで「離婚」が14.1%、「未婚」が1.8%となっている。

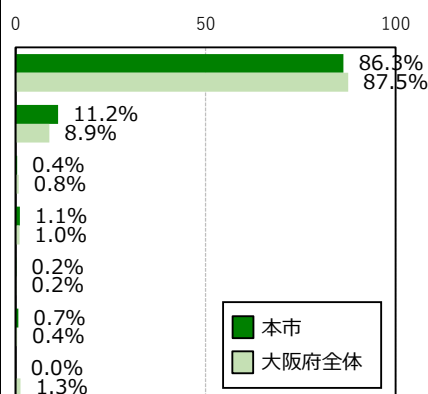
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	768名	85.0%	37,253名	86.0%
離婚	111名	12.3%	4,407名	10.2%
死別	4名	0.4%	400名	0.9%
未婚	14名	1.5%	412名	1.0%
わからない	1名	0.1%	77名	0.2%
いない	5名	0.6%	177名	0.4%
無回答	1名	0.1%	574名	1.3%



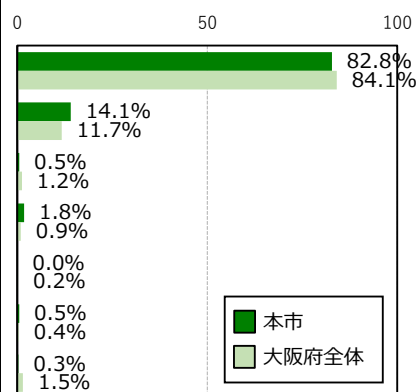
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	392名	86.3%	19,949名	87.5%
離婚	51名	11.2%	2,030名	8.9%
死別	2名	0.4%	172名	0.8%
未婚	5名	1.1%	224名	1.0%
わからない	1名	0.2%	39名	0.2%
いない	3名	0.7%	84名	0.4%
無回答	-	-	288名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	317名	82.8%	16,290名	84.1%
離婚	54名	14.1%	2,273名	11.7%
死別	2名	0.5%	223名	1.2%
未婚	7名	1.8%	181名	0.9%
わからない	-	-	34名	0.2%
いない	2名	0.5%	82名	0.4%
無回答	1名	0.3%	282名	1.5%



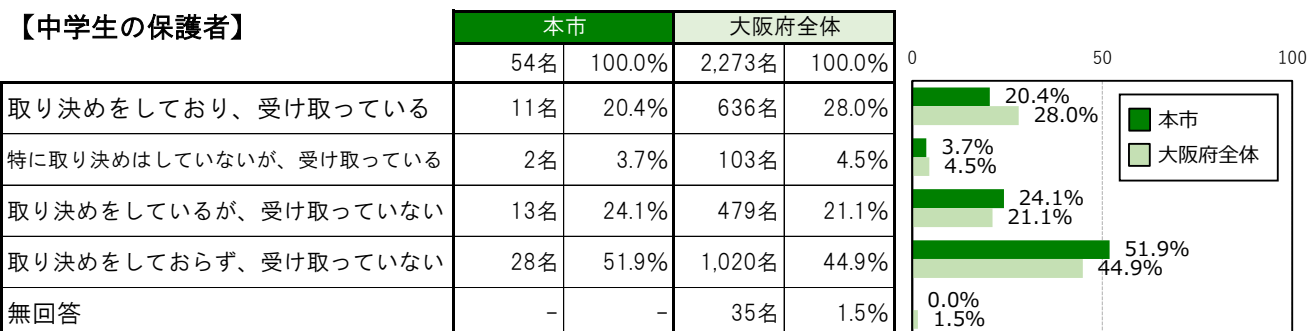
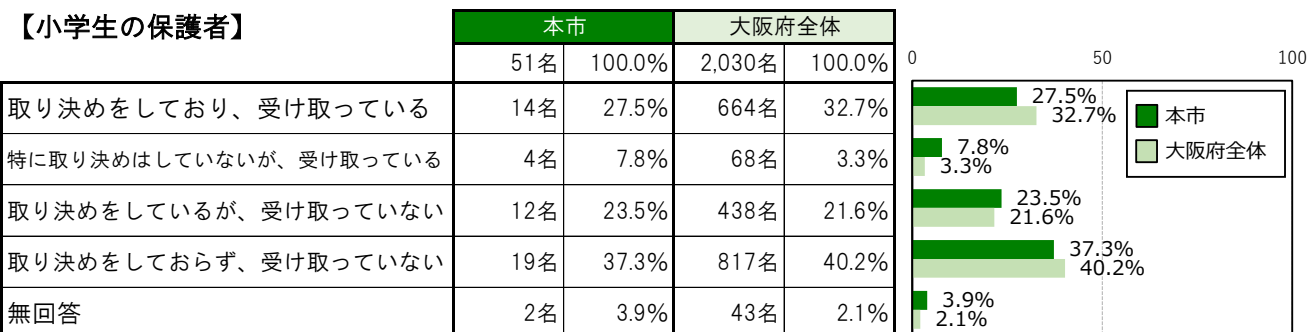
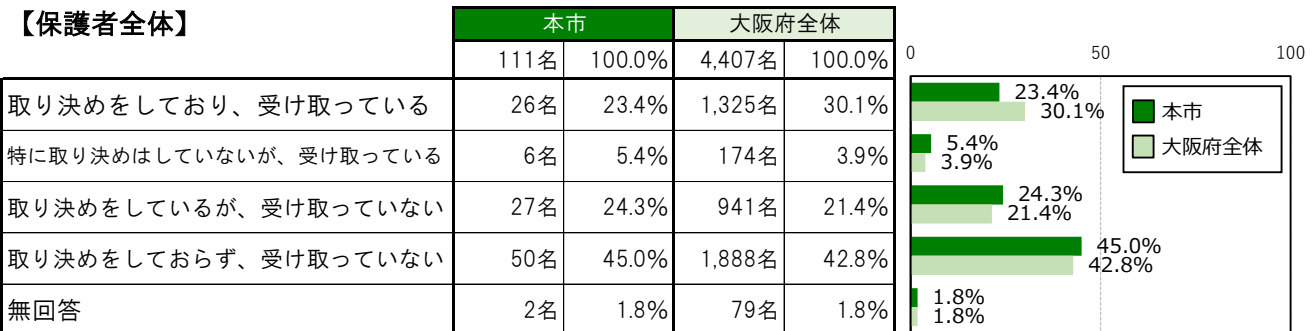
世帯の状況について

問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り

保護者全体は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が45.0%で最も多く、次いで「取り決めをしているが、受け取っていない」が24.3%、「取り決めをしており、受け取っている」が23.4%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が5.4%となっている。

小学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が37.3%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が27.5%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が23.5%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が7.8%となっている。

中学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が51.9%で最も多く、次いで「取り決めをしているが、受け取っていない」が24.1%、「取り決めをしており、受け取っている」が20.4%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が3.7%となっている。



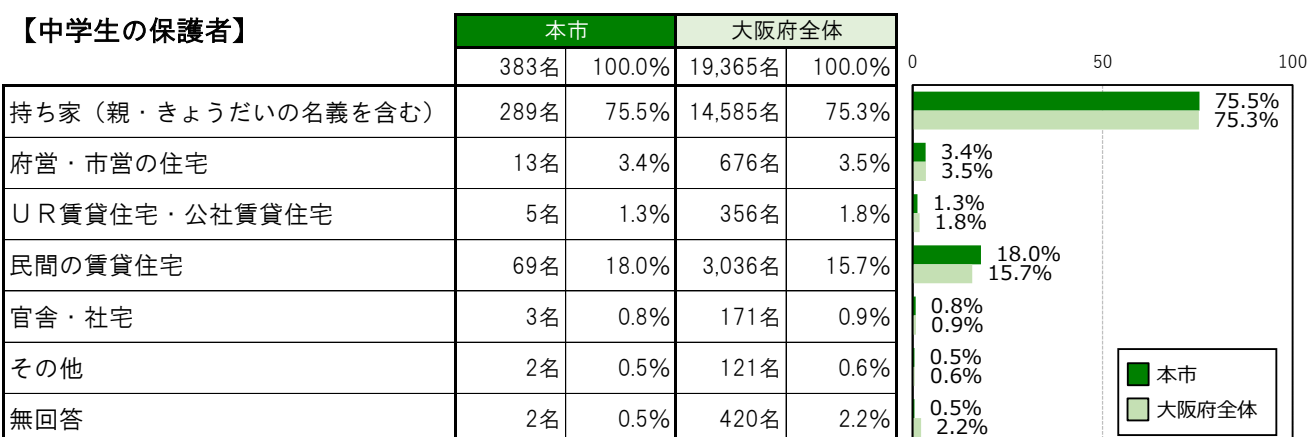
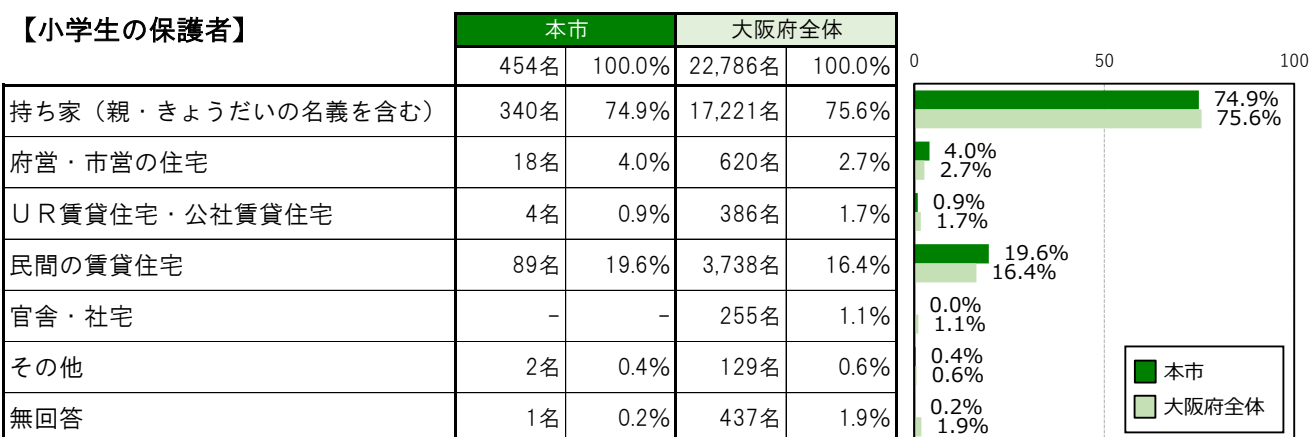
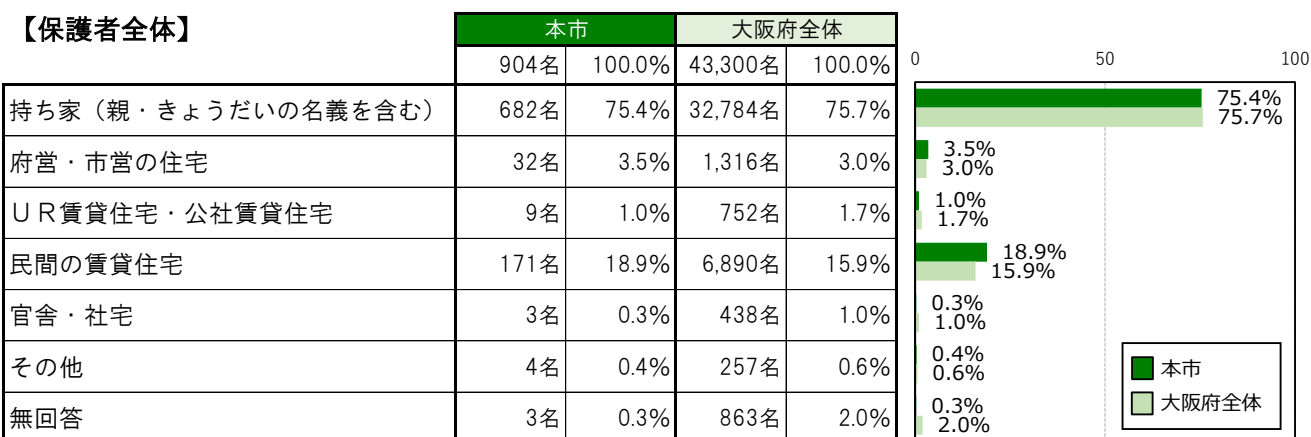
世帯の状況について

問5 住居形態

保護者全体は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が75.4%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が18.9%、「府営・市営の住宅」が3.5%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が74.9%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が19.6%、「府営・市営の住宅」が4.0%となっている。

中学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が75.5%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が18.0%、「府営・市営の住宅」が3.4%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が1.3%となっている。



世帯の状況について

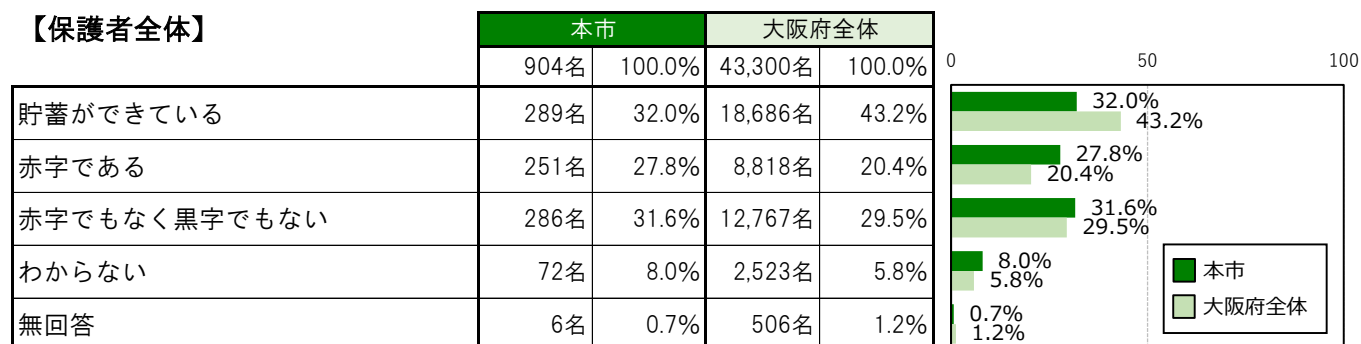
問6（1）家計の状況

保護者全体は、「貯蓄ができています」が32.0%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が31.6%、「赤字である」が27.8%となっている。

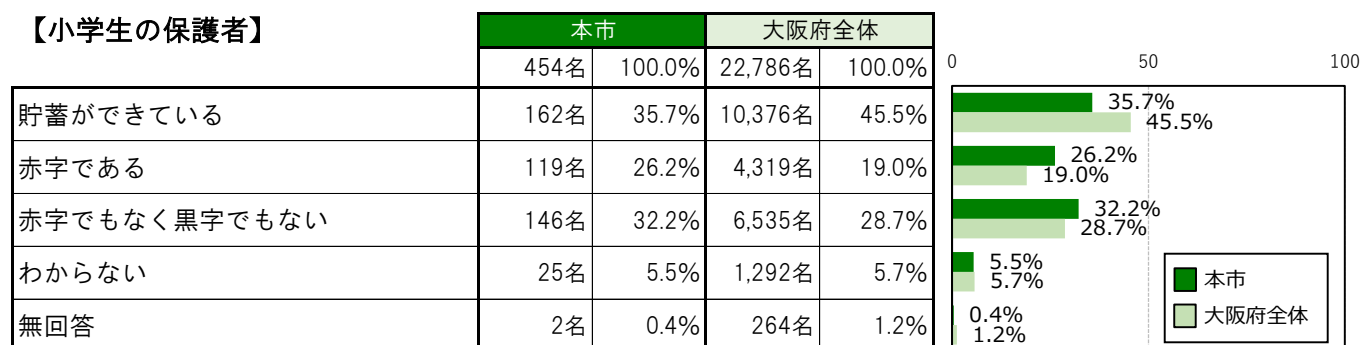
小学生の保護者は、「貯蓄ができています」が35.7%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が32.2%、「赤字である」が26.2%となっている。

中学生の保護者は、「赤字でもなく黒字でもない」が31.9%で最も多く、次いで「赤字である」が28.7%、「貯蓄ができています」が28.2%となっている。

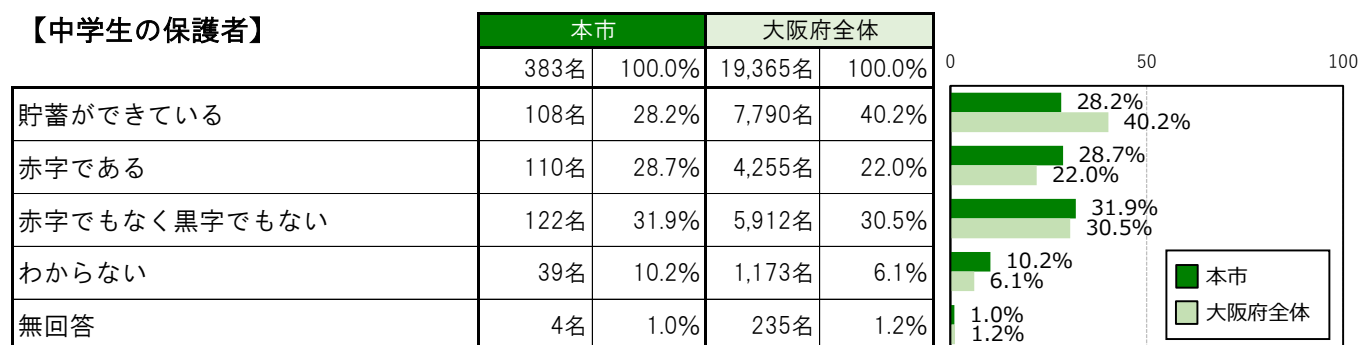
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問6（2）子どもの将来のための貯蓄状況

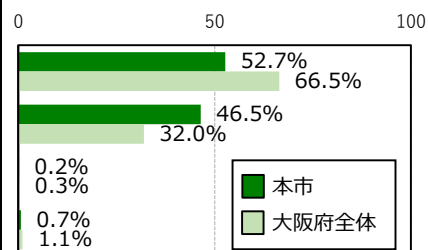
保護者全体は、「貯蓄をしている」が52.7%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が46.5%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄をしている」が57.5%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が42.1%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄をしたいが、できていない」が51.4%で最も多く、次いで「貯蓄をしている」が47.0%となっている。

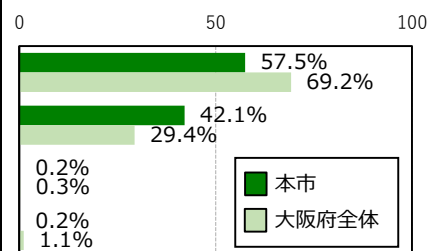
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
貯蓄をしている	476名	52.7%	28,802名	66.5%
貯蓄をしたいが、できていない	420名	46.5%	13,877名	32.0%
貯蓄をするつもりはない	2名	0.2%	138名	0.3%
無回答	6名	0.7%	483名	1.1%



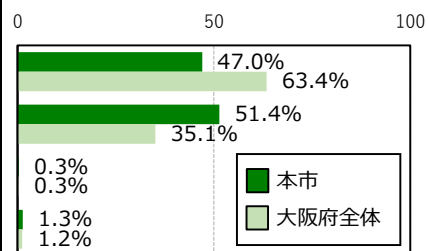
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
貯蓄をしている	261名	57.5%	15,765名	69.2%
貯蓄をしたいが、できていない	191名	42.1%	6,698名	29.4%
貯蓄をするつもりはない	1名	0.2%	74名	0.3%
無回答	1名	0.2%	249名	1.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
貯蓄をしている	180名	47.0%	12,277名	63.4%
貯蓄をしたいが、できていない	197名	51.4%	6,798名	35.1%
貯蓄をするつもりはない	1名	0.3%	63名	0.3%
無回答	5名	1.3%	227名	1.2%



世帯の状況について

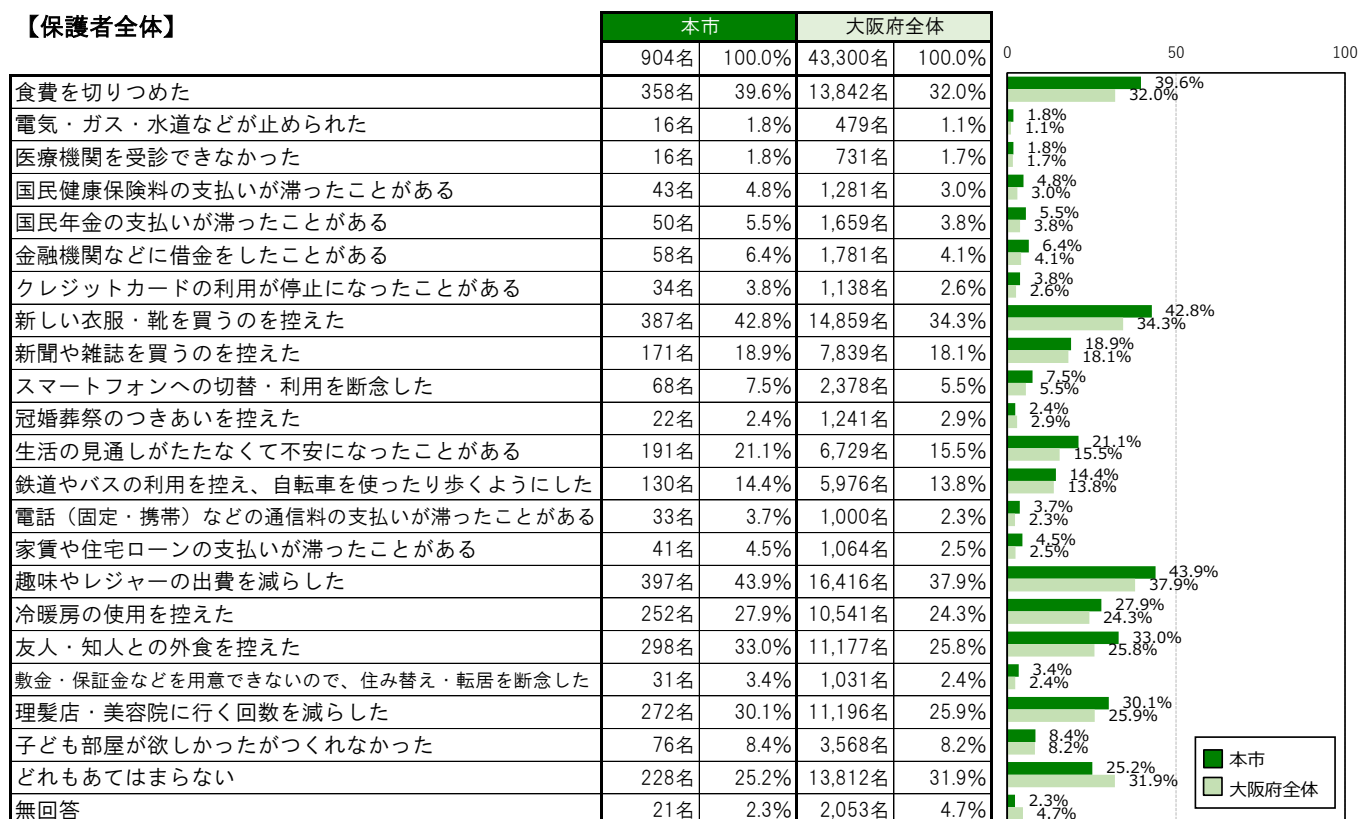
問7 経済的な理由による経験

保護者全体は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が43.9%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が42.8%、「食費を切りつめた」が39.6%、「友人・知人との外食を控えた」が33.0%となっている。

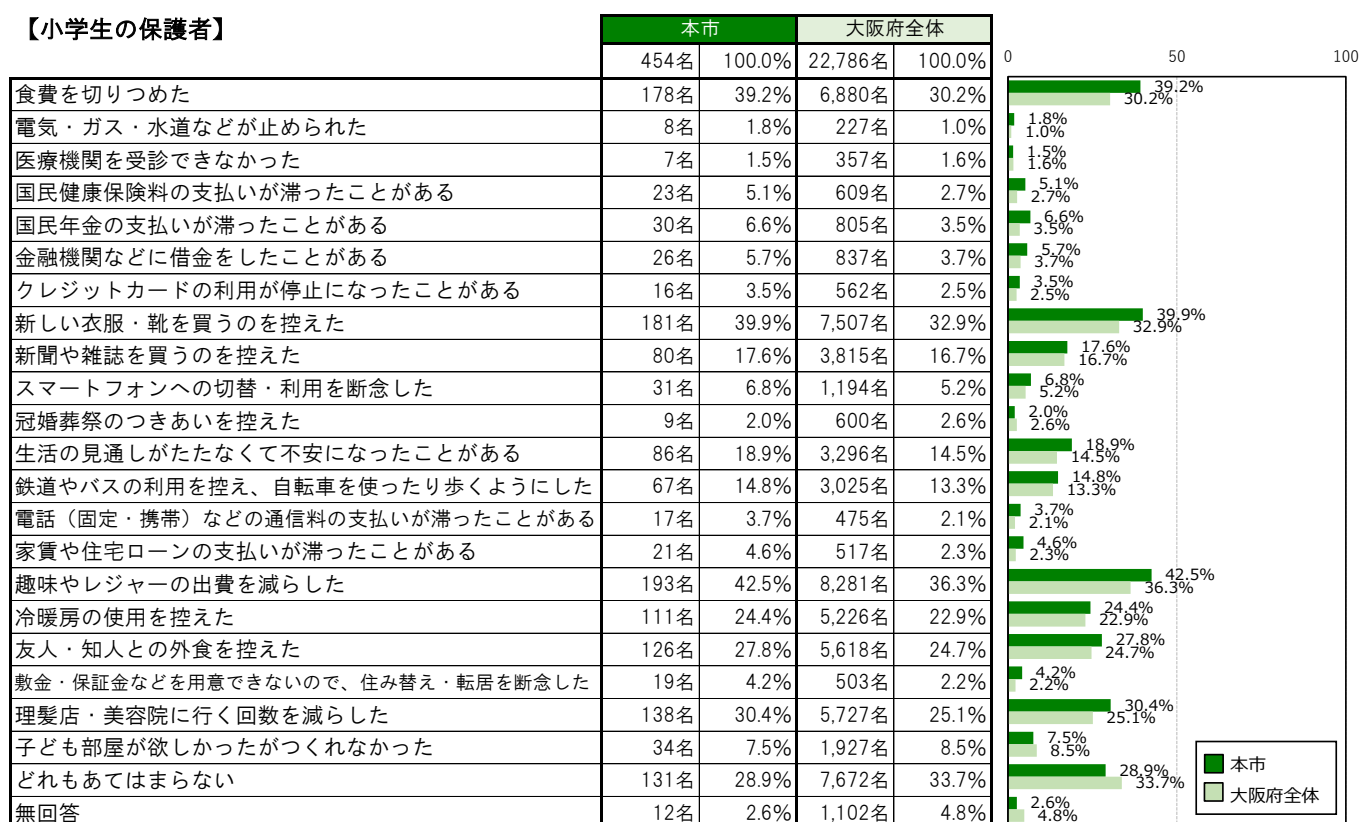
小学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が42.5%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が39.9%、「食費を切りつめた」が39.2%、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が30.4%となっている。

中学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が45.7%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が44.4%、「食費を切りつめた」が39.4%、「友人・知人との外食を控えた」が38.1%となっている。

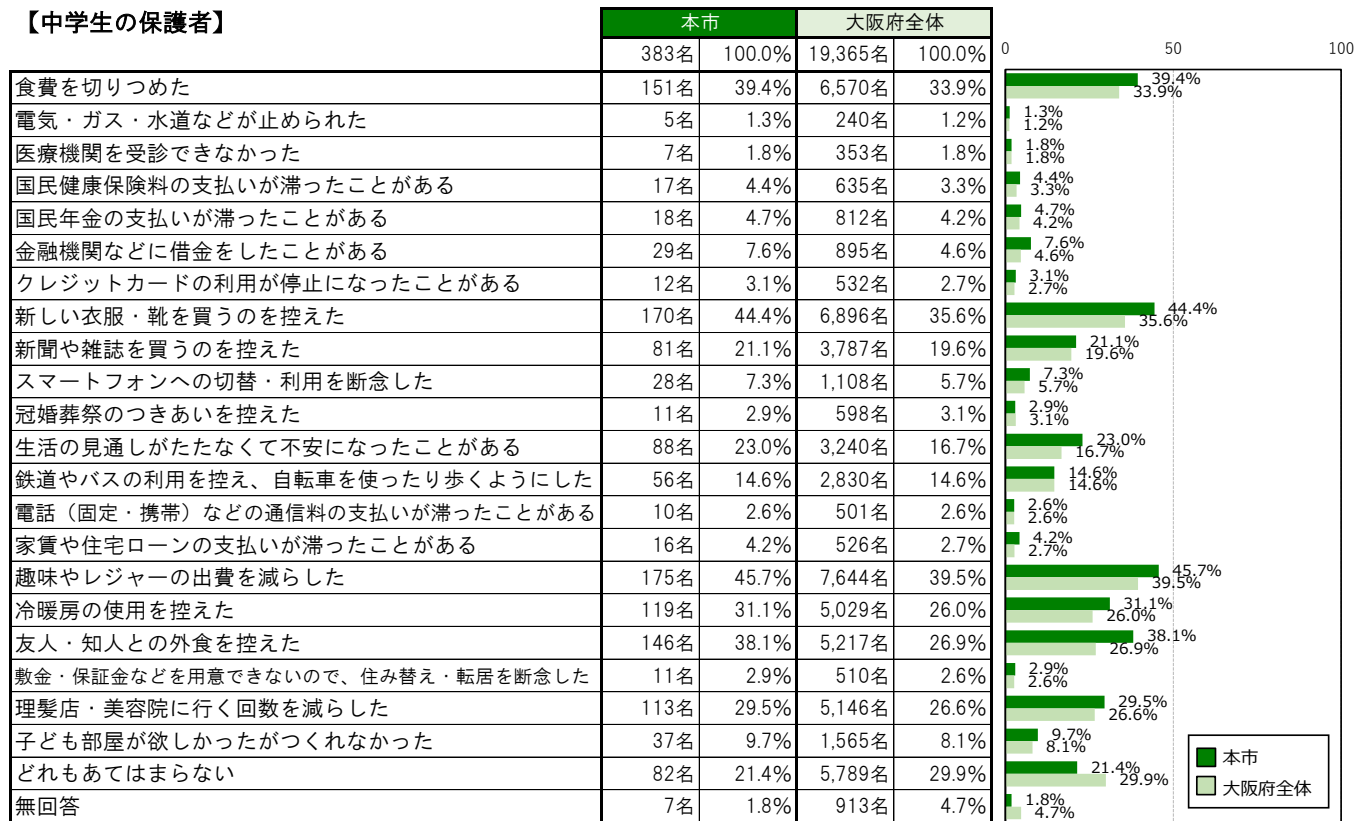
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

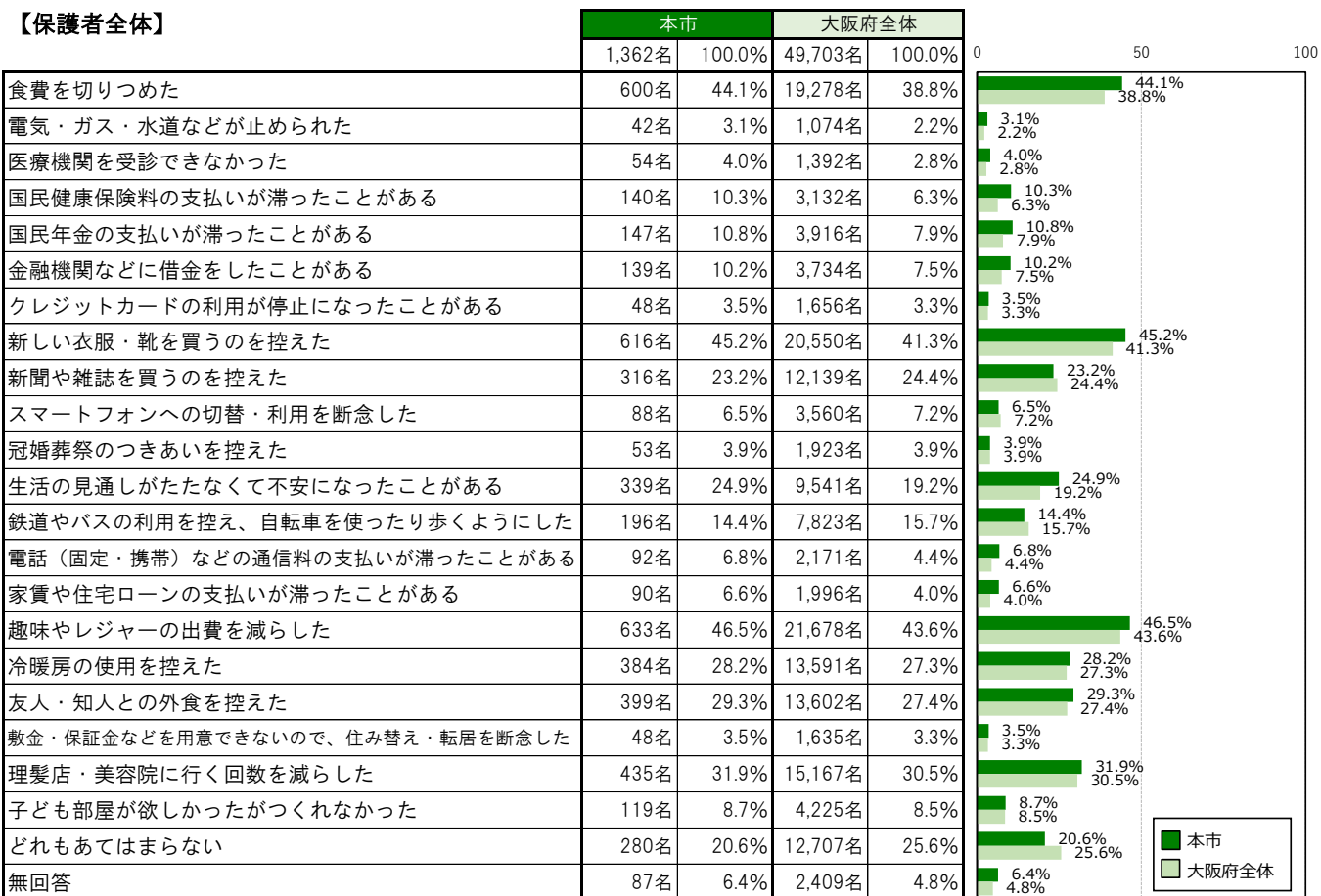


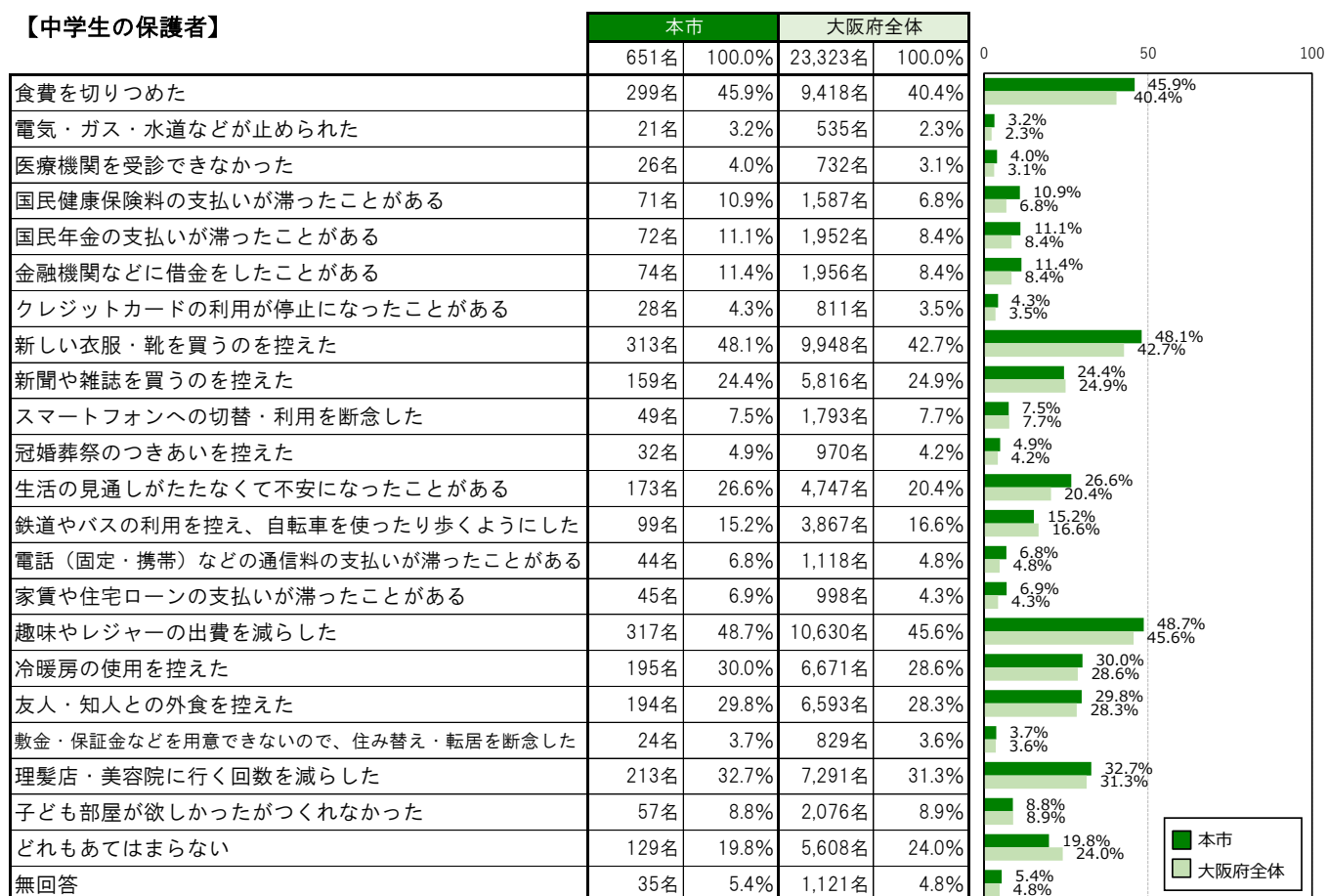
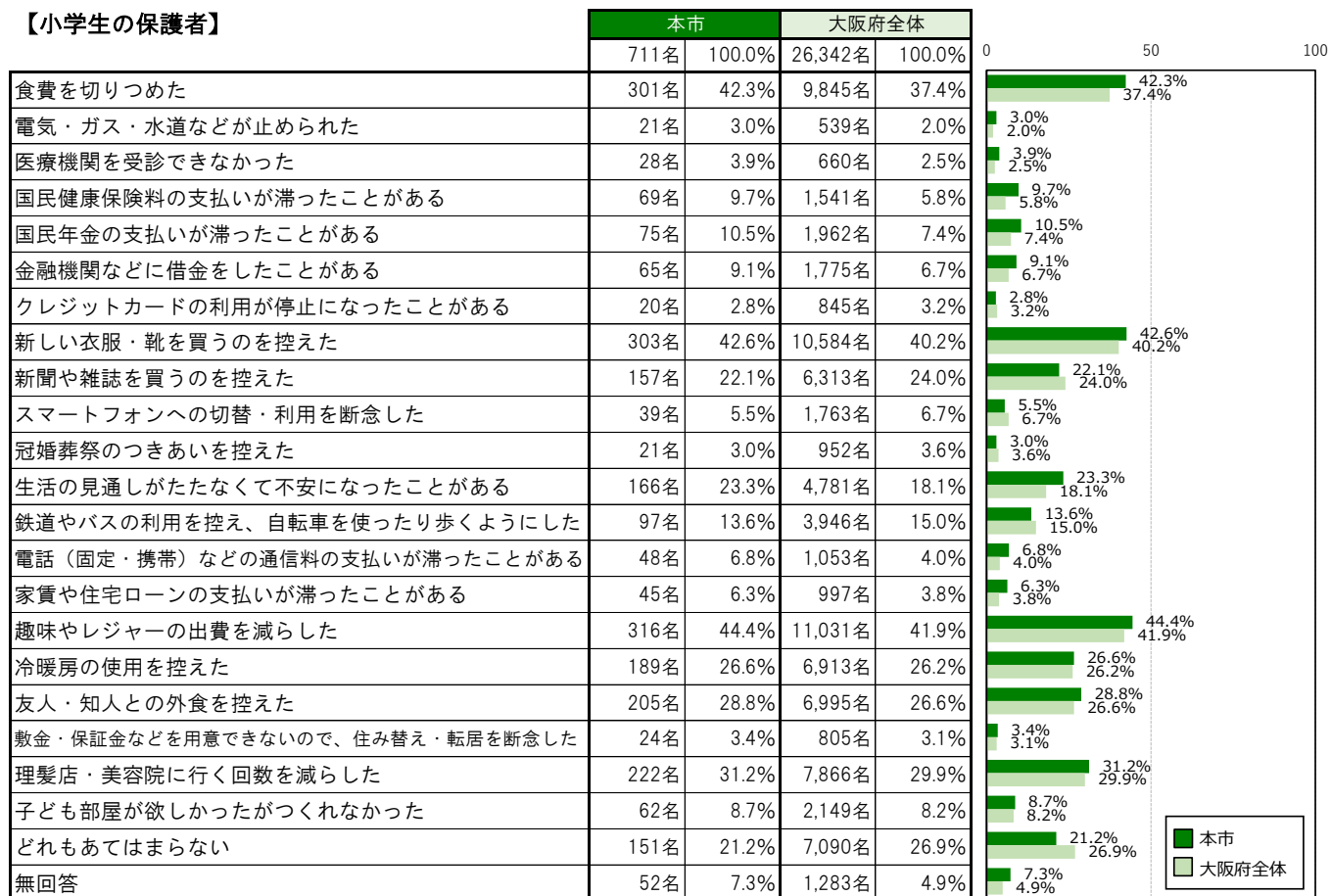
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「友人・知人との外食を控えた」が3.7ポイント高いが、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」が5.5ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」が4.6ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「友人・知人との外食を控えた」が8.3ポイント高いが、「食費を切りつめた」と「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」が6.5ポイント低くなっている。





世帯の状況について

問7 経済的な理由による経験（はく奪指標）

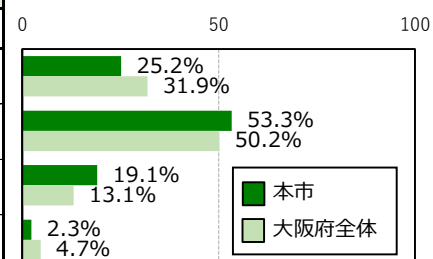
保護者全体は、「1～6個に該当」が53.3%で最も多く、次いで「該当なし」が25.2%、「7個以上に該当」が19.1%となっている。

小学生の保護者は、「1～6個に該当」が50.9%で最も多く、次いで「該当なし」が28.9%、「7個以上に該当」が17.6%となっている。

中学生の保護者は、「1～6個に該当」が56.9%で最も多く、次いで「該当なし」が21.4%、「7個以上に該当」が19.8%となっている。

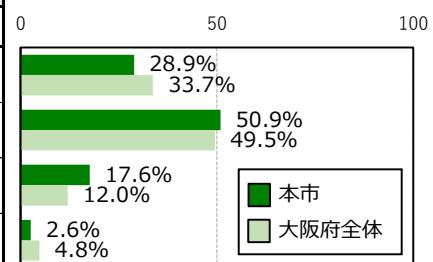
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
該当なし	228名	25.2%	13,812名	31.9%
1～6個に該当	482名	53.3%	21,747名	50.2%
7個以上に該当	173名	19.1%	5,688名	13.1%
無回答	21名	2.3%	2,053名	4.7%



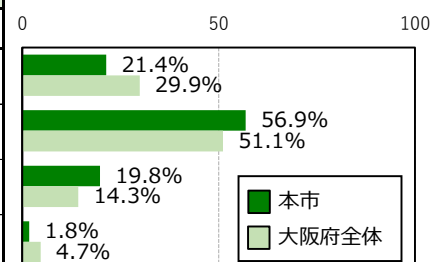
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
該当なし	131名	28.9%	7,672名	33.7%
1～6個に該当	231名	50.9%	11,270名	49.5%
7個以上に該当	80名	17.6%	2,742名	12.0%
無回答	12名	2.6%	1,102名	4.8%



【中学生の保護者】

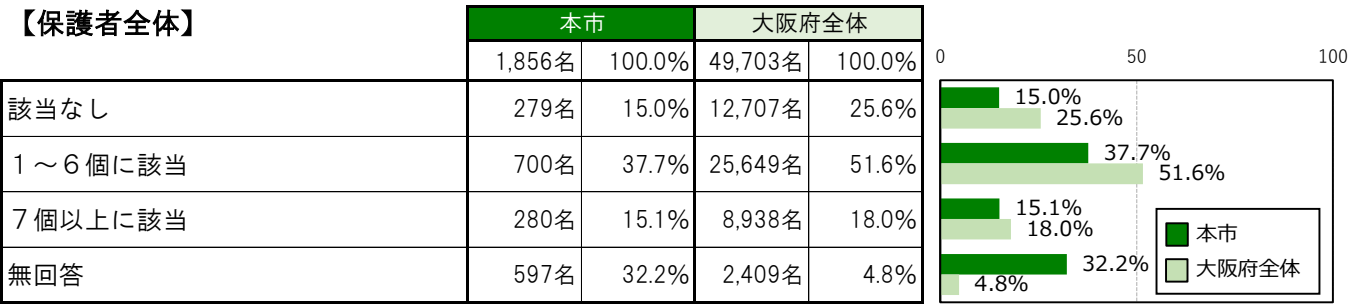
	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
該当なし	82名	21.4%	5,789名	29.9%
1～6個に該当	218名	56.9%	9,888名	51.1%
7個以上に該当	76名	19.8%	2,775名	14.3%
無回答	7名	1.8%	913名	4.7%



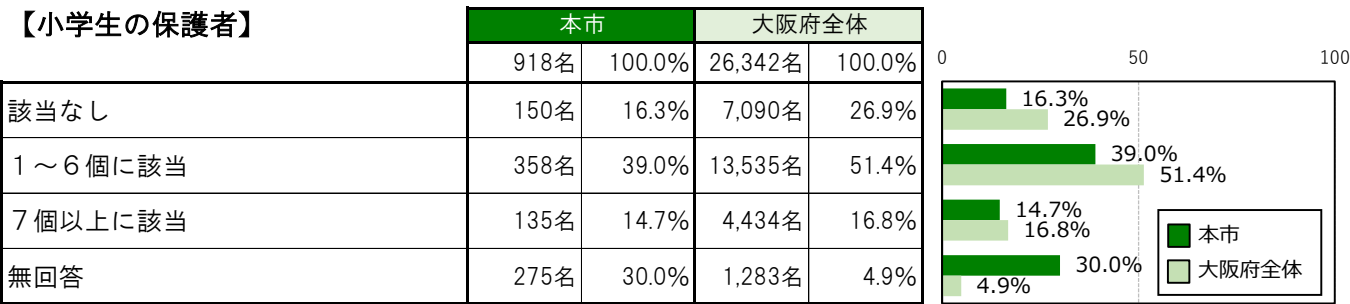
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「7個以上に該当」が13.3ポイント低くなっている。
 小学生の保護者は、「7個以上に該当」が12.0ポイント低くなっている。
 中学生の保護者は、「7個以上に該当」が14.6ポイント低くなっている。

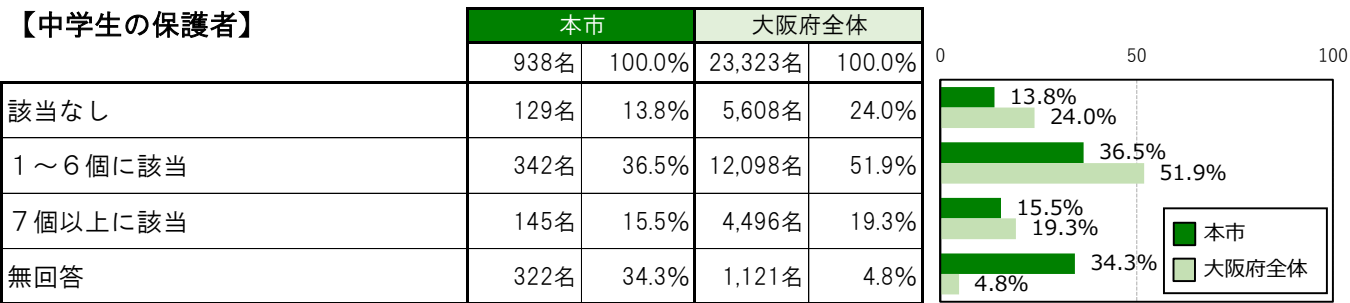
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

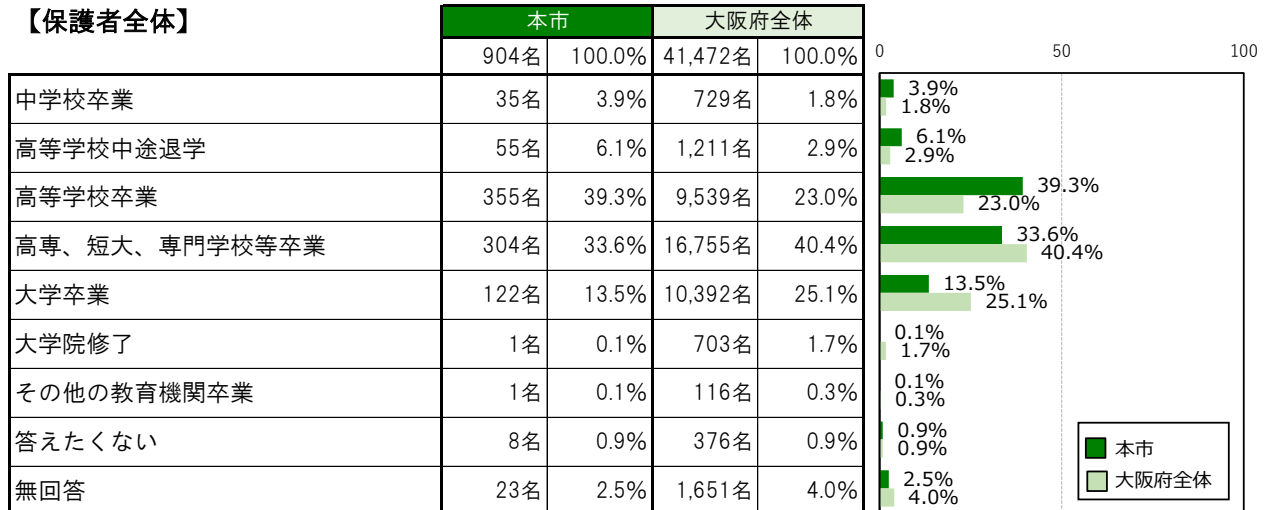
問8 お母さんの最終学歴

保護者全体は、「高等学校卒業」が39.3%で最も多く、次いで「高専、短大、専門学校等卒業」が33.6%、「大学卒業」が13.5%、「高等学校中途退学」が6.1%となっている。

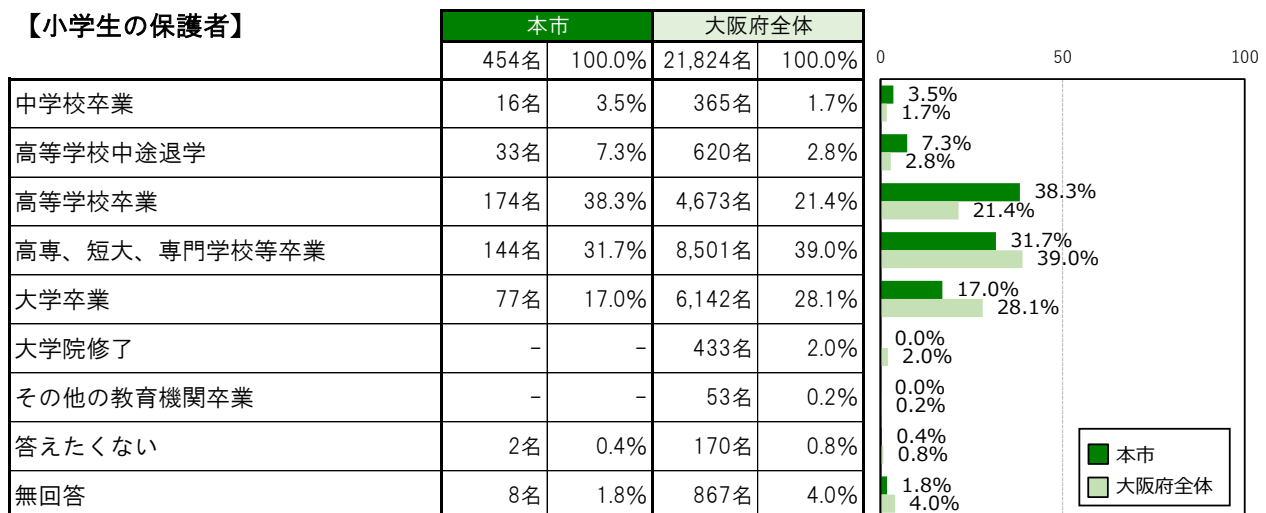
小学生の保護者は、「高等学校卒業」が38.3%で最も多く、次いで「高専、短大、専門学校等卒業」が31.7%、「大学卒業」が17.0%、「高等学校中途退学」が7.3%となっている。

中学生の保護者は、「高等学校卒業」が41.0%で最も多く、次いで「高専、短大、専門学校等卒業」が36.0%、「大学卒業」が9.7%、「高等学校中途退学」が3.9%となっている。

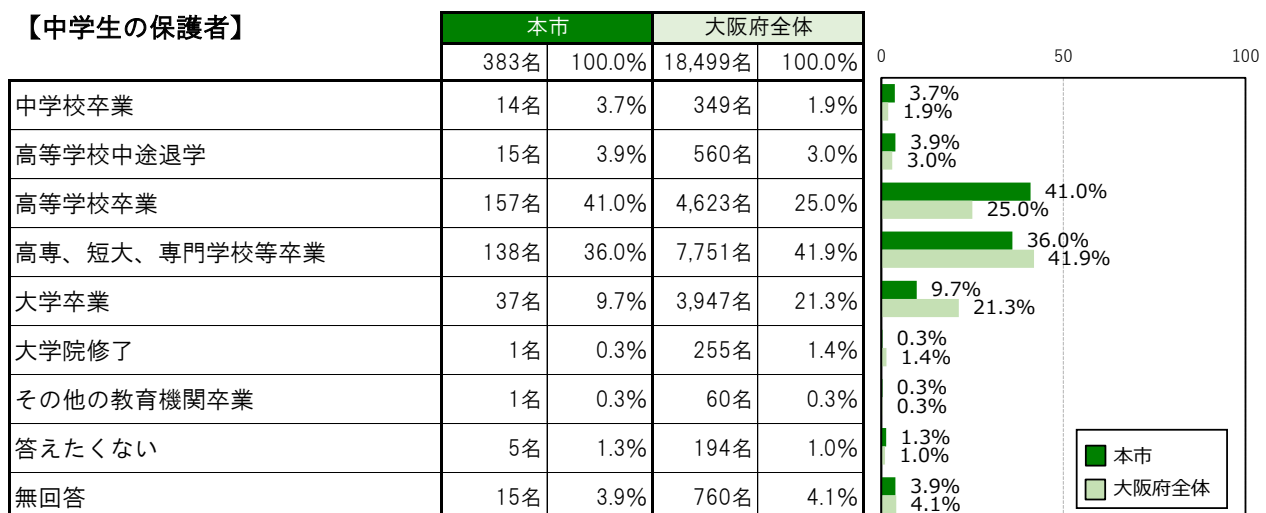
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

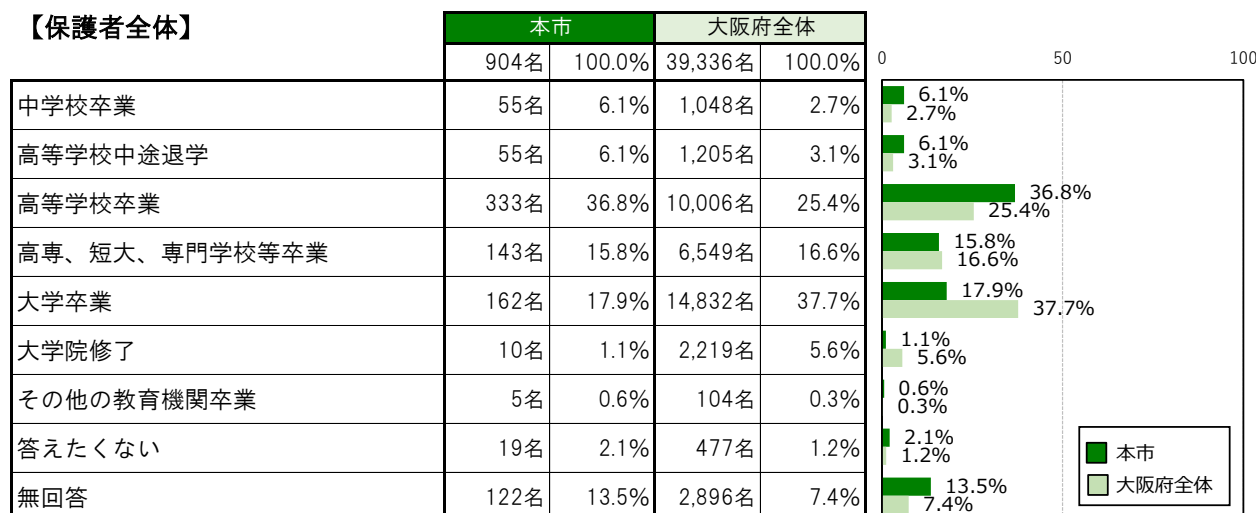
問8 お父さんの最終学歴

保護者全体は、「高等学校卒業」が36.8%で最も多く、次いで「大学卒業」が17.9%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.8%、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」がそれぞれ6.1%となっている。

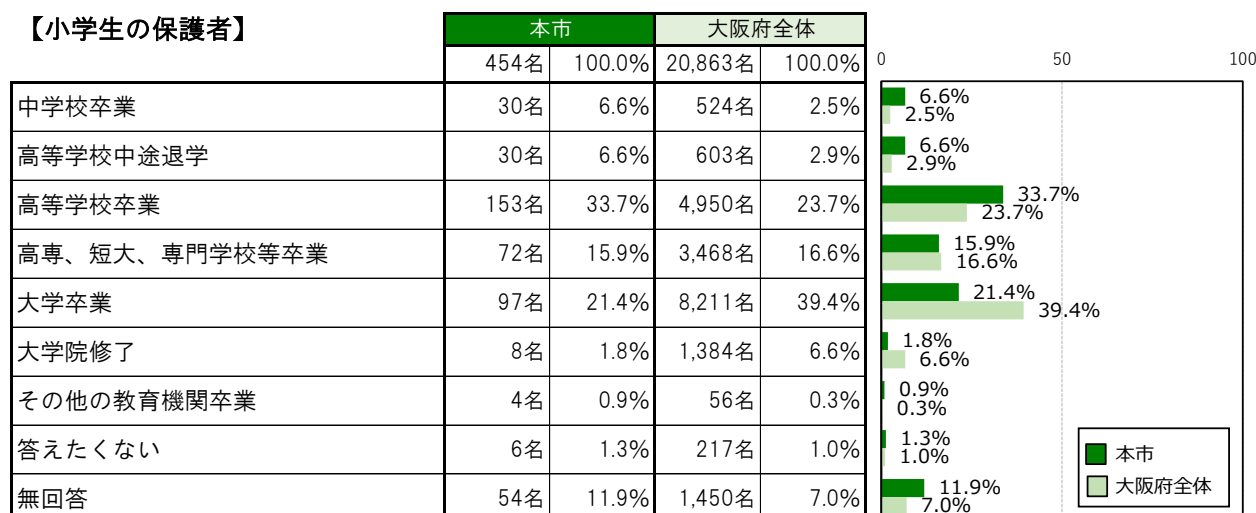
小学生の保護者は、「高等学校卒業」が33.7%で最も多く、次いで「大学卒業」が21.4%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.9%となっている。

中学生の保護者は、「高等学校卒業」が40.7%で最も多く、次いで「高専、短大、専門学校等卒業」が15.4%、「大学卒業」が13.8%、「中学校卒業」が5.2%となっている。

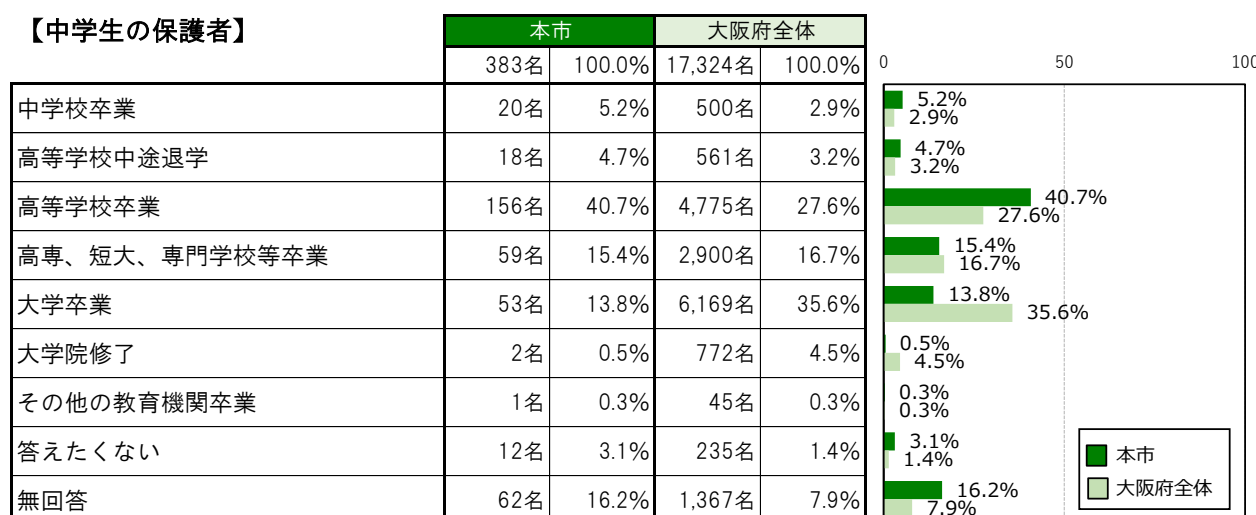
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



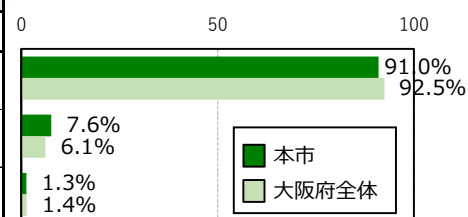
世帯の状況について

問9 お母さんの有無

保護者全体は、「いる」が91.0%、「いない」が7.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が91.6%、「いない」が7.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が90.1%、「いない」が8.9%となっている。

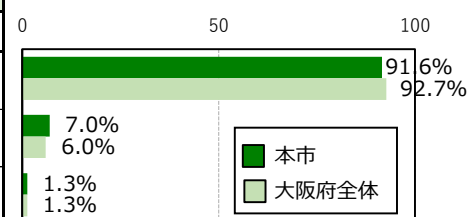
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	823名	91.0%	40,053名	92.5%
いない	69名	7.6%	2,634名	6.1%
無回答	12名	1.3%	613名	1.4%



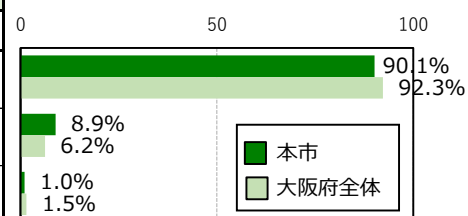
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	416名	91.6%	21,115名	92.7%
いない	32名	7.0%	1,368名	6.0%
無回答	6名	1.3%	303名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	345名	90.1%	17,877名	92.3%
いない	34名	8.9%	1,192名	6.2%
無回答	4名	1.0%	296名	1.5%



世帯の状況について

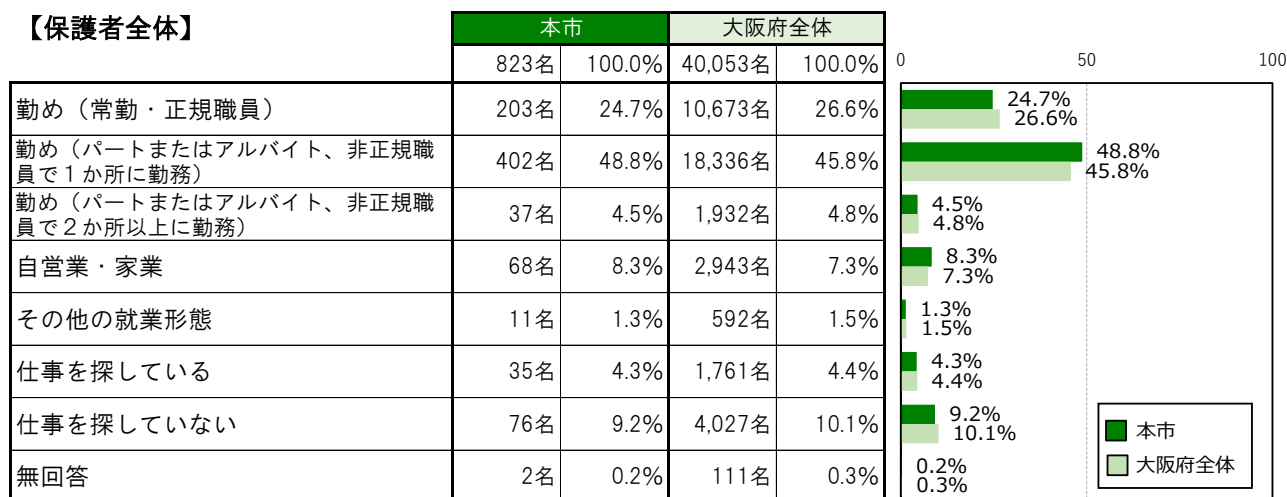
問9 お母さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が48.8%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が24.7%、「仕事を探していない」が9.2%、「自営業・家業」が8.3%となっている。

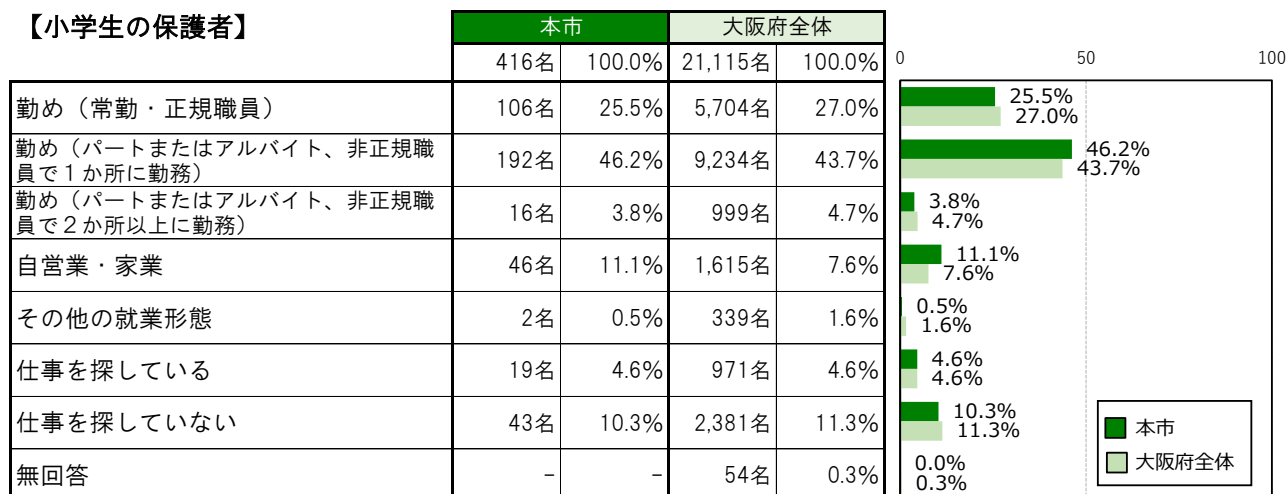
小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が46.2%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が25.5%、「自営業・家業」が11.1%、「仕事を探していない」が10.3%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が52.8%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が22.9%、「仕事を探していない」が8.1%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）」が5.5%となっている。

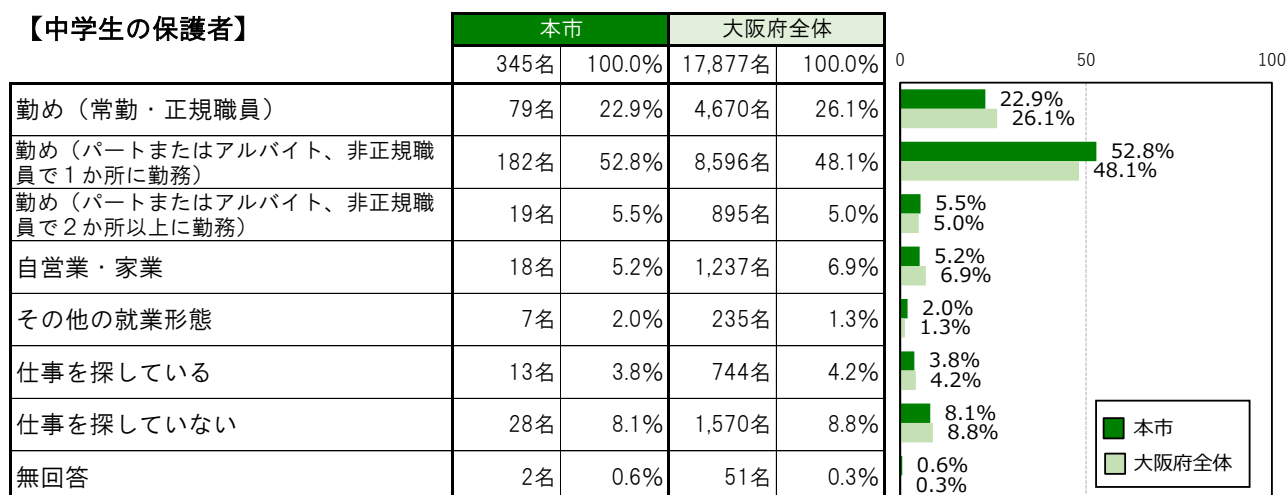
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



●2016年度 調査結果【参考データ】

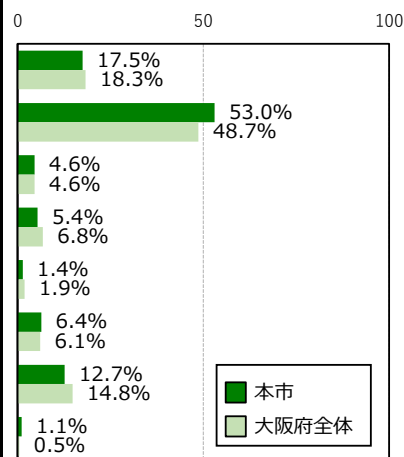
2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が7.2ポイント高いが、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が4.2ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が7.4ポイント高いが、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が5.5ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が6.0ポイント高いが、「仕事を探していない」が3.0ポイント低くなっている。

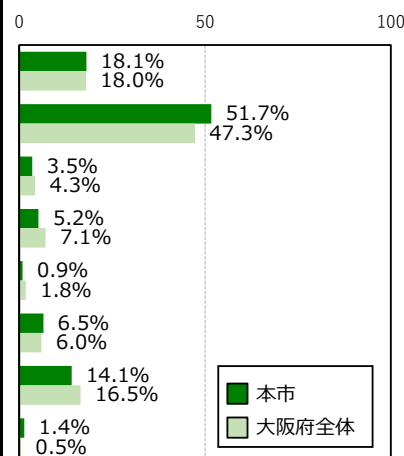
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,255名	100.0%	46,466名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	220名	17.5%	8,505名	18.3%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	665名	53.0%	22,634名	48.7%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	58名	4.6%	2,138名	4.6%
自営業・家業	68名	5.4%	3,162名	6.8%
その他の就業形態	18名	1.4%	861名	1.9%
仕事を探している	80名	6.4%	2,825名	6.1%
仕事を探していない	159名	12.7%	6,870名	14.8%
無回答	14名	1.1%	220名	0.5%



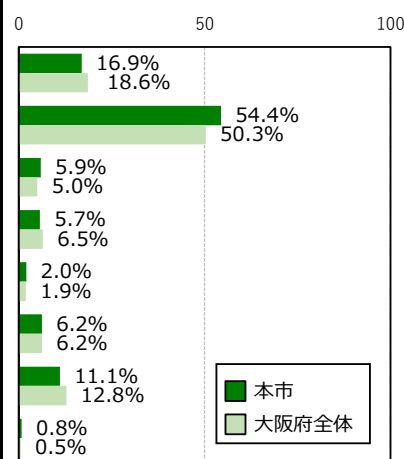
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	659名	100.0%	24,698名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	119名	18.1%	4,449名	18.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	341名	51.7%	11,693名	47.3%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	23名	3.5%	1,060名	4.3%
自営業・家業	34名	5.2%	1,742名	7.1%
その他の就業形態	6名	0.9%	446名	1.8%
仕事を探している	43名	6.5%	1,479名	6.0%
仕事を探していない	93名	14.1%	4,084名	16.5%
無回答	9名	1.4%	116名	0.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	596名	100.0%	21,737名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	101名	16.9%	4,053名	18.6%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	324名	54.4%	10,927名	50.3%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	35名	5.9%	1,076名	5.0%
自営業・家業	34名	5.7%	1,419名	6.5%
その他の就業形態	12名	2.0%	414名	1.9%
仕事を探している	37名	6.2%	1,344名	6.2%
仕事を探していない	66名	11.1%	2,778名	12.8%
無回答	5名	0.8%	104名	0.5%



世帯の状況について

問9 お母さんが仕事を探していない理由

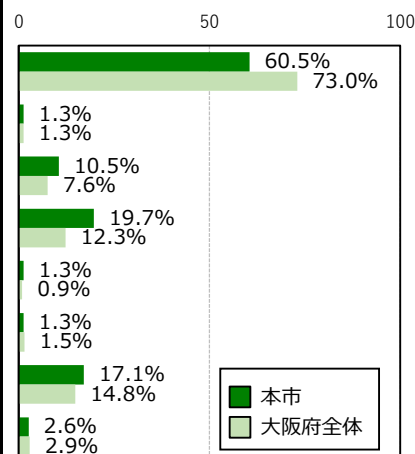
保護者全体は、「家事や育児に専念したいため」が60.5%で最も多く、次いで「病気療養のため」が19.7%、「おうちの人の介護や介助のため」が10.5%となっている。

小学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が62.8%で最も多く、次いで「病気療養のため」が25.6%、「おうちの人の介護や介助のため」が7.0%となっている。

中学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が53.6%で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」が17.9%、「病気療養のため」が10.7%、「学生のため」が3.6%となっている。

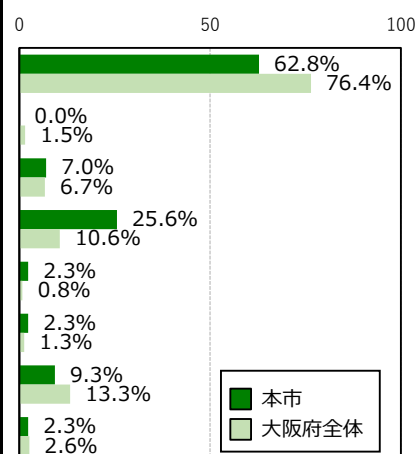
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	76名	100.0%	4,027名	100.0%
家事や育児に専念したいため	46名	60.5%	2,939名	73.0%
学生のため	1名	1.3%	51名	1.3%
おうちの人の介護や介助のため	8名	10.5%	307名	7.6%
病気療養のため	15名	19.7%	496名	12.3%
年金収入があるため	1名	1.3%	35名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	1名	1.3%	62名	1.5%
その他	13名	17.1%	595名	14.8%
無回答	2名	2.6%	115名	2.9%



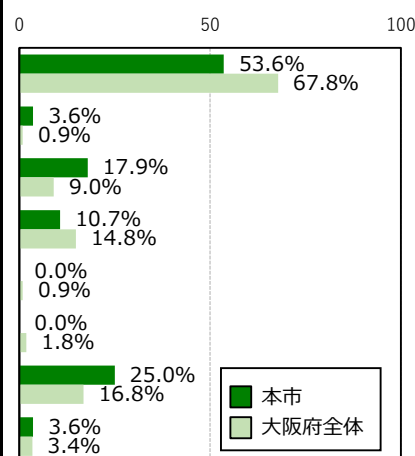
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	43名	100.0%	2,381名	100.0%
家事や育児に専念したいため	27名	62.8%	1,820名	76.4%
学生のため	-	-	36名	1.5%
おうちの人の介護や介助のため	3名	7.0%	160名	6.7%
病気療養のため	11名	25.6%	252名	10.6%
年金収入があるため	1名	2.3%	20名	0.8%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	1名	2.3%	32名	1.3%
その他	4名	9.3%	317名	13.3%
無回答	1名	2.3%	61名	2.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	28名	100.0%	1,570名	100.0%
家事や育児に専念したいため	15名	53.6%	1,064名	67.8%
学生のため	1名	3.6%	14名	0.9%
おうちの人の介護や介助のため	5名	17.9%	141名	9.0%
病気療養のため	3名	10.7%	232名	14.8%
年金収入があるため	-	-	14名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	29名	1.8%
その他	7名	25.0%	263名	16.8%
無回答	1名	3.6%	54名	3.4%



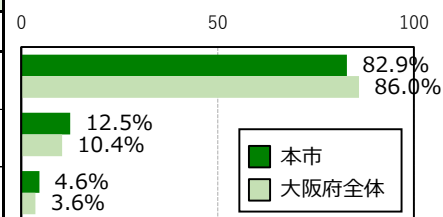
世帯の状況について

問9 お父さんの有無

保護者全体は、「いる」が82.9%、「いない」が12.5%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が84.6%、「いない」が10.6%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が80.7%、「いない」が14.9%となっている。

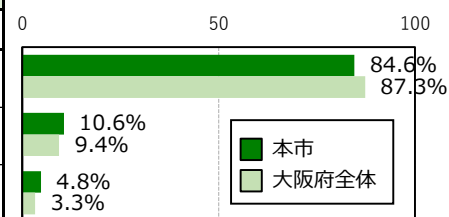
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	749名	82.9%	37,256名	86.0%
いない	113名	12.5%	4,504名	10.4%
無回答	42名	4.6%	1,540名	3.6%



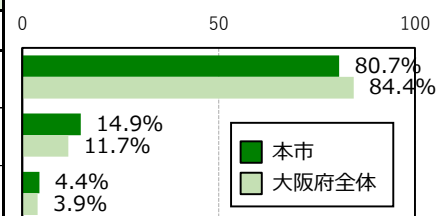
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	384名	84.6%	19,882名	87.3%
いない	48名	10.6%	2,149名	9.4%
無回答	22名	4.8%	755名	3.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	309名	80.7%	16,352名	84.4%
いない	57名	14.9%	2,261名	11.7%
無回答	17名	4.4%	752名	3.9%



世帯の状況について

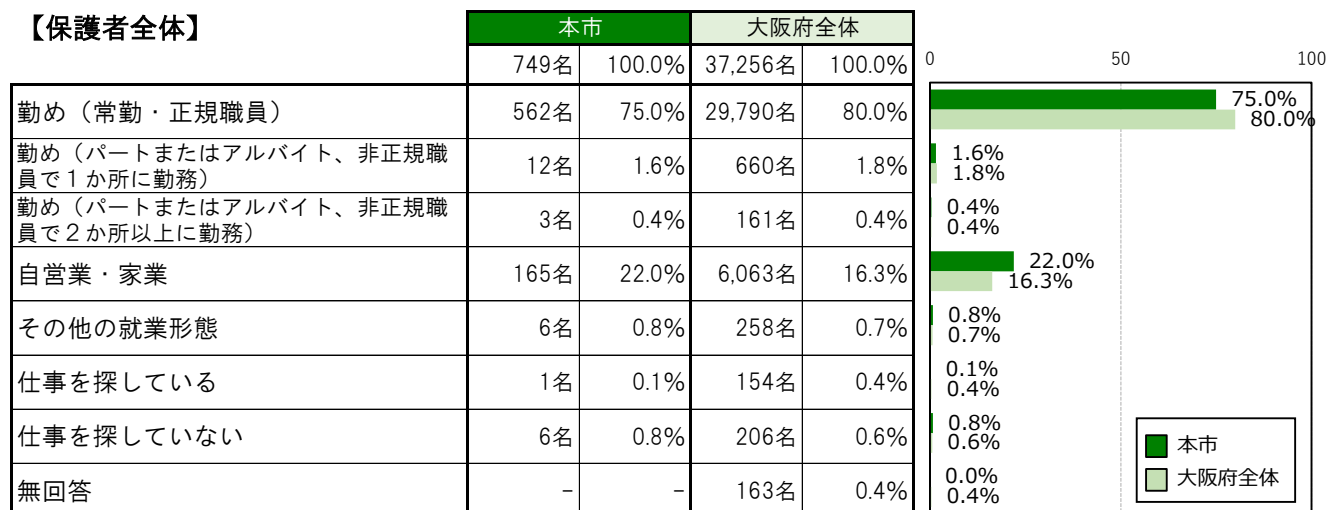
問9 お父さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が75.0%で最も多く、次いで「自営業・家業」が22.0%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.6%となっている。

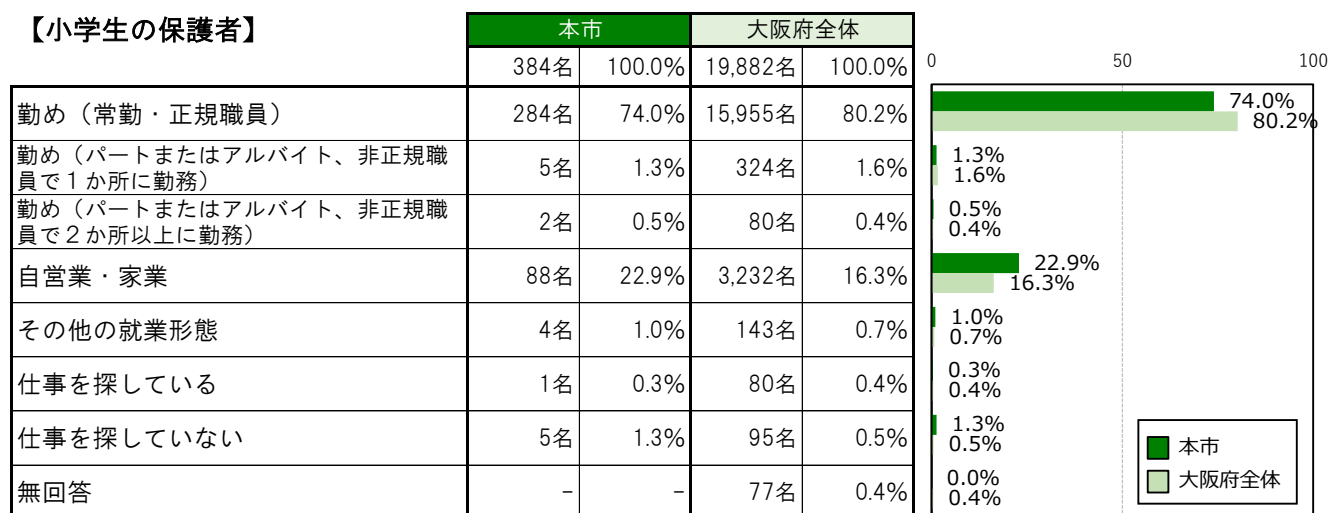
小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が74.0%で最も多く、次いで「自営業・家業」が22.9%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」、「仕事を探していない」がそれぞれ1.3%、「その他の就業形態」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が75.7%で最も多く、次いで「自営業・家業」が21.4%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.9%となっている。

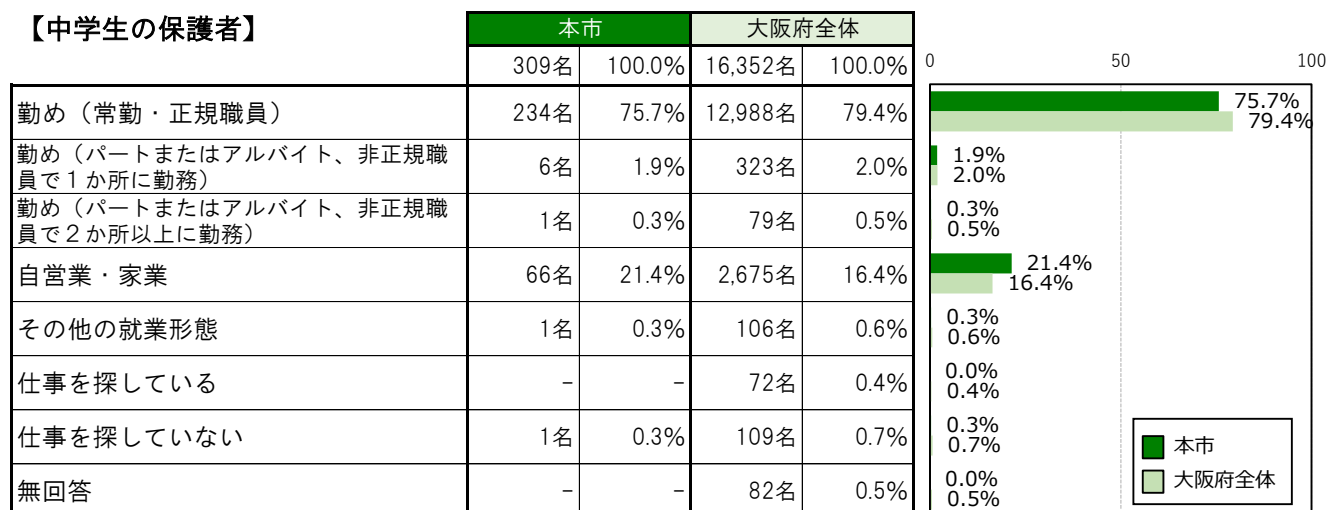
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



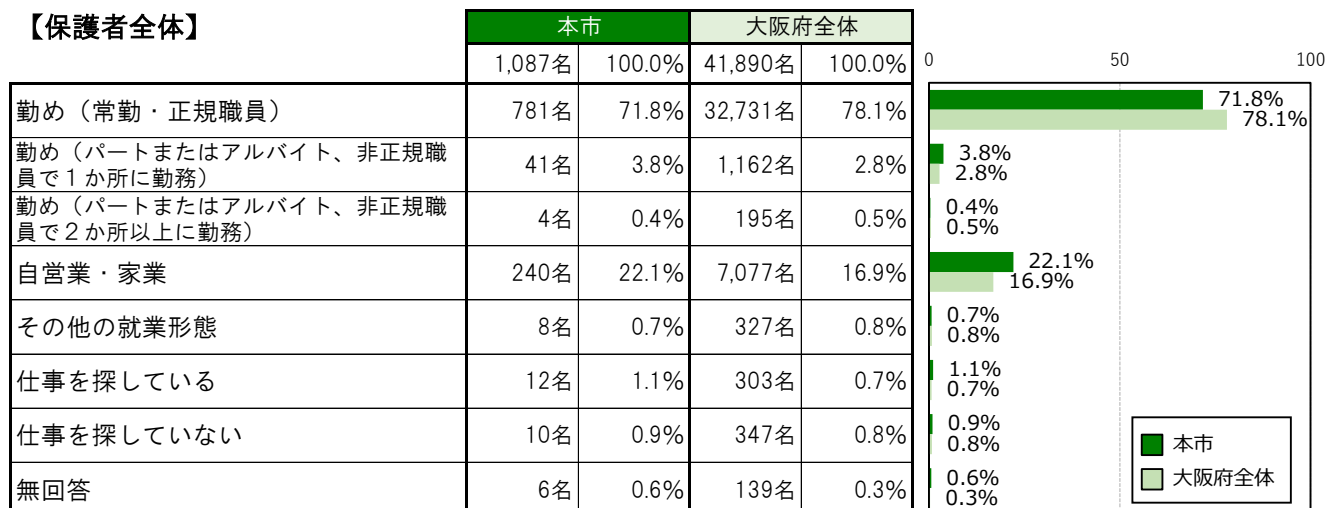
●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が3.2ポイント高くなっている。

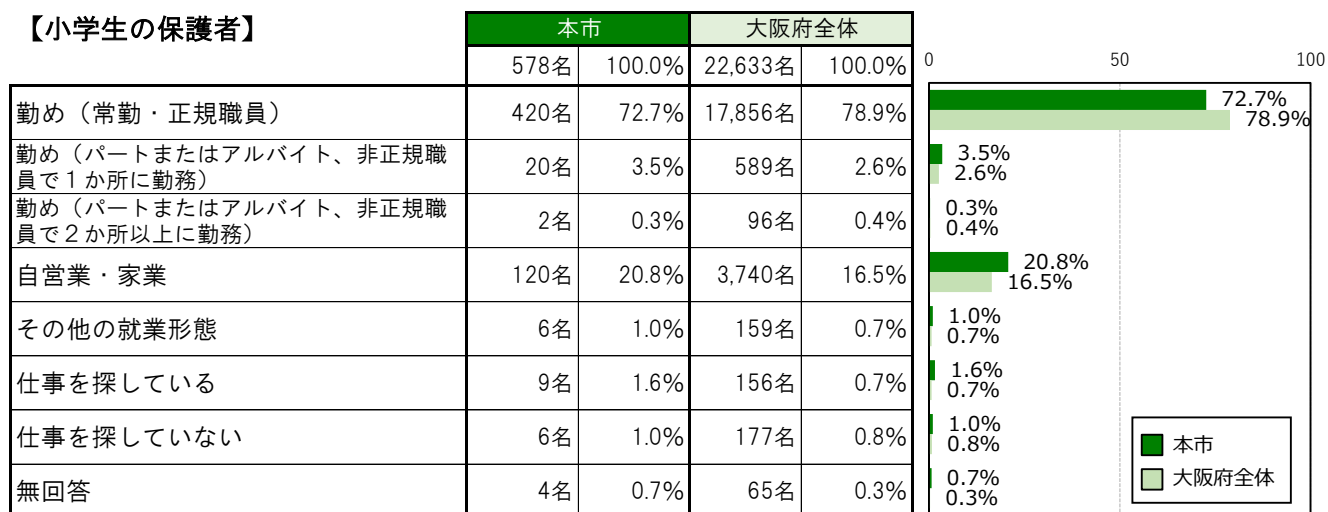
小学生の保護者は、「自営業・家業」が2.1ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が4.8ポイント高くなっている。

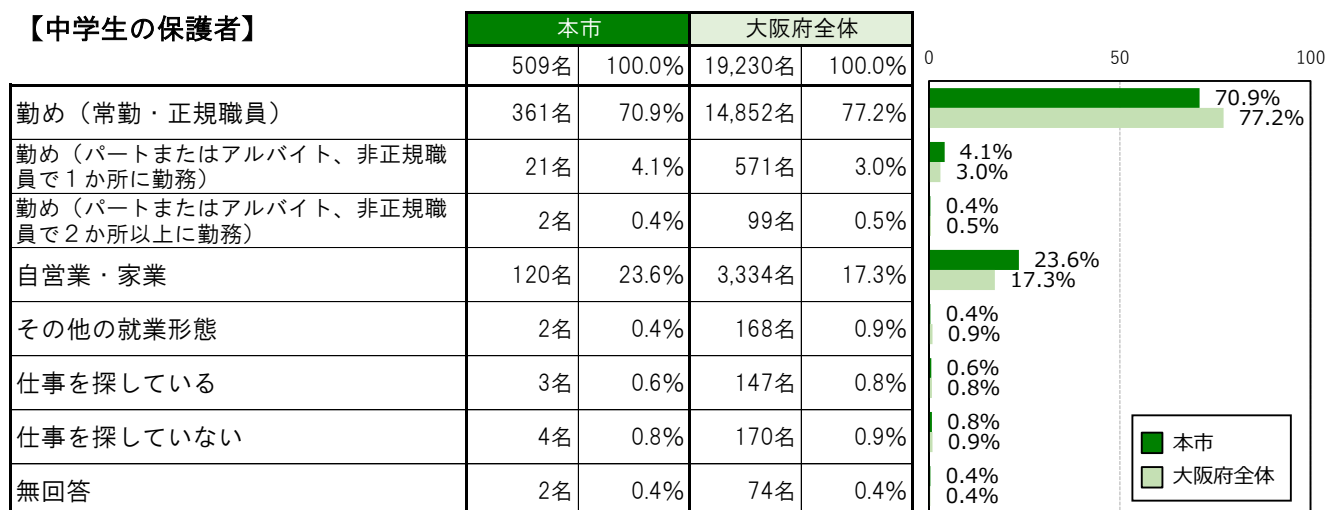
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問9 お父さんが仕事を探していない理由

保護者全体は、「病気療養のため」が50.0%（3名）で最も多く、次いで「家事や育児に専念したいため」、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」がそれぞれ16.7%（1名）となっている。

小学生の保護者は、「病気療養のため」が40.0%（2名）で最も多くなっている。

中学生の保護者は、「病気療養のため」が100.0%（1名）となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



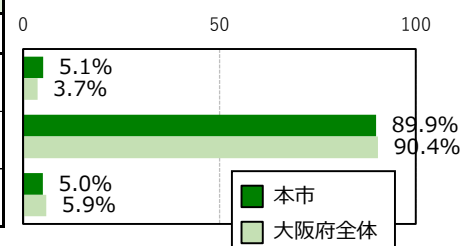
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の有無

保護者全体は、「いる」が5.1%、「いない」が89.9%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が4.8%、「いない」が89.4%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が5.2%、「いない」が90.6%となっている。

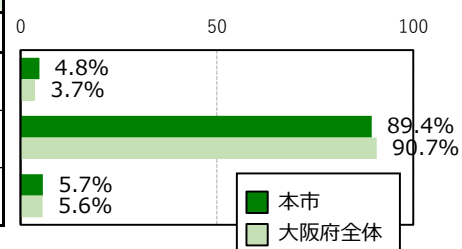
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	46名	5.1%	1,611名	3.7%
いない	813名	89.9%	39,140名	90.4%
無回答	45名	5.0%	2,549名	5.9%



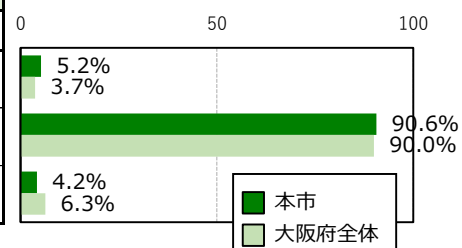
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	22名	4.8%	854名	3.7%
いない	406名	89.4%	20,666名	90.7%
無回答	26名	5.7%	1,266名	5.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	20名	5.2%	718名	3.7%
いない	347名	90.6%	17,432名	90.0%
無回答	16名	4.2%	1,215名	6.3%



世帯の状況について

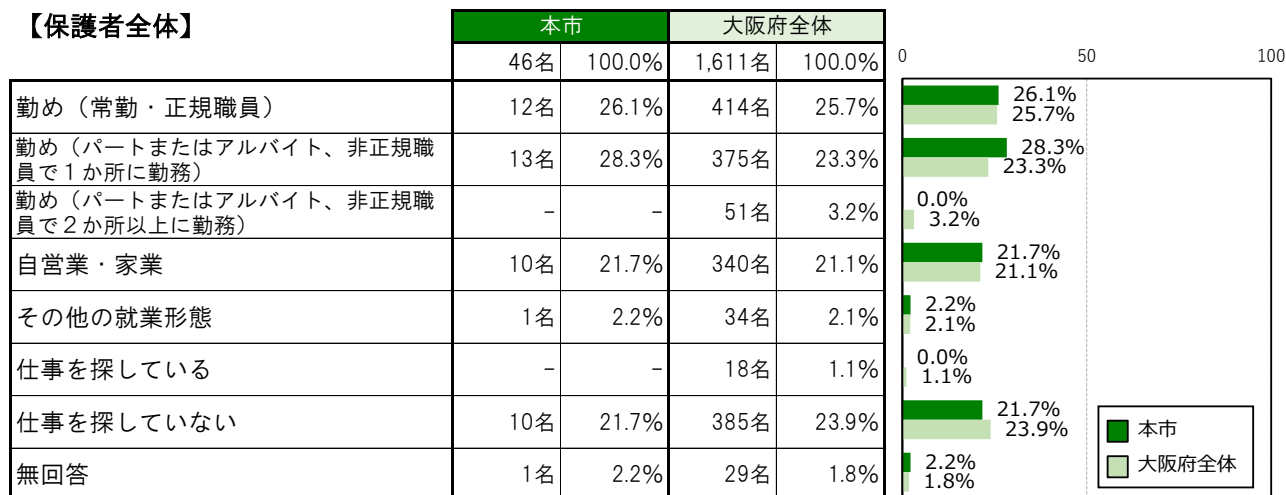
問9 親以外に主として家計を支えている人の就業状況

保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が28.3%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が26.1%、「自営業・家業」、「仕事を探していない」がそれぞれ21.7%、「その他の就業形態」が2.2%となっている。

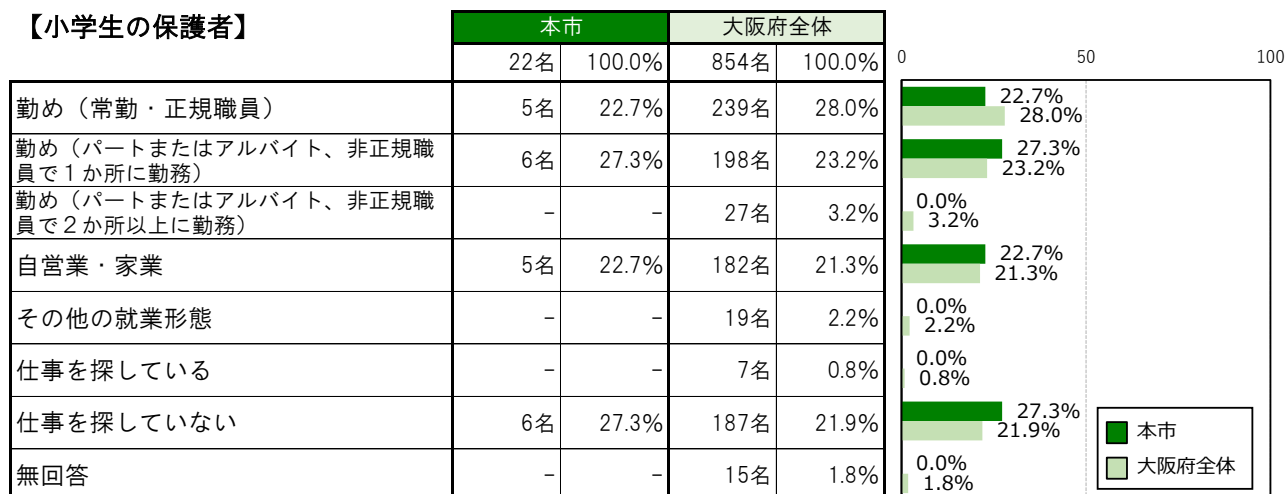
小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」、「仕事を探していない」がそれぞれ27.3%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」、「自営業・家業」がそれぞれ22.7%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が35.0%で最も多く、次いで「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が30.0%、「仕事を探していない」が20.0%、「自営業・家業」が10.0%となっている。

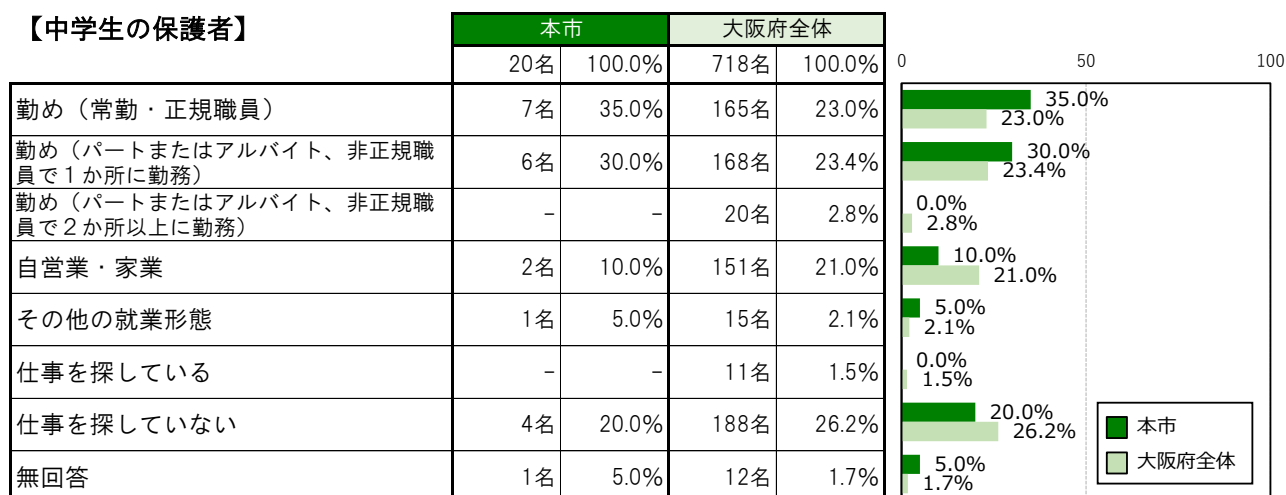
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

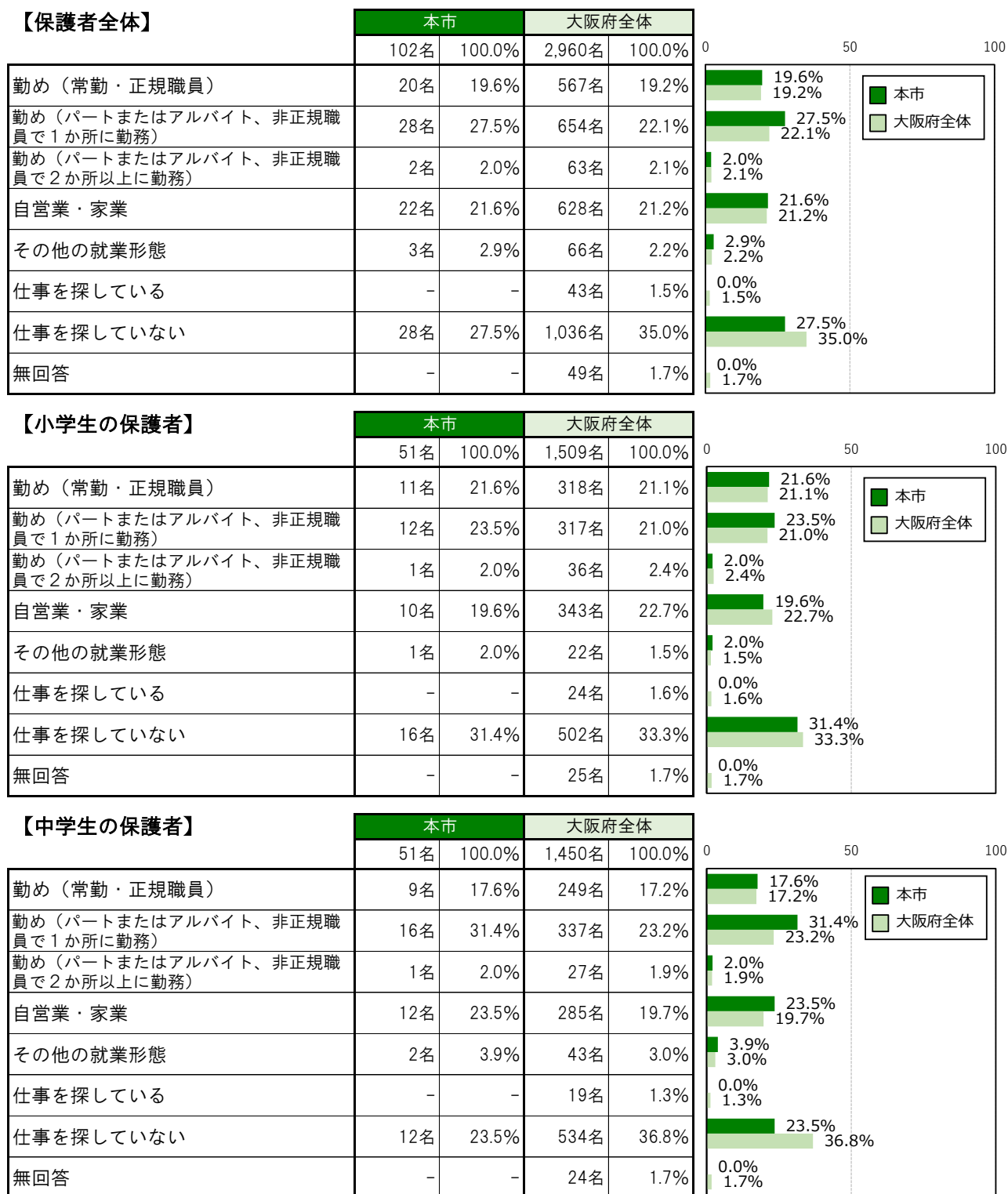


●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が6.5ポイント高いが、「仕事を探していない」が5.8ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「仕事を探していない」が4.1ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が17.4ポイント高くなっている。



世帯の状況について

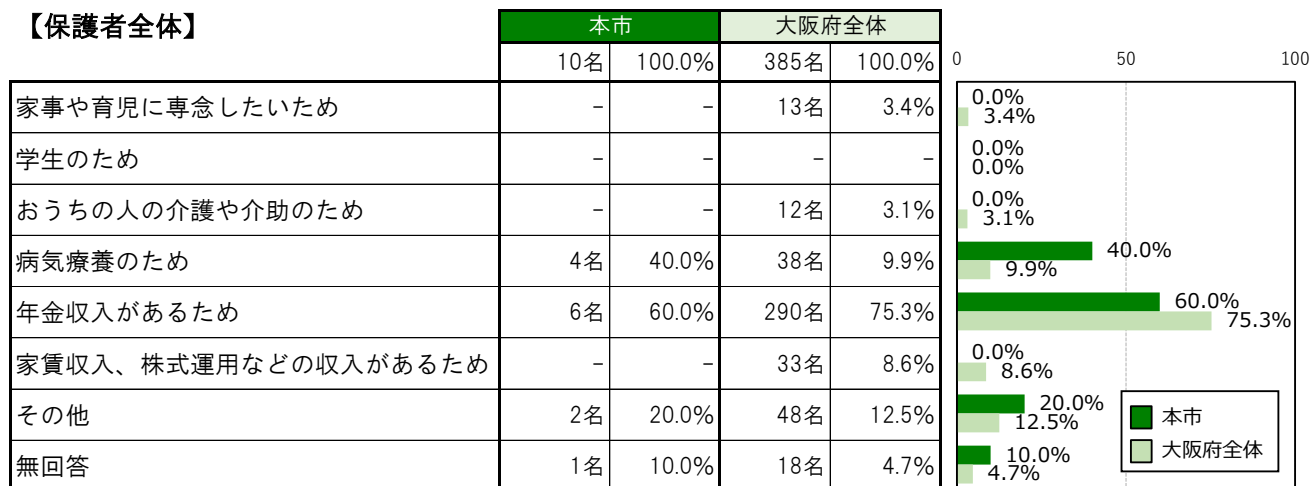
問9 親以外に主として家計を支えている人が仕事を探していない理由

保護者全体は、「年金収入があるため」が60.0%（6名）で最も多く、次いで「病気療養のため」が40.0%（4名）となっている。

小学生の保護者は、「年金収入があるため」が83.3%（5名）で最も多く、次いで「病気療養のため」が16.7%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「病気療養のため」が75.0%（3名）で最も多く、次いで「年金収入があるため」が25.0%（1名）となっている。

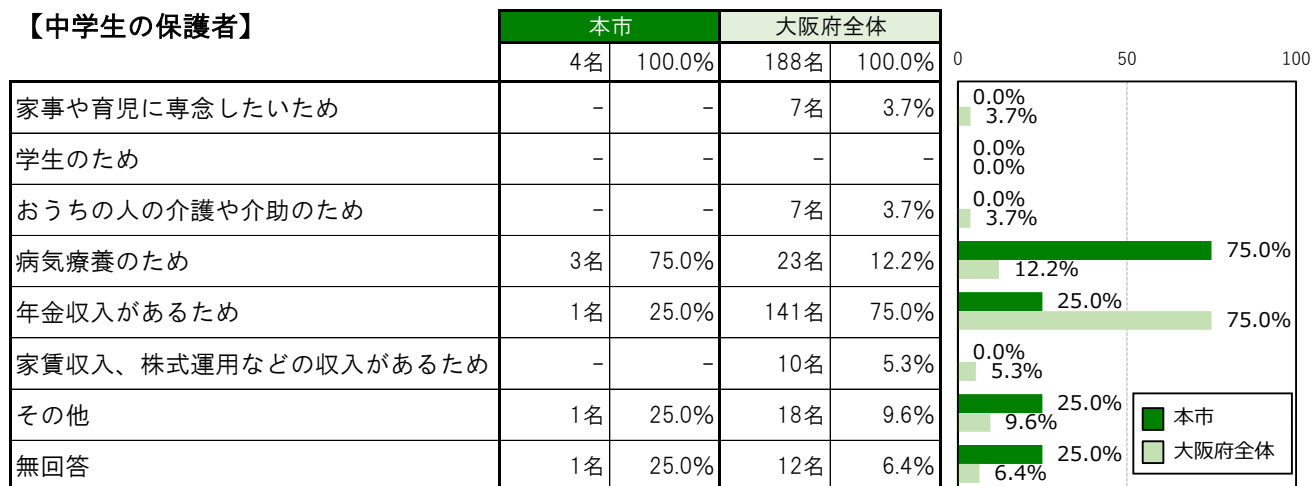
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問10 保護者が家にいる時間帯

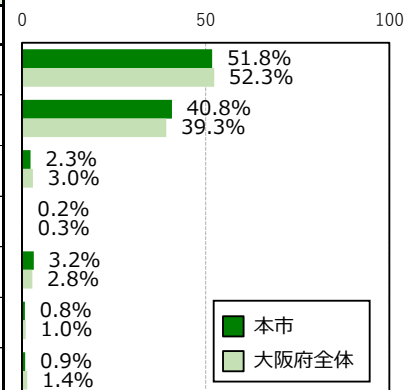
保護者全体は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が51.8%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が40.8%、「帰宅時間が決まっていない」が3.2%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が2.3%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が54.4%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が39.0%、「お子さんの寝る時間には家にいる」、「帰宅時間が決まっていない」がそれぞれ2.2%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が50.4%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が40.5%、「帰宅時間が決まっていない」が4.7%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が2.9%となっている。

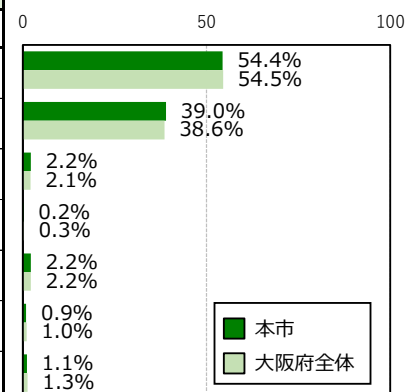
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	468名	51.8%	22,638名	52.3%
お子さんの夕食時間には家にいる	369名	40.8%	17,029名	39.3%
お子さんの寝る時間には家にいる	21名	2.3%	1,283名	3.0%
お子さんが寝た後に帰ってくる	2名	0.2%	129名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	29名	3.2%	1,212名	2.8%
その他	7名	0.8%	416名	1.0%
無回答	8名	0.9%	593名	1.4%



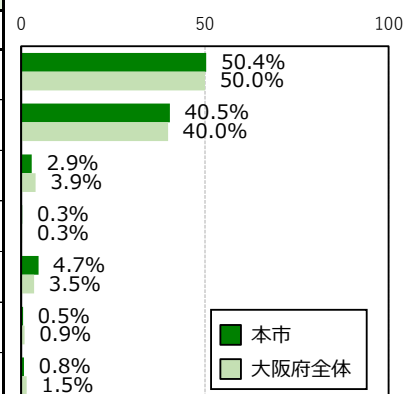
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	247名	54.4%	12,408名	54.5%
お子さんの夕食時間には家にいる	177名	39.0%	8,796名	38.6%
お子さんの寝る時間には家にいる	10名	2.2%	489名	2.1%
お子さんが寝た後に帰ってくる	1名	0.2%	66名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	10名	2.2%	505名	2.2%
その他	4名	0.9%	222名	1.0%
無回答	5名	1.1%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	193名	50.4%	9,674名	50.0%
お子さんの夕食時間には家にいる	155名	40.5%	7,739名	40.0%
お子さんの寝る時間には家にいる	11名	2.9%	747名	3.9%
お子さんが寝た後に帰ってくる	1名	0.3%	61名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	18名	4.7%	676名	3.5%
その他	2名	0.5%	182名	0.9%
無回答	3名	0.8%	286名	1.5%



世帯の状況について

問11 日本語以外の言語の使用状況

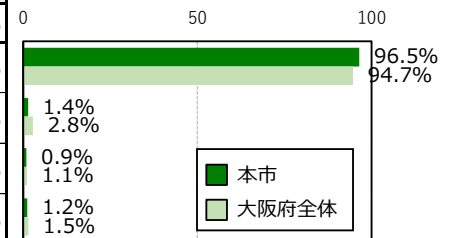
保護者全体は、「日本語のみを使用している」が96.5%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が1.4%となっている。

小学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が96.5%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」、「日本語以外の言語を使うことが多い」がそれぞれ1.1%となっている。

中学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が95.8%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.1%となっている。

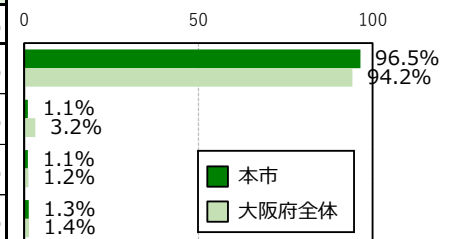
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
日本語のみを使用している	872名	96.5%	40,991名	94.7%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	13名	1.4%	1,201名	2.8%
日本語以外の言語を使うことが多い	8名	0.9%	476名	1.1%
無回答	11名	1.2%	632名	1.5%



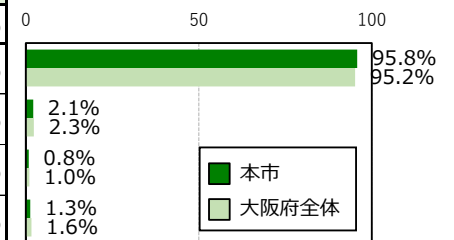
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
日本語のみを使用している	438名	96.5%	21,457名	94.2%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	5名	1.1%	729名	3.2%
日本語以外の言語を使うことが多い	5名	1.1%	280名	1.2%
無回答	6名	1.3%	320名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
日本語のみを使用している	367名	95.8%	18,426名	95.2%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	8名	2.1%	446名	2.3%
日本語以外の言語を使うことが多い	3名	0.8%	188名	1.0%
無回答	5名	1.3%	305名	1.6%



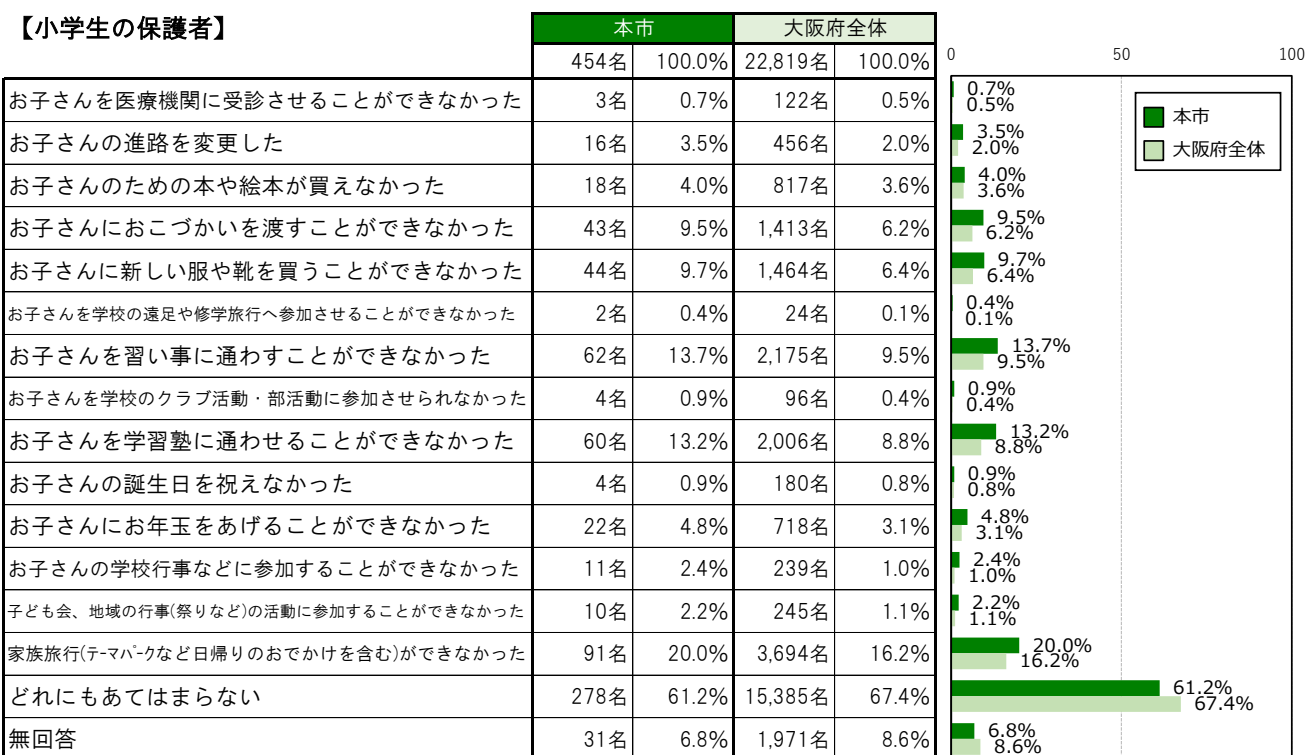
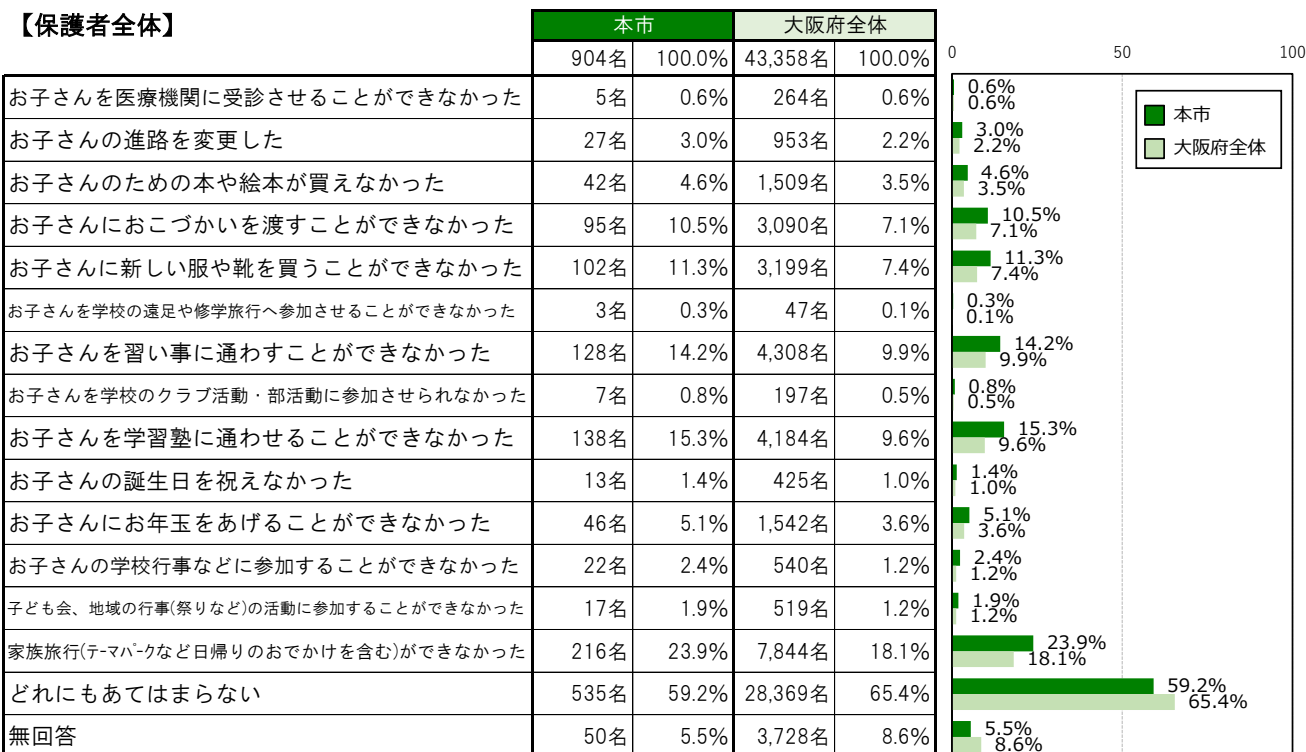
子どもに関することについて

問12 経済的な理由による子どもに関する経験

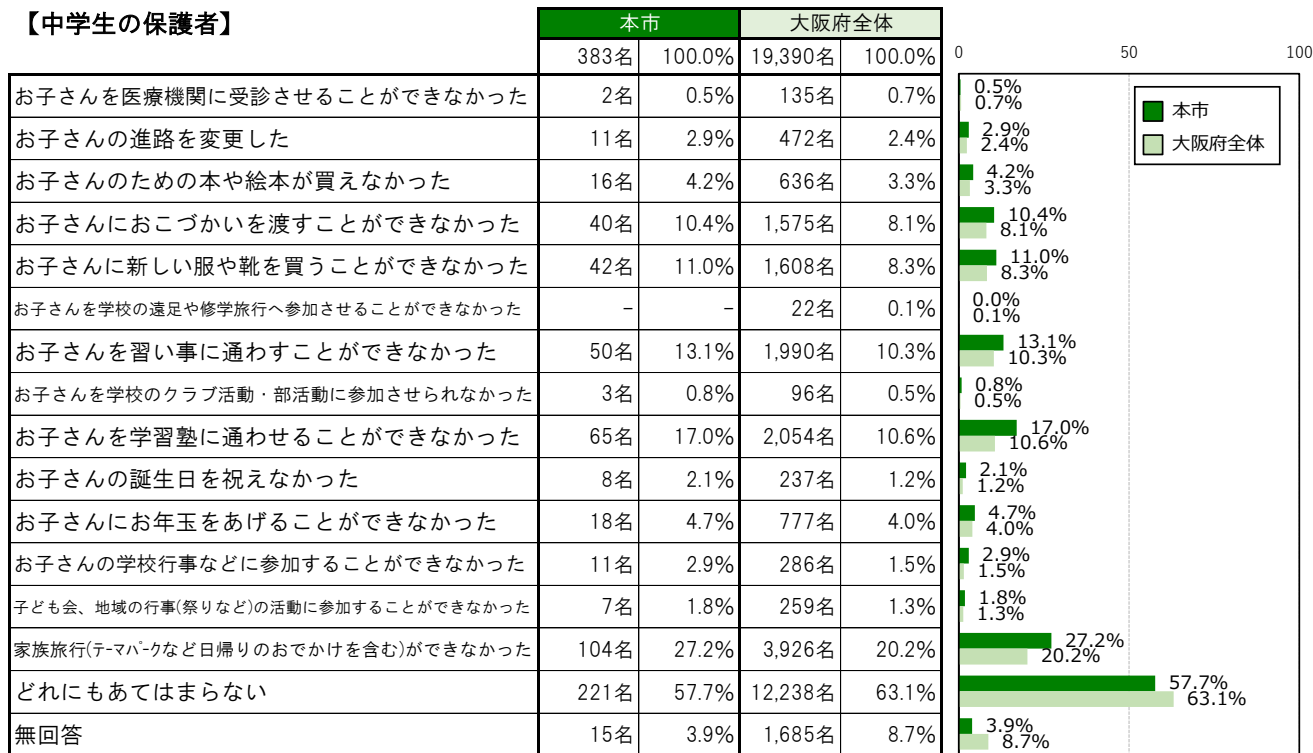
保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が59.2%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が23.9%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が15.3%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が14.2%となっている。

小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が61.2%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が20.0%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が13.7%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が13.2%となっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が57.7%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が27.2%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が17.0%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が13.1%となっている。

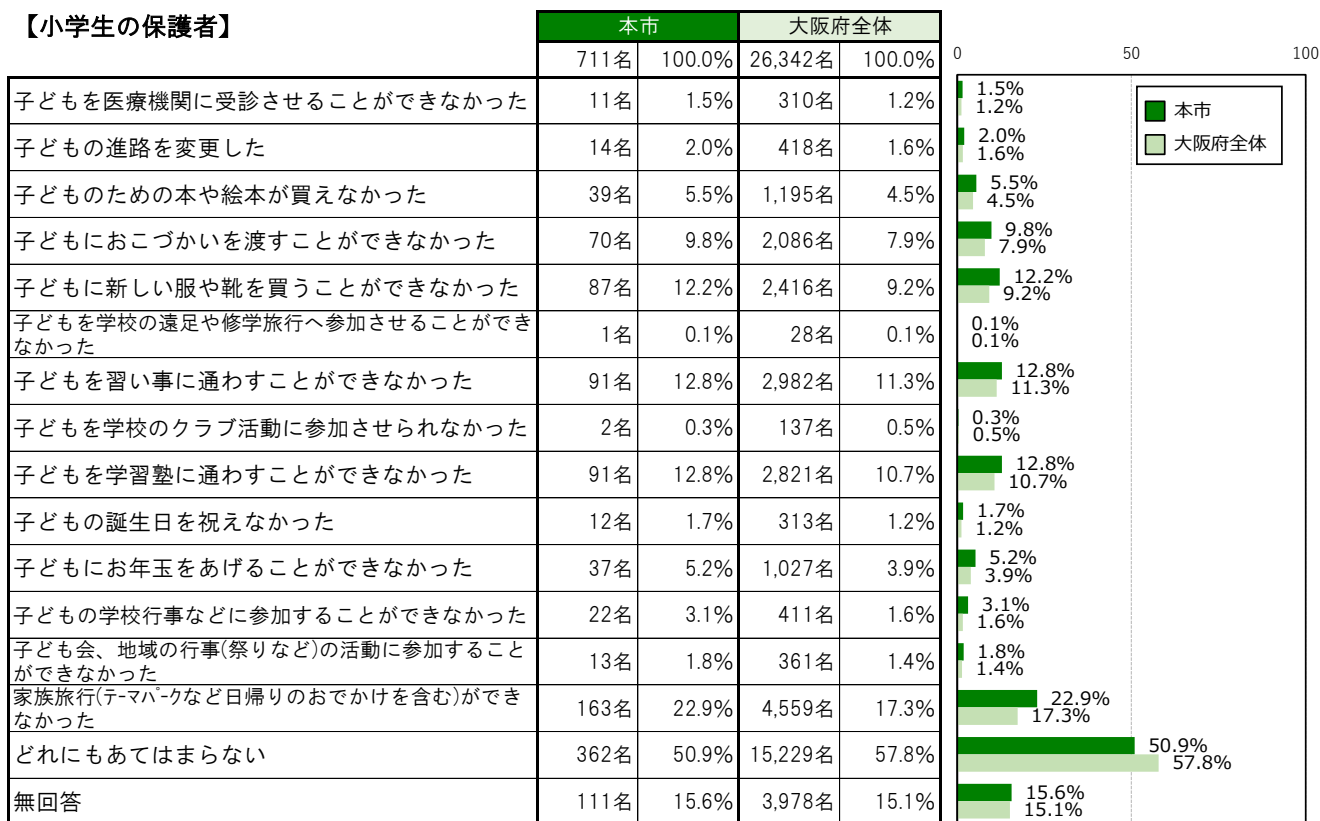
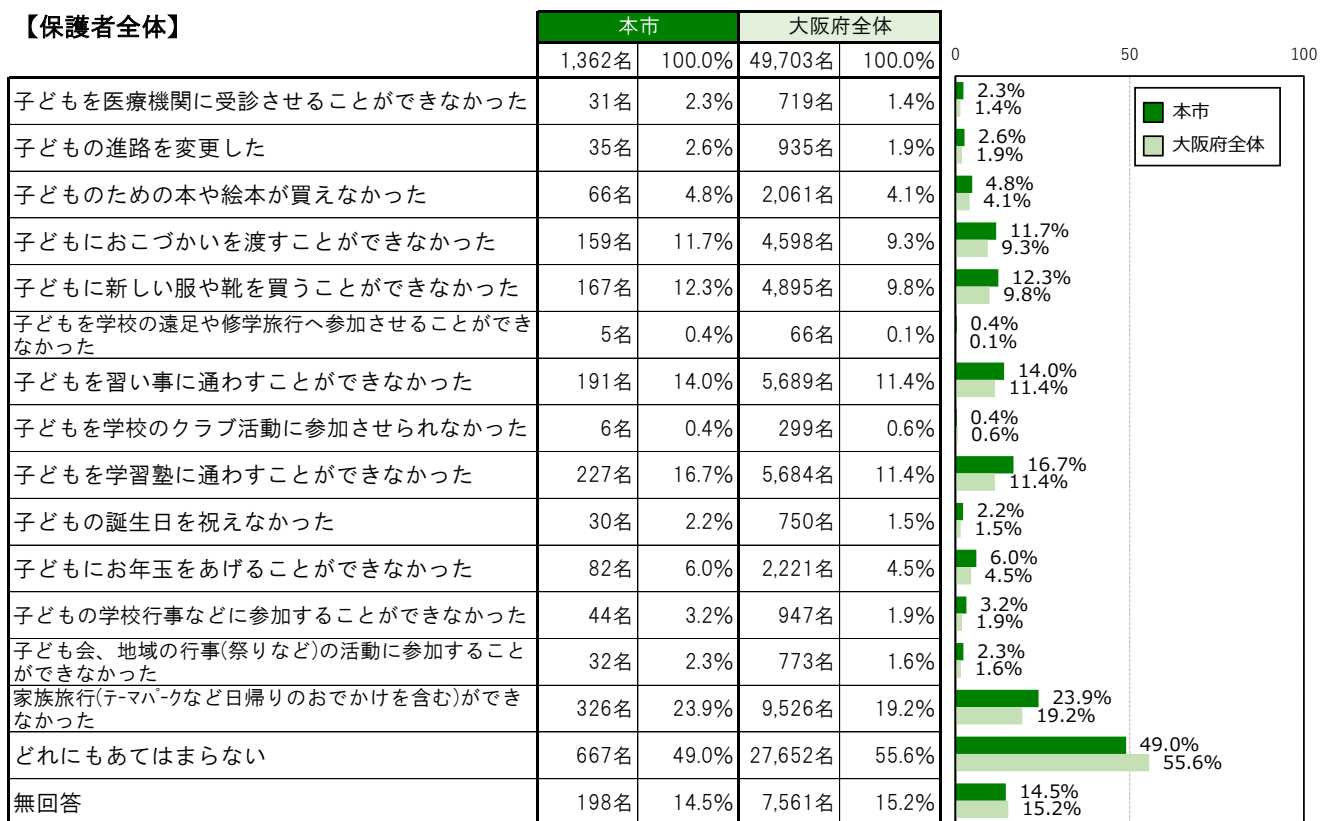


【中学生の保護者】

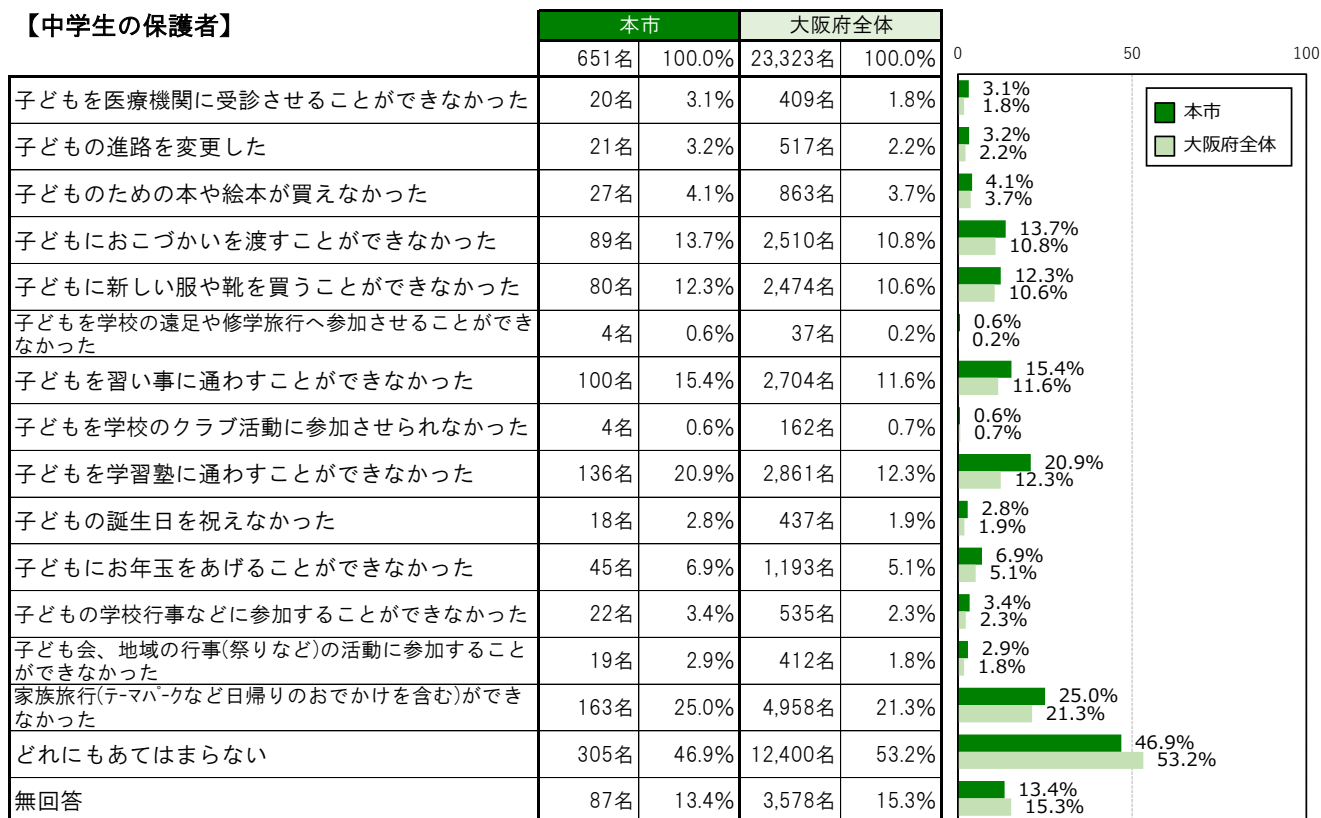


●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、大きな差はみられない。
 小学生の保護者は、大きな差はみられない。
 中学生の保護者は、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が3.9ポイント低くなっている。



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13（１）子どもへの信頼度

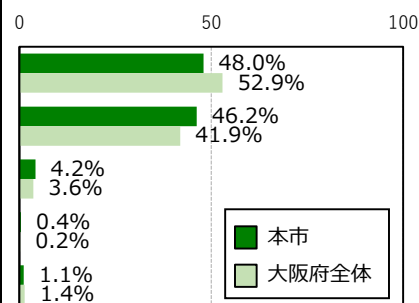
保護者全体は、「とても信頼している」が48.0%で最も多く、次いで「信頼している」が46.2%、「あまり信頼していない」が4.2%となっている。

小学生の保護者は、「とても信頼している」が52.4%で最も多く、次いで「信頼している」が43.4%、「あまり信頼していない」が3.3%となっている。

中学生の保護者は、「信頼している」が48.0%で最も多く、次いで「とても信頼している」が44.1%、「あまり信頼していない」が5.2%となっている。

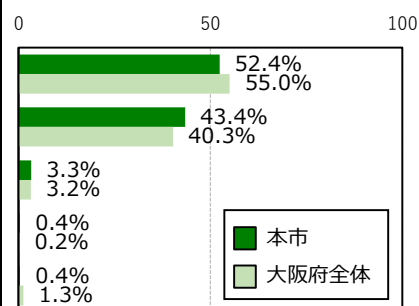
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,358名	100.0%
とても信頼している	434名	48.0%	22,948名	52.9%
信頼している	418名	46.2%	18,151名	41.9%
あまり信頼していない	38名	4.2%	1,566名	3.6%
信頼していない	4名	0.4%	101名	0.2%
無回答	10名	1.1%	592名	1.4%



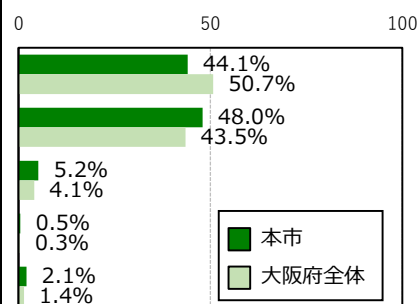
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,819名	100.0%
とても信頼している	238名	52.4%	12,553名	55.0%
信頼している	197名	43.4%	9,191名	40.3%
あまり信頼していない	15名	3.3%	720名	3.2%
信頼していない	2名	0.4%	48名	0.2%
無回答	2名	0.4%	307名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,390名	100.0%
とても信頼している	169名	44.1%	9,835名	50.7%
信頼している	184名	48.0%	8,429名	43.5%
あまり信頼していない	20名	5.2%	796名	4.1%
信頼していない	2名	0.5%	50名	0.3%
無回答	8名	2.1%	280名	1.4%



子どもに関することについて

問13（２）子どもとの会話頻度

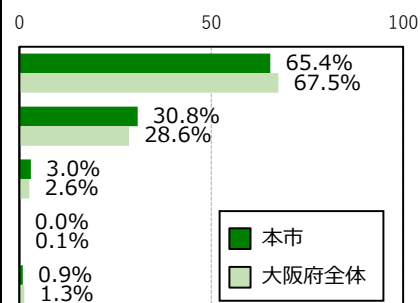
保護者全体は、「よくする」が65.4%で最も多く、次いで「する」が30.8%、「あまりしない」が3.0%となっている。

小学生の保護者は、「よくする」が71.8%で最も多く、次いで「する」が25.8%、「あまりしない」が2.0%となっている。

中学生の保護者は、「よくする」が60.3%で最も多く、次いで「する」が34.2%、「あまりしない」が3.9%となっている。

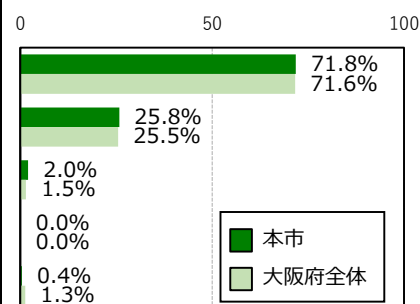
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	591名	65.4%	29,262名	67.5%
する	278名	30.8%	12,391名	28.6%
あまりしない	27名	3.0%	1,110名	2.6%
しない	-	-	30名	0.1%
無回答	8名	0.9%	565名	1.3%



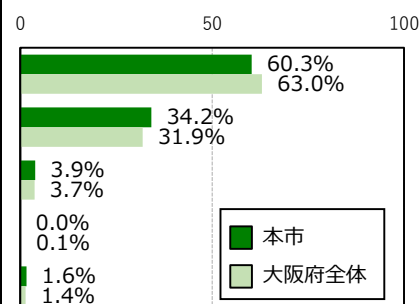
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	326名	71.8%	16,345名	71.6%
する	117名	25.8%	5,827名	25.5%
あまりしない	9名	2.0%	337名	1.5%
しない	-	-	10名	0.0%
無回答	2名	0.4%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	231名	60.3%	12,214名	63.0%
する	131名	34.2%	6,176名	31.9%
あまりしない	15名	3.9%	719名	3.7%
しない	-	-	19名	0.1%
無回答	6名	1.6%	262名	1.4%



子どもに関することについて

問13（３）平日での子どもとの関わり時間

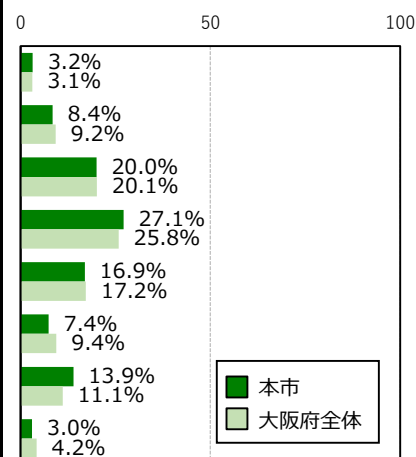
保護者全体は、「１時間～２時間未満」が27.1%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が20.0%、「２時間～３時間未満」が16.9%、「４時間以上」が13.9%となっている。

小学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が27.3%で最も多く、次いで「２時間～３時間未満」が17.8%、「４時間以上」が16.7%、「30分～１時間未満」が15.0%となっている。

中学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が26.9%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が24.8%、「２時間～３時間未満」が16.2%、「４時間以上」が11.0%となっている。

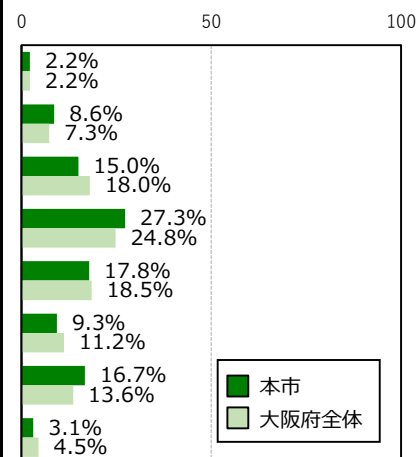
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,358名	100.0%
０～15分未満	29名	3.2%	1,323名	3.1%
15分～30分未満	76名	8.4%	3,978名	9.2%
30分～１時間未満	181名	20.0%	8,701名	20.1%
１時間～２時間未満	245名	27.1%	11,171名	25.8%
２時間～３時間未満	153名	16.9%	7,479名	17.2%
３時間～４時間未満	67名	7.4%	4,091名	9.4%
４時間以上	126名	13.9%	4,813名	11.1%
無回答	27名	3.0%	1,802名	4.2%



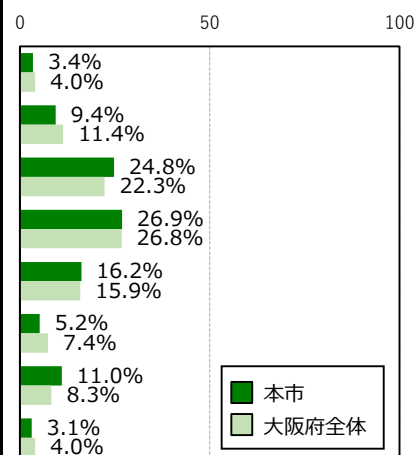
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,819名	100.0%
０～15分未満	10名	2.2%	494名	2.2%
15分～30分未満	39名	8.6%	1,662名	7.3%
30分～１時間未満	68名	15.0%	4,099名	18.0%
１時間～２時間未満	124名	27.3%	5,657名	24.8%
２時間～３時間未満	81名	17.8%	4,224名	18.5%
３時間～４時間未満	42名	9.3%	2,561名	11.2%
４時間以上	76名	16.7%	3,100名	13.6%
無回答	14名	3.1%	1,022名	4.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,390名	100.0%
０～15分未満	13名	3.4%	771名	4.0%
15分～30分未満	36名	9.4%	2,205名	11.4%
30分～１時間未満	95名	24.8%	4,316名	22.3%
１時間～２時間未満	103名	26.9%	5,203名	26.8%
２時間～３時間未満	62名	16.2%	3,075名	15.9%
３時間～４時間未満	20名	5.2%	1,435名	7.4%
４時間以上	42名	11.0%	1,617名	8.3%
無回答	12名	3.1%	768名	4.0%



子どもに関することについて

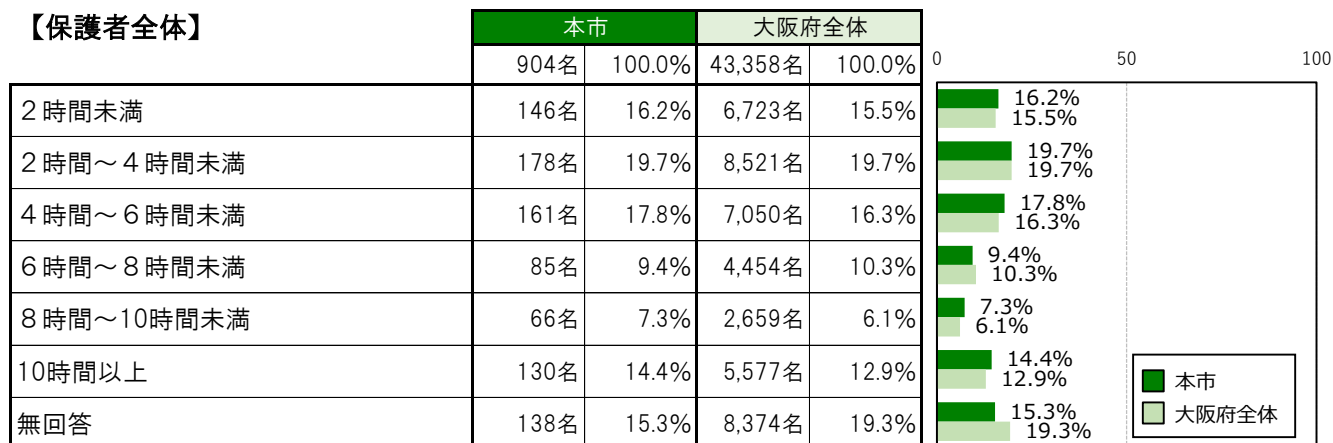
問13（３）休日での子どもとの関わり時間

保護者全体は、「２時間～４時間未満」が19.7%で最も多く、次いで「４時間～６時間未満」が17.8%、「２時間未満」が16.2%、「10時間以上」が14.4%となっている。

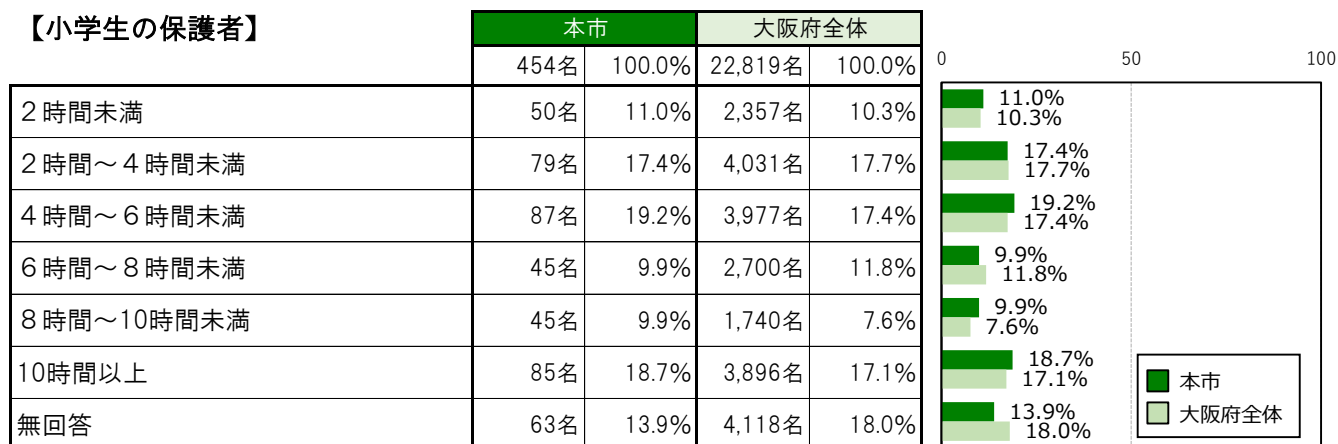
小学生の保護者は、「４時間～６時間未満」が19.2%で最も多く、次いで「10時間以上」が18.7%、「２時間～４時間未満」が17.4%、「２時間未満」が11.0%となっている。

中学生の保護者は、「２時間～４時間未満」が23.0%で最も多く、次いで「２時間未満」が21.1%、「４時間～６時間未満」が15.9%、「10時間以上」が9.1%となっている。

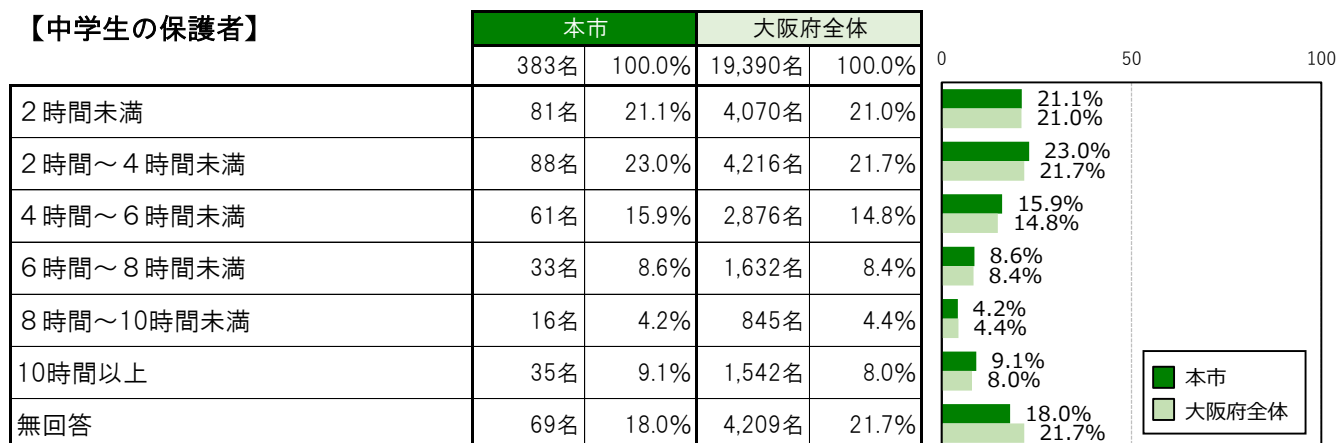
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13（４）子どもの将来への期待度

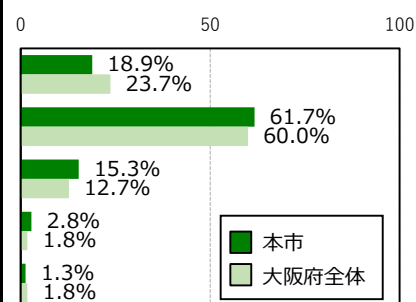
保護者全体は、「期待している」が61.7%で最も多く、次いで「とても期待している」が18.9%、「あまり期待していない」が15.3%、「期待していない」が2.8%となっている。

小学生の保護者は、「期待している」が63.7%で最も多く、次いで「とても期待している」が21.8%、「あまり期待していない」が12.1%、「期待していない」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「期待している」が58.0%で最も多く、次いで「あまり期待していない」が18.3%、「とても期待している」が17.8%、「期待していない」が3.9%となっている。

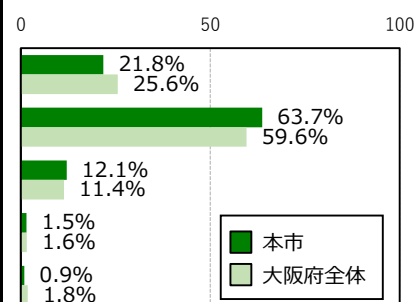
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	171名	18.9%	10,264名	23.7%
期待している	558名	61.7%	26,035名	60.0%
あまり期待していない	138名	15.3%	5,485名	12.7%
期待していない	25名	2.8%	779名	1.8%
無回答	12名	1.3%	795名	1.8%



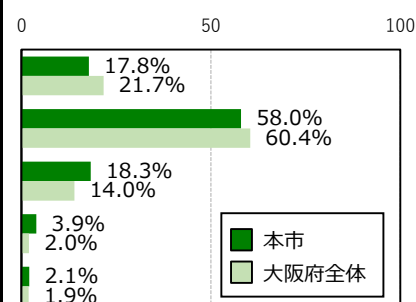
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	99名	21.8%	5,831名	25.6%
期待している	289名	63.7%	13,610名	59.6%
あまり期待していない	55名	12.1%	2,603名	11.4%
期待していない	7名	1.5%	363名	1.6%
無回答	4名	0.9%	412名	1.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	68名	17.8%	4,207名	21.7%
期待している	222名	58.0%	11,704名	60.4%
あまり期待していない	70名	18.3%	2,717名	14.0%
期待していない	15名	3.9%	388名	2.0%
無回答	8名	2.1%	374名	1.9%



子どもに関することについて

問13（５）子どもの授業参観や運動会などの学校行事への参加状況

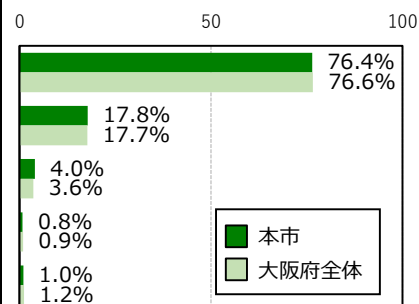
保護者全体は、「よく参加している」が76.4%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が17.8%、「あまり参加していない」が4.0%となっている。

小学生の保護者は、「よく参加している」が87.9%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が8.8%、「あまり参加していない」が2.4%となっている。

中学生の保護者は、「よく参加している」が63.4%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が27.7%、「あまり参加していない」が5.7%、「まったく参加していない」が1.3%となっている。

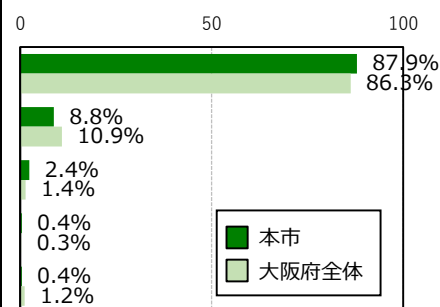
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,358名	100.0%
よく参加している	691名	76.4%	33,215名	76.6%
ときどき参加している	161名	17.8%	7,691名	17.7%
あまり参加していない	36名	4.0%	1,550名	3.6%
まったく参加していない	7名	0.8%	376名	0.9%
無回答	9名	1.0%	526名	1.2%



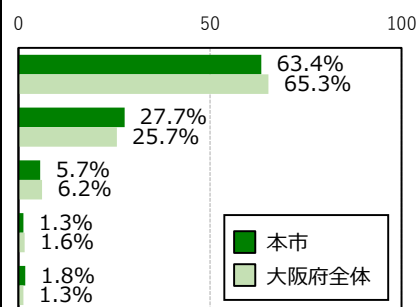
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,819名	100.0%
よく参加している	399名	87.9%	19,697名	86.3%
ときどき参加している	40名	8.8%	2,477名	10.9%
あまり参加していない	11名	2.4%	309名	1.4%
まったく参加していない	2名	0.4%	58名	0.3%
無回答	2名	0.4%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,390名	100.0%
よく参加している	243名	63.4%	12,665名	65.3%
ときどき参加している	106名	27.7%	4,975名	25.7%
あまり参加していない	22名	5.7%	1,202名	6.2%
まったく参加していない	5名	1.3%	304名	1.6%
無回答	7名	1.8%	244名	1.3%



子どもに関することについて

問14 子どもに希望する進学

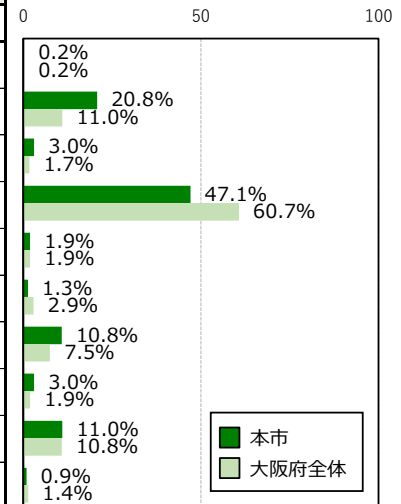
保護者全体は、「大学」が47.1%で最も多く、次いで「高校」が20.8%、「専門学校・高等専門学校」が10.8%、「短期大学」、「考えたことがない」がそれぞれ3.0%となっている。

小学生の保護者は、「大学」が47.1%で最も多く、次いで「高校」が19.6%、「専門学校・高等専門学校」が10.1%、「考えたことがない」が3.7%となっている。

中学生の保護者は、「大学」が47.5%で最も多く、次いで「高校」が22.5%、「専門学校・高等専門学校」が11.5%、「短期大学」が2.9%となっている。

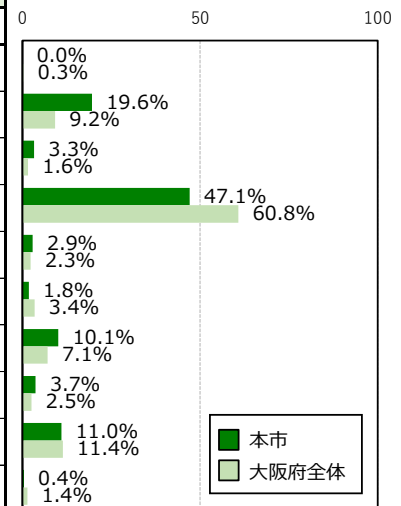
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,358名	100.0%
中学校	2名	0.2%	106名	0.2%
高校	188名	20.8%	4,765名	11.0%
短期大学	27名	3.0%	716名	1.7%
大学	426名	47.1%	26,334名	60.7%
大学院	17名	1.9%	827名	1.9%
留学	12名	1.3%	1,261名	2.9%
専門学校・高等専門学校	98名	10.8%	3,262名	7.5%
考えたことがない	27名	3.0%	818名	1.9%
わからない	99名	11.0%	4,674名	10.8%
無回答	8名	0.9%	595名	1.4%



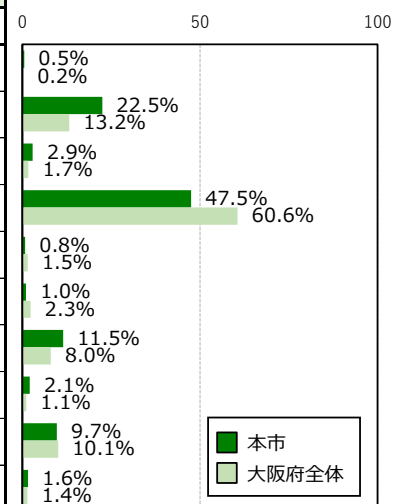
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,819名	100.0%
中学校	-	-	72名	0.3%
高校	89名	19.6%	2,090名	9.2%
短期大学	15名	3.3%	366名	1.6%
大学	214名	47.1%	13,868名	60.8%
大学院	13名	2.9%	519名	2.3%
留学	8名	1.8%	786名	3.4%
専門学校・高等専門学校	46名	10.1%	1,631名	7.1%
考えたことがない	17名	3.7%	579名	2.5%
わからない	50名	11.0%	2,592名	11.4%
無回答	2名	0.4%	316名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,390名	100.0%
中学校	2名	0.5%	31名	0.2%
高校	86名	22.5%	2,557名	13.2%
短期大学	11名	2.9%	322名	1.7%
大学	182名	47.5%	11,753名	60.6%
大学院	3名	0.8%	285名	1.5%
留学	4名	1.0%	451名	2.3%
専門学校・高等専門学校	44名	11.5%	1,548名	8.0%
考えたことがない	8名	2.1%	219名	1.1%
わからない	37名	9.7%	1,951名	10.1%
無回答	6名	1.6%	273名	1.4%



子どもに関することについて

問15 子どもの通学状況

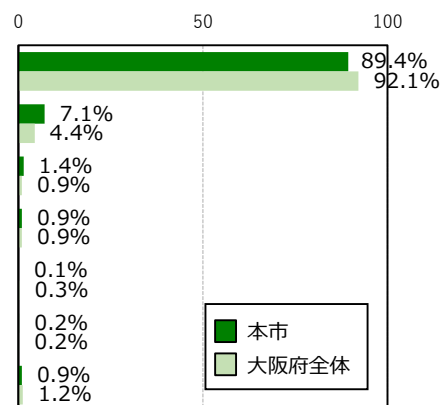
保護者全体は、「ほぼ毎日通っている」が89.4%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が7.1%、「欠席が年間30日以上、60日未満である」が1.4%となっている。

小学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が91.6%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が6.4%、「欠席が年間30日以上、60日未満である」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が88.3%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が6.8%、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が1.6%となっている。

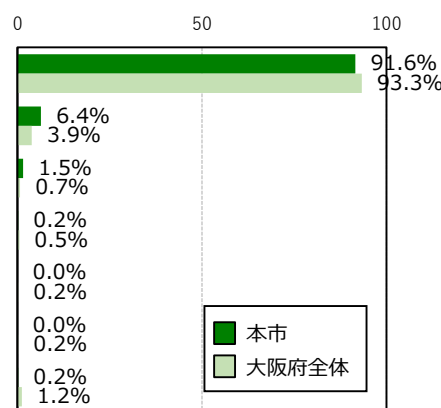
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	808名	89.4%	39,916名	92.1%
欠席は年間30日未満である	64名	7.1%	1,900名	4.4%
欠席が年間30日以上、60日未満である	13名	1.4%	406名	0.9%
欠席が年間60日以上、1年未満である	8名	0.9%	379名	0.9%
欠席が1年以上続いている	1名	0.1%	127名	0.3%
わからない	2名	0.2%	108名	0.2%
無回答	8名	0.9%	522名	1.2%



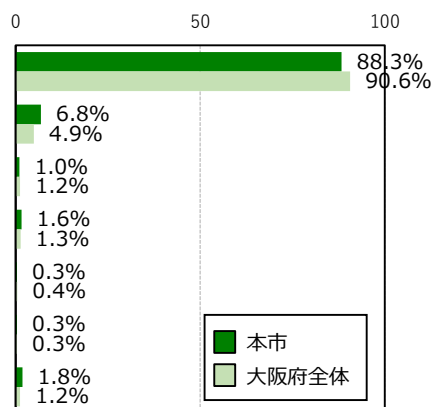
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	416名	91.6%	21,301名	93.3%
欠席は年間30日未満である	29名	6.4%	895名	3.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	7名	1.5%	158名	0.7%
欠席が年間60日以上、1年未満である	1名	0.2%	107名	0.5%
欠席が1年以上続いている	-	-	36名	0.2%
わからない	-	-	44名	0.2%
無回答	1名	0.2%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	338名	88.3%	17,568名	90.6%
欠席は年間30日未満である	26名	6.8%	945名	4.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	4名	1.0%	232名	1.2%
欠席が年間60日以上、1年未満である	6名	1.6%	257名	1.3%
欠席が1年以上続いている	1名	0.3%	86名	0.4%
わからない	1名	0.3%	62名	0.3%
無回答	7名	1.8%	240名	1.2%



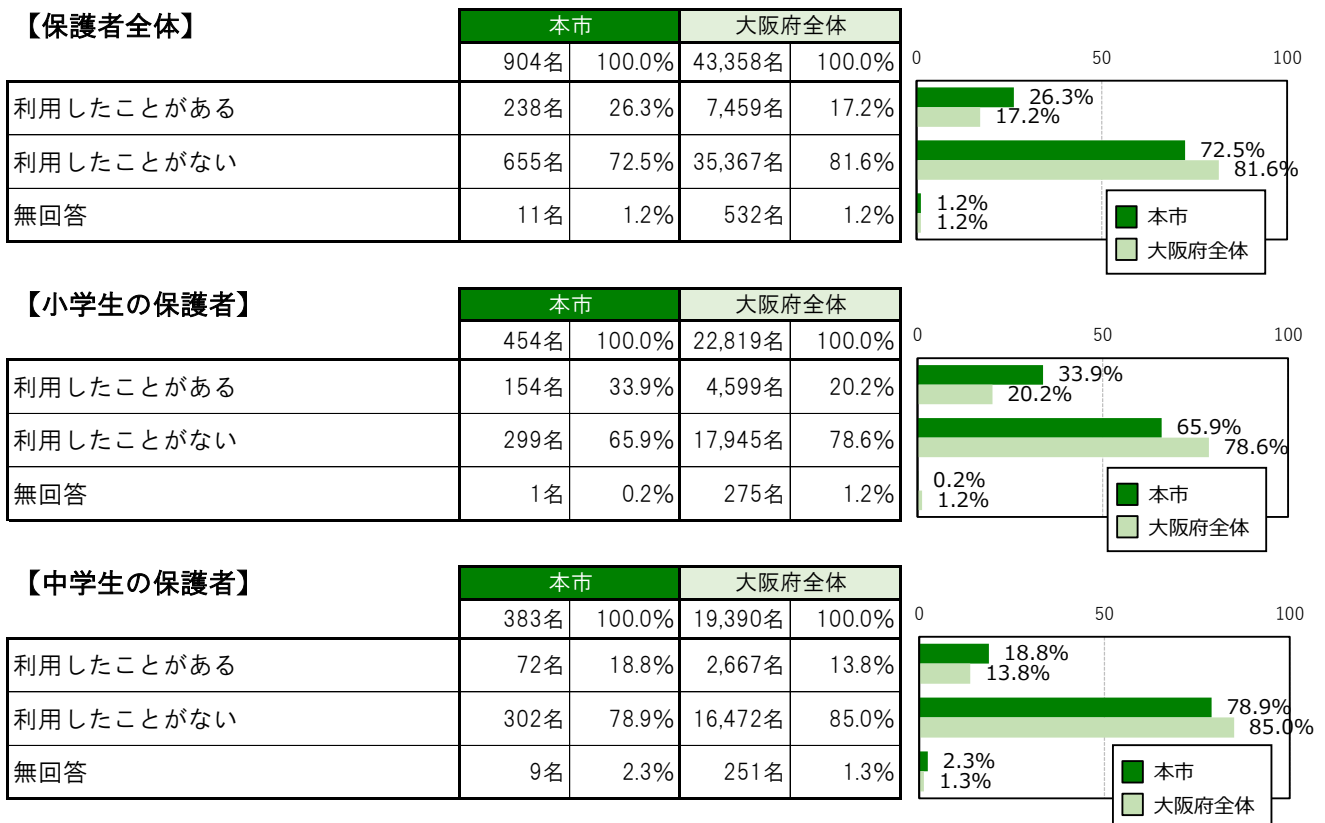
子どもに関することについて

問16（１）子どもの居場所の利用経験

保護者全体は、「利用したことがある」が26.3%、「利用したことがない」が72.5%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがある」が33.9%、「利用したことがない」が65.9%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがある」が18.8%、「利用したことがない」が78.9%となっている。



子どもに関することについて

問16（2）子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

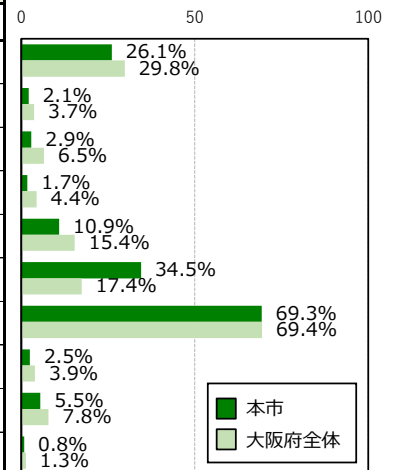
保護者全体は、「お子さんが楽しんでいるから」が69.3%で最も多く、次いで「宿題など勉強を見てくれるから」が34.5%、「地域の人とつながれるから」が26.1%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が10.9%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が74.7%で最も多く、次いで「宿題など勉強を見てくれるから」が37.0%、「地域の人とつながれるから」が28.6%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が11.7%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が59.7%で最も多く、次いで「宿題など勉強を見てくれるから」が25.0%、「地域の人とつながれるから」が18.1%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が9.7%となっている。

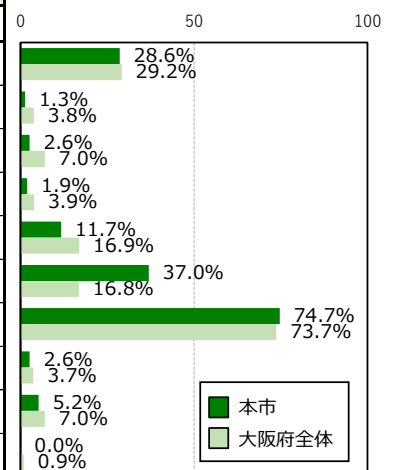
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	238名	100.0%	7,459名	100.0%
地域の人とつながれるから	62名	26.1%	2,226名	29.8%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	5名	2.1%	275名	3.7%
栄養バランスのとれた食事がとれるから	7名	2.9%	484名	6.5%
運営者が相談に乗ってくれるから	4名	1.7%	329名	4.4%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	26名	10.9%	1,152名	15.4%
宿題など勉強を見てくれるから	82名	34.5%	1,301名	17.4%
お子さんが楽しんでいるから	165名	69.3%	5,178名	69.4%
特になし	6名	2.5%	291名	3.9%
その他	13名	5.5%	579名	7.8%
無回答	2名	0.8%	95名	1.3%



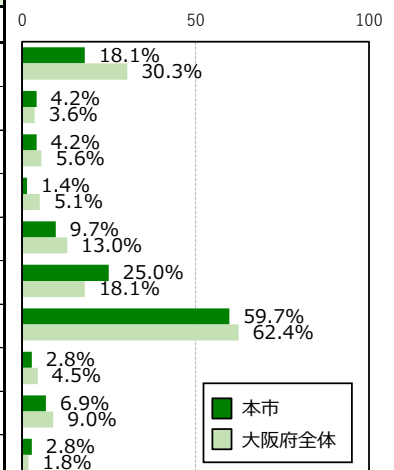
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	154名	100.0%	4,599名	100.0%
地域の人とつながれるから	44名	28.6%	1,344名	29.2%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	2名	1.3%	173名	3.8%
栄養バランスのとれた食事がとれるから	4名	2.6%	322名	7.0%
運営者が相談に乗ってくれるから	3名	1.9%	180名	3.9%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	18名	11.7%	778名	16.9%
宿題など勉強を見てくれるから	57名	37.0%	773名	16.8%
お子さんが楽しんでいるから	115名	74.7%	3,388名	73.7%
特になし	4名	2.6%	168名	3.7%
その他	8名	5.2%	324名	7.0%
無回答	-	-	43名	0.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	72名	100.0%	2,667名	100.0%
地域の人とつながれるから	13名	18.1%	808名	30.3%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	3名	4.2%	97名	3.6%
栄養バランスのとれた食事がとれるから	3名	4.2%	150名	5.6%
運営者が相談に乗ってくれるから	1名	1.4%	136名	5.1%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	7名	9.7%	348名	13.0%
宿題など勉強を見てくれるから	18名	25.0%	482名	18.1%
お子さんが楽しんでいるから	43名	59.7%	1,664名	62.4%
特になし	2名	2.8%	120名	4.5%
その他	5名	6.9%	241名	9.0%
無回答	2名	2.8%	47名	1.8%



子どもに関することについて

問16（3）子どもの居場所を利用しない理由

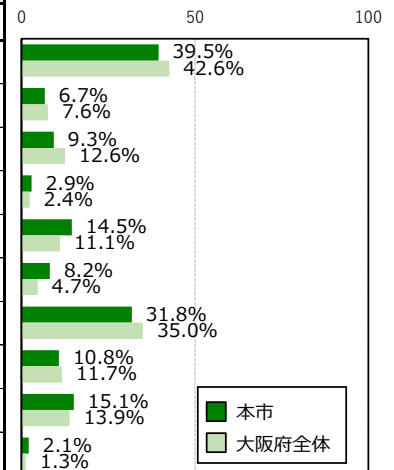
保護者全体は、「どこにあるか知らないから」が39.5%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が31.8%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が14.5%、「何をしているかわからないから」が10.8%となっている。

小学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が41.1%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が28.8%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が12.4%、「何をしているかわからないから」が11.7%となっている。

中学生の保護者は、「利用したいと思わないから」が37.4%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が36.4%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が14.9%、「家で過ごしてほしいと思うから」が11.6%となっている。

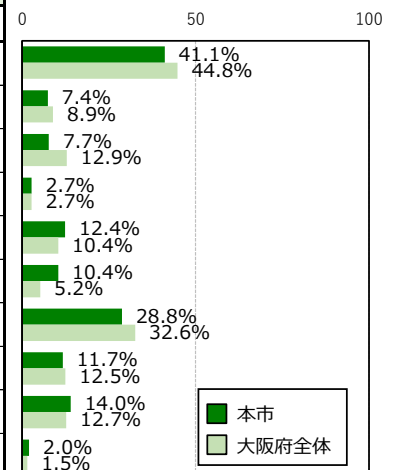
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	655名	100.0%	35,367名	100.0%
どこにあるか知らないから	259名	39.5%	15,060名	42.6%
家の近く（小学校区内）にないから	44名	6.7%	2,697名	7.6%
家で過ごしてほしいと思うから	61名	9.3%	4,452名	12.6%
居場所のイメージがよくないから	19名	2.9%	862名	2.4%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	95名	14.5%	3,936名	11.1%
行きたい日・時間に開いていないから	54名	8.2%	1,647名	4.7%
利用したいと思わないから	208名	31.8%	12,386名	35.0%
何をしているかわからないから	71名	10.8%	4,149名	11.7%
その他	99名	15.1%	4,908名	13.9%
無回答	14名	2.1%	473名	1.3%



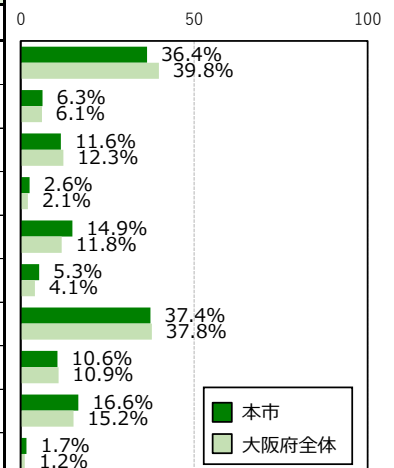
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	299名	100.0%	17,945名	100.0%
どこにあるか知らないから	123名	41.1%	8,048名	44.8%
家の近く（小学校区内）にないから	22名	7.4%	1,594名	8.9%
家で過ごしてほしいと思うから	23名	7.7%	2,318名	12.9%
居場所のイメージがよくないから	8名	2.7%	476名	2.7%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	37名	12.4%	1,873名	10.4%
行きたい日・時間に開いていないから	31名	10.4%	936名	5.2%
利用したいと思わないから	86名	28.8%	5,849名	32.6%
何をしているかわからないから	35名	11.7%	2,243名	12.5%
その他	42名	14.0%	2,278名	12.7%
無回答	6名	2.0%	261名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	302名	100.0%	16,472名	100.0%
どこにあるか知らないから	110名	36.4%	6,563名	39.8%
家の近く（小学校区内）にないから	19名	6.3%	1,006名	6.1%
家で過ごしてほしいと思うから	35名	11.6%	2,030名	12.3%
居場所のイメージがよくないから	8名	2.6%	347名	2.1%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	45名	14.9%	1,950名	11.8%
行きたい日・時間に開いていないから	16名	5.3%	673名	4.1%
利用したいと思わないから	113名	37.4%	6,227名	37.8%
何をしているかわからないから	32名	10.6%	1,797名	10.9%
その他	50名	16.6%	2,509名	15.2%
無回答	5名	1.7%	195名	1.2%



保護者のことについて

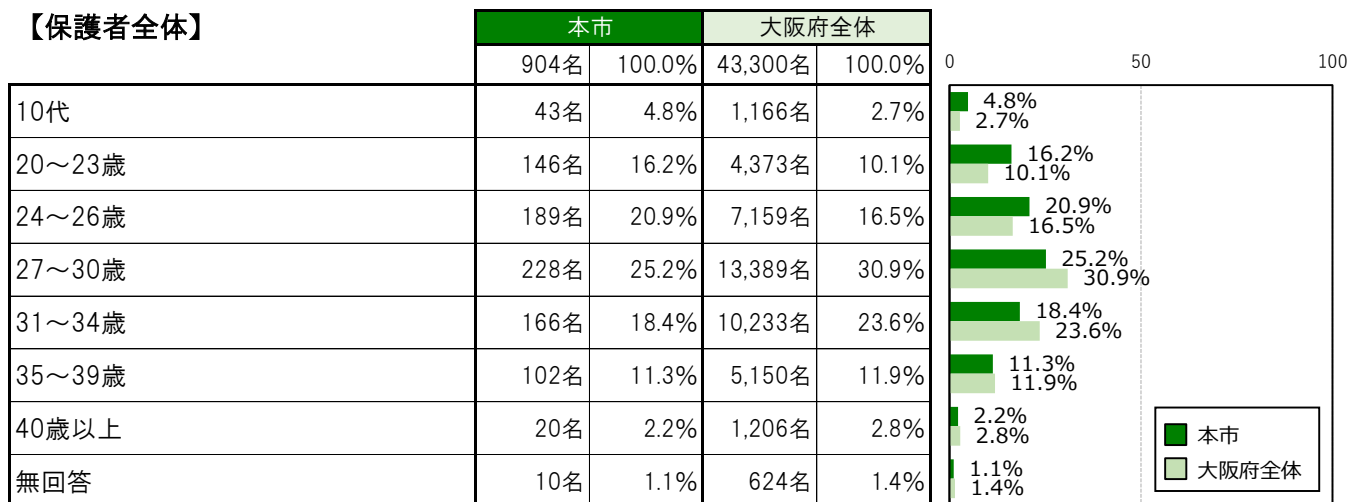
問17 初めて親となった年齢

保護者全体は、「27～30歳」が25.2%で最も多く、次いで「24～26歳」が20.9%、「31～34歳」が18.4%、「20～23歳」が16.2%となっている。

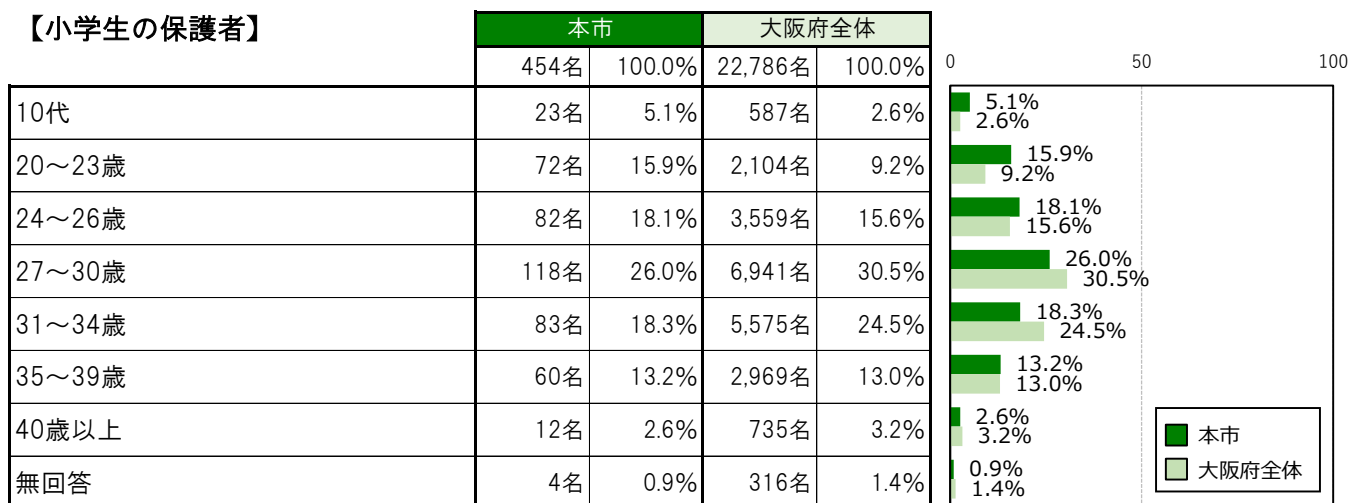
小学生の保護者は、「27～30歳」が26.0%で最も多く、次いで「31～34歳」が18.3%、「24～26歳」が18.1%、「20～23歳」が15.9%となっている。

中学生の保護者は、「24～26歳」、「27～30歳」がそれぞれ23.5%で最も多く、次いで「31～34歳」が19.3%、「20～23歳」が16.7%、「35～39歳」が9.7%となっている。

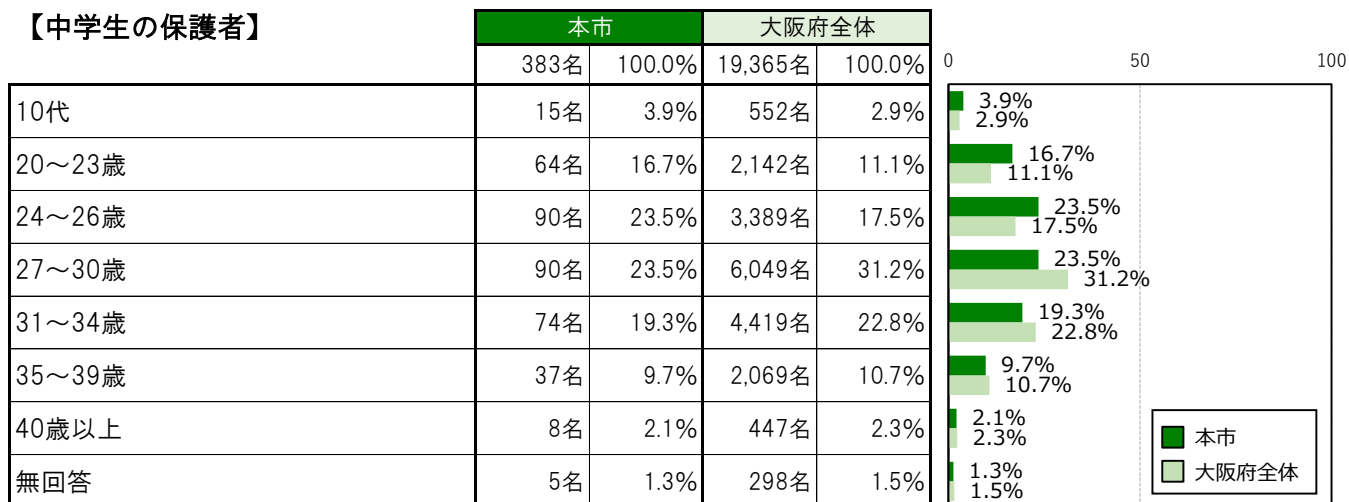
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

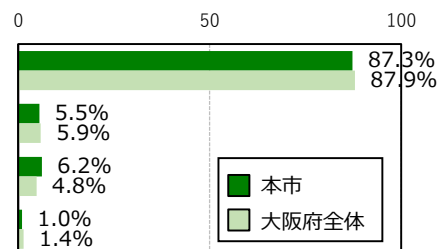
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

保護者全体は、「いる」が87.3%、「いない」が5.5%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が87.4%、「いない」が4.8%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が86.9%、「いない」が6.3%となっている。

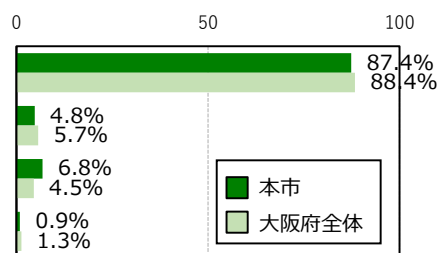
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	789名	87.3%	38,049名	87.9%
いない	50名	5.5%	2,548名	5.9%
わからない	56名	6.2%	2,099名	4.8%
無回答	9名	1.0%	604名	1.4%



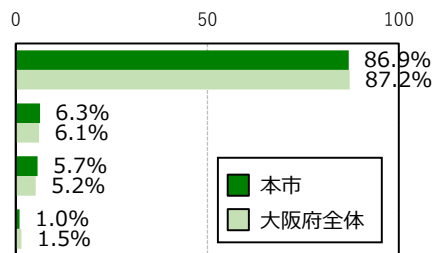
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	397名	87.4%	20,150名	88.4%
いない	22名	4.8%	1,304名	5.7%
わからない	31名	6.8%	1,026名	4.5%
無回答	4名	0.9%	306名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	333名	86.9%	16,885名	87.2%
いない	24名	6.3%	1,173名	6.1%
わからない	22名	5.7%	1,016名	5.2%
無回答	4名	1.0%	291名	1.5%



保護者のことについて

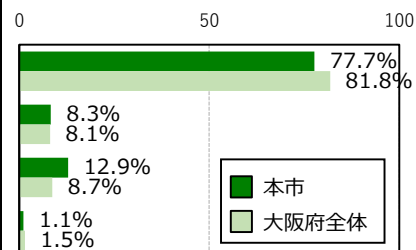
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

②気持ちを察して思いやってくれる人

保護者全体は、「いる」が77.7%、「いない」が8.3%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が78.9%、「いない」が8.1%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が76.8%、「いない」が8.1%となっている。

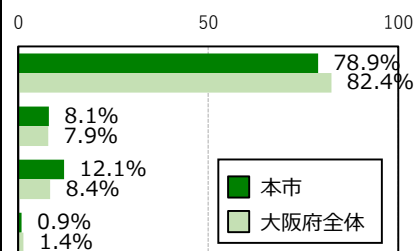
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	702名	77.7%	35,406名	81.8%
いない	75名	8.3%	3,491名	8.1%
わからない	117名	12.9%	3,748名	8.7%
無回答	10名	1.1%	655名	1.5%



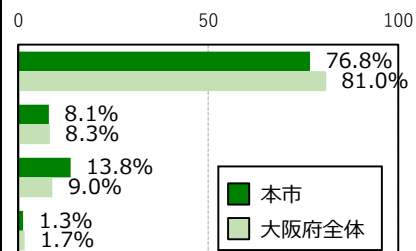
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	358名	78.9%	18,767名	82.4%
いない	37名	8.1%	1,791名	7.9%
わからない	55名	12.1%	1,904名	8.4%
無回答	4名	0.9%	324名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	294名	76.8%	15,691名	81.0%
いない	31名	8.1%	1,610名	8.3%
わからない	53名	13.8%	1,741名	9.0%
無回答	5名	1.3%	323名	1.7%



保護者のことについて

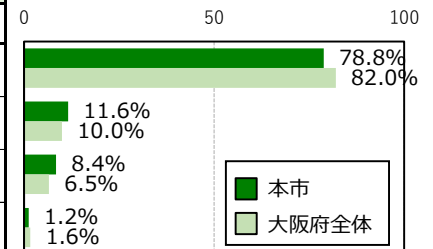
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

保護者全体は、「いる」が78.8%、「いない」が11.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が80.0%、「いない」が11.9%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が77.8%、「いない」が11.7%となっている。

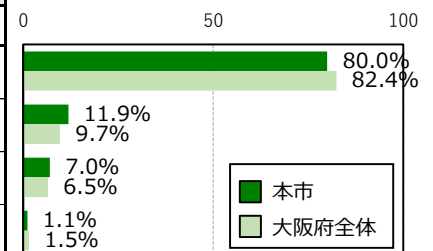
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	712名	78.8%	35,496名	82.0%
いない	105名	11.6%	4,317名	10.0%
わからない	76名	8.4%	2,806名	6.5%
無回答	11名	1.2%	681名	1.6%



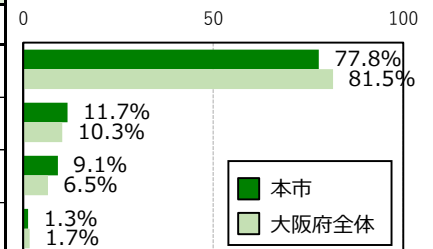
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	363名	80.0%	18,771名	82.4%
いない	54名	11.9%	2,201名	9.7%
わからない	32名	7.0%	1,474名	6.5%
無回答	5名	1.1%	340名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	298名	77.8%	15,782名	81.5%
いない	45名	11.7%	1,990名	10.3%
わからない	35名	9.1%	1,259名	6.5%
無回答	5名	1.3%	334名	1.7%



保護者のことについて

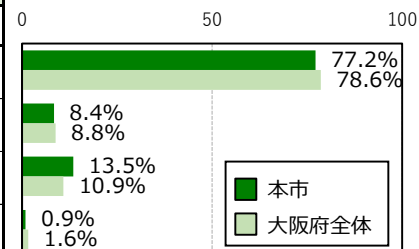
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

④子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

保護者全体は、「いる」が77.2%、「いない」が8.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が77.5%、「いない」が9.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が77.0%、「いない」が8.4%となっている。

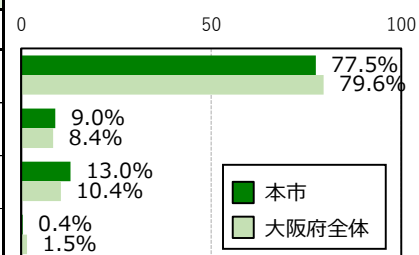
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	698名	77.2%	34,034名	78.6%
いない	76名	8.4%	3,824名	8.8%
わからない	122名	13.5%	4,731名	10.9%
無回答	8名	0.9%	711名	1.6%



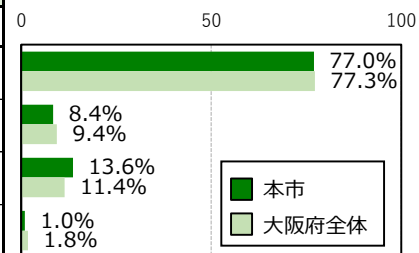
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	352名	77.5%	18,149名	79.6%
いない	41名	9.0%	1,912名	8.4%
わからない	59名	13.0%	2,381名	10.4%
無回答	2名	0.4%	344名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	295名	77.0%	14,966名	77.3%
いない	32名	8.4%	1,826名	9.4%
わからない	52名	13.6%	2,217名	11.4%
無回答	4名	1.0%	356名	1.8%



保護者のことについて

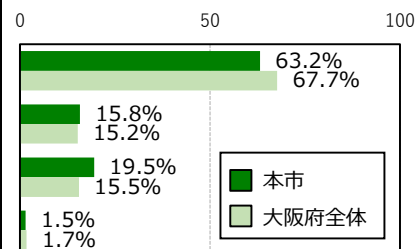
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）

保護者全体は、「いる」が63.2%、「いない」が15.8%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が64.1%、「いない」が16.7%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が61.9%、「いない」が15.7%となっている。

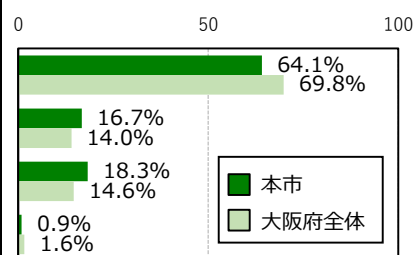
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	571名	63.2%	29,297名	67.7%
いない	143名	15.8%	6,570名	15.2%
わからない	176名	19.5%	6,713名	15.5%
無回答	14名	1.5%	720名	1.7%



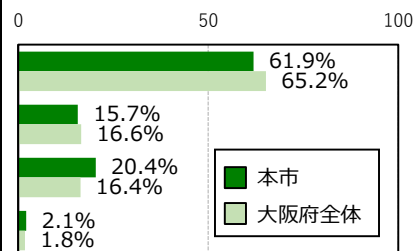
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	291名	64.1%	15,896名	69.8%
いない	76名	16.7%	3,195名	14.0%
わからない	83名	18.3%	3,334名	14.6%
無回答	4名	0.9%	361名	1.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	237名	61.9%	12,629名	65.2%
いない	60名	15.7%	3,218名	16.6%
わからない	78名	20.4%	3,167名	16.4%
無回答	8名	2.1%	351名	1.8%



保護者のことについて

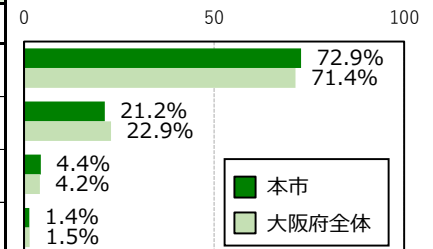
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

保護者全体は、「いる」が72.9%、「いない」が21.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が73.6%、「いない」が21.8%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が72.3%、「いない」が20.9%となっている。

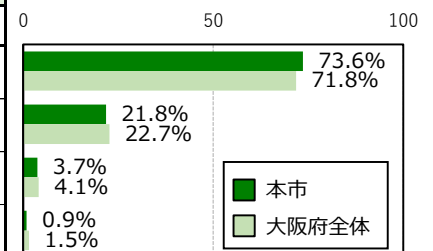
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	659名	72.9%	30,902名	71.4%
いない	192名	21.2%	9,922名	22.9%
わからない	40名	4.4%	1,822名	4.2%
無回答	13名	1.4%	654名	1.5%



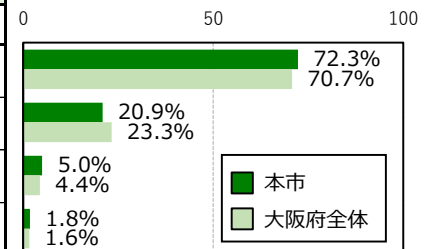
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	334名	73.6%	16,360名	71.8%
いない	99名	21.8%	5,164名	22.7%
わからない	17名	3.7%	930名	4.1%
無回答	4名	0.9%	332名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	277名	72.3%	13,687名	70.7%
いない	80名	20.9%	4,519名	23.3%
わからない	19名	5.0%	850名	4.4%
無回答	7名	1.8%	309名	1.6%



保護者のことについて

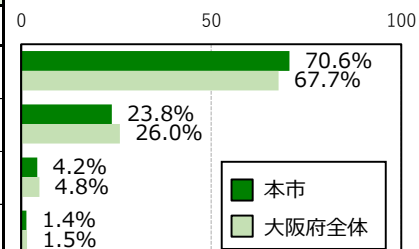
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑦留守を頼める人

保護者全体は、「いる」が70.6%、「いない」が23.8%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が70.7%、「いない」が23.1%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が70.0%、「いない」が24.8%となっている。

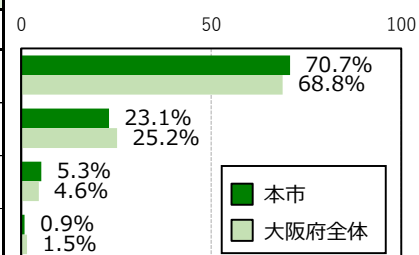
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	638名	70.6%	29,312名	67.7%
いない	215名	23.8%	11,256名	26.0%
わからない	38名	4.2%	2,066名	4.8%
無回答	13名	1.4%	666名	1.5%



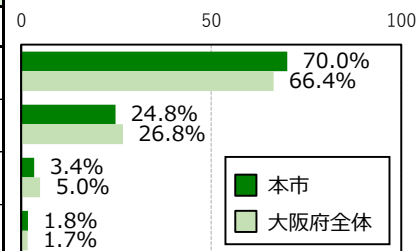
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	321名	70.7%	15,668名	68.8%
いない	105名	23.1%	5,746名	25.2%
わからない	24名	5.3%	1,037名	4.6%
無回答	4名	0.9%	335名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	268名	70.0%	12,868名	66.4%
いない	95名	24.8%	5,198名	26.8%
わからない	13名	3.4%	977名	5.0%
無回答	7名	1.8%	322名	1.7%



保護者のことについて

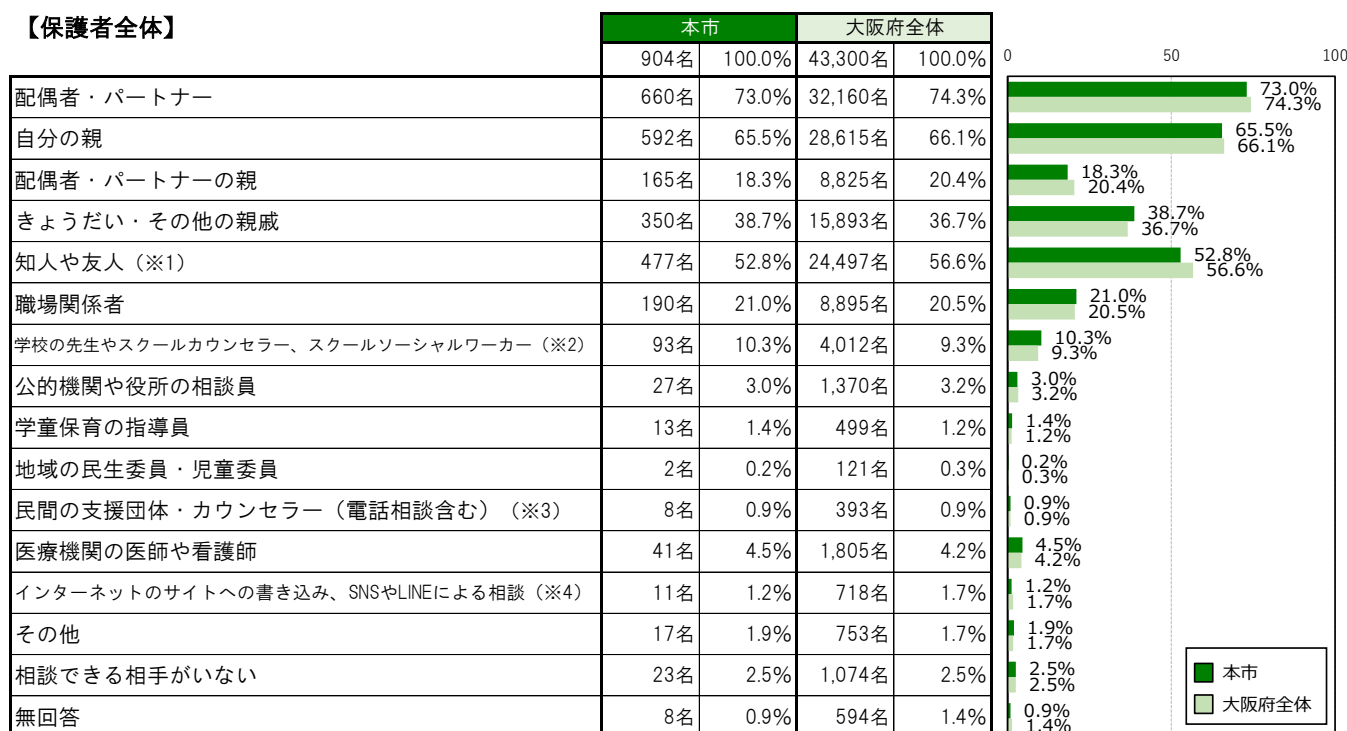
問19 本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

保護者全体は、「配偶者・パートナー」が73.0%で最も多く、次いで「自分の親」が65.5%、「知人や友人」が52.8%、「きょうだい・その他の親戚」が38.7%となっている。

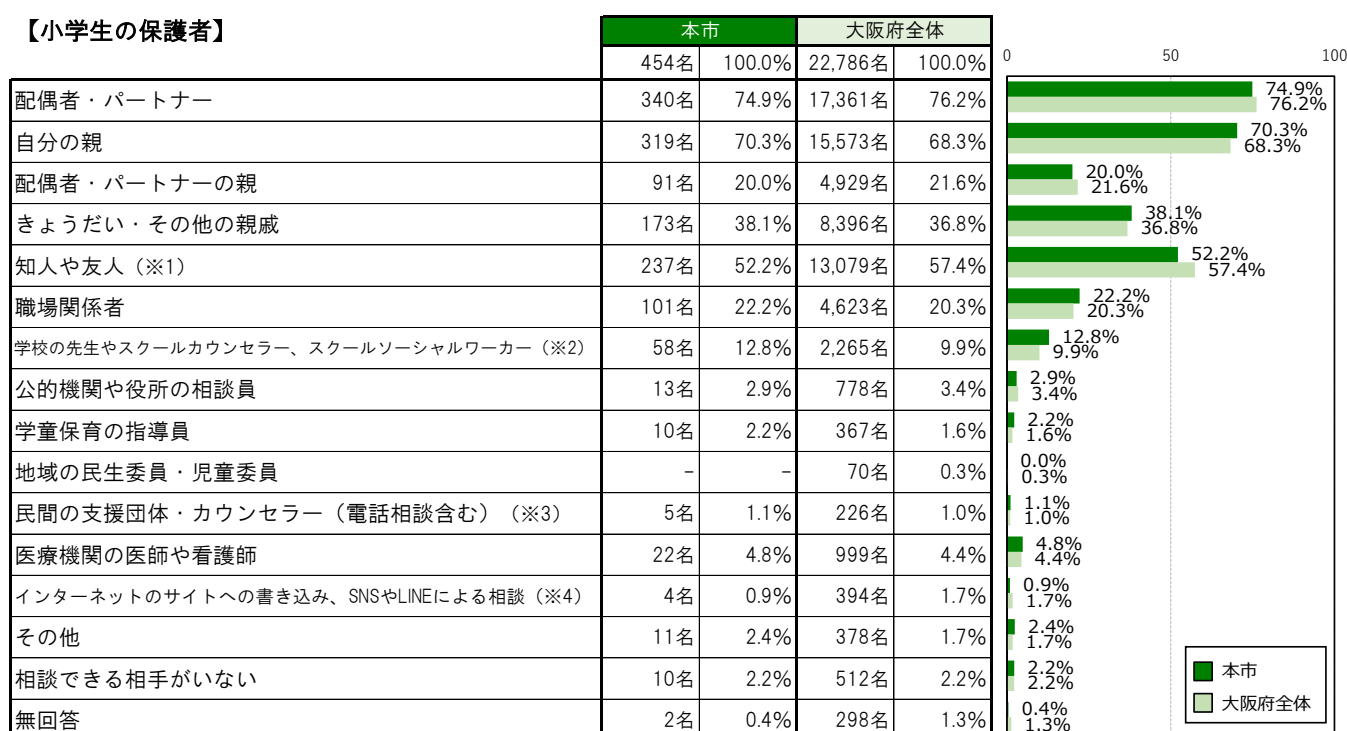
小学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が74.9%で最も多く、次いで「自分の親」が70.3%、「知人や友人」が52.2%、「きょうだい・その他の親戚」が38.1%となっている。

中学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が71.0%で最も多く、次いで「自分の親」が57.4%、「知人や友人」が52.5%、「きょうだい・その他の親戚」が38.4%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



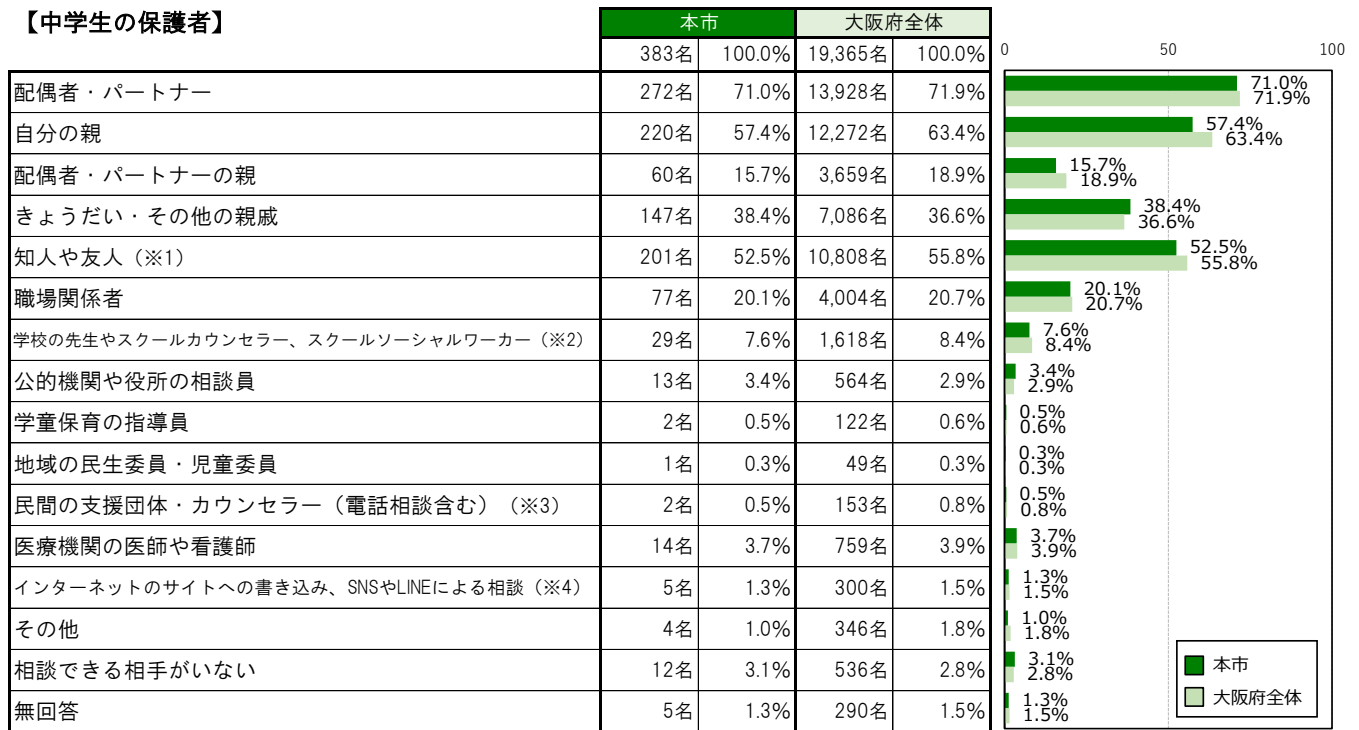
※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

【中学生の保護者】



※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

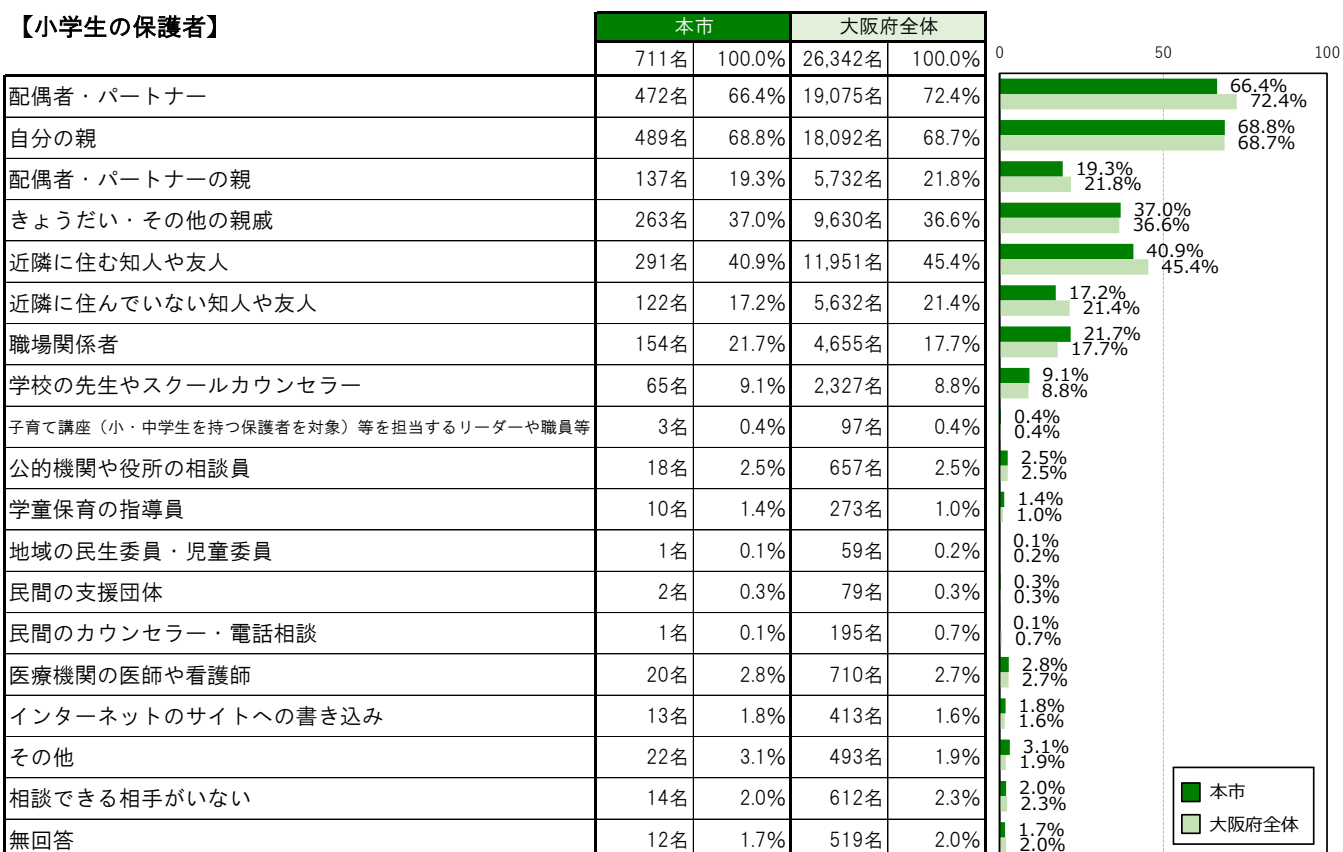
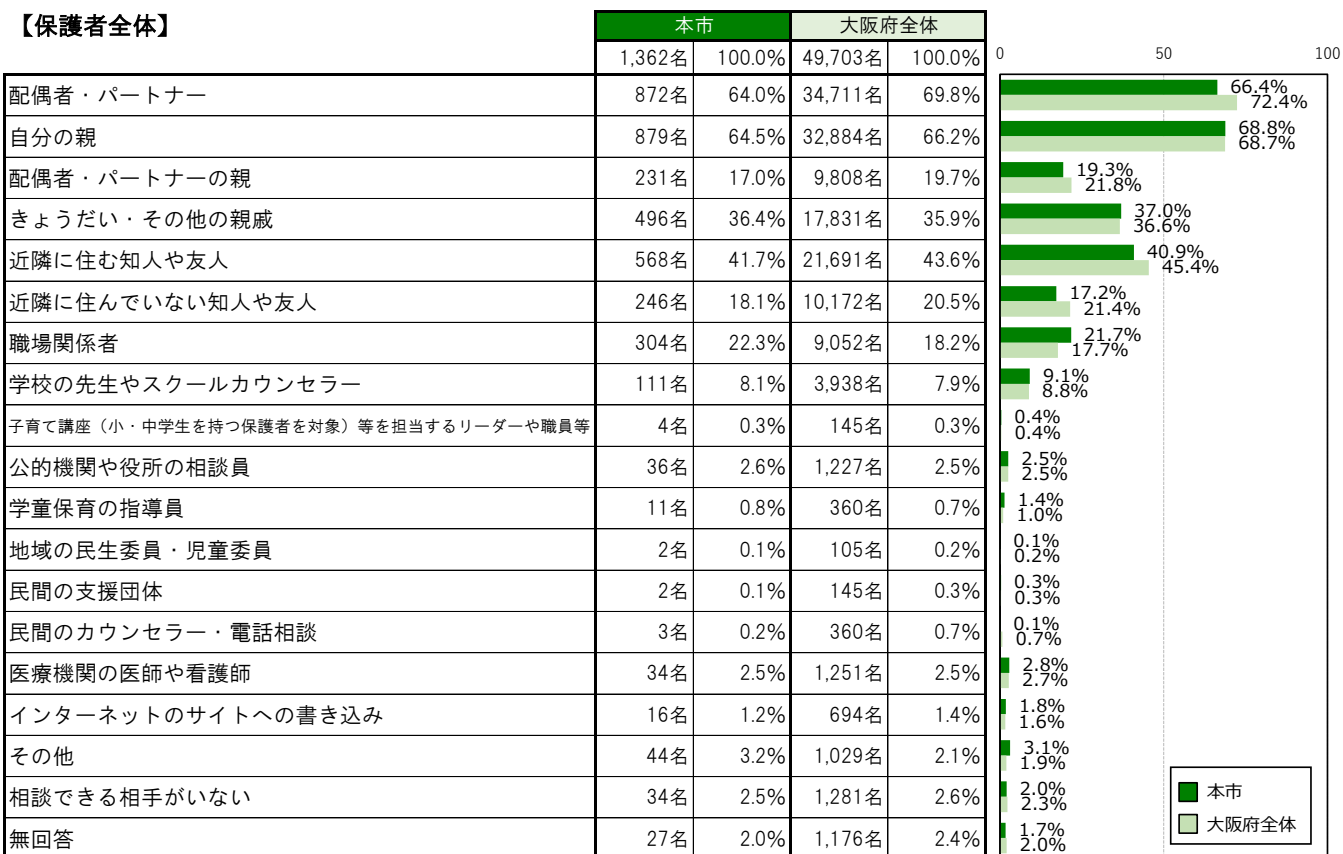
※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

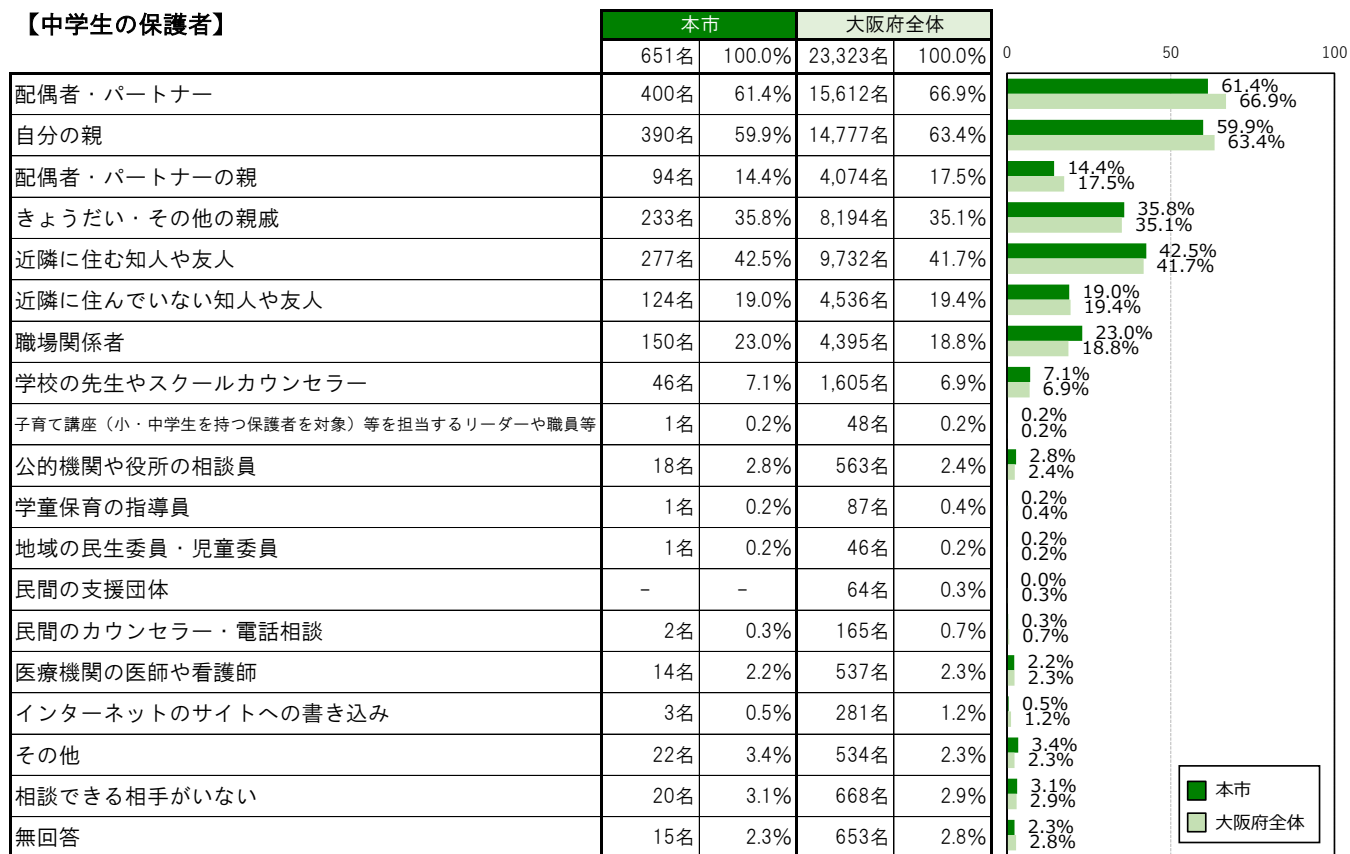
2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「配偶者・パートナー」が9ポイント高いが、「近隣に住む知人や友人」が7.0ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が8.5ポイント高いが、「近隣に住む知人や友人」が5.9ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が9.6ポイント高いが、「近隣に住む知人や友人」が9ポイント低くなっている。



【中学生の保護者】



保護者のことについて

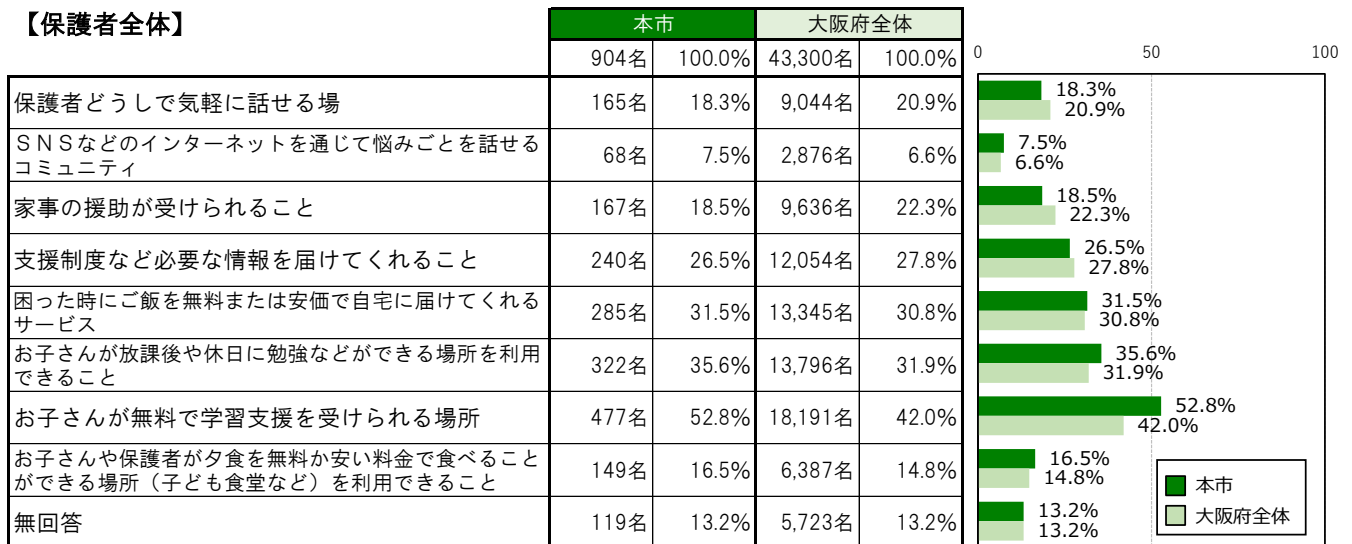
問20 身近にあると思うこと

保護者全体は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が52.8%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が35.6%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が31.5%、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が26.5%となっている。

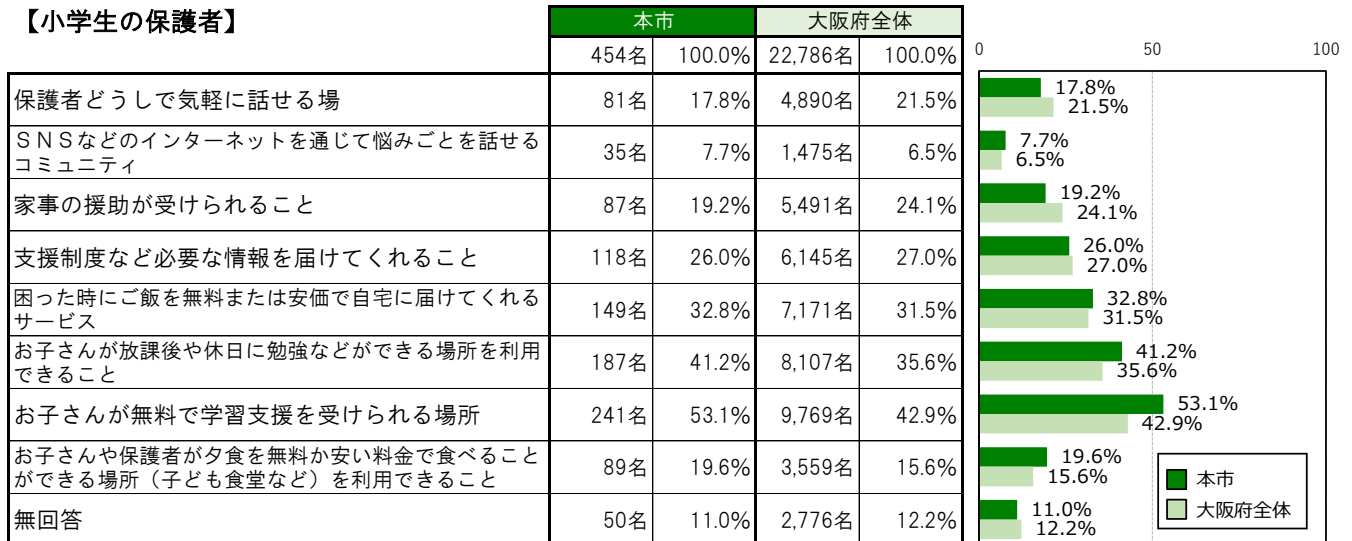
小学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が53.1%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が41.2%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が32.8%となっている。

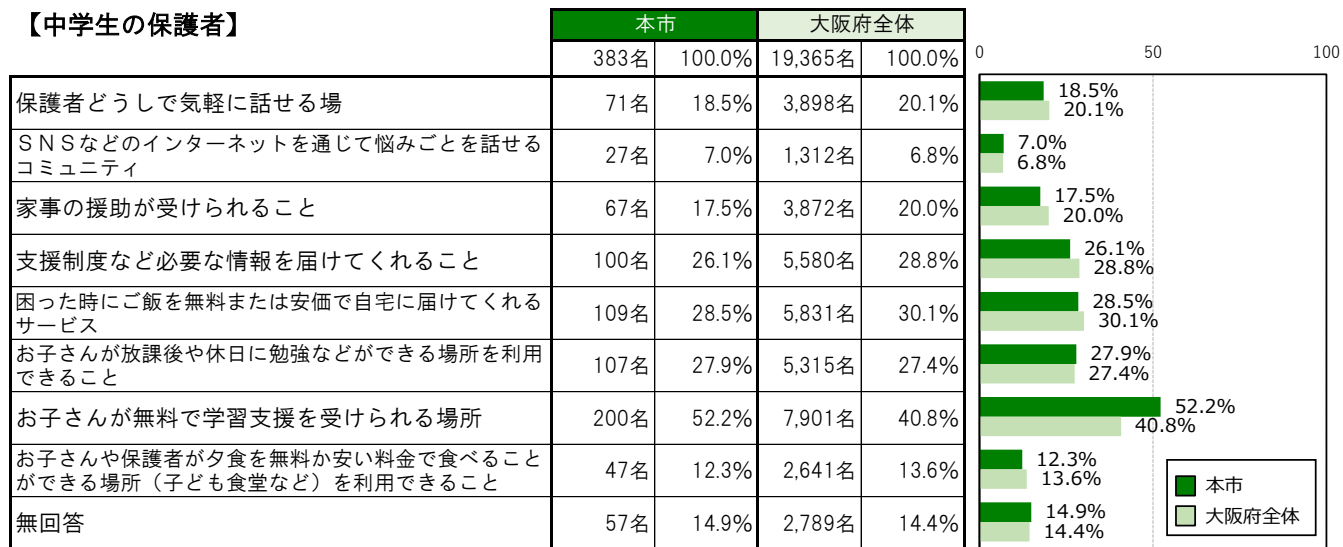
中学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が52.2%で最も多く、次いで「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が28.5%、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が27.9%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





保護者のことについて

問21（１）生活を楽しんでいるか

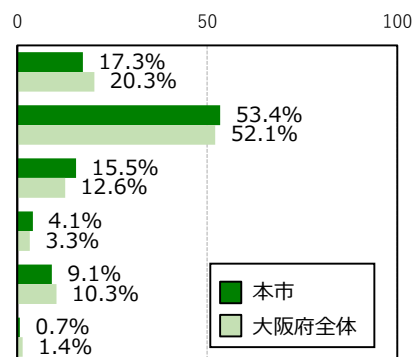
保護者全体は、「楽しんでいる」が53.4%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が17.3%、「あまり楽しんでいない」が15.5%、「楽しんでいない」が4.1%となっている。

小学生の保護者は、「楽しんでいる」が52.9%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が20.0%、「あまり楽しんでいない」が14.8%、「楽しんでいない」が3.3%となっている。

中学生の保護者は、「楽しんでいる」が54.6%で最も多く、次いで「あまり楽しんでいない」が15.9%、「とても楽しんでいる」が14.6%、「楽しんでいない」が4.7%となっている。

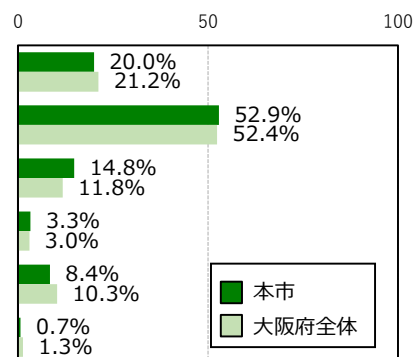
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
とても楽しんでいる	156名	17.3%	8,791名	20.3%
楽しんでいる	483名	53.4%	22,555名	52.1%
あまり楽しんでいない	140名	15.5%	5,466名	12.6%
楽しんでいない	37名	4.1%	1,411名	3.3%
わからない	82名	9.1%	4,473名	10.3%
無回答	6名	0.7%	604名	1.4%



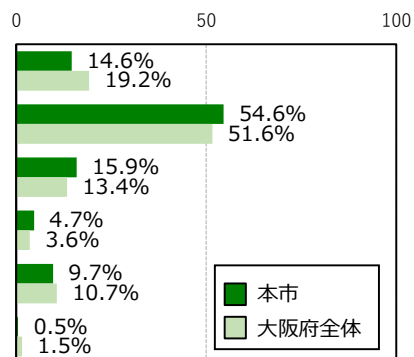
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
とても楽しんでいる	91名	20.0%	4,835名	21.2%
楽しんでいる	240名	52.9%	11,934名	52.4%
あまり楽しんでいない	67名	14.8%	2,699名	11.8%
楽しんでいない	15名	3.3%	680名	3.0%
わからない	38名	8.4%	2,340名	10.3%
無回答	3名	0.7%	298名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
とても楽しんでいる	56名	14.6%	3,719名	19.2%
楽しんでいる	209名	54.6%	9,994名	51.6%
あまり楽しんでいない	61名	15.9%	2,592名	13.4%
楽しんでいない	18名	4.7%	690名	3.6%
わからない	37名	9.7%	2,070名	10.7%
無回答	2名	0.5%	300名	1.5%



保護者のことについて

問21（２）将来に対して希望を持っているか

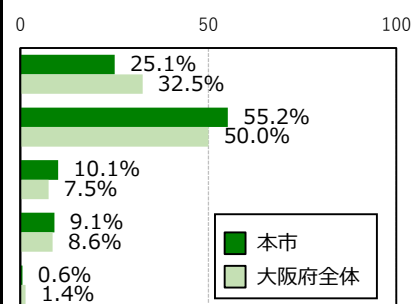
保護者全体は、「希望が持てる」ときもある、持てないときもある」が55.2%で最も多く、次いで「希望が持てる」が25.1%、「希望が持てない」が10.1%となっている。

小学生の保護者は、「希望が持てる」ときもある、持てないときもある」が52.9%で最も多く、次いで「希望が持てる」が28.2%、「希望が持てない」が9.7%となっている。

中学生の保護者は、「希望が持てる」ときもある、持てないときもある」が57.2%で最も多く、次いで「希望が持てる」が22.7%、「希望が持てない」が9.7%となっている。

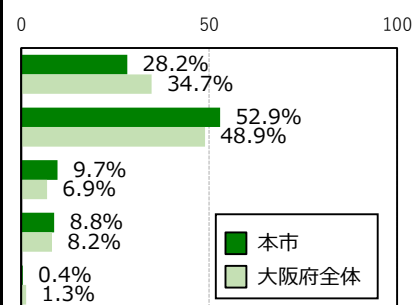
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	227名	25.1%	14,080名	32.5%
希望が持てる」ときもある、持てないときもある	499名	55.2%	21,662名	50.0%
希望が持てない	91名	10.1%	3,239名	7.5%
わからない	82名	9.1%	3,718名	8.6%
無回答	5名	0.6%	601名	1.4%



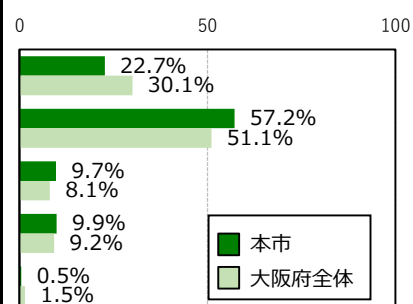
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	128名	28.2%	7,896名	34.7%
希望が持てる」ときもある、持てないときもある	240名	52.9%	11,142名	48.9%
希望が持てない	44名	9.7%	1,575名	6.9%
わからない	40名	8.8%	1,874名	8.2%
無回答	2名	0.4%	299名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	87名	22.7%	5,831名	30.1%
希望が持てる」ときもある、持てないときもある	219名	57.2%	9,890名	51.1%
希望が持てない	37名	9.7%	1,574名	8.1%
わからない	38名	9.9%	1,774名	9.2%
無回答	2名	0.5%	296名	1.5%



保護者のことについて

問21（３）ストレスを発散できるものがあるか

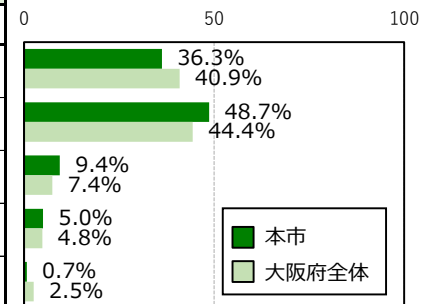
保護者全体は、「あるときもあれば、ないときもある」が48.7%で最も多く、次いで「ある」が36.3%、「ない」が9.4%となっている。

小学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が47.1%で最も多く、次いで「ある」が36.8%、「ない」が9.9%となっている。

中学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が48.3%で最も多く、次いで「ある」が37.1%、「ない」が9.1%となっている。

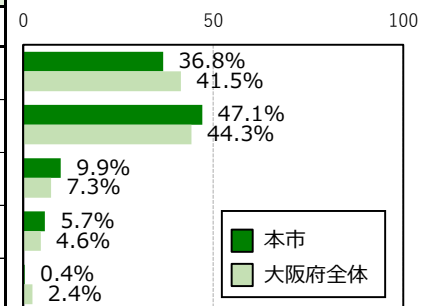
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	328名	36.3%	17,707名	40.9%
あるときもあれば、ないときもある	440名	48.7%	19,240名	44.4%
ない	85名	9.4%	3,221名	7.4%
わからない	45名	5.0%	2,061名	4.8%
無回答	6名	0.7%	1,071名	2.5%



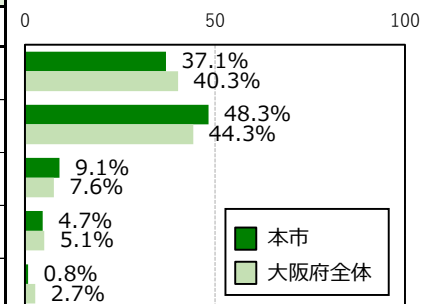
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	167名	36.8%	9,455名	41.5%
あるときもあれば、ないときもある	214名	47.1%	10,090名	44.3%
ない	45名	9.9%	1,668名	7.3%
わからない	26名	5.7%	1,037名	4.6%
無回答	2名	0.4%	536名	2.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	142名	37.1%	7,803名	40.3%
あるときもあれば、ないときもある	185名	48.3%	8,576名	44.3%
ない	35名	9.1%	1,467名	7.6%
わからない	18名	4.7%	990名	5.1%
無回答	3名	0.8%	529名	2.7%



保護者のことについて

問21（４）自分が幸せだと思うか

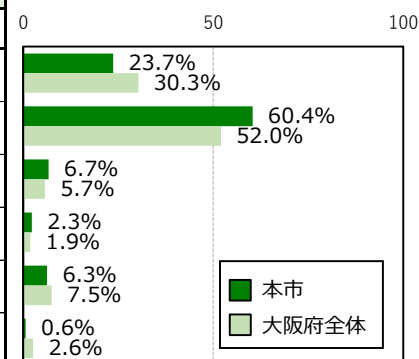
保護者全体は、「幸せだと思う」が60.4%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が23.7%、「あまり幸せだと思わない」が6.7%、「幸せだと思わない」が2.3%となっている。

小学生の保護者は、「幸せだと思う」が59.0%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が26.4%、「あまり幸せだと思わない」が5.1%、「幸せだと思わない」が2.2%となっている。

中学生の保護者は、「幸せだと思う」が62.1%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が20.4%、「あまり幸せだと思わない」が8.4%、「幸せだと思わない」が2.3%となっている。

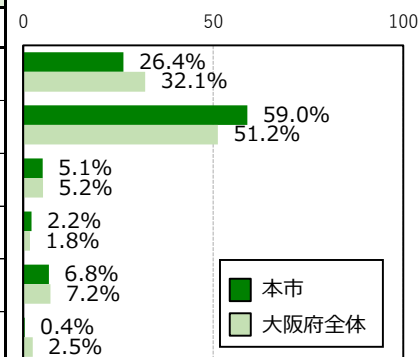
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
とても幸せだと思う	214名	23.7%	13,119名	30.3%
幸せだと思う	546名	60.4%	22,517名	52.0%
あまり幸せだと思わない	61名	6.7%	2,464名	5.7%
幸せだと思わない	21名	2.3%	819名	1.9%
わからない	57名	6.3%	3,246名	7.5%
無回答	5名	0.6%	1,135名	2.6%



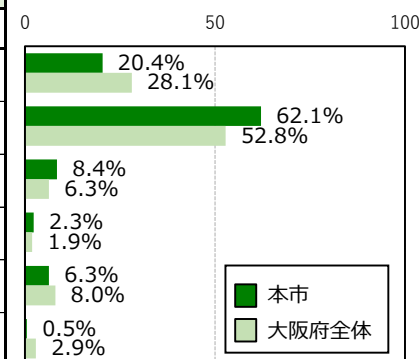
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
とても幸せだと思う	120名	26.4%	7,323名	32.1%
幸せだと思う	268名	59.0%	11,664名	51.2%
あまり幸せだと思わない	23名	5.1%	1,176名	5.2%
幸せだと思わない	10名	2.2%	413名	1.8%
わからない	31名	6.8%	1,640名	7.2%
無回答	2名	0.4%	570名	2.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
とても幸せだと思う	78名	20.4%	5,439名	28.1%
幸せだと思う	238名	62.1%	10,225名	52.8%
あまり幸せだと思わない	32名	8.4%	1,211名	6.3%
幸せだと思わない	9名	2.3%	376名	1.9%
わからない	24名	6.3%	1,555名	8.0%
無回答	2名	0.5%	559名	2.9%



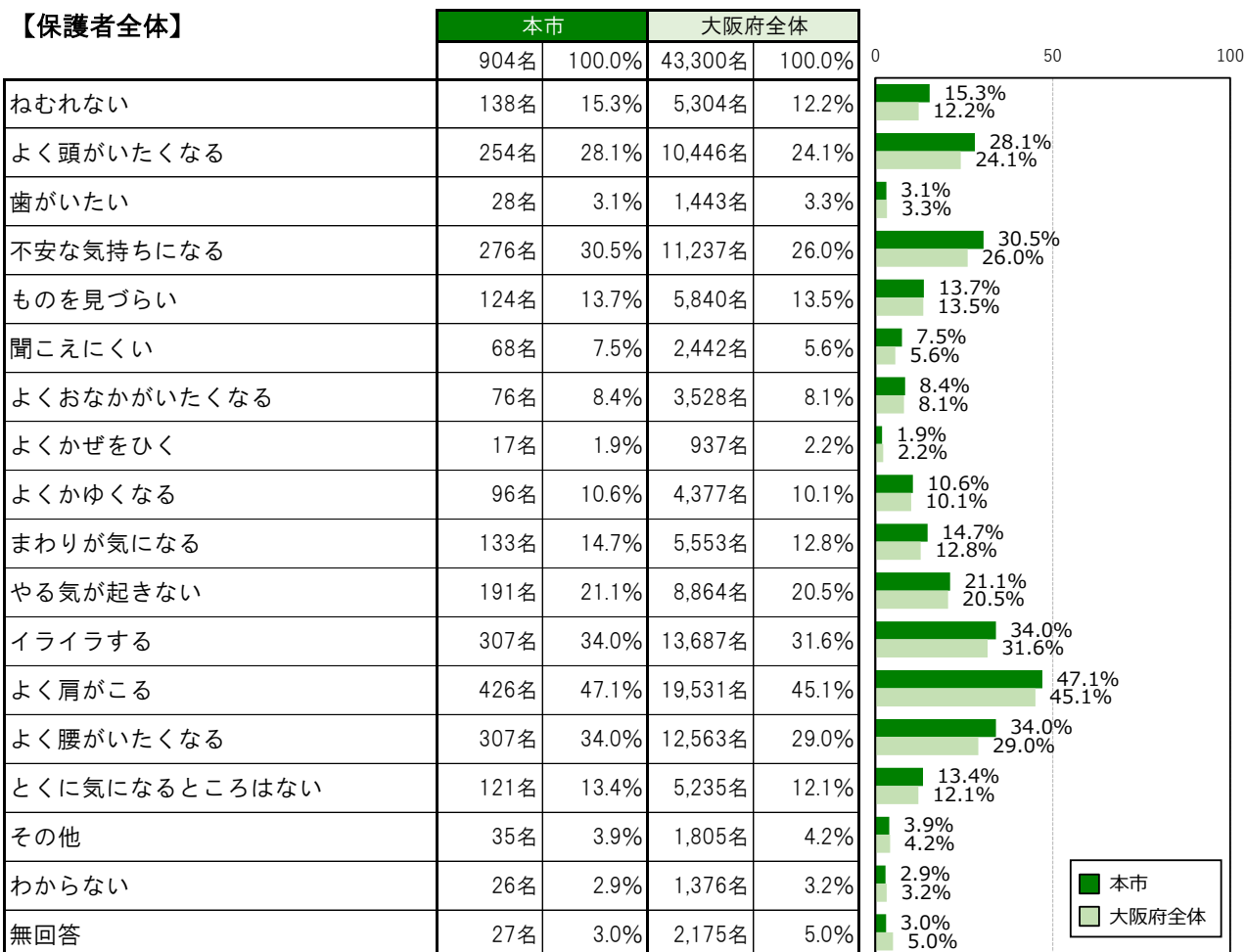
保護者のことについて

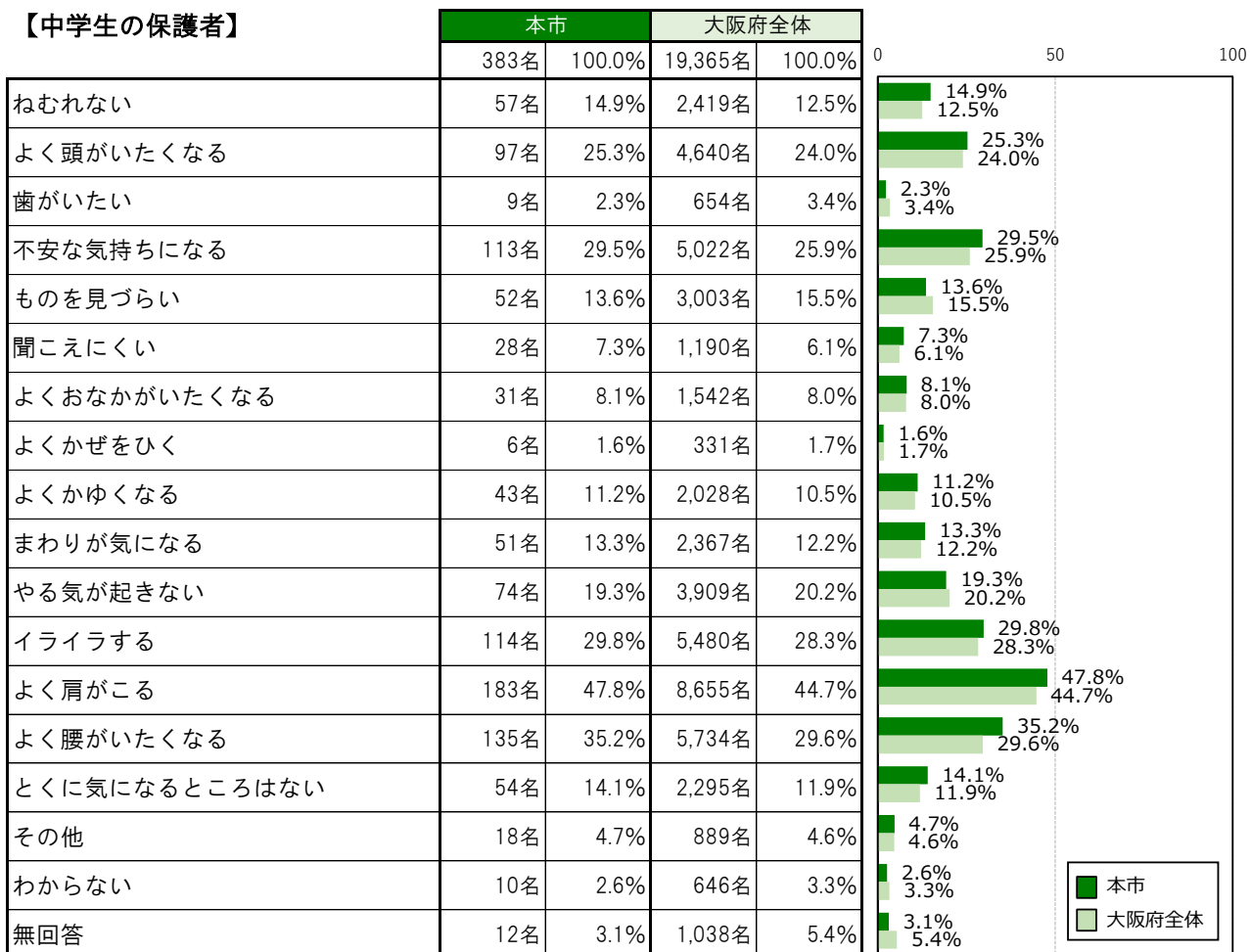
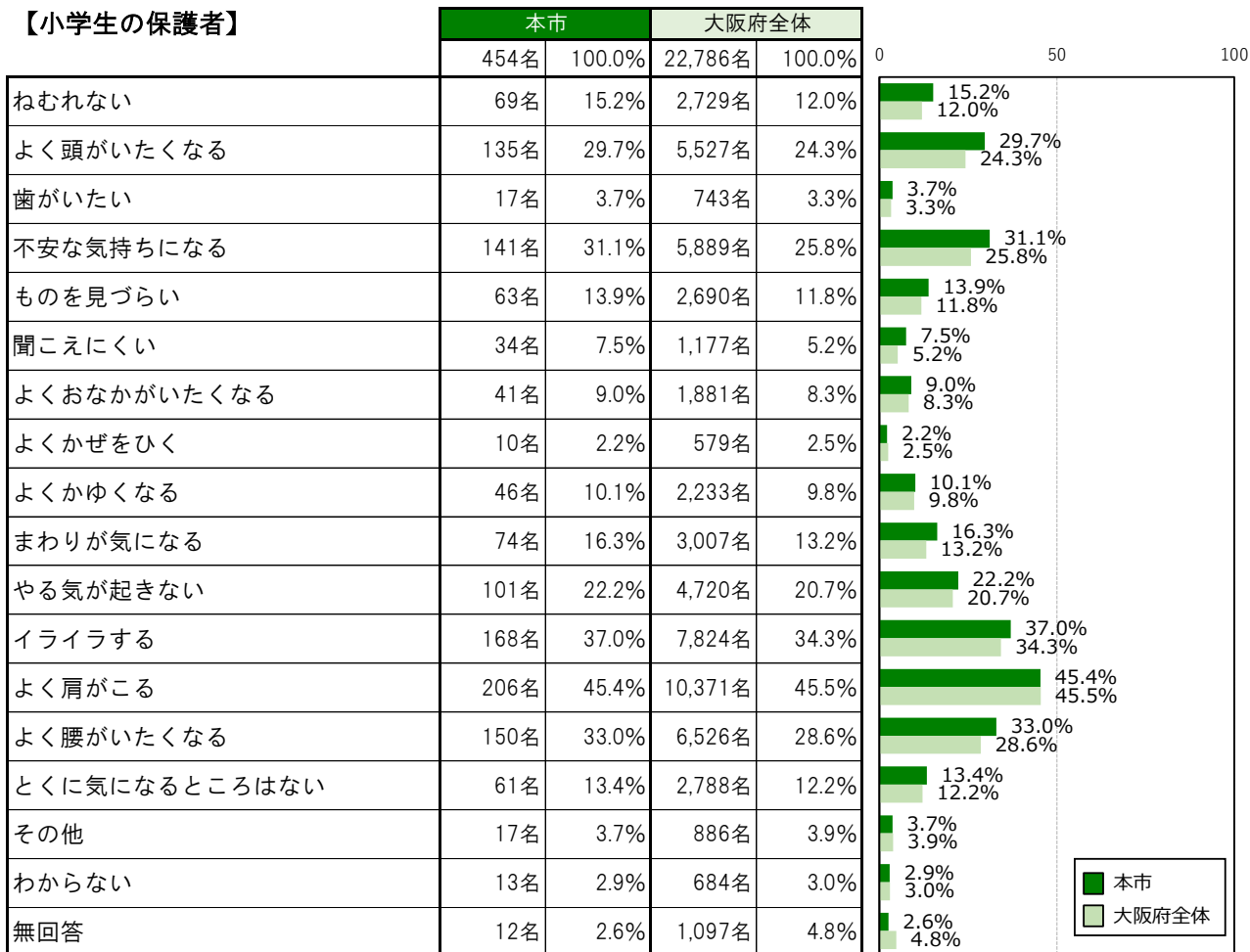
問22 自分の体や気持ちで気になること

保護者全体は、「よく肩がこる」が47.1%で最も多く、次いで「イライラする」、「よく腰がいたくなる」がそれぞれ34.0%、「不安な気持ちになる」が30.5%、「よく頭がいたくなる」が28.1%となっている。

小学生の保護者は、「よく肩がこる」が45.4%で最も多く、次いで「イライラする」が37.0%、「よく腰がいたくなる」が33.0%、「不安な気持ちになる」が31.1%となっている。

中学生の保護者は、「よく肩がこる」が47.8%で最も多く、次いで「よく腰がいたくなる」が35.2%、「イライラする」が29.8%、「不安な気持ちになる」が29.5%となっている。





保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助

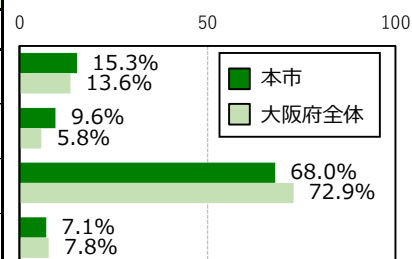
保護者全体は、「利用したことがない」が68.0%で最も多く、次いで「現在利用している」が15.3%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が9.6%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が71.6%で最も多く、次いで「現在利用している」が12.6%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が9.0%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が64.8%で最も多く、次いで「現在利用している」が17.0%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が10.7%となっている。

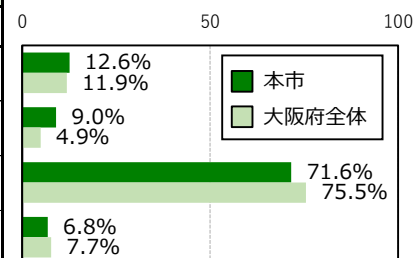
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	138名	15.3%	5,869名	13.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	87名	9.6%	2,503名	5.8%
利用したことがない	615名	68.0%	31,557名	72.9%
無回答	64名	7.1%	3,371名	7.8%



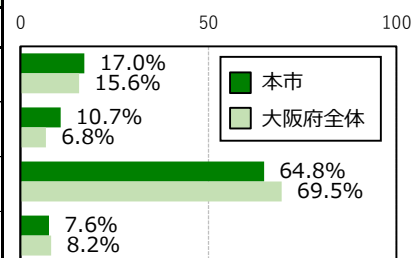
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	57名	12.6%	2,714名	11.9%
現在利用していないが、以前利用したことがある	41名	9.0%	1,110名	4.9%
利用したことがない	325名	71.6%	17,198名	75.5%
無回答	31名	6.8%	1,764名	7.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	65名	17.0%	3,020名	15.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	41名	10.7%	1,308名	6.8%
利用したことがない	248名	64.8%	13,453名	69.5%
無回答	29名	7.6%	1,584名	8.2%



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

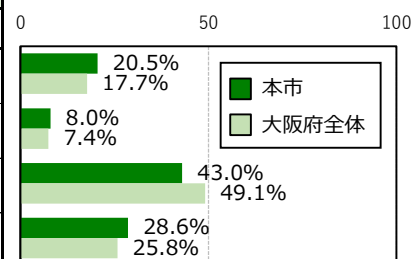
2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはない」）が25.0ポイント高いが、「現在利用している」（2016年度調査では「受けている」）が5.2ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が25.2ポイント高いが、「現在利用している」が5.5ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が25.6ポイント高くなっている。

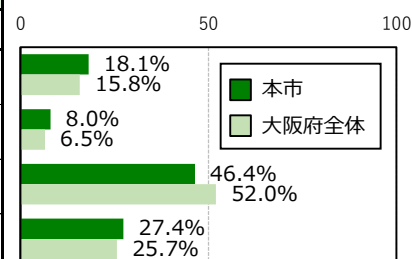
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,362名	100.0%	49,703名	100.0%
受けている	279名	20.5%	8,792名	17.7%
受けたことがある	109名	8.0%	3,669名	7.4%
受けたことはない	585名	43.0%	24,429名	49.1%
無回答	389名	28.6%	12,813名	25.8%



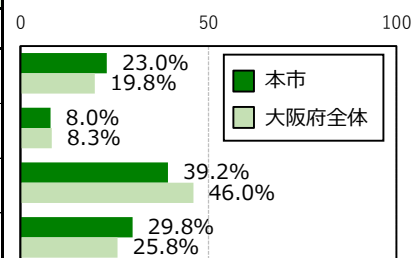
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	711名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	129名	18.1%	4,154名	15.8%
受けたことがある	57名	8.0%	1,724名	6.5%
受けたことはない	330名	46.4%	13,686名	52.0%
無回答	195名	27.4%	6,778名	25.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	651名	100.0%	23,323名	100.0%
受けている	150名	23.0%	4,628名	19.8%
受けたことがある	52名	8.0%	1,942名	8.3%
受けたことはない	255名	39.2%	10,733名	46.0%
無回答	194名	29.8%	6,020名	25.8%



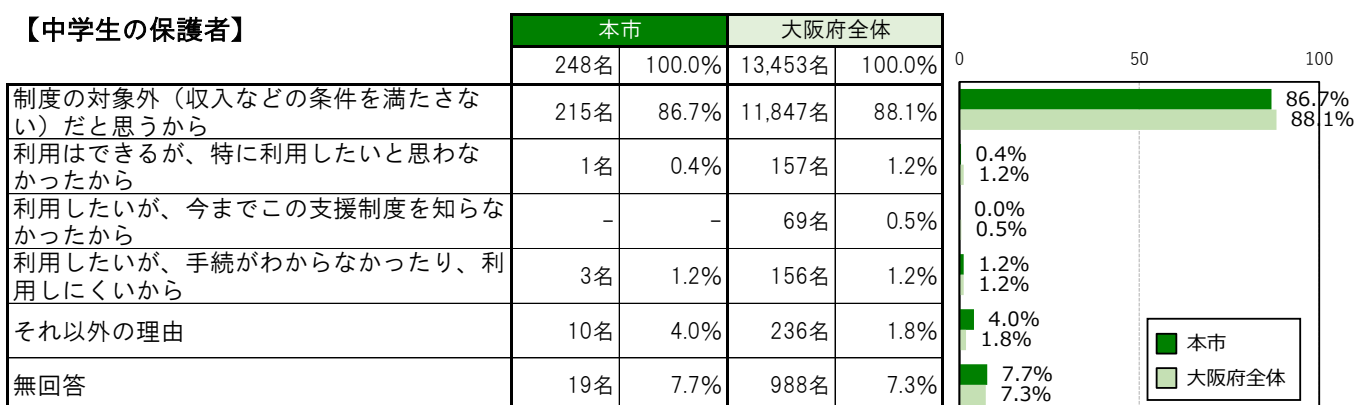
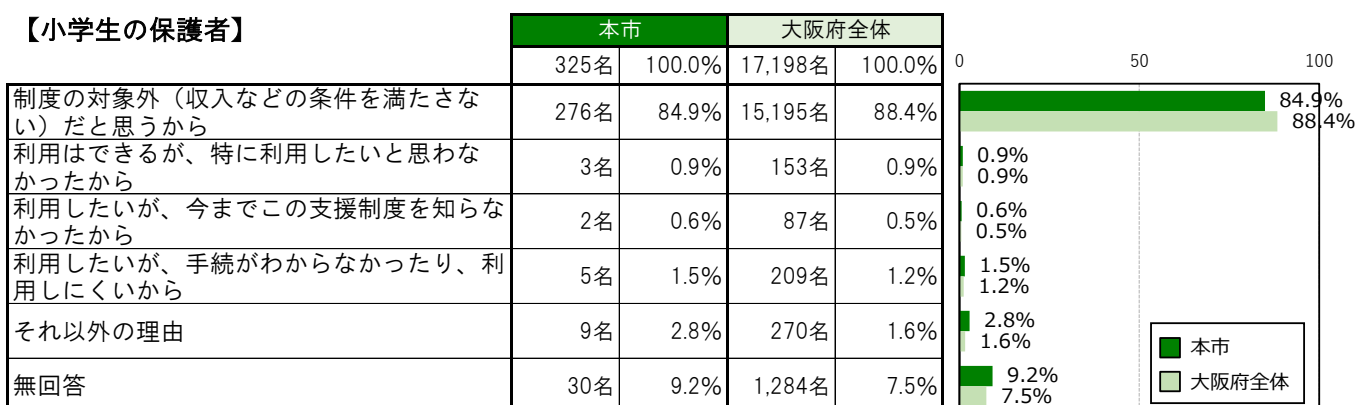
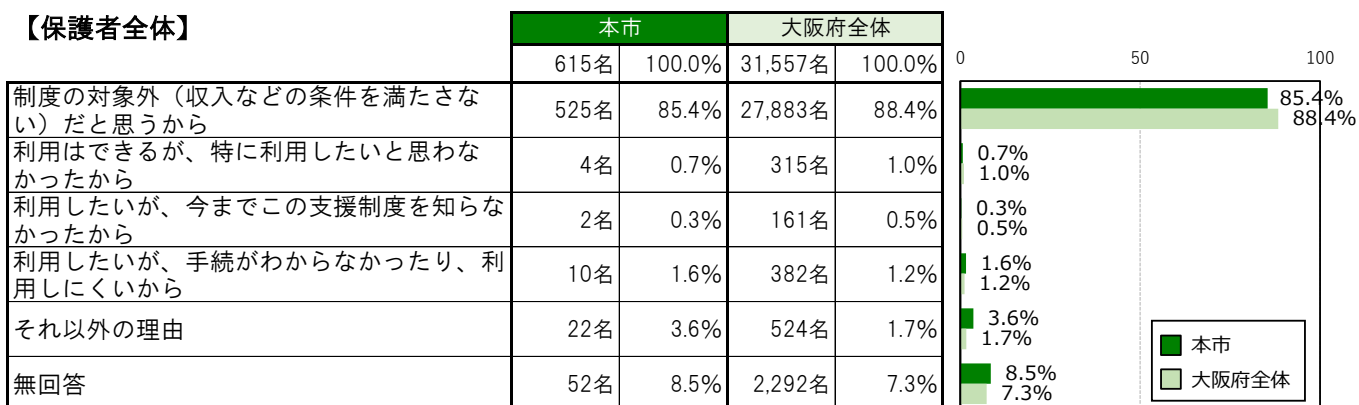
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.6%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.6%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.9%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.8%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.0%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.2%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護

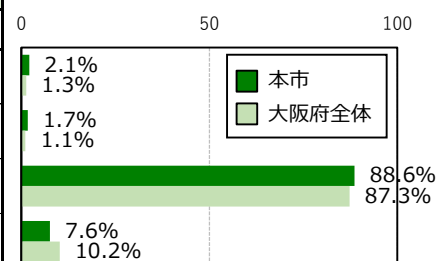
保護者全体は、「利用したことがない」が88.6%で最も多く、次いで「現在利用している」が2.1%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.7%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が90.3%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.5%、「現在利用している」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が86.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が3.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.3%となっている。

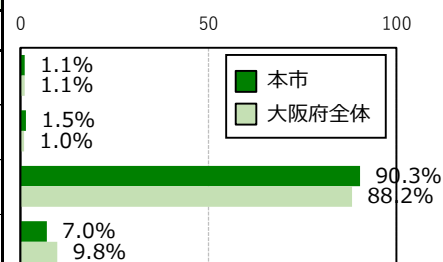
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	19名	2.1%	580名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	15名	1.7%	497名	1.1%
利用したことがない	801名	88.6%	37,793名	87.3%
無回答	69名	7.6%	4,430名	10.2%



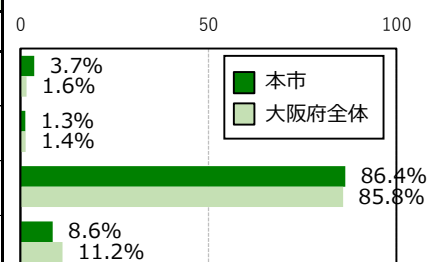
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	5名	1.1%	254名	1.1%
現在利用していないが、以前利用したことがある	7名	1.5%	218名	1.0%
利用したことがない	410名	90.3%	20,090名	88.2%
無回答	32名	7.0%	2,224名	9.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	14名	3.7%	316名	1.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	5名	1.3%	267名	1.4%
利用したことがない	331名	86.4%	16,608名	85.8%
無回答	33名	8.6%	2,174名	11.2%



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

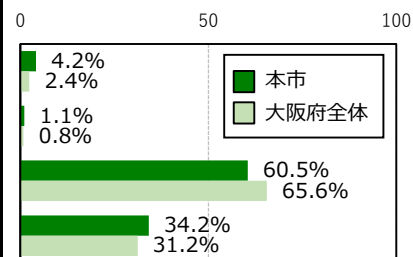
2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたこと
はない」）が28.1ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が28.0ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が27.9ポイント高くなっている。

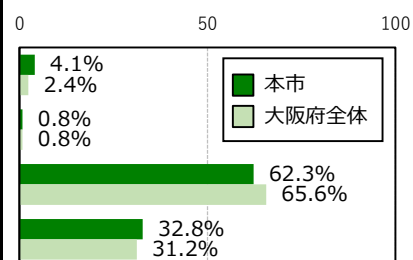
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,362名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	57名	4.2%	622名	2.4%
受けたことがある	15名	1.1%	211名	0.8%
受けたことはない	824名	60.5%	17,286名	65.6%
無回答	466名	34.2%	8,223名	31.2%



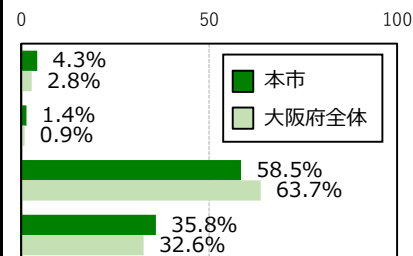
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	711名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	29名	4.1%	622名	2.4%
受けたことがある	6名	0.8%	211名	0.8%
受けたことはない	443名	62.3%	17,286名	65.6%
無回答	233名	32.8%	8,223名	31.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	651名	100.0%	23,323名	100.0%
受けている	28名	4.3%	650名	2.8%
受けたことがある	9名	1.4%	211名	0.9%
受けたことはない	381名	58.5%	14,855名	63.7%
無回答	233名	35.8%	7,607名	32.6%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護 <利用したことがない理由>

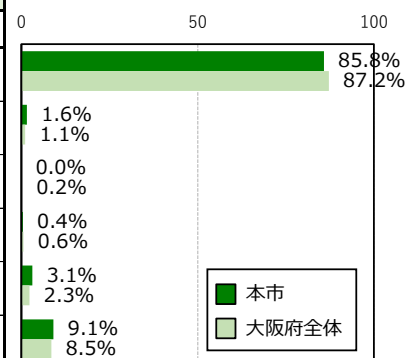
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.6%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.4%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.9%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.5%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.5%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.3%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.1%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.3%となっている。

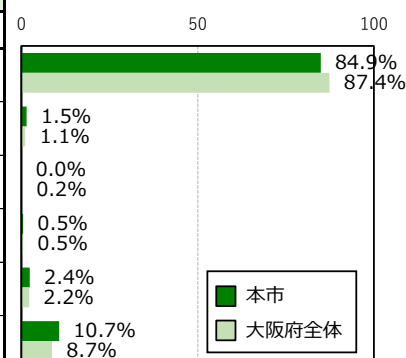
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	801名	100.0%	37,793名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	687名	85.8%	32,964名	87.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	13名	1.6%	434名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	73名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	3名	0.4%	230名	0.6%
それ以外の理由	25名	3.1%	867名	2.3%
無回答	73名	9.1%	3,225名	8.5%



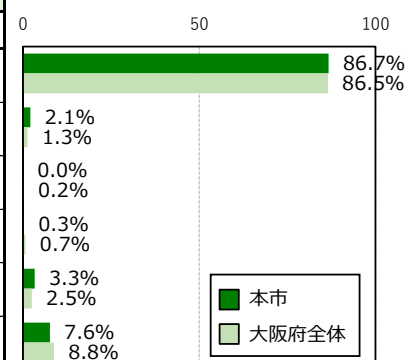
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	410名	100.0%	20,090名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	348名	84.9%	17,567名	87.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	6名	1.5%	211名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	31名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.5%	104名	0.5%
それ以外の理由	10名	2.4%	433名	2.2%
無回答	44名	10.7%	1,744名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	331名	100.0%	16,608名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	287名	86.7%	14,367名	86.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	7名	2.1%	219名	1.3%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	40名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	0.3%	117名	0.7%
それ以外の理由	11名	3.3%	411名	2.5%
無回答	25名	7.6%	1,454名	8.8%



保護者のことについて

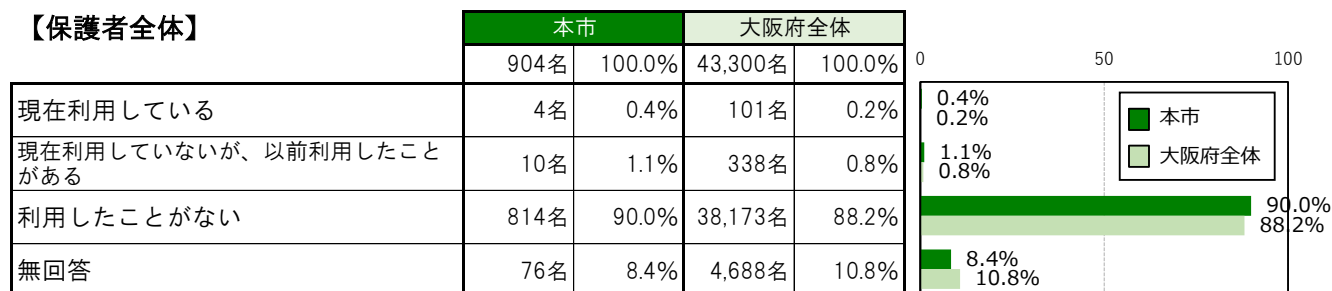
問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口

保護者全体は、「利用したことがない」が90.0%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.1%となっている。

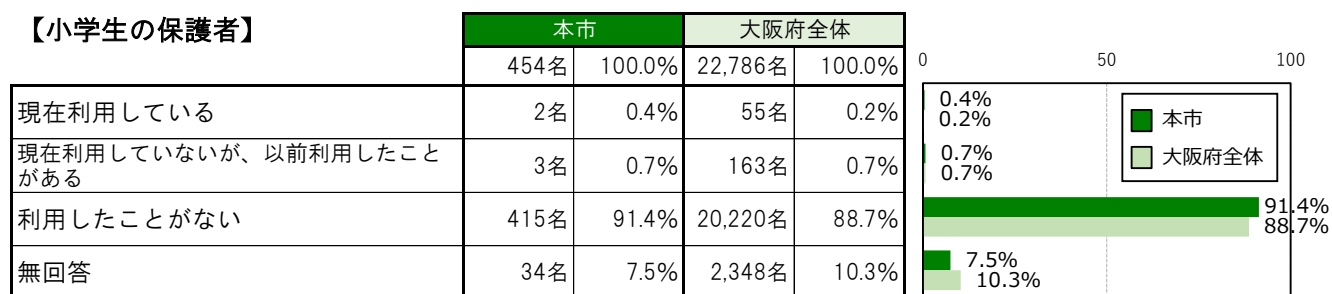
小学生の保護者は、「利用したことがない」が91.4%で最も多くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が88.5%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.0%となっている。

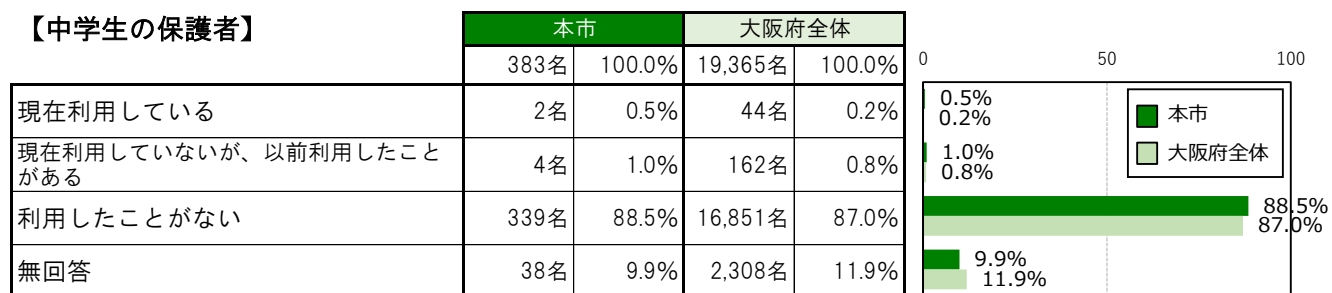
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口 <利用したことがない理由>

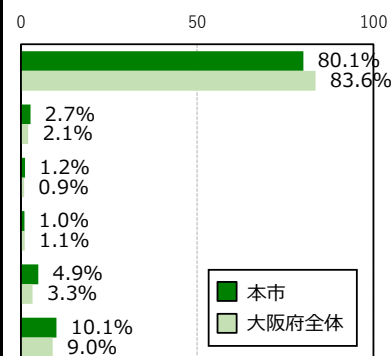
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が80.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.7%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が79.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.9%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が80.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.8%となっている。

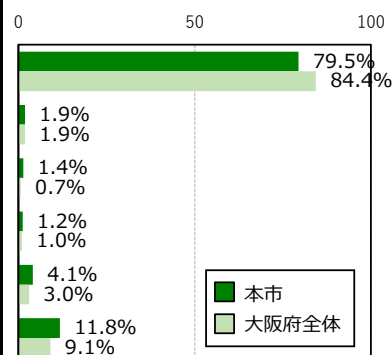
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	652名	80.1%	31,919名	83.6%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	22名	2.7%	790名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	10名	1.2%	332名	0.9%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	8名	1.0%	410名	1.1%
それ以外の理由	40名	4.9%	1,275名	3.3%
無回答	82名	10.1%	3,447名	9.0%



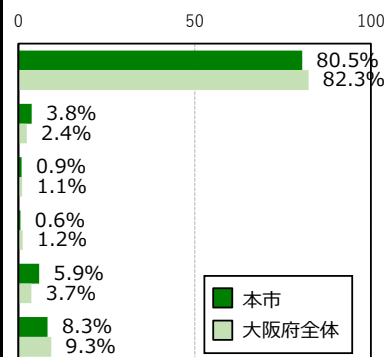
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	330名	79.5%	17,059名	84.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	8名	1.9%	382名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	6名	1.4%	134名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	5名	1.2%	193名	1.0%
それ以外の理由	17名	4.1%	609名	3.0%
無回答	49名	11.8%	1,843名	9.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	273名	80.5%	13,863名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	13名	3.8%	397名	2.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	0.9%	192名	1.1%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.6%	204名	1.2%
それ以外の理由	20名	5.9%	625名	3.7%
無回答	28名	8.3%	1,570名	9.3%



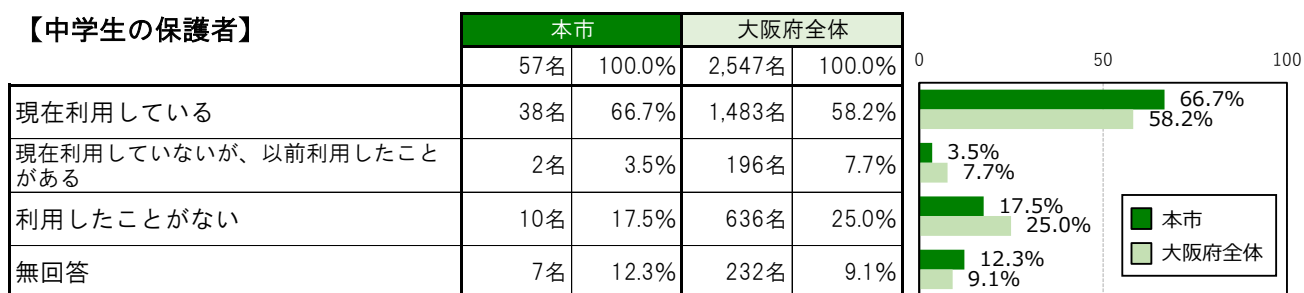
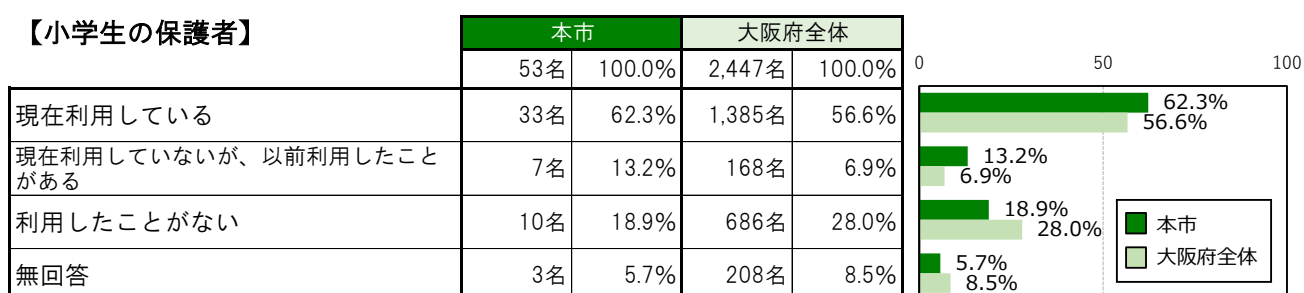
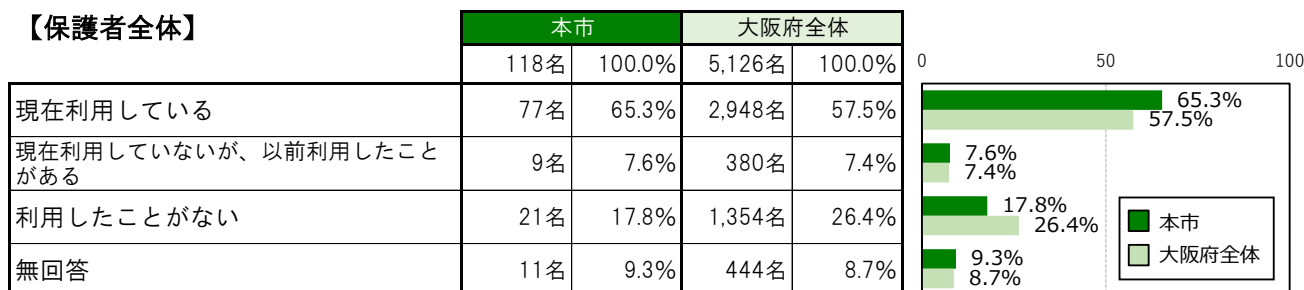
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の保護者全体は、「現在利用している」が65.3%で最も多く、次いで「利用したことがない」が17.8%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が7.6%となっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が62.3%で最も多く、次いで「利用したことがない」が18.9%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が13.2%となっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が66.7%で最も多く、次いで「利用したことがない」が17.5%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.5%となっている。



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

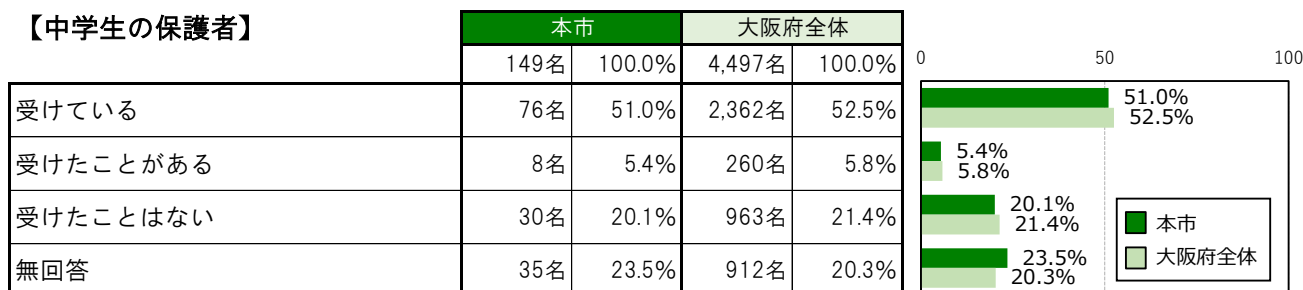
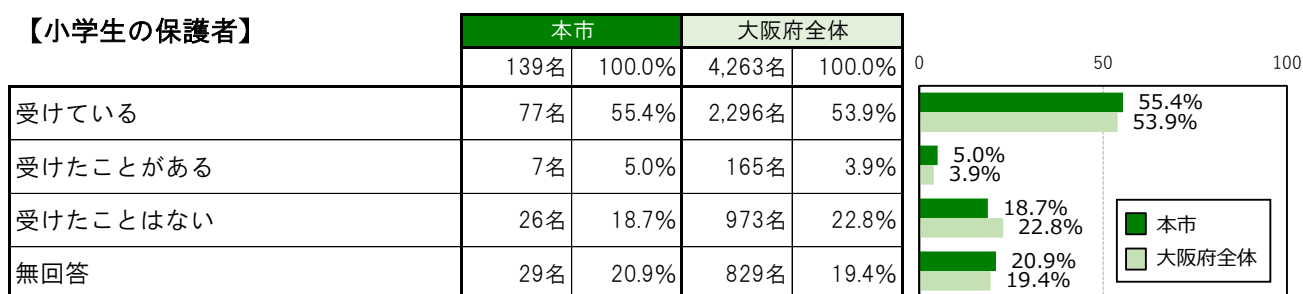
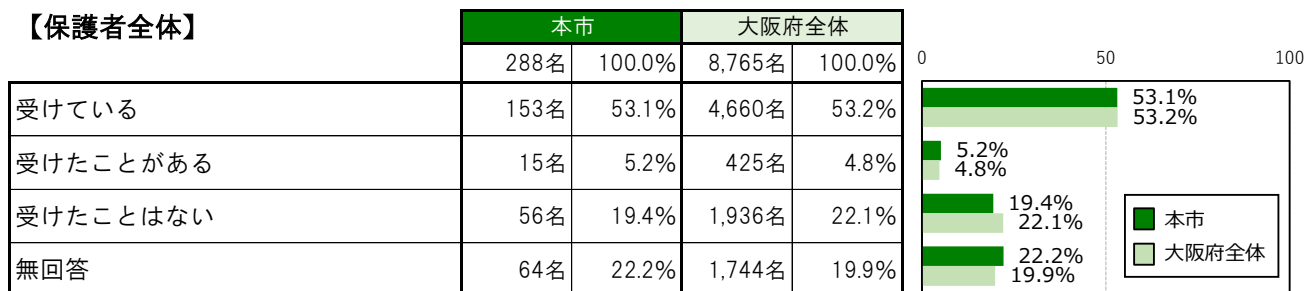
※ ひとり親世帯のみで集計。

●2016年度 調査結果【参考データ】

ひとり親世帯を2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「現在利用している」（2016年度調査では「受けている」）が12.2ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が6.9ポイント、「現在利用していないが、以前利用したことがある」（2016年度調査では「受けたことがある」）が8.2ポイント、それぞれ高くなっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が15.7ポイント高くなっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

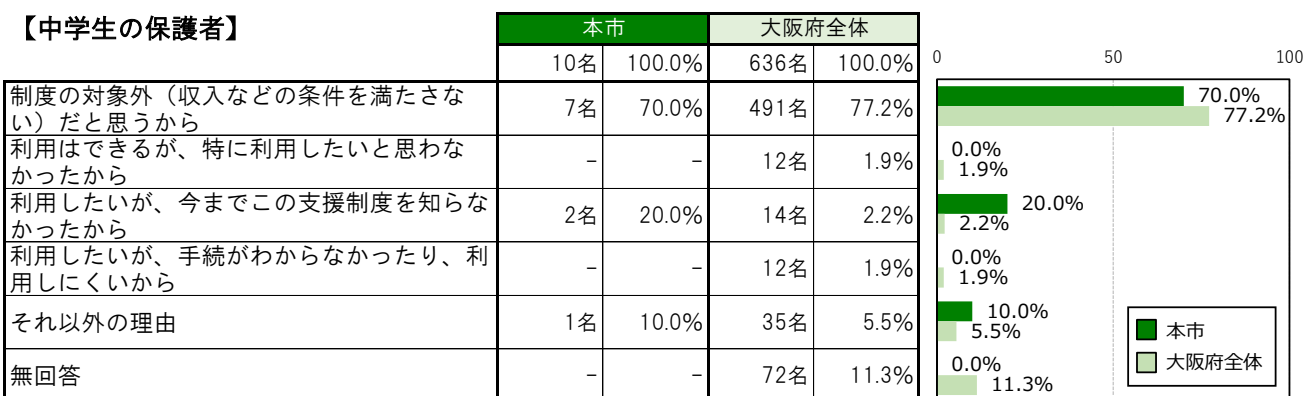
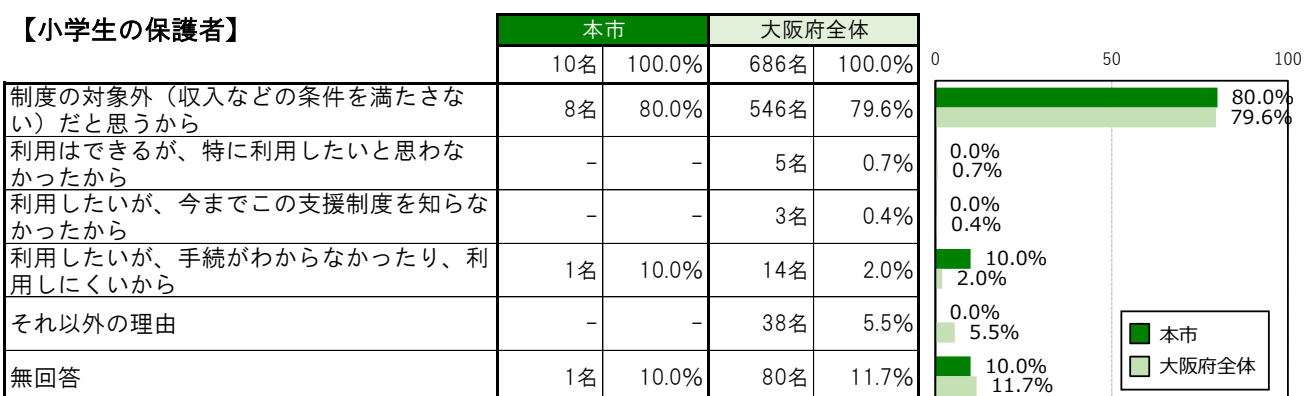
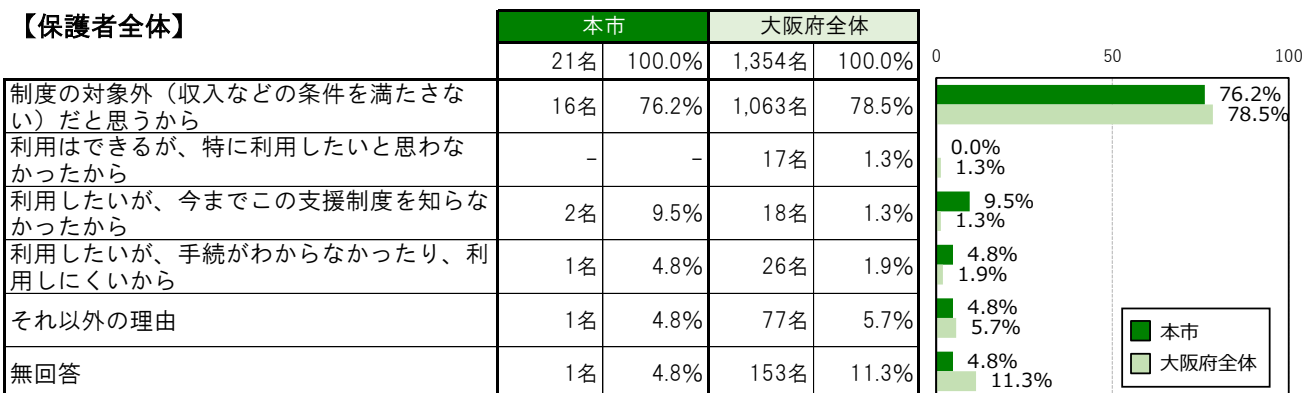
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当 <利用したことがない理由> (ひとり親世帯のみ)

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が76.2%（16名）で最も多く、次いで「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が9.5%（2名）となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が80.0%（8名）で最も多く、次いで「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が10.0%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が70.0%（7名）で最も多く、次いで「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が20.0%（2名）となっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

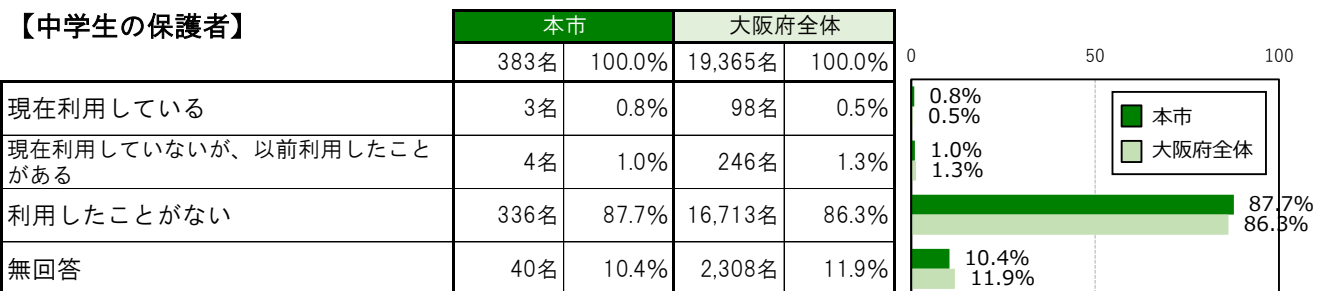
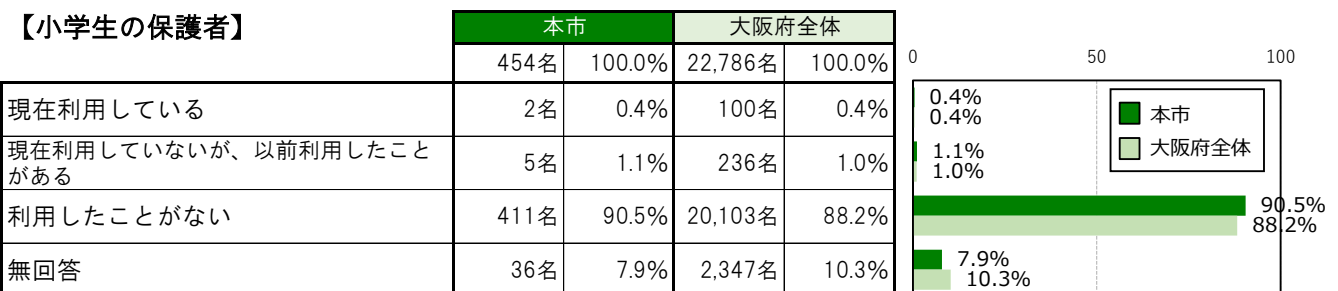
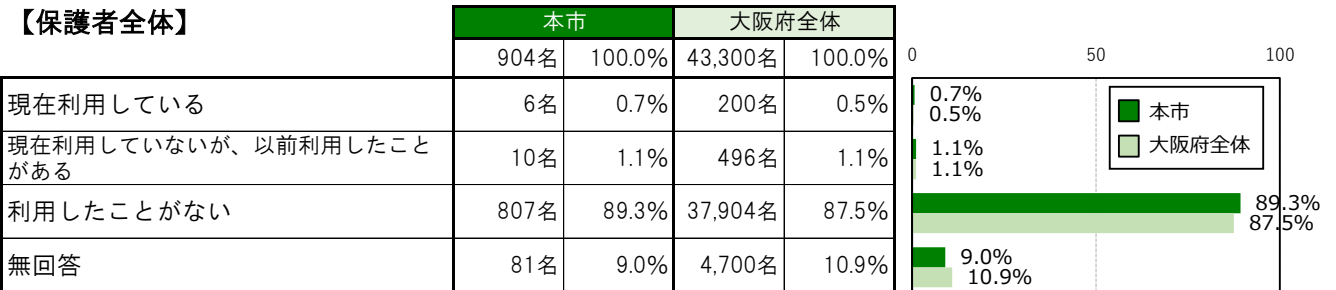
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター

保護者全体は、「利用したことがない」が89.3%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が90.5%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が87.7%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.0%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター <利用したことがない理由>

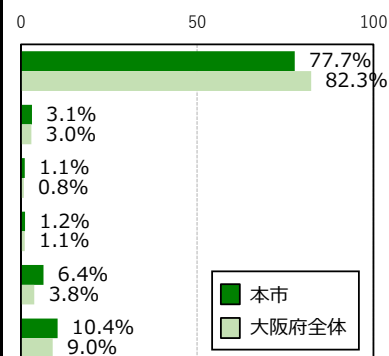
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が77.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が6.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.1%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が78.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.6%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.4%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.2%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が77.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が7.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.9%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.5%となっている。

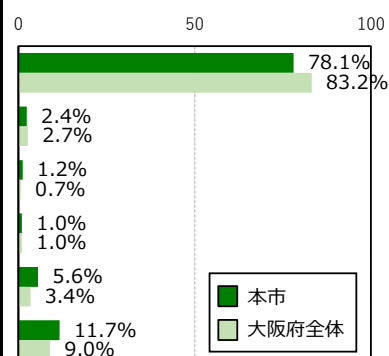
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	807名	100.0%	37,904名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	627名	77.7%	31,197名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	25名	3.1%	1,139名	3.0%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	9名	1.1%	316名	0.8%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	10名	1.2%	401名	1.1%
それ以外の理由	52名	6.4%	1,448名	3.8%
無回答	84名	10.4%	3,403名	9.0%



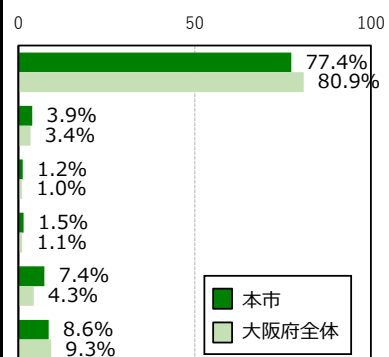
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	411名	100.0%	20,103名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	321名	78.1%	16,718名	83.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	10名	2.4%	540名	2.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	5名	1.2%	138名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	1.0%	203名	1.0%
それ以外の理由	23名	5.6%	686名	3.4%
無回答	48名	11.7%	1,818名	9.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	336名	100.0%	16,713名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	260名	77.4%	13,516名	80.9%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	13名	3.9%	572名	3.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	4名	1.2%	169名	1.0%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	5名	1.5%	188名	1.1%
それ以外の理由	25名	7.4%	714名	4.3%
無回答	29名	8.6%	1,554名	9.3%



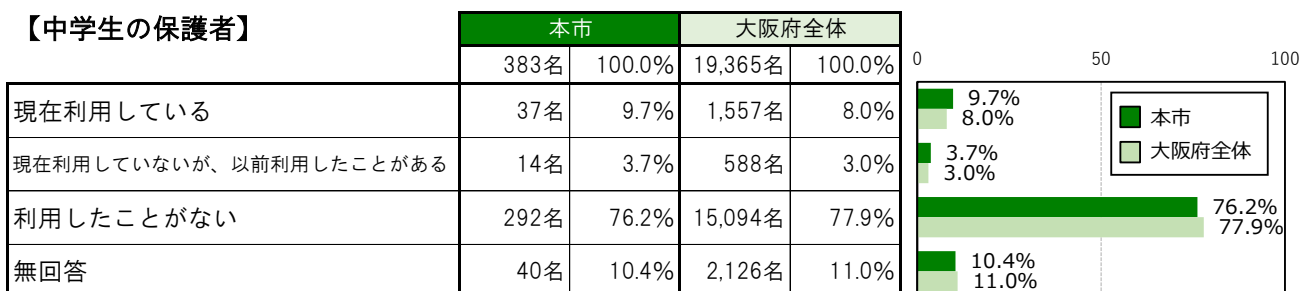
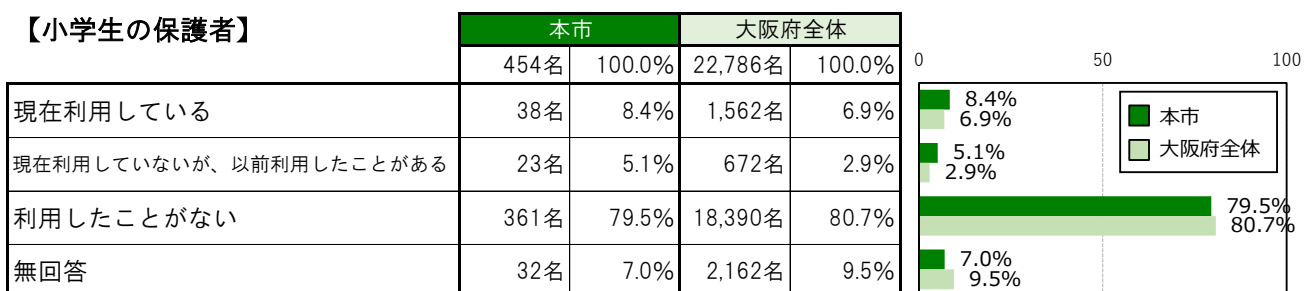
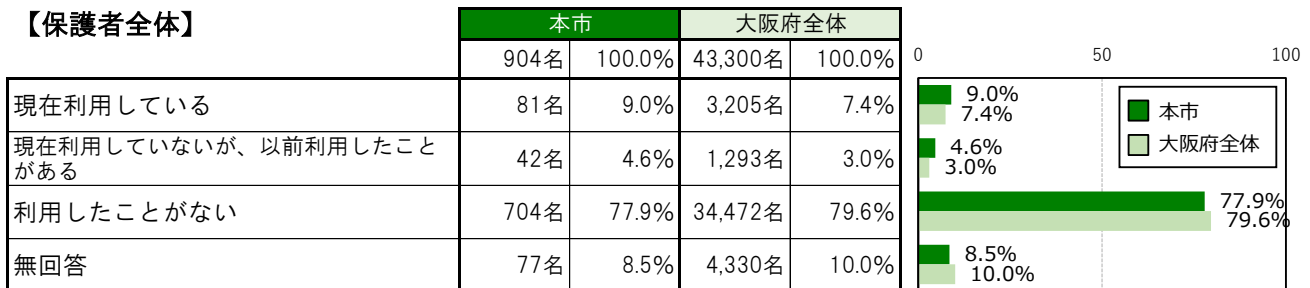
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

保護者全体は、「利用したことがない」が77.9%で最も多く、次いで「現在利用している」が9.0%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.6%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が79.5%で最も多く、次いで「現在利用している」が8.4%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.1%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が76.2%で最も多く、次いで「現在利用している」が9.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.7%となっている。



保護者のことについて

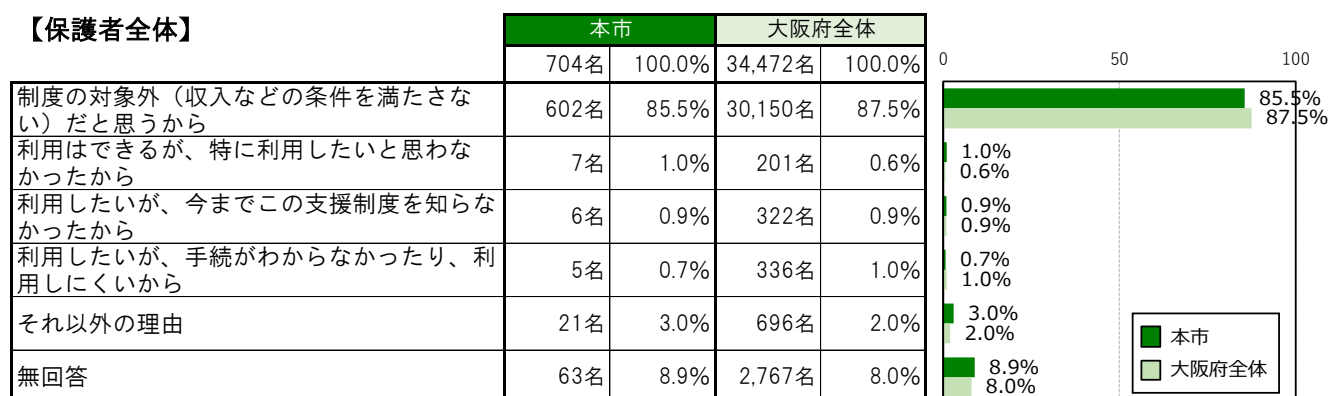
問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金
＜利用したことがない理由＞

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.0%となっている。

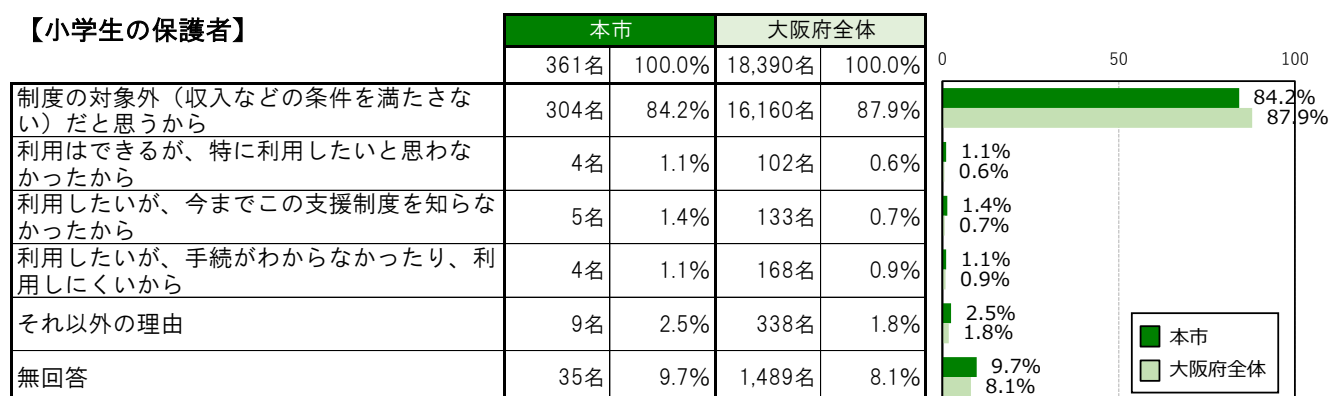
小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.5%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.0%となっている。

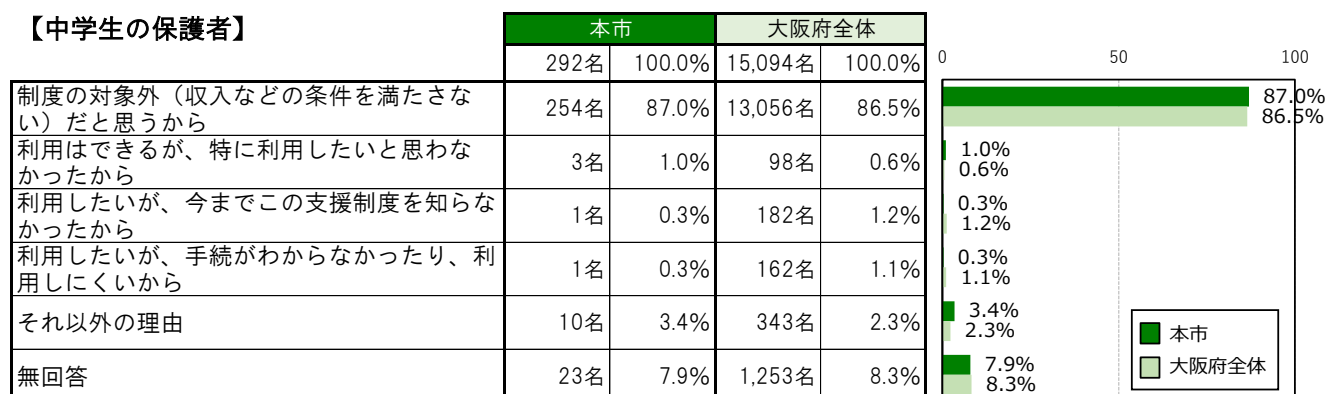
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



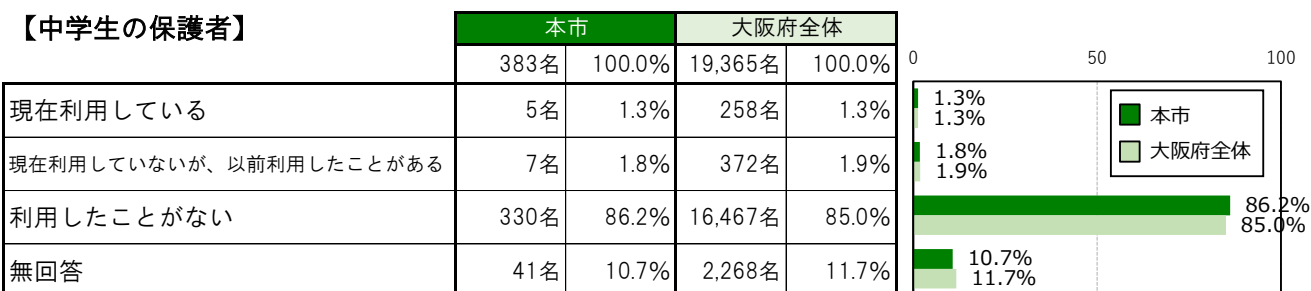
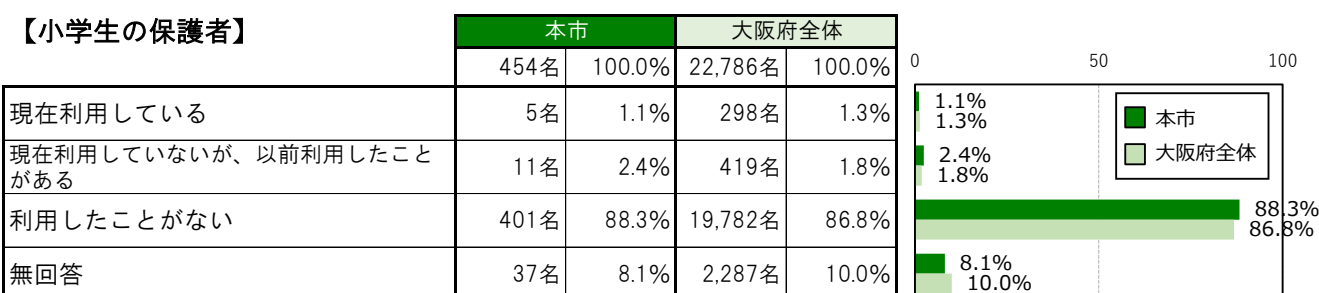
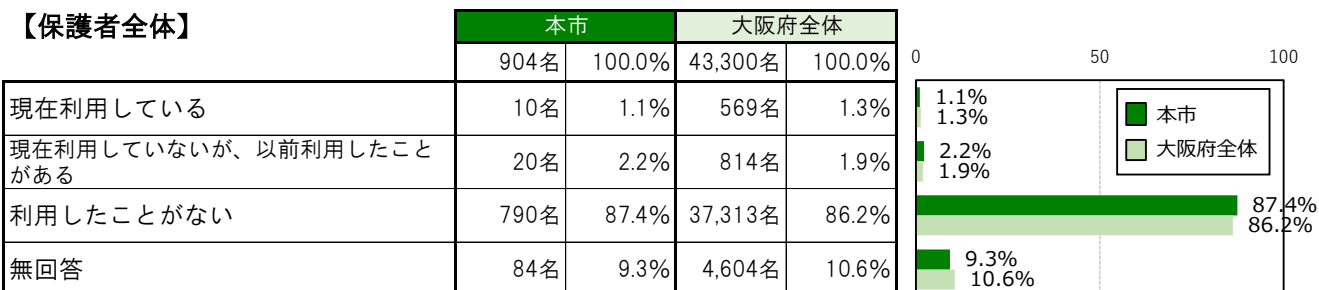
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）

保護者全体は、「利用したことがない」が87.4%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.2%、「現在利用している」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が88.3%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.4%、「現在利用している」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が86.2%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.8%、「現在利用している」が1.3%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）
＜利用したことがない理由＞

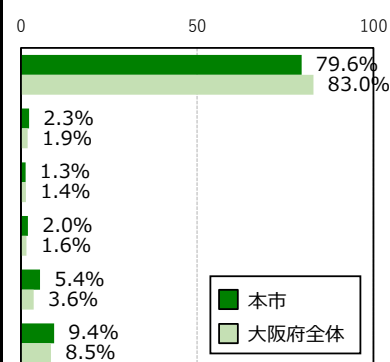
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が79.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.3%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が2.0%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が79.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.2%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が2.0%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が79.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が7.3%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.7%となっている。

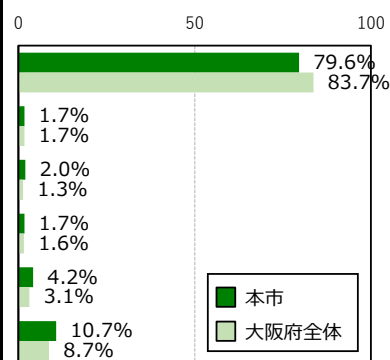
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	790名	100.0%	37,313名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	629名	79.6%	30,971名	83.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	18名	2.3%	708名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	10名	1.3%	529名	1.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	16名	2.0%	611名	1.6%
それ以外の理由	43名	5.4%	1,331名	3.6%
無回答	74名	9.4%	3,163名	8.5%



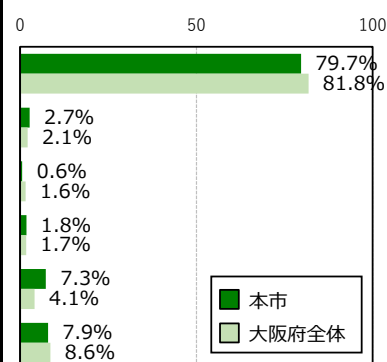
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	401名	100.0%	19,782名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	319名	79.6%	16,548名	83.7%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	7名	1.7%	343名	1.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	8名	2.0%	258名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	7名	1.7%	308名	1.6%
それ以外の理由	17名	4.2%	613名	3.1%
無回答	43名	10.7%	1,712名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	330名	100.0%	16,467名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	263名	79.7%	13,474名	81.8%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	9名	2.7%	350名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2名	0.6%	263名	1.6%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	6名	1.8%	284名	1.7%
それ以外の理由	24名	7.3%	675名	4.1%
無回答	26名	7.9%	1,421名	8.6%



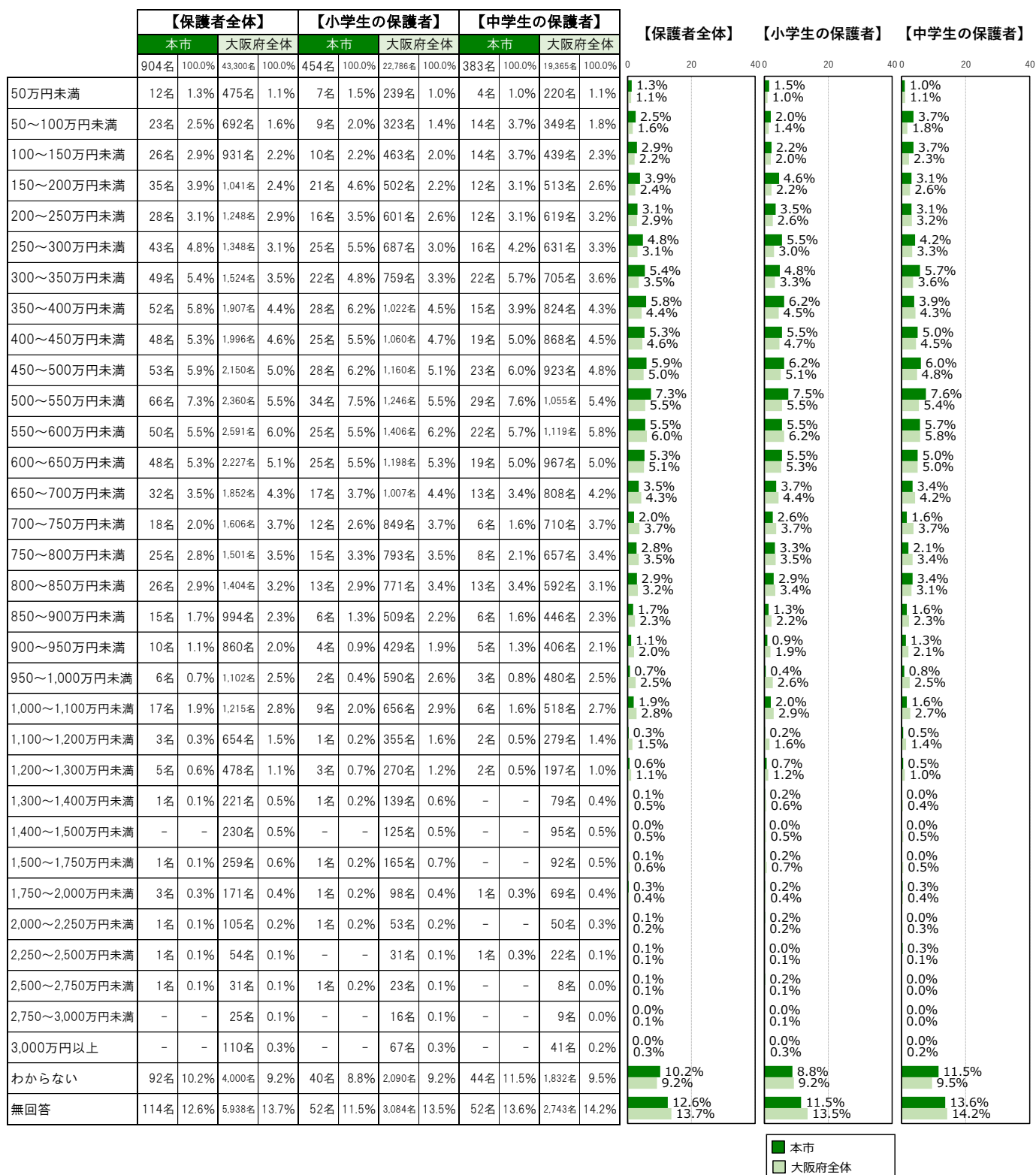
保護者のことについて

問24 世帯収入

保護者全体は、「500～550万円未満」が7.3%で最も多く、次いで「450～500万円未満」が5.9%、「350～400万円未満」が5.8%、「550～600万円未満」が5.5%となっている。

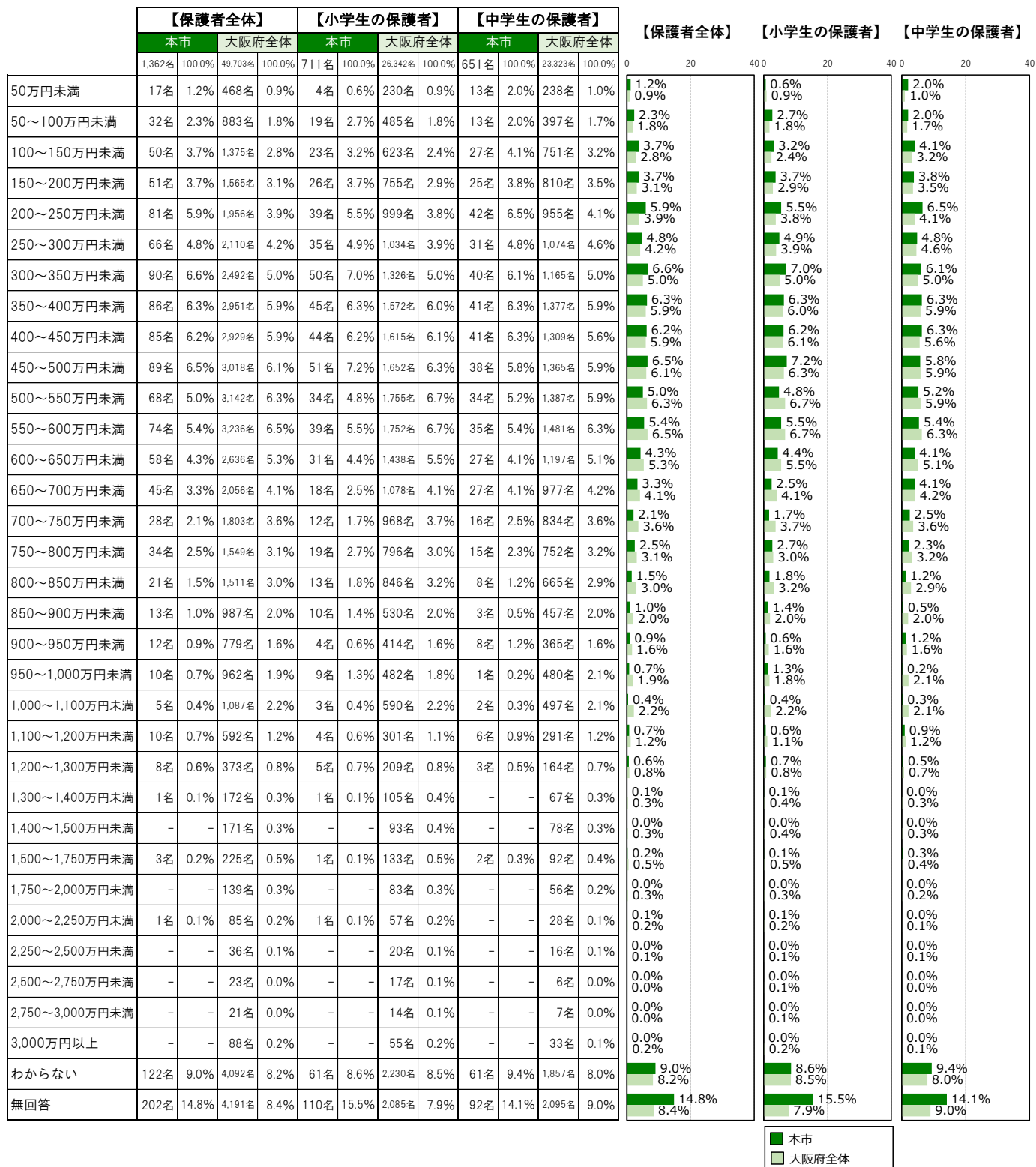
小学生の保護者は、「500～550万円未満」が7.5%で最も多く、次いで「350～400万円未満」、「450～500万円未満」がそれぞれ6.2%、「250～300万円未満」、「400～450万円未満」、「550～600万円未満」、「600～650万円未満」がそれぞれ5.5%、「300～350万円未満」が4.8%となっている。

中学生の保護者は、「500～550万円未満」が7.6%で最も多く、次いで「450～500万円未満」が6.0%、「300～350万円未満」、「550～600万円未満」がそれぞれ5.7%、「400～450万円未満」、「600～650万円未満」がそれぞれ5.0%となっている。



●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、大きな差はみられない。
小学生の保護者は、大きな差はみられない。
中学生の保護者は、「200～250万円未満」が3.4ポイント低くなっている。



世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要がある、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。

出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

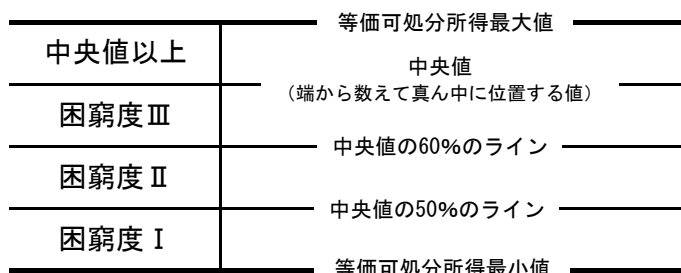
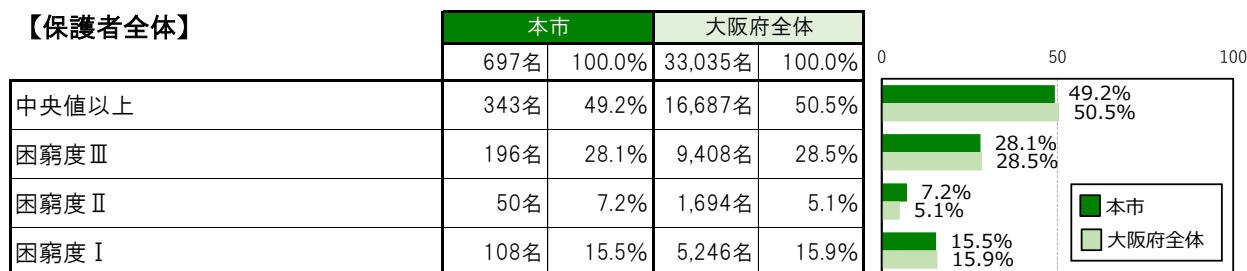


図 困窮度の分類と基準

中央値は235万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は15.5%であった。
なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率は15.9%であった。

【保護者全体】



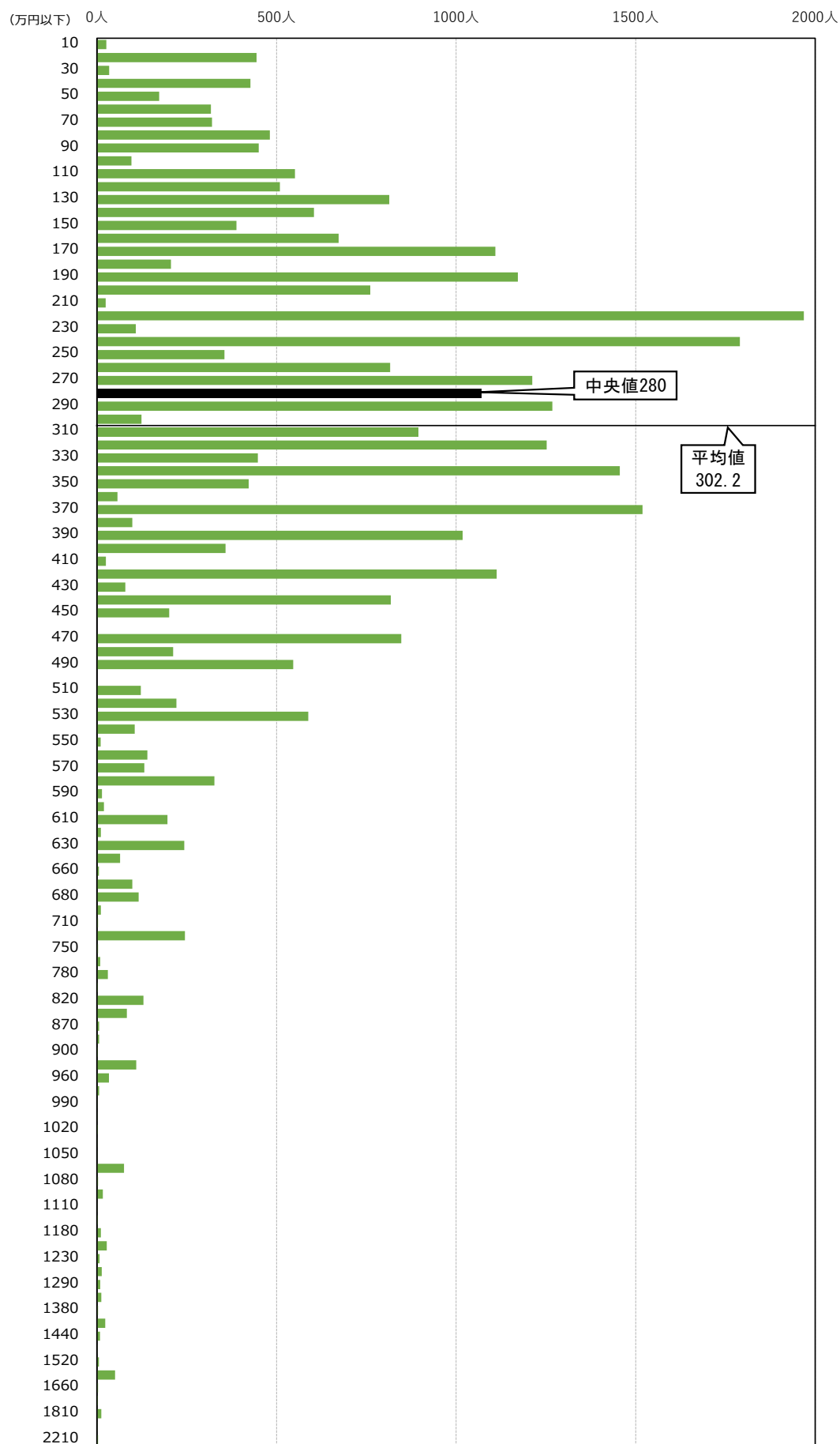
保護者全体は、「中央値以上」が49.2%で最も多く、次いで「困窮度Ⅲ」が28.1%、「困窮度Ⅰ」が15.5%、「困窮度Ⅱ」が7.2%となっている。

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「困窮度Ⅲ」は3.0ポイント高くなっている。

【保護者全体】





※ 2016年度調査では、中央値255万円、平均値272.7万円であった。
注) 2023年度調査ではグラフ作成方法を改訂している。

図 大阪府内全自治体における等価可処分所得の分布

保護者のことについて

問25 同居家族が新型コロナウイルスに感染した延べ回数

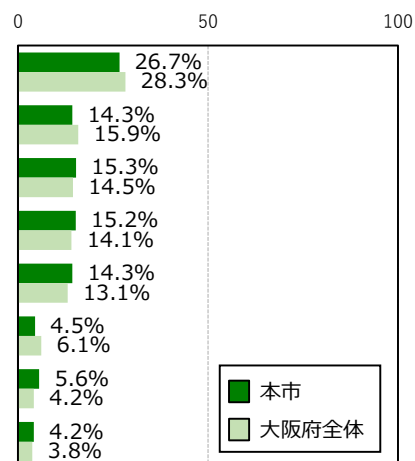
保護者全体は、「いない」が26.7%で最も多く、次いで「2回」が15.3%、「3回」が15.2%、「1回」、「4回」がそれぞれ14.3%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が27.1%で最も多く、次いで「4回」が16.1%、「3回」が14.8%、「1回」が14.3%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が27.7%で最も多く、次いで「2回」が17.2%、「3回」が14.6%、「1回」が14.4%となっている。

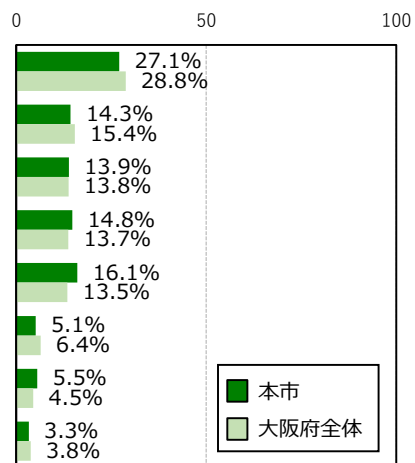
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	241名	26.7%	12,265名	28.3%
1回	129名	14.3%	6,894名	15.9%
2回	138名	15.3%	6,279名	14.5%
3回	137名	15.2%	6,098名	14.1%
4回	129名	14.3%	5,651名	13.1%
5回	41名	4.5%	2,637名	6.1%
6回以上	51名	5.6%	1,828名	4.2%
無回答	38名	4.2%	1,648名	3.8%



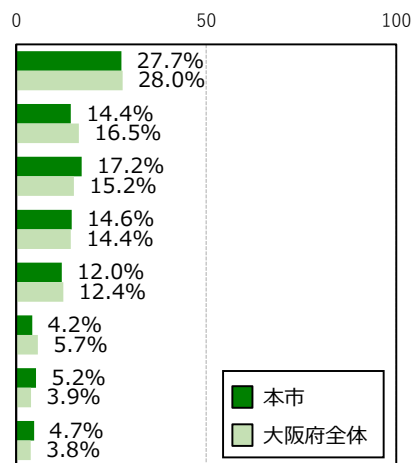
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	123名	27.1%	6,573名	28.8%
1回	65名	14.3%	3,508名	15.4%
2回	63名	13.9%	3,152名	13.8%
3回	67名	14.8%	3,119名	13.7%
4回	73名	16.1%	3,085名	13.5%
5回	23名	5.1%	1,457名	6.4%
6回以上	25名	5.5%	1,029名	4.5%
無回答	15名	3.3%	863名	3.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	106名	27.7%	5,415名	28.0%
1回	55名	14.4%	3,195名	16.5%
2回	66名	17.2%	2,948名	15.2%
3回	56名	14.6%	2,796名	14.4%
4回	46名	12.0%	2,410名	12.4%
5回	16名	4.2%	1,107名	5.7%
6回以上	20名	5.2%	758名	3.9%
無回答	18名	4.7%	736名	3.8%



保護者のことについて

問26（１）住居の間取り

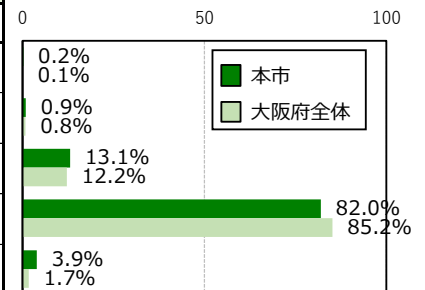
保護者全体は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が82.0%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が13.1%となっている。

小学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が82.4%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が14.3%となっている。

中学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が81.2%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が11.5%となっている。

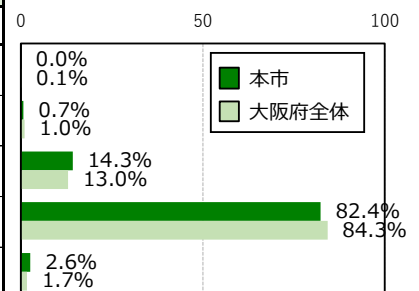
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	904名	100.0%	43,300名	100.0%
ワンルーム	2名	0.2%	43名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	8名	0.9%	358名	0.8%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	118名	13.1%	5,272名	12.2%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	741名	82.0%	36,876名	85.2%
無回答	35名	3.9%	751名	1.7%



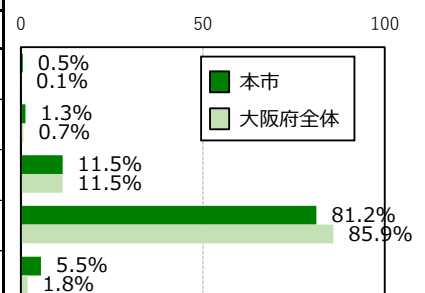
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	454名	100.0%	22,786名	100.0%
ワンルーム	-	-	21名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	3名	0.7%	217名	1.0%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	65名	14.3%	2,951名	13.0%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	374名	82.4%	19,206名	84.3%
無回答	12名	2.6%	391名	1.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	383名	100.0%	19,365名	100.0%
ワンルーム	2名	0.5%	21名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	5名	1.3%	134名	0.7%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	44名	11.5%	2,233名	11.5%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	311名	81.2%	16,638名	85.9%
無回答	21名	5.5%	339名	1.8%



保護者のことについて

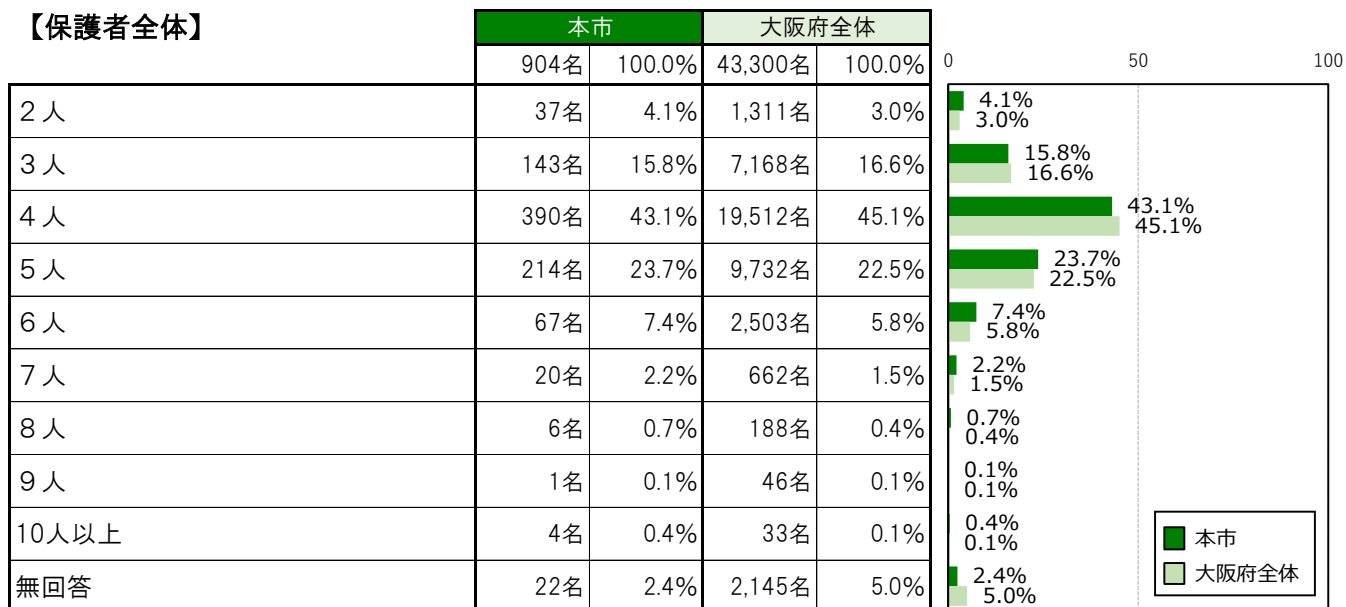
問26（2）同居人数

保護者全体は、「4人」が43.1%で最も多く、次いで「5人」が23.7%、「3人」が15.8%、「6人」が7.4%となっている。

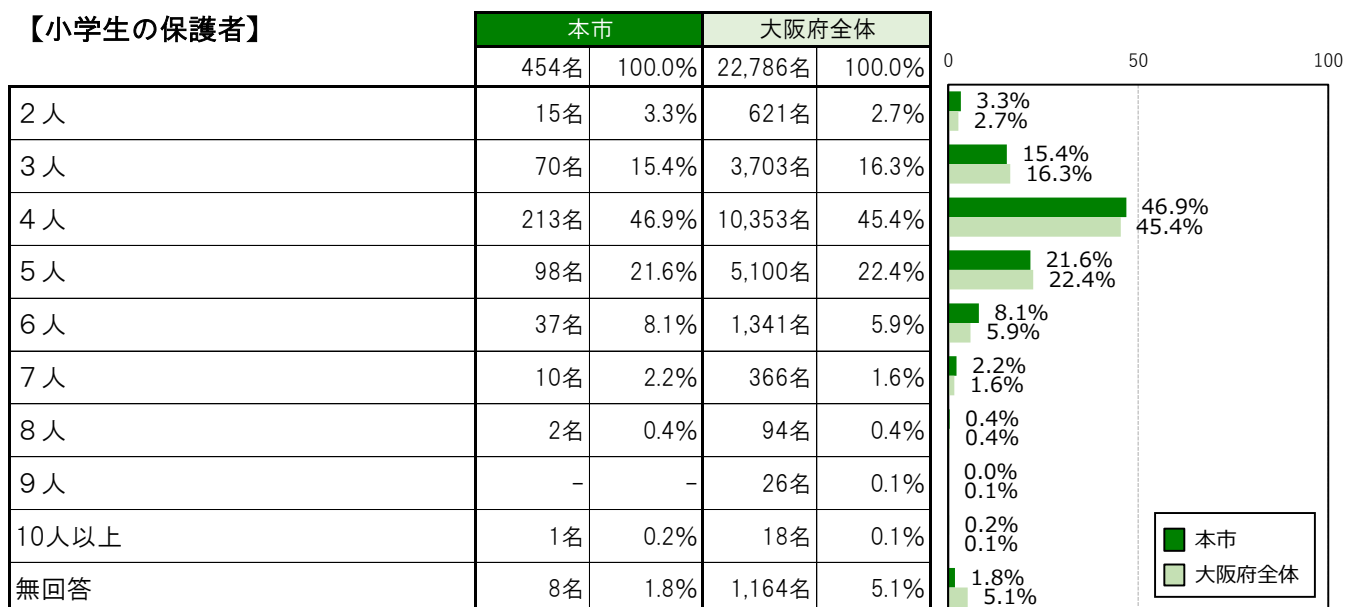
小学生の保護者は、「4人」が46.9%で最も多く、次いで「5人」が21.6%、「3人」が15.4%、「6人」が8.1%となっている。

中学生の保護者は、「4人」が38.9%で最も多く、次いで「5人」が25.1%、「3人」が17.8%、「6人」が6.5%となっている。

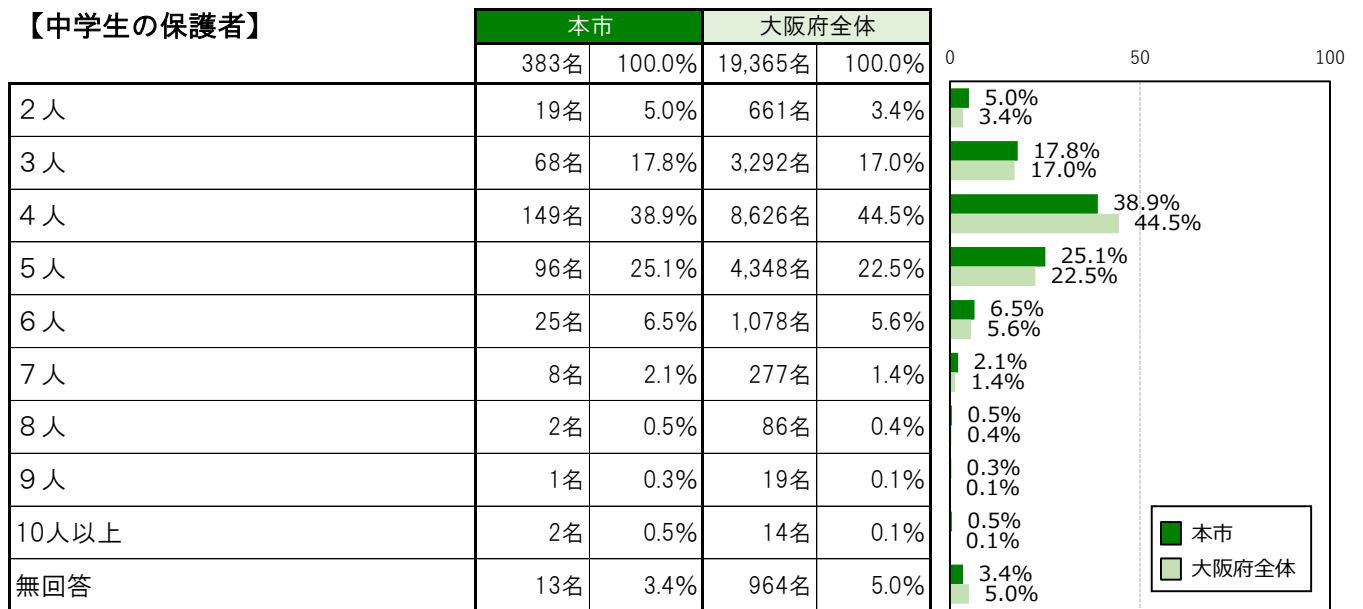
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



3. クロス集計および分析結果

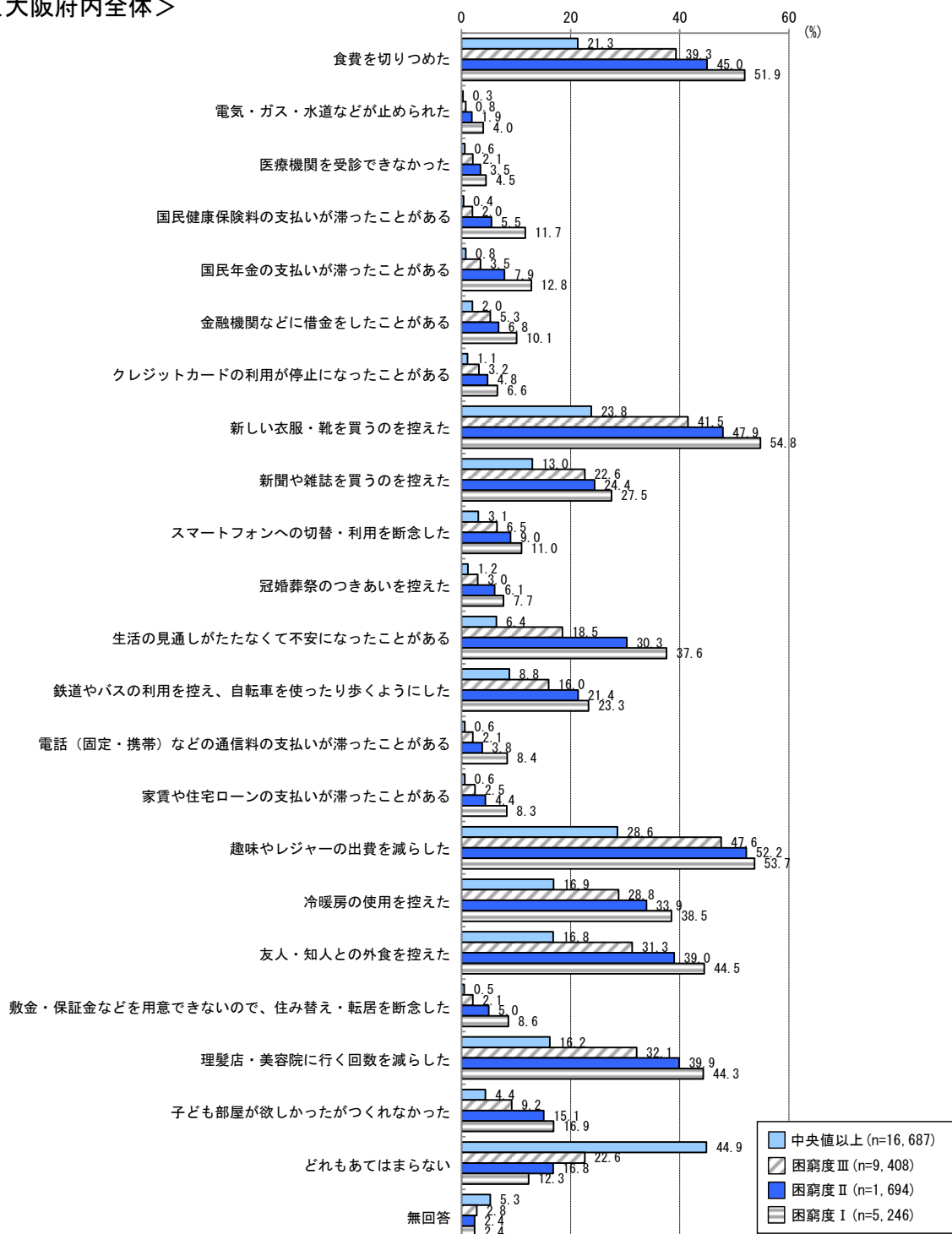
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

3-1. 基本情報

(1) 経済状況

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<大阪府内全体>



＜門真市＞

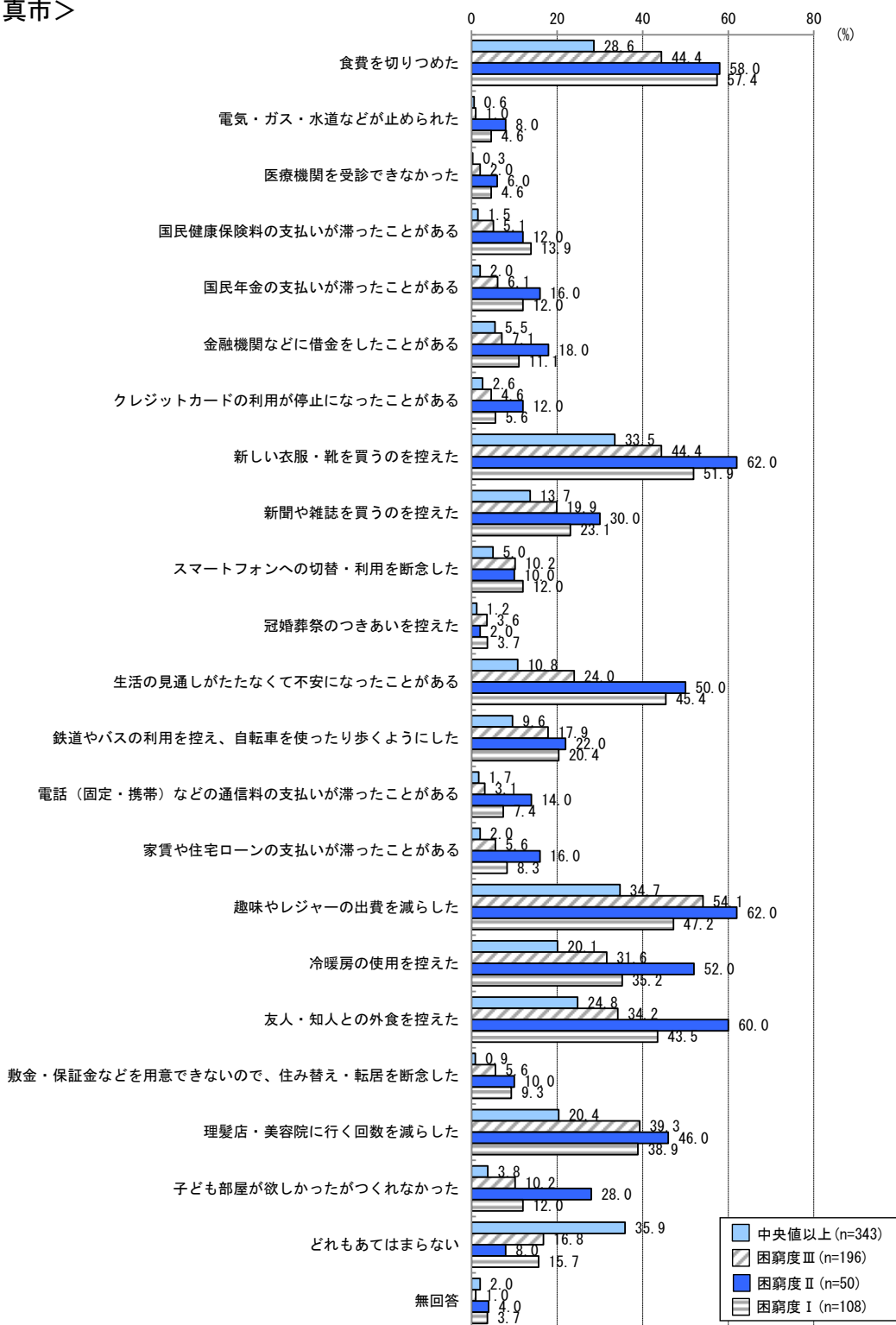
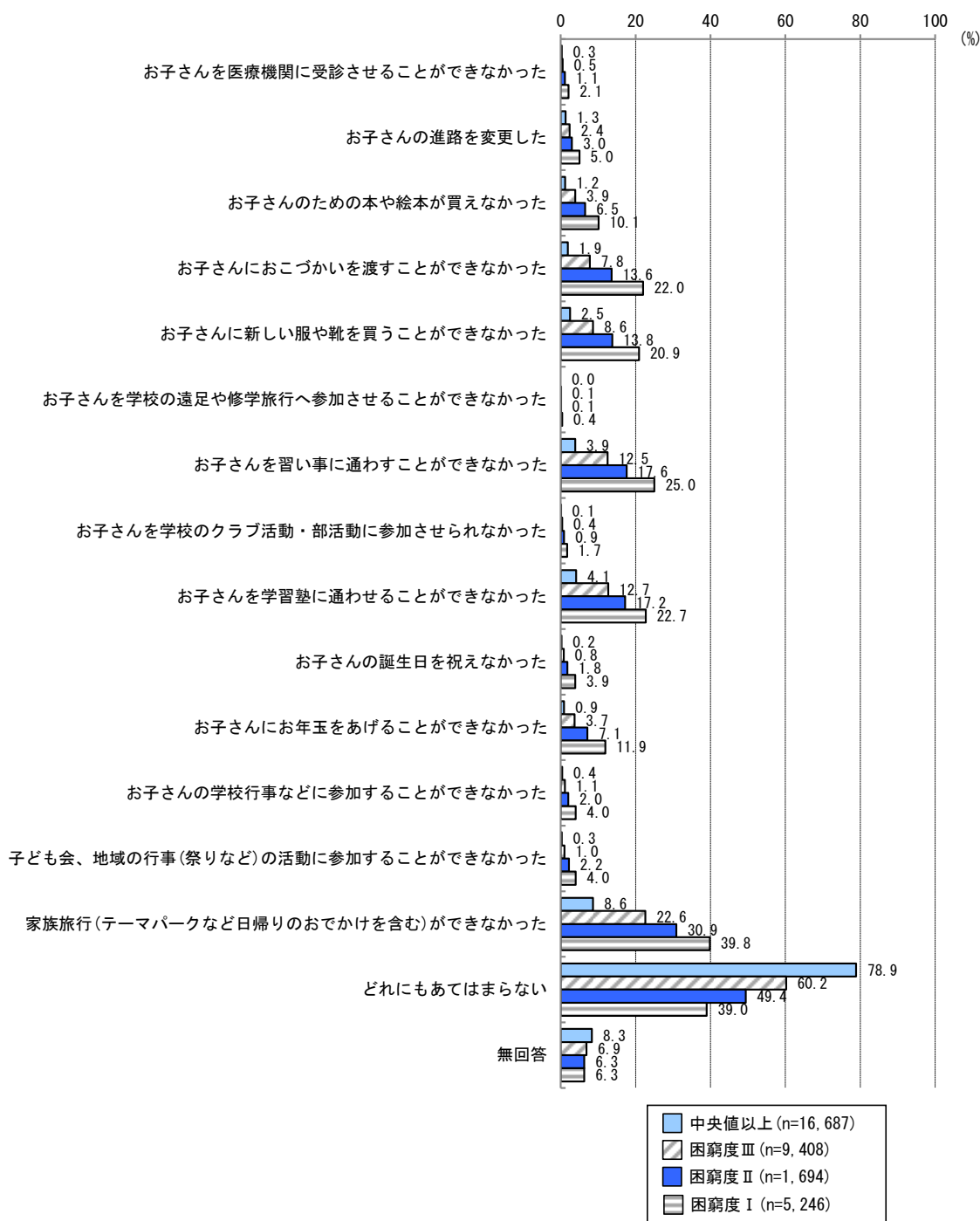


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「医療機関を受診できなかった」が4.6%（中央値以上群に対して15.3倍）、「敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した」が9.3%（同じく10.3倍）、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」が13.9%（同じく9.3倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で35.9%に対して、困窮度Ⅰ群において15.7%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<門真市>

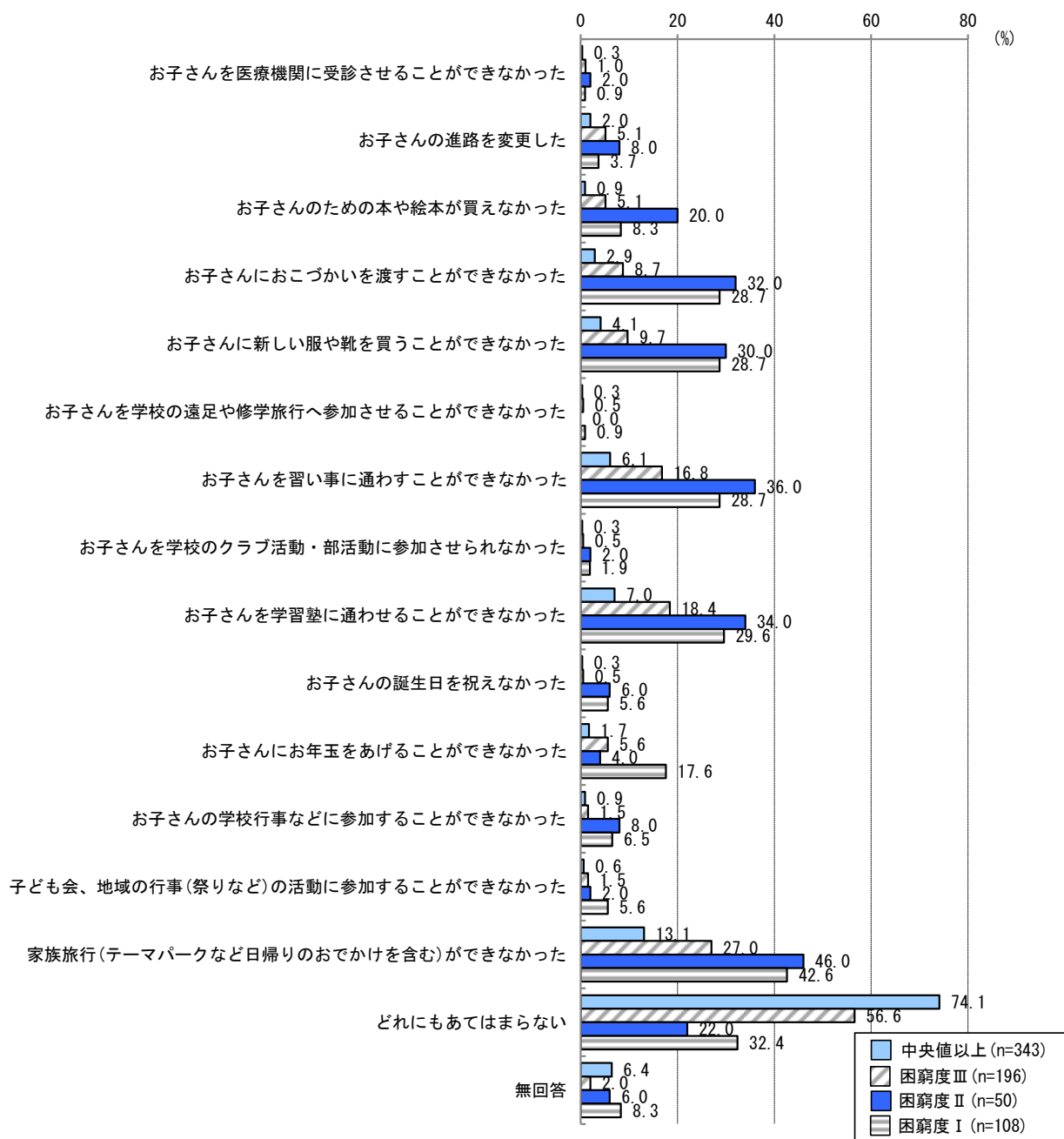


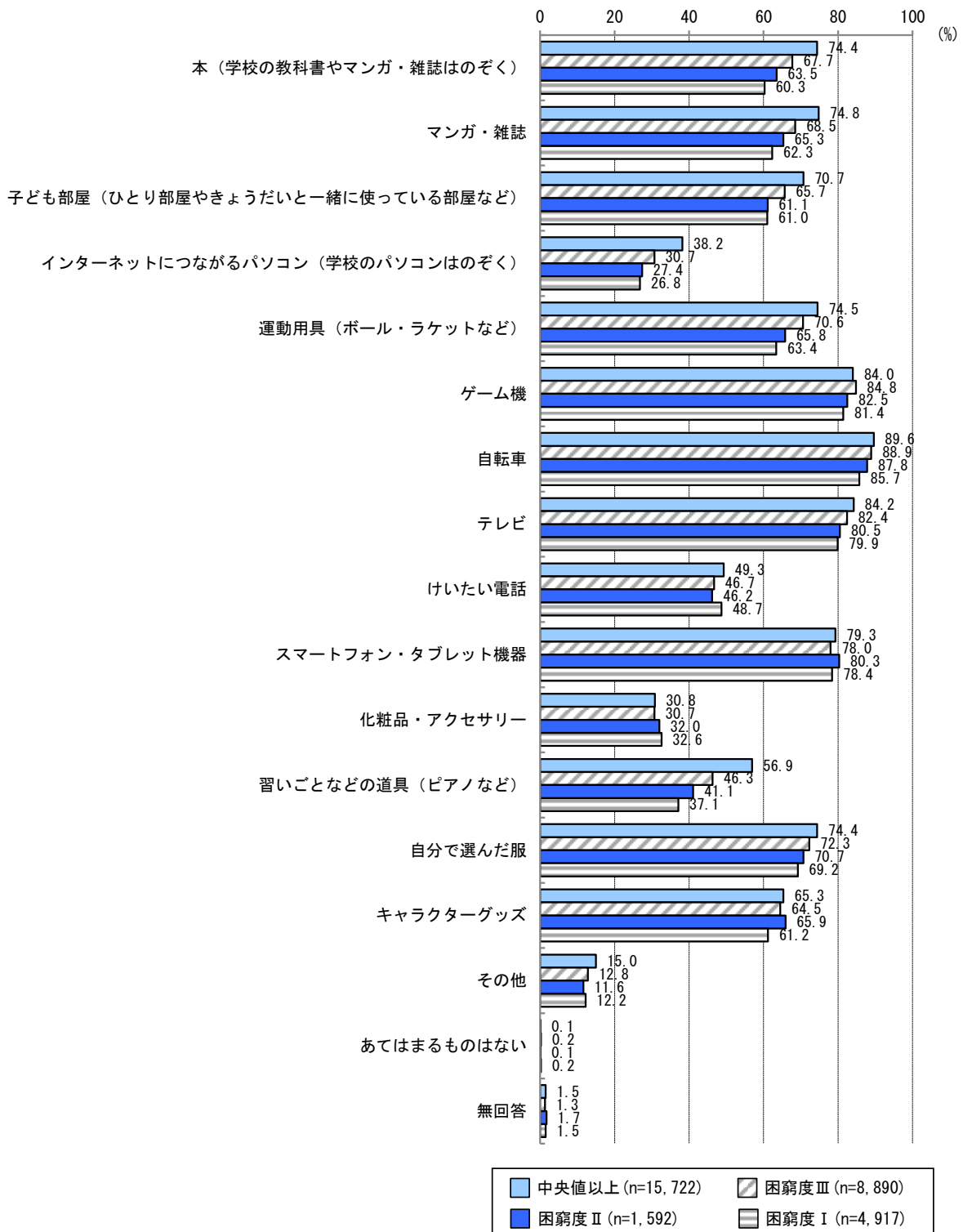
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「お子さんの誕生日を祝えなかった」が5.6%（中央値以上群に対して18.7倍）、「お子さんにお年玉をあげることができなかった」が17.6%（同じく10.4倍）、「お子さんにおこづかいを渡すことができなかった」が28.7%（同じく9.9倍）となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で74.1%に対して、困窮度Ⅰ群において32.4%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<門真市>

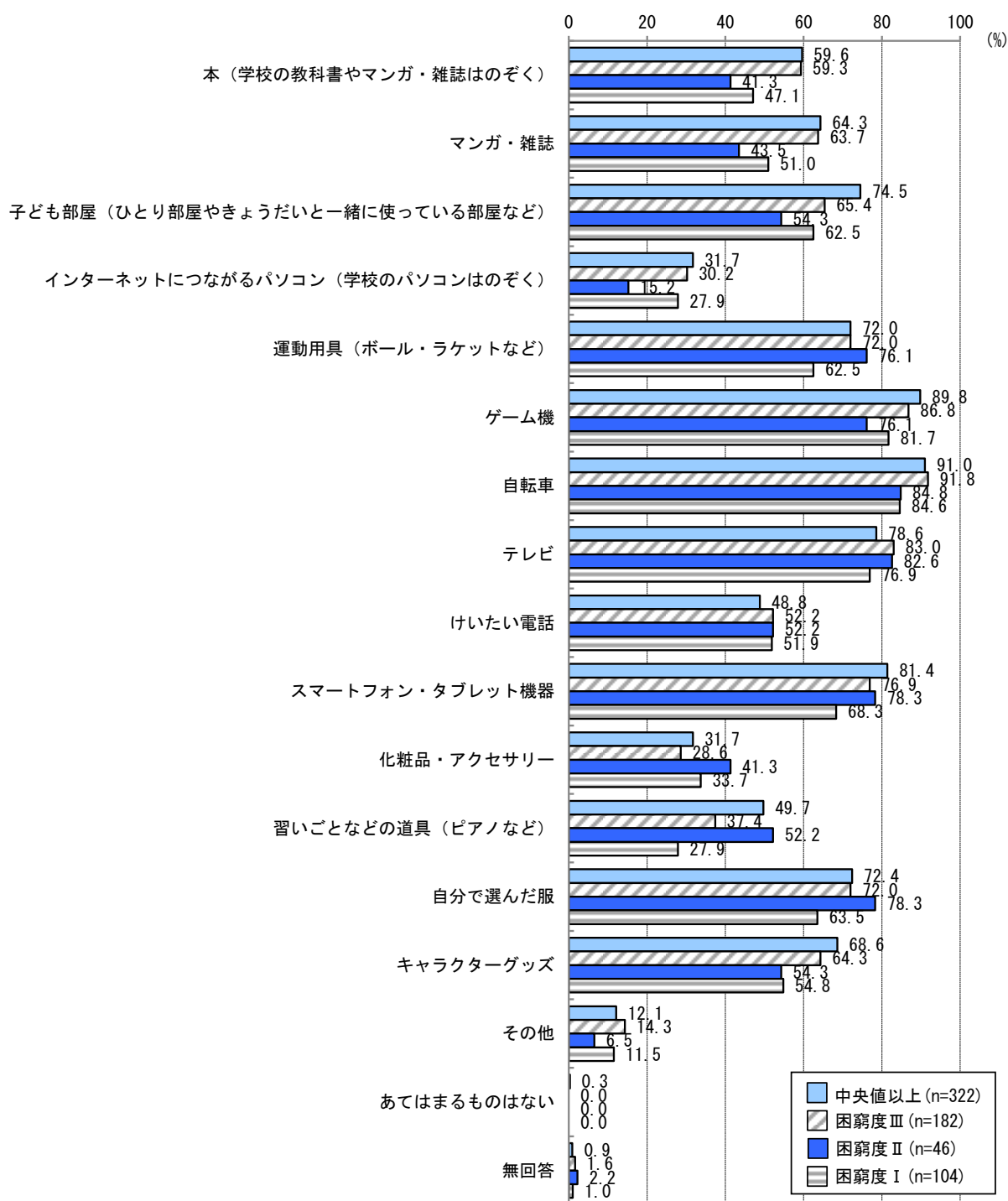
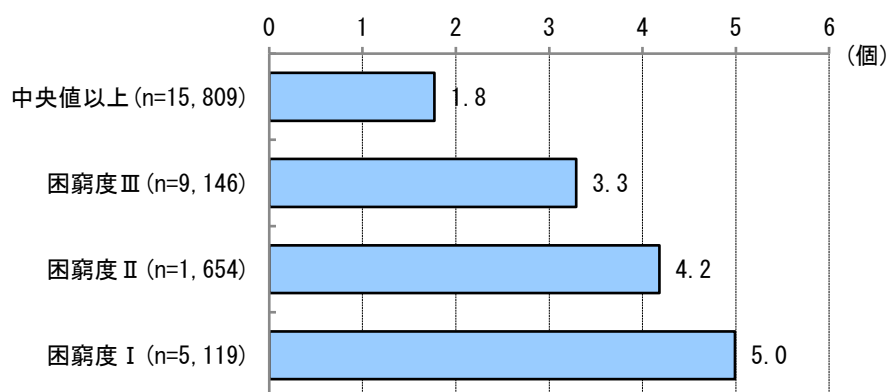


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「本（学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく）」が59.6%（困窮度Ⅰ群に対して1.3倍）、「マンガ・雑誌」が64.3%（同じく1.3倍）、「キャラクターグッズ」が68.6%（同じく1.3倍）となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度Ⅰ群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<門真市>

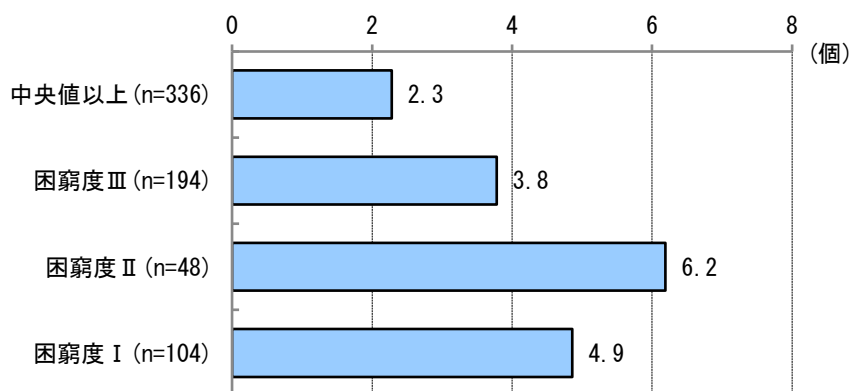


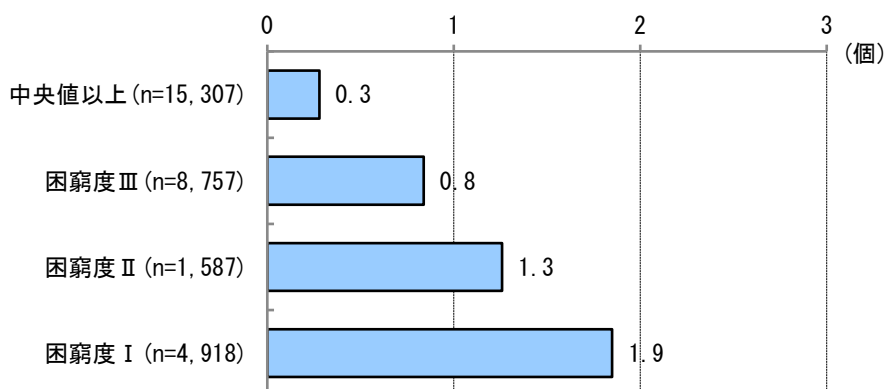
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度Ⅱ群において経済的な理由による経験の該当数が6.2個と、最も多くなっていることが分かった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<門真市>

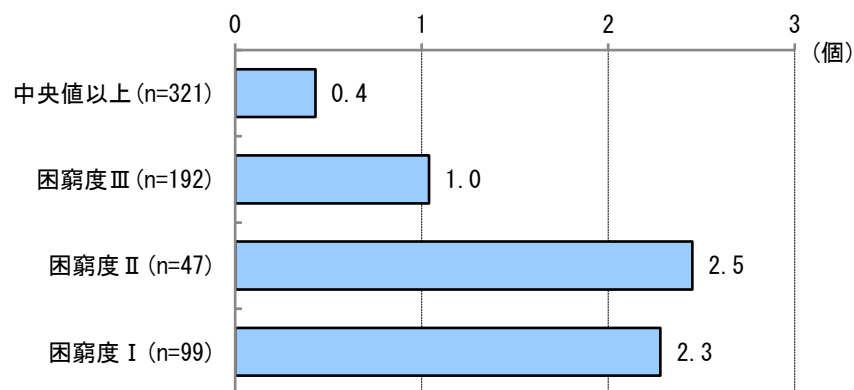


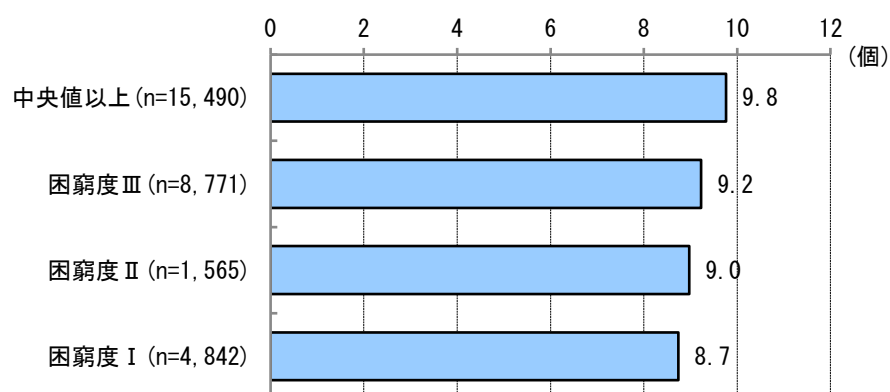
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度Ⅱ群において、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は2.5個と、最も多くなっていることが分かった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<門真市>

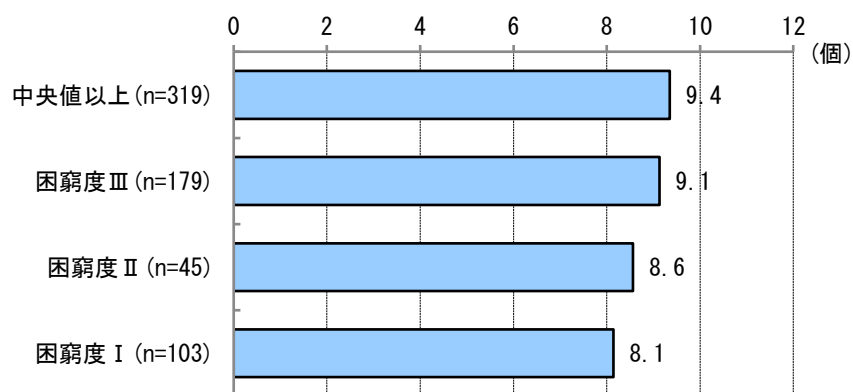


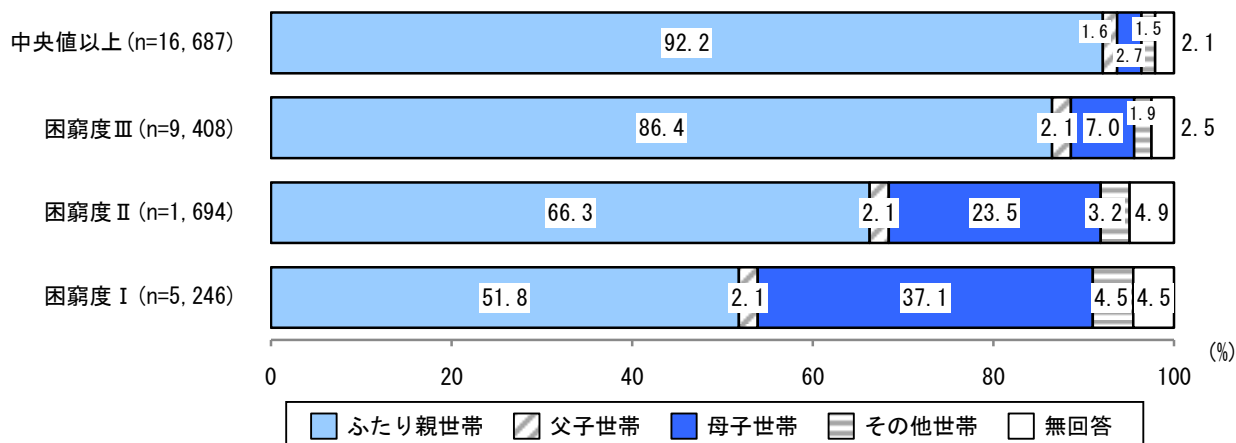
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度によって子どもの持ちもの、使えるものの該当数は、困窮度が高まるにつれ少なくなっている。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<門真市>

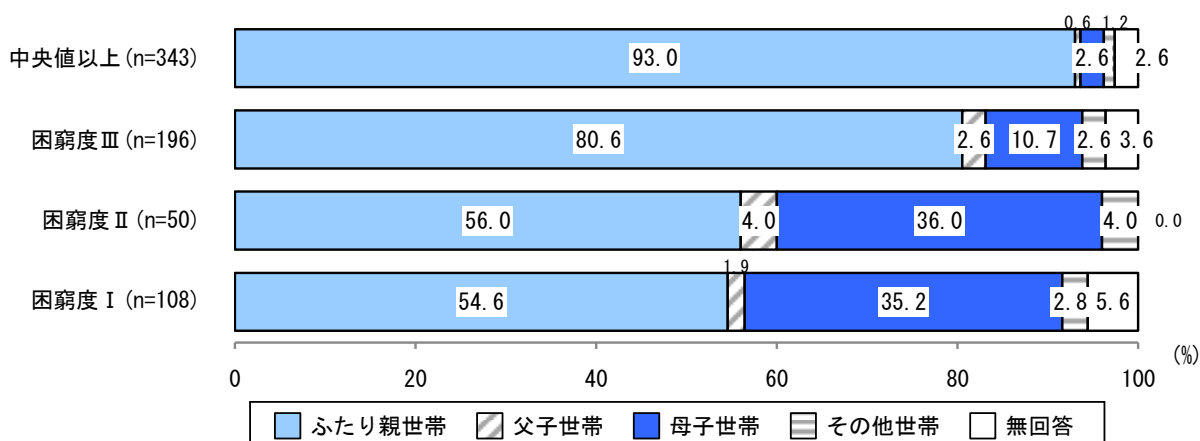


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が93.0%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は54.6%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が2.6%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は35.2%だった。

<2016年度調査との比較／門真市>

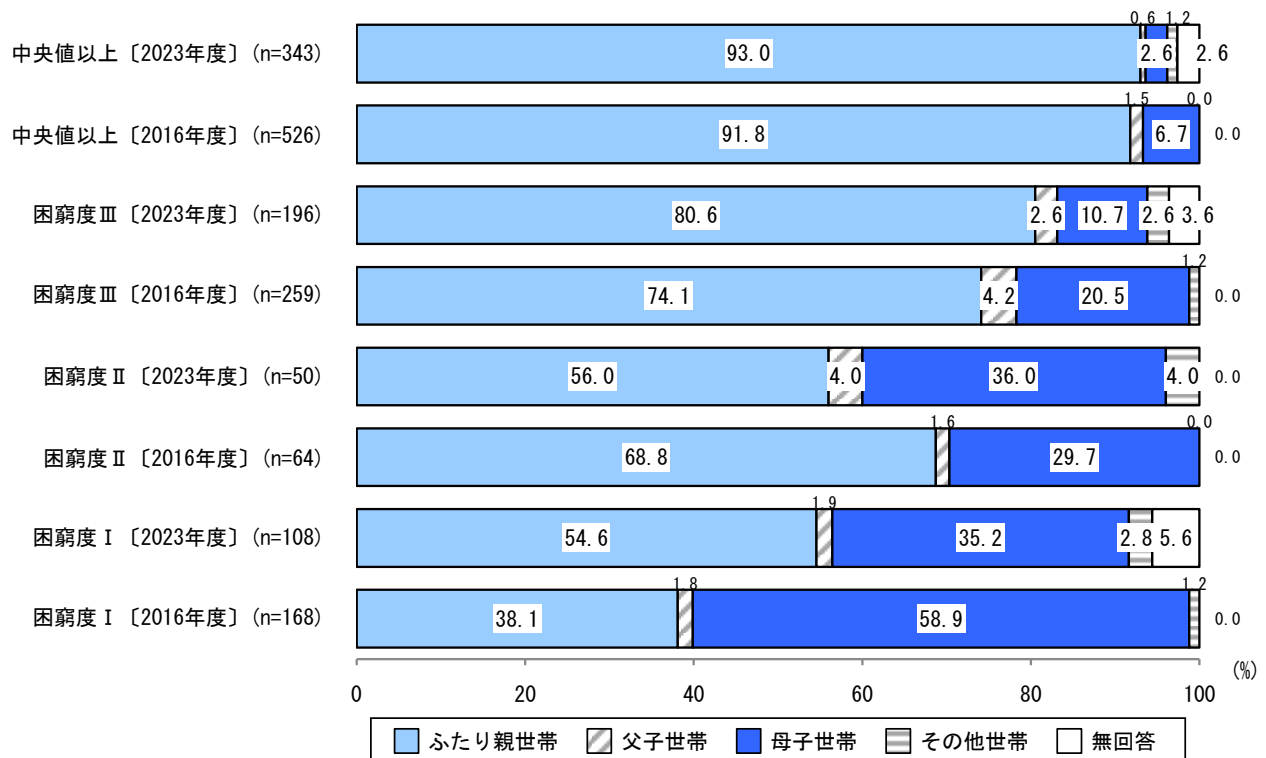
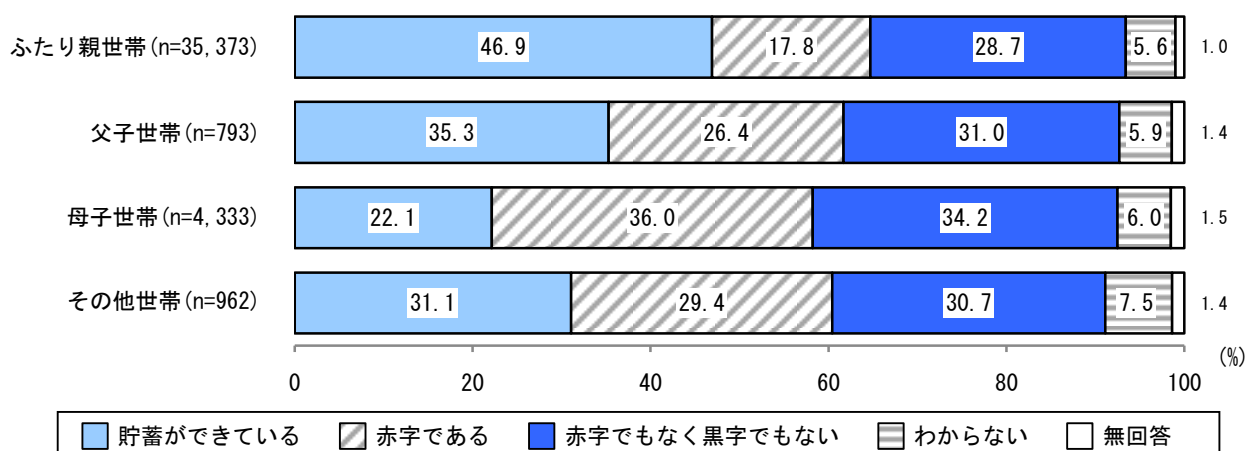


図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「ふたり親世帯」と回答した割合は、中央値以上群、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅰ群において2016年度調査に比べて高くなっている。「母子世帯」は、困窮度Ⅱ群以外において2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

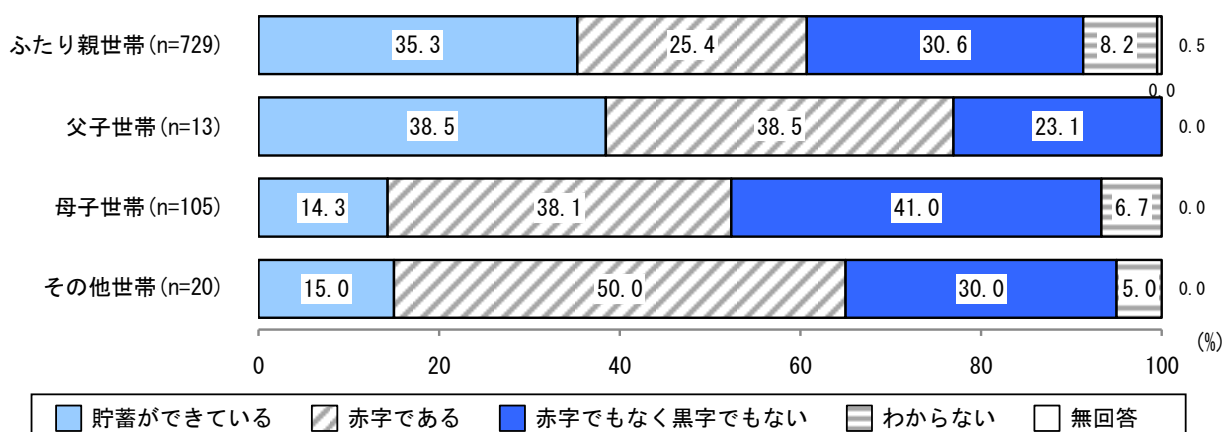
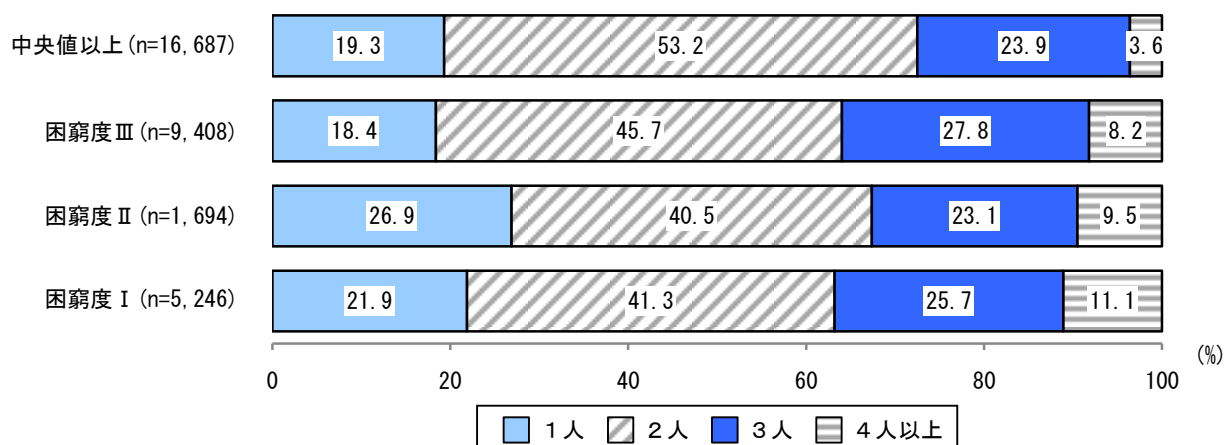


図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができていない」と回答した割合は、ふたり親世帯が 35.3%なのに対して、父子世帯 38.5%、母子世帯 14.3%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が 25.4%なのに対して、父子世帯は 38.5%だった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<門真市>

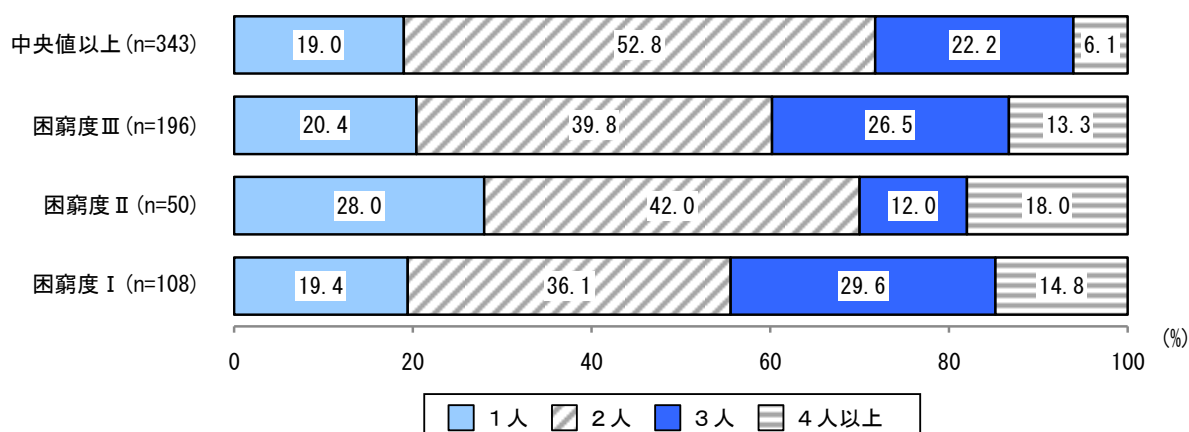
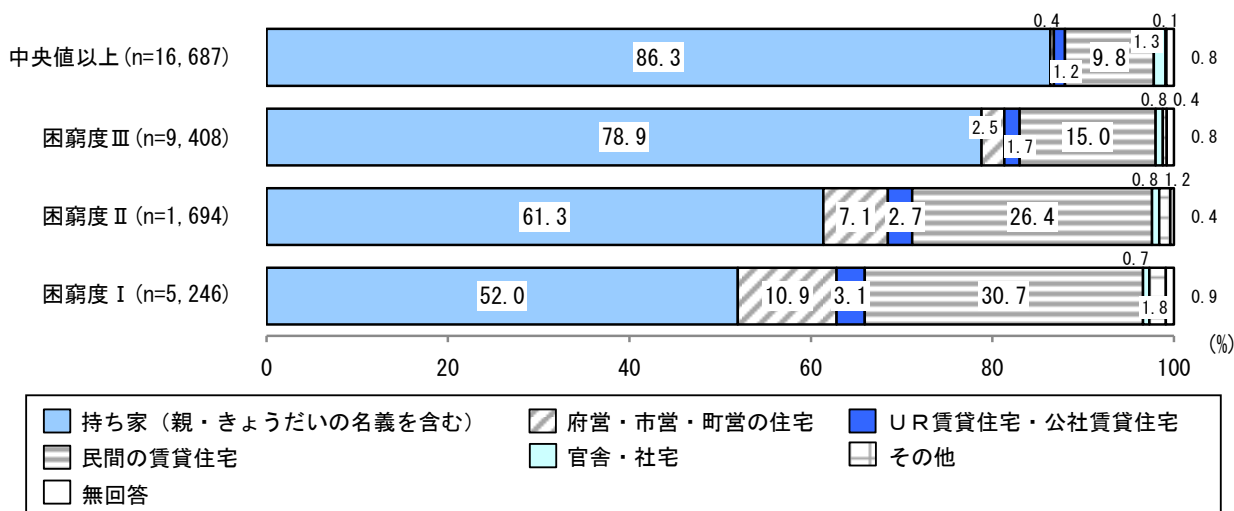


図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が28.3%（3人22.2%、4人以上6.1%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、3人以上が44.4%（3人29.6%、4人以上14.8%）と高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<門真市>

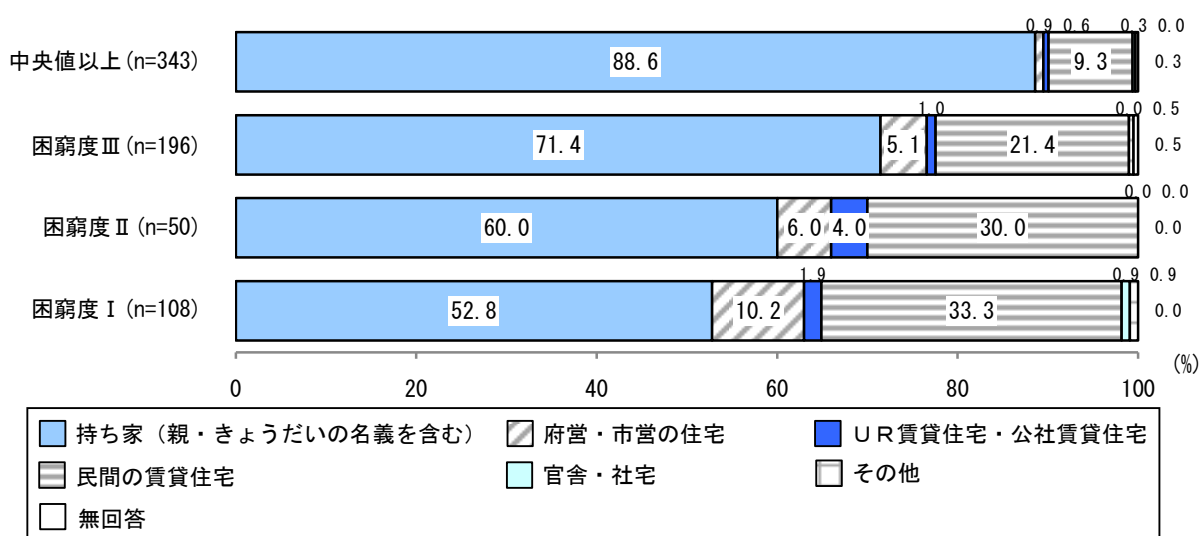
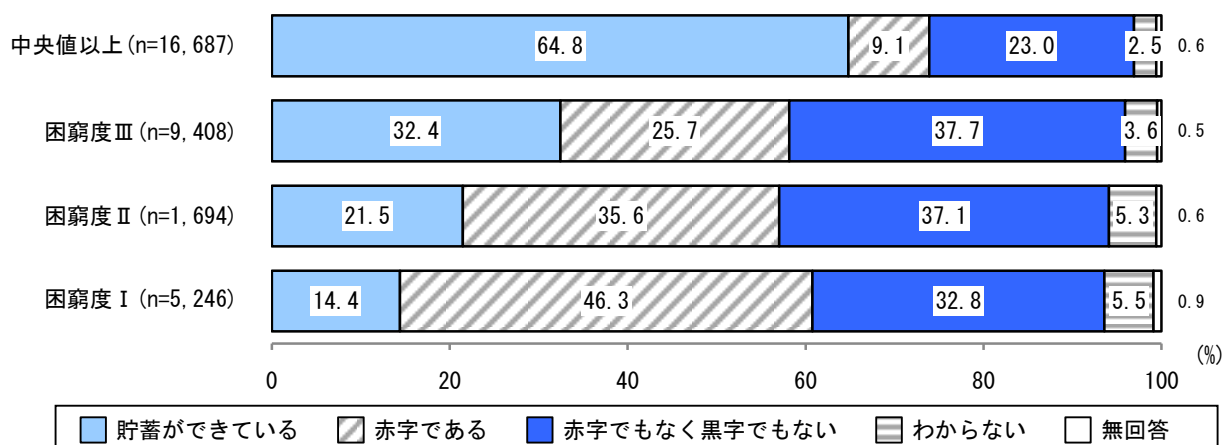


図 11. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、困窮度が高まるにつれ、持ち家の保有率は低くなっている。中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は88.6%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、52.8%にとどまっている。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

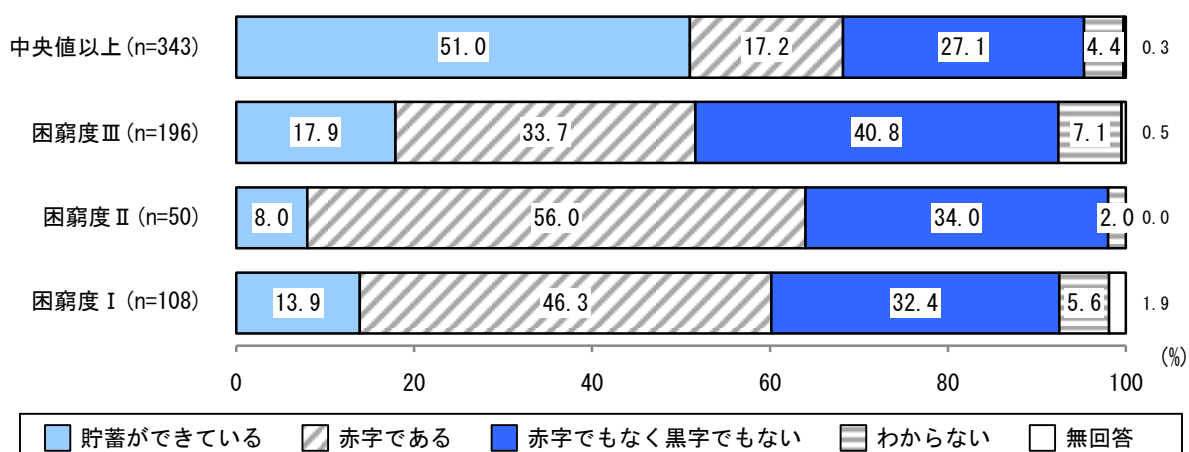
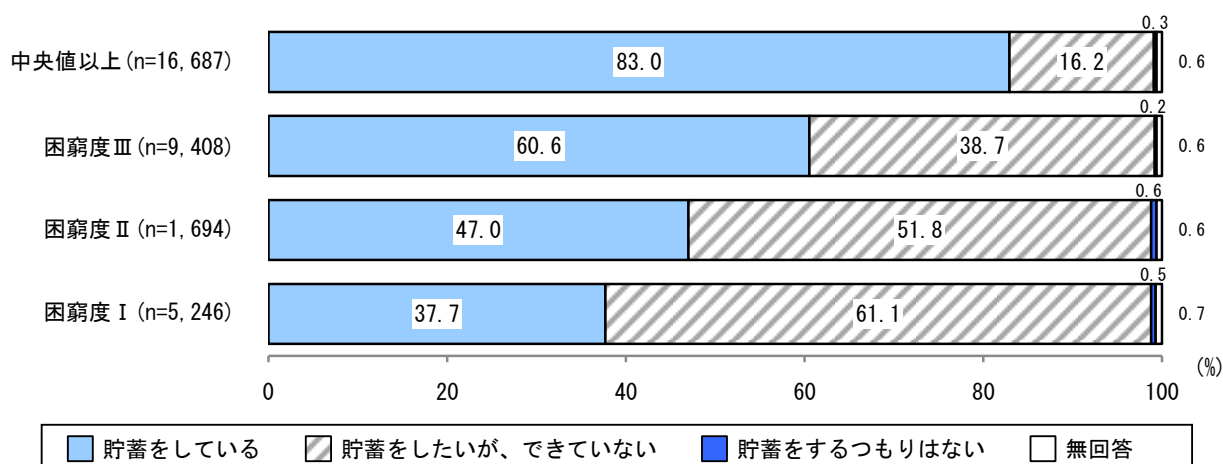


図 12. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができています」と回答した割合は中央値以上群において51.0%と最も高くなっている。また、中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、17.2%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、46.3%となり、困窮度Ⅰ・Ⅱ群で4割を超えている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<門真市>

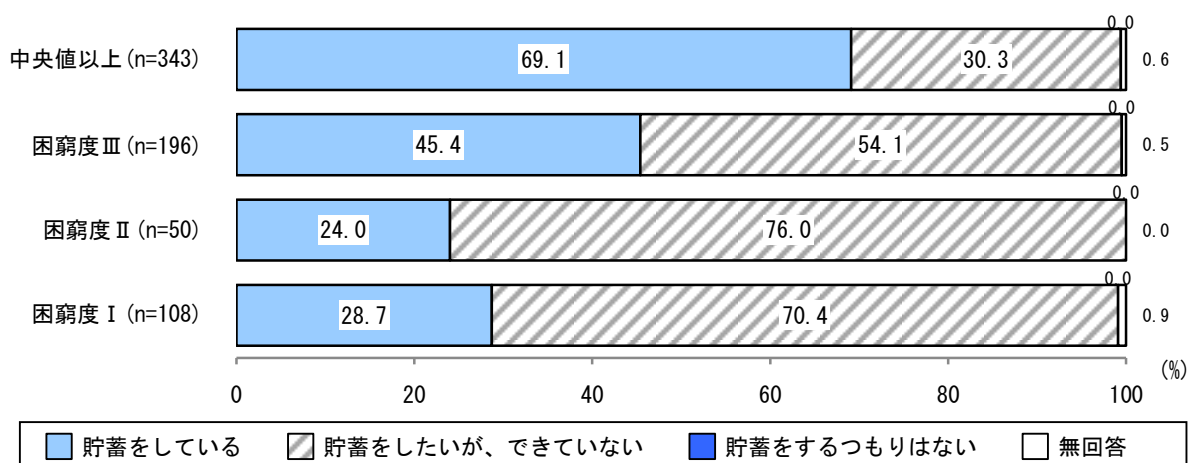
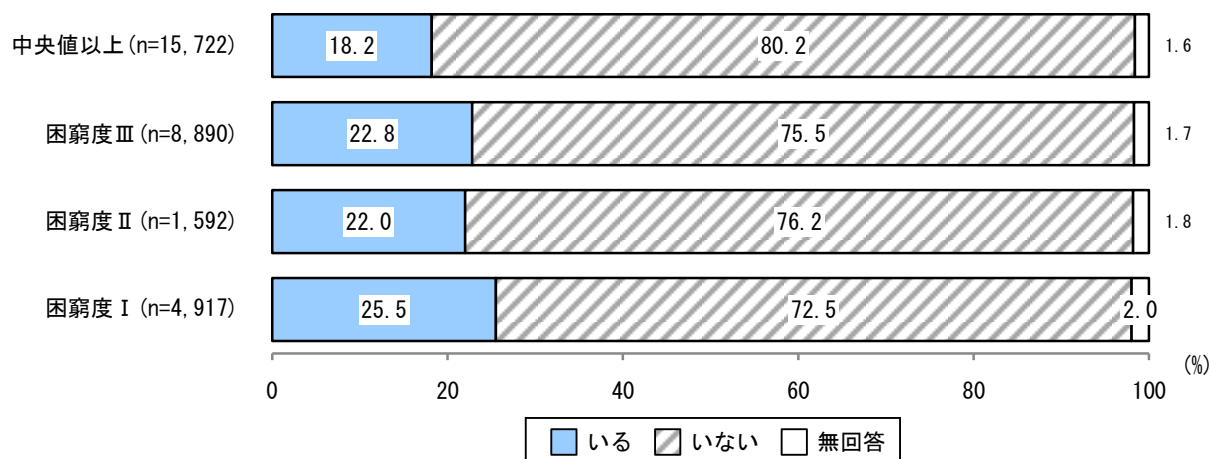


図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が69.1%を占めたが、困窮度Ⅰ群では28.7%にとどまり、約7割が「貯蓄をしたいが、できていない」と回答している。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

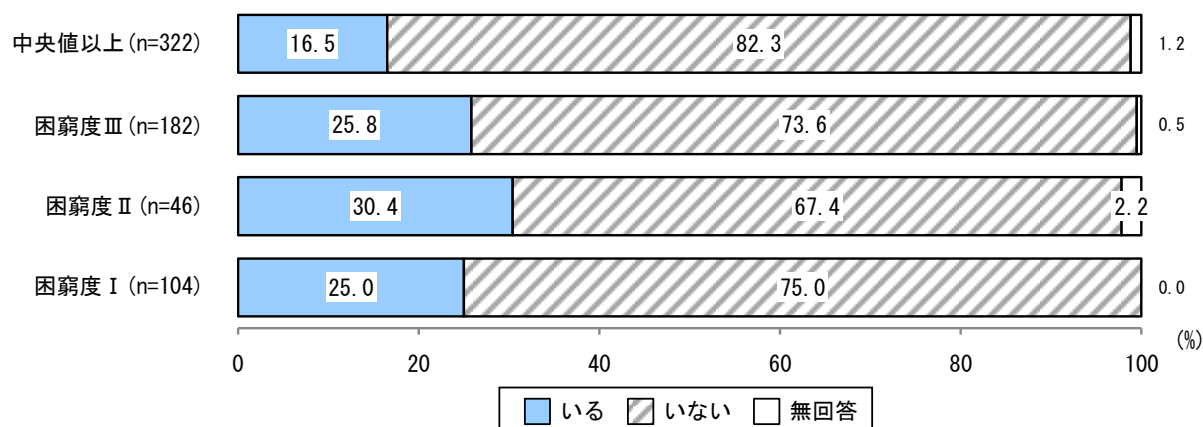


図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で30.4%と最も高くなっている。中央値以上群では、「いない」と回答する割合が82.3%を占め、最も高くなっている。

＜経済状況に関する考察＞

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群で35.9%に対して、困窮度Ⅰ群では15.7%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「電気・ガス・水道などが止められた」（4.6%対0.6%）、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」（8.3%対2.0%）、「電話（固定・携帯）など通信料の支払いが滞ったことがある」（7.4%対1.7%）と回答した割合が高くなっており、生活面で大きな格差が存在する。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」（12.0%対2.0%）と回答した割合が高くなっており、子どもの親（保護者）の将来（老後）の生活困窮を示唆するデータであると言える。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」（45.4%対10.8%）と回答した割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活インフラへの支払いの滞りや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「お子さんの進路を変更した」（3.7%対2.0%）、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」（28.7%対6.1%）、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」（29.6%対7.0%）と回答した割合が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの進路や学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多様な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「家族旅行（日帰りのおでかけを含む）ができなかった」（42.6%対13.1%）といった経験に大きな差がある。その一方、「どれにもあてはまらない」が、中央値以上群では74.1%であり、困窮度Ⅰ群でも32.4%ある。所得階群によって体験の機会に差が見られるが、どの階群においても子どもに対して様々な体験や勉強の機会が提供できている世帯も多数いるという点がデータから読み取れる。

また、「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」と回答した割合が高くなっている（69.1%対28.7%）。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高くなっており（70.4%対30.3%）、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来子どもに起こり得るリスク（病気や進路選択など）に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、厚生労働省と文部科学省が連携して行った全国調査では、ヤングケアラーと思われる子どもは小学6年生で6.5%（令和3年度実施）、中学2年生で5.7%（令和2年度実施）と報告されている（『ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告（令和3年5月17日）』）。全国調査の結果より、回答した小学6年生の15人に1人程度、中学2年生の17人に1人程度が家族の世話をしていることが明らかになった。

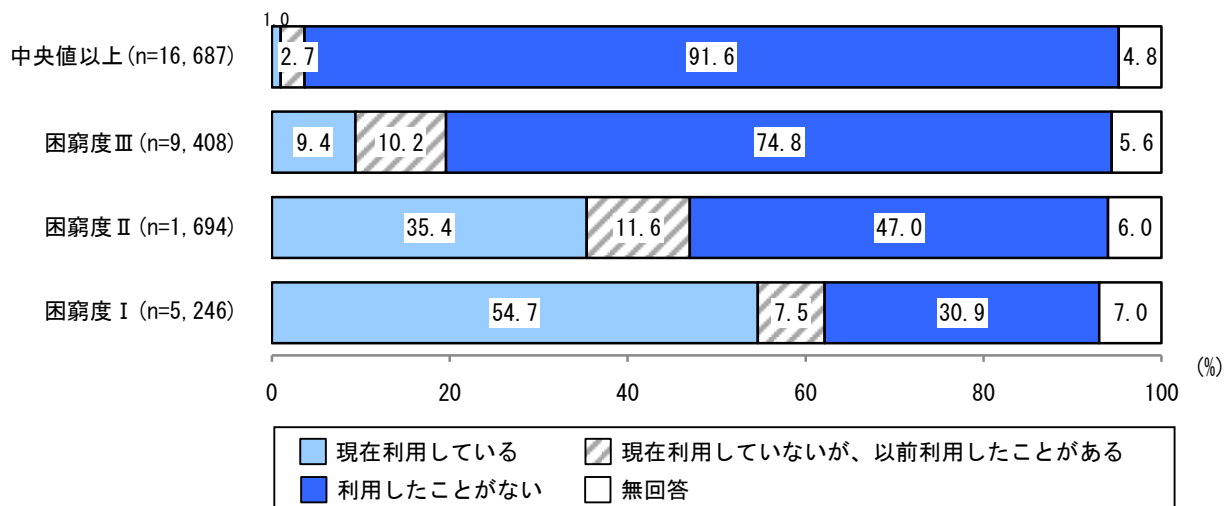
全国の状況を踏まえて、門真市が令和5年に実施した、小学5年生、中学2年生を対象とする本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、

全体においては20.1%であるが、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べて「いる」と答えた割合が高くなっている（25.0%対16.5%）。これは、困窮度Ⅰ群では、回答した4人に1人程度が、中央値以上群では、6人に1人程度が世話をしている人が「いる」と回答していることになる。これらの結果から、門真市ではヤングケアラーと思われる子どもの割合が高く、特に経済的困難な家庭ではその割合が高いことが読み取れる。

（２）家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、就学援助の利用状況（保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<門真市>

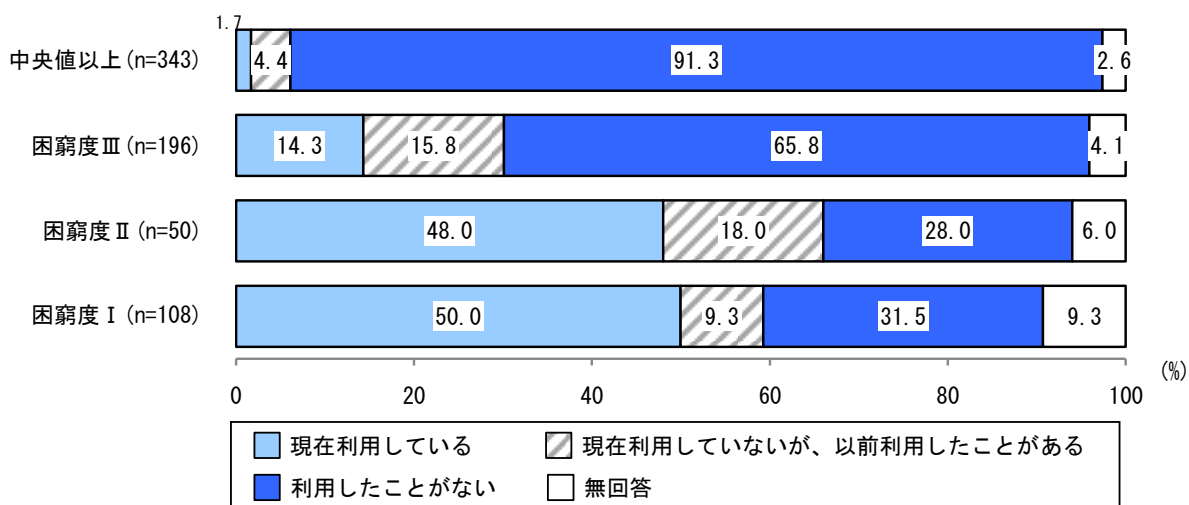
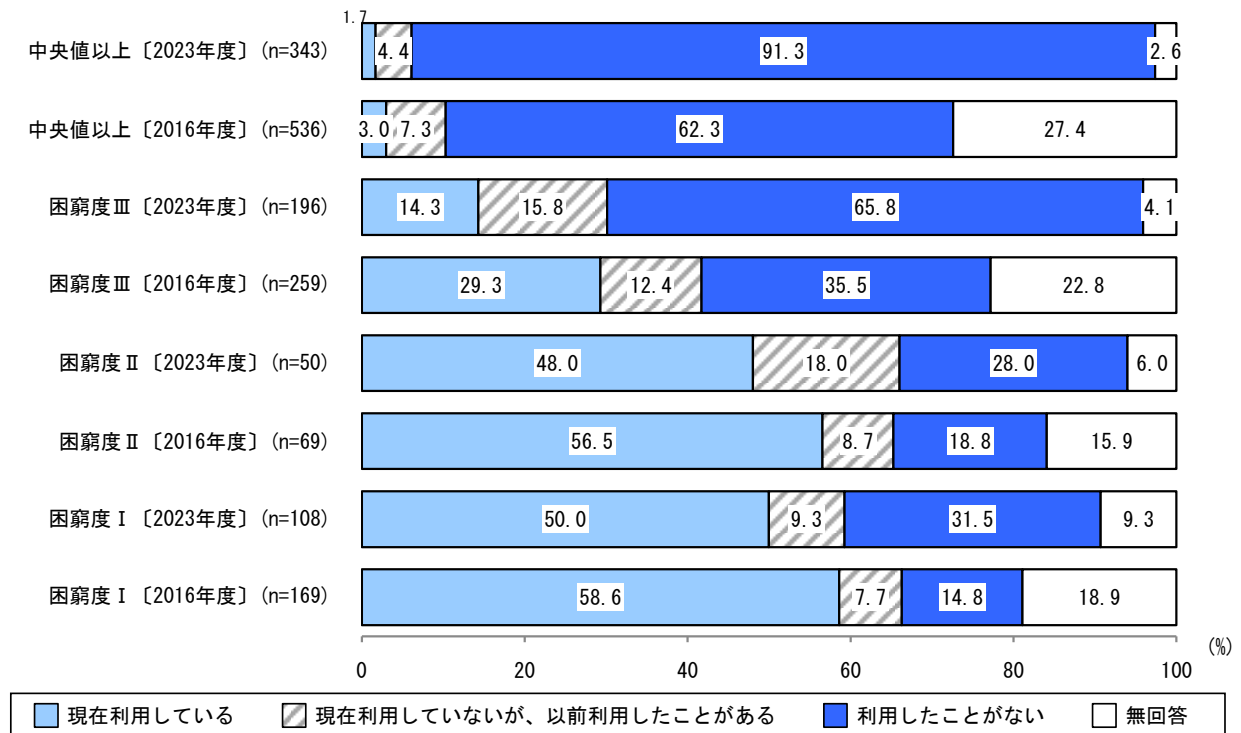


図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

<2016年度調査との比較／門真市>



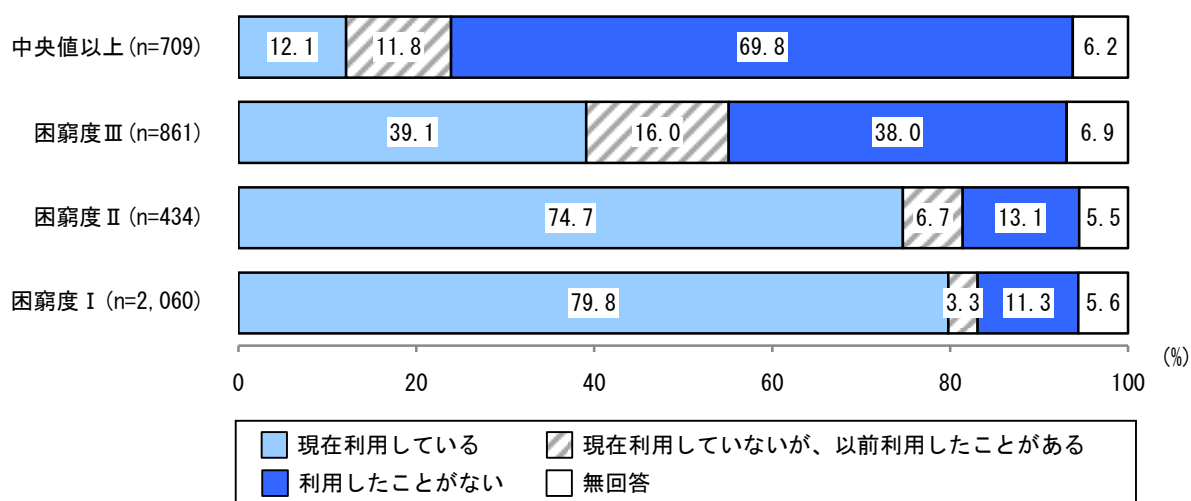
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて低くなっており、一方で、「利用したことがない」は2016年度調査に比べて割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<門真市>

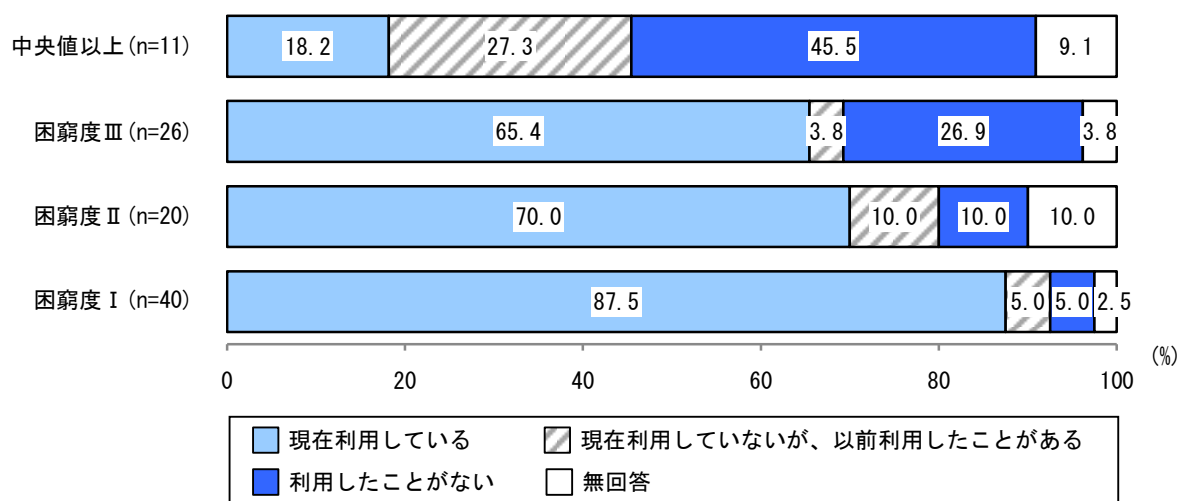


図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では「利用したことがない」と回答した割合が5.0%にとどまっている。

<2016年度調査との比較／門真市>

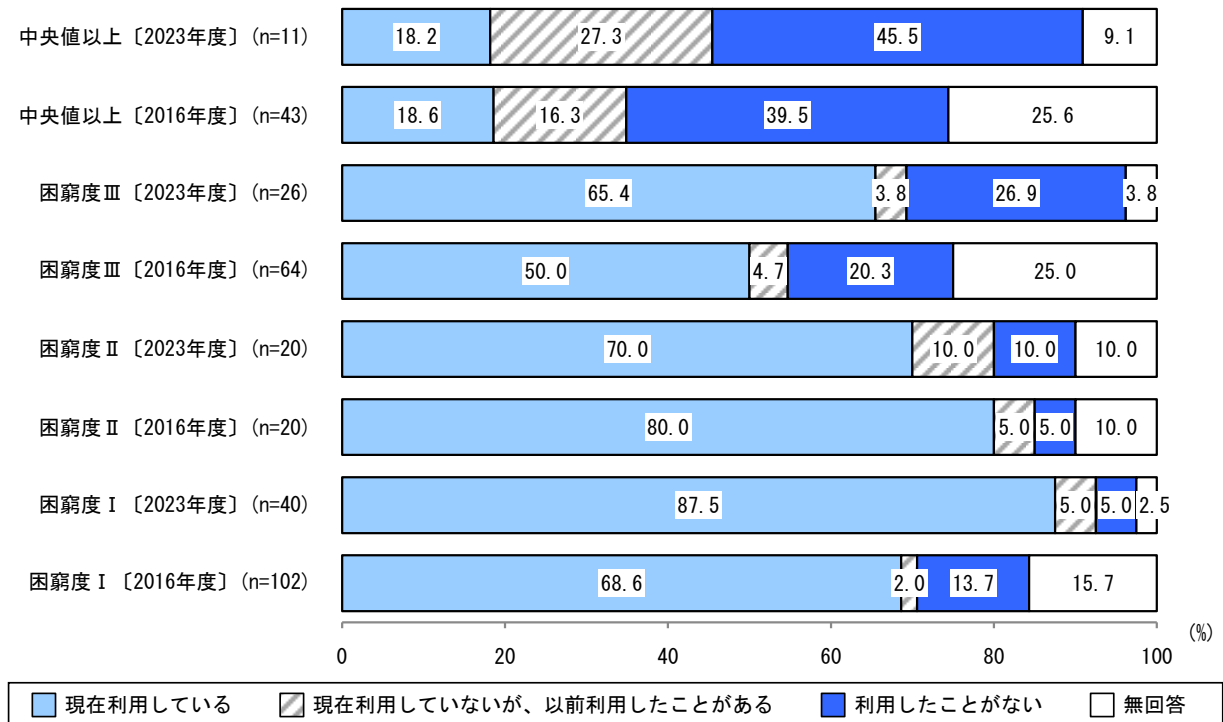
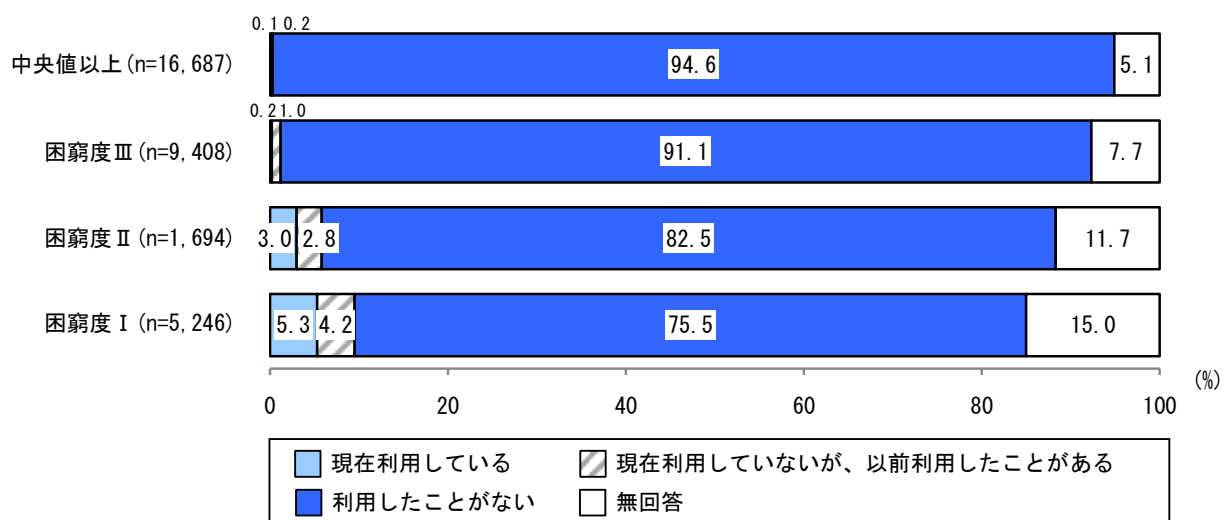


図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群と困窮度Ⅰ群では2016年度調査より割合が高くなっているが、それ以外の困窮度では2016年度調査よりも低くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<門真市>

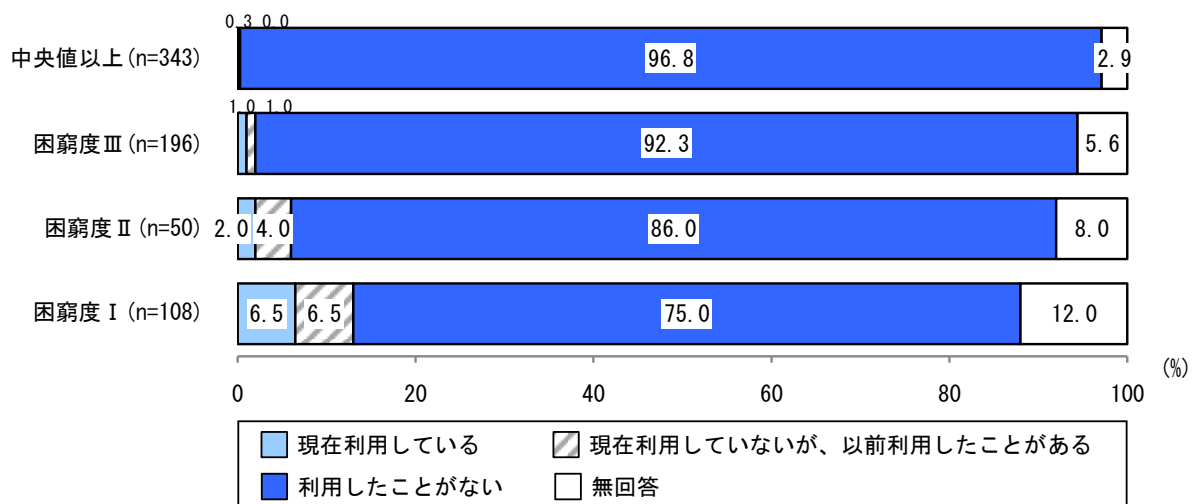


図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、困窮度Ⅰ群においては「現在利用している」と回答した割合は6.5%であった。困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」の割合が高くなっている。

<2016年度調査との比較／門真市>

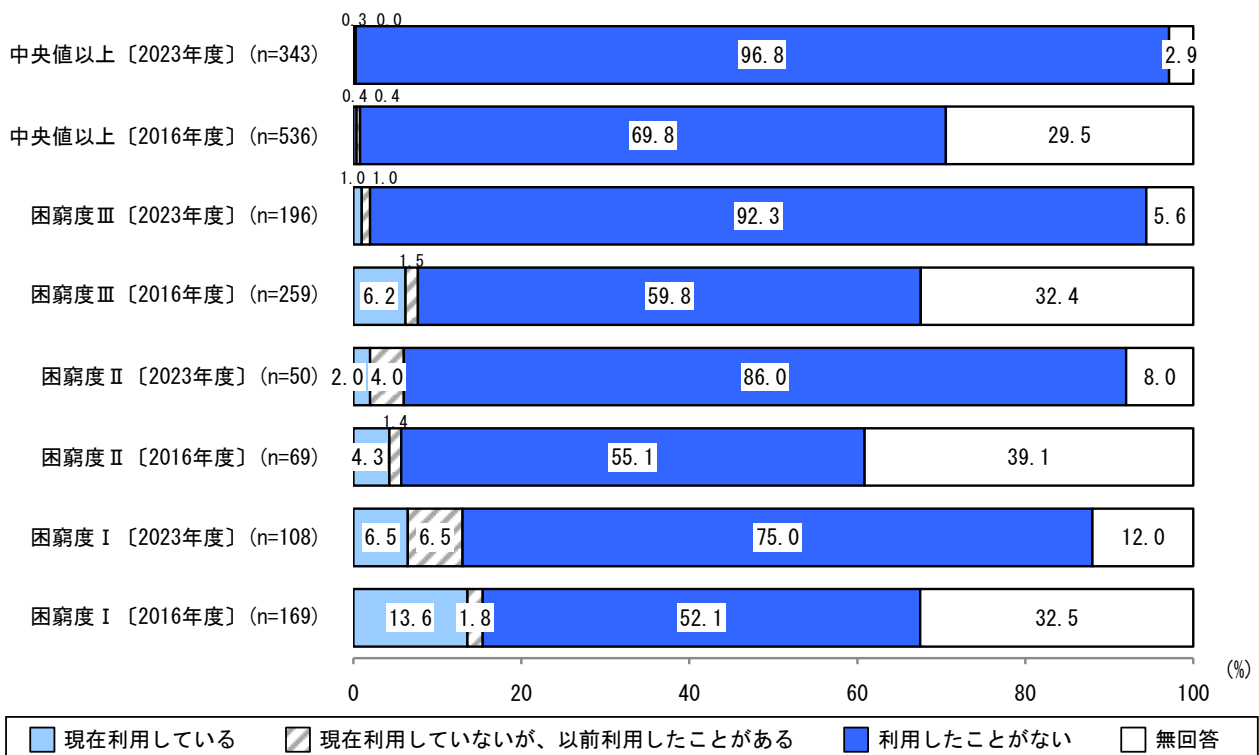
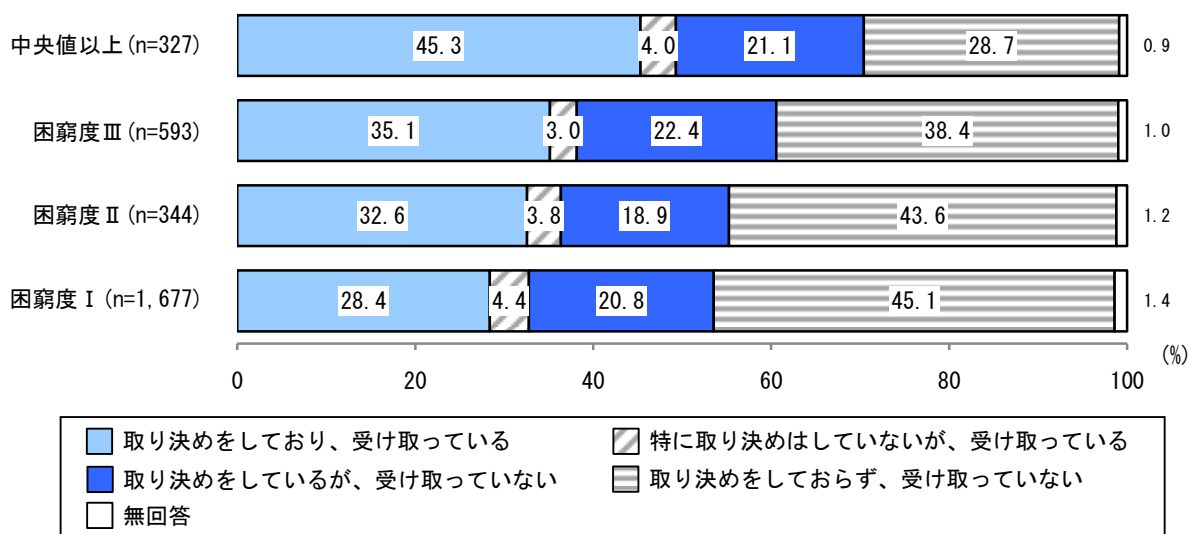


図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査より割合が低くなっている。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<門真市>

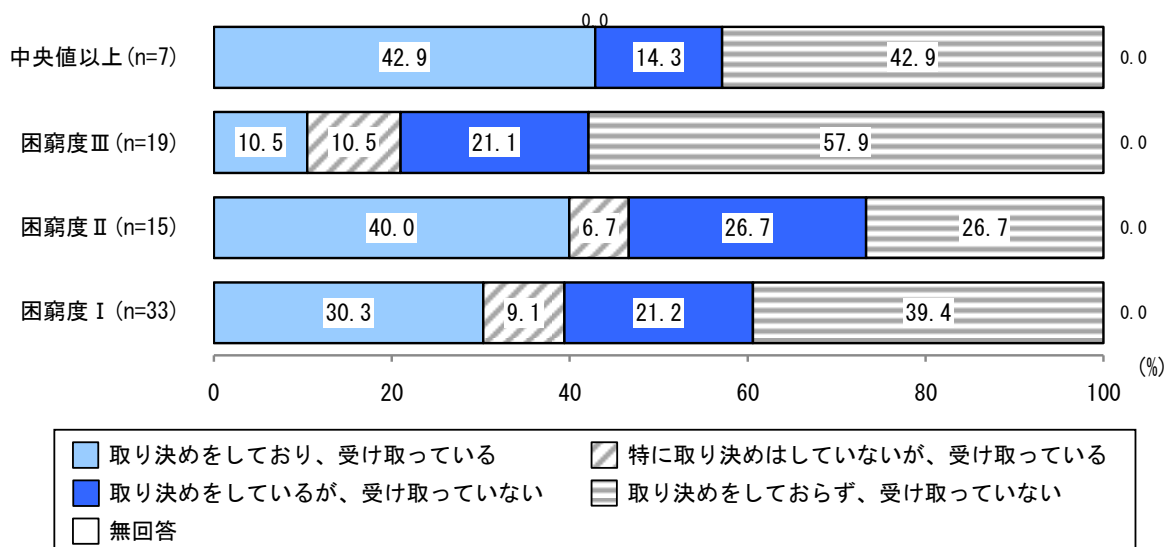
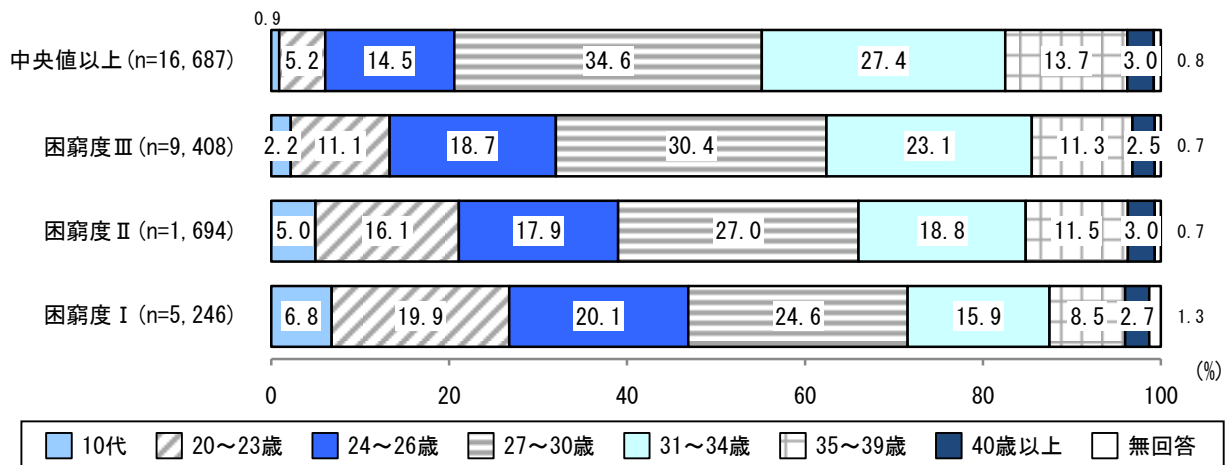


図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、困窮度Ⅰ群においては「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合は30.3%であり、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が39.4%と高く「取り決めているが、受け取っていない」の21.2%を合わせた養育費を受け取っていない人が60.6%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<門真市>

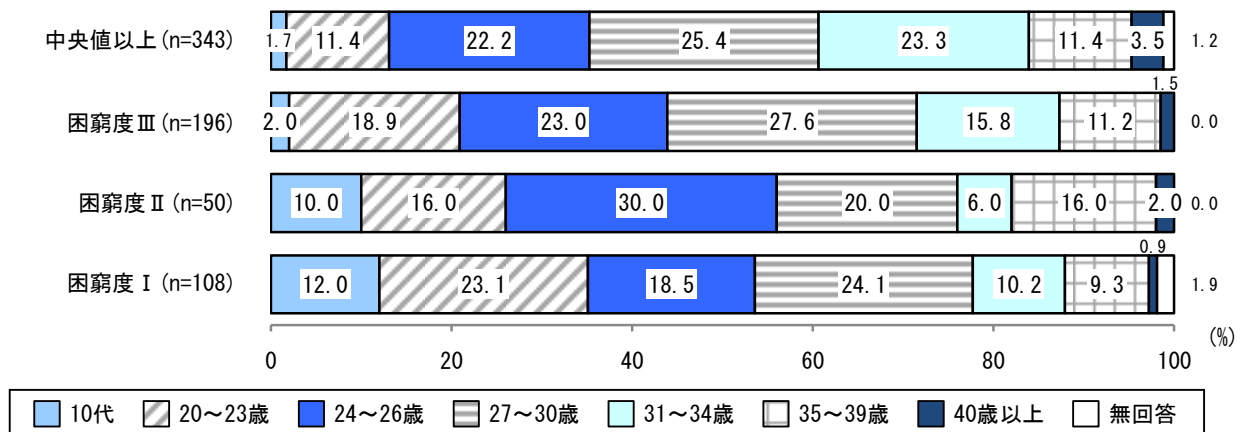
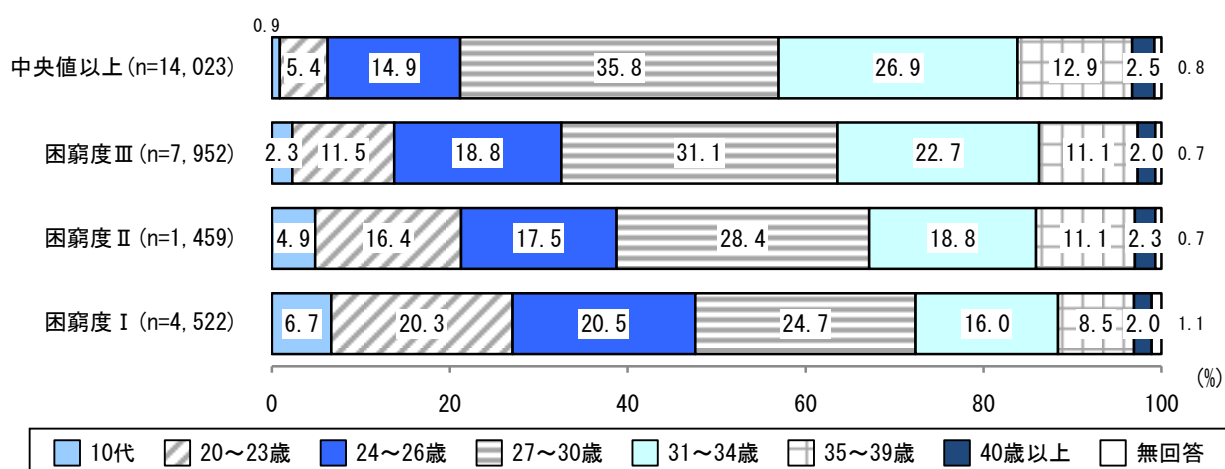


図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、「10代」で初めて親となったと回答した割合は、困窮度Ⅲ群が12.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<門真市>

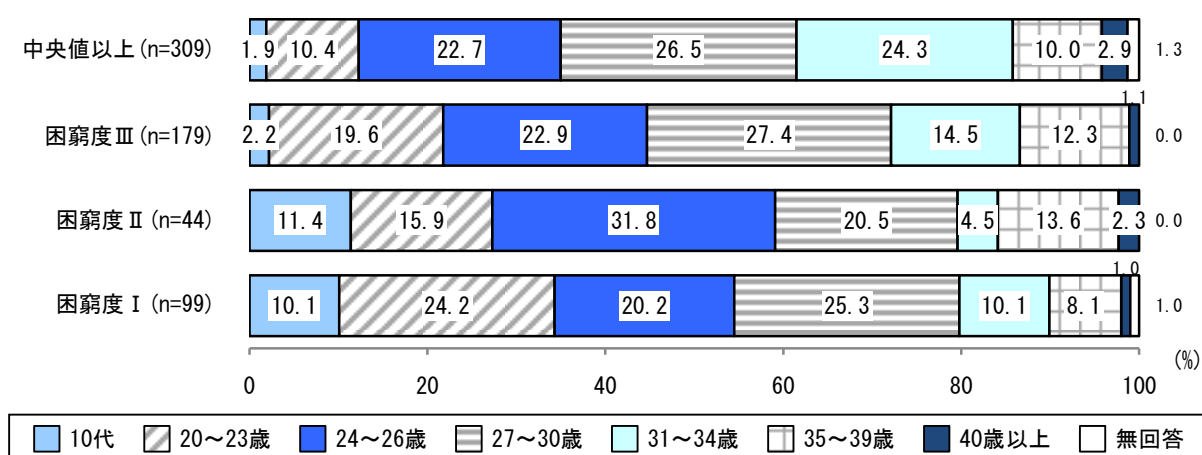
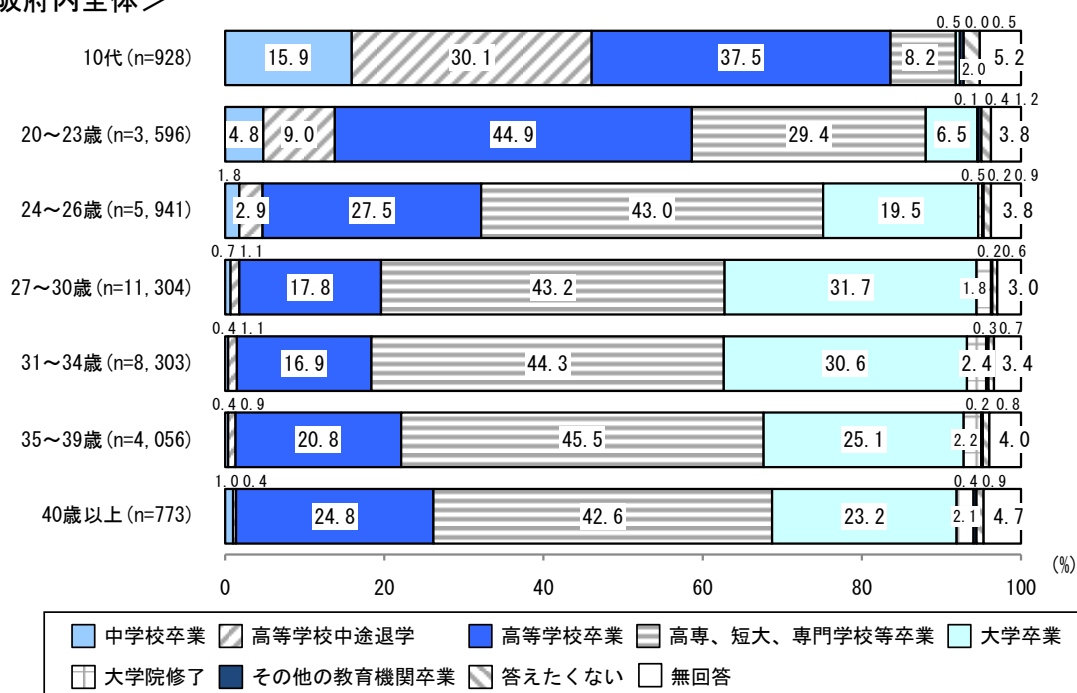


図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅱ群において「10代」で初めて親となったと回答した割合が最も高くなっている。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<門真市>

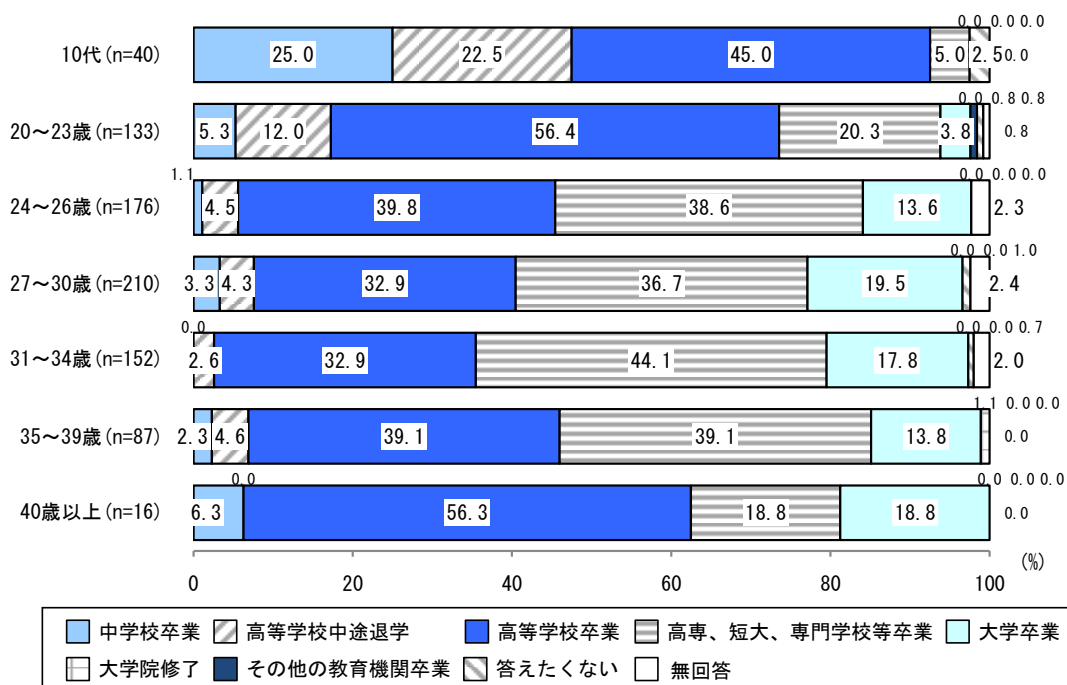
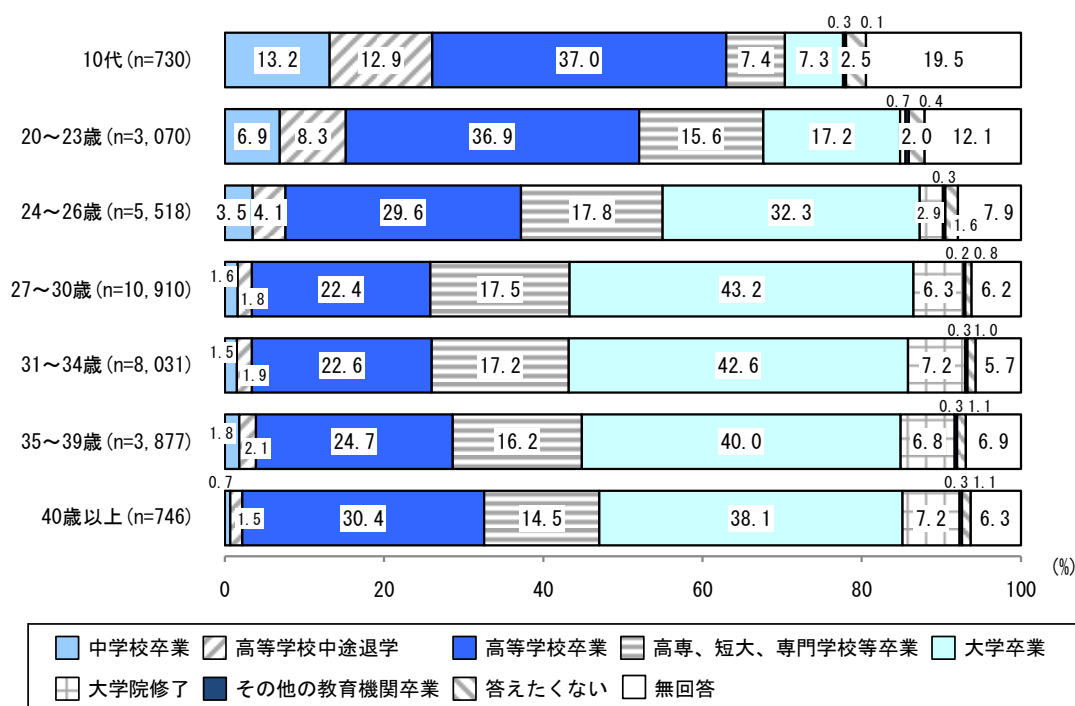


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（25.0%）または「高等学校中途退学」（22.5%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<門真市>

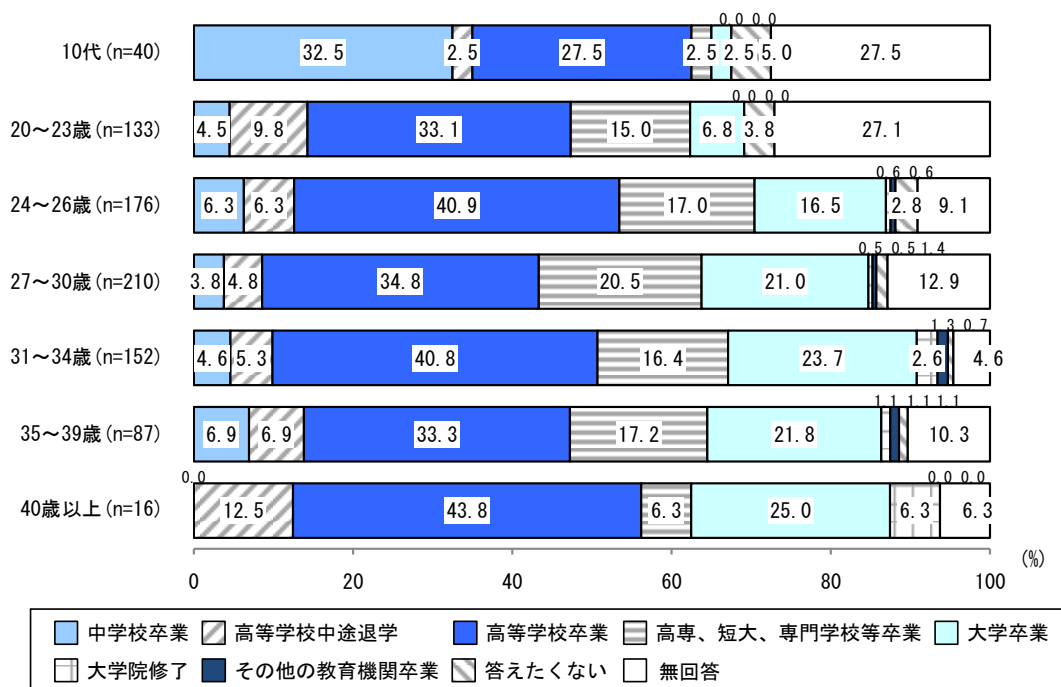
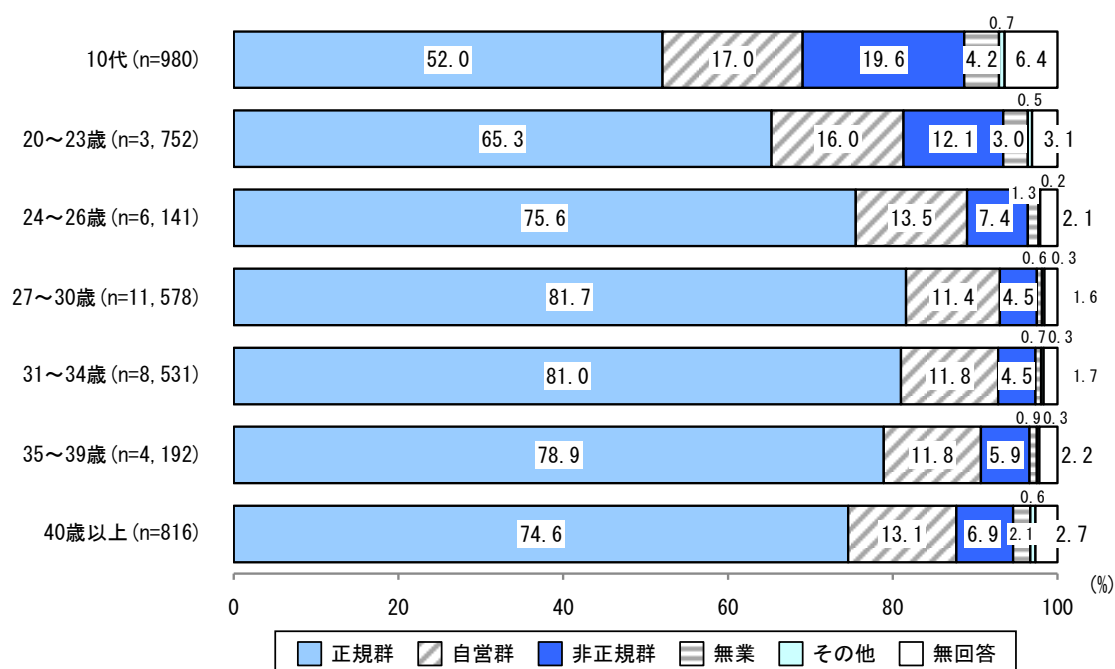


図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（32.5%）と回答した割合が最も高かった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<門真市>

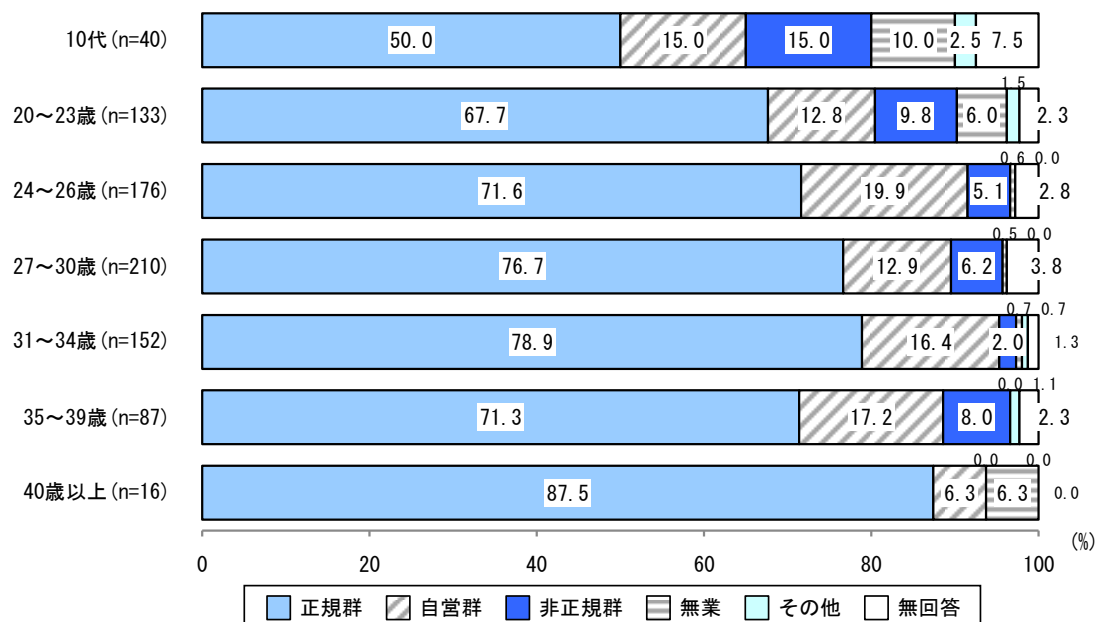
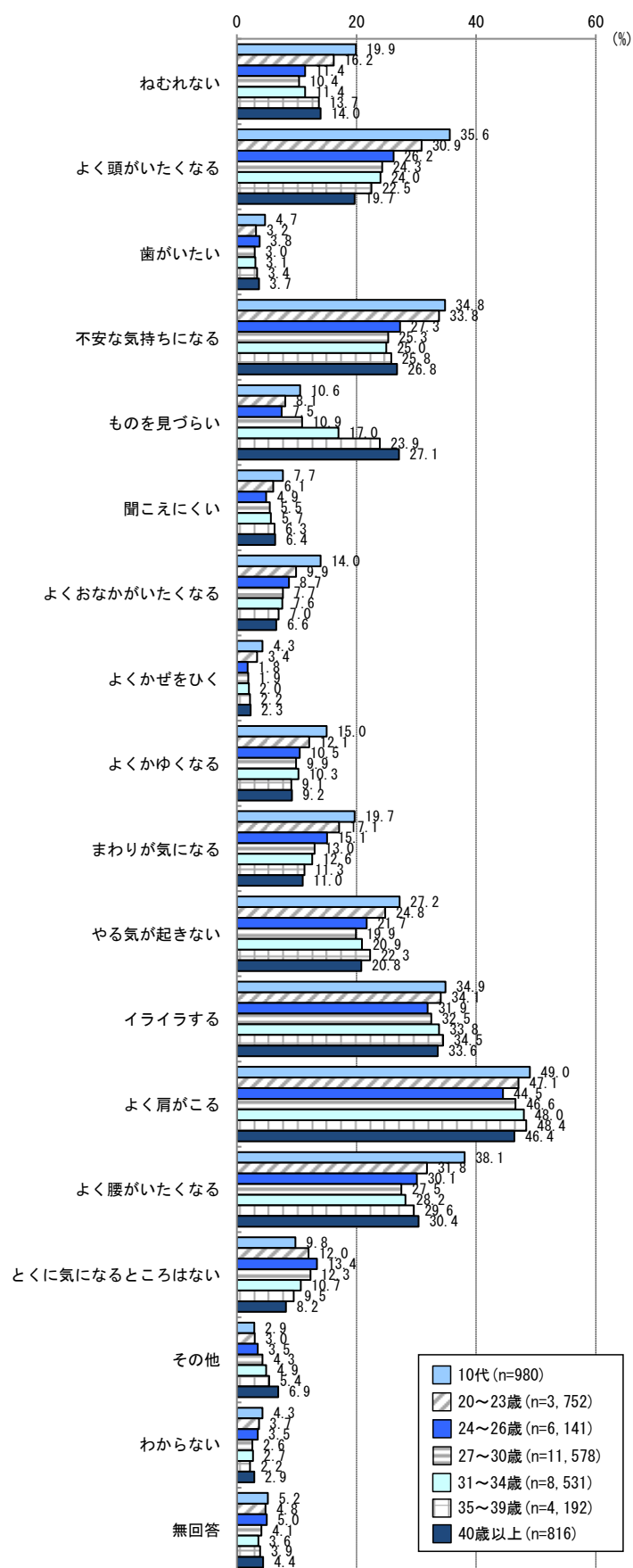


図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

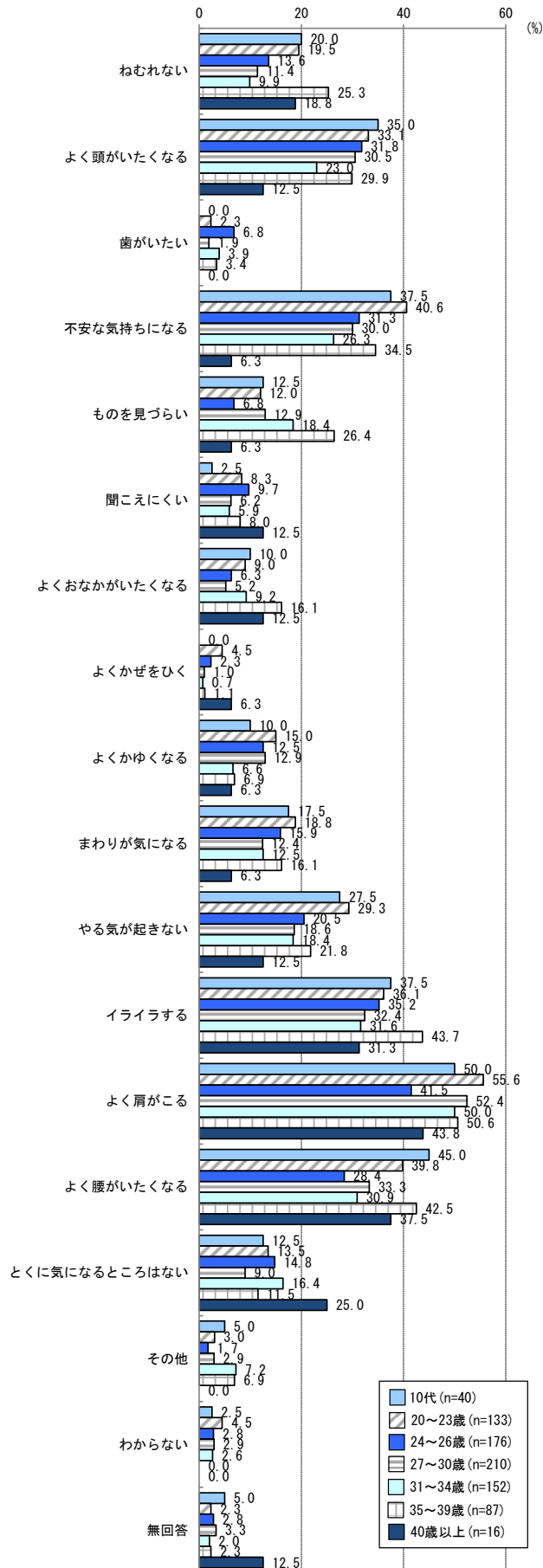
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代は他の群と比較して「正規群」の割合が低く、「非正規群」の割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<門真市>

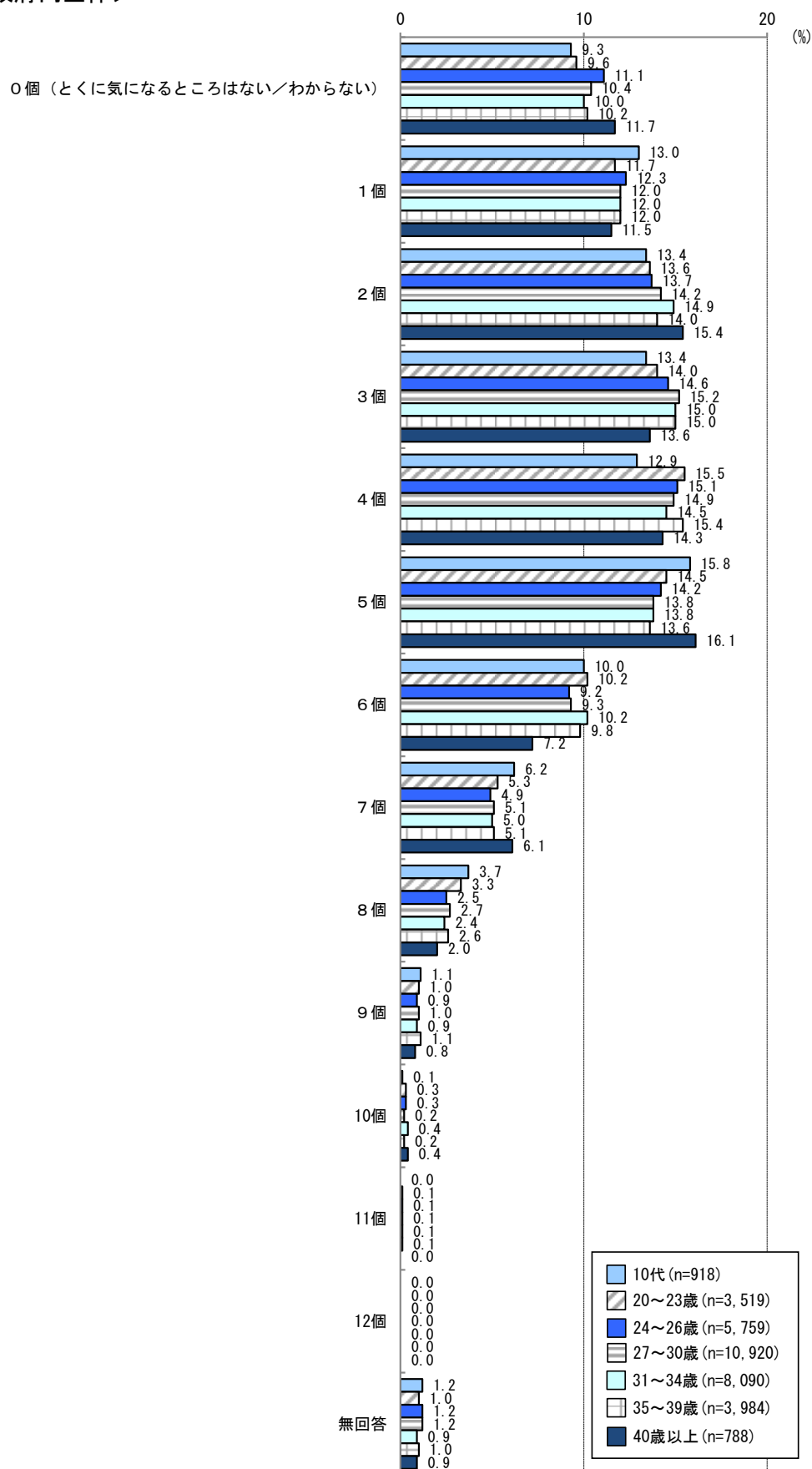


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、20～23歳は他の年代と比較して「不安な気持ちになる」や「よくかゆくなる」、「まわりが気になる」、「やる気が起きない」、「よく肩がこる」の割合が高かった。

図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 17
× 子ども票問 19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<門真市>

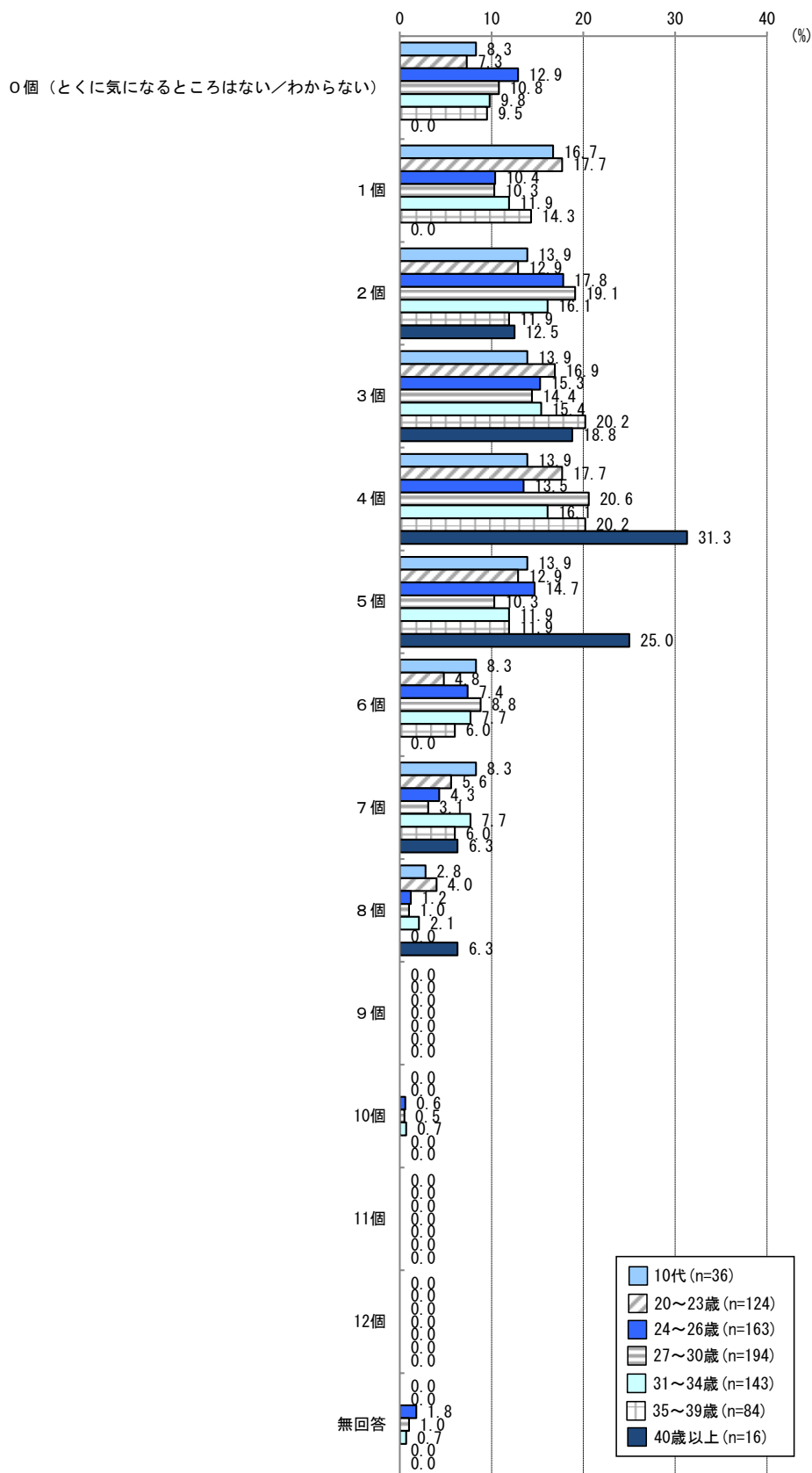
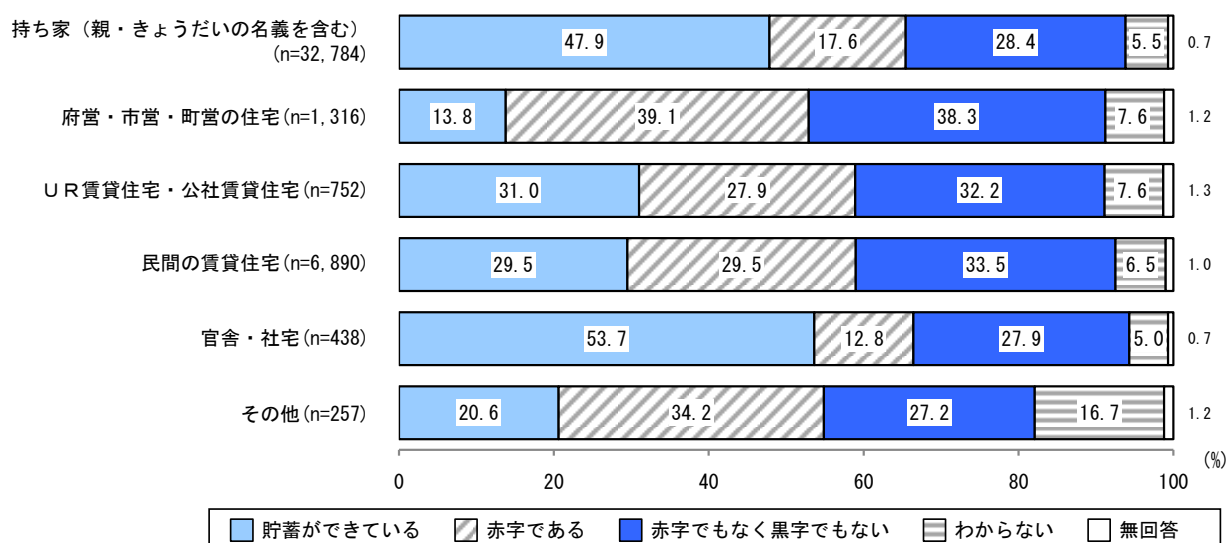


図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代は、他の年代と比較して「7個」（8.3％）の割合が最も高かった。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

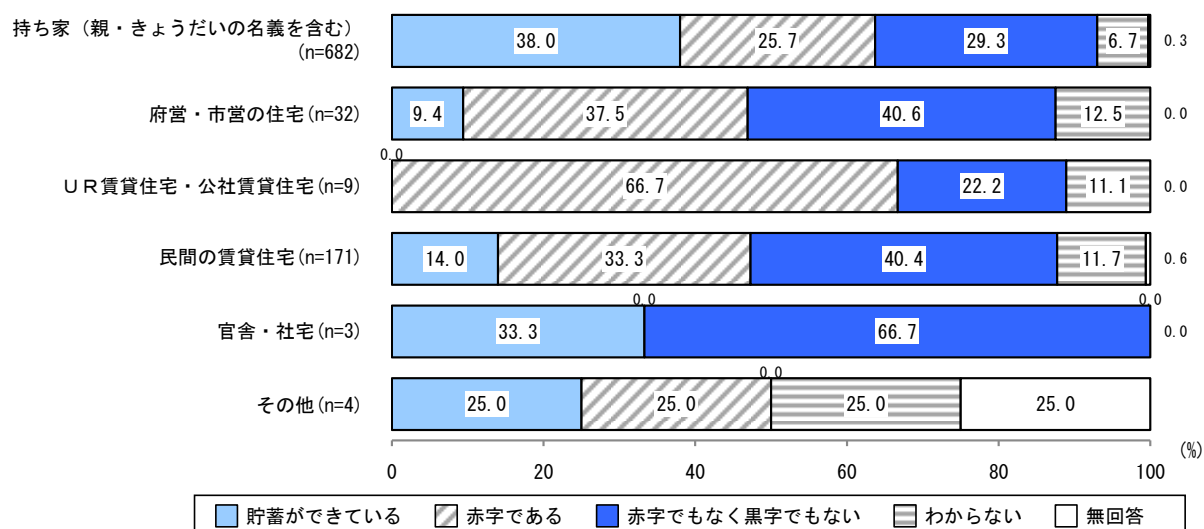
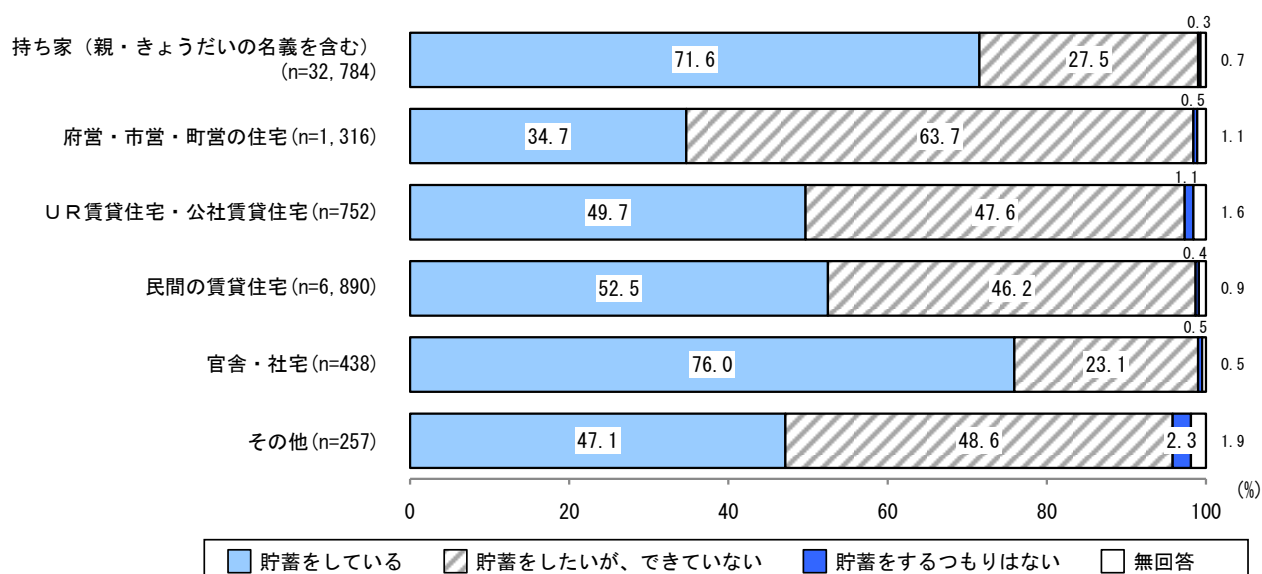


図 29. 住居形態別に見た、家計の状況

住居別に家計状況を見ると、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅(66.7%)、府営・市営の住宅(37.5%)に住む人で、「赤字である」と回答した割合が高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は25.7%であった。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

<大阪府内全体>



<門真市>

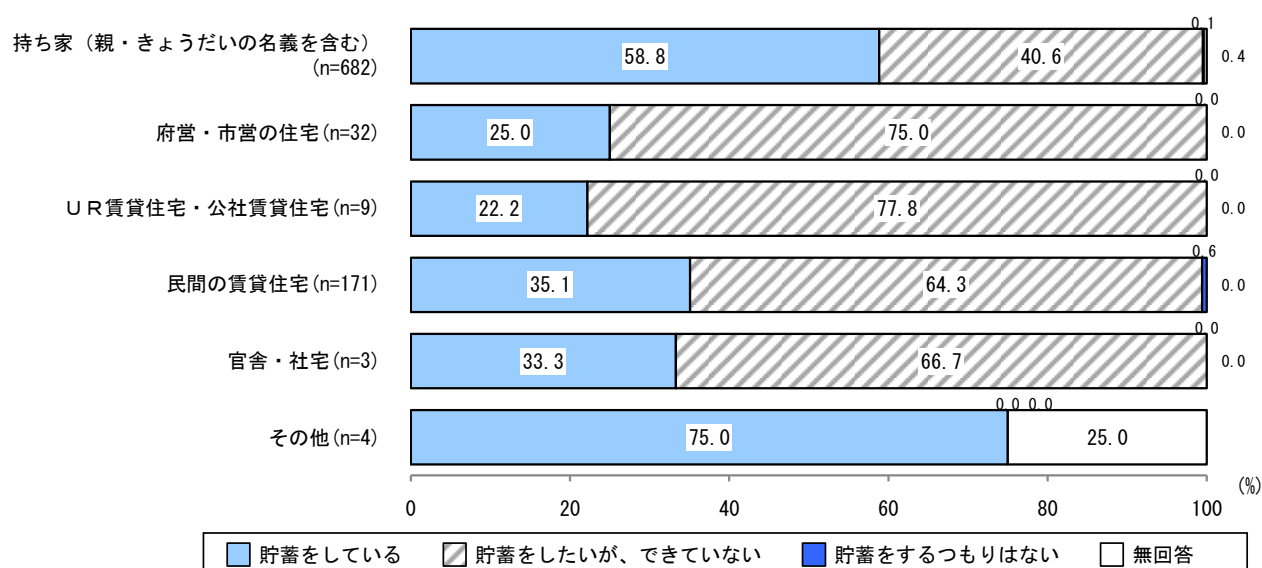
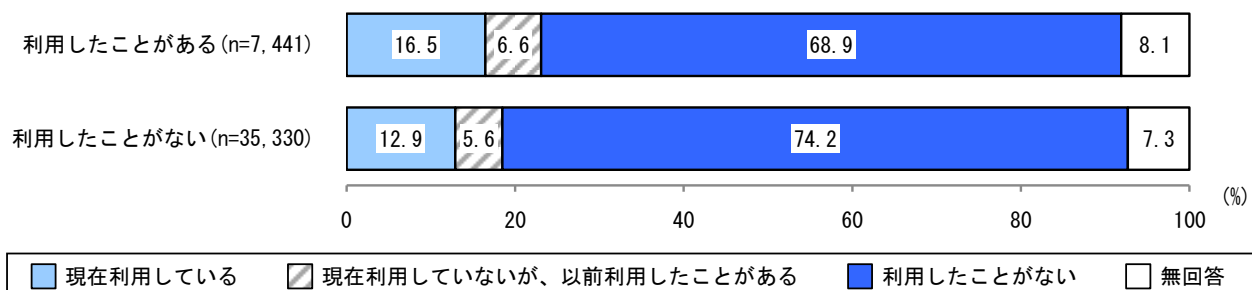


図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅(77.8%)、府営・市営の住宅(75.0%)、官舎・社宅(66.7%)に住む人で、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高かった。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<門真市>

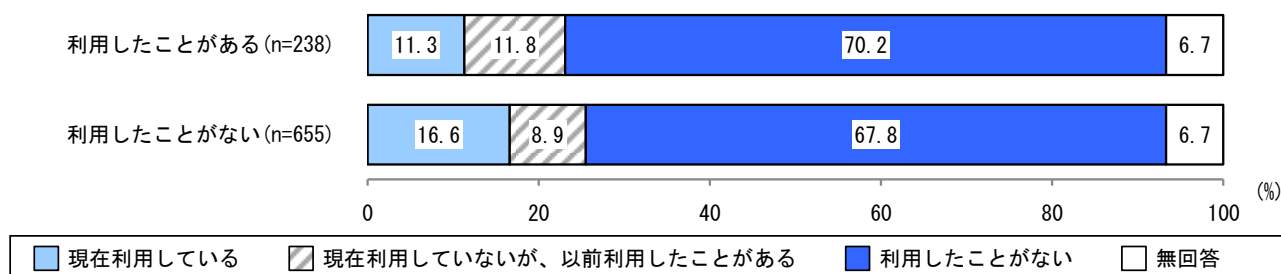
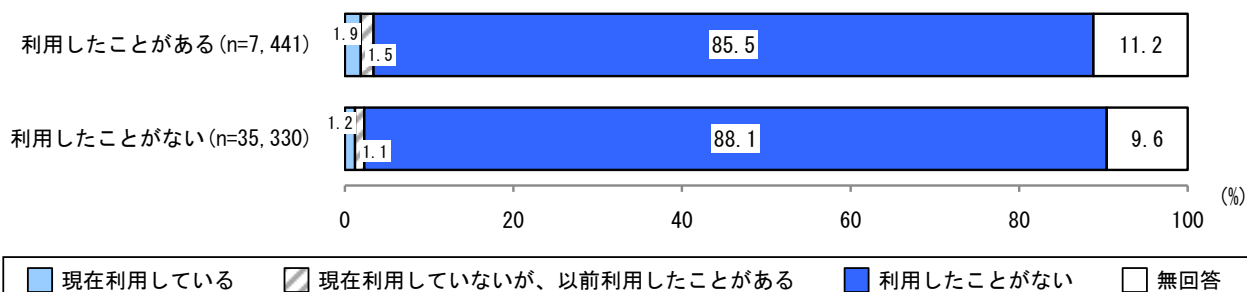


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが就学援助を「現在利用している」と回答した割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<門真市>

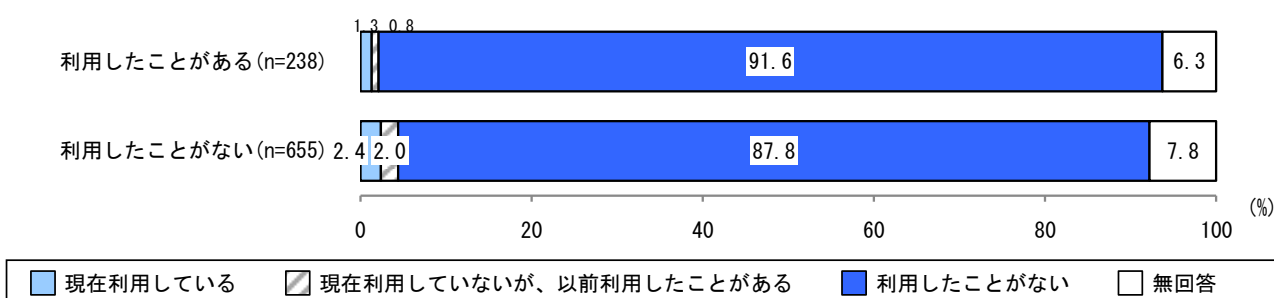
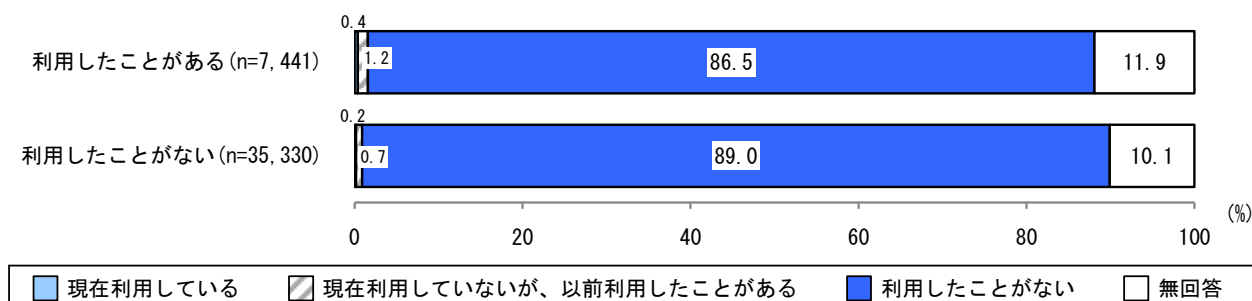


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが生活保護を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<門真市>

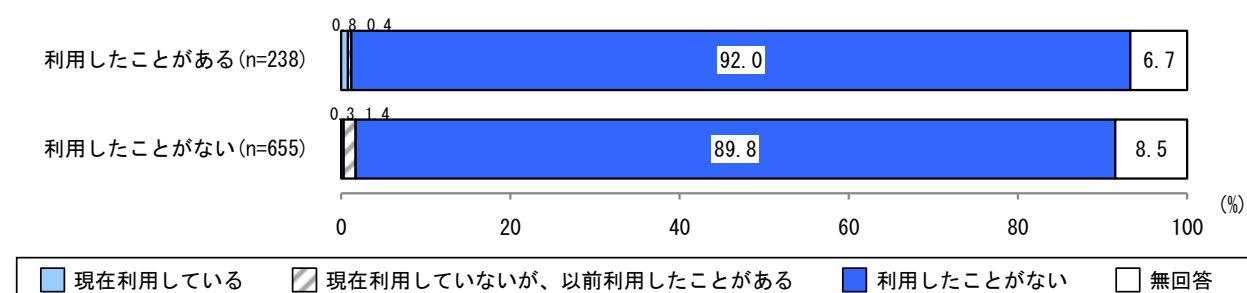
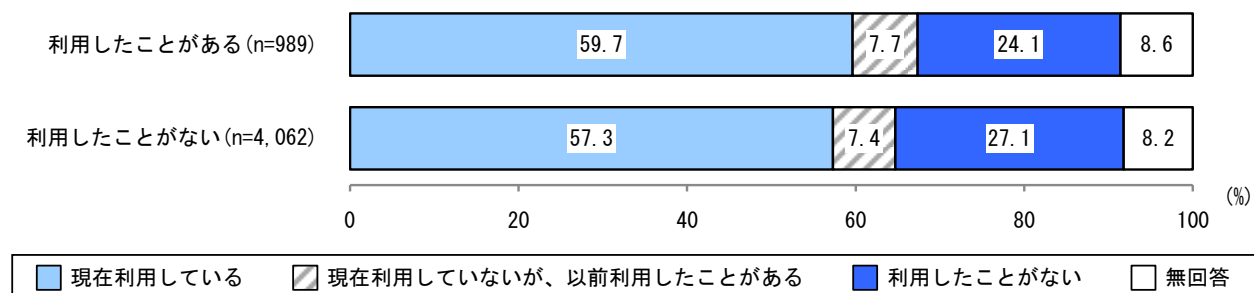


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが生活困窮者の自立支援相談窓口を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<門真市>

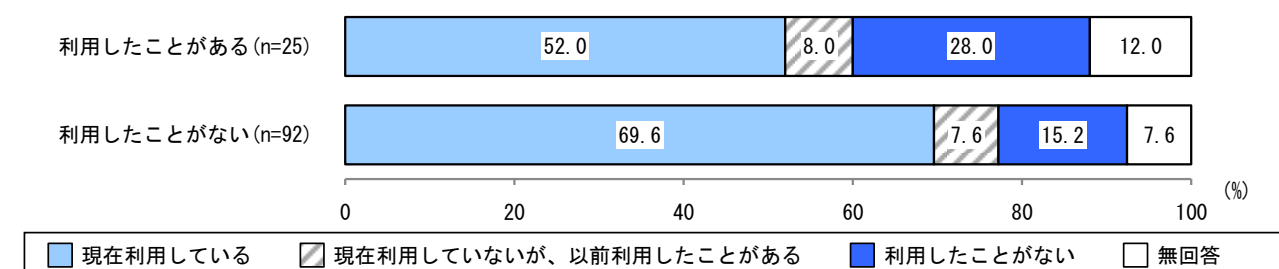
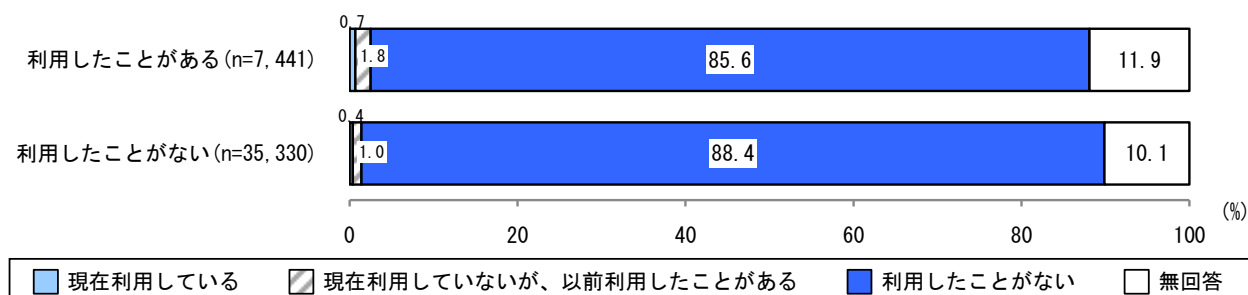


図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが児童扶養手当を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<門真市>

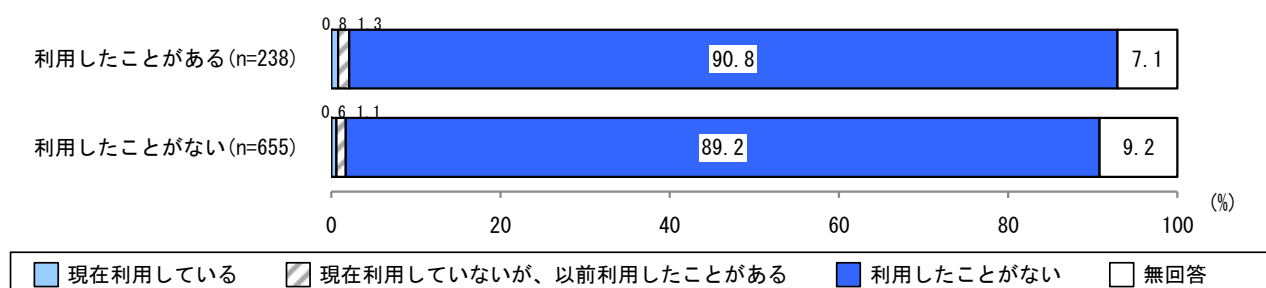
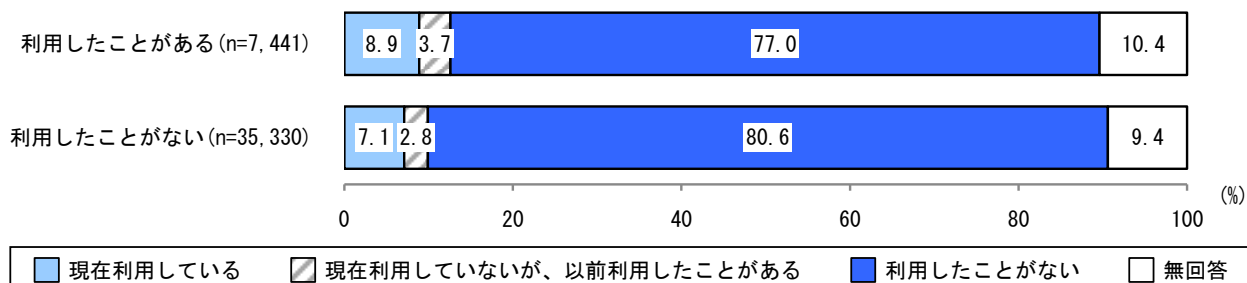


図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが母子家庭等就業・自立支援センターを「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<門真市>

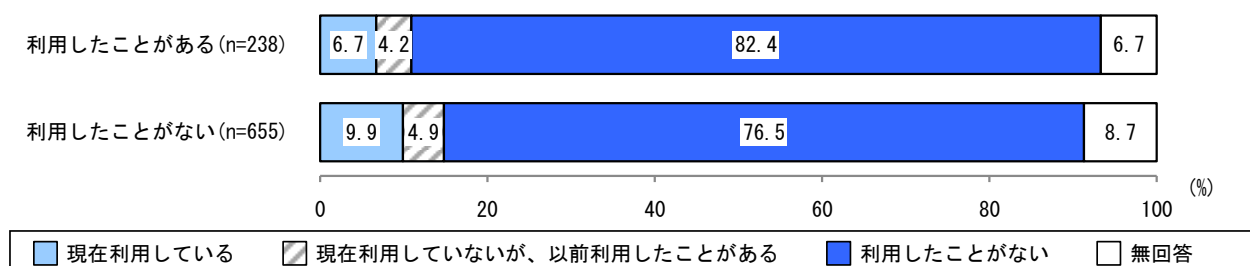
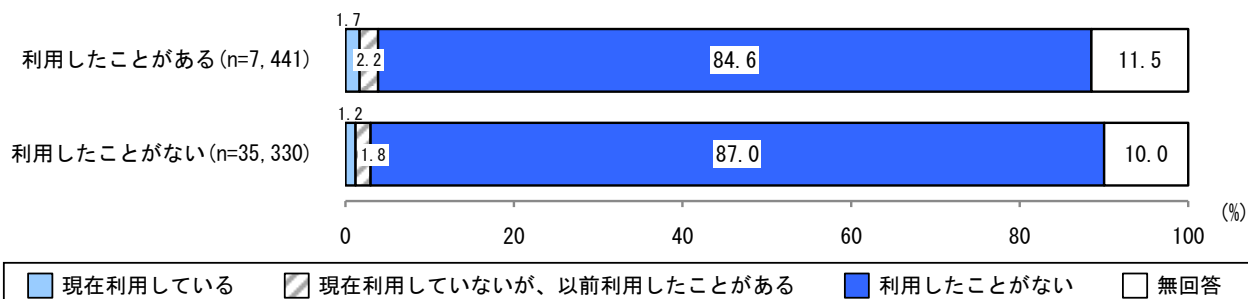


図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<門真市>

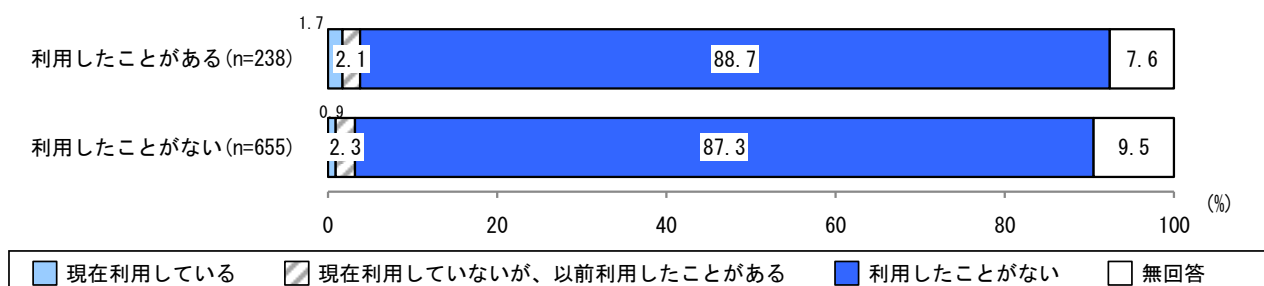
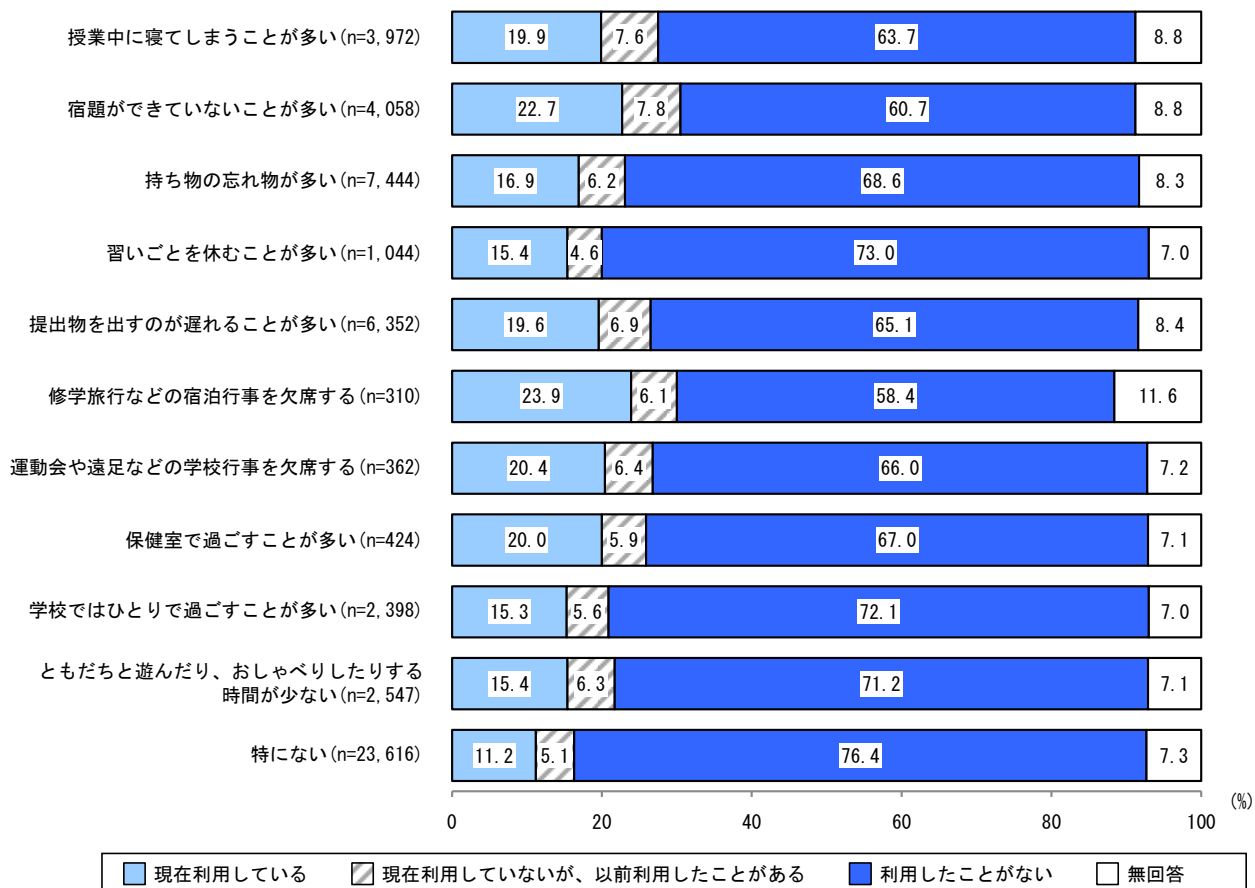


図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<門真市>

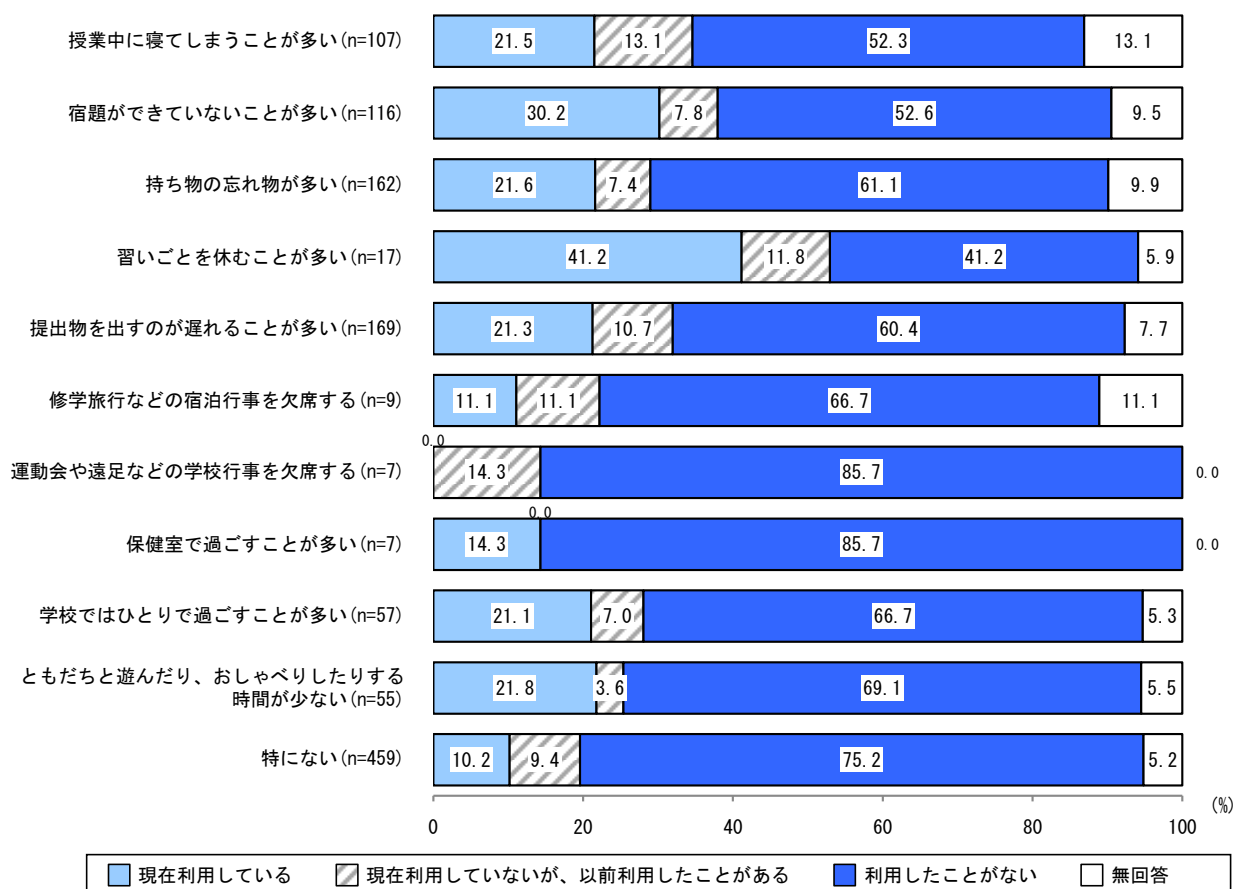
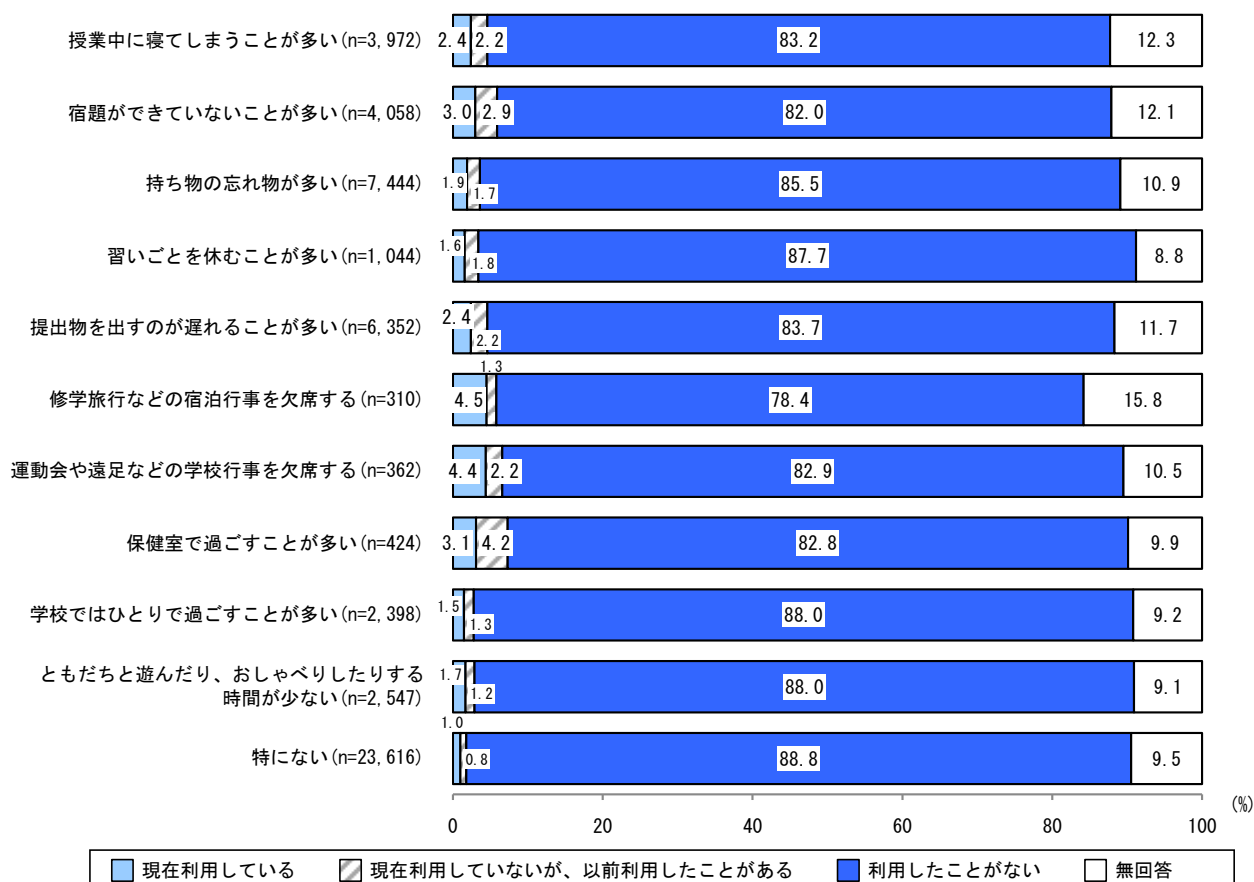


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「習いごとを休むことが多い」と回答した割合が41.2%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<門真市>

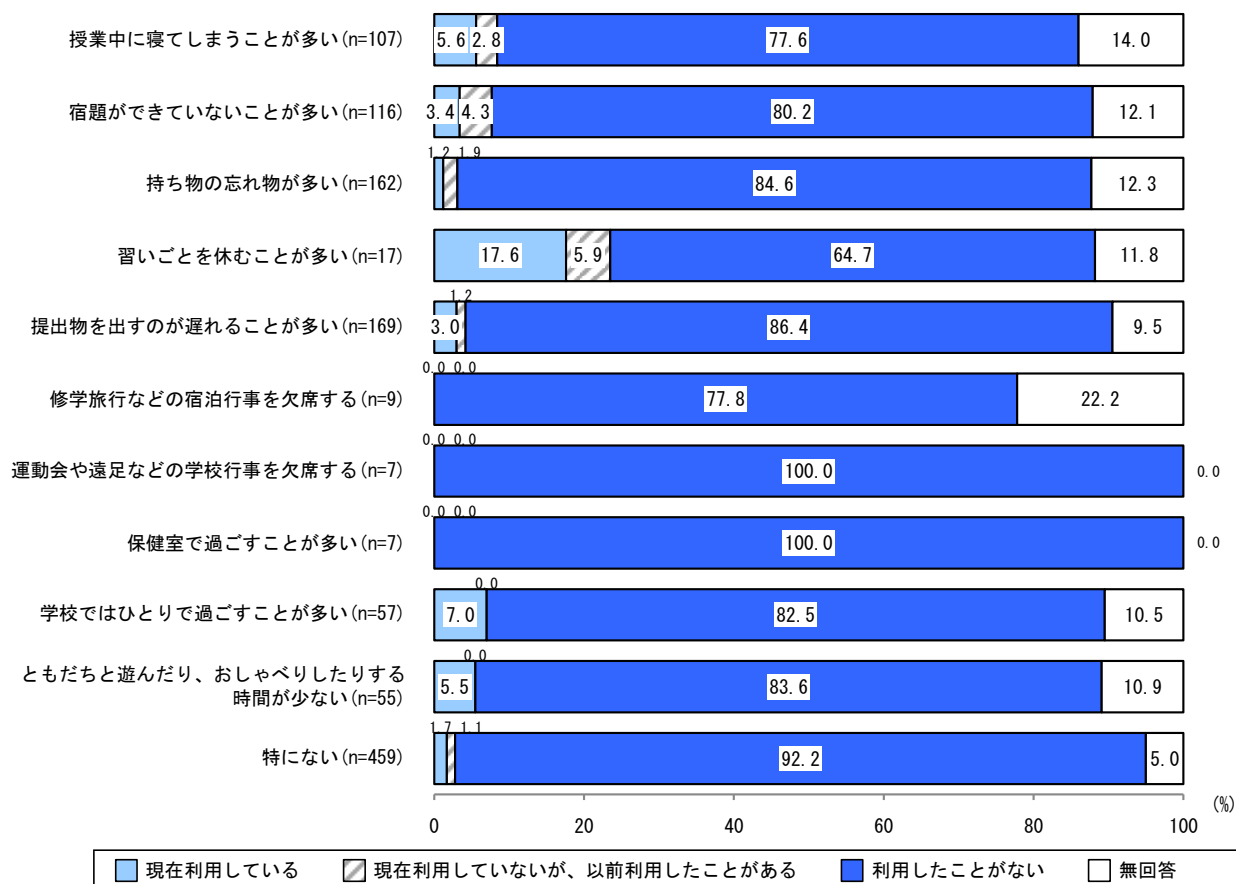
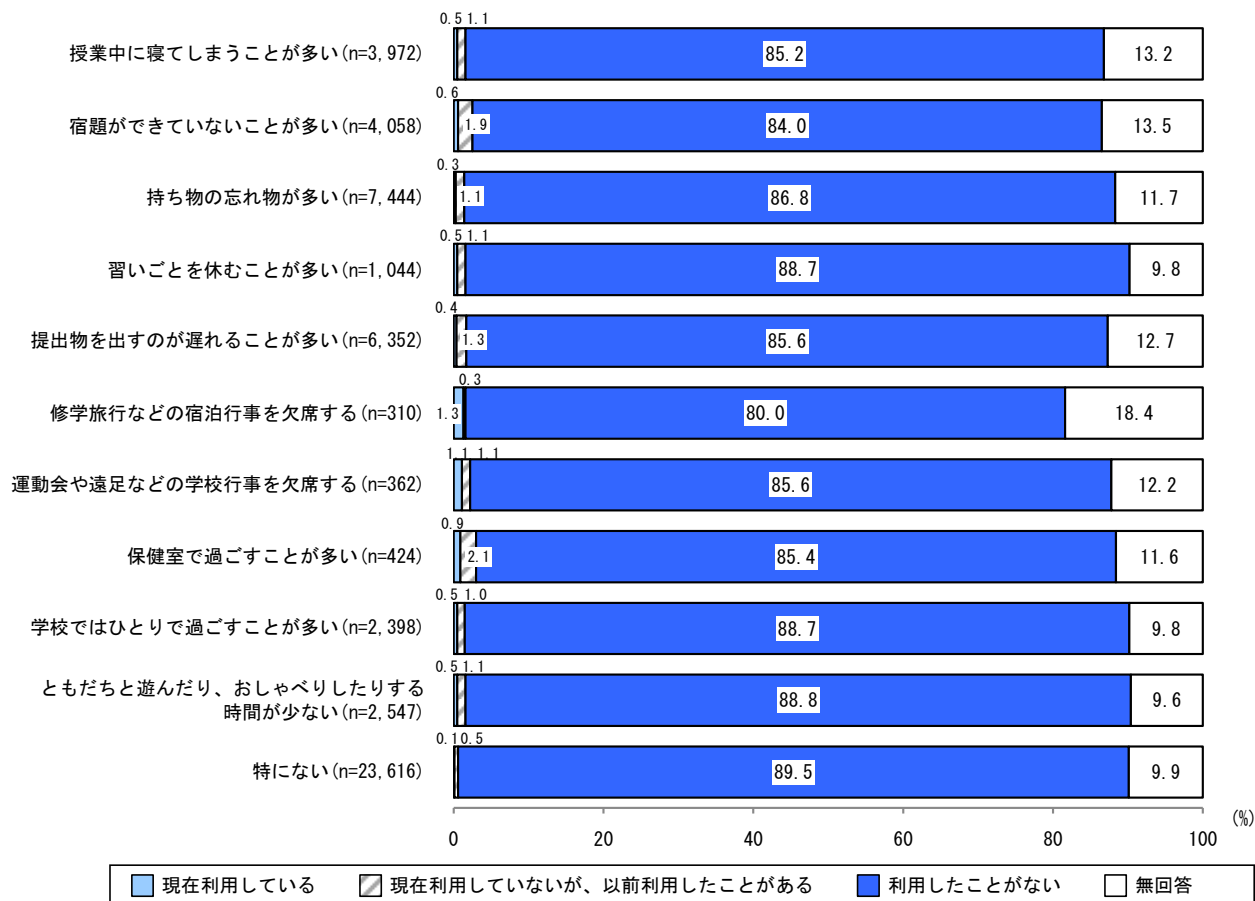


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「習いごとを休むことが多い」と回答した割合が17.6%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<門真市>

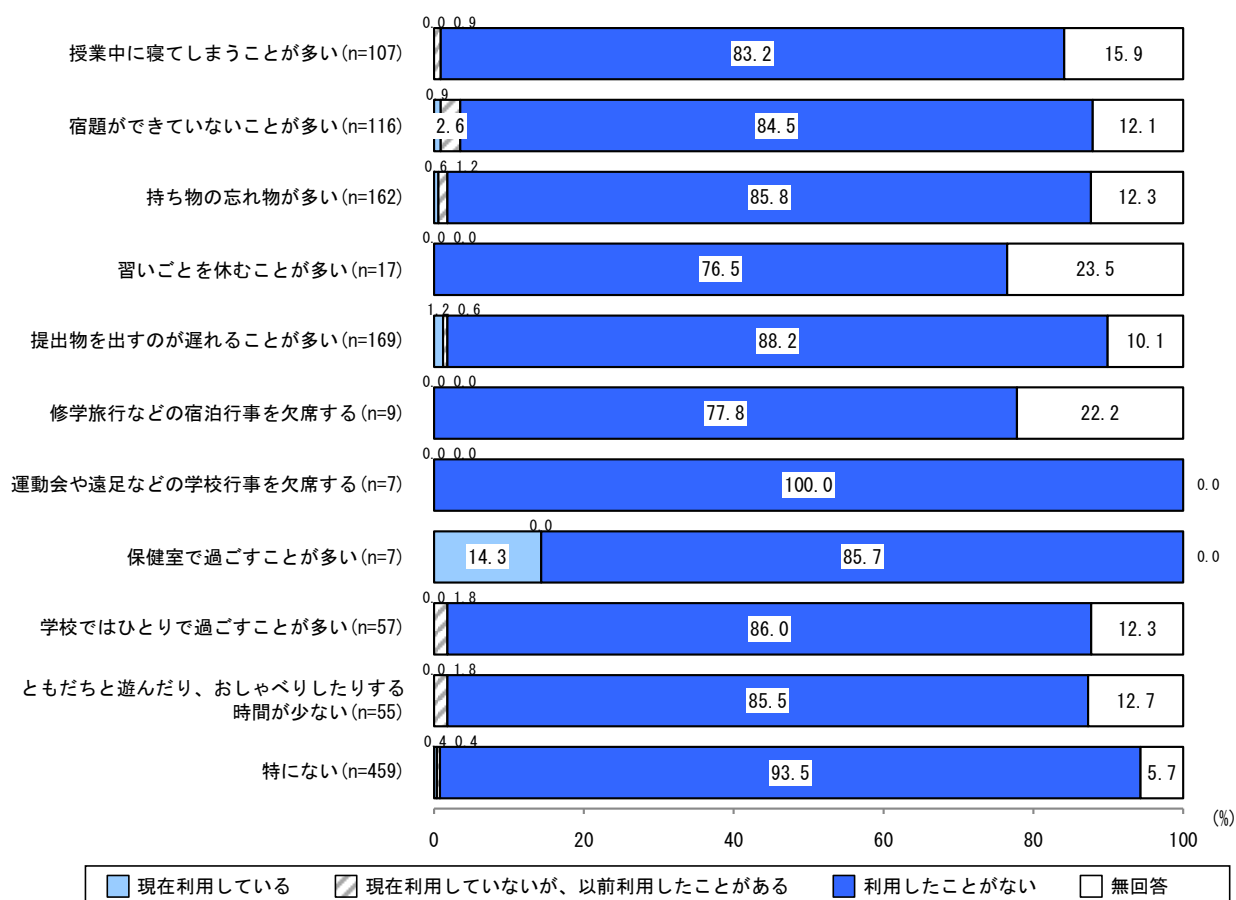
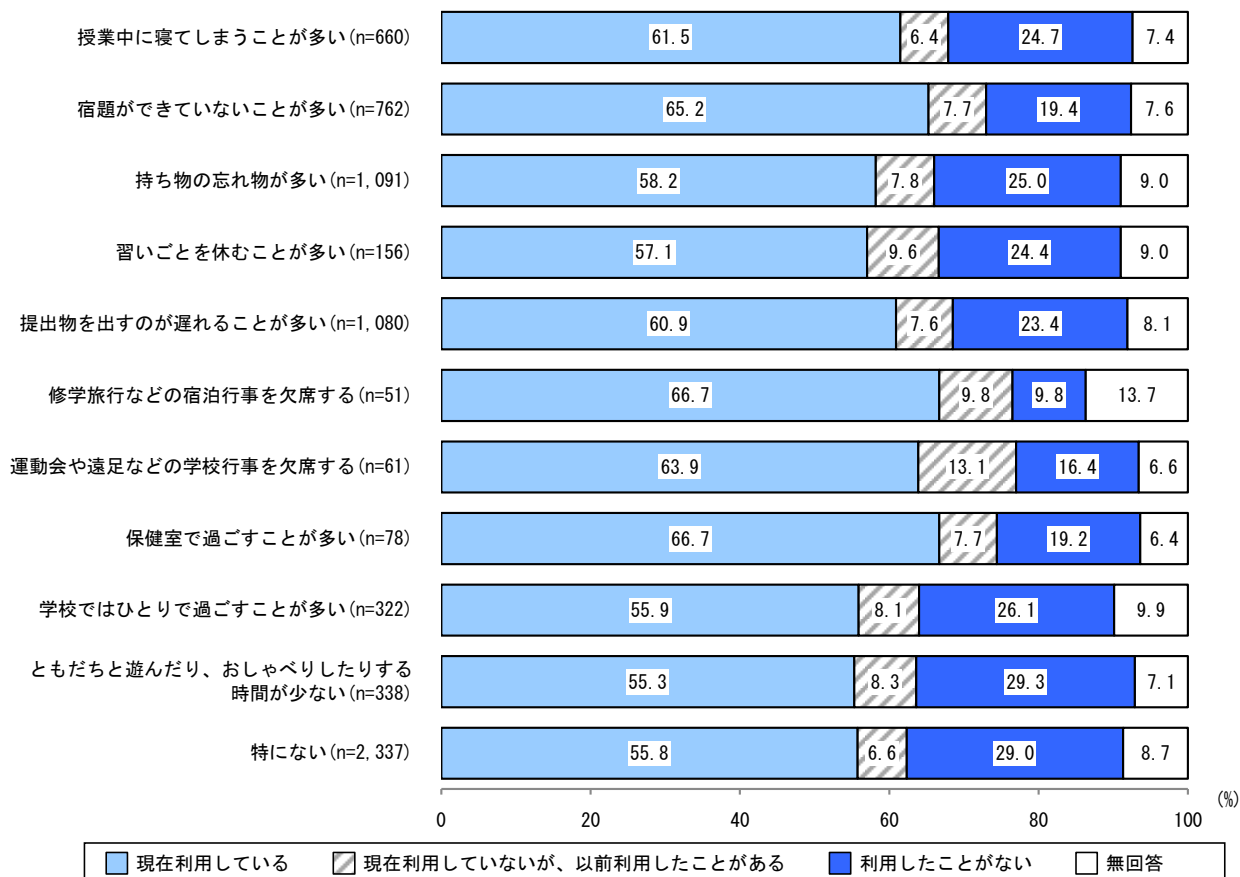


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が14.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<門真市>

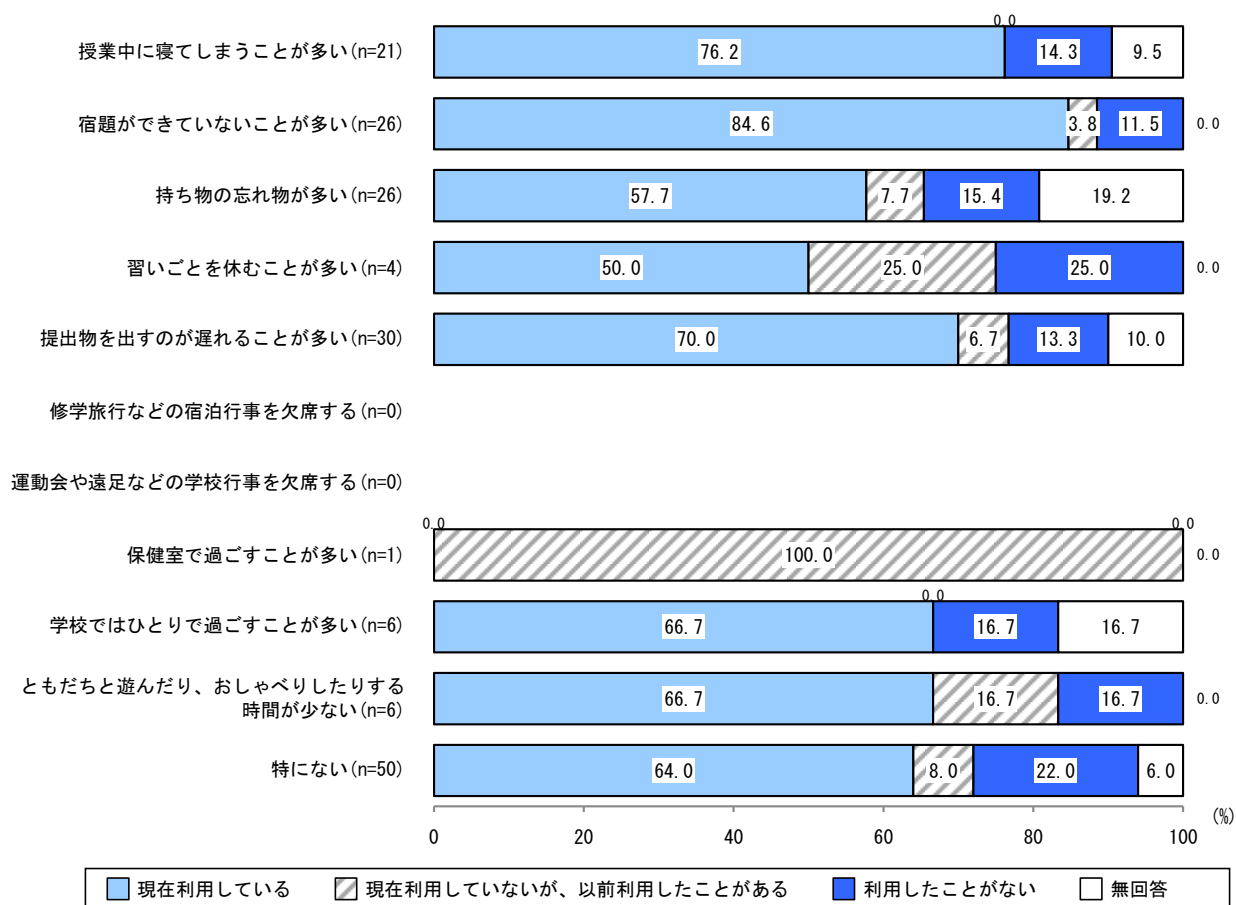
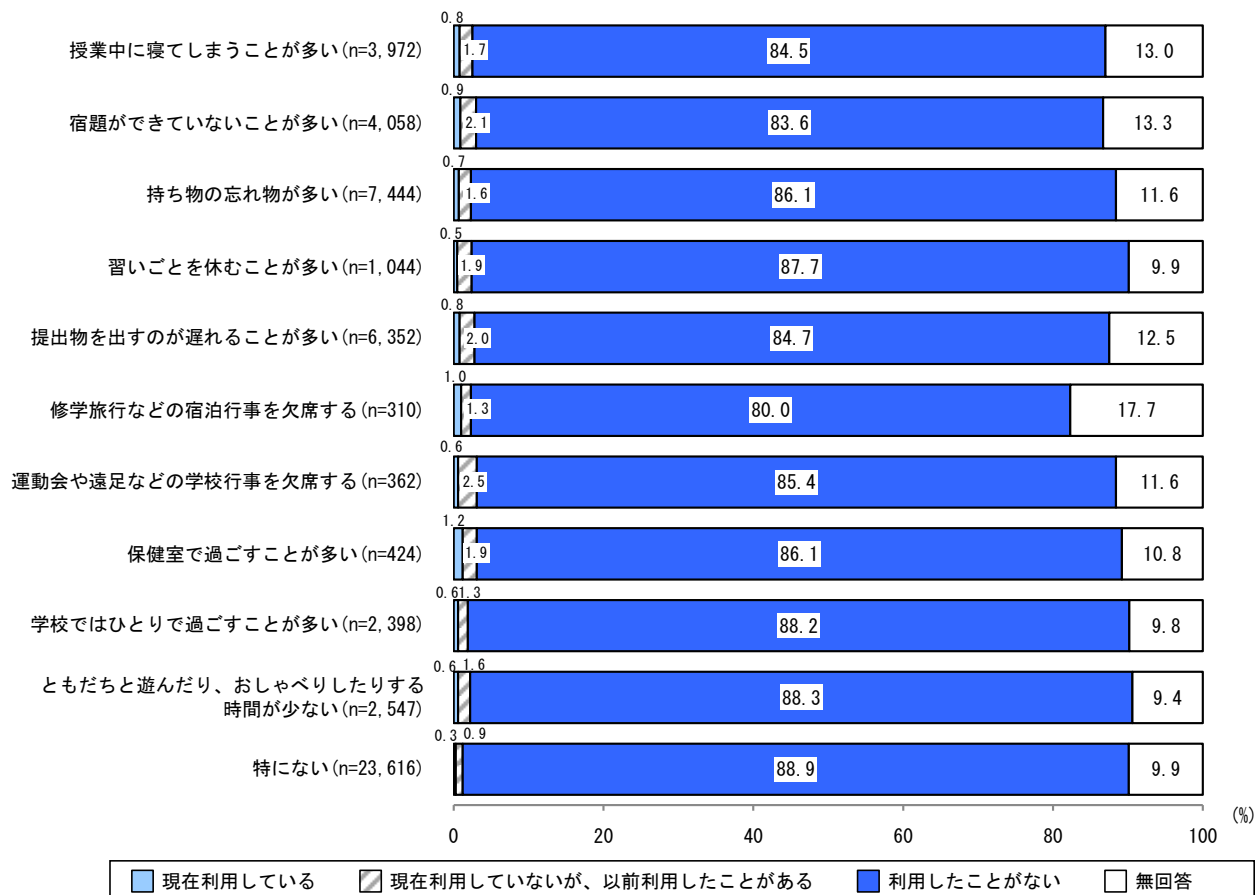


図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が84.6%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<門真市>

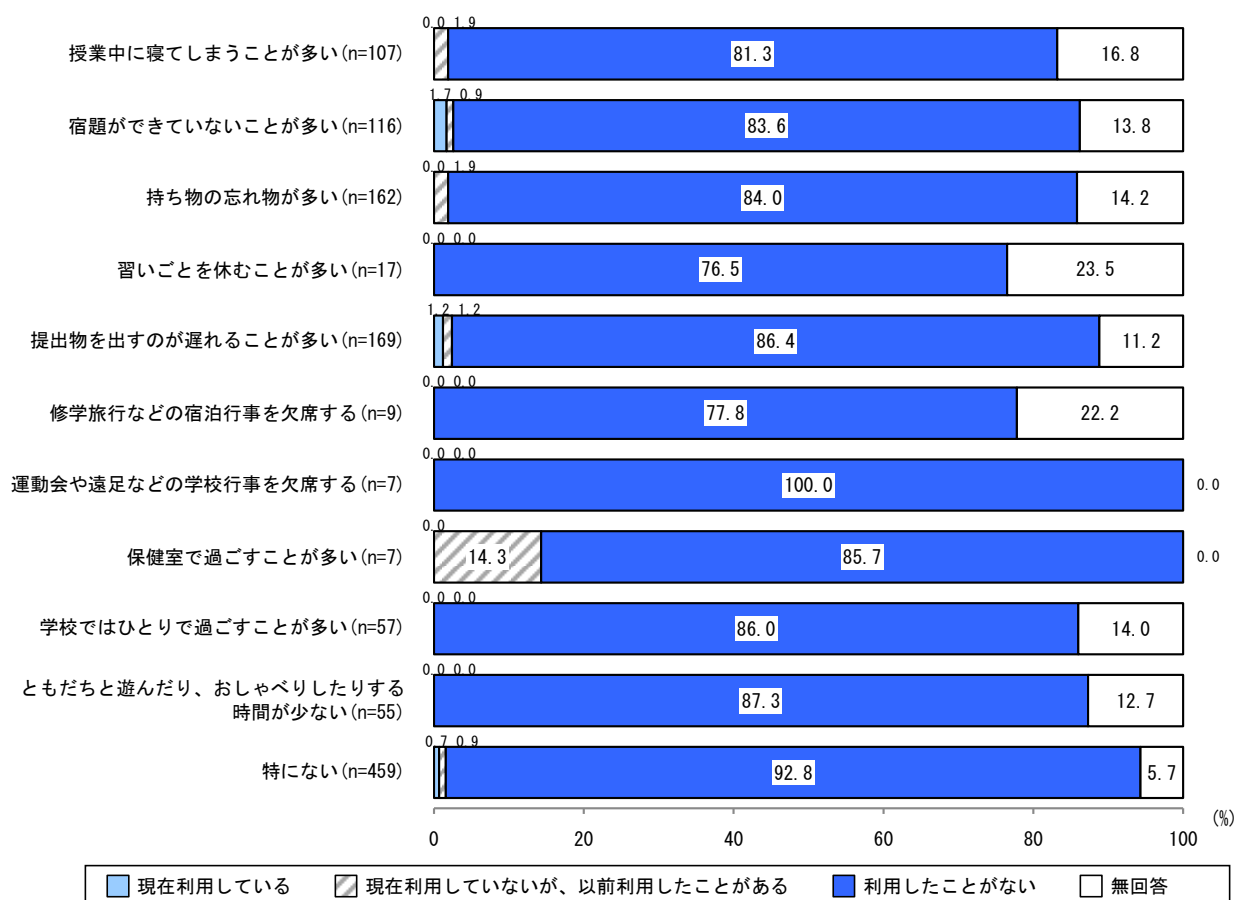
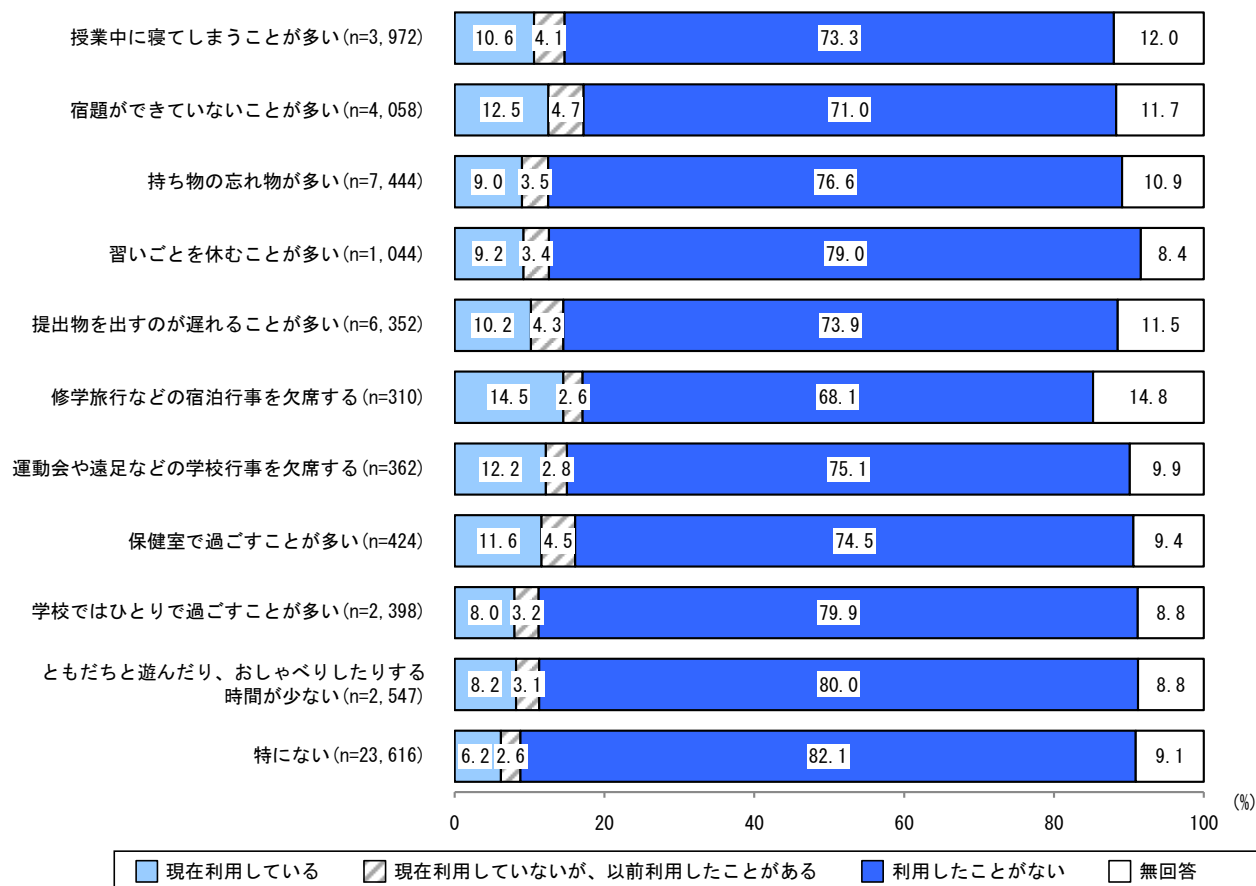


図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が1.7%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<門真市>

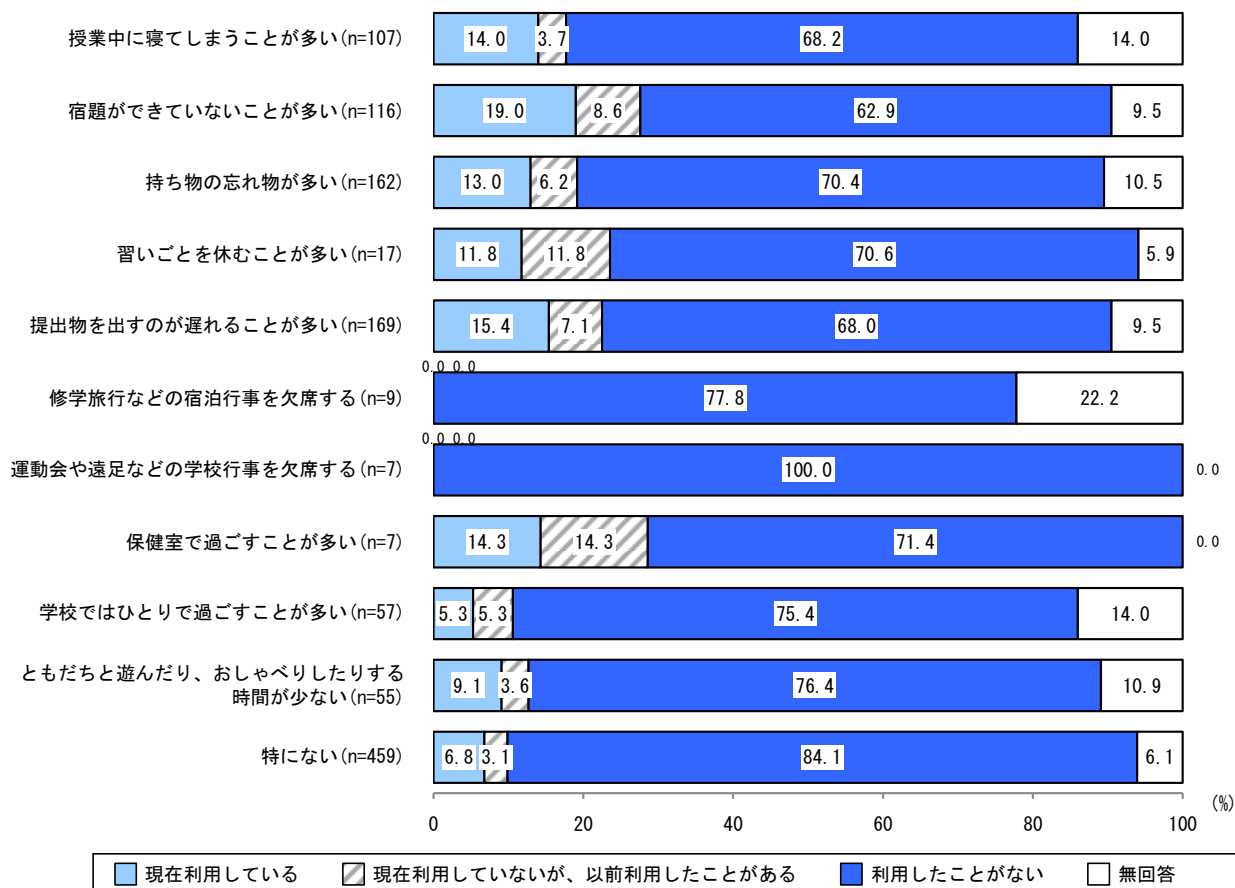
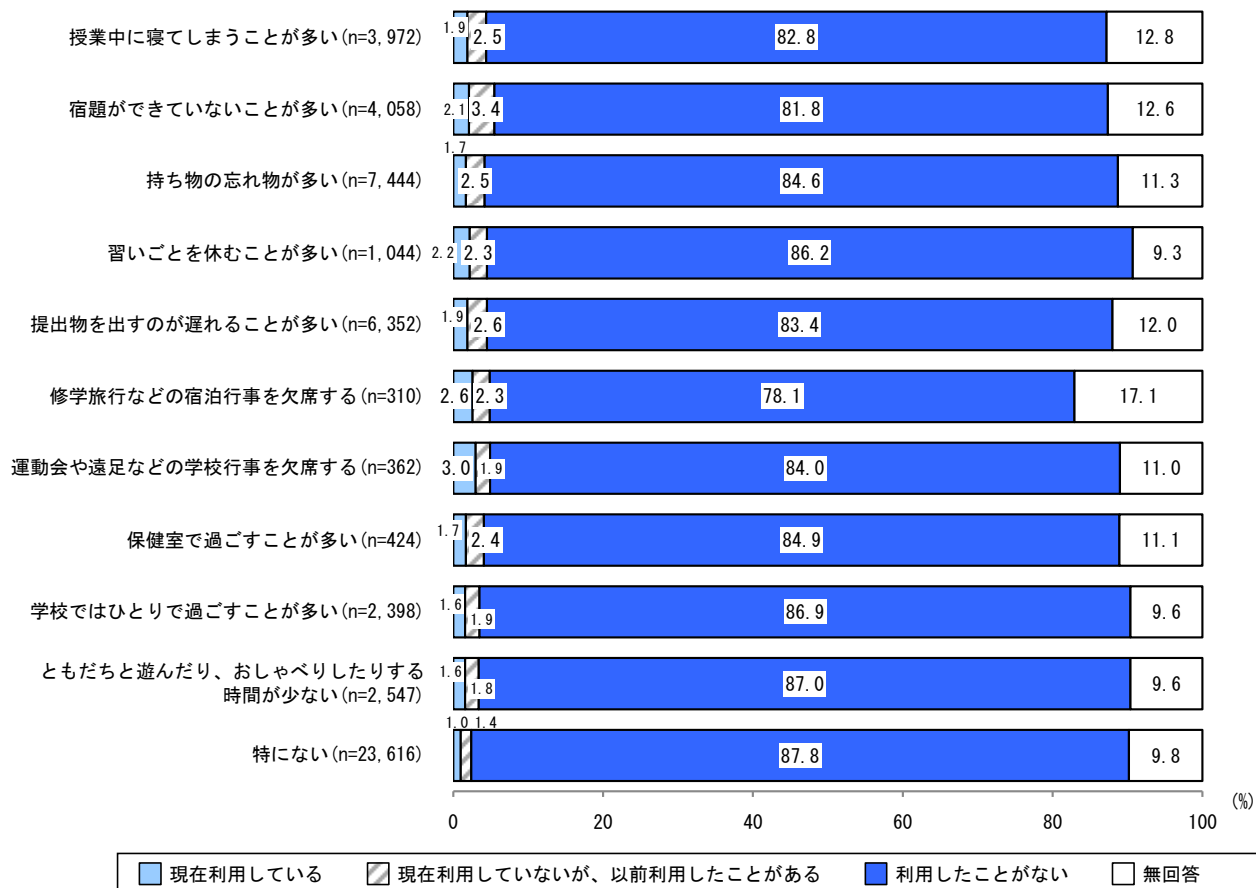


図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が19.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<門真市>

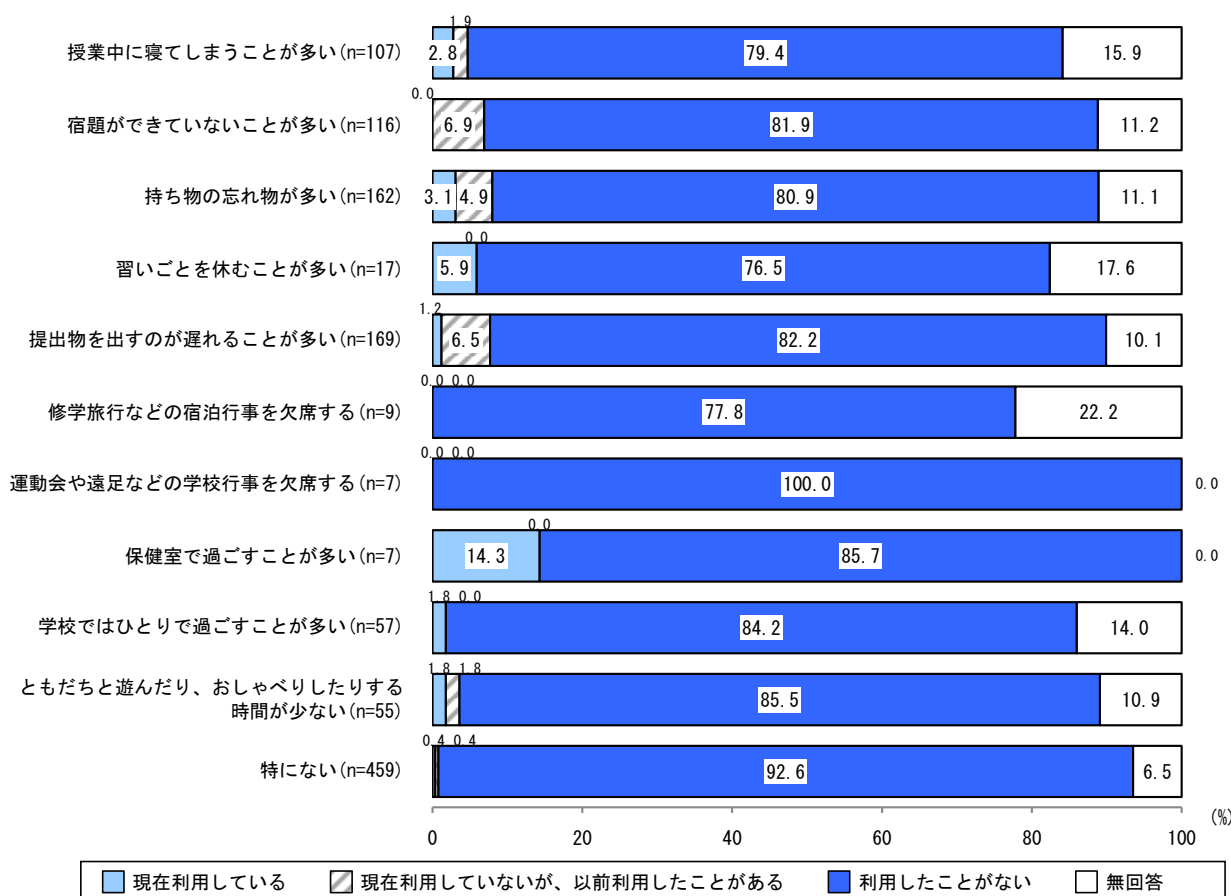
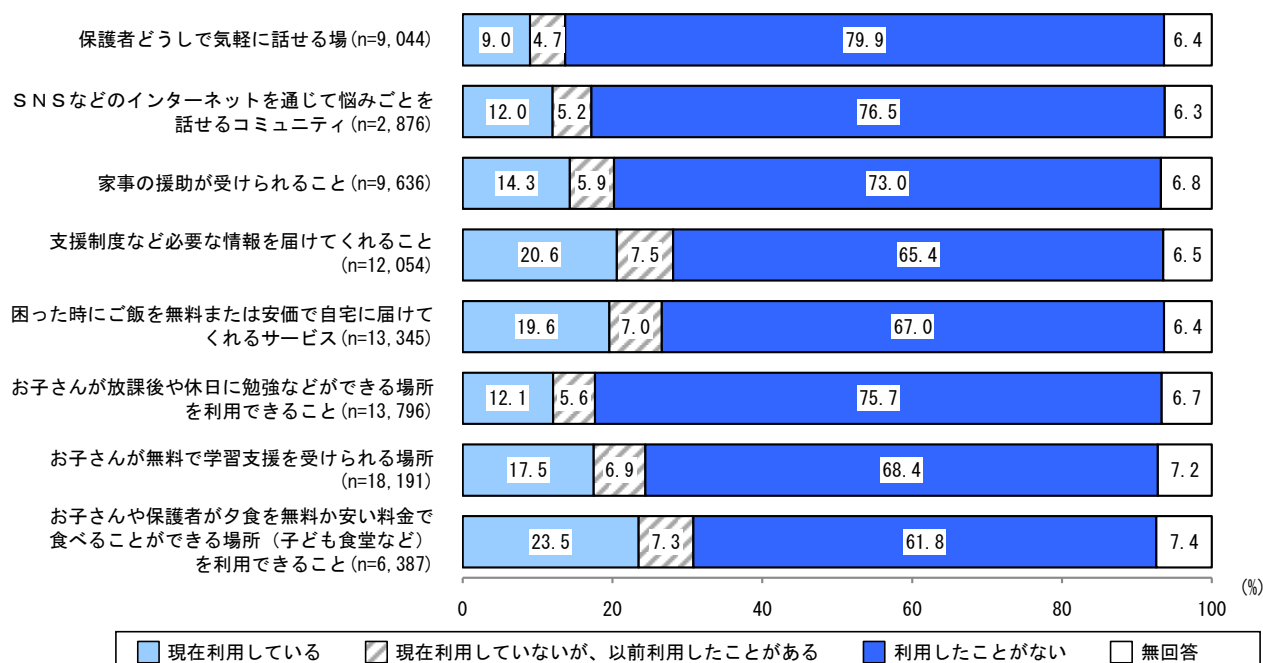


図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が14.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<門真市>

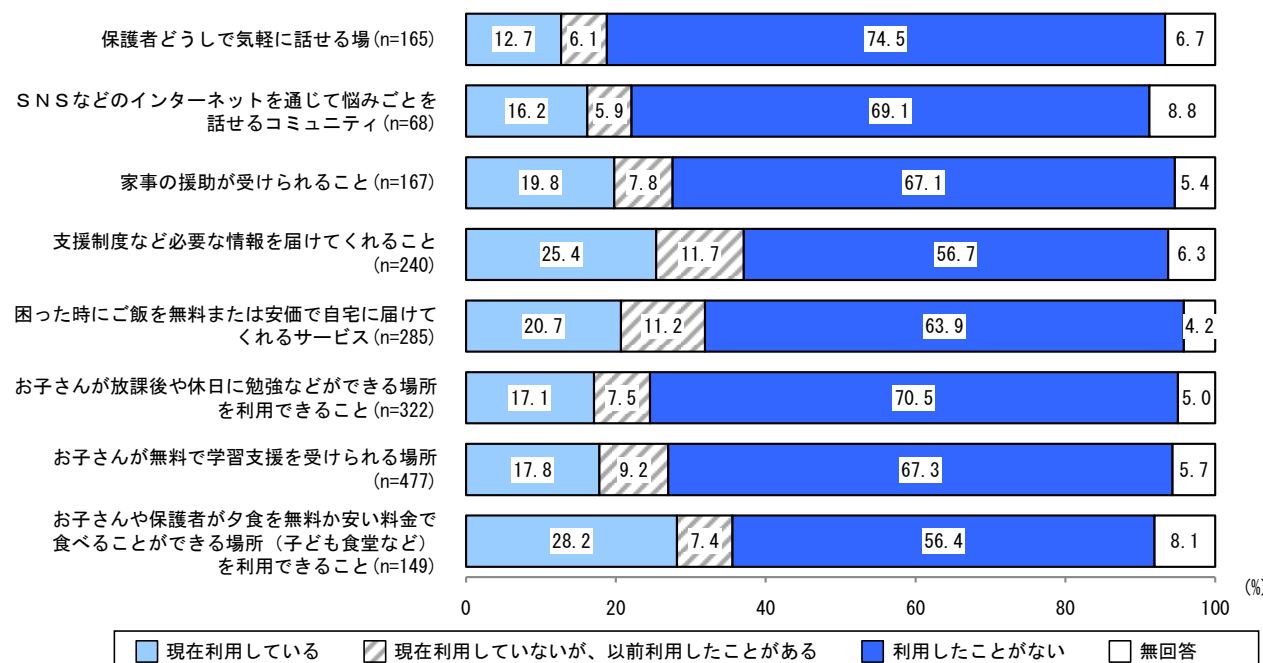
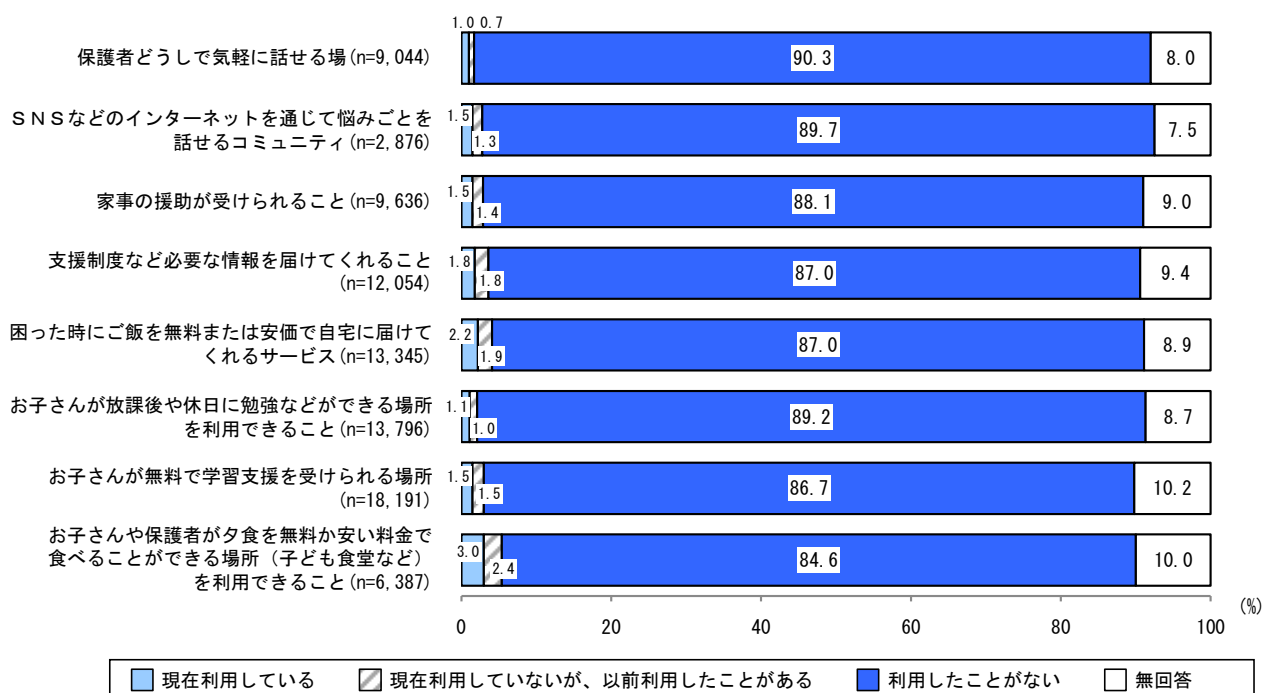


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が28.2%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<門真市>

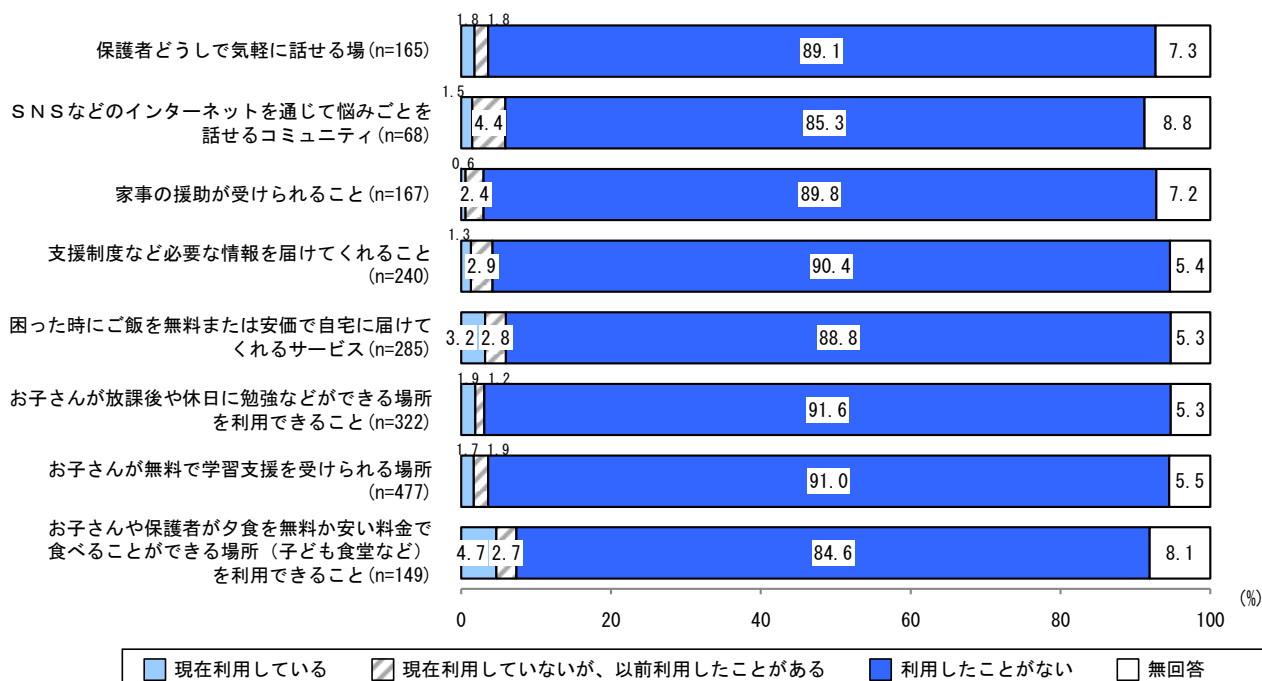
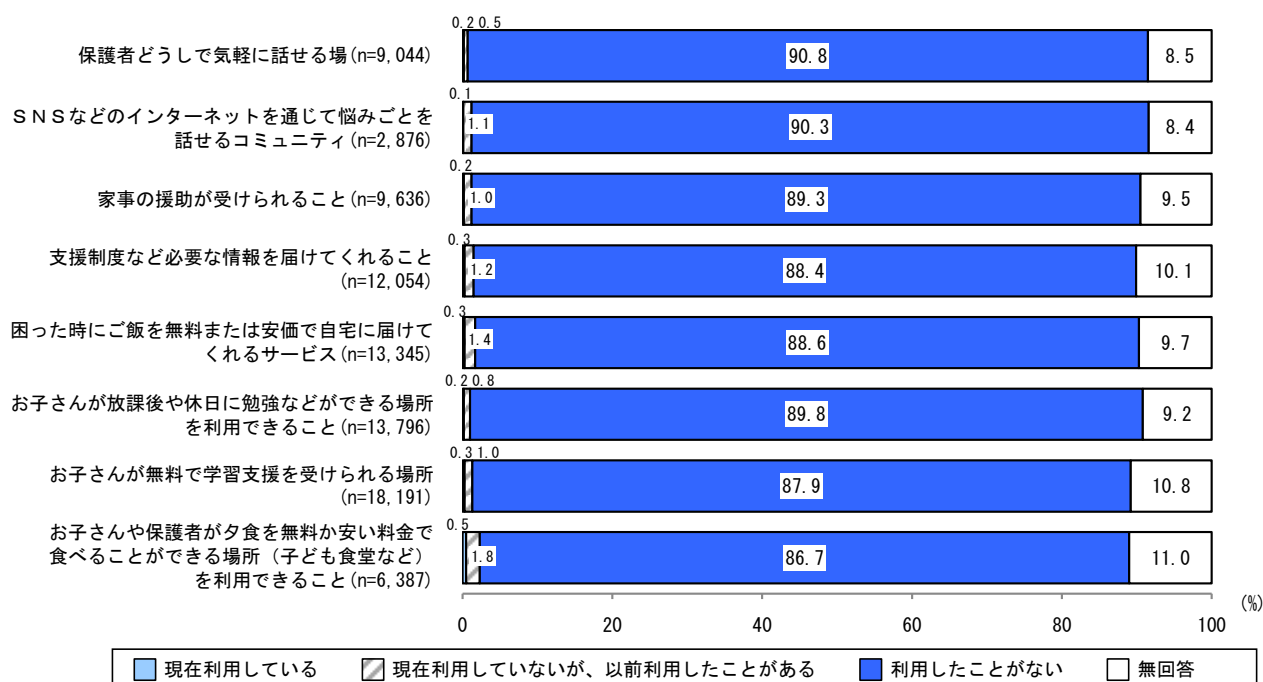


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が4.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<門真市>

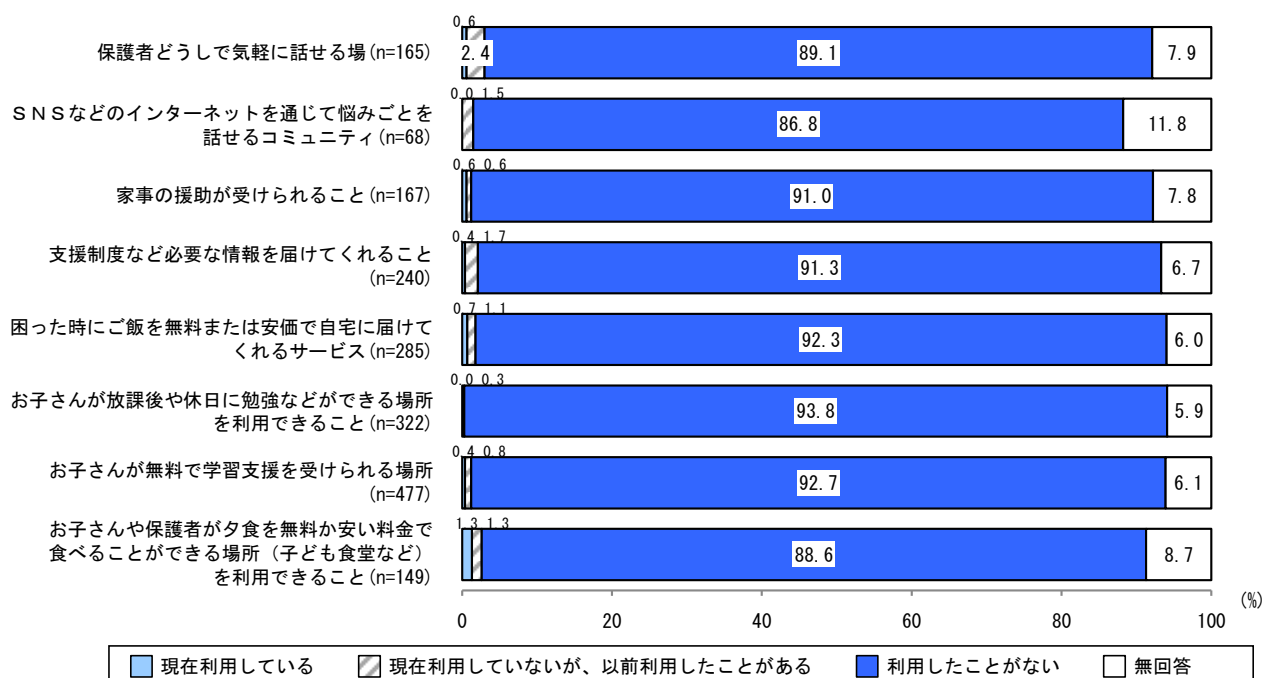
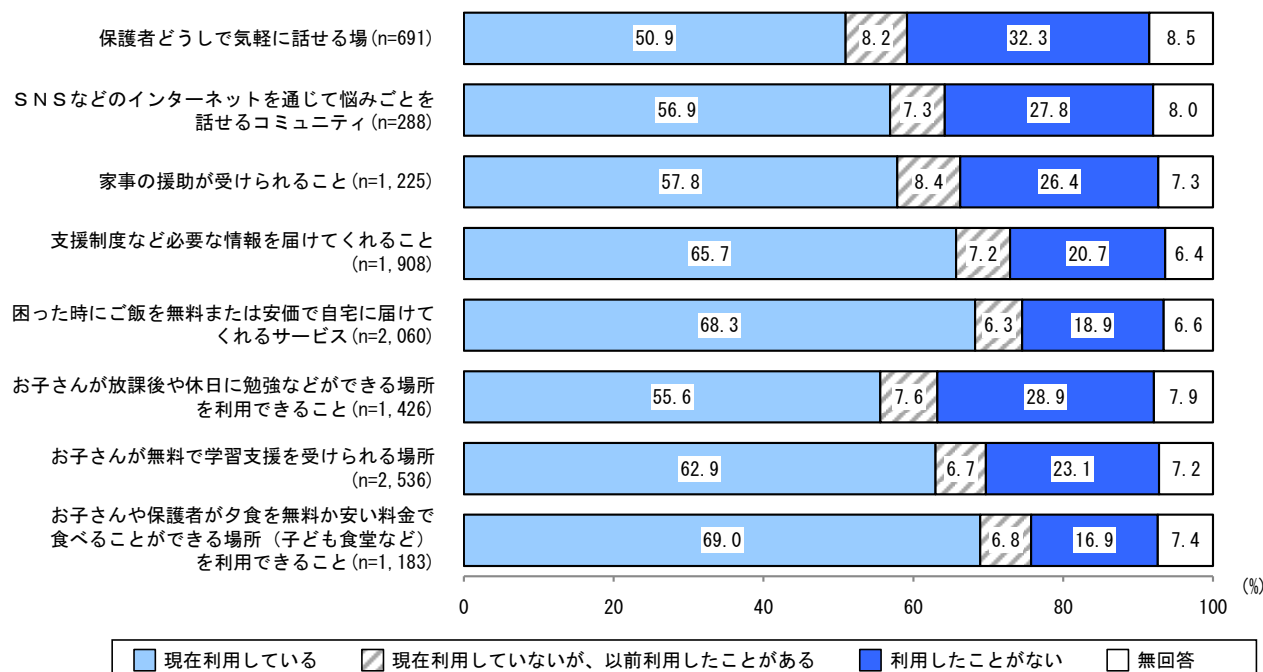


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<門真市>

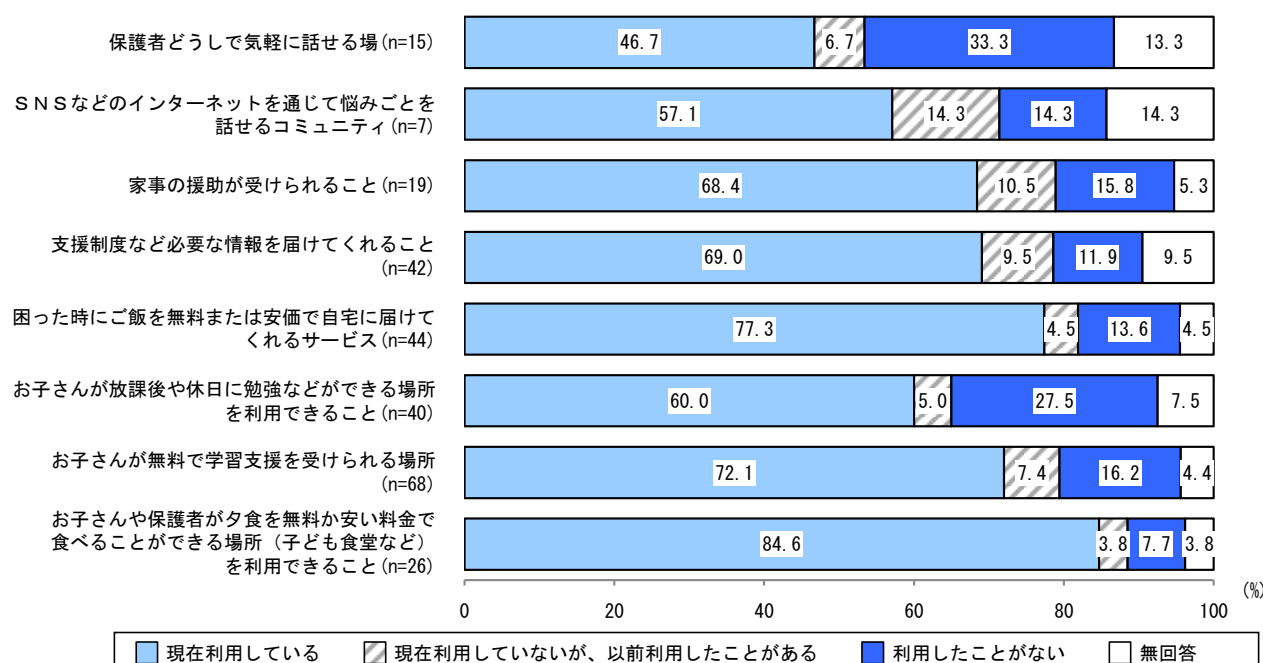
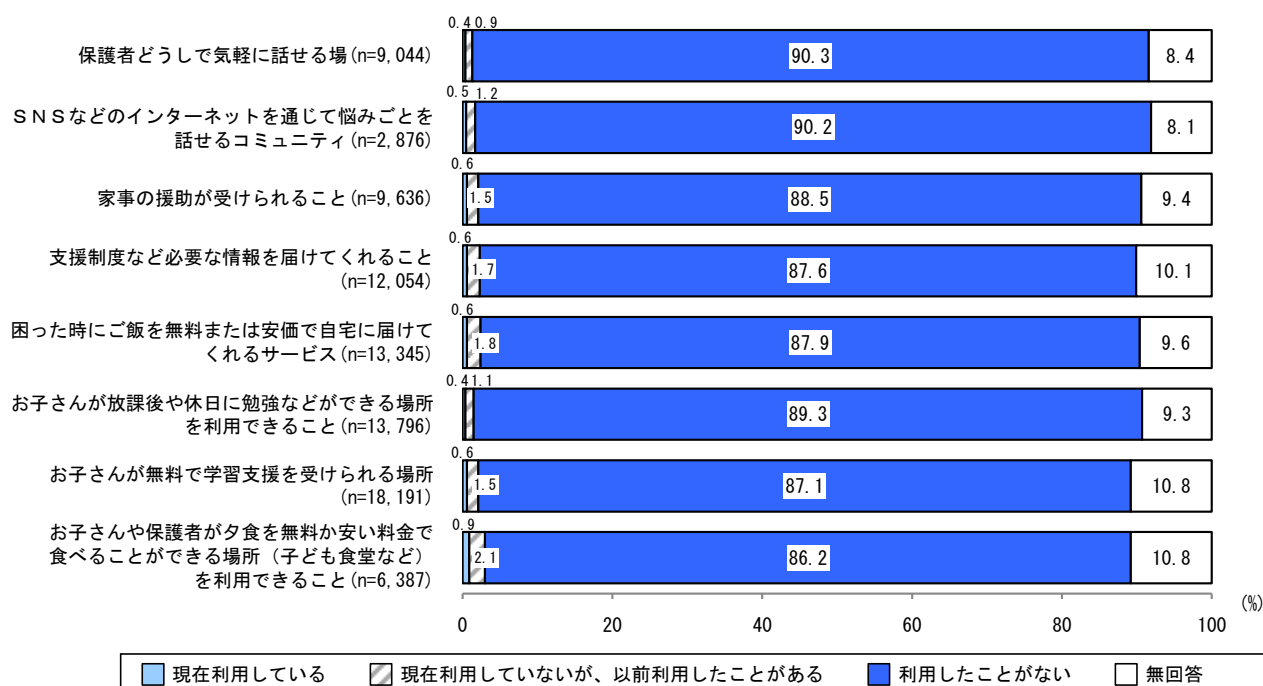


図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が84.6%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<門真市>

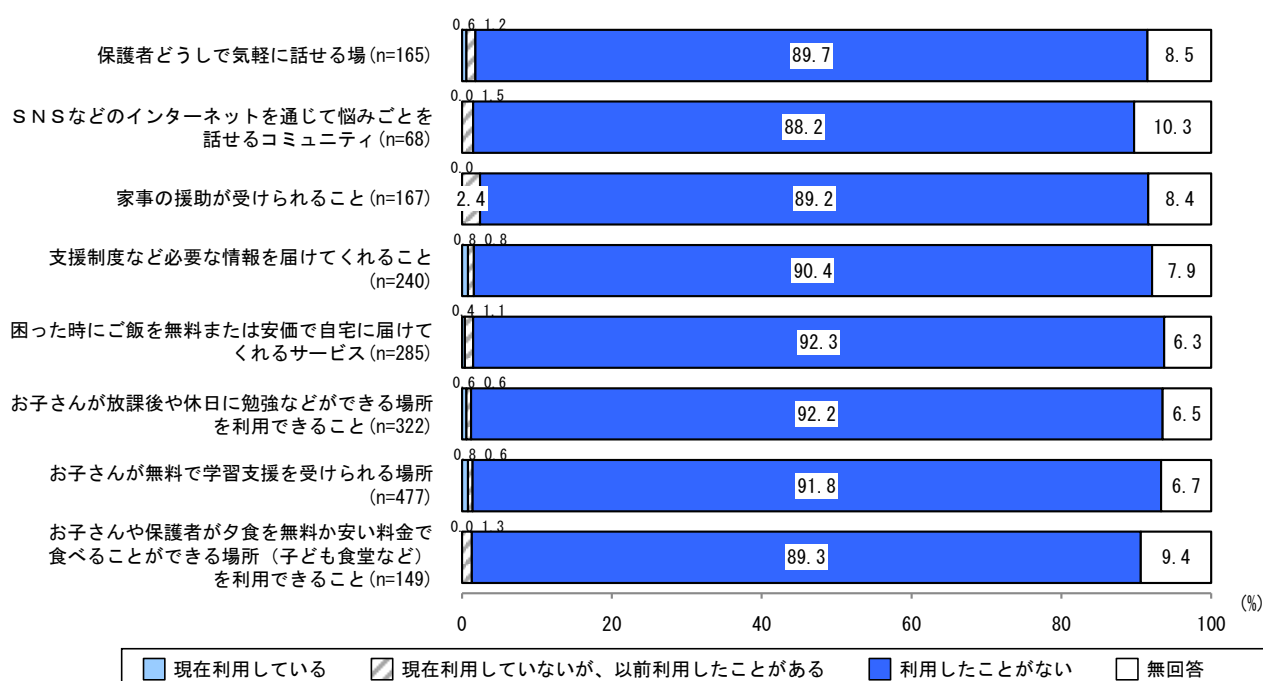
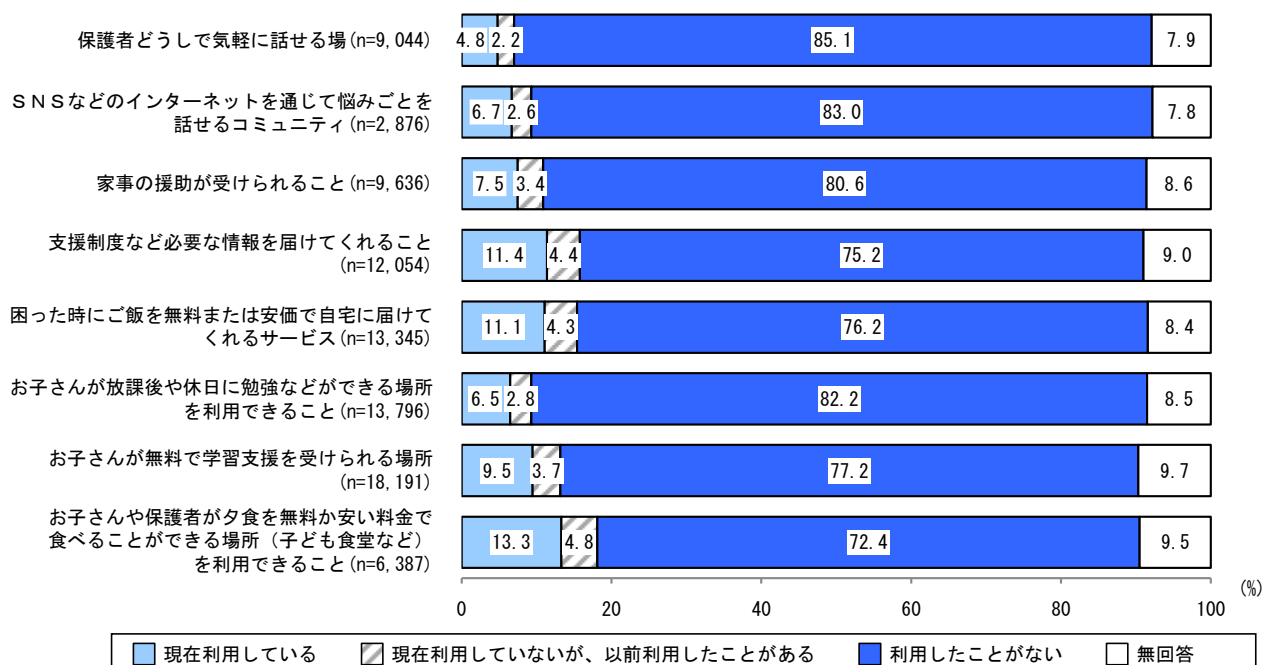


図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<門真市>

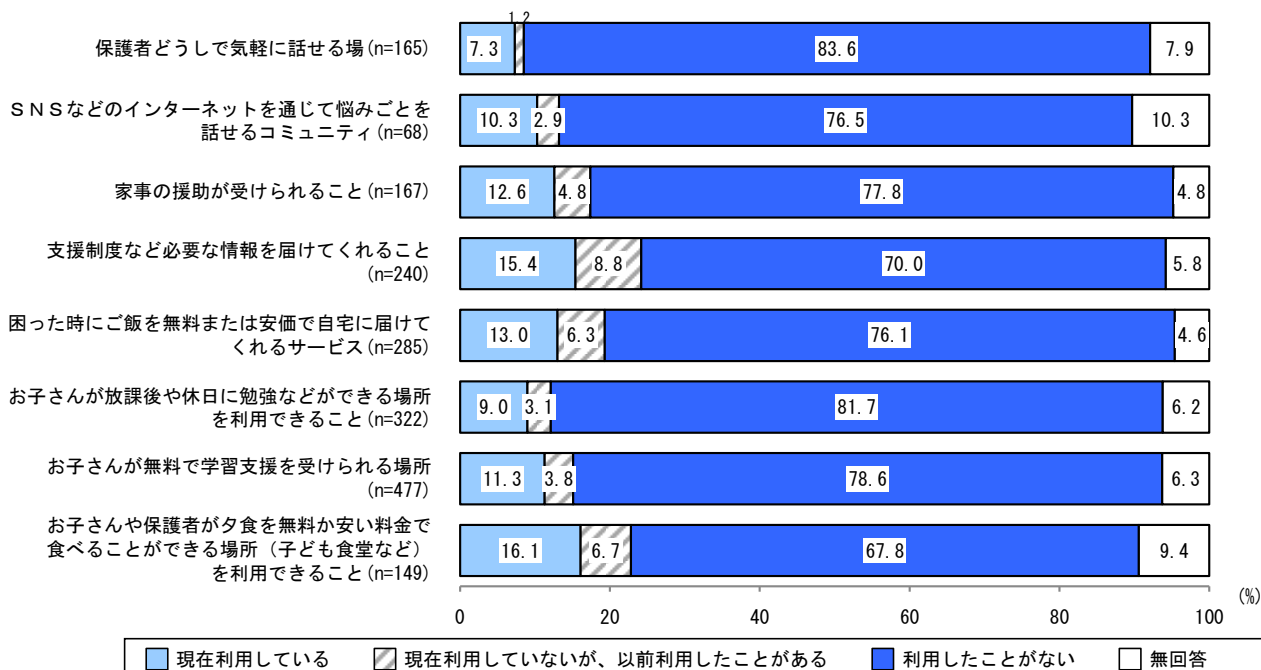
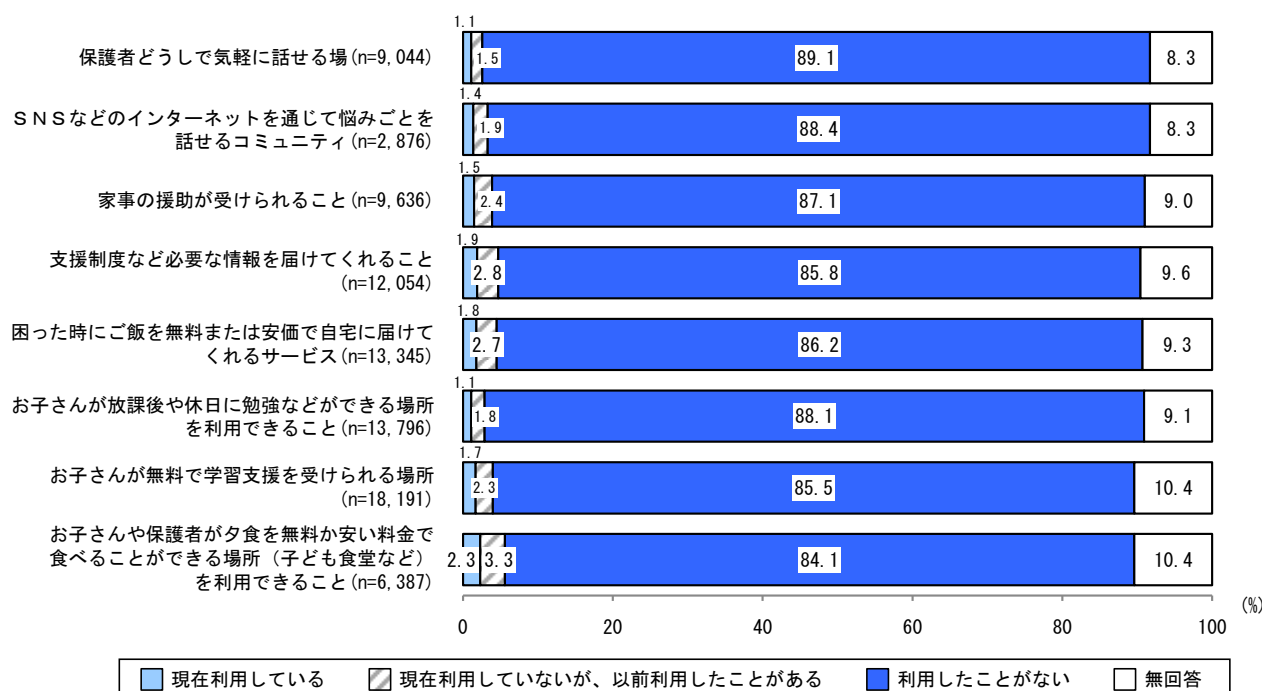


図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が16.1%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<門真市>

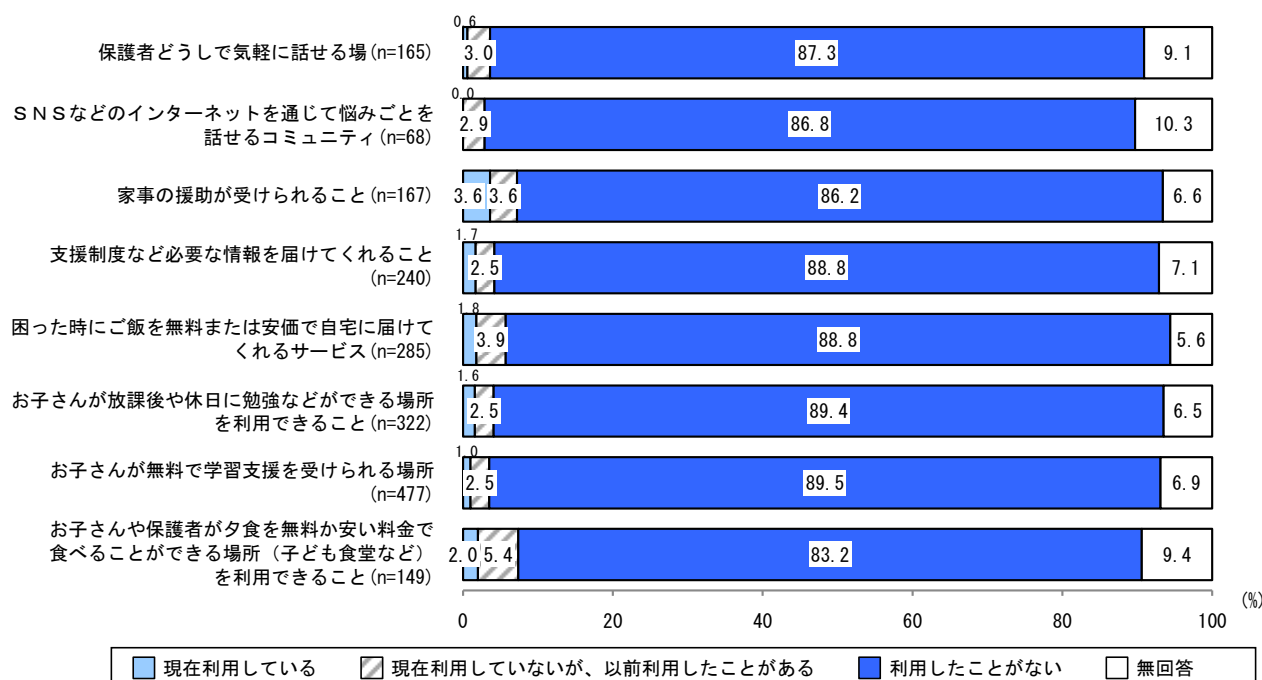


図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「家事の援助が受けられること」と回答した割合が3.6%で最も高くなっている。

＜家庭状況（制度等）に関する考察＞

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が15.3%となっている。困窮度Ⅰ群では50.0%、困窮度Ⅱ群では、48.0%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で65.3%、困窮度Ⅰ群で87.5%、困窮度Ⅱ群で70.0%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で2.1%と低水準にとどまっている。困窮度Ⅰ群では6.5%、困窮度Ⅱ群では2.0%となっている。今回調査の回答者から一定層の貧困層が漏れ落ちている可能性についても留意しておく必要がある。いずれにしても、社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付を必要な世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

ひとり親世帯について、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で24.4%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で39.4%、困窮度Ⅱ群で26.7%となっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

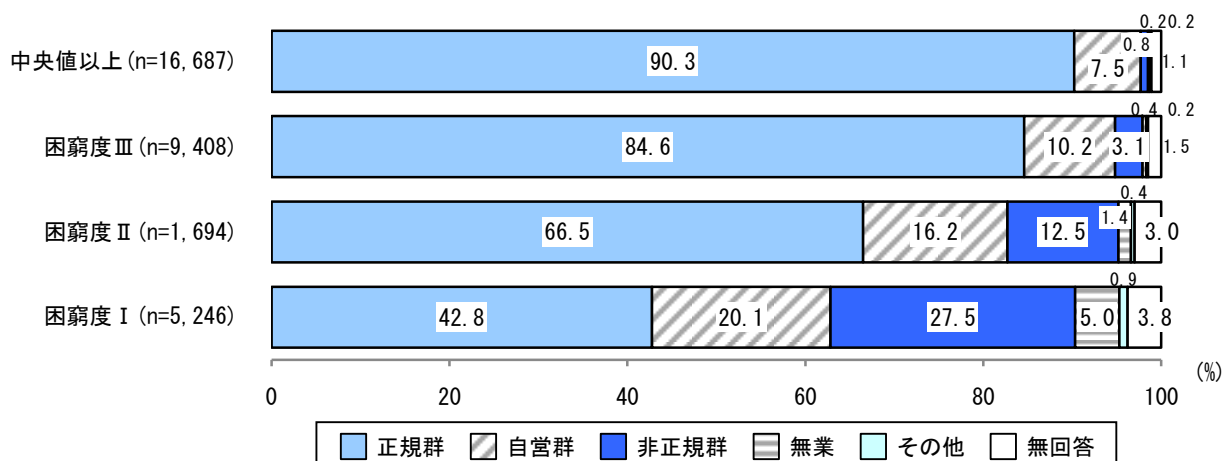
初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が25.0%、高等学校中途退学が22.5%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

住宅形態別に家計の状況をみると、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」において「赤字である」と回答した者の割合が66.7%と6割強を占める。また、「府営・市営の住宅」および「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」については、「子どもの将来のための貯蓄状況」について「貯蓄をしたいが、できていない」（75.0%および77.8%）割合がその他の住宅形態より高くなっており、経済的余裕のなさが示されている。家賃分の負担軽減に加えて、生活費部分の経済的支援の必要性が示されている。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

<大阪府内全体>



<門真市>

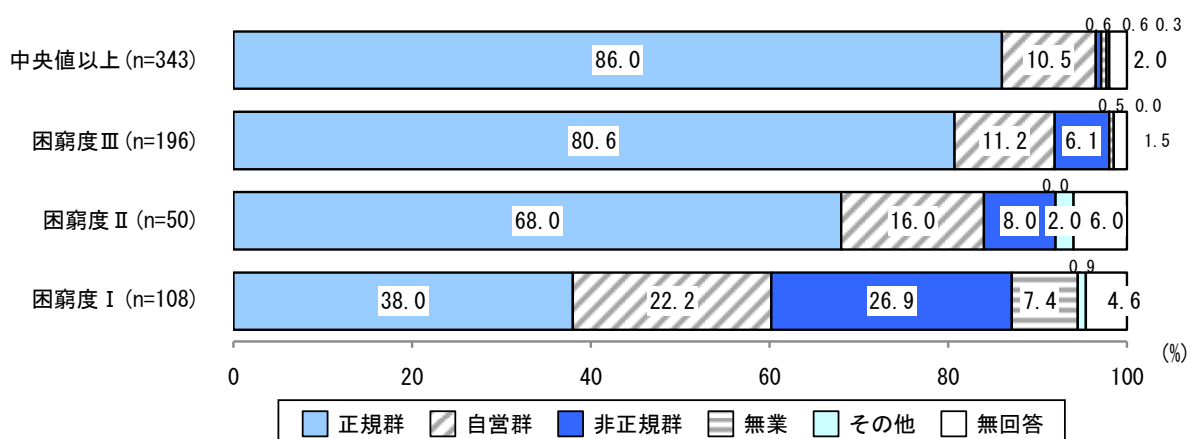


図 52. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」、「非正規群」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群においては他と比べて「非正規群」、「無業」の割合が高く、それぞれ26.9%、7.4%となっている。

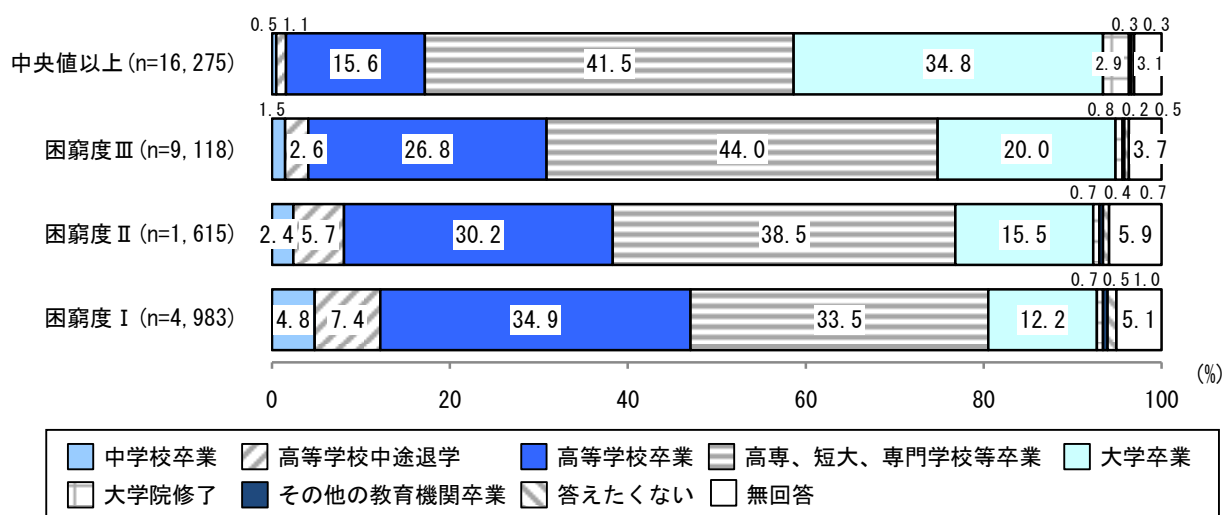
※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、
上記以外で、誰も働いていなければ「無業」（問9選択肢6、7）。
上記以外が「その他」となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<門真市>

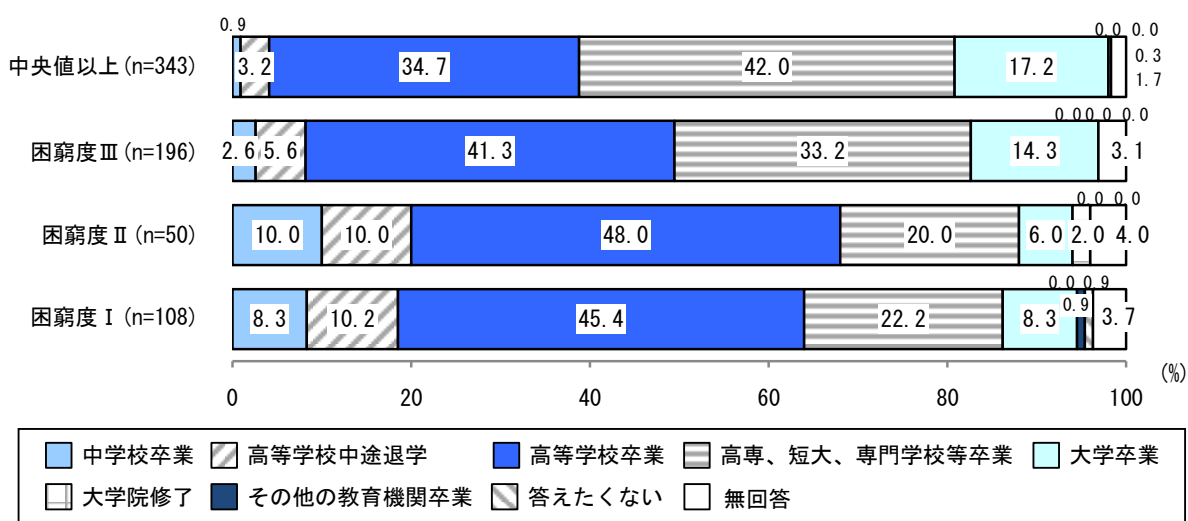
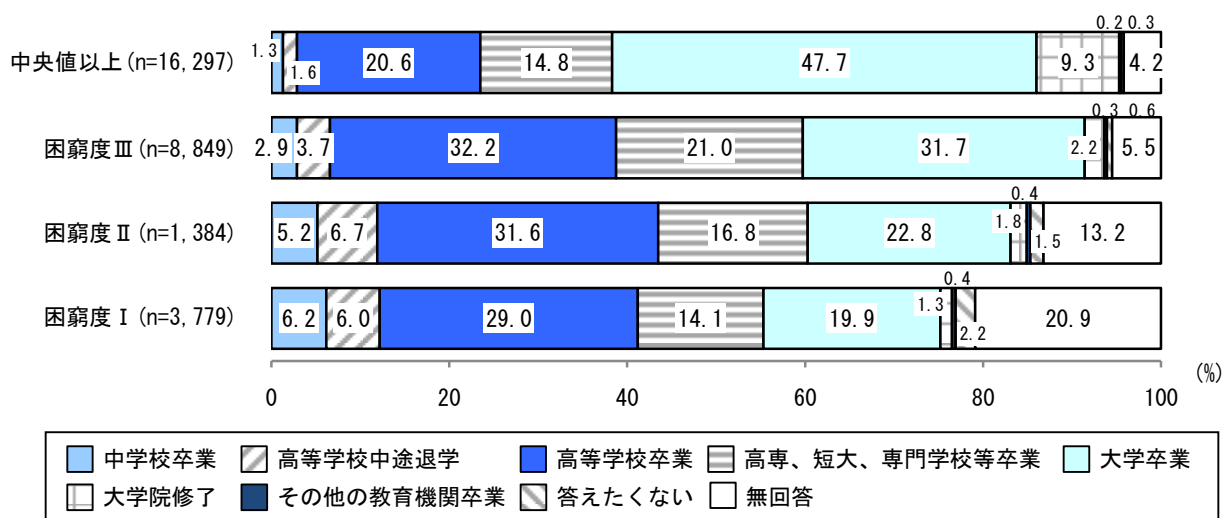


図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、「中学校卒業」の割合は困窮度Ⅱ群において10.0%と最も高くなっている。困窮度Ⅰ～Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「大学卒業」の割合が低い。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<門真市>

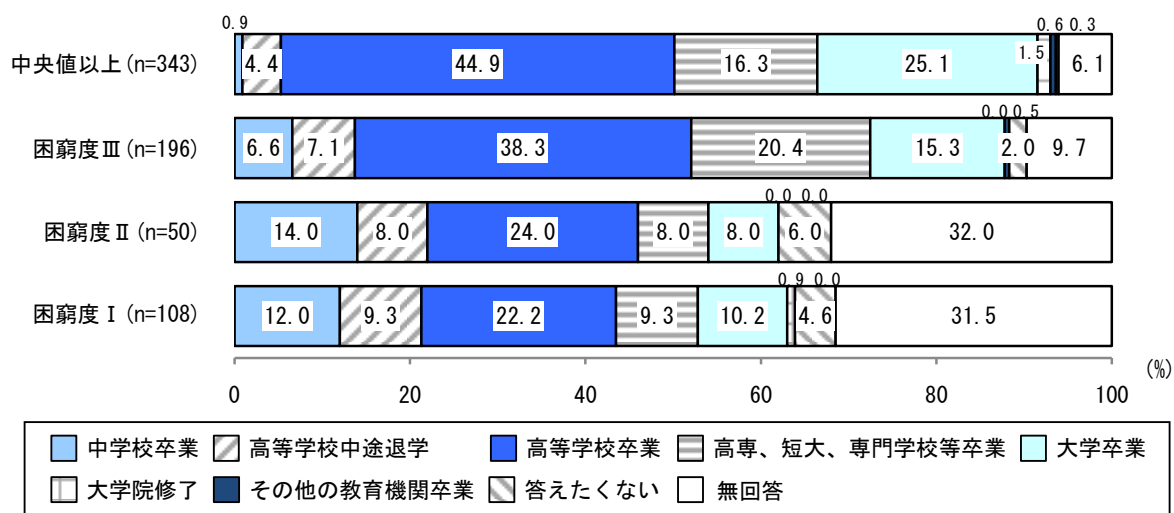
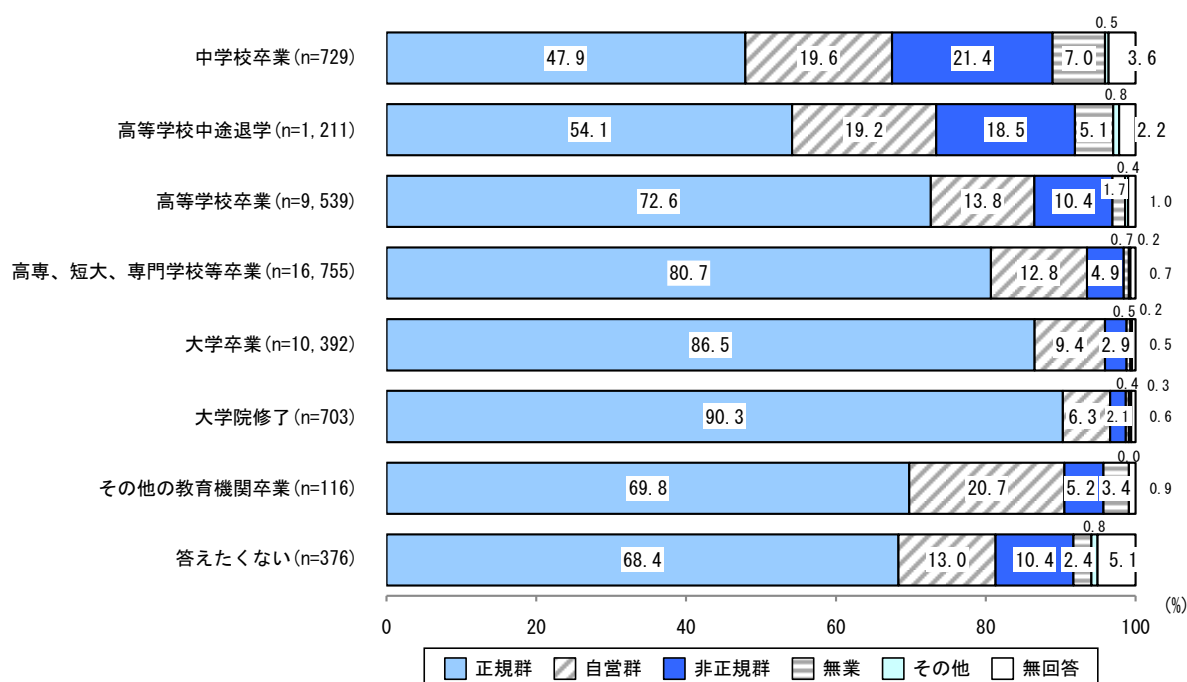


図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、困窮度が高まるにつれ、「高等学校卒業」の割合が高くなっている。困窮度Ⅱ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ14.0%と最も高くなっている。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問8×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<門真市>

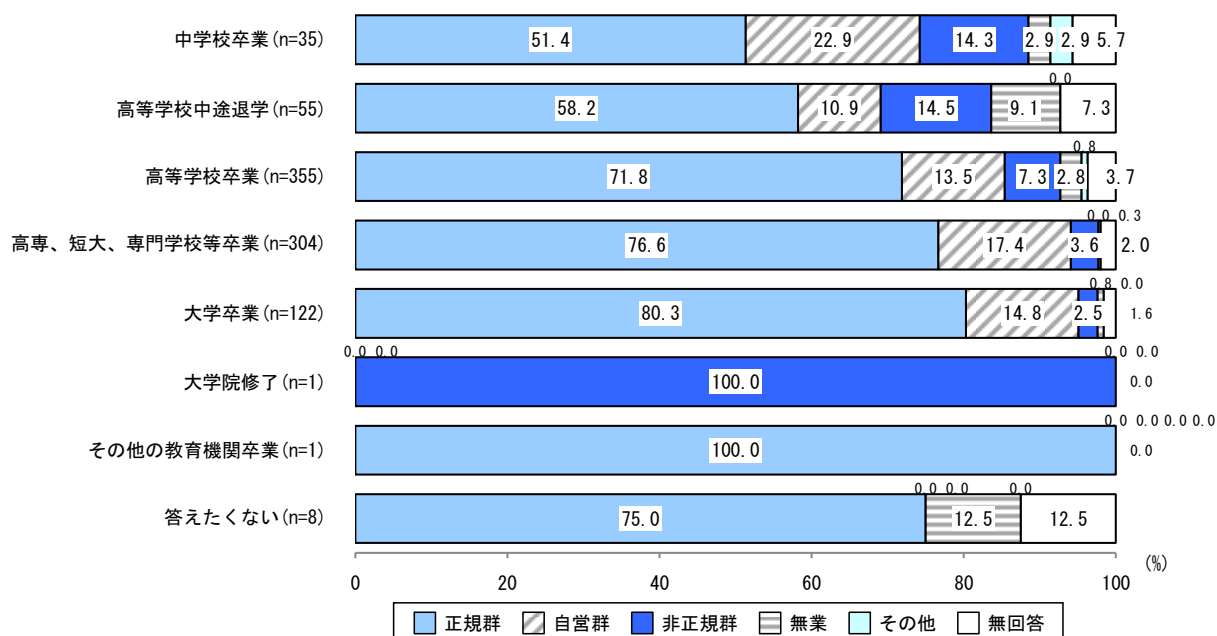
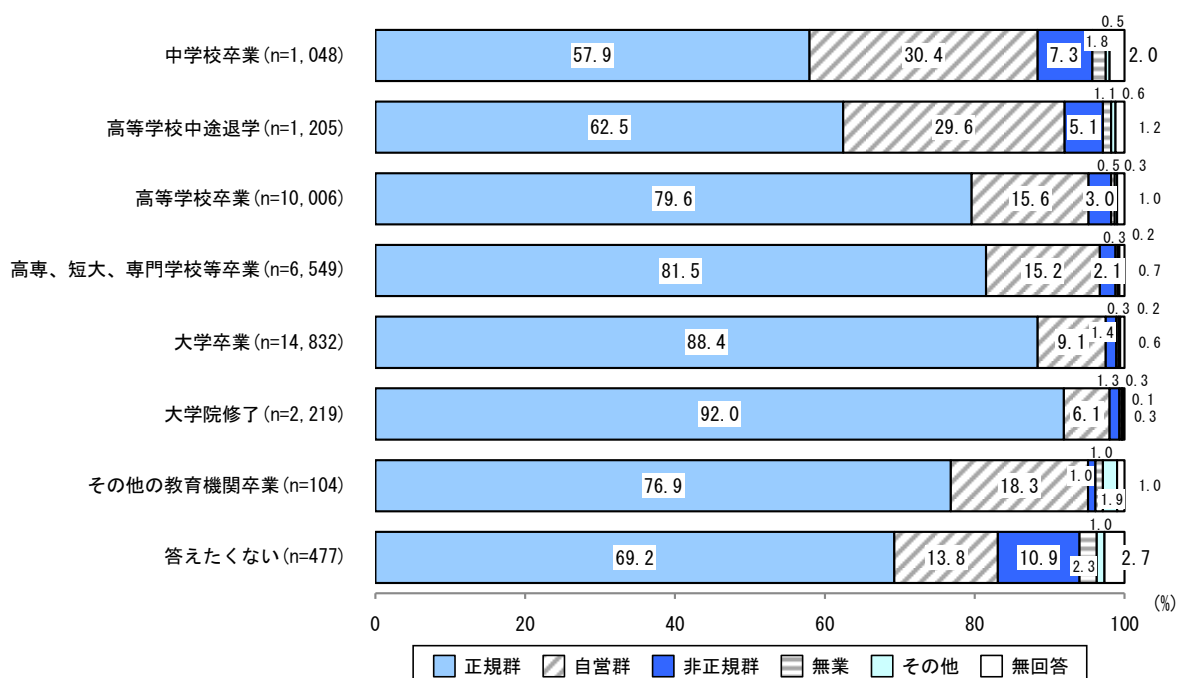


図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、母数の少ない「大学院修了」を除いて、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問8×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<門真市>

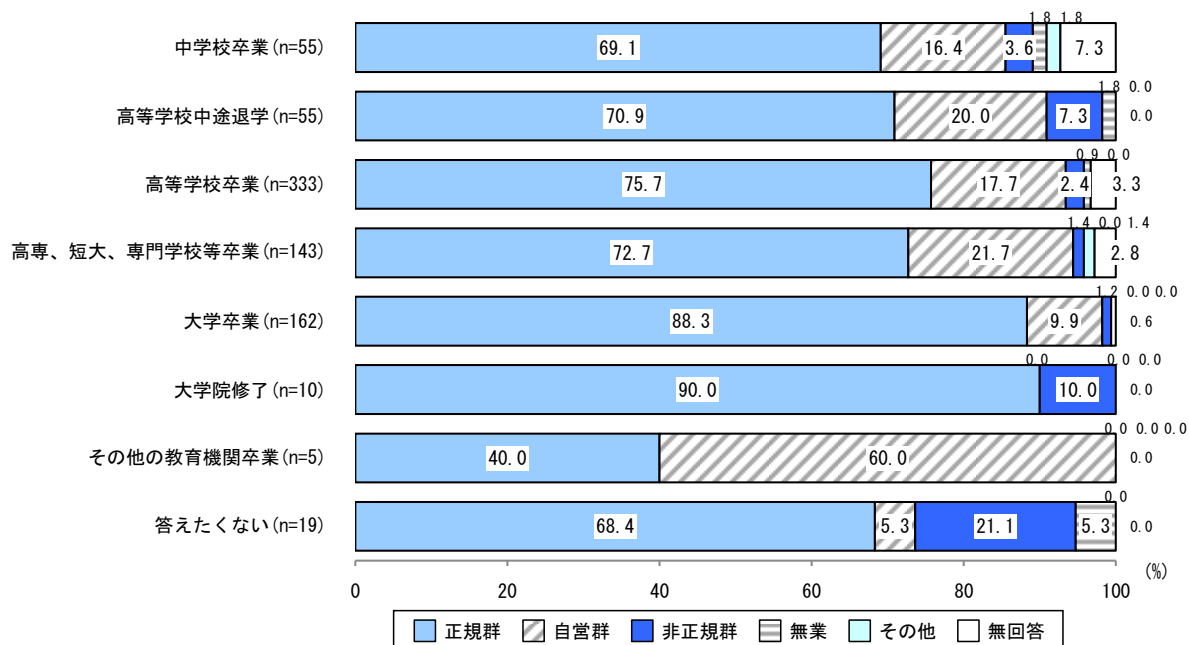
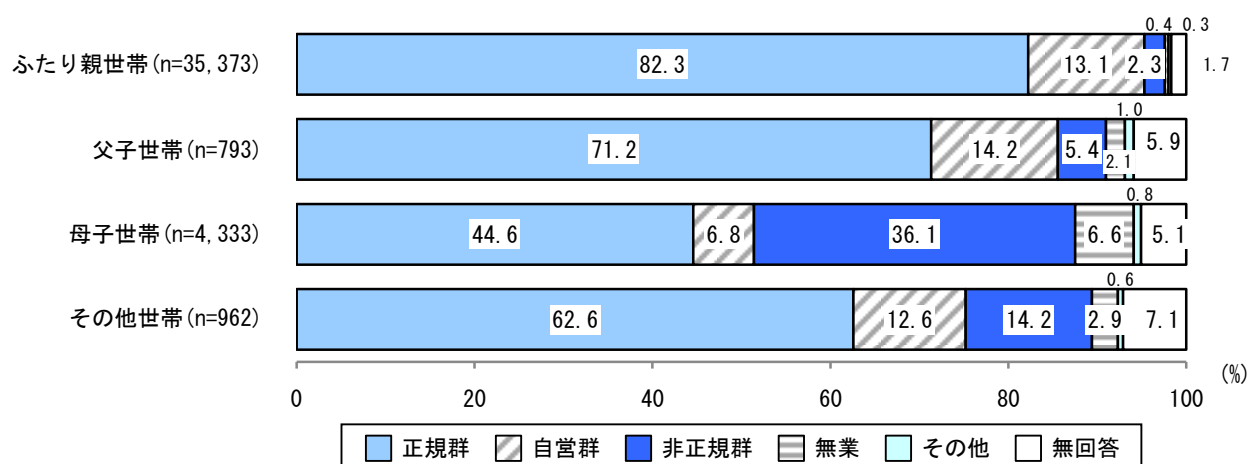


図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、「正規群」の割合は「大学院修了」において90.0%と最も高くなっている。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<門真市>

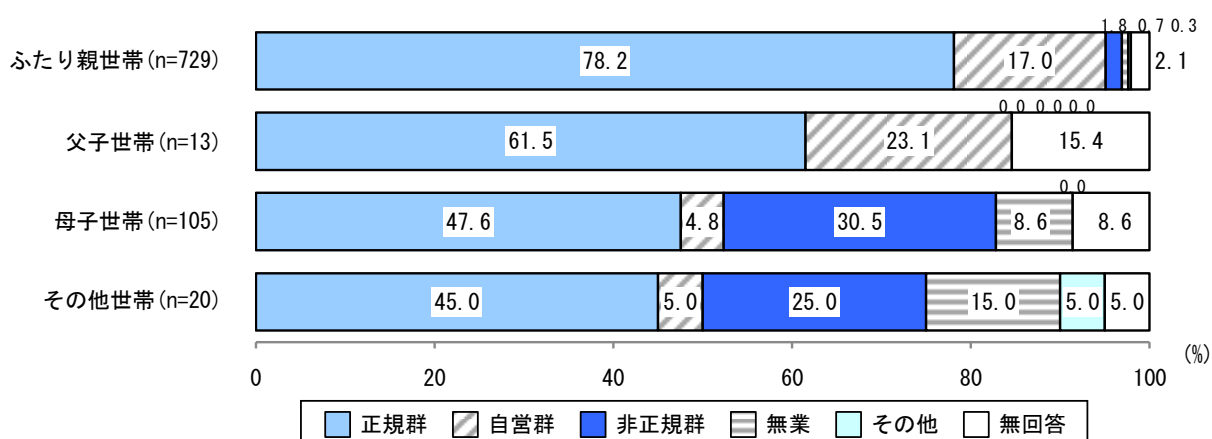
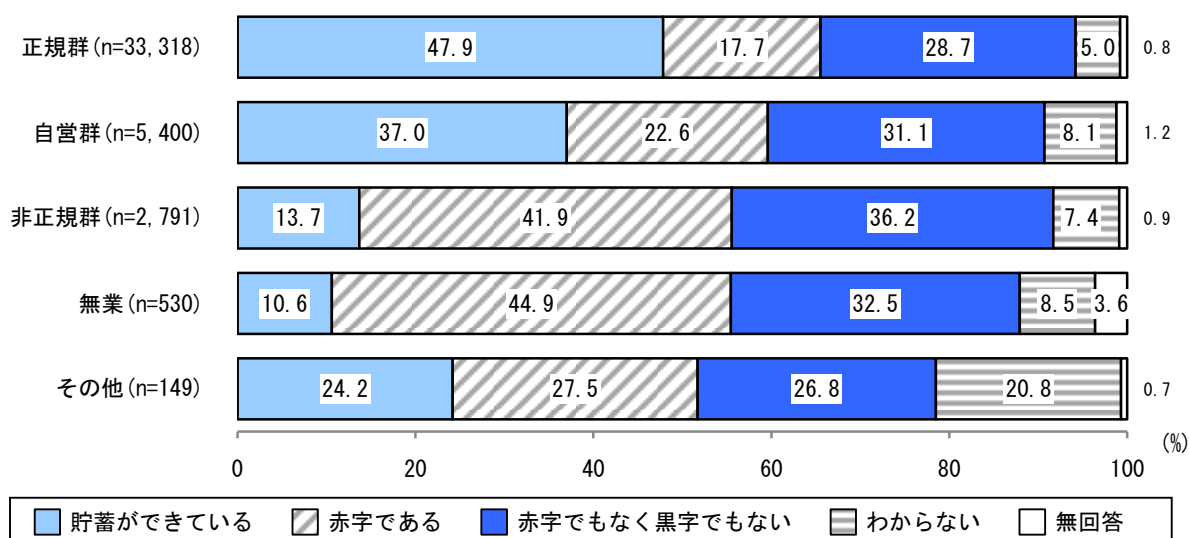


図 57. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が78.2%であるが、「父子世帯」では61.5%、「母子世帯」では47.6%と低くなる。「非正規群」は、「母子世帯」では30.5%となっている。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

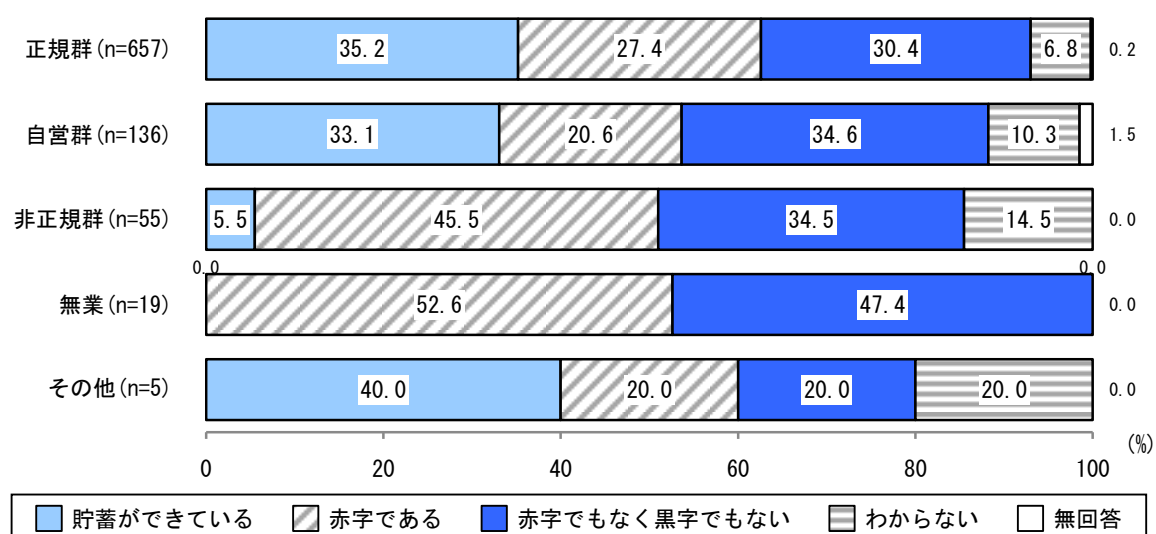


図 58. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では「貯蓄ができています」割合がそれぞれ、35.2%、33.1%である。「無業」では「赤字である」と回答した人が52.6%にのぼっている。

<雇用に関する考察>

はじめに、困窮度別に保護者の就業状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。親の就業状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規」群（86.0%対38.0%）が45ポイント以上高く、大きな開きがある。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規」群（26.9%対0.6%）が25ポイント以上高くなっている。また、「自営」群（22.2%対10.5%）でも、困窮度Ⅰ群の方が中央値以上群に比べて10ポイント以上高く、差が見られた。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、高学歴な「大学卒業」群（17.2%対8.3%）で約10ポイント、「高専、短大、専門学校」群（42.0%対22.2%）でも約20ポイント高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（45.4%対34.7%）が10ポイント以上高くなっている。しかし、父親の最終学歴では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「大学卒業」群（25.1%対10.2%）で約15ポイント、「高等学校卒業」群（44.9%対22.2%）でも20ポイント以上高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが示された。また、困窮度が高い群では学歴が低い傾向が見られる。

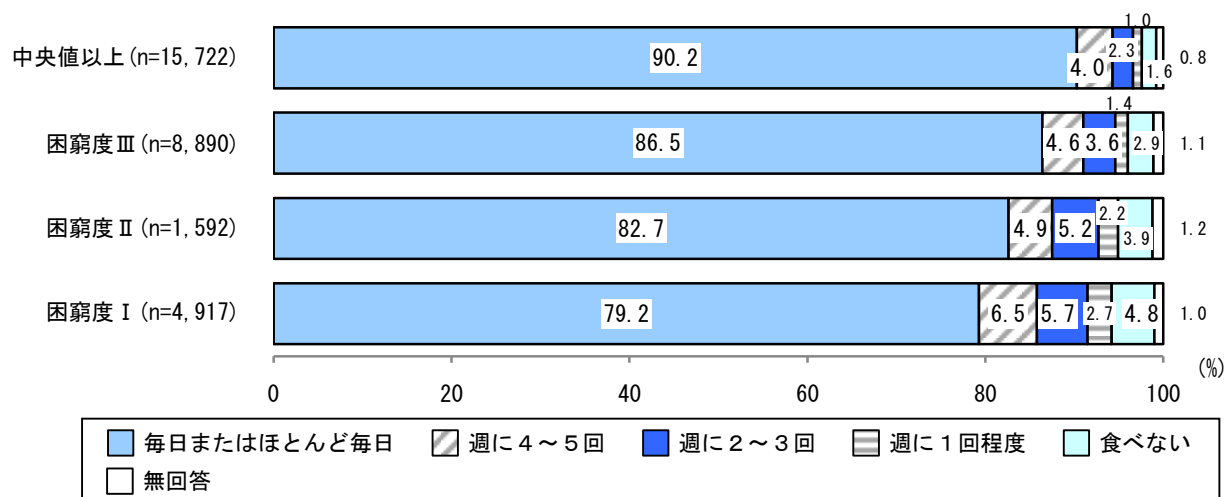
次に、保護者の最終学歴別に就業状況を確認する。母親の最終学歴別に見ると、「高等学校中途退学」群（58.2%）および「中学校卒業」群（51.4%）では「正規」群の比率は5割程度であるのに対して、その他の群では7～8割が「正規」群である。また、父親の最終学歴別でも、「中学校卒業」群（69.1%）の「正規」群の比率は6割程度にとどまっているのに対して、その他の群での比率は7～8割であった。これらの結果から、学歴が上がるほど「正規」群における就業比率が上昇する傾向が表れている。

最後に、保護者の就業状況別に家計状況をみると、親の就労状況が「正規」群の場合には、「非正規」群と比べて「貯蓄が出来ている」（35.2%対5.5%）では約30ポイント高くなっている。「非正規」群は「正規」群と比べ、家計状況が「赤字である」（45.4%対27.4%）が15ポイント以上高いという対照的な状況となっている。この結果から、保護者の就業状況により貯蓄ができるか否かなど生活の安定に大きな影響を及ぼしていることが示唆されている。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

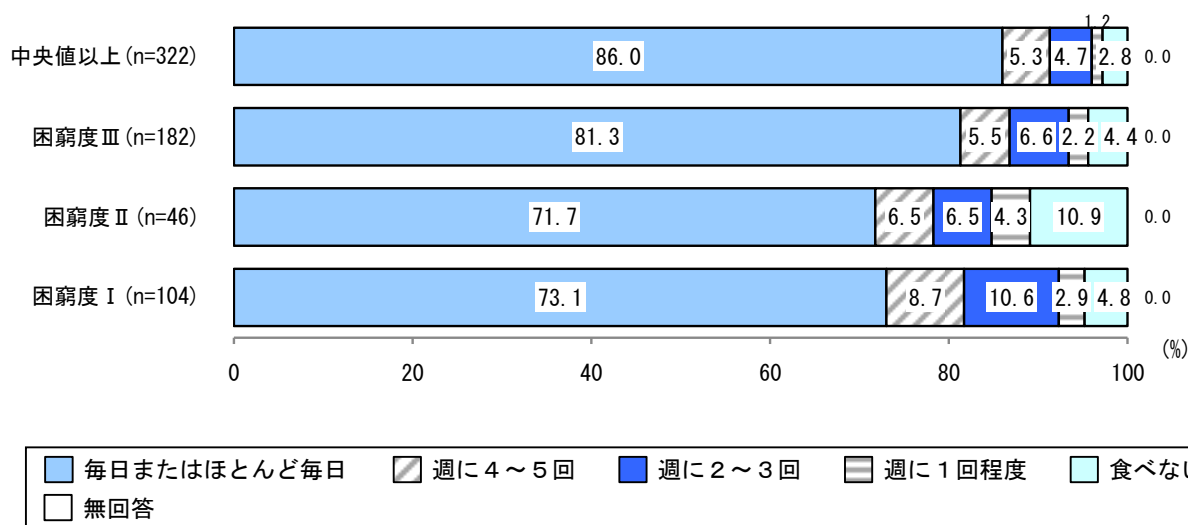
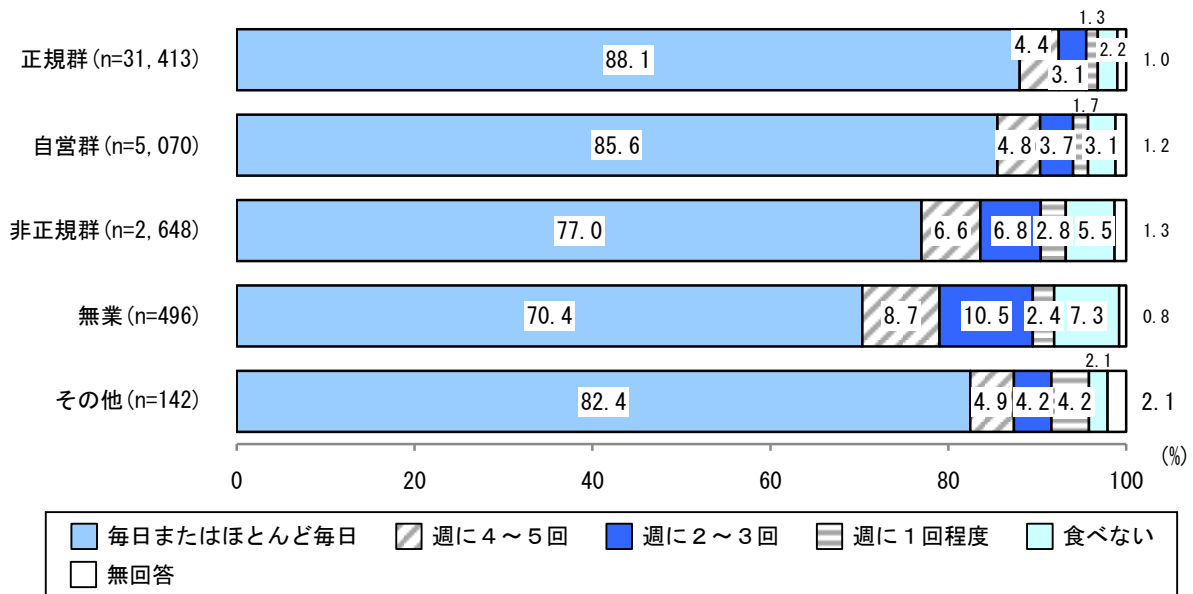


図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べると回答した割合は、中央値以上群において86.0%と最も高くなった。また、「食べない」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群において、10.9%と最も高くなった。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

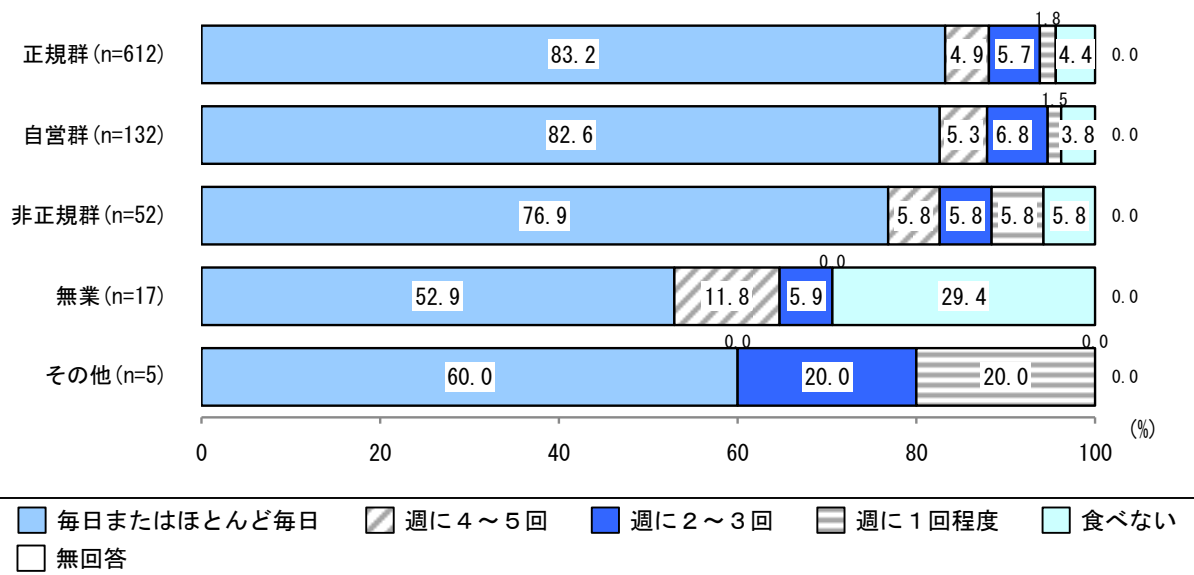
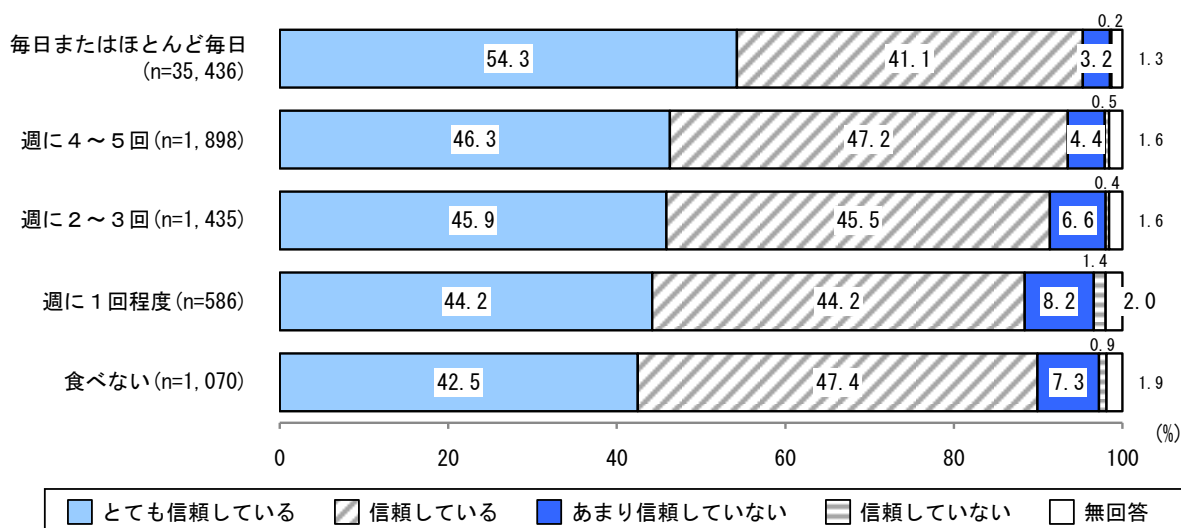


図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」(83.2%) が最も高く、次いで、「自営群」(82.6%)、「非正規群」(76.9%)、「無業」(52.9%) の順で朝食の頻度が低くなる。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

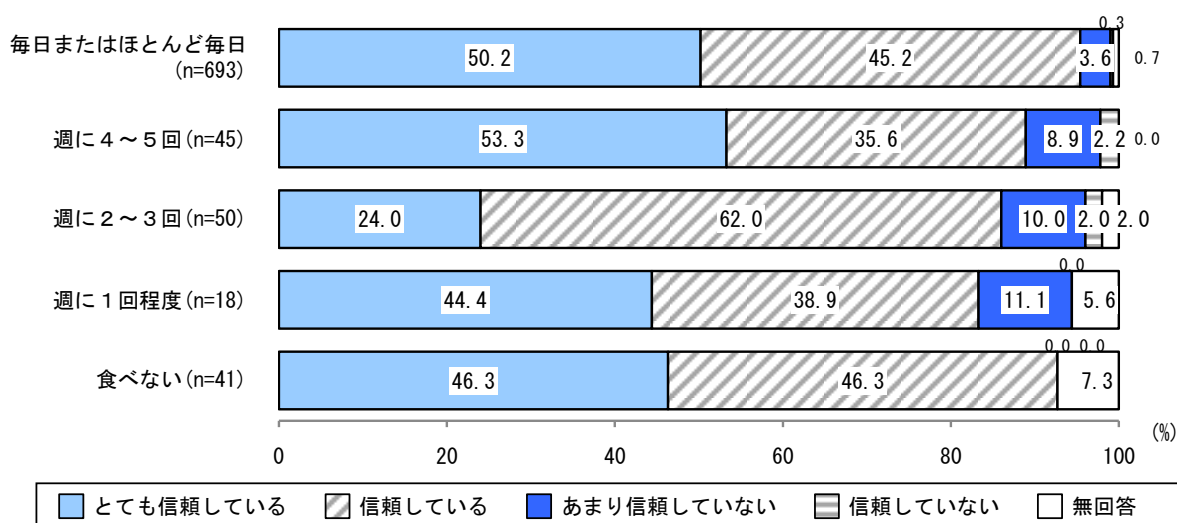
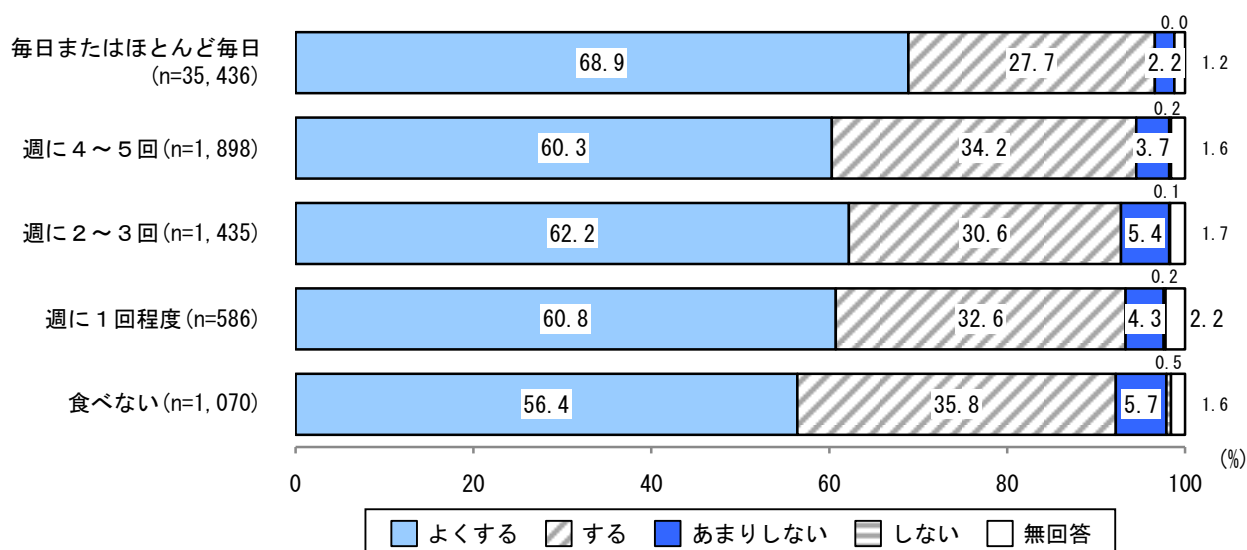


図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、「週に4～5回」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が53.3%であるのに対し、「週に2～3回」と回答した人では、「とても信頼している」と回答した人は24.0%と低い。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (2)）

<大阪府内全体>



<門真市>

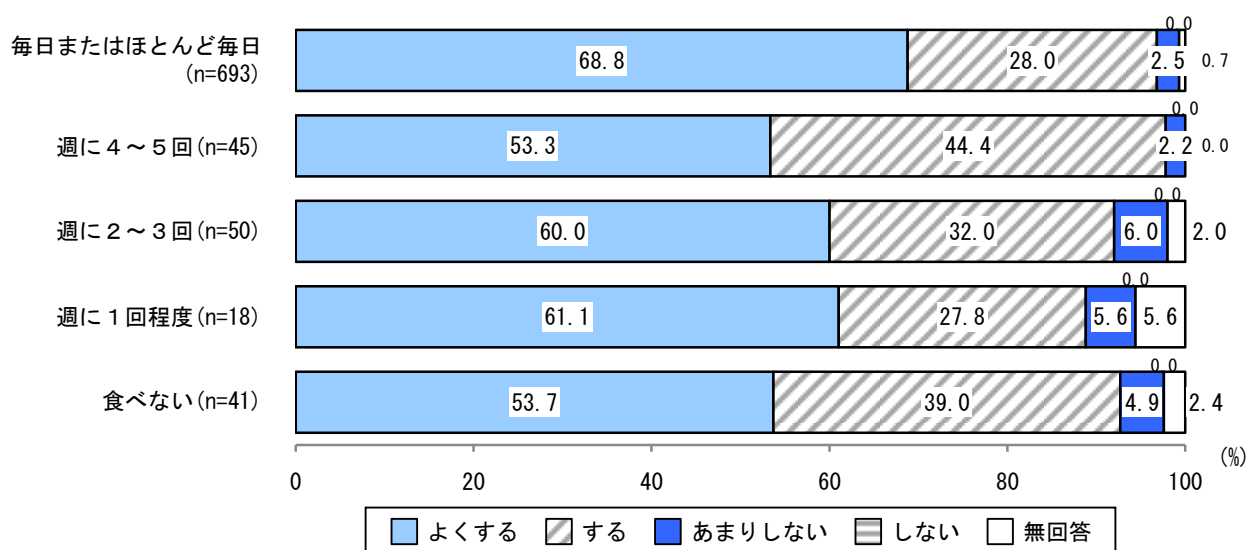
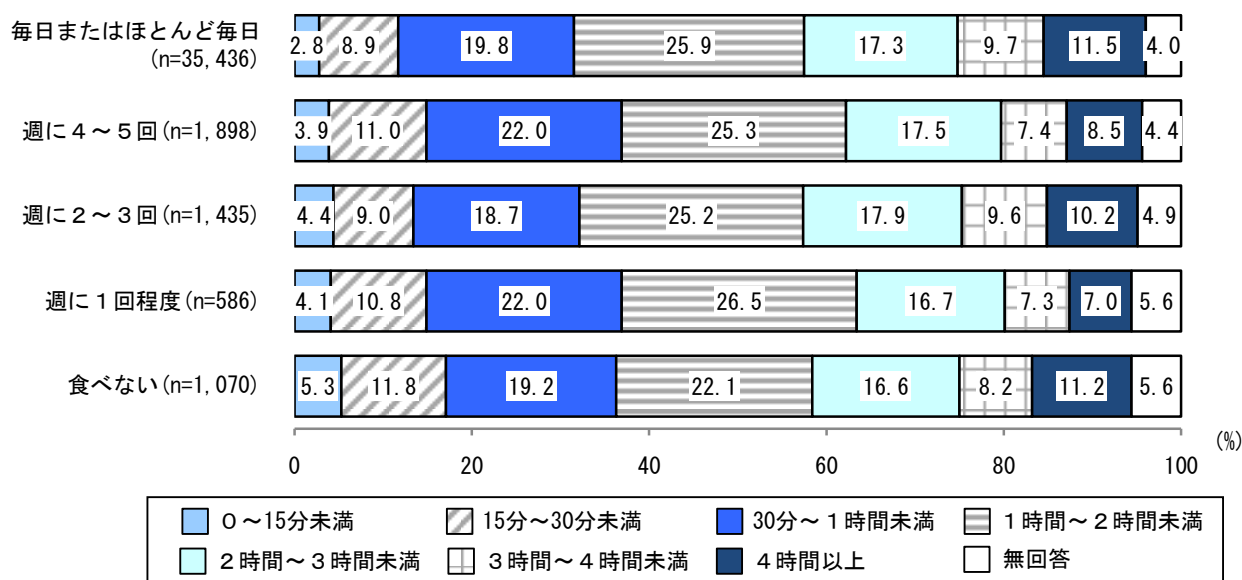


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもと会話頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、会話を「よくする」との回答が68.8%であるのに対し、「週に4～5回」朝食をとっていると回答した人では、「よくする」と回答した人は53.3%と低い。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<門真市>

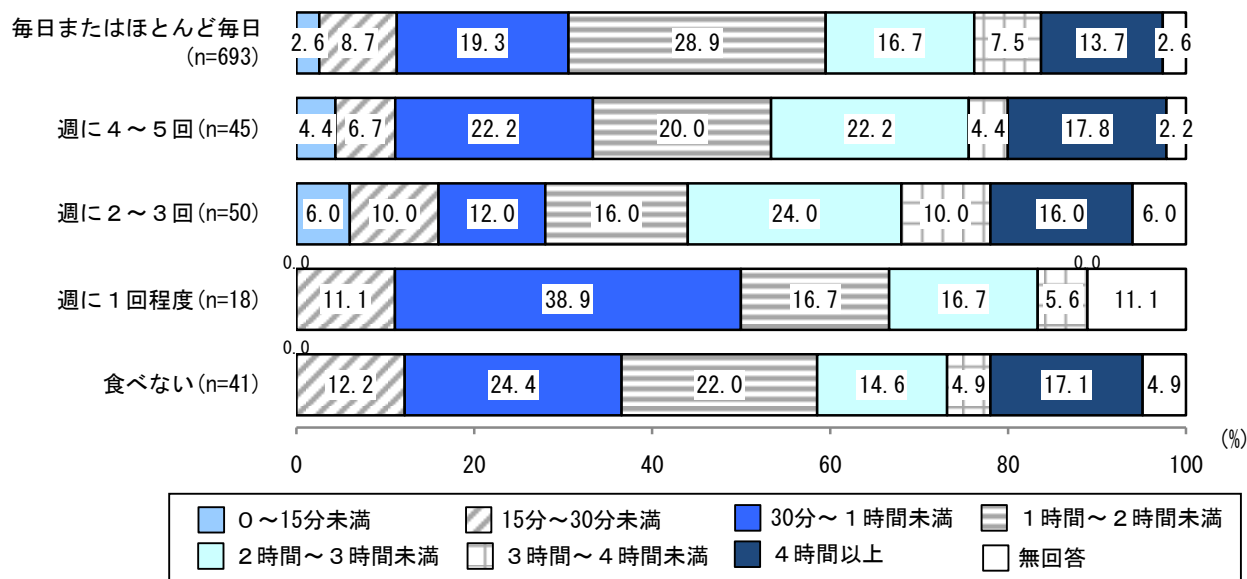
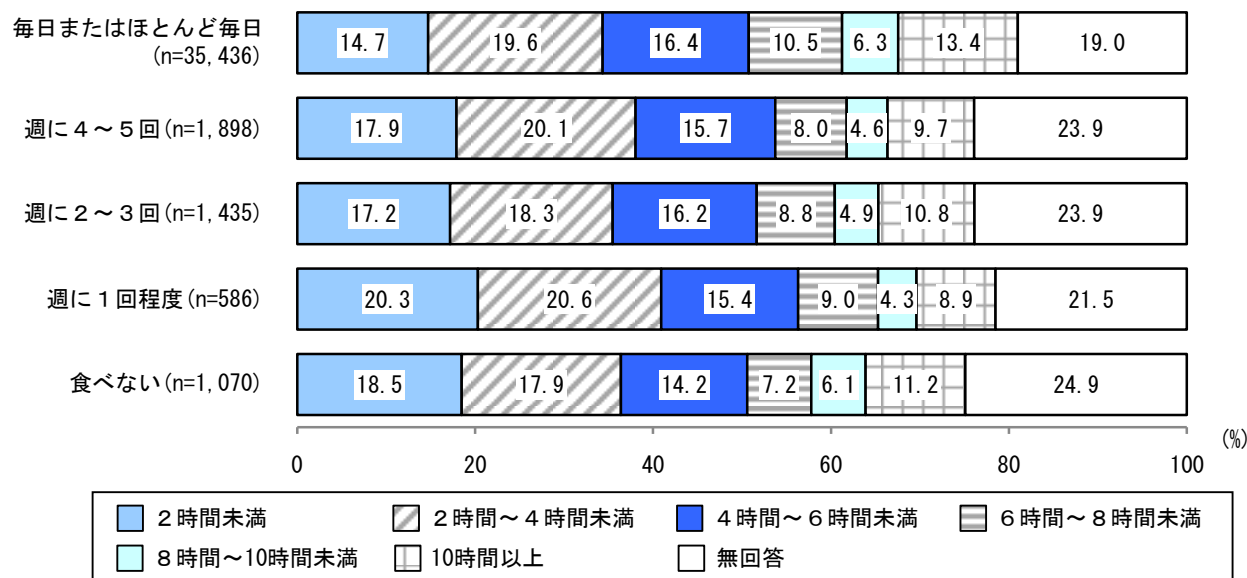


図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、1時間以上子どもと一緒にいると回答した割合は、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人（66.8%）のほうが「食べない」人（58.6%）よりも高くなっている。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<門真市>

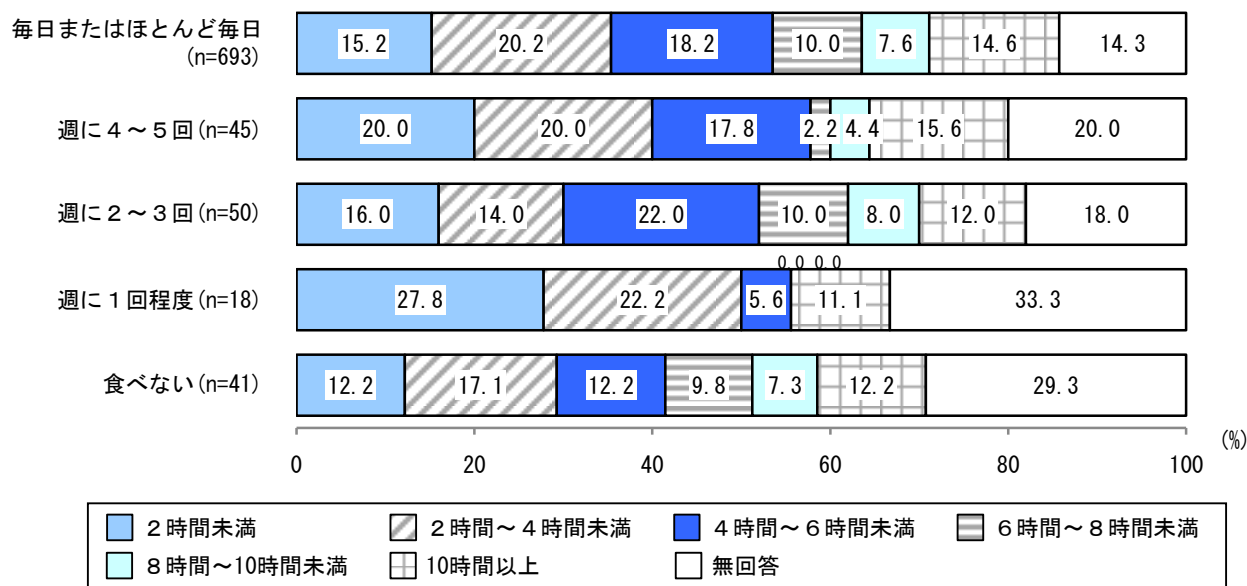
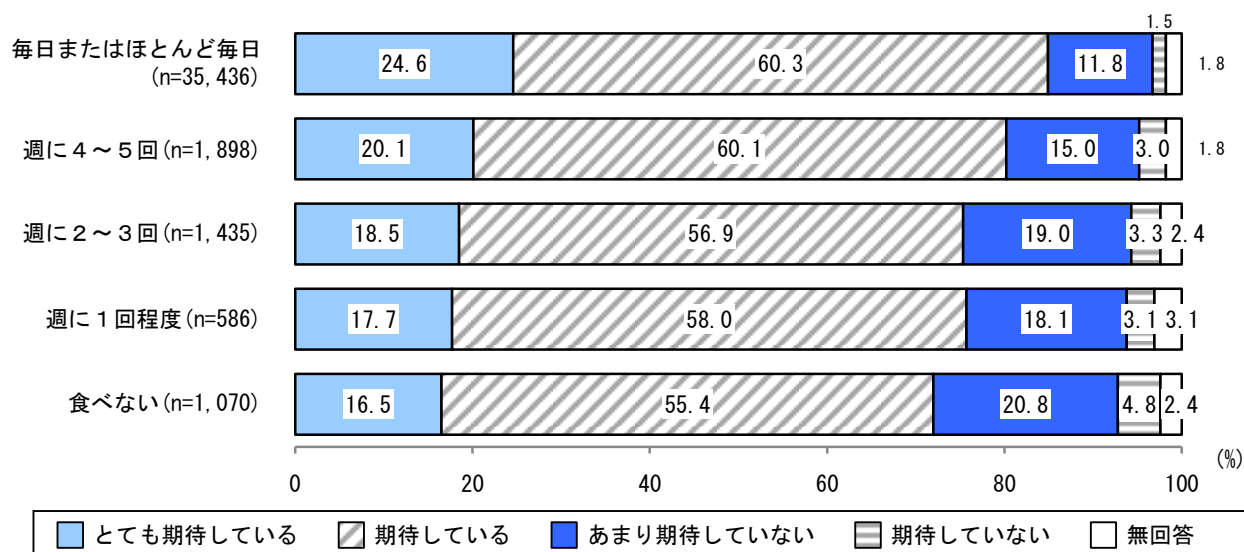


図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが、「食べない」人よりも休日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (4)）

<大阪府内全体>



<門真市>

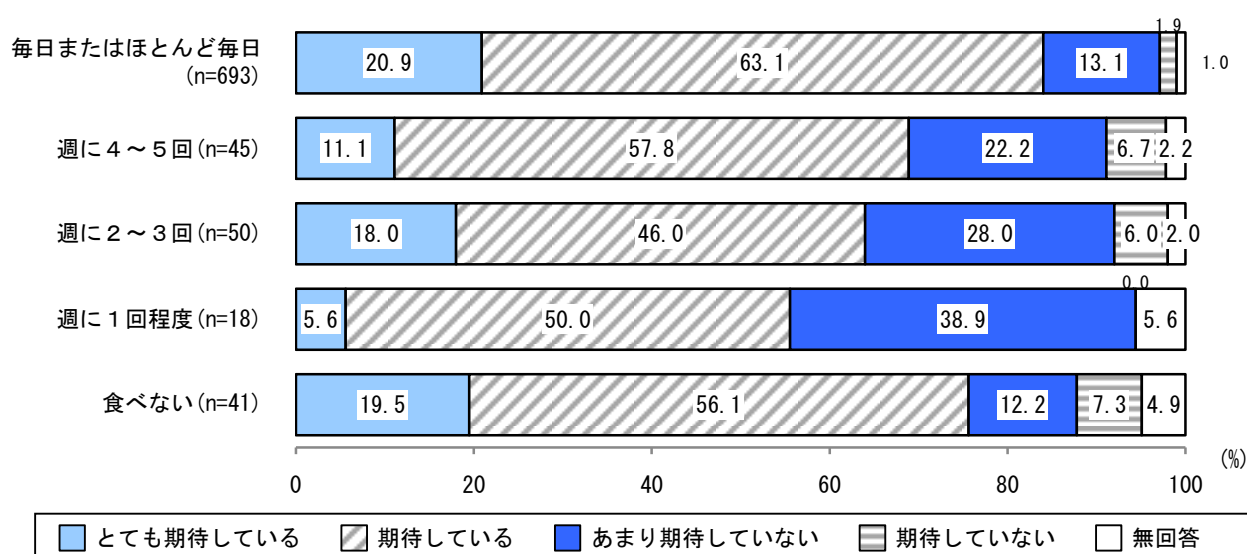


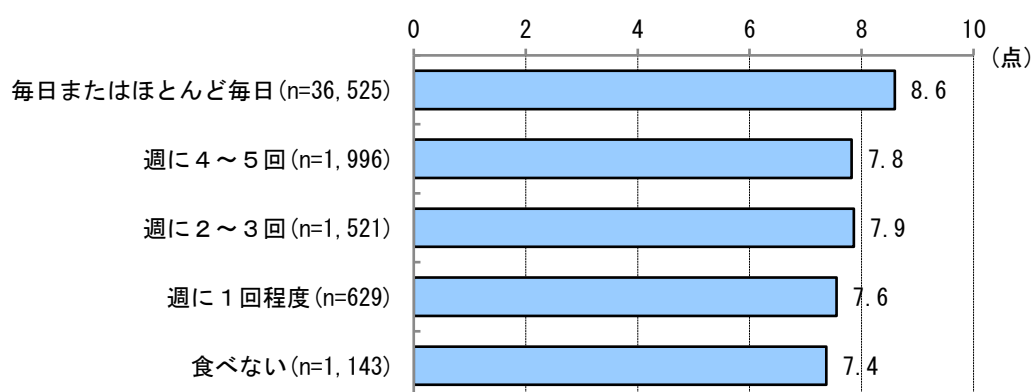
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、84.0%であるのに対して、「食べない」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて75.6%と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが子どもの将来に対する期待が高い結果となった。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問4(1)×子ども票問23）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<門真市>

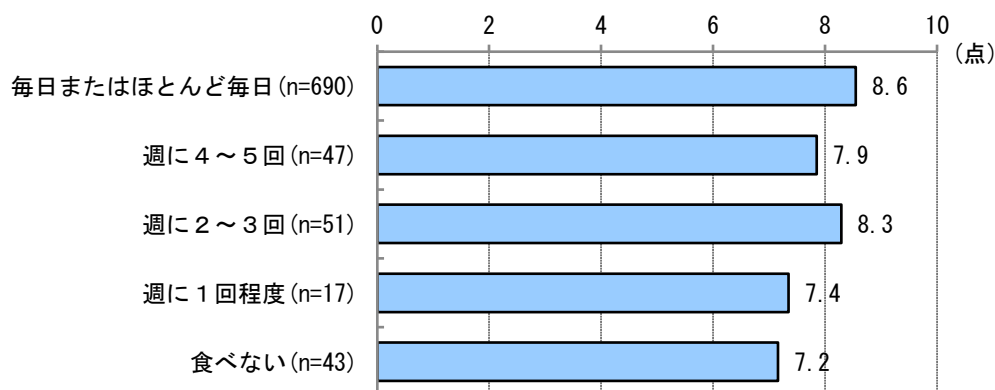
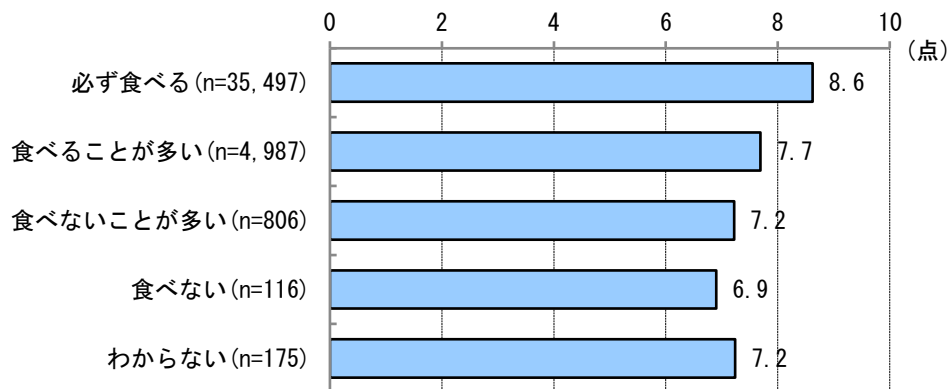


図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、8.6点であるのに対して、「食べない」では、7.2点と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問6（1）×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<門真市>

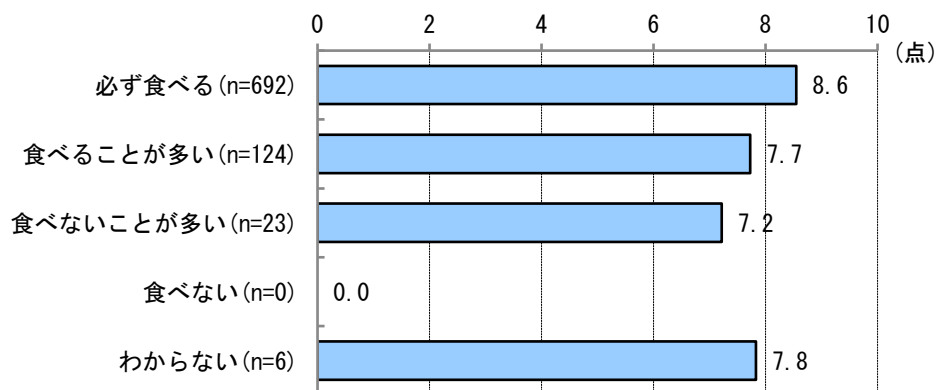
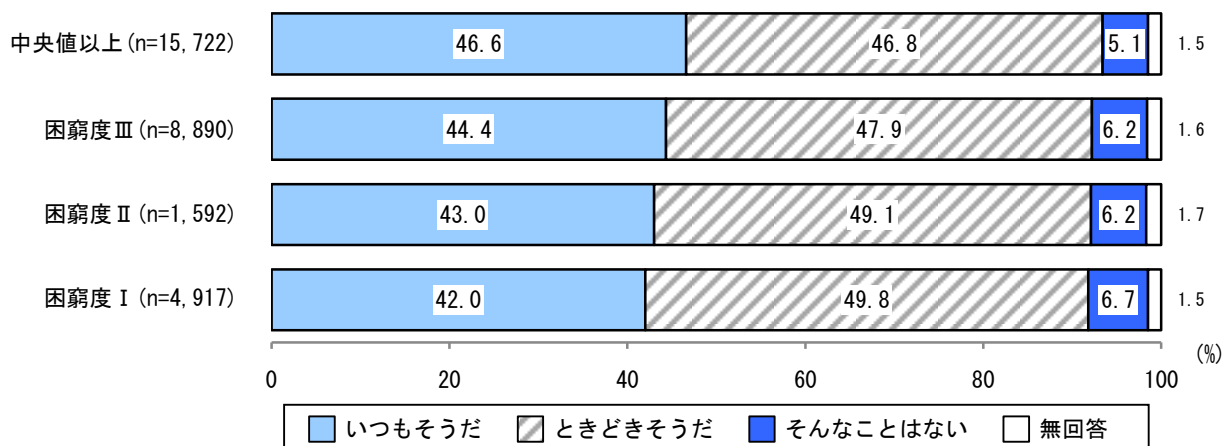


図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が8.6点であるのに対して、「食べないことが多い」と回答した人は7.2点と昼食を「必ず食べる」と回答した人のほうが、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<門真市>

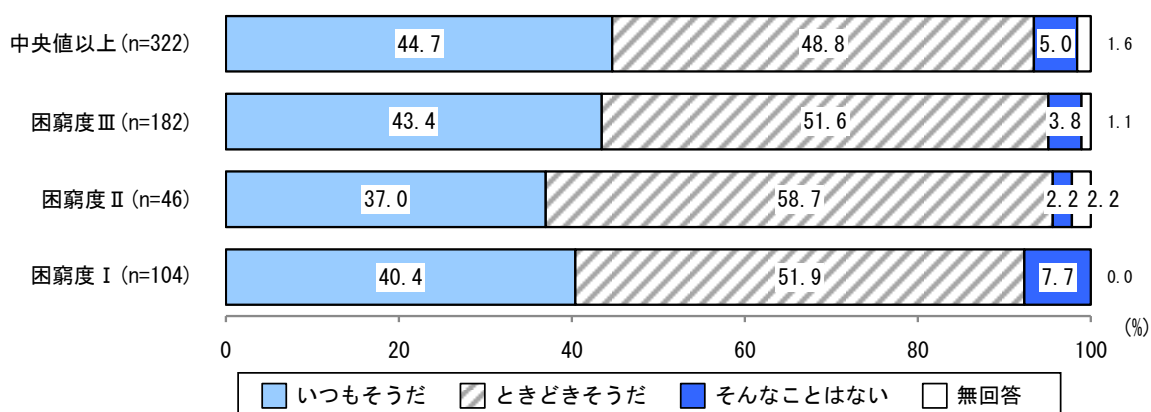
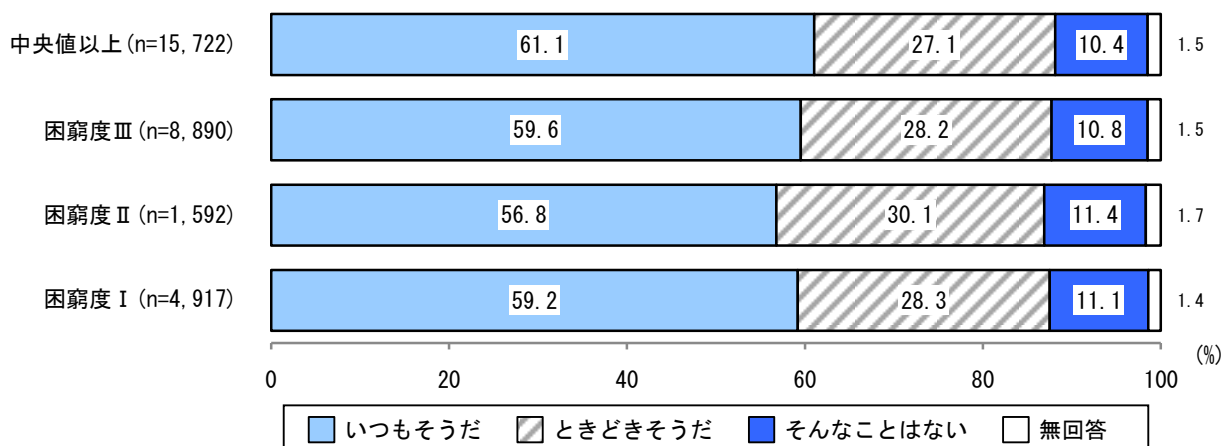


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は、中央値以上群（44.7%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問 19②)

<大阪府内全体>



<門真市>

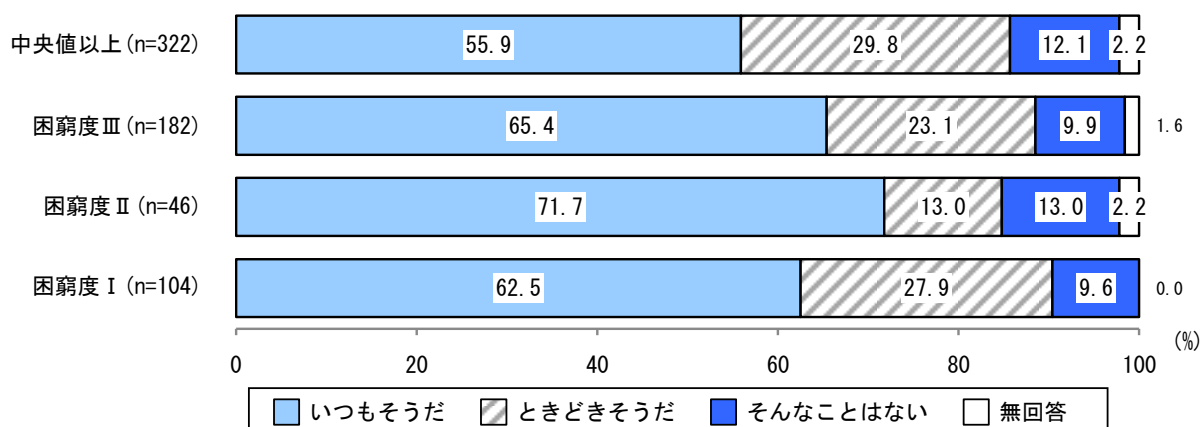
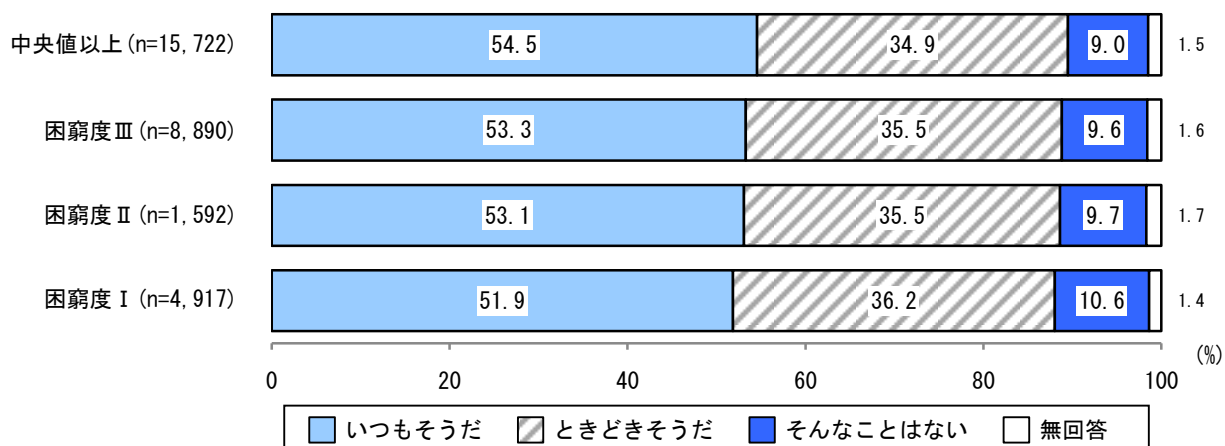


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群（71.7%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ（子ども票問 19③）

<大阪府内全体>



<門真市>

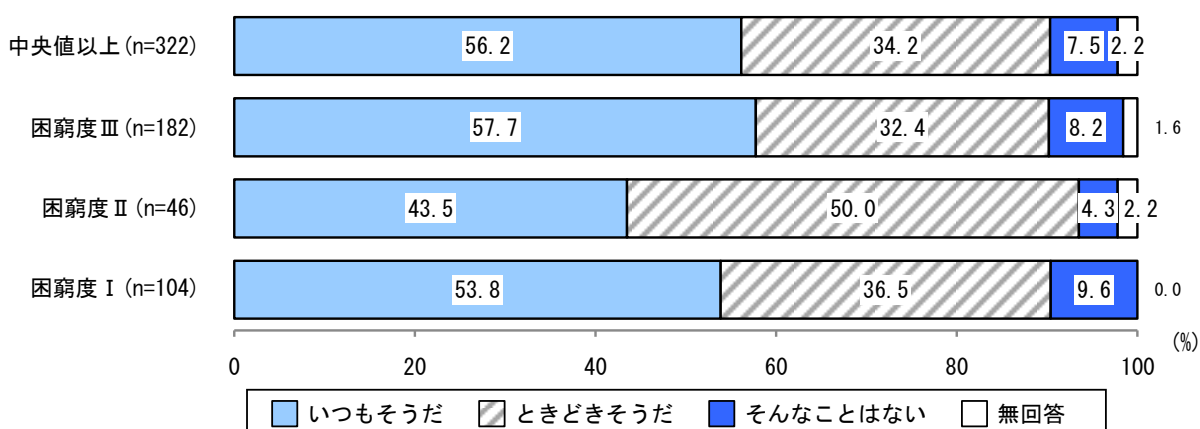
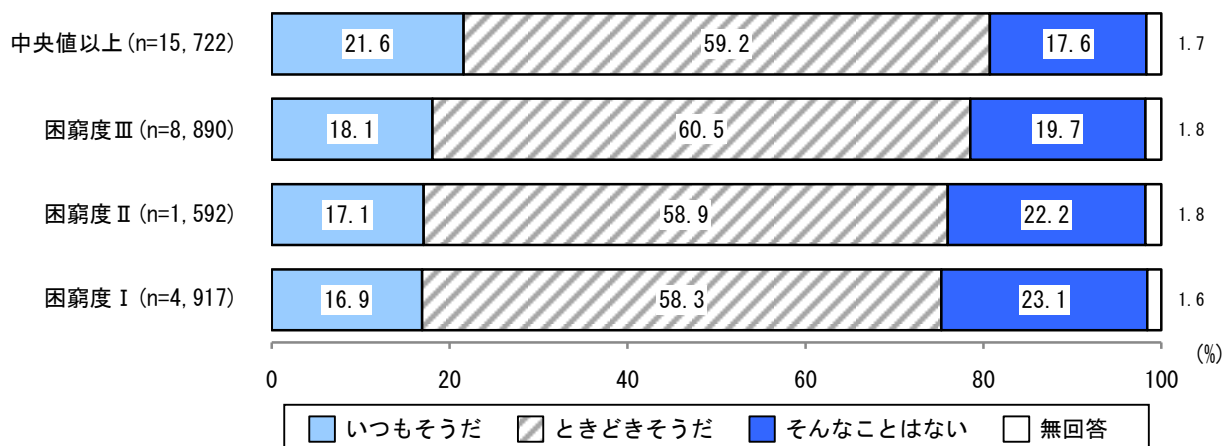


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群（43.5%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<門真市>

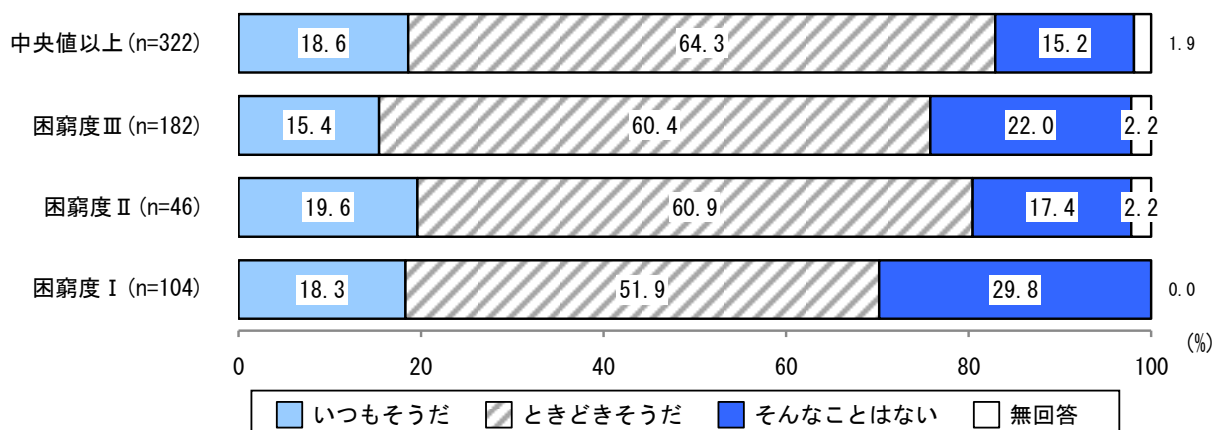
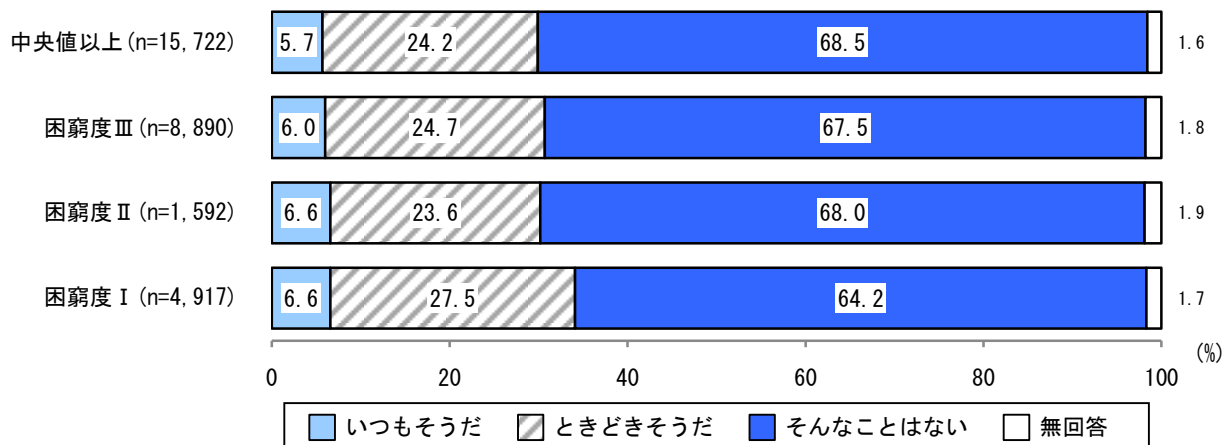


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（19.6%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<門真市>

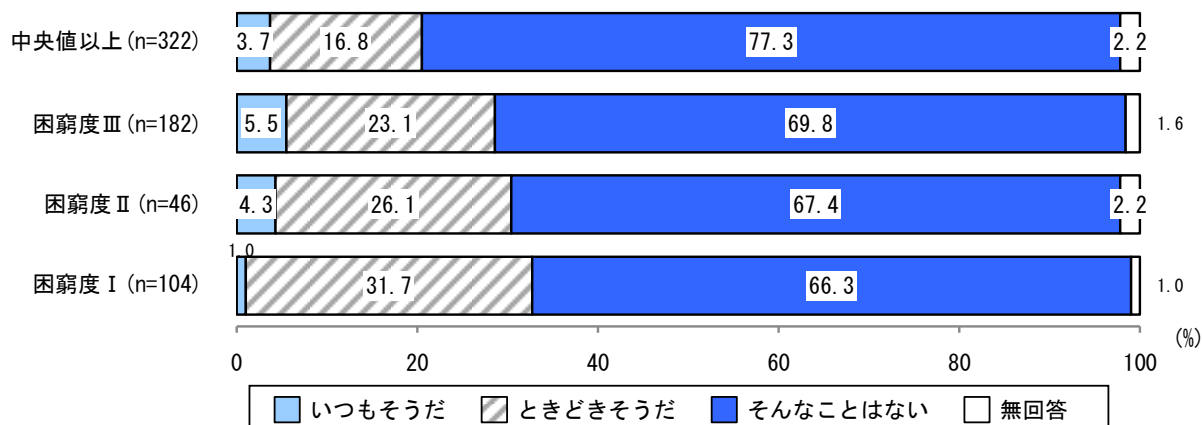
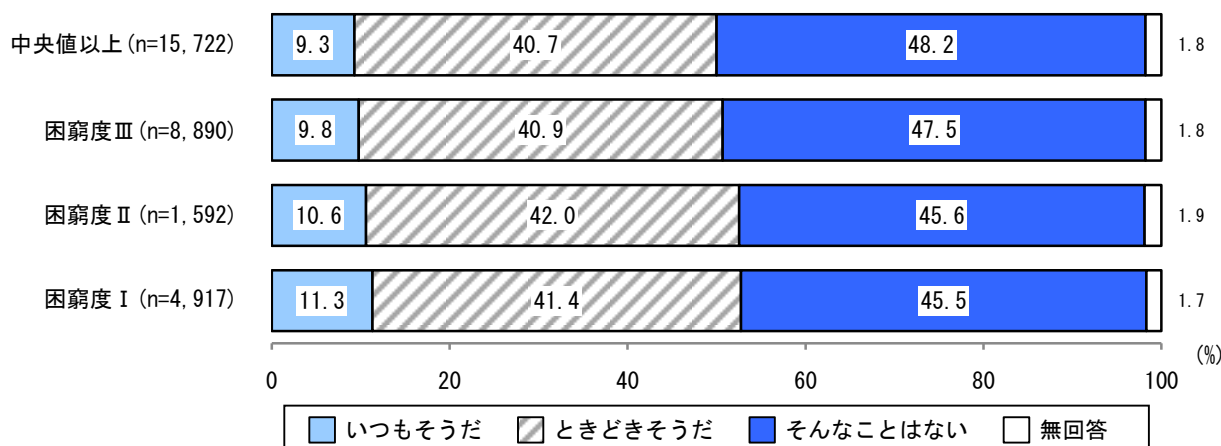


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅲ群（5.5%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる（子ども票問 19⑥）

<大阪府内全体>



<門真市>

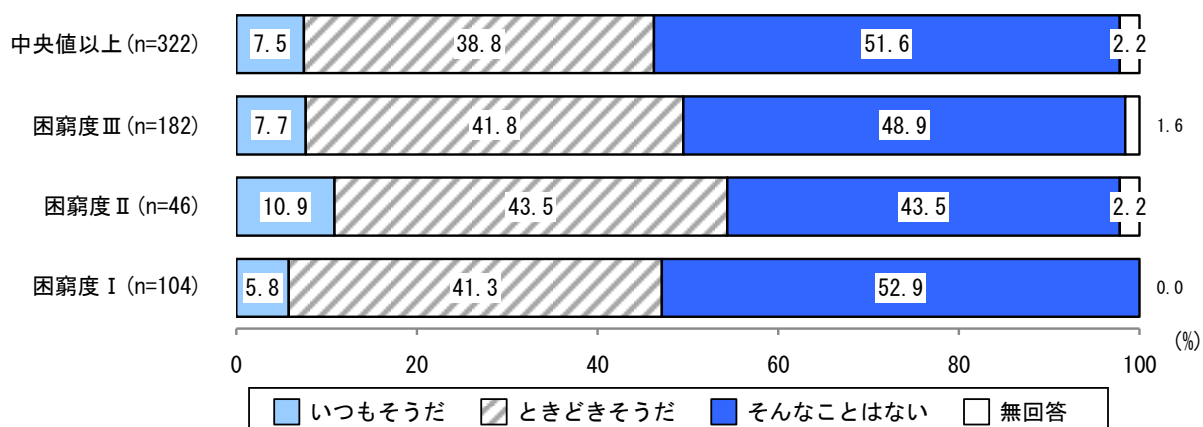
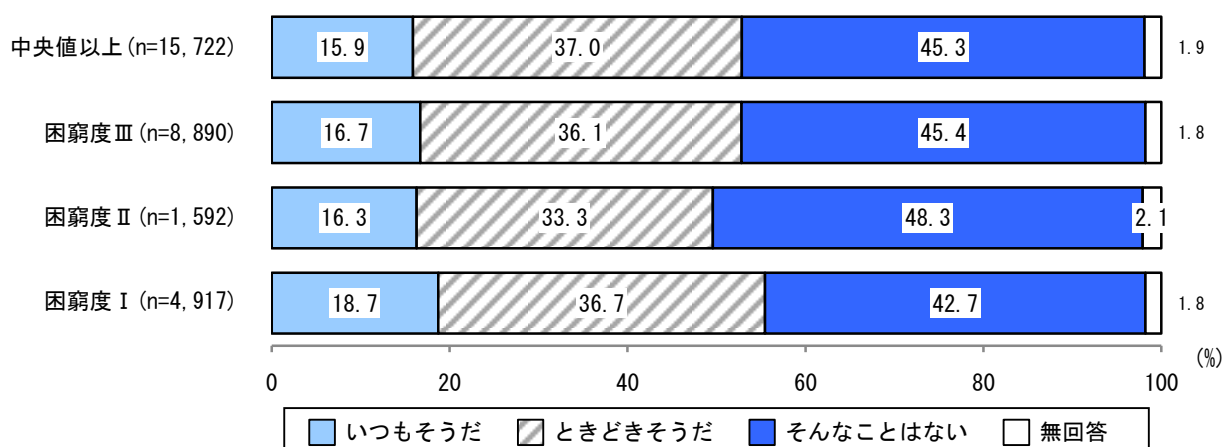


図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（10.9%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる（子ども票問 19⑦）

<大阪府内全体>



<門真市>

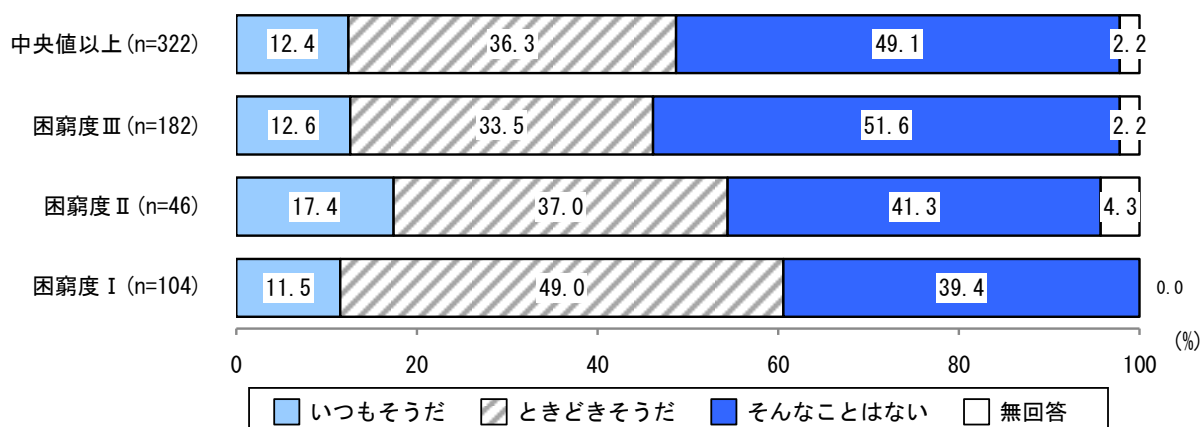
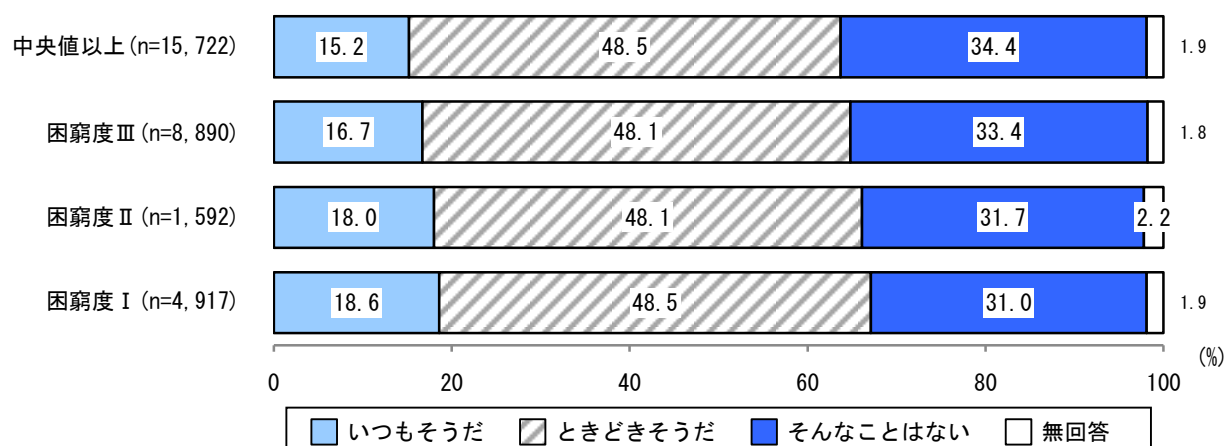


図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群（17.4%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない（子ども票問 19⑧）

<大阪府内全体>



<門真市>

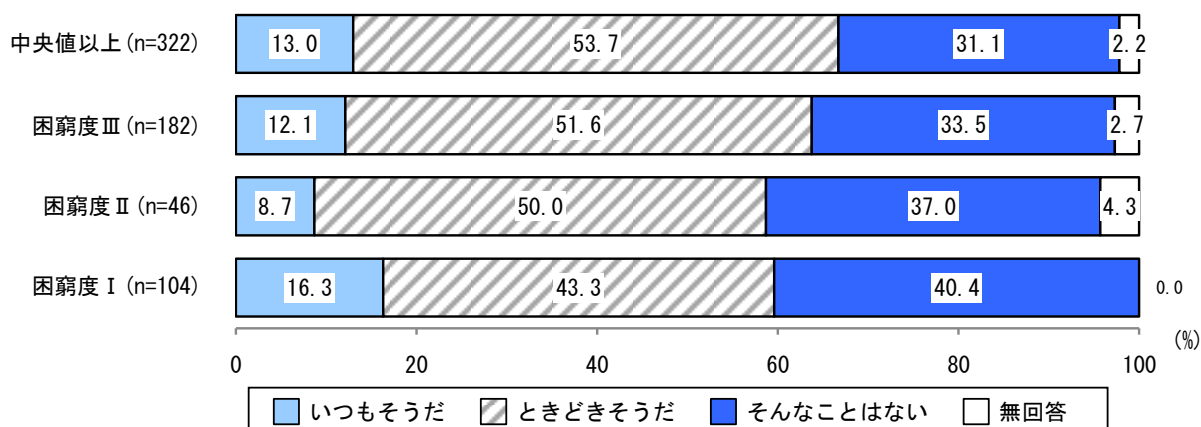
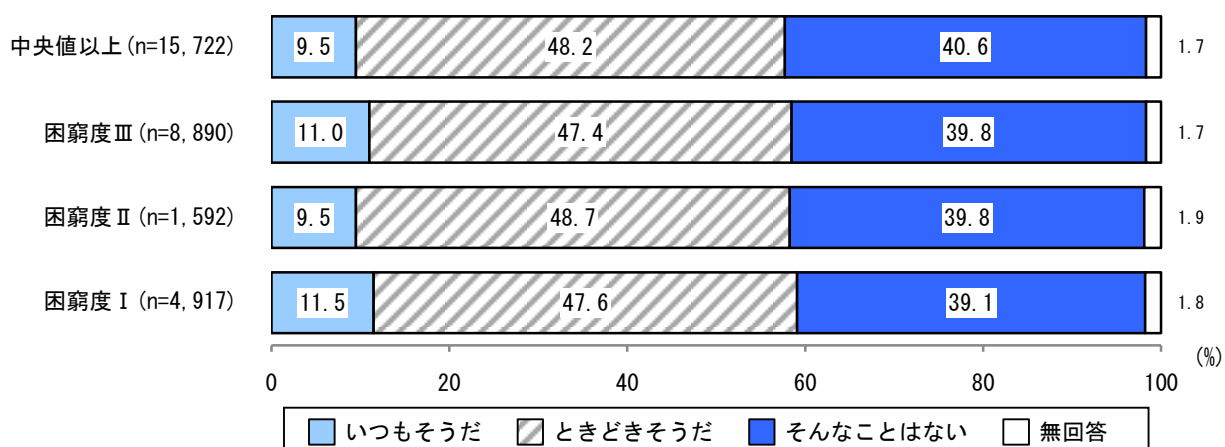


図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群（16.3%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする（子ども票問 19⑨）

<大阪府内全体>



<門真市>

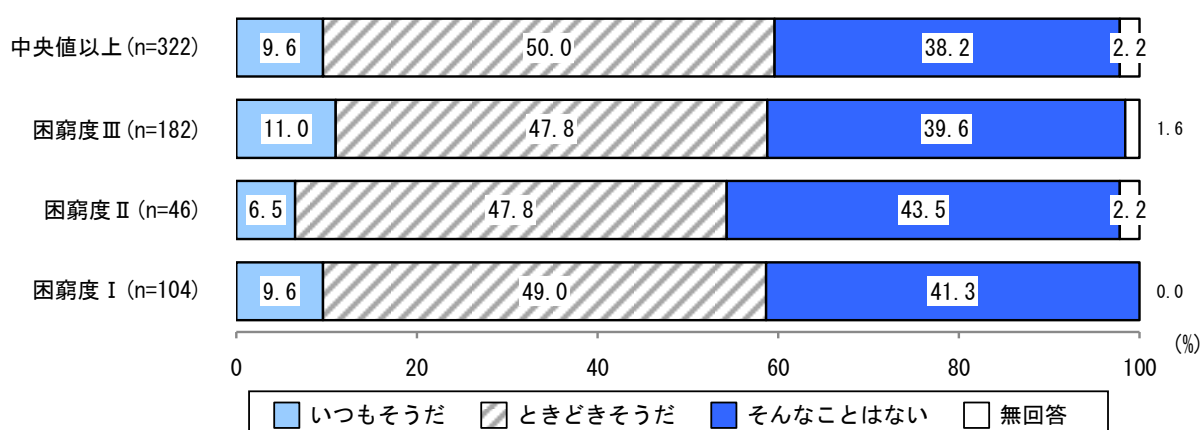
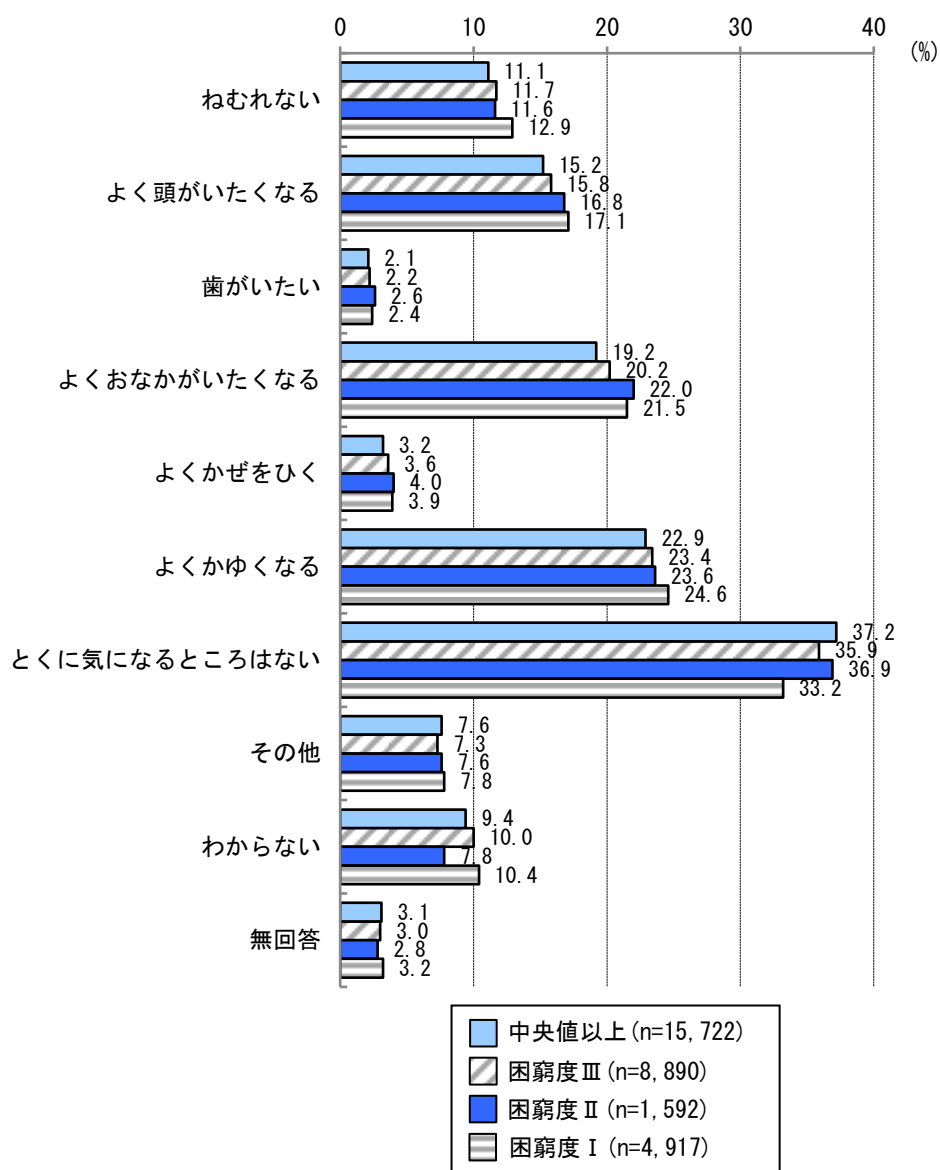


図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅲ群（11.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



<門真市>

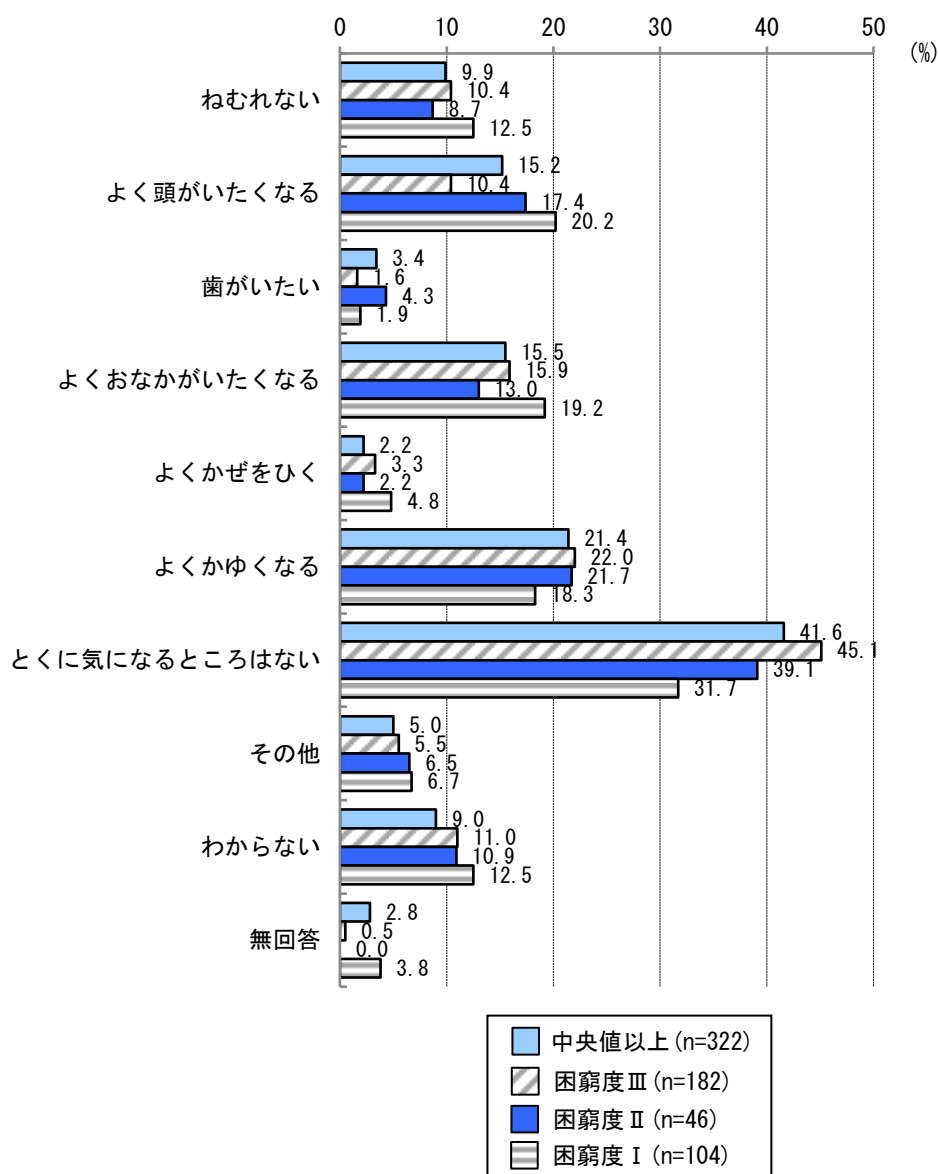
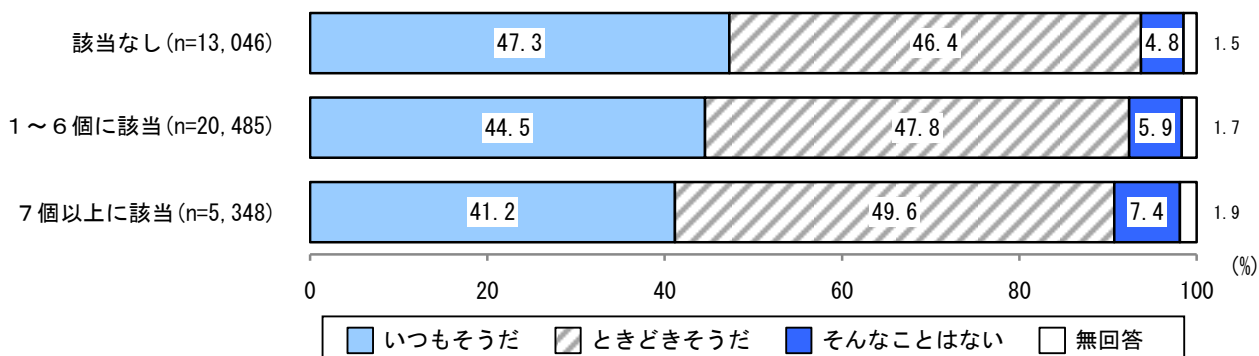


図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「よくかぜをひく」4.8%（中央値以上群に対して2.2倍）、「ねむれない」12.5%（同じく1.3倍）、「よく頭がいたくなる」20.2%（同じく1.3倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<門真市>

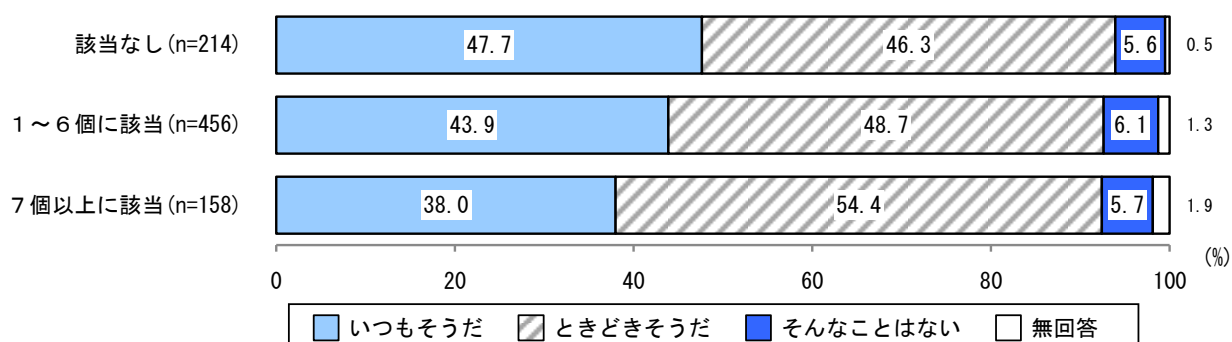
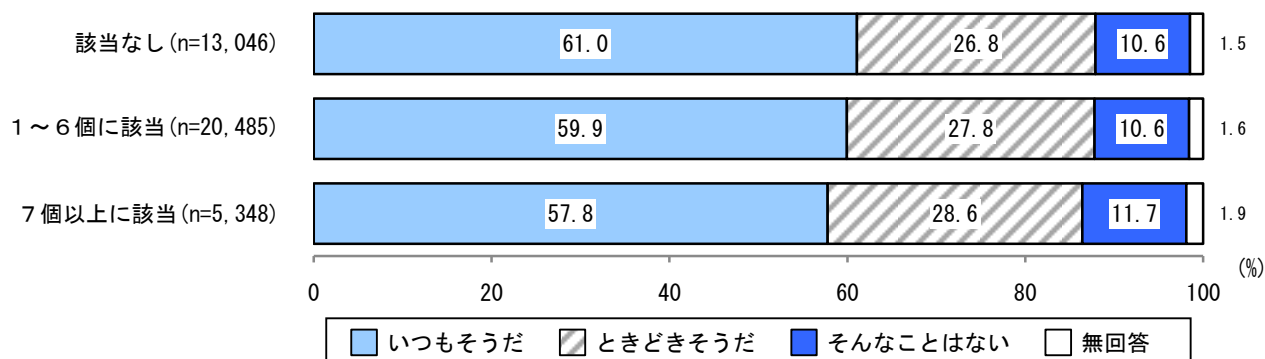


図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」(38.0%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<門真市>

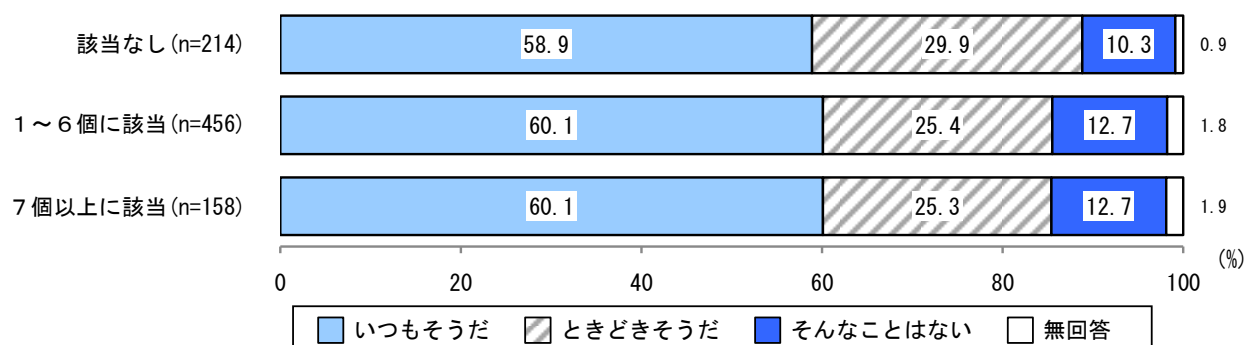
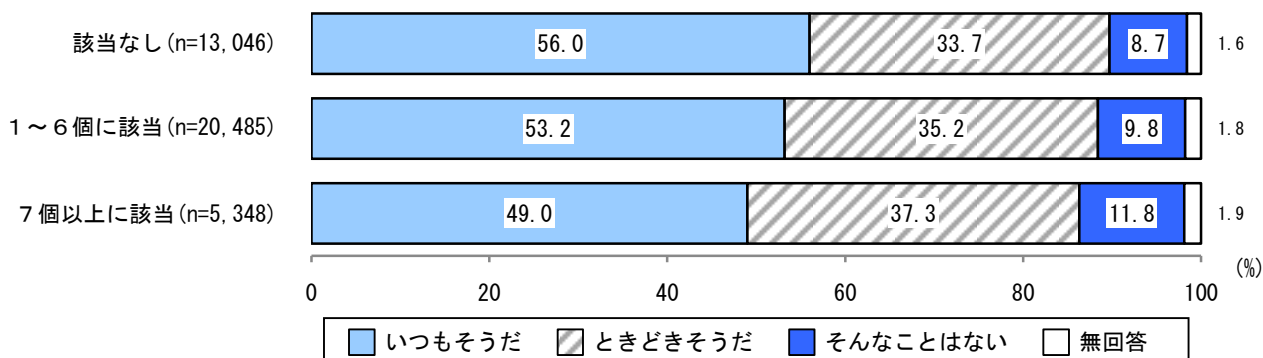


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が少ない人ほど割合が概ね低く、「該当なし」（58.9%）で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい
(保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<門真市>

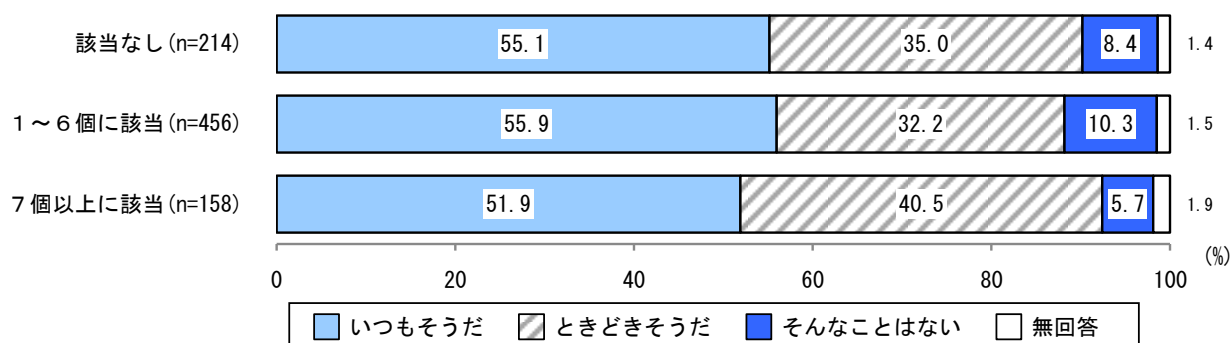
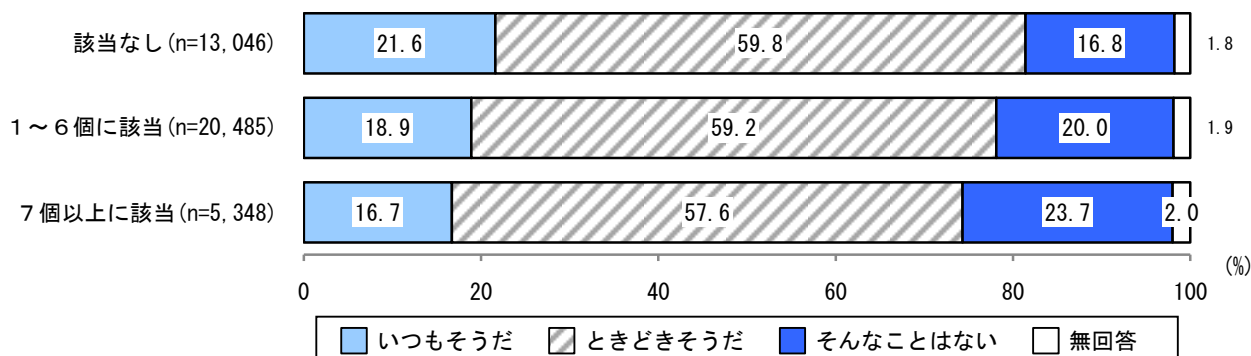


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「7個以上に該当」(51.9%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<門真市>

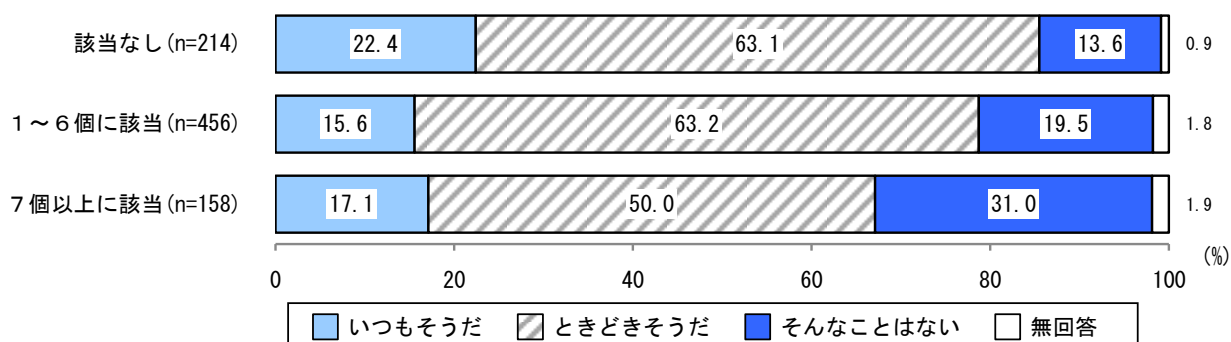
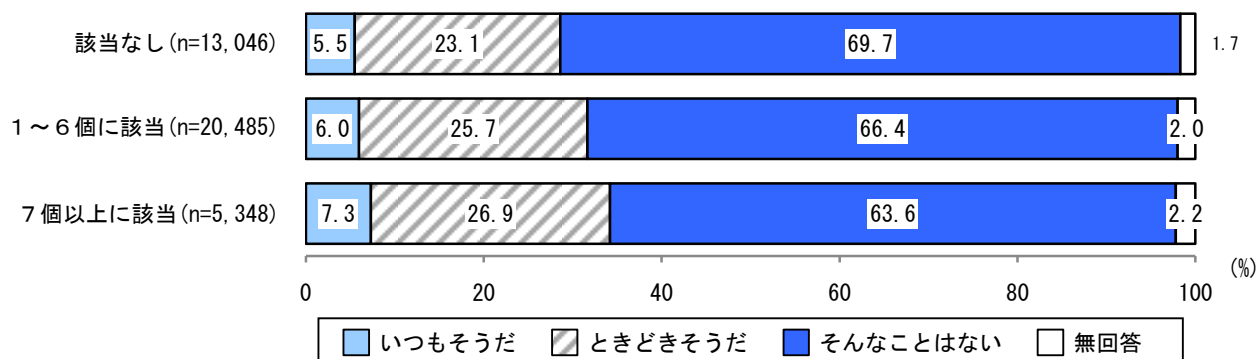


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個以上に該当」(15.6%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<門真市>

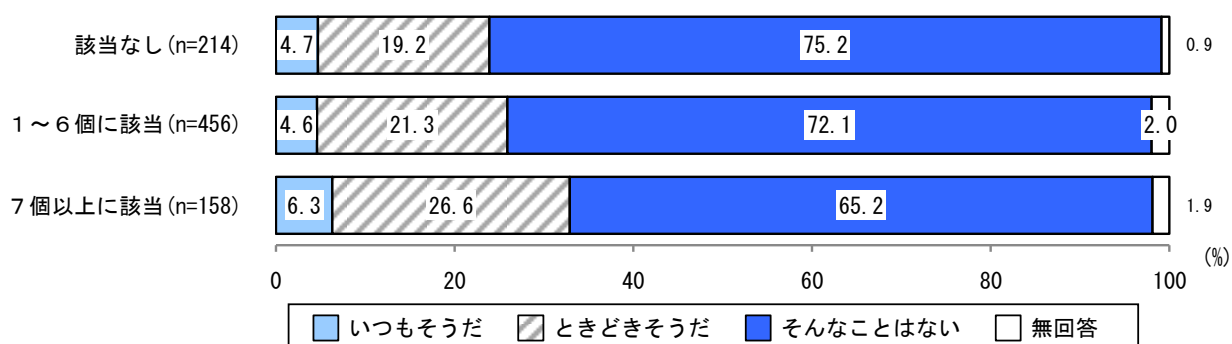


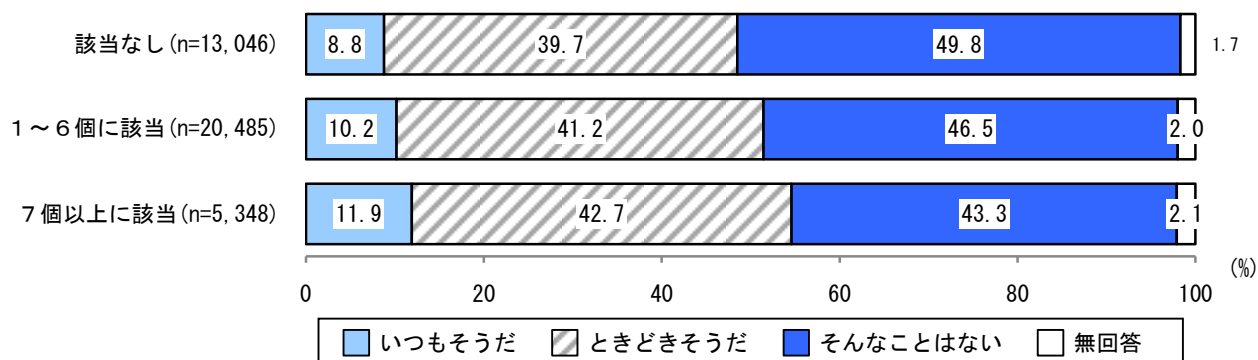
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「7個以上に該当」(6.3%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<門真市>

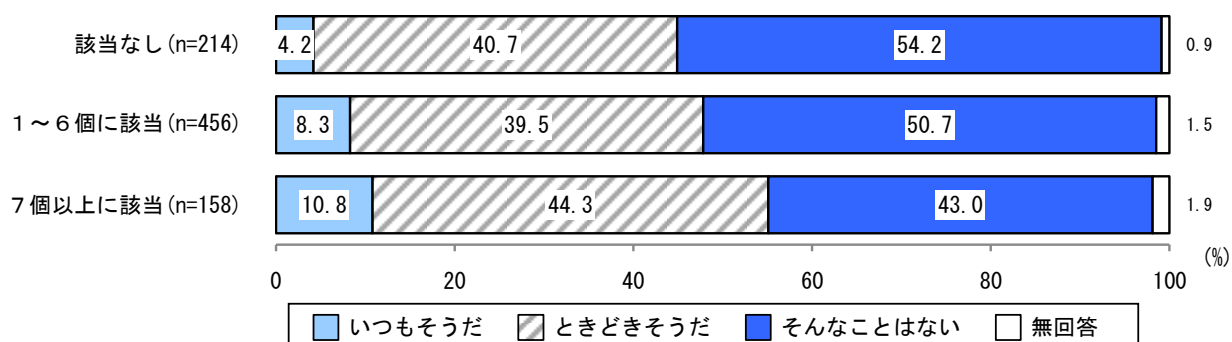
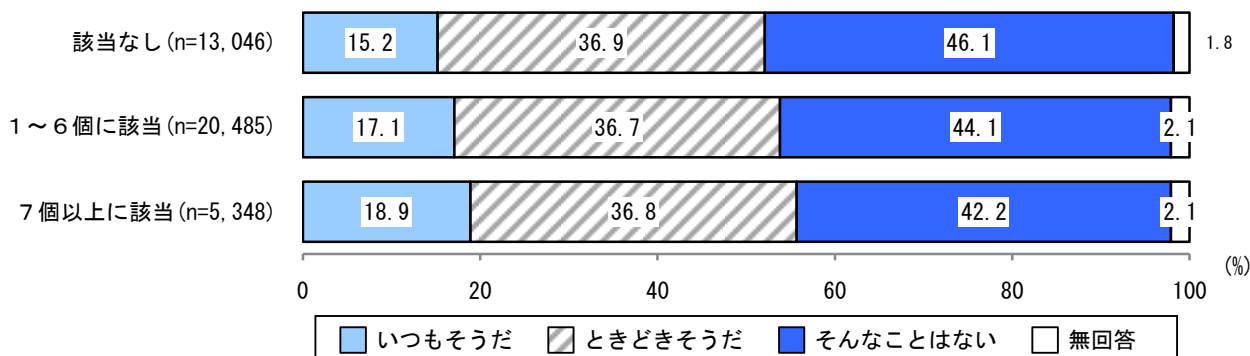


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになると、「いつもそうだ」と回答した人は「7個に該当」（10.8％）で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる
(保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<門真市>

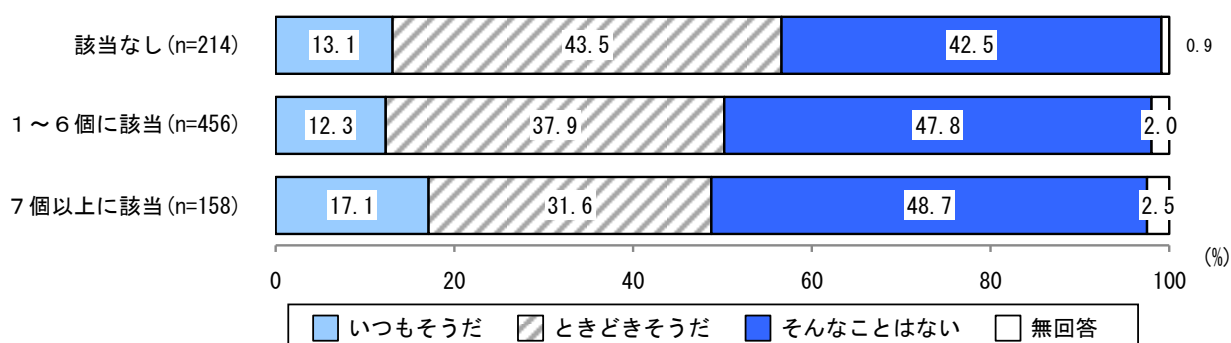
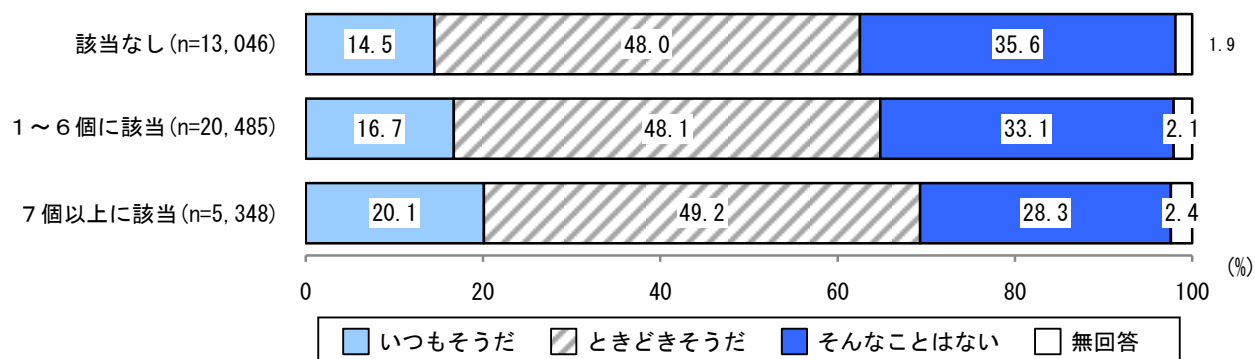


図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、「7個以上に該当」(17.1%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない
(保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<門真市>

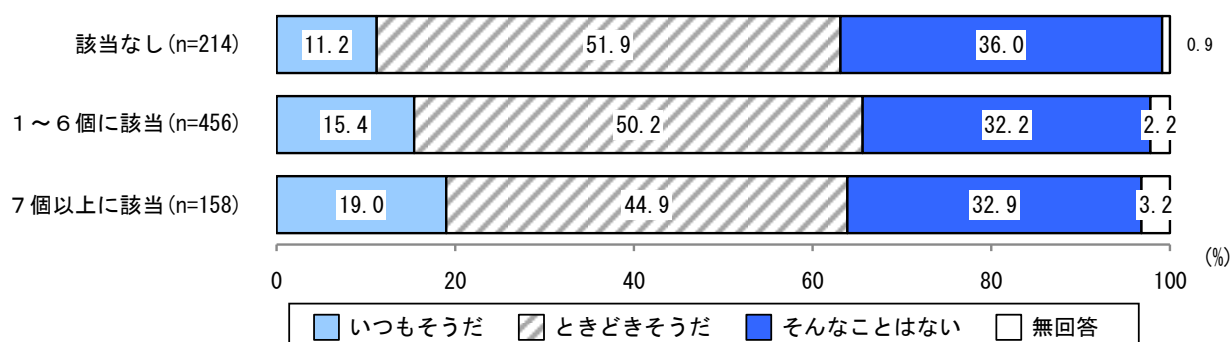
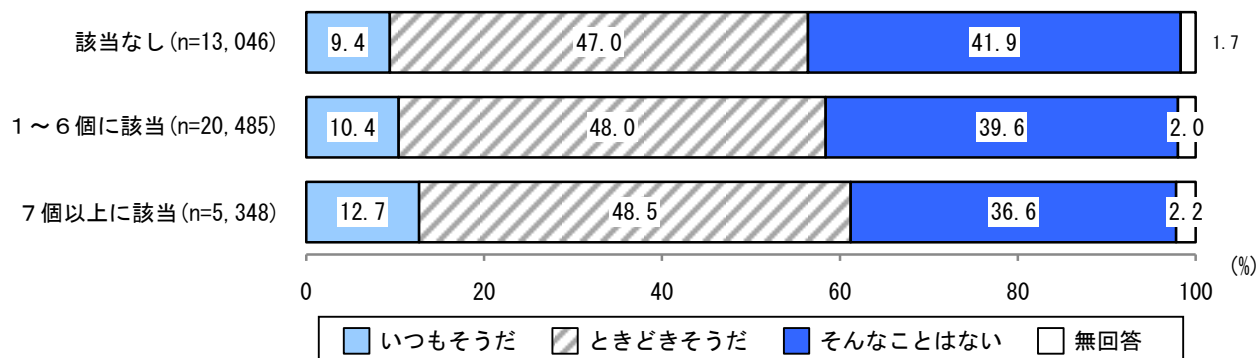


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が高く、「7個以上に該当」が19.0%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする
(保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<門真市>

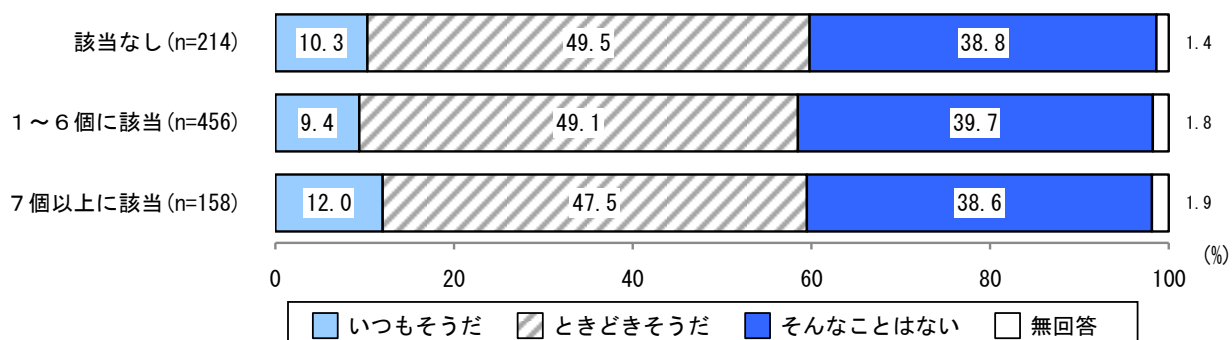
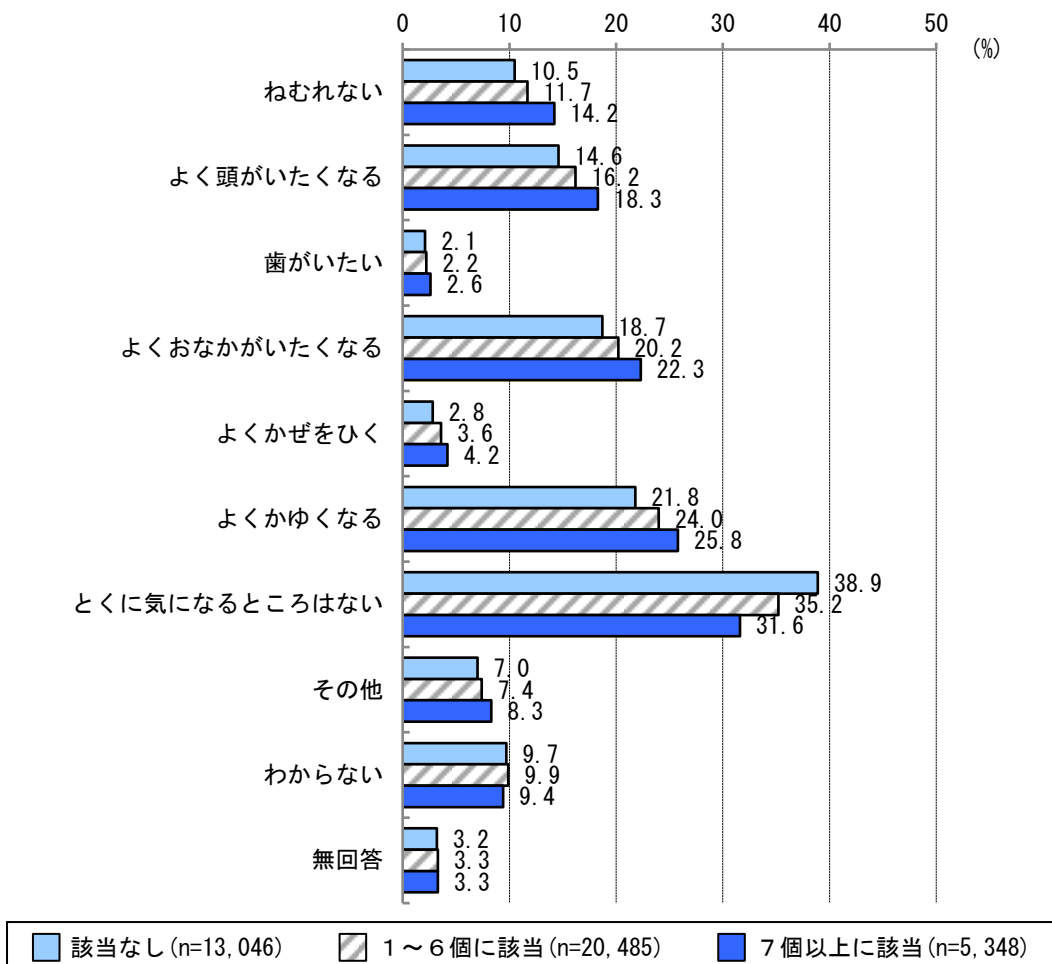


図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいろいろするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「7個以上に該当」が12.0%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること
 (保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



<門真市>

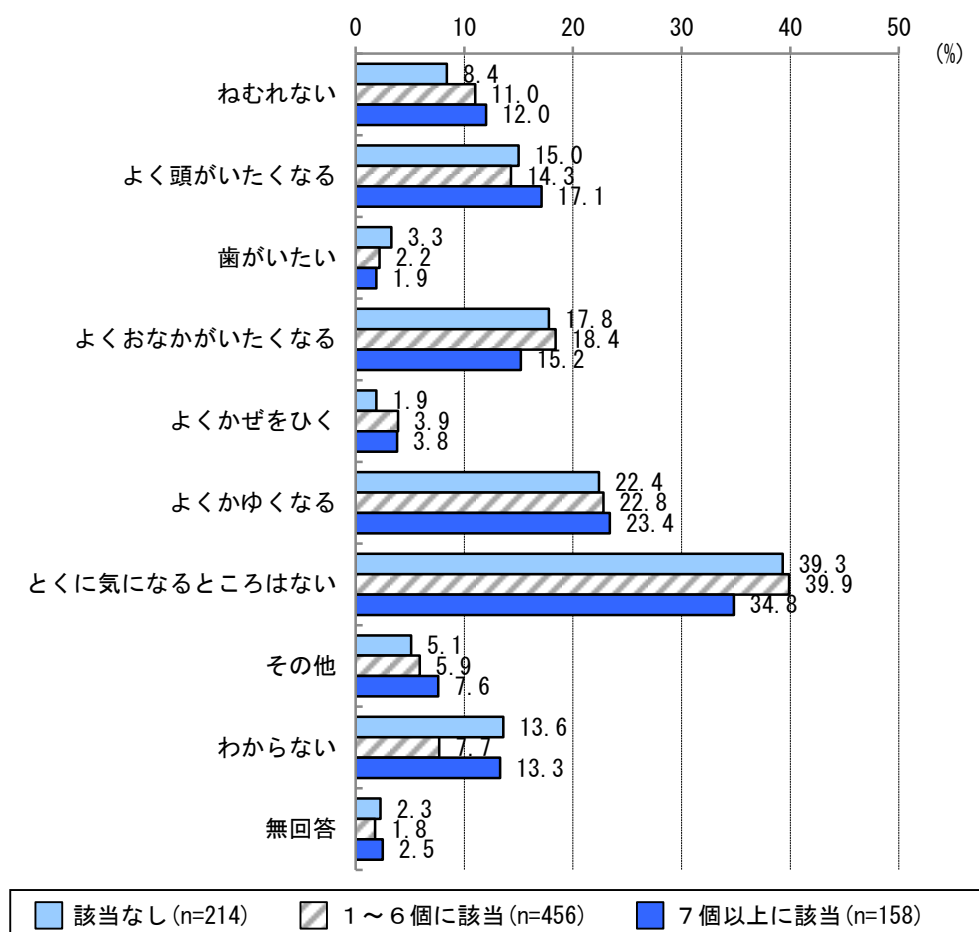
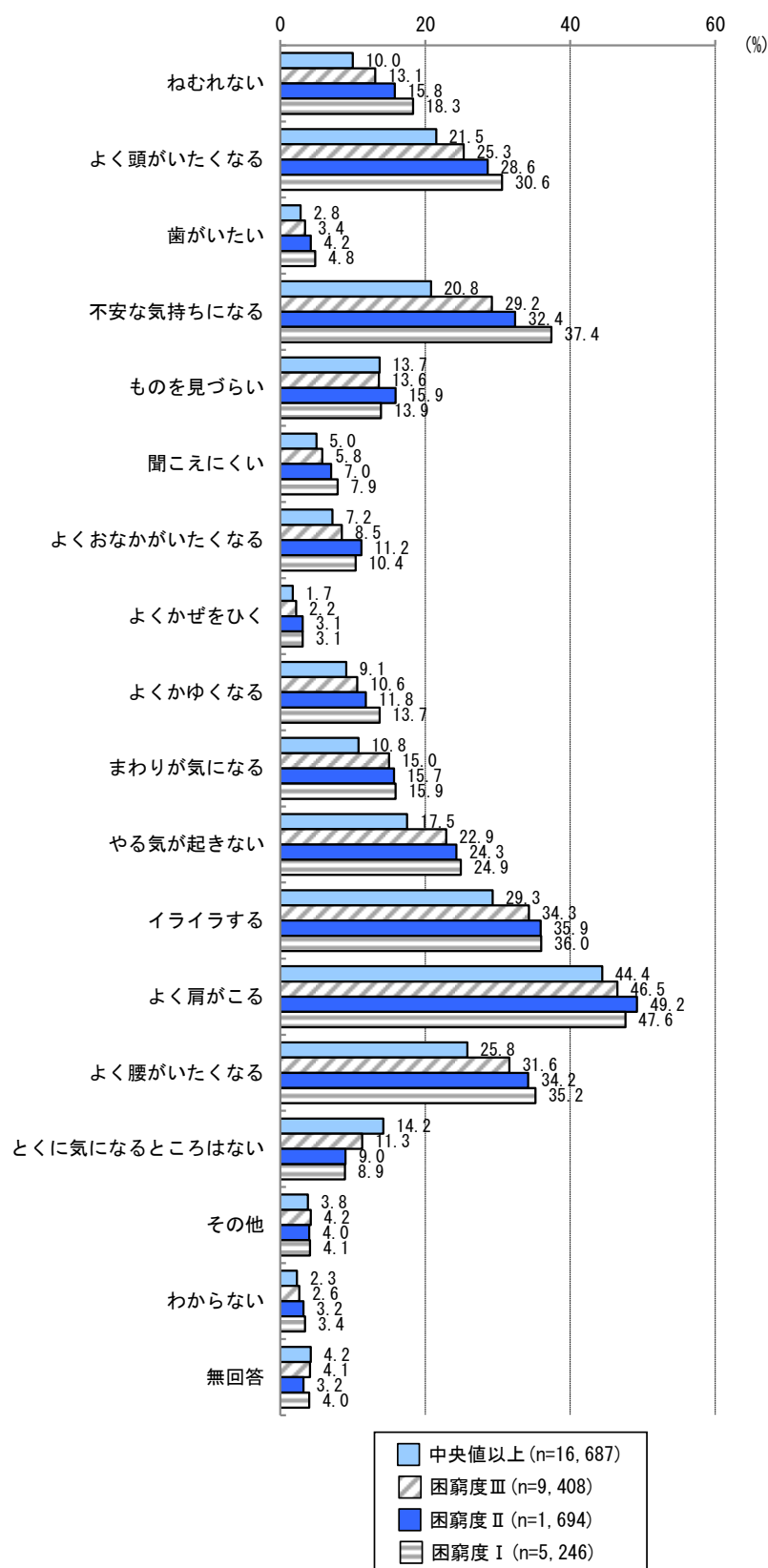


図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、「7個以上に該当」群と「該当なし」群間で差が大きい項目に着目しながら、「7個以上に該当」群の数値を挙げると、「よくかぜをひく」3.8%（「該当なし」群に対して2.0倍）、「ねむれない」12.0%（同じく1.4倍）、「よく頭がいたくなる」17.1%（同じく1.1倍）となっている。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<門真市>

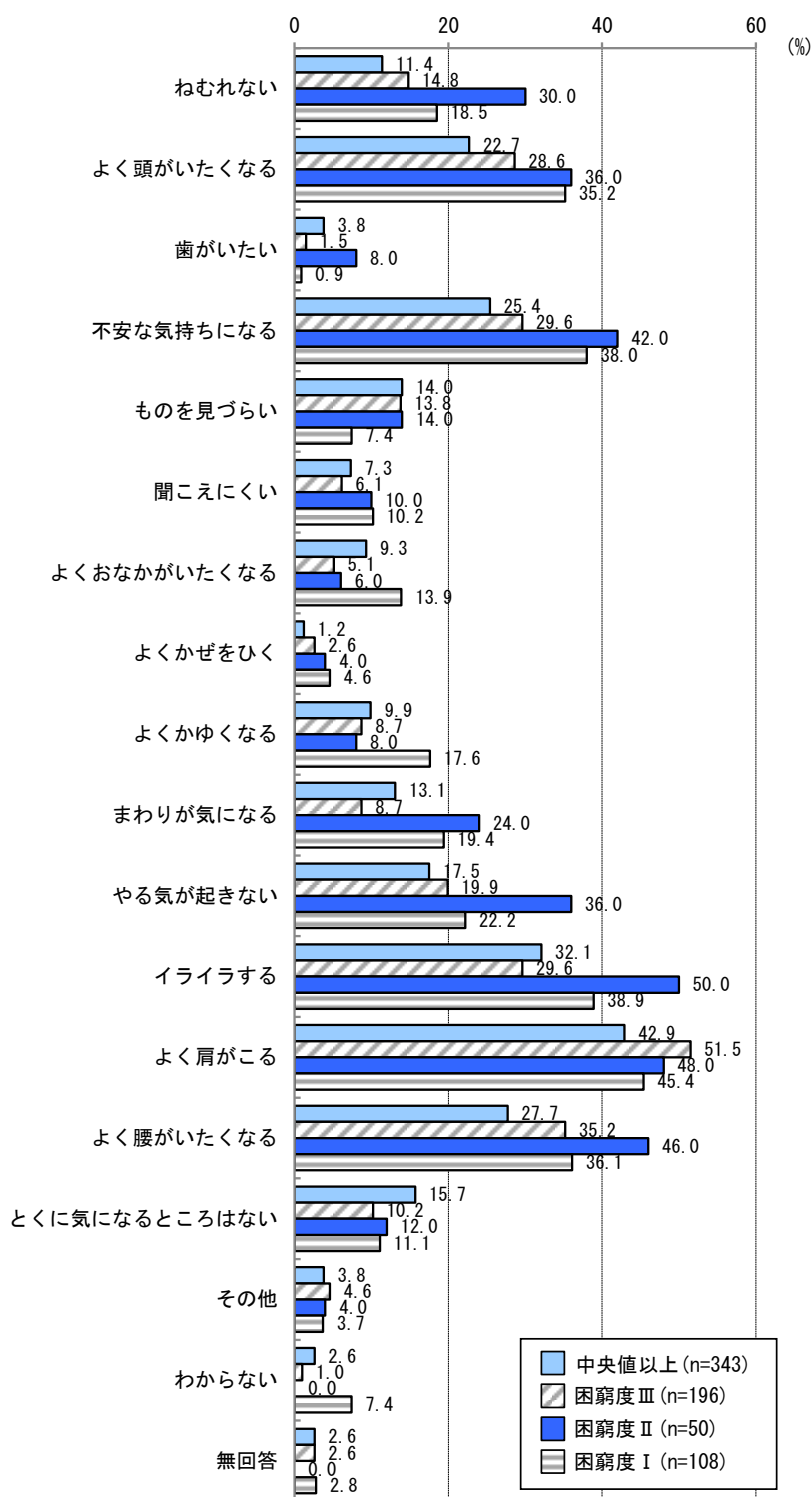
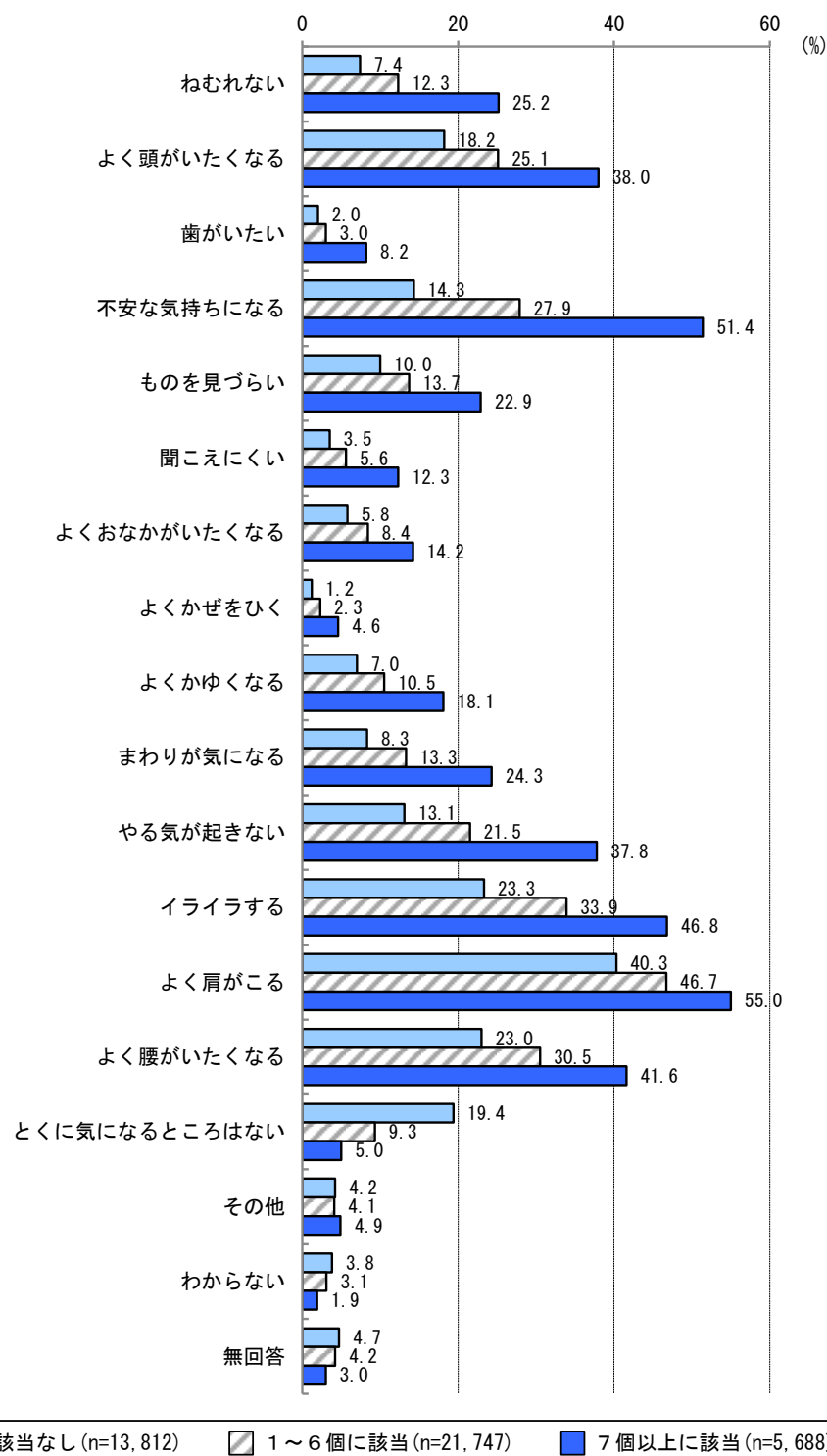


図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「よくかぜをひく」と回答した人の割合が高くなっている。特に、困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「よくかぜをひく」4.6%（中央値以上群に対し、3.8倍）、「よくかゆくなる」17.6%（同じく1.8倍）、「ねむれない」18.5%（同じく1.6倍）、「よく頭がいたくなる」35.2%（同じく1.6倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
(保護者票問 7 × 保護者票問 22)

<大阪府内全体>



<門真市>

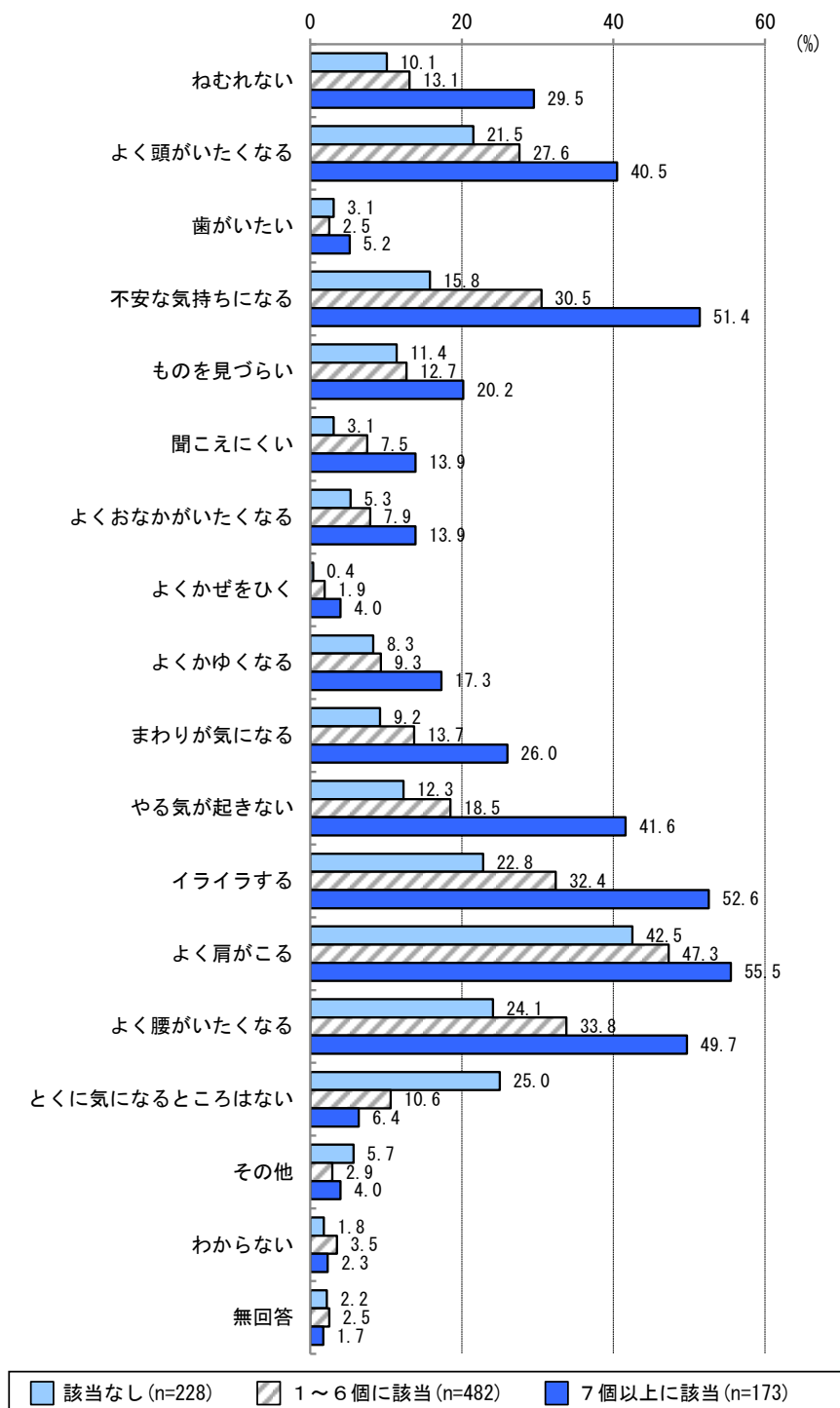
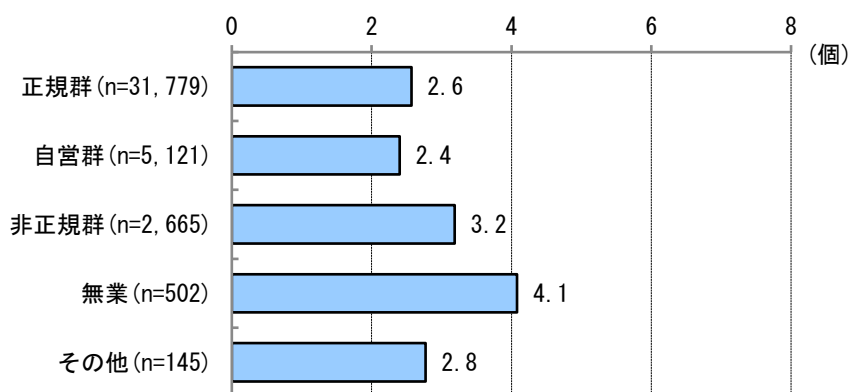


図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること(保護者)を見ると、多くの項目において、経済的な理由による経験の該当数が多くなるにつれて、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、「7個以上に該当」した人と「該当なし」と回答した人との差が大きく開いている。「7個以上に該当」群について、「該当なし」との差が大きい順に挙げると、「よくかぜをひく」4.0%（「該当なし」に対して10.0倍）、「聞こえにくい」13.9%（同じく4.0倍）、「やる気が起きない」41.6%（同じく3.4倍）となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<門真市>

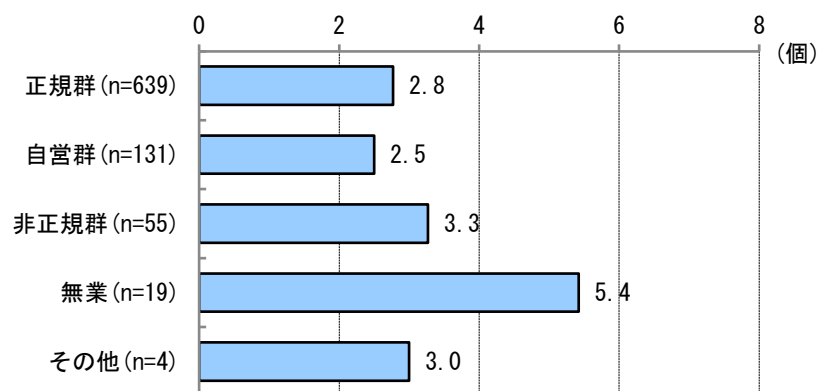


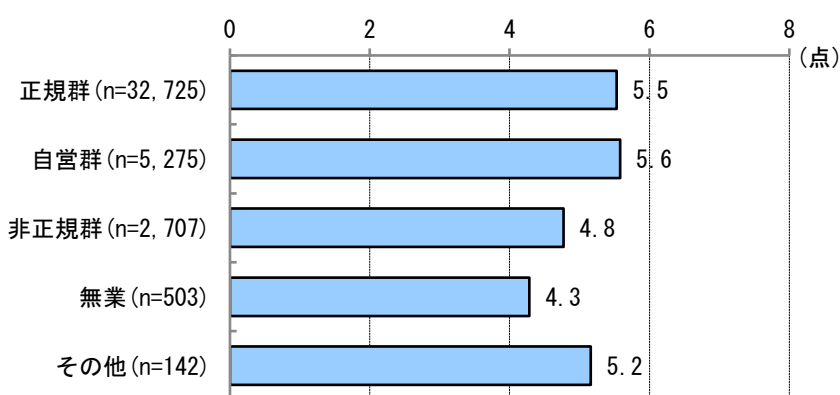
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」、「自営群」に対して、「非正規群」、「無業」群において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が多い結果となった。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪府内全体>



<門真市>

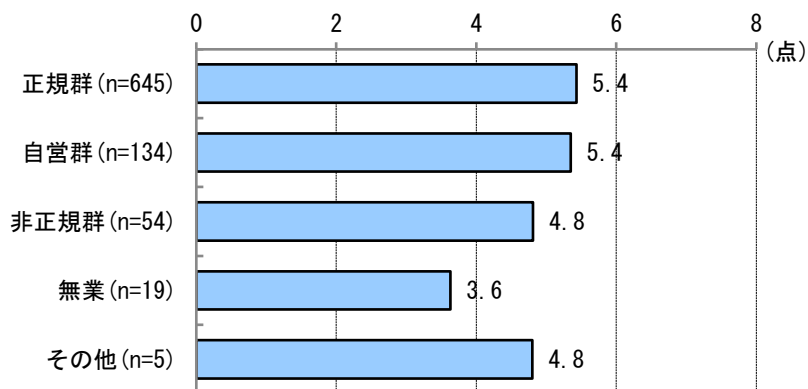
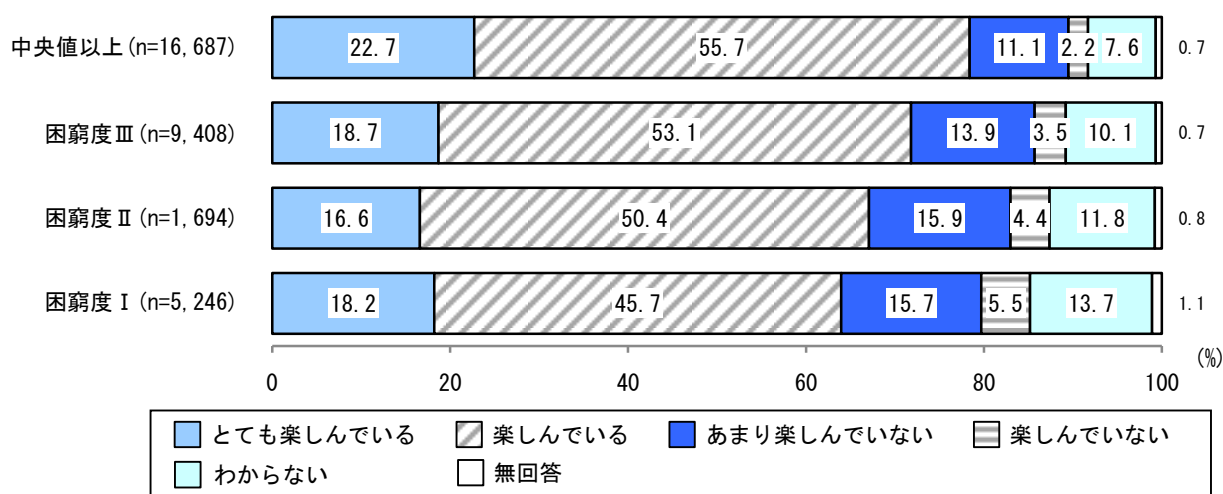


図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」、「自営群」がともに5.4点と高く、「非正規群」で4.8点と低下し、「無業」で3.6点と最も低い結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

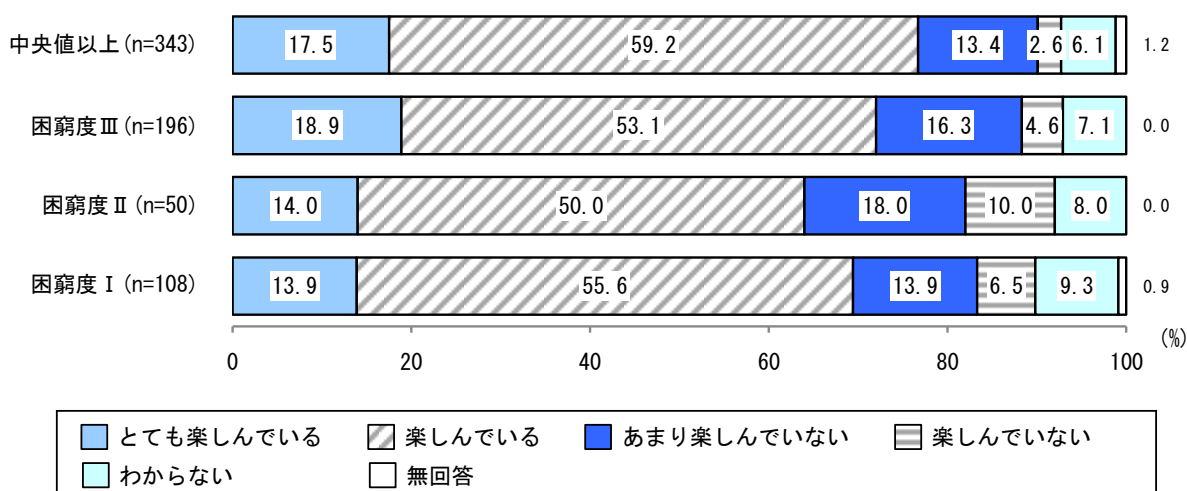
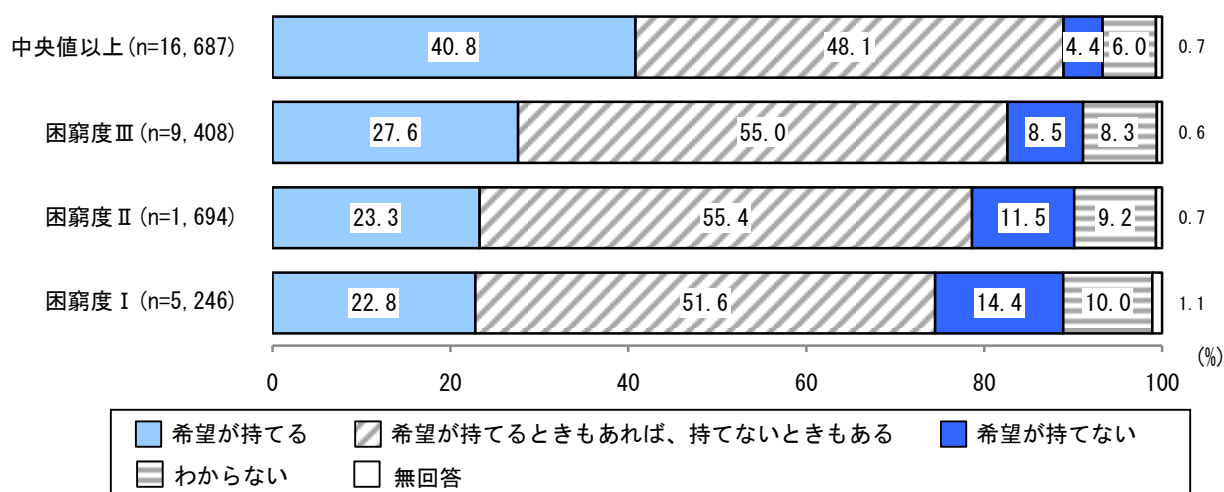


図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせてなんらか『楽しんでいる』割合では、中央値以上群で76.7%と最も高く、それ以外の群では、なんらか『楽しんでいる』割合が低くなった。次いで、困窮度Ⅲ群で72.0%、ここでは困窮度Ⅰと困窮度Ⅱ群が逆転し、困窮度Ⅰ群が69.5%、困窮度Ⅱ群において64.0%と最も低くなった。逆に、「楽しんでいる」と回答した割合は、中央値以上群が2.6%と最も低く、次いで、困窮度Ⅲ群で4.6%、困窮度Ⅰ群で9.3%、困窮度Ⅱ群で10.0%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21 (2)）

<大阪府内全体>



<門真市>

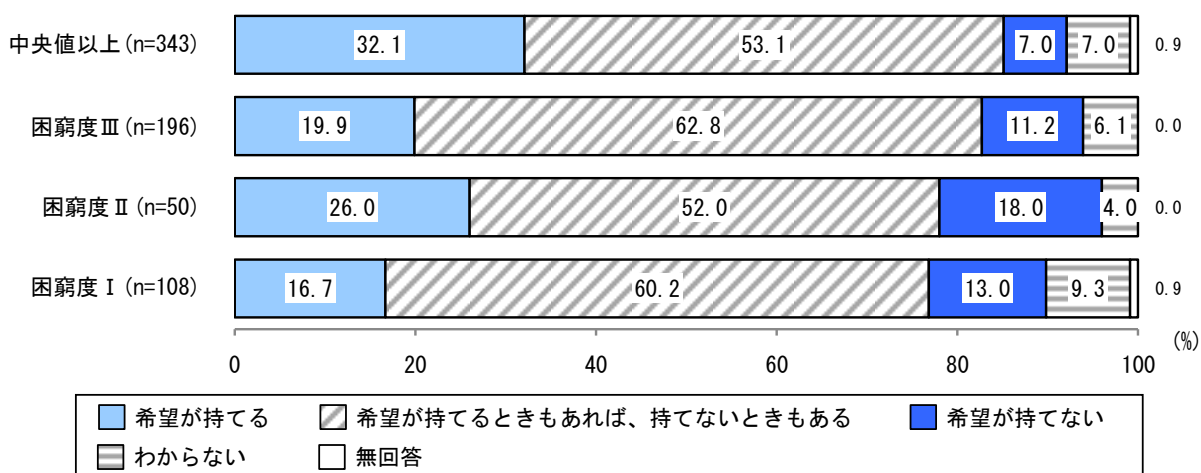
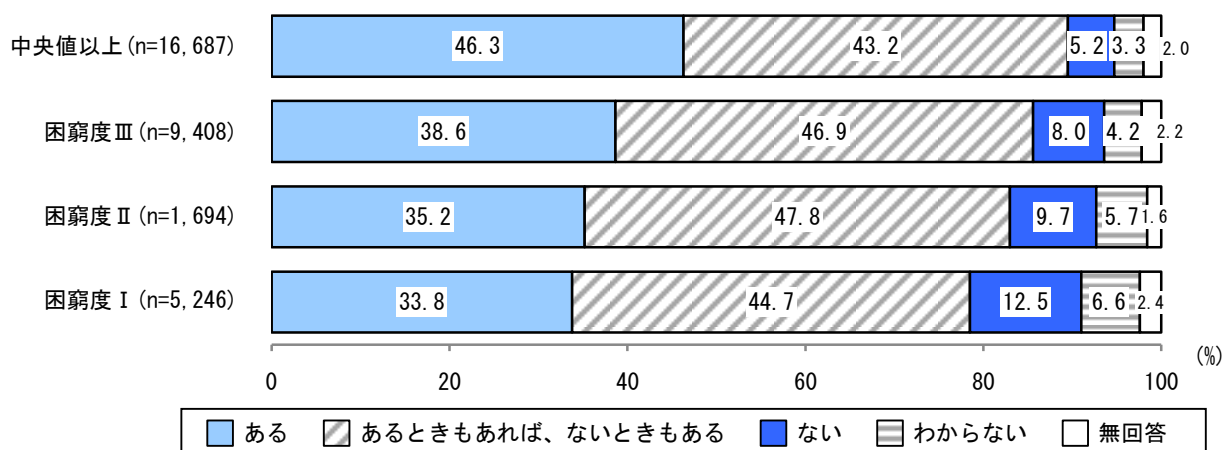


図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来への希望を見ると「希望が持てる」と回答する割合は、中央値以上群では、32.1%と最も高く、次いで困窮度Ⅱ群では26.0%、困窮度Ⅲ群では19.9%、困窮度Ⅰ群では16.7%と最も低くなった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<門真市>

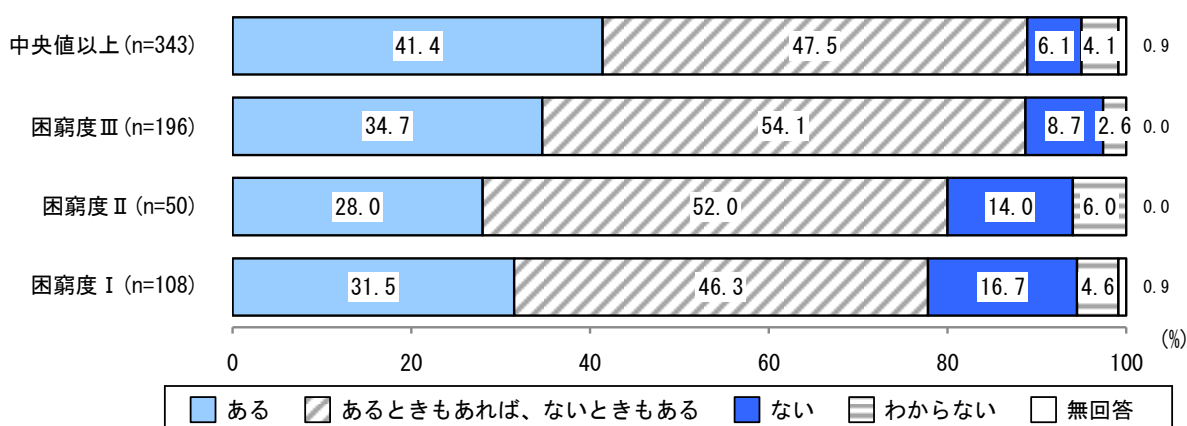
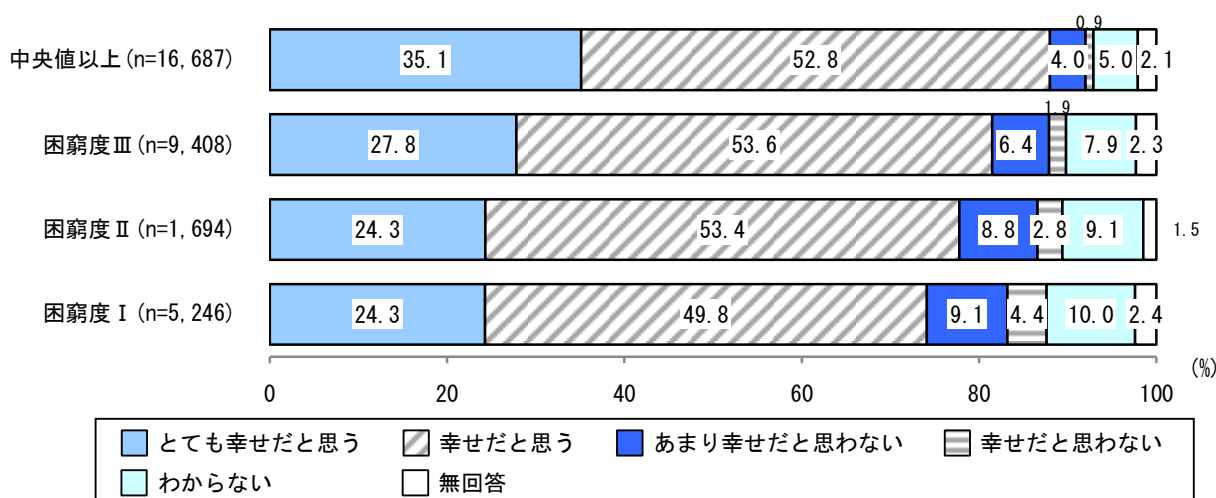


図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、困窮度Ⅰ群が16.7%と、「ない」と回答する割合が最も高くなっている。中央値以上群では、6.1%で最も低く、困窮度Ⅲ群8.7%、困窮度Ⅱ群14.0%となっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<門真市>

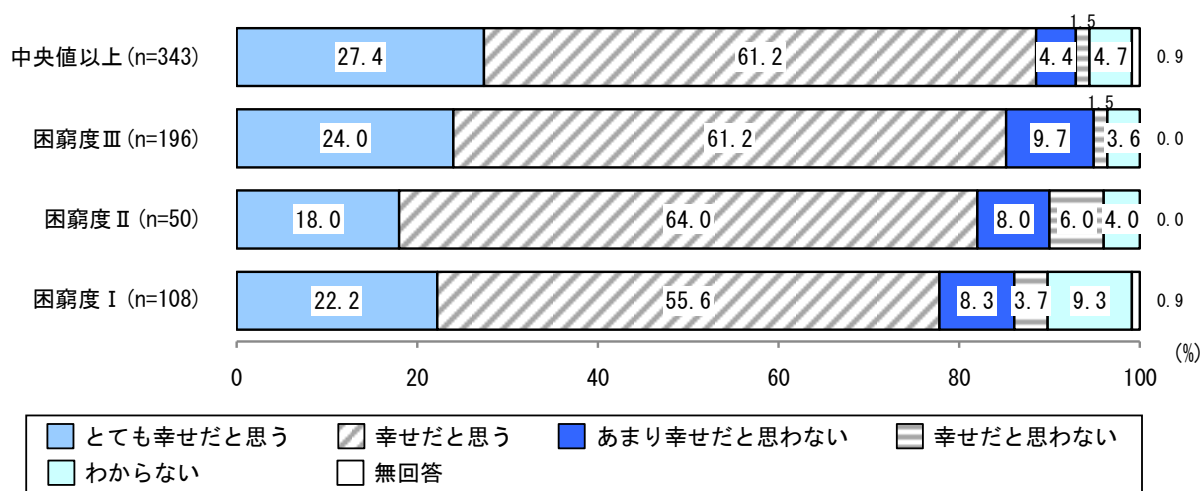


図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」をあわせて、なんらか『幸せと思う』と回答した割合は、困窮度が高まるにつれて低くなり、困窮度Ⅰ群（77.8%）で最も低くなっている。逆に、なんらか『幸せではない』（「あまり幸せだと思わない」と「幸せだと思わない」をあわせた割合）と回答する割合は、中央値以上群で5.9%にとどまるのに対して、困窮度Ⅲ群で11.2%、困窮度Ⅰ群で12.0%、困窮度Ⅱ群で14.0%となっている。

<健康に関する考察>

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(86.0%対73.1%)が約10ポイント高くなっている。子どもの自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よく頭がいたくなる」(20.2%対15.2%)が5ポイント高く、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「とくに気になるところはない」(41.6%対31.7%)が約10ポイント高くなっている。保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「ねむれない」(18.5%対11.4%)、「よくかゆくなる」(17.6%対9.9%)、「まわりが気になる」(19.4%対13.1%)、「イライラする」(38.9%対32.1%)、「よく腰がいたくなる」(36.1%対27.7%)がいずれも5ポイント以上、「よく頭がいたくなる」(35.2%対22.7%)、「不安な気持ちになる」(38.0%対25.4%)では10ポイント以上高くなっている。また、子どもの心の状態を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「やろうとおもったことがうまくできる」で「そんなことはない」(29.8%対15.2%)が10ポイント以上高くなっている。また、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「一人ぼっちのような気がする」で「そんなことはない」(77.3%対66.3%)、「まわりが気になる」で「そんなことはない」(49.1%対39.4%)が約10ポイント高くなっている。次に、保護者の心の状態を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、生活を「とても楽しんでいる+楽しんでいる」(76.7%対69.5%)が5ポイント以上、将来に対して「希望が持てる」(32.1%対16.7%)が15ポイント以上高くなっており、ストレスを発散できるものが「ある」(41.4%対31.5%)、自分が「とても幸せだと思う」(27.4%対22.2%)が5ポイント以上高くなっている。

次に、経済的な理由による保護者の経験の該当数を見ると、個数が増えるにしたがって、子どもは「やる気が起きない」「イライラする」で「いつもそうだ」の割合が高くなる傾向にある。自覚症状では、個数が増えるにしたがって子どもは「眠れない」「よく頭がいたくなる」「よく風邪をひく」「よくかゆくなる」の割合が高くなる傾向にあり、保護者では「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「歯がいたい」「不安な気持ちになる」「不安な気持ちになる」「ものを見づらい」「聞こえにくい」「よくおなかのいたくなる」「よくかぜをひく」「よくかゆくなる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく肩がこる」「よく腰がいたくなる」の割合が高くなる傾向にある。これらの結果から、経済的に困難な世帯では、保護者には不安やイライラなどのメンタルヘルスに影響が出ている可能性があり、同時に肩こりや腰痛が多く、肉体労働に従事している可能性や、心身の休養が不十分である可能性がうかがえる。また、経済的に困難な世帯では、保護者・子どもいずれも不眠を感じており、将来不安による健康影響が懸念される。一方で経済的に困難のない世帯の保護者は、ストレス発散ができていたり、幸福感を感じていたりするなど、望ましい状態で過ごすことができている。

続いて、保護者の就業状況別の生活習慣や健康状態を見てみる。親の就業状況別の朝食の頻度では、「正規群」「自営群」の2群において、「毎日またはほとんど毎日」朝食を摂っている割合が高く(83.2%、82.6%)、「非正規群」「無業」では(76.9%、52.9%)となっている。また、「支えてくれる人得点」の満点(7点)の割合は「正規群」「自営群」「非正規群」「無業」の順に(42.5%、44.1%、29.1%、10.5%)となっている。この結果から、親が正規および自営の世帯では、朝の時間に余裕があることがうかがえる。また親が「非正規」「無業」の世帯ではソーシャルサポートの不足が示唆される。

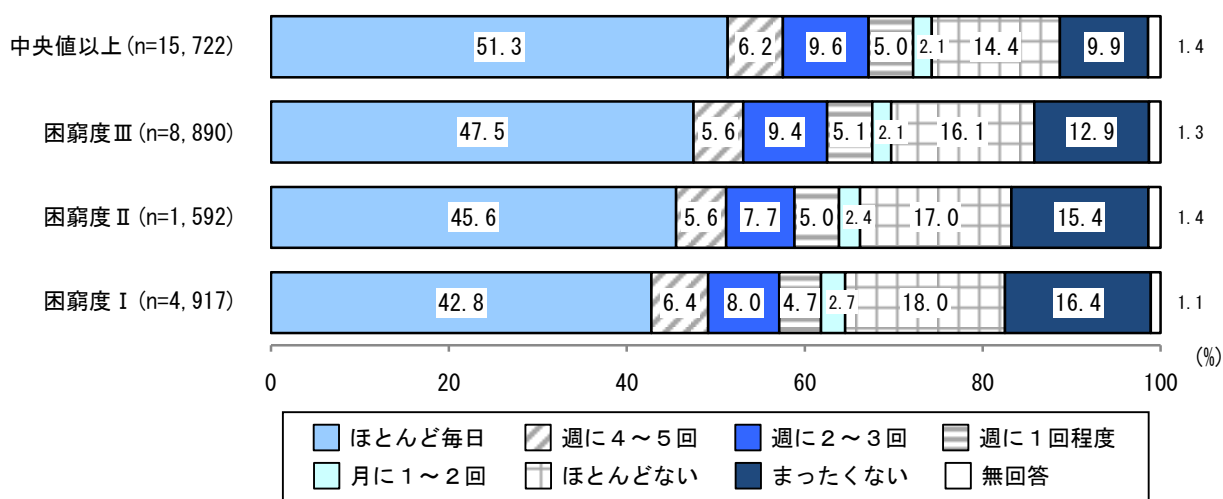
最後に、食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、子どもと会話を「よくする」(68.8%対53.7%)、子どもの将来に「とても期待している+期待している」(84.0%対75.6%)が

それぞれ15ポイントおよび5ポイント以上高くなっている。「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ子どもの自己効力感では、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、1点以上高くなっている。また、学校が休みの日の昼食を「食べないことが多い」「食べることが多い」「必ず食べる」の順に自己効力感のスコアが高くなっている。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食や昼食を摂ることは、保護者と子どもの関係をよりよくするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆された。

3-4. 家庭生活、学習

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

<大阪府内全体>



<門真市>

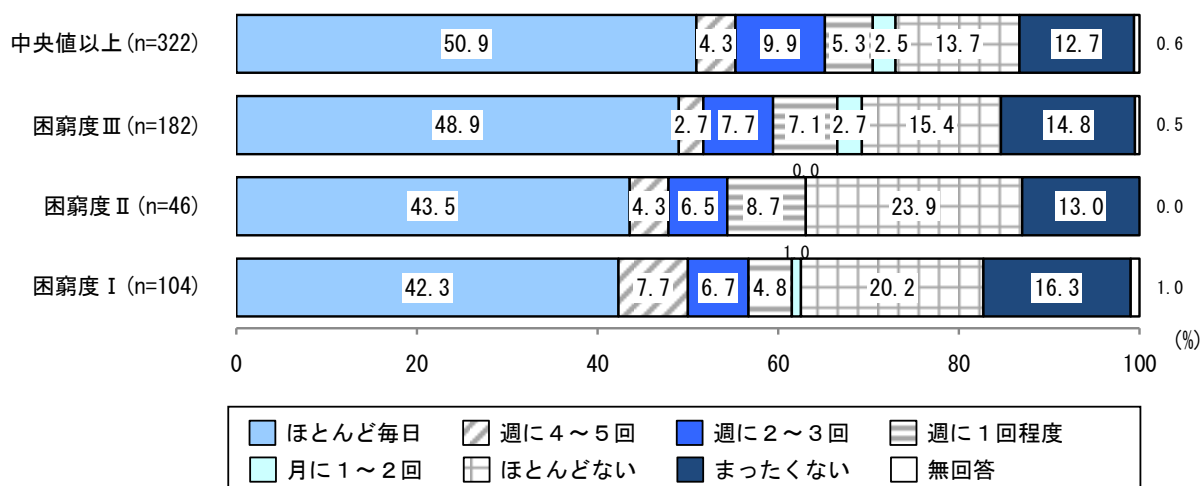
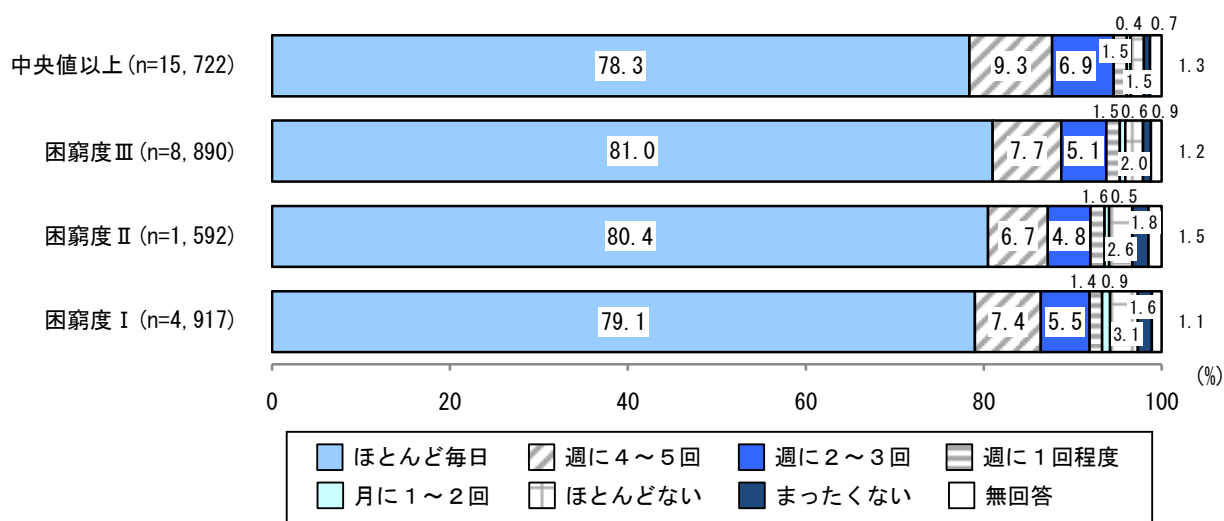


図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、困窮度が高まるにつれ「ほとんど毎日」の回答の割合が低くなっている。「ほとんど毎日」の割合は中央値以上群が50.9%と最も高くなっている。一方、「まったくない」の割合は困窮度Ⅰ群が16.3%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<門真市>

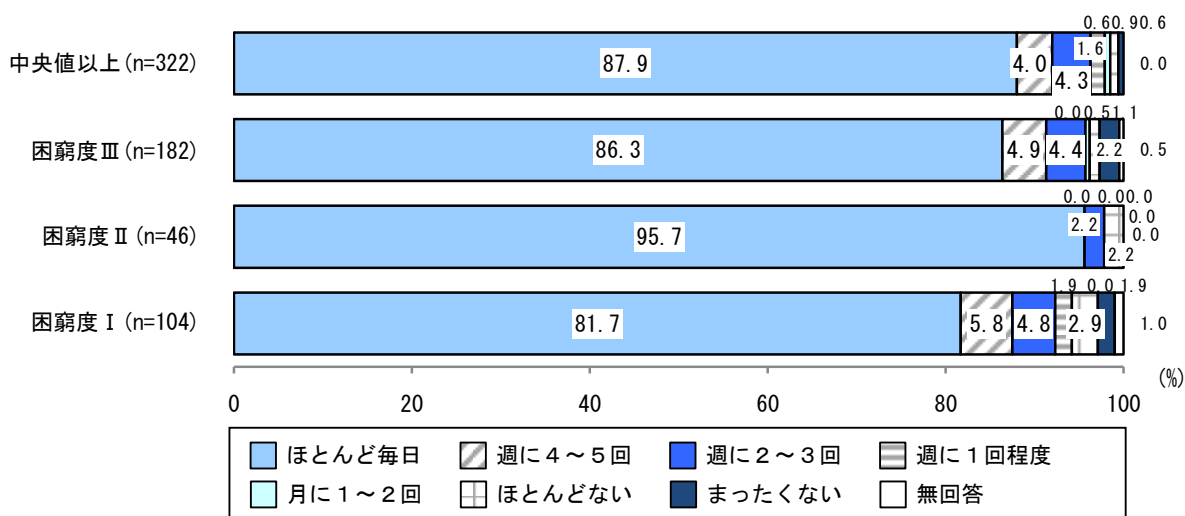
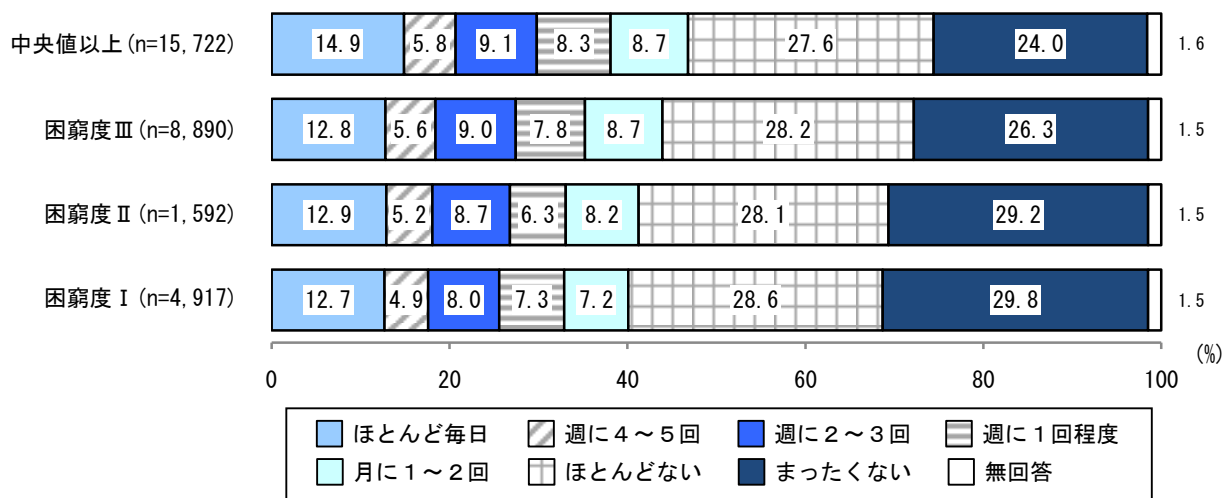


図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、困窮度Ⅱ群において、「ほとんど毎日」の割合が95.7%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>



<門真市>

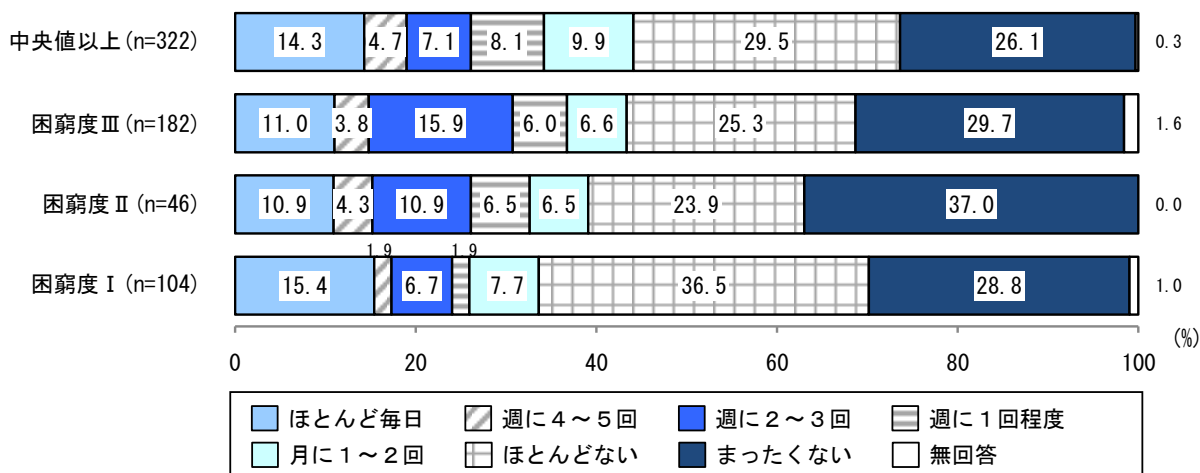
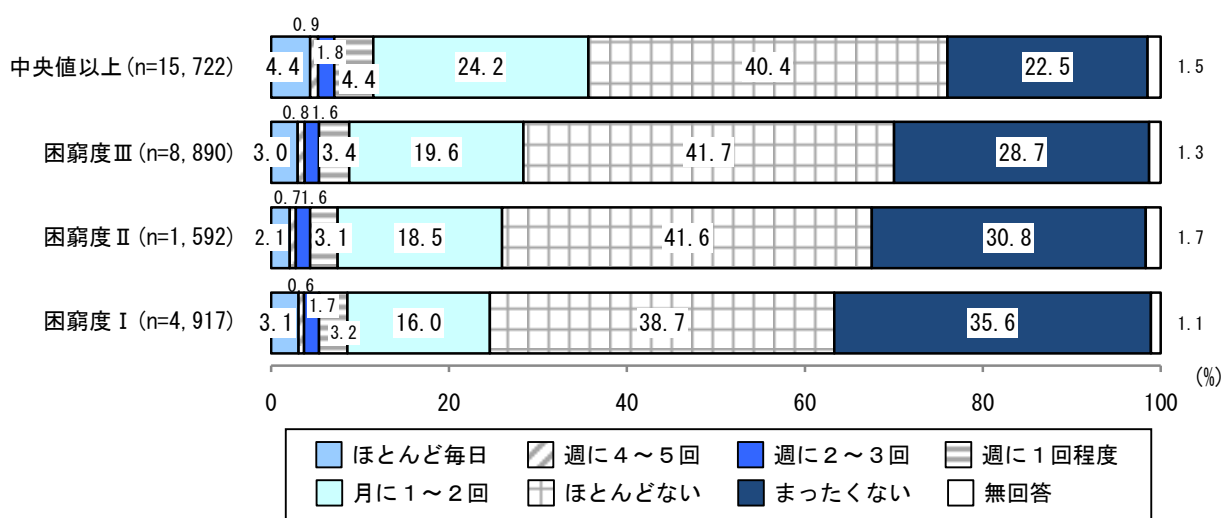


図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度Ⅱ群では、「まったくない」と回答した人は37.0%で最も高くなっている。また、困窮度Ⅰ群で「ほとんど毎日」と回答した人の割合が15.4%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<門真市>

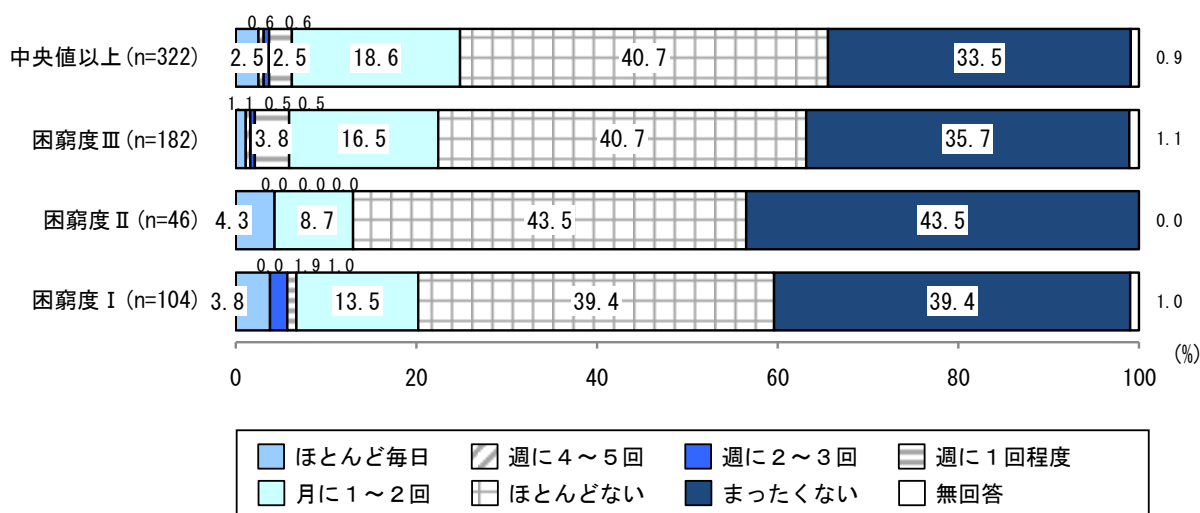
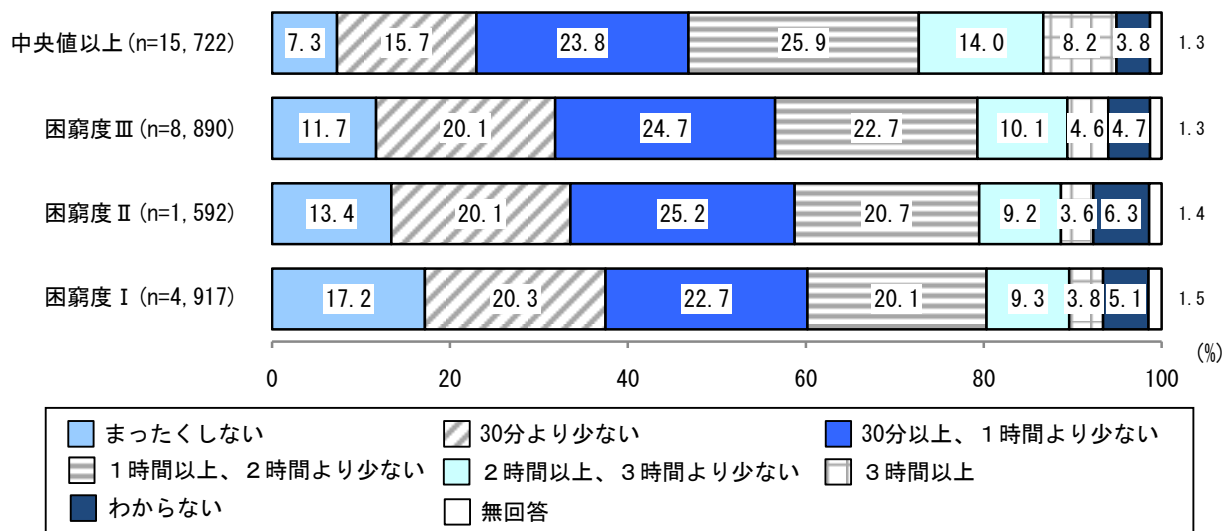


図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群で43.5%と最も高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「ほとんどない」と回答した人は39.4%、「まったくない」と回答した人は39.4%である。

困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



<門真市>

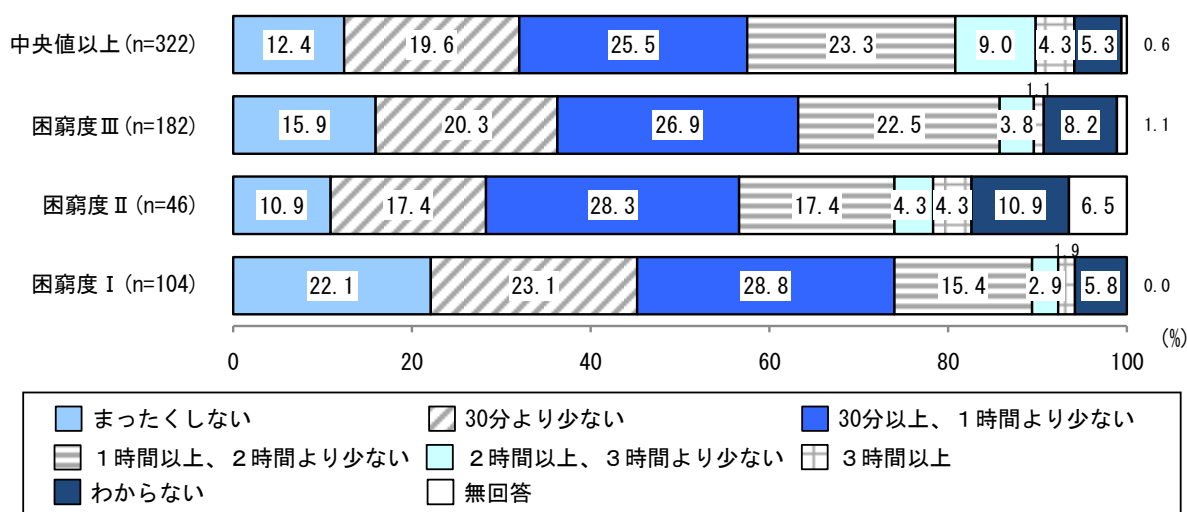
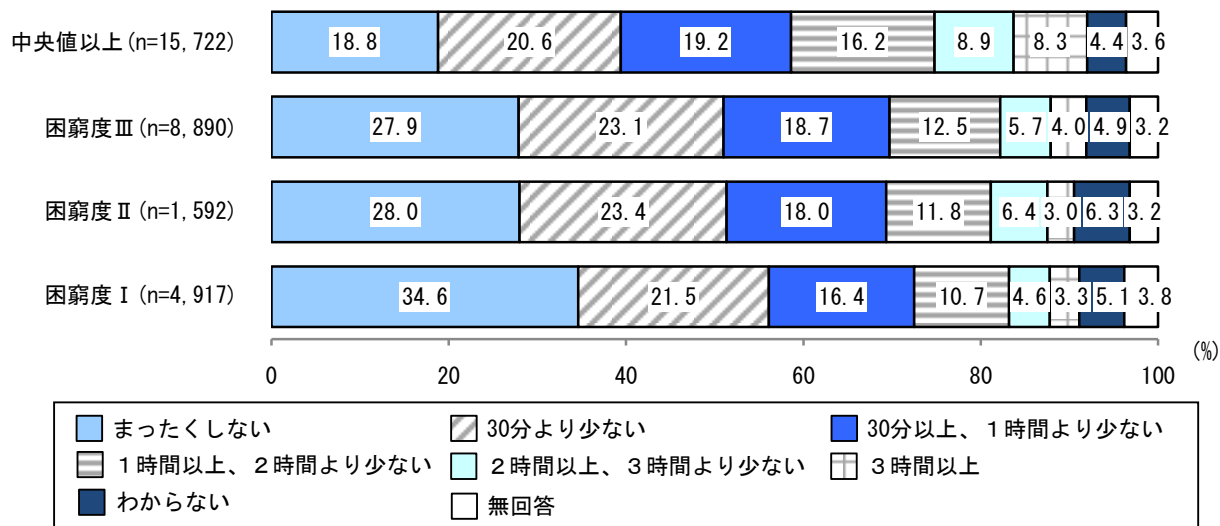


図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校のある日では、「まったくしない」と回答した人の割合は困窮度Ⅰ群で22.1%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）
（子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<門真市>

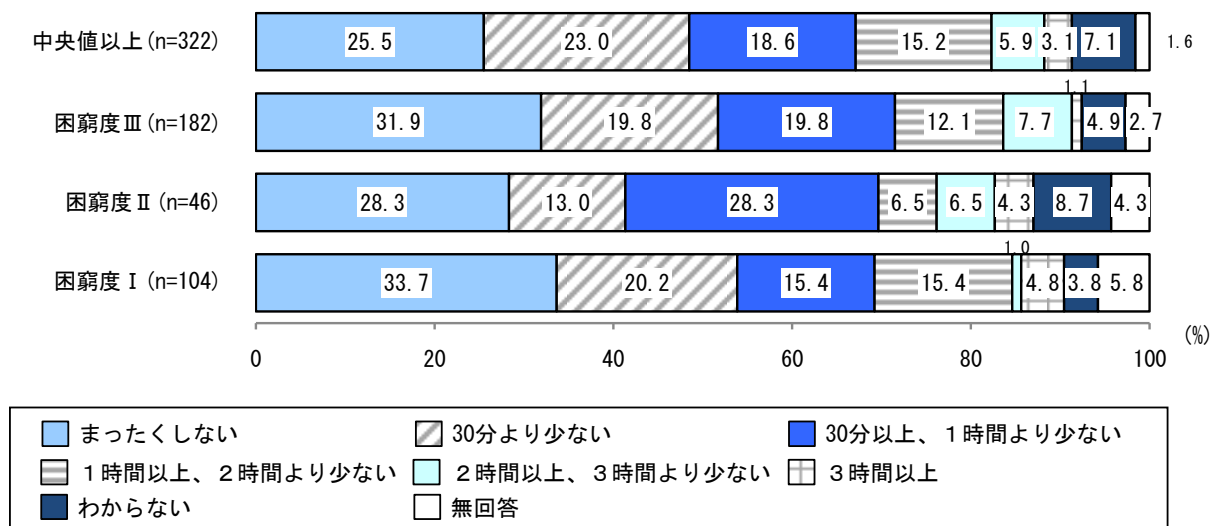
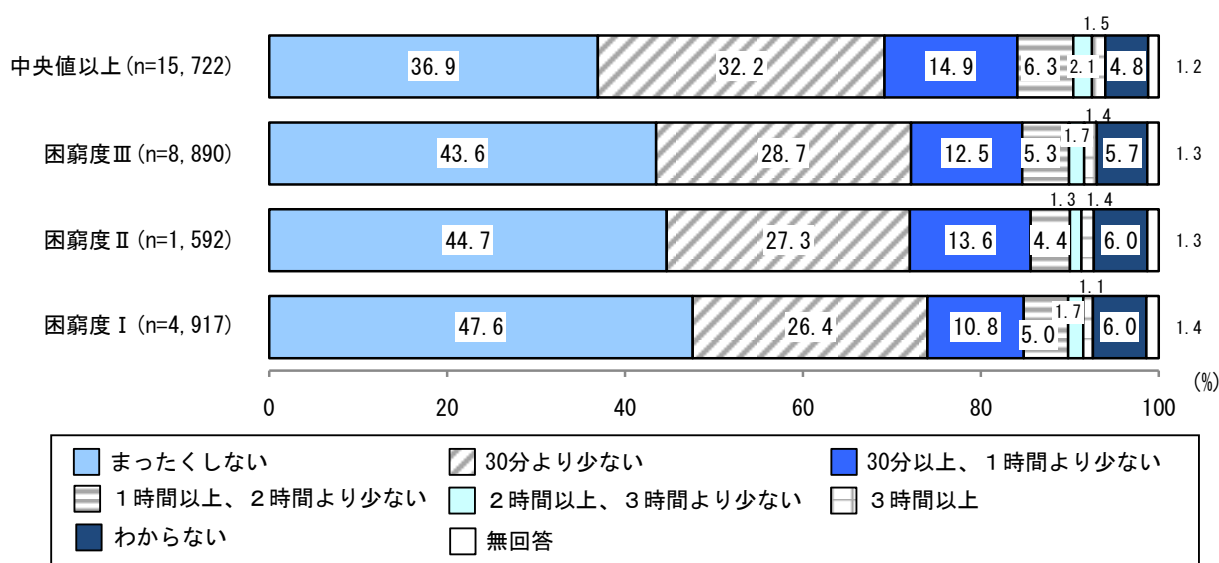


図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校がない日では、困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は33.7%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<門真市>

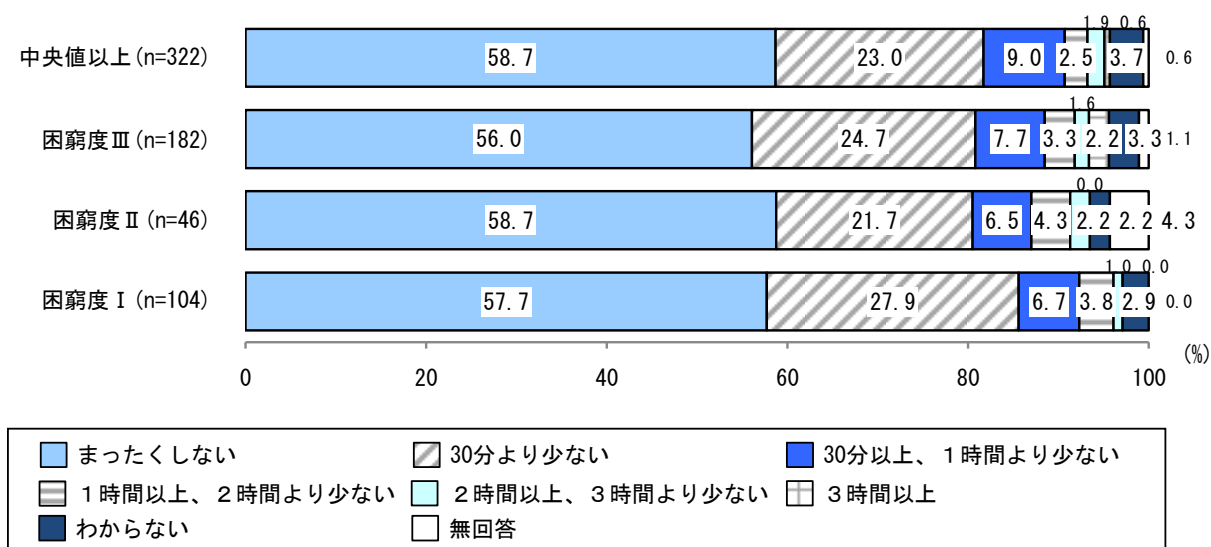
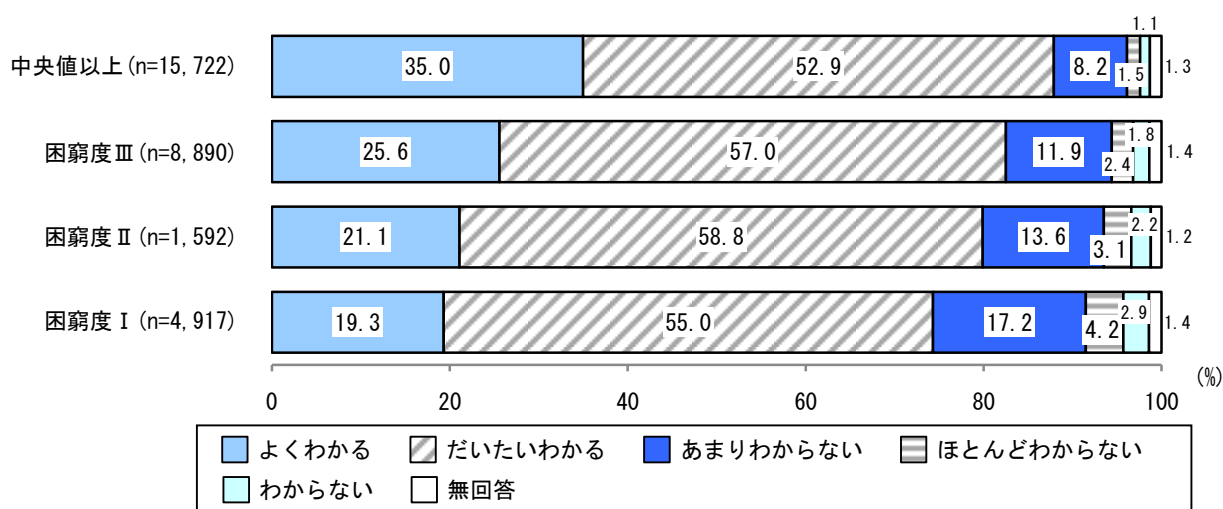


図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は、中央値以上群と困窮度Ⅱ群でともに58.7%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

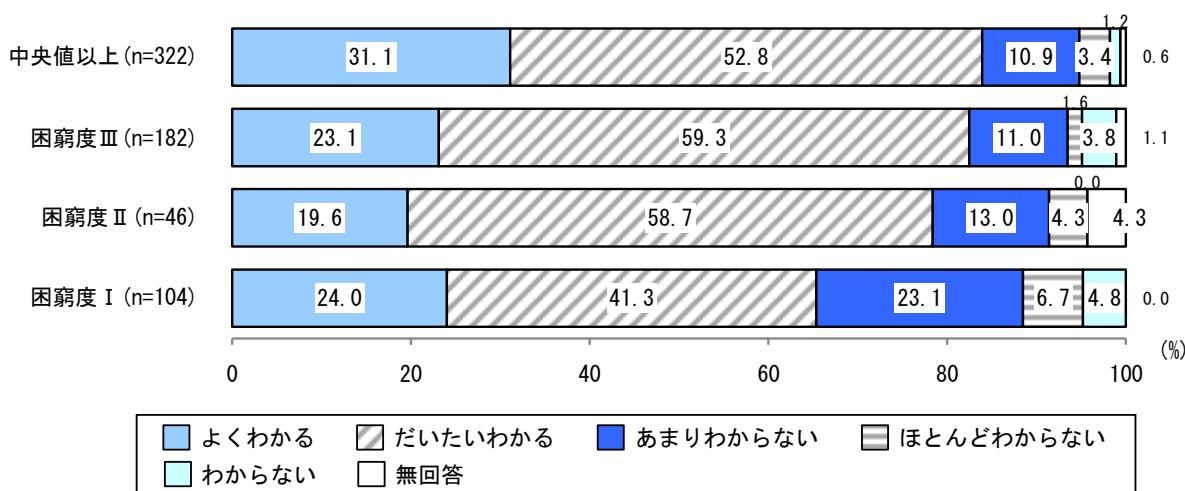


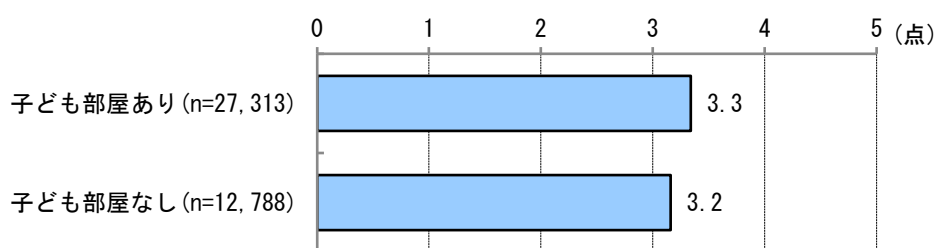
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、困窮度Ⅰ群では、「ほとんどわからない」と回答した人は6.7%と最も高くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日
(月～金曜日)(子ども票問21×子ども票問13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪府内全体>



<門真市>

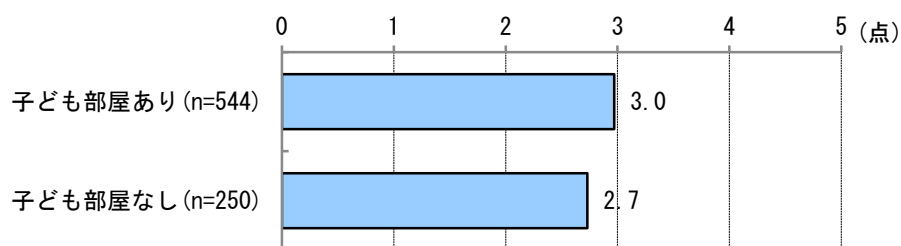
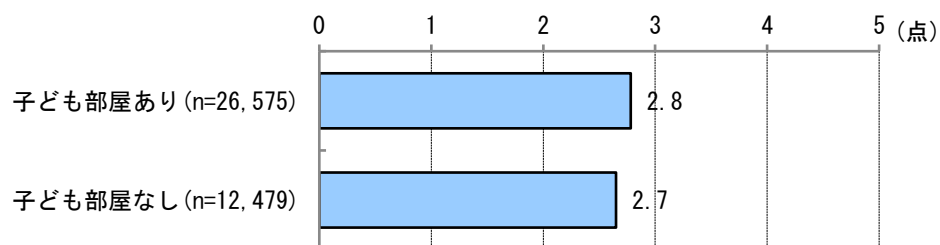


図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日
(土・日曜日・祝日)(子ども票問21×子ども票問13②)

<大阪府内全体>



<門真市>

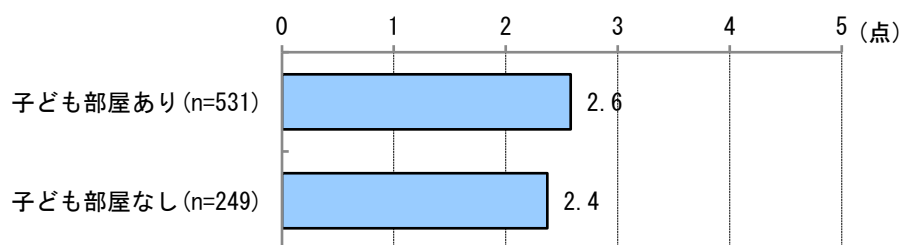
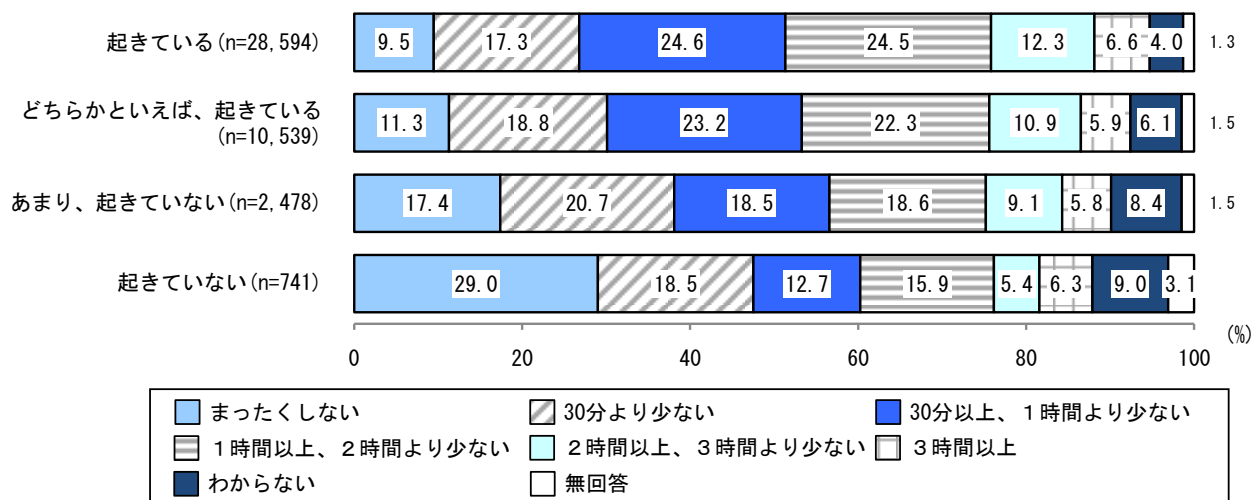


図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問2×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<門真市>

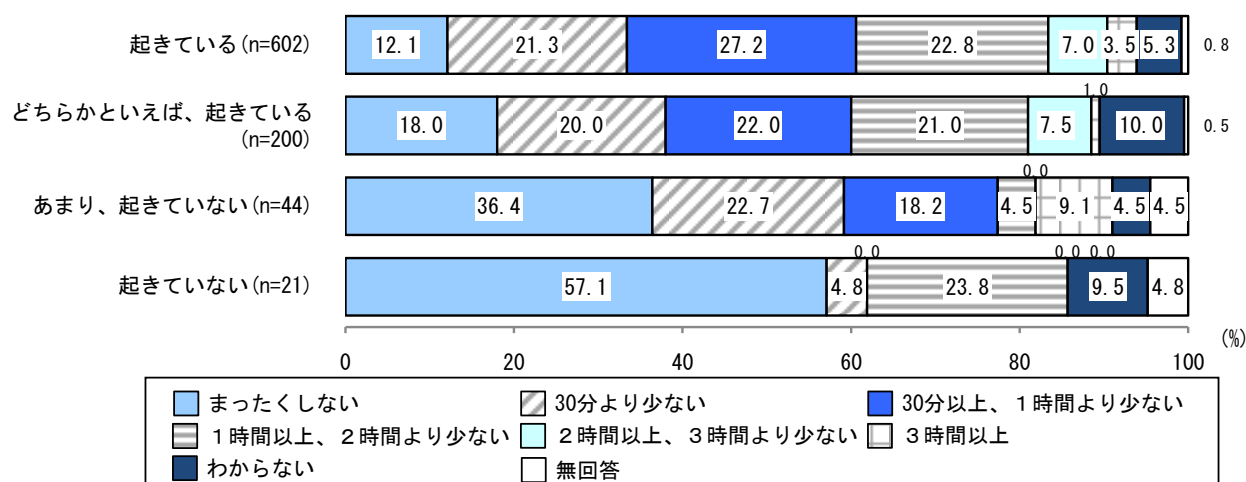
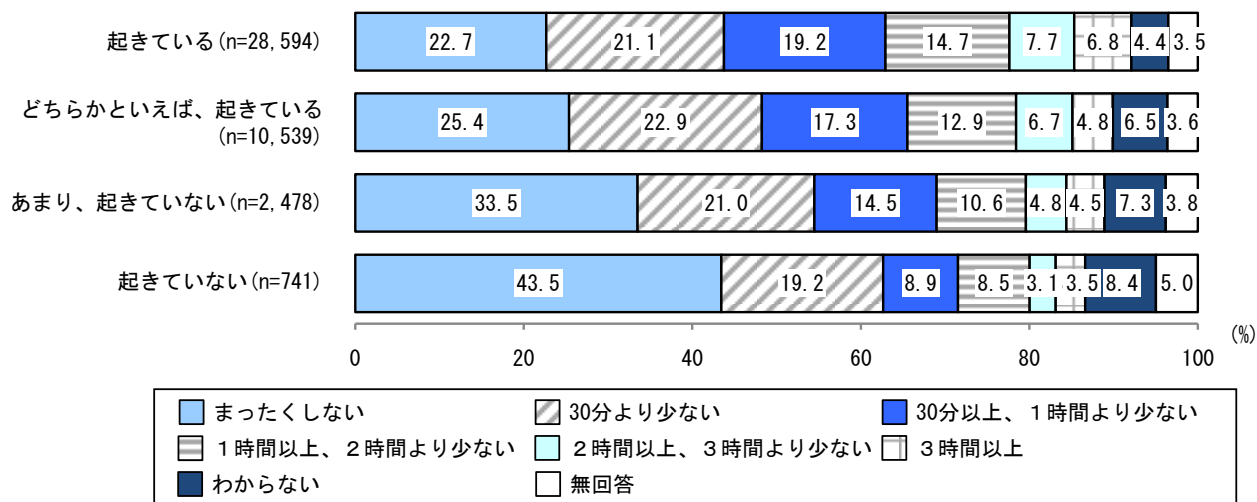


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「30分以上、1時間より少ない」の割合は「起きています」人の割合が最も高くなっている。一方、「まったくしない」の割合は「起きていない」人が57.1%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問2×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<門真市>

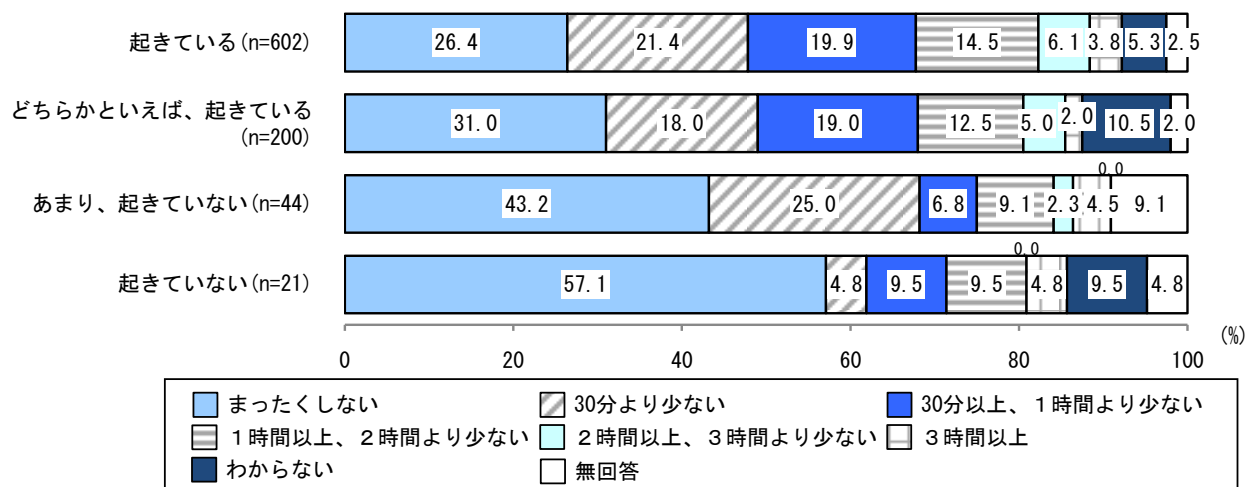
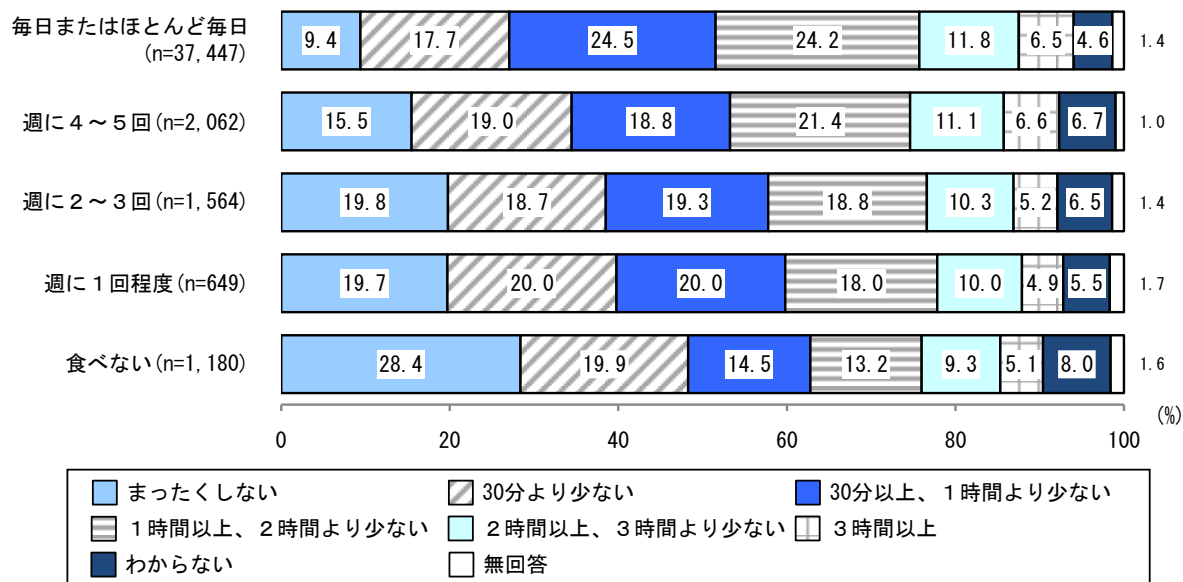


図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」の割合は「起きています」人の割合が最も高くなっている。一方、「まったくしない」の割合は「起きていない」人が57.1%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<門真市>

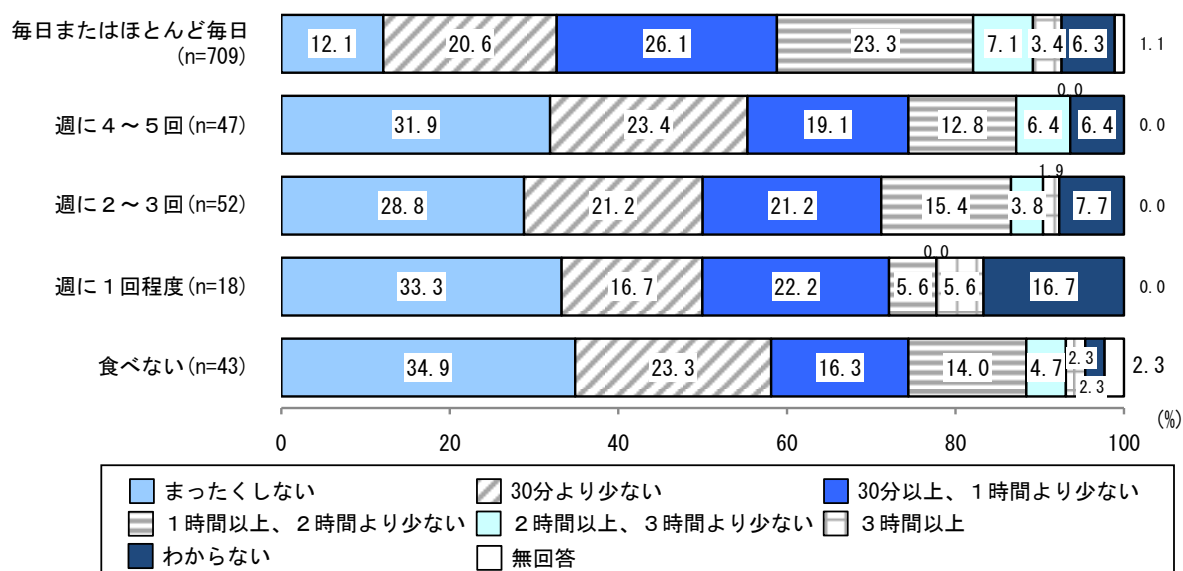
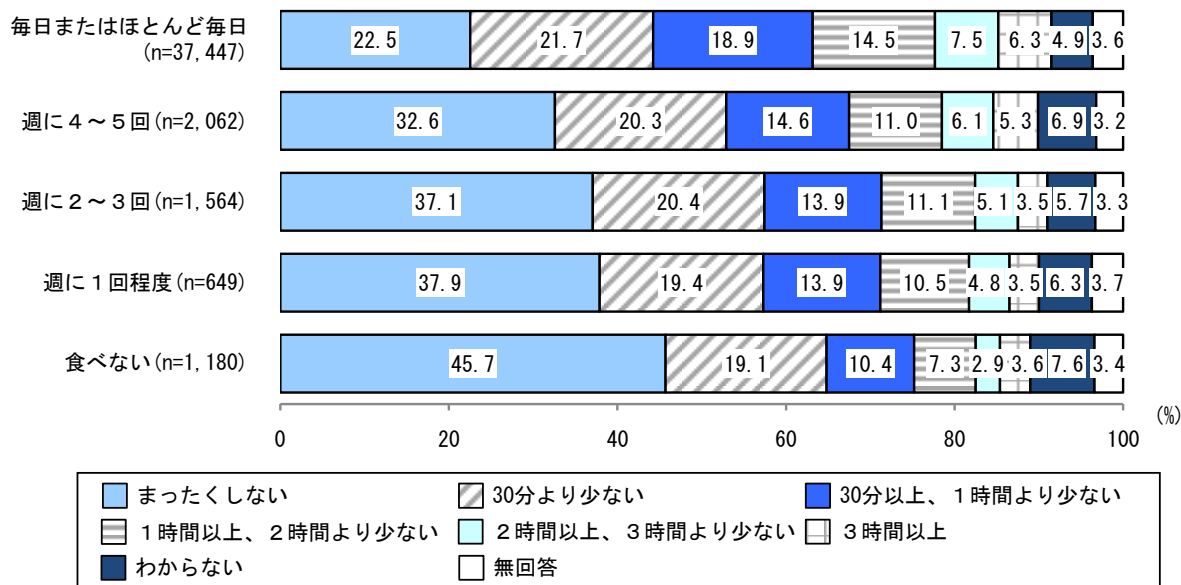


図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は、「食べない」人が34.9%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<門真市>

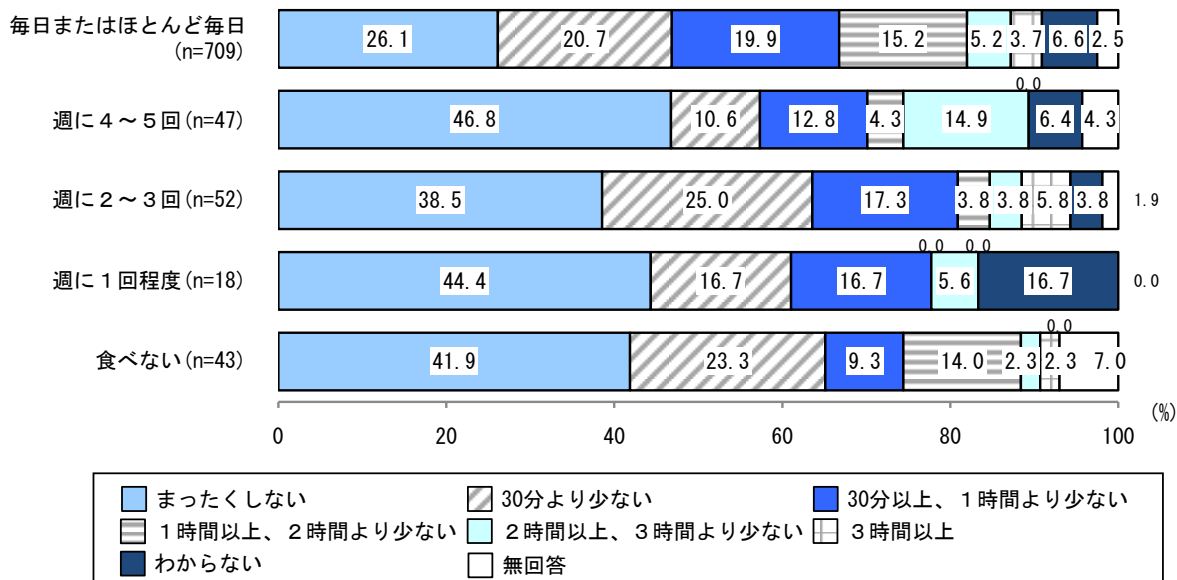
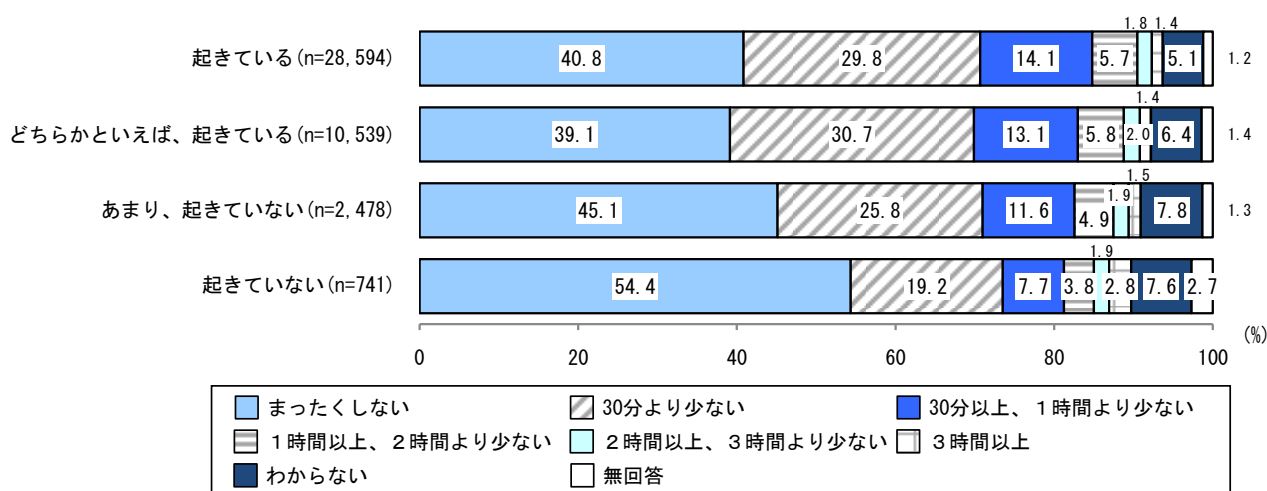


図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「週に4〜5回」朝食を食べる人が46.8%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<門真市>

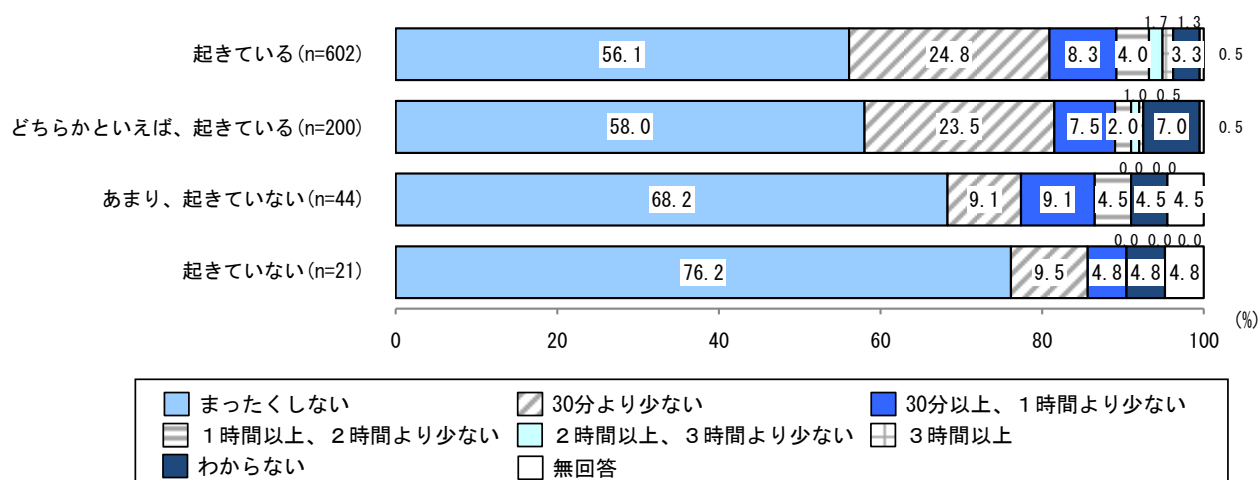
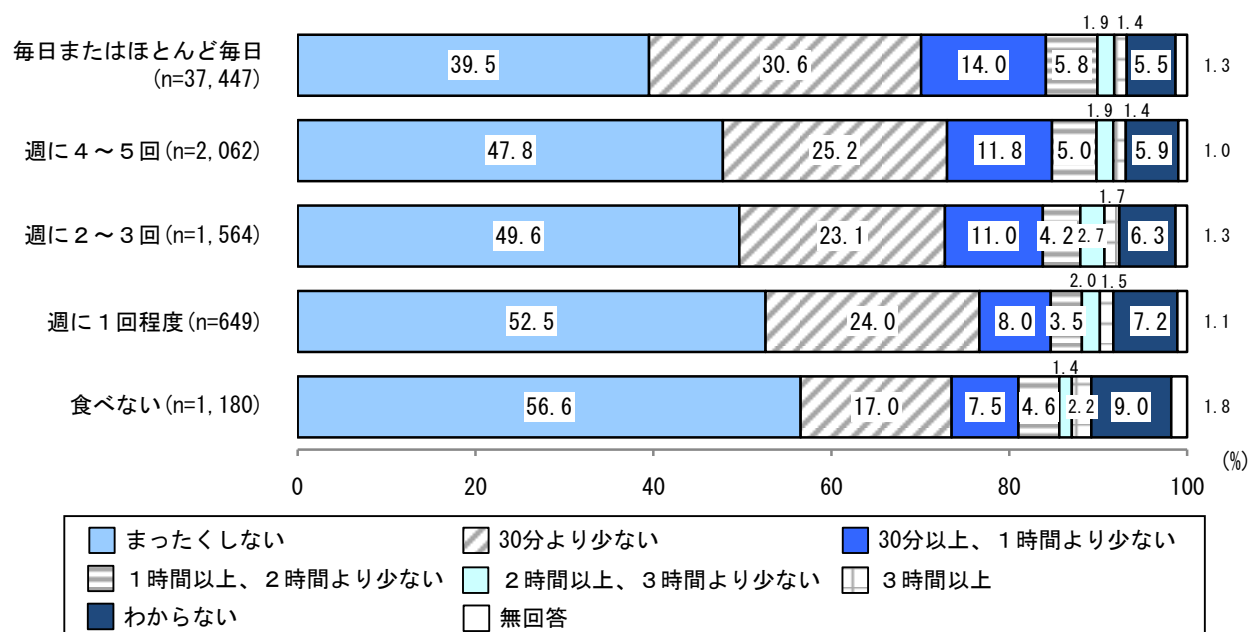


図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど、「まったくしない」と回答した割合が高くなっている。「起きていない」人では、「まったくしない」と回答した人は76.2%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問4(1)×子ども票問15)

<大阪府内全体>



<門真市>

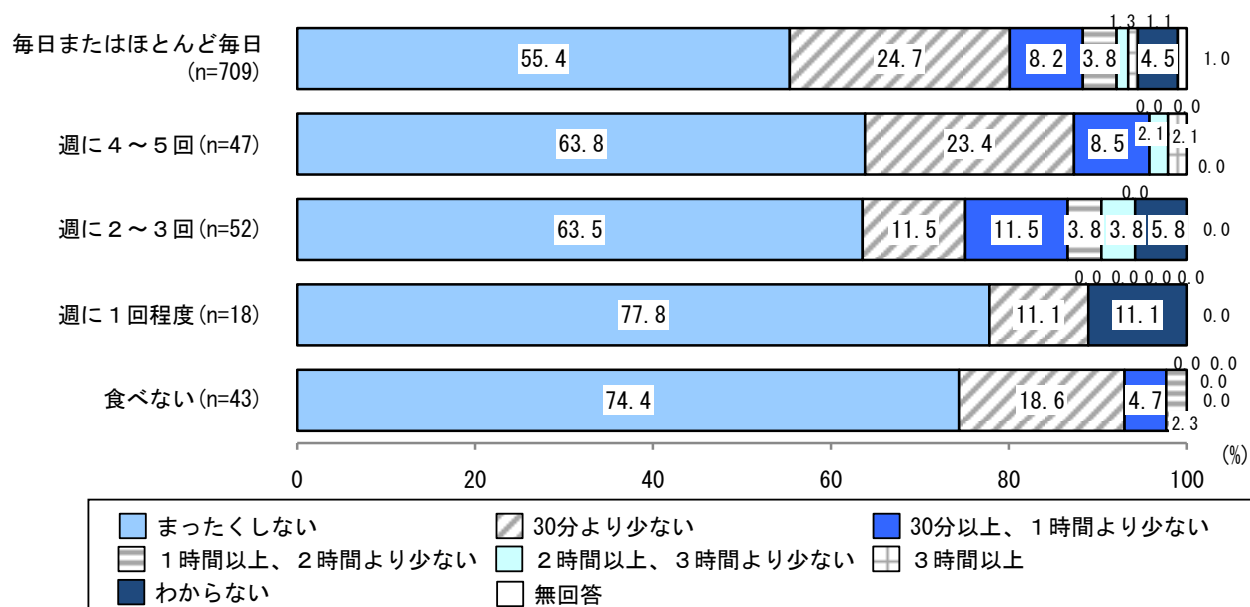
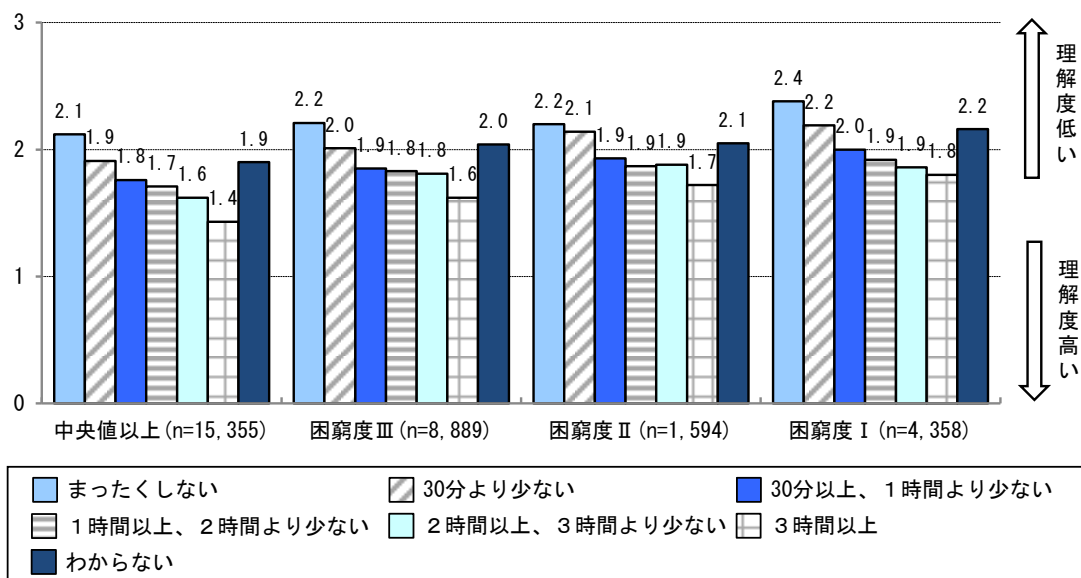


図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した人は「週に1回程度」朝食を食べる人が77.8%と最も高く、次いで「食べない」人が74.4%となっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<門真市>

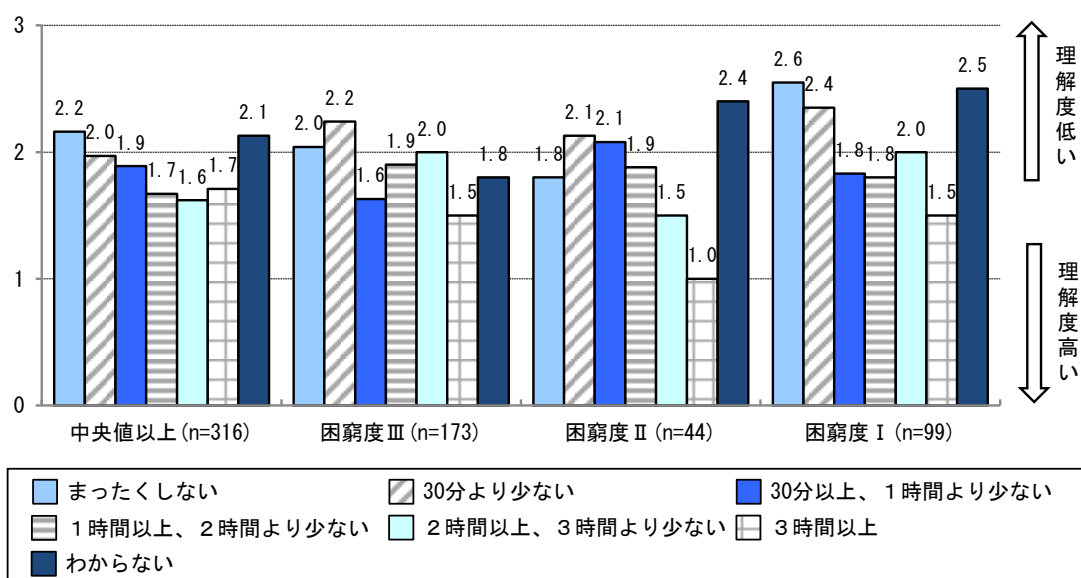
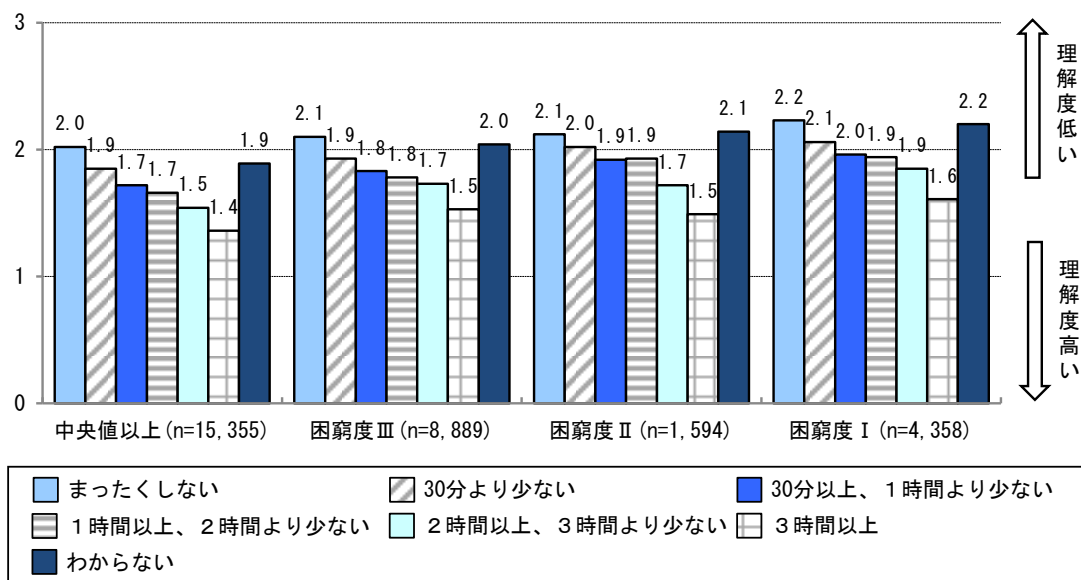


図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群の子どもは「まったくしない」の学習理解度が、他の勉強時間に比べて下がっている。中央値以上群以外の群の子どもは、「3時間以上」の学習理解度がほかに比べて上がっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<門真市>

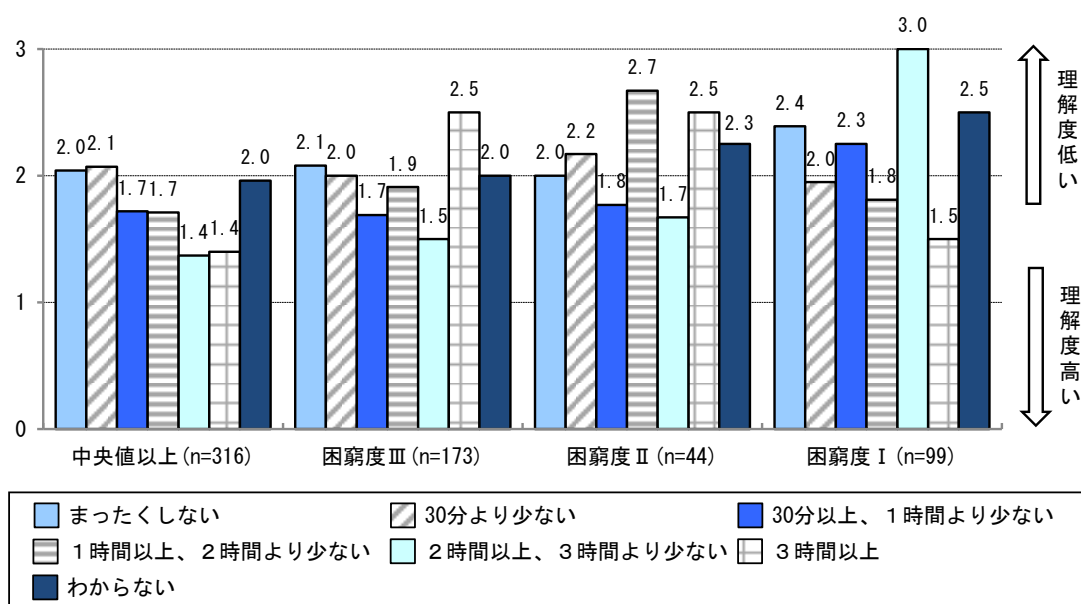
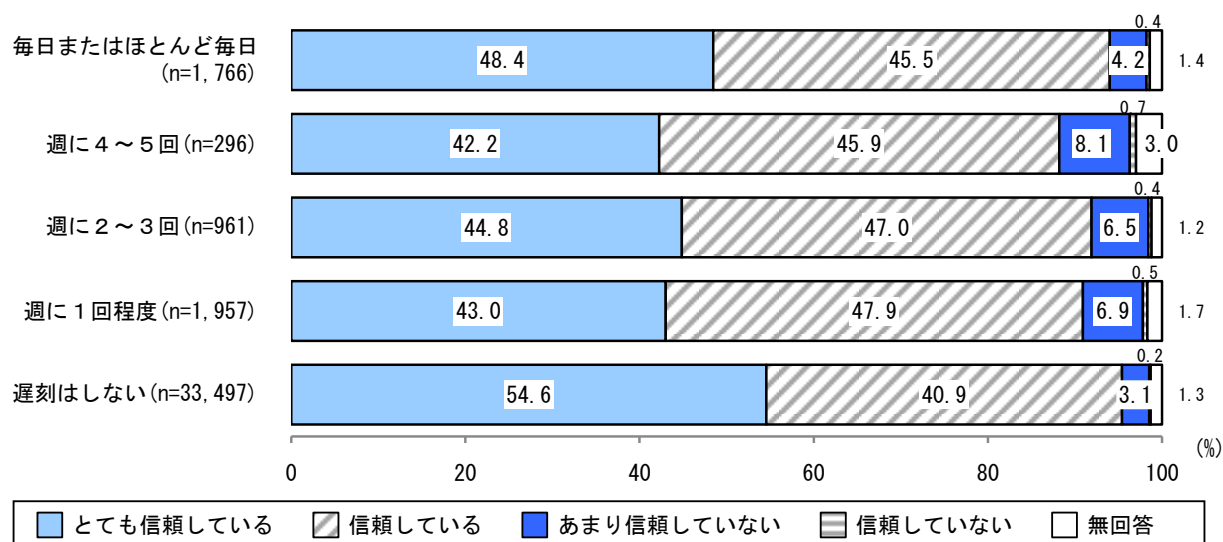


図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上の群の子どもは、勉強時間が長くなるほど、学習理解度が概ね高まるが、それ以外の群の子どもは学習時間と学習理解度が関連しない。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問7×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

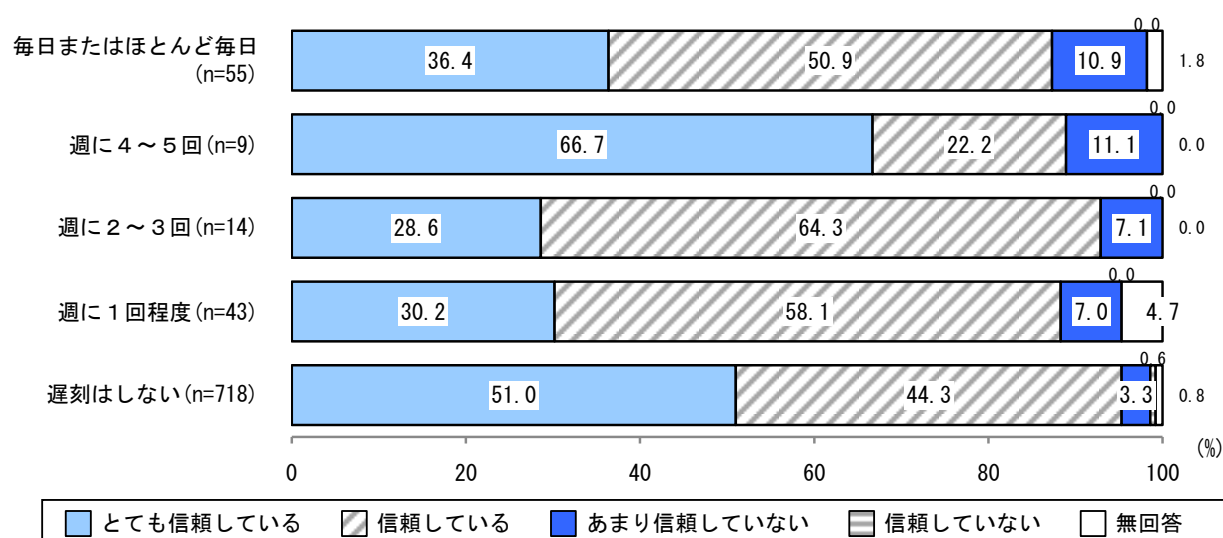
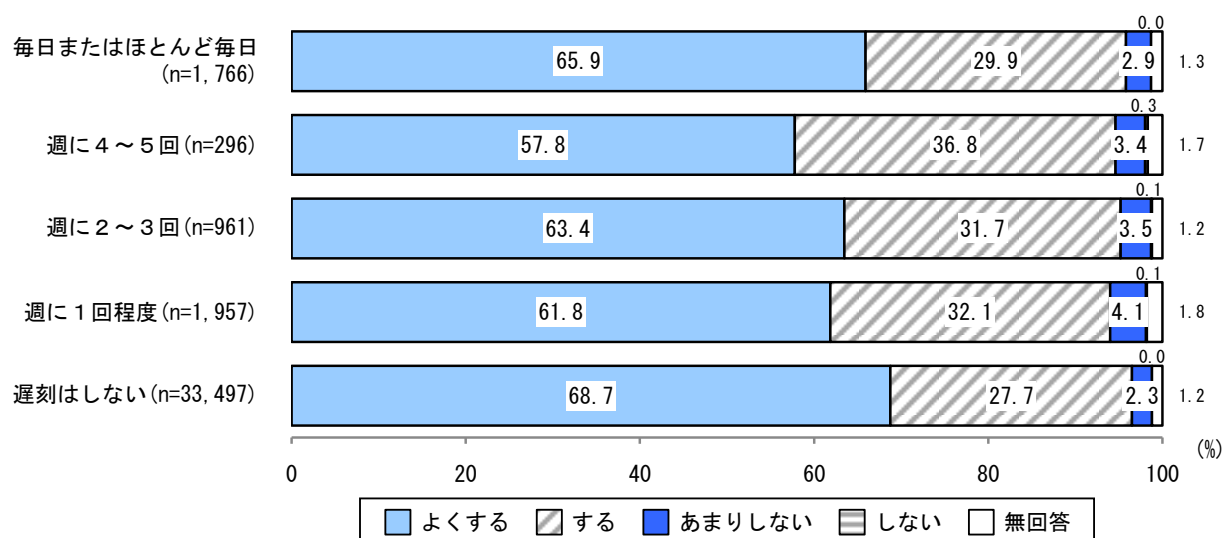


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが、「とても信頼している」と回答した割合は、「週に4～5回」遅刻する子どもが66.7%と最も高く、次いで「遅刻はしない」子どもが51.0%である。また「週に4～5回」の子どもにおいては、「あまり信頼していない」割合も高く、11.1%である。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<門真市>

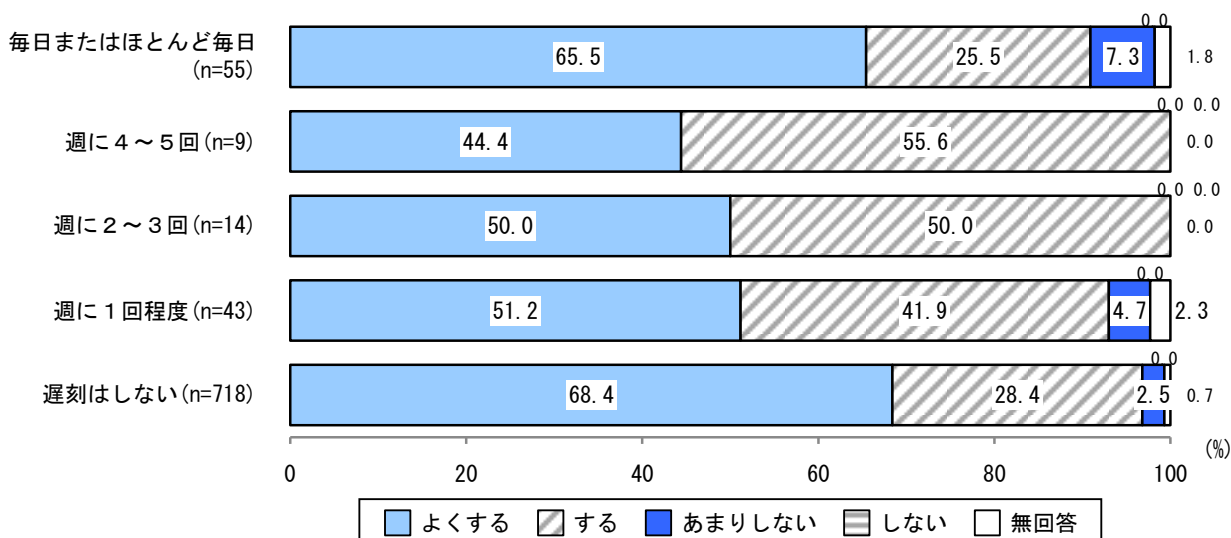
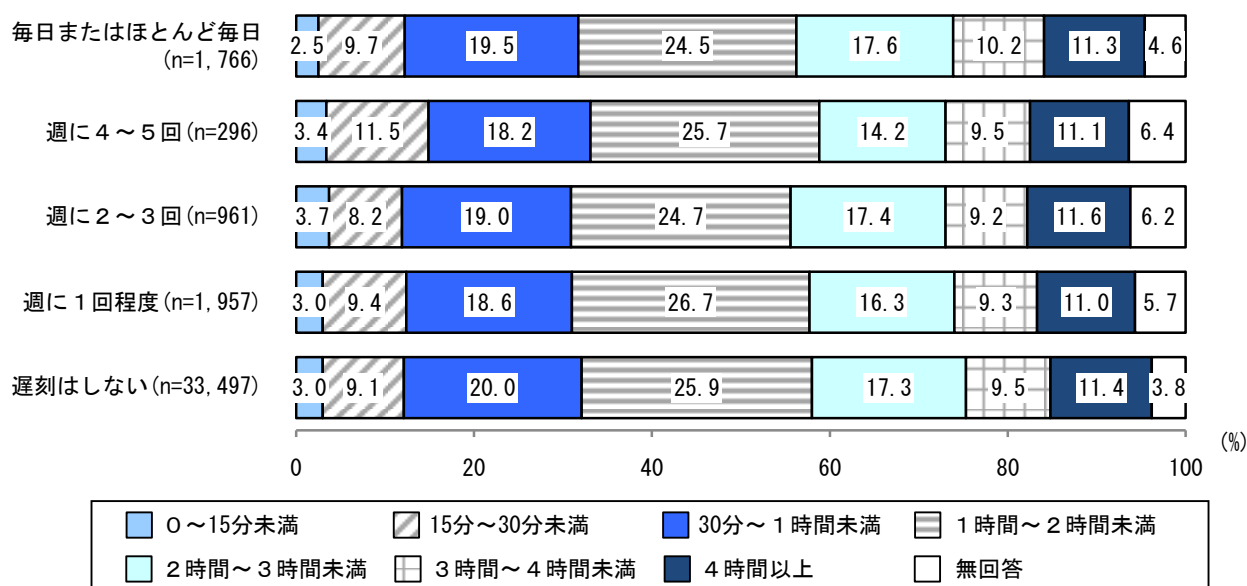


図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、「遅刻はしない」の子どもにおいては、会話を「よくする」割合が高く、68.4%である。次いで「毎日またはほとんど毎日」の子どもが65.5%である。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<門真市>

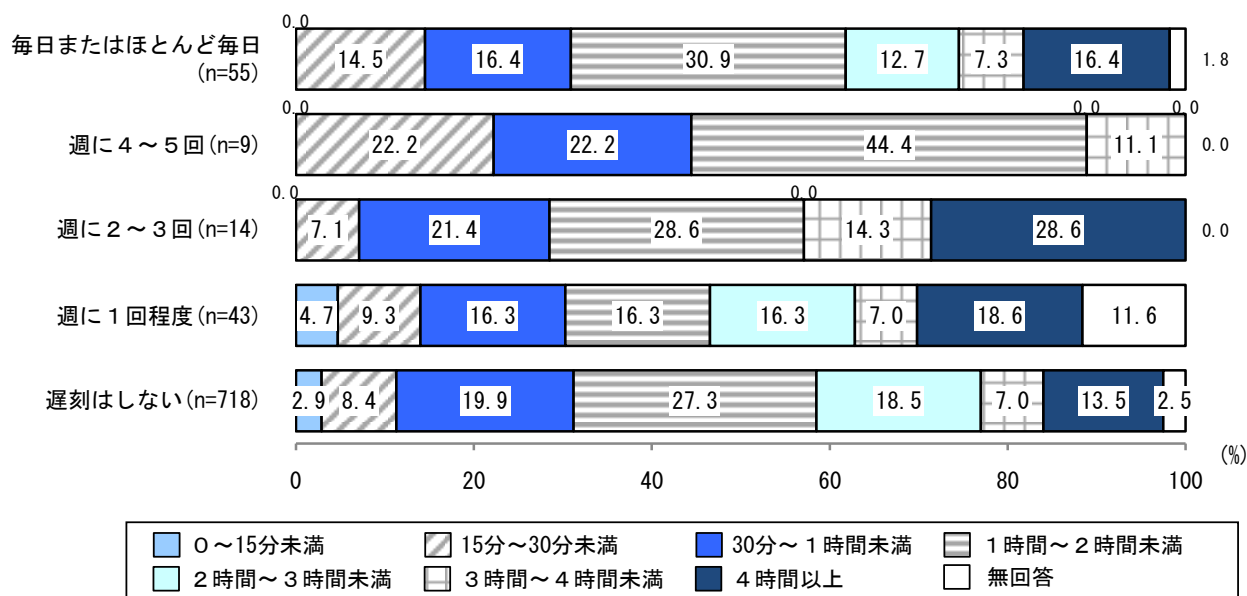
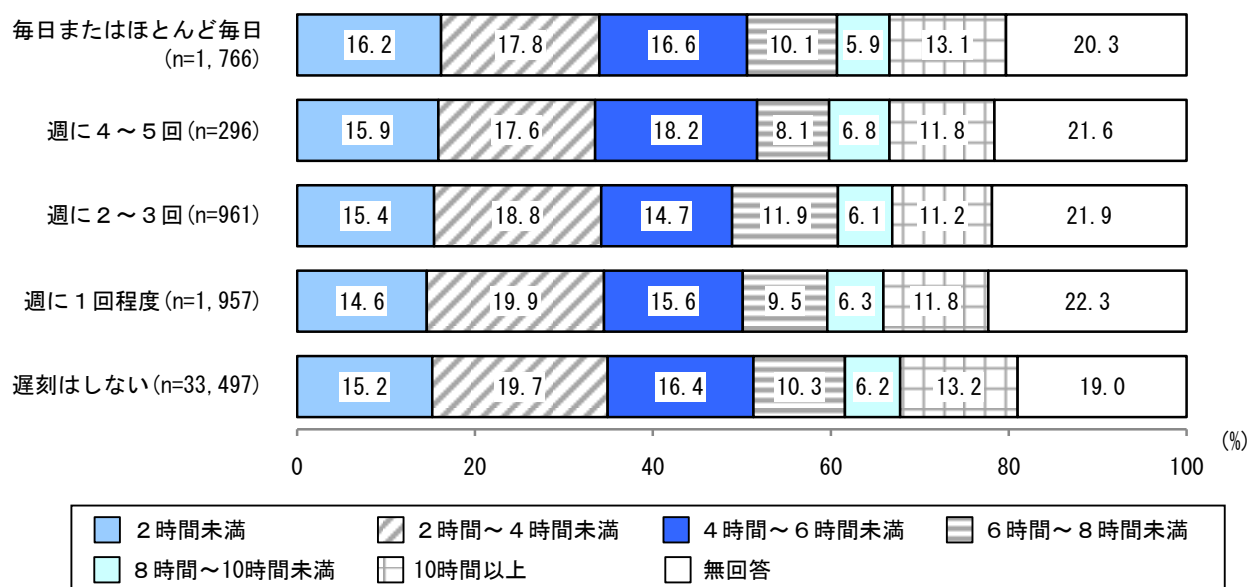


図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「週に4～5回」の子どもにおいては、「15分～30分未満」（22.2%）、「30分～1時間未満」（22.2%）、「1時間～2時間未満」（44.4%）の割合が最も高くなっている。「週に2～3回」の子どもにおいては、「4時間以上」（28.6%）の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<門真市>

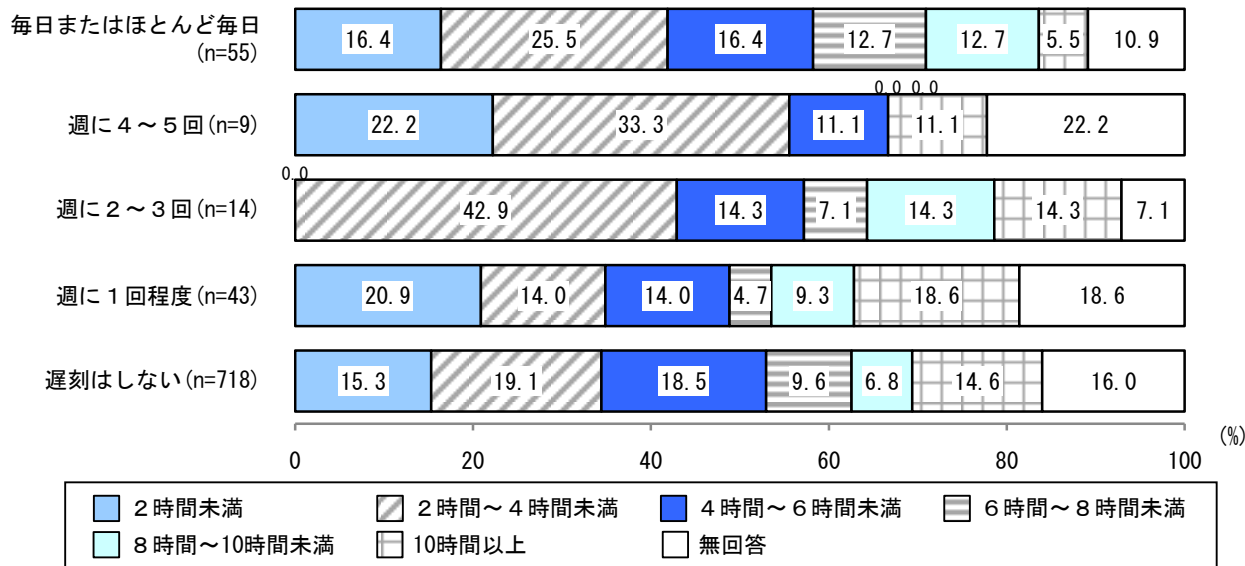
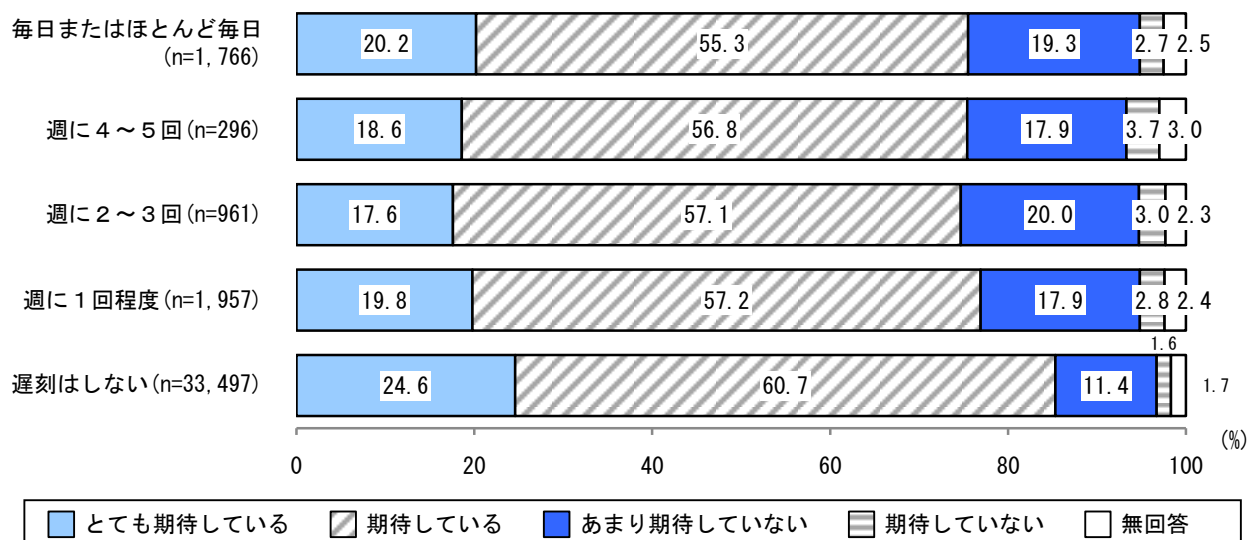


図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「週に1回程度」の子どもにおいては、「10時間以上」（18.6％）の割合が最も高くっている。また、「週に2～3回」の子どもにおいては、「2時間～4時間未満」（42.9％）の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<門真市>

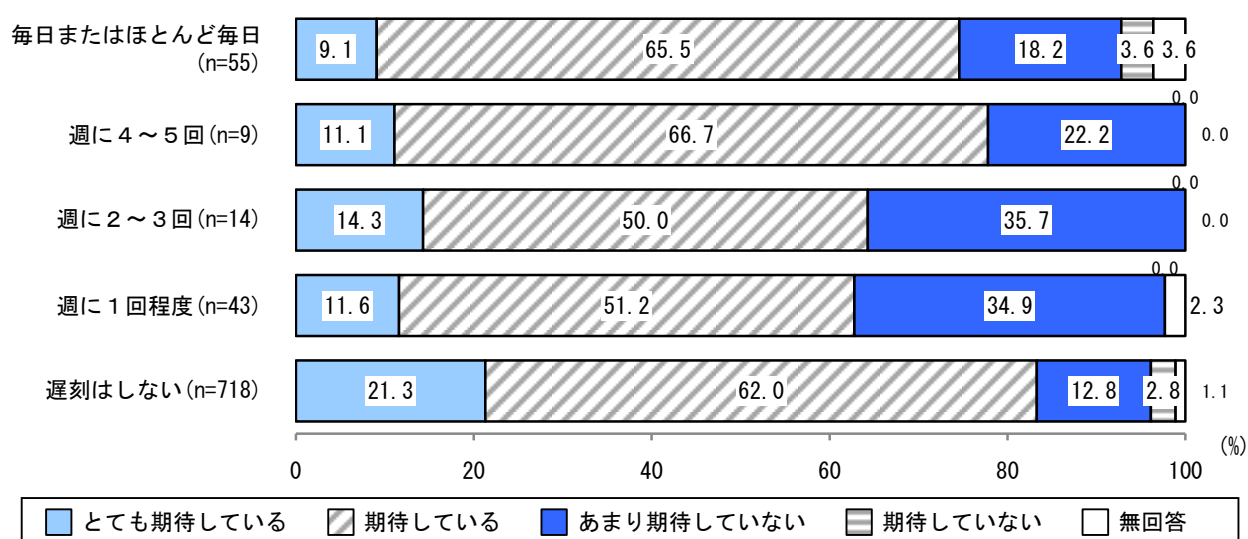
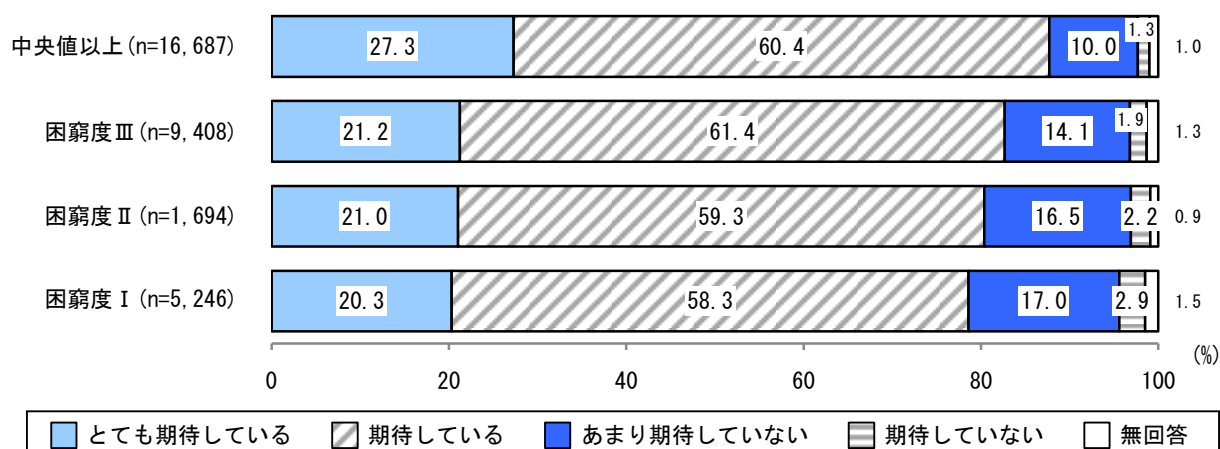


図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、「遅刻はしない」の子どもにおいては、「とても期待している」の割合が21.3%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<門真市>

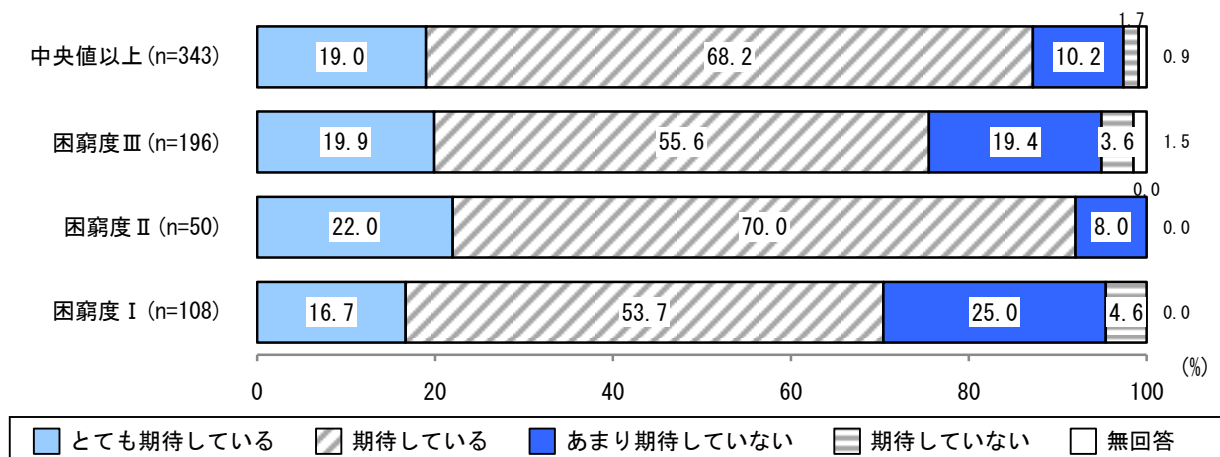
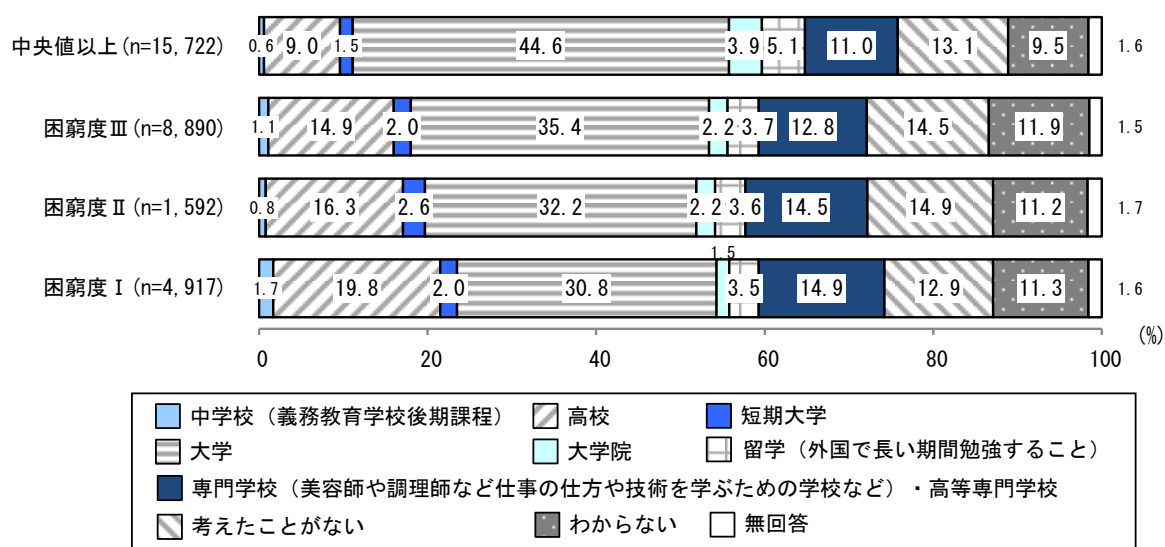


図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると、困窮度Ⅱ群では「とても期待している」の割合は22.0%、「期待している」の割合は70.0%で最も高くなっている。また、困窮度Ⅰ群では「あまり期待していない」の割合が25.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<門真市>

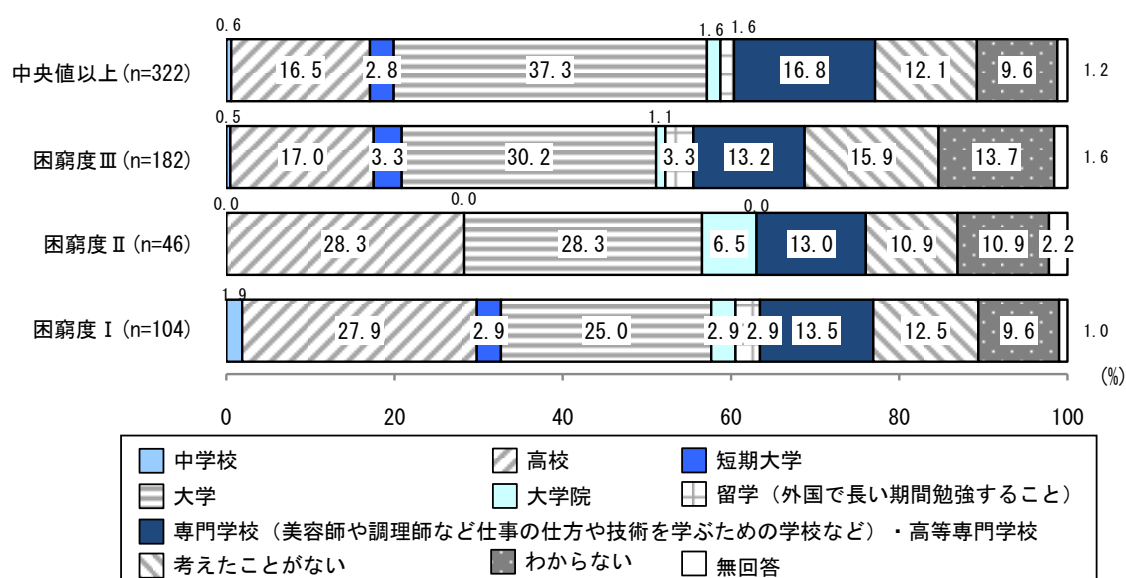
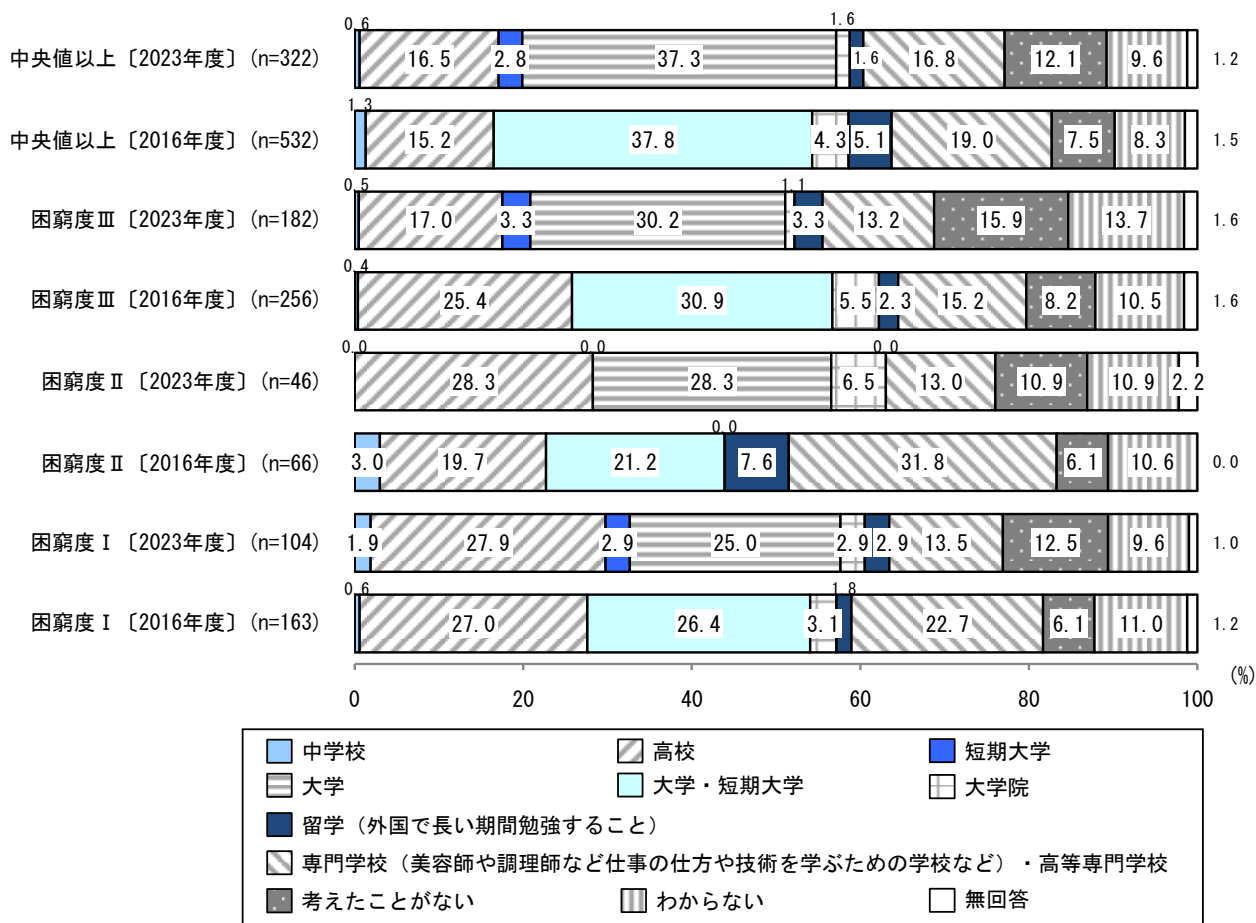


図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、「中学校」「高校」を合わせた高校卒業までの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した子どもは合計29.8%である。中央値以上群において「大学」と回答した割合は高く、37.3%である。

<2016 年度調査との比較／門真市>



※1 「短期大学」「大学」は、2016 年度調査では「大学・短期大学」

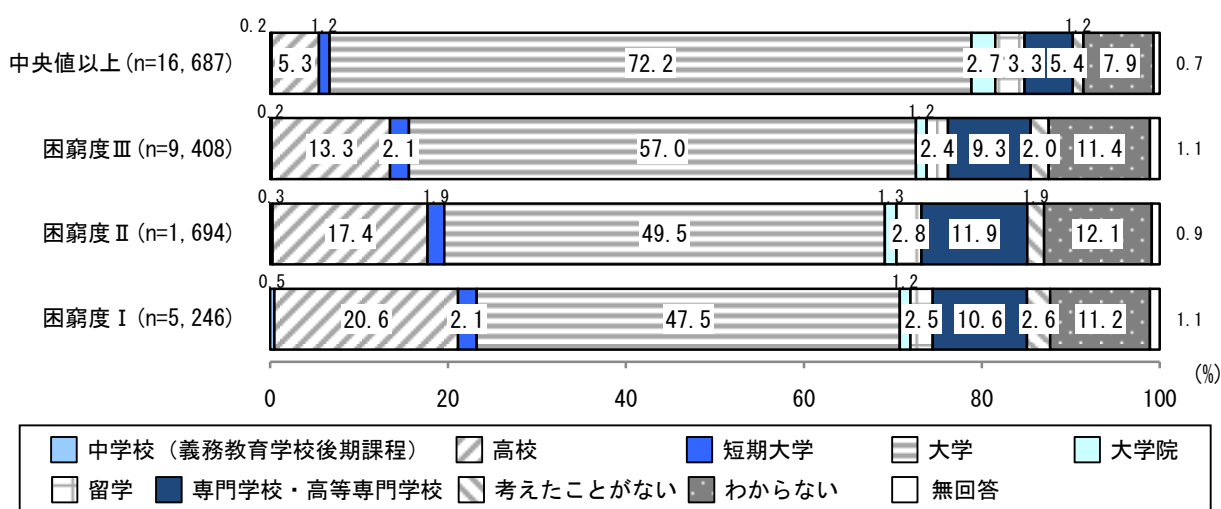
※2 「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」は、2016 年度調査では「専門学校」

図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「高校」、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」と回答した割合は、中央値以上群、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅰ群において、2016年度調査に比べて低くなっている。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<門真市>

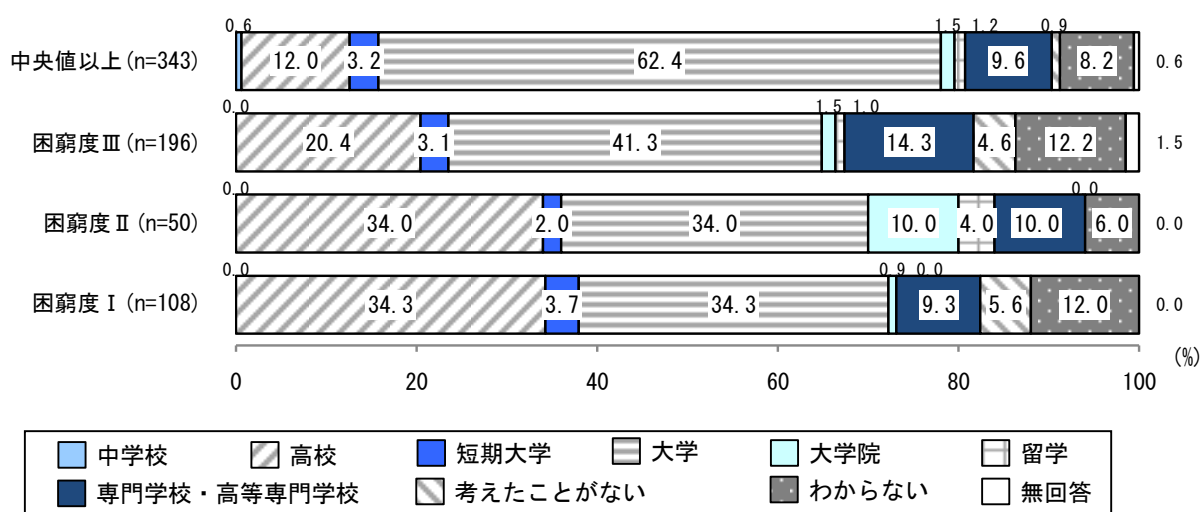
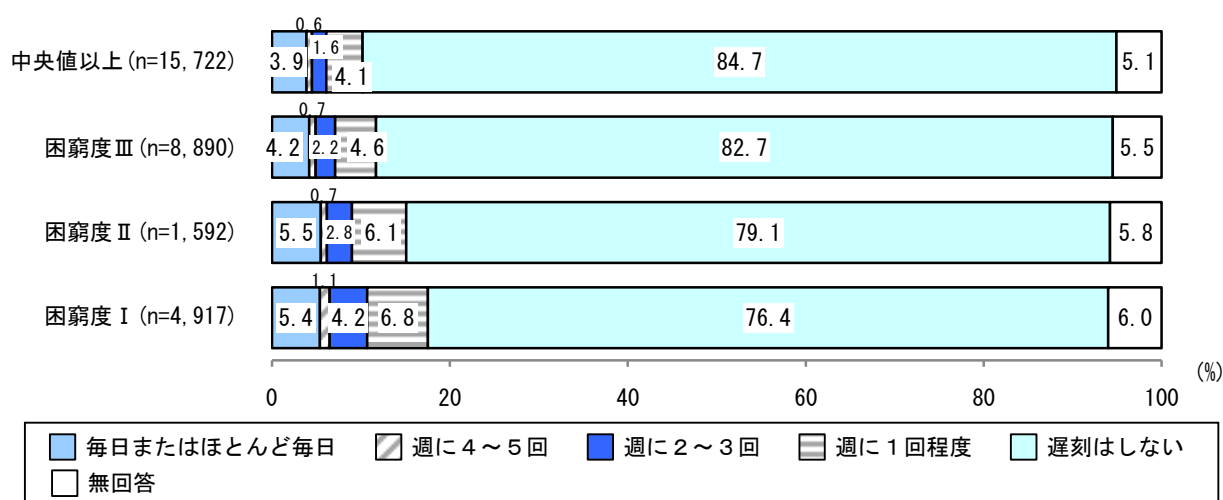


図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」、「高校」と回答した人は合計34.3%である。中央値以上群において「大学」と回答した割合は最も高く、62.4%である。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<門真市>

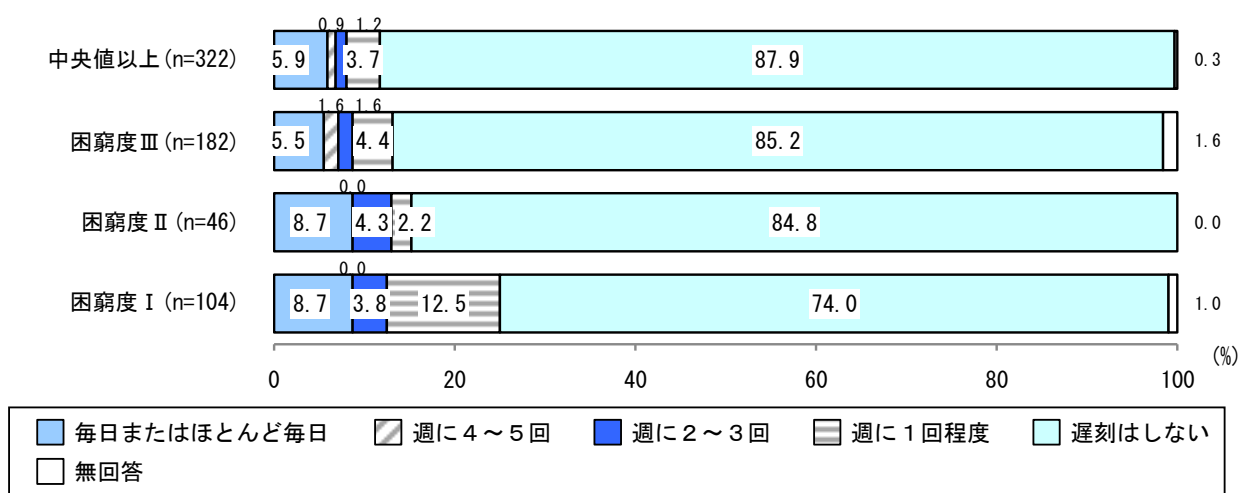
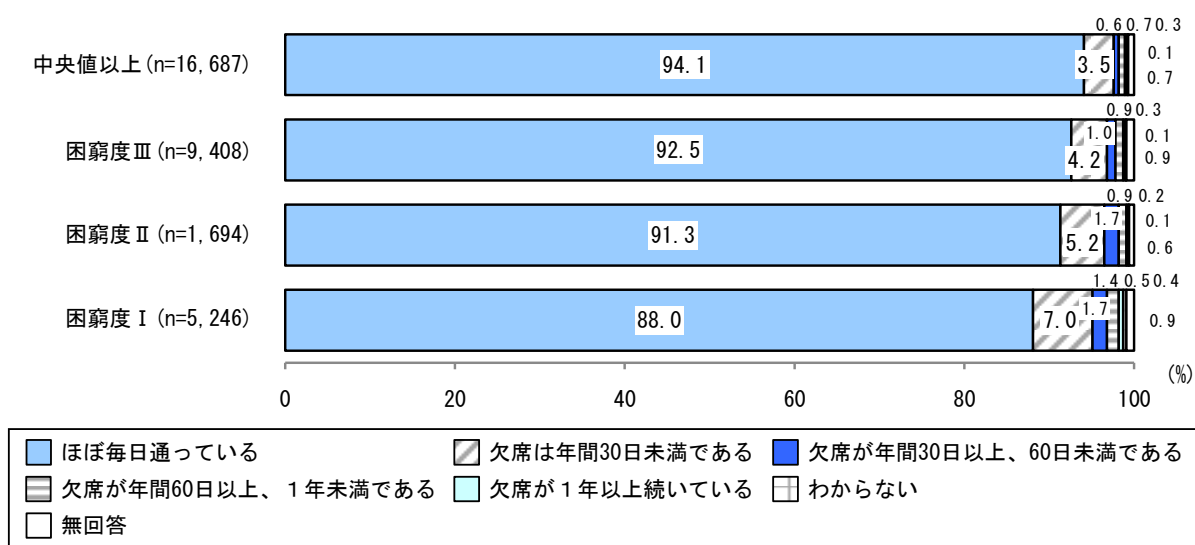


図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「毎日またはほとんど毎日」は困窮度Ⅲ群が5.5%と最も低くなっている。「遅刻はしない」は中央値以上群が87.9%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<門真市>

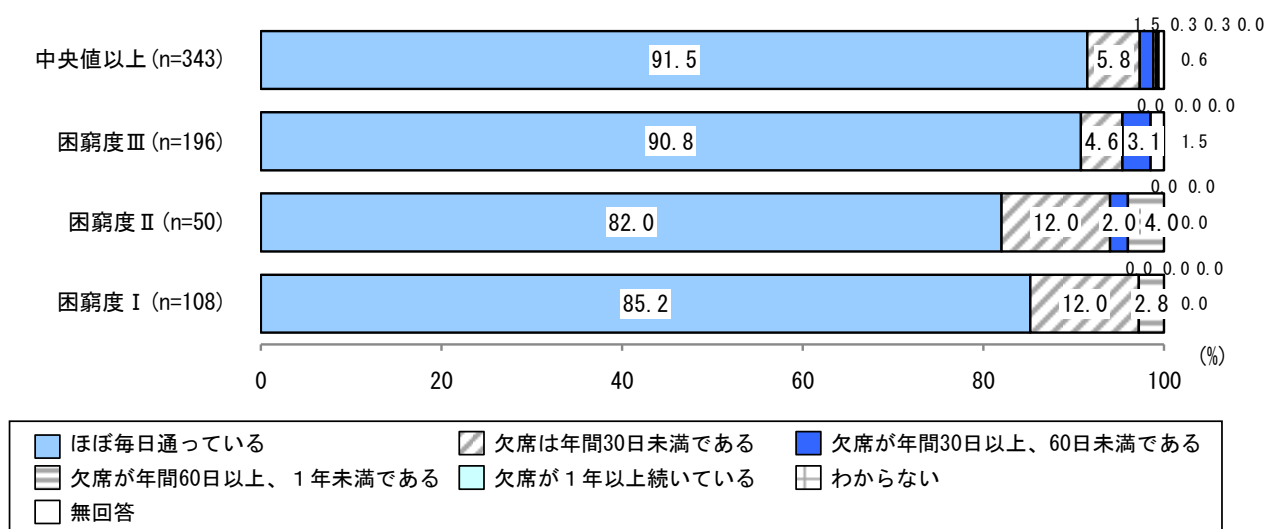
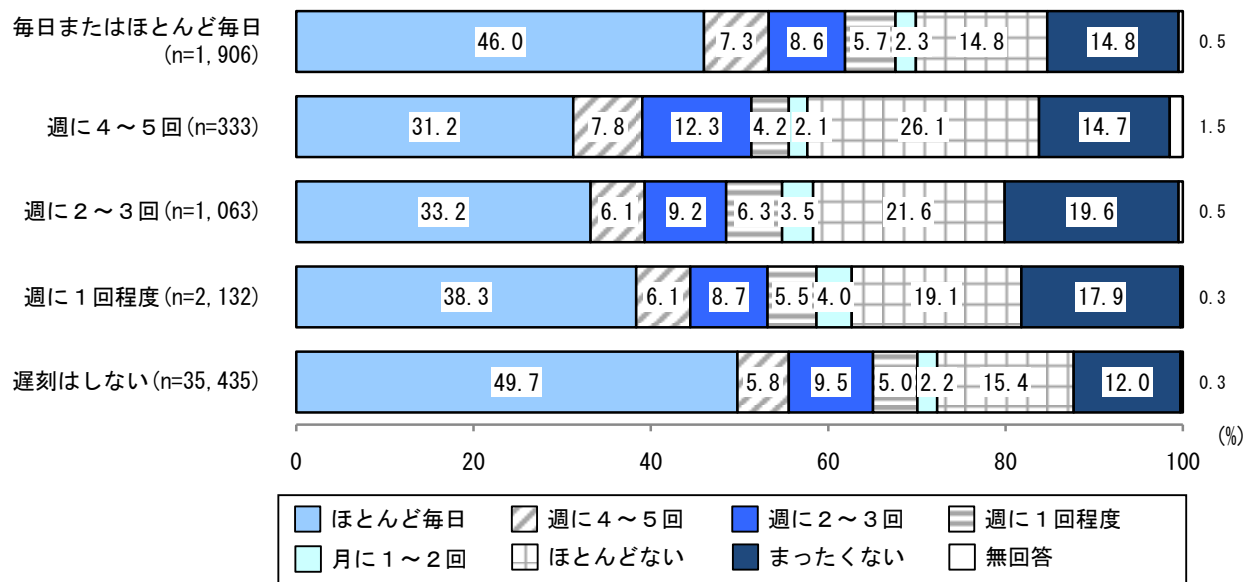


図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群が82.0%と最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<門真市>

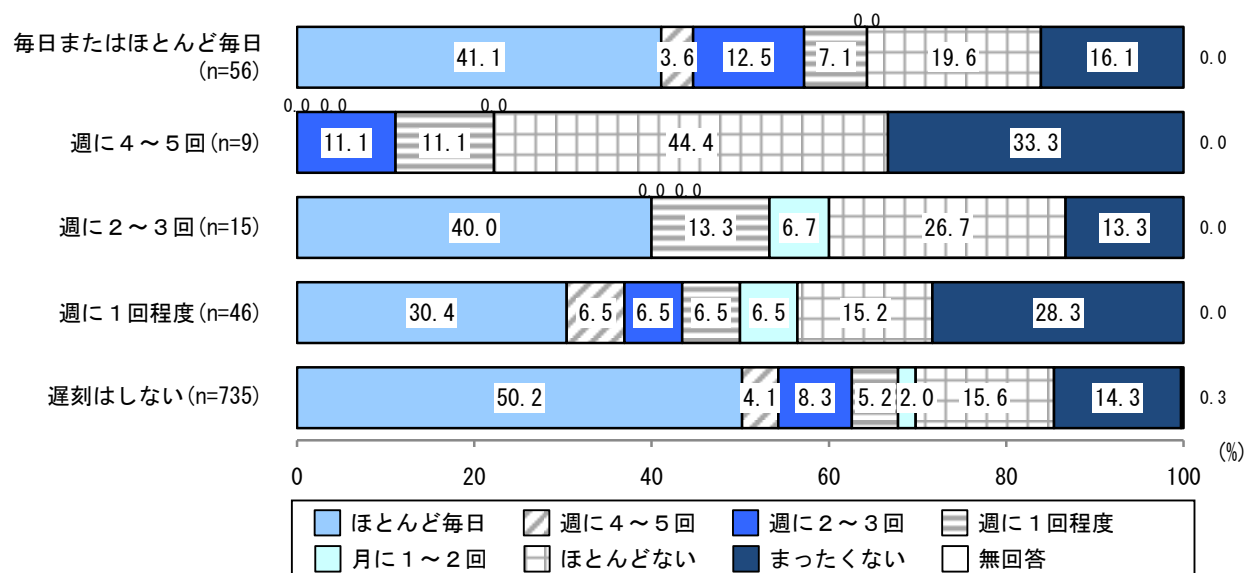
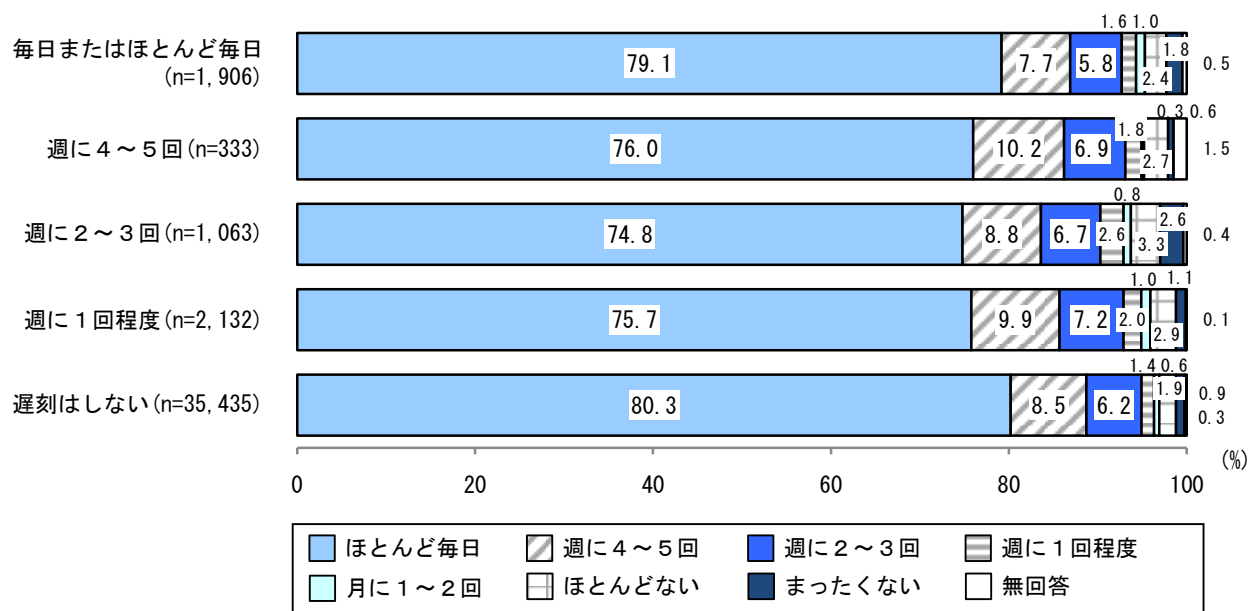


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は「遅刻はしない」子どもが50.2%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は「週に4～5回」遅刻をしている子どもの割合が33.3%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<門真市>

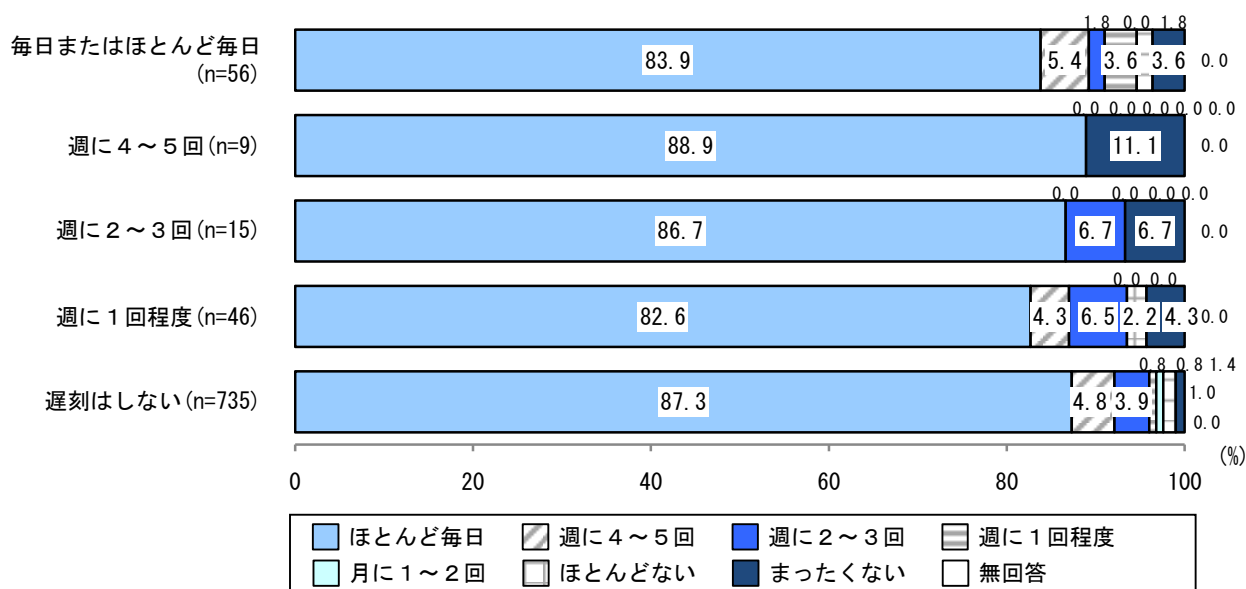
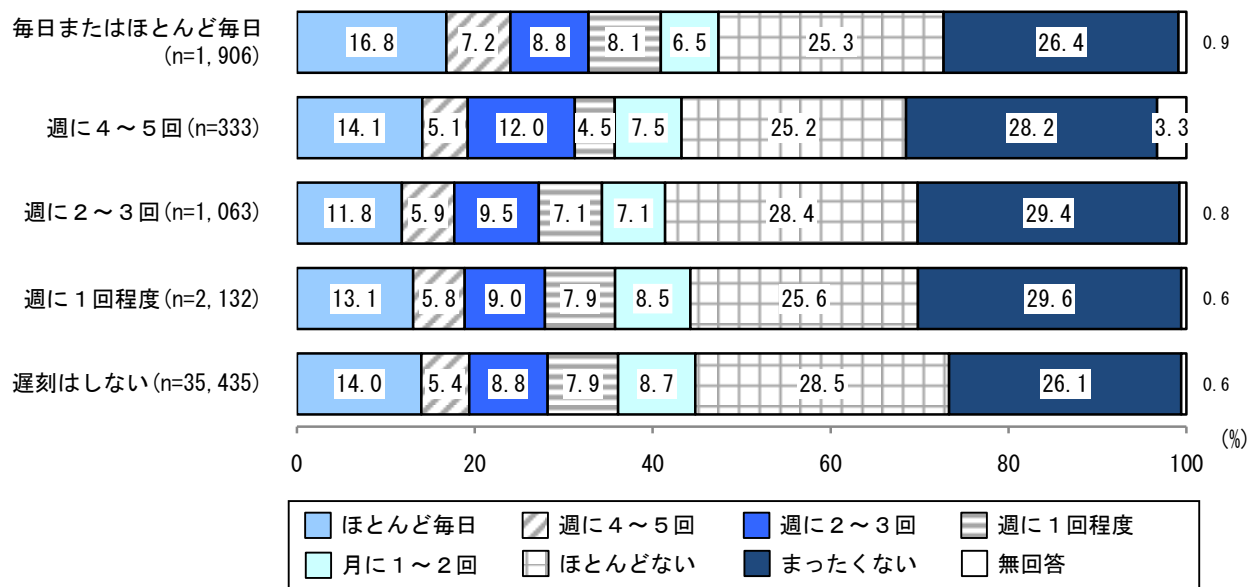


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」と「まったくない」の割合は「週に4～5回」遅刻している子どもがそれぞれ88.9%と11.1%で割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（子ども票問7×保護者票問8⑤）

<大阪府内全体>



<門真市>

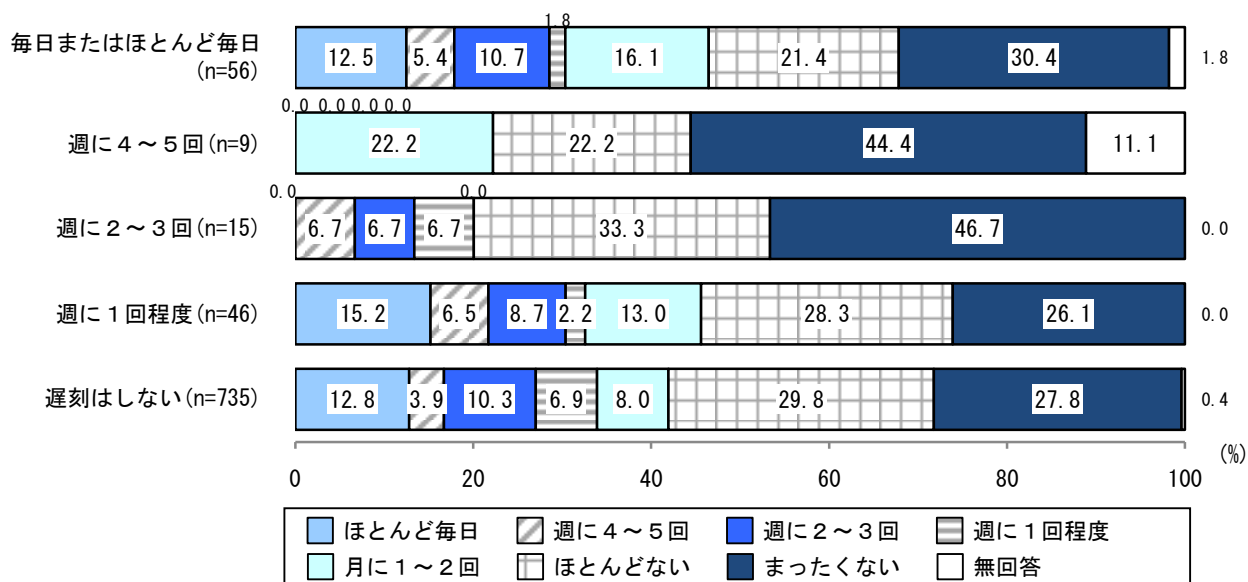
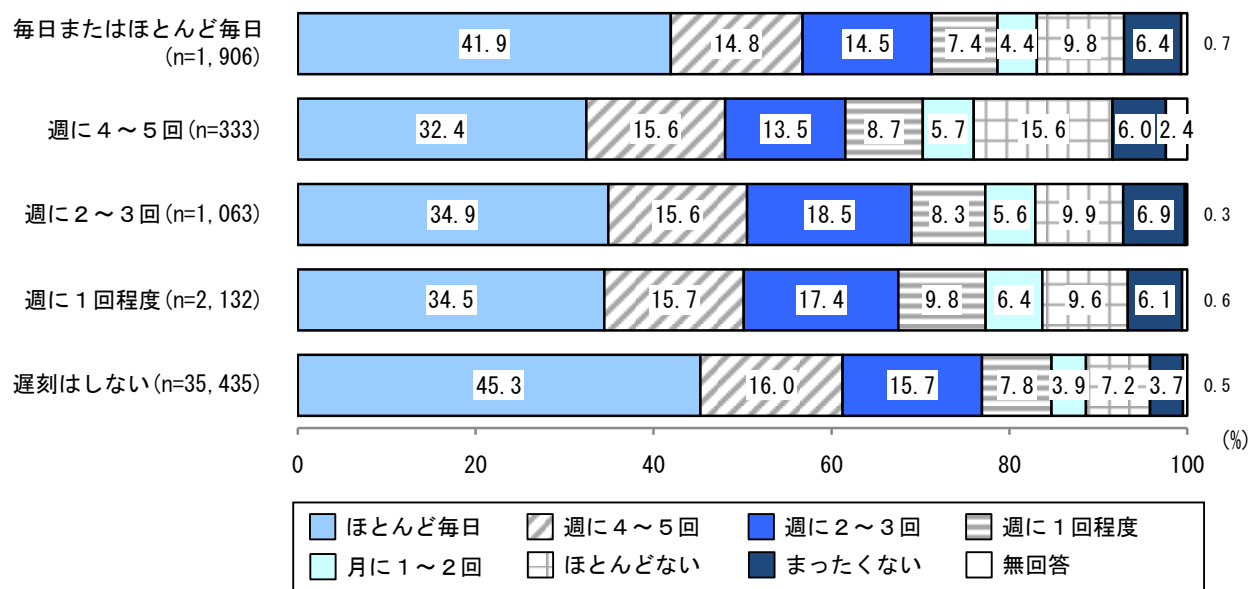


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は「週に1回程度」遅刻をしている子どもが15.2%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は「週に2～3回」遅刻をしている子どもの割合が46.7%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<門真市>

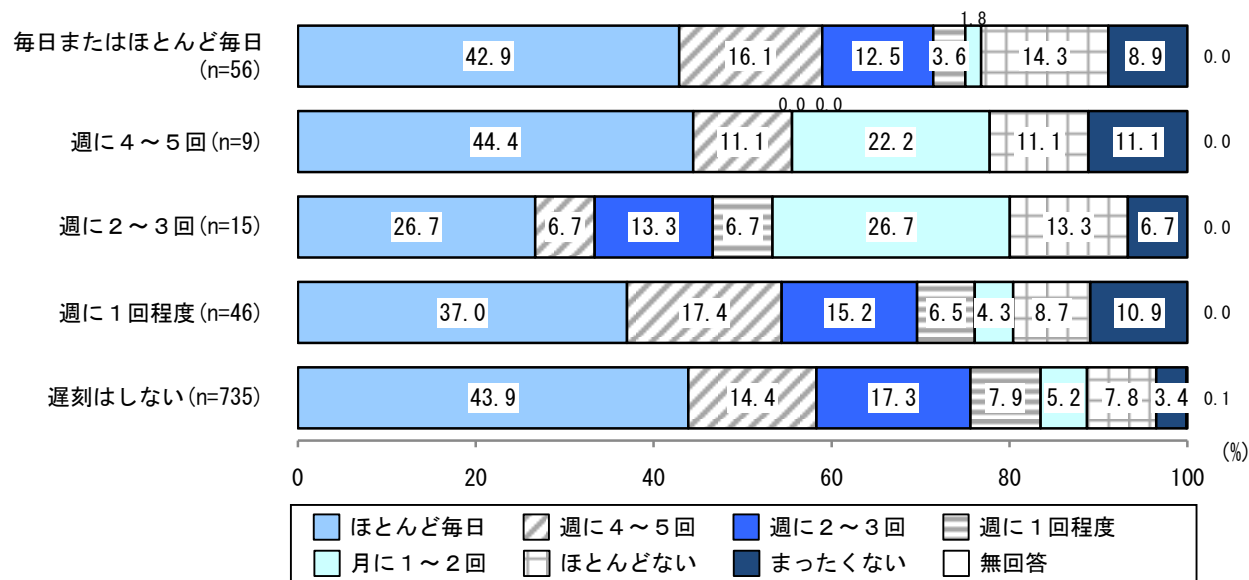
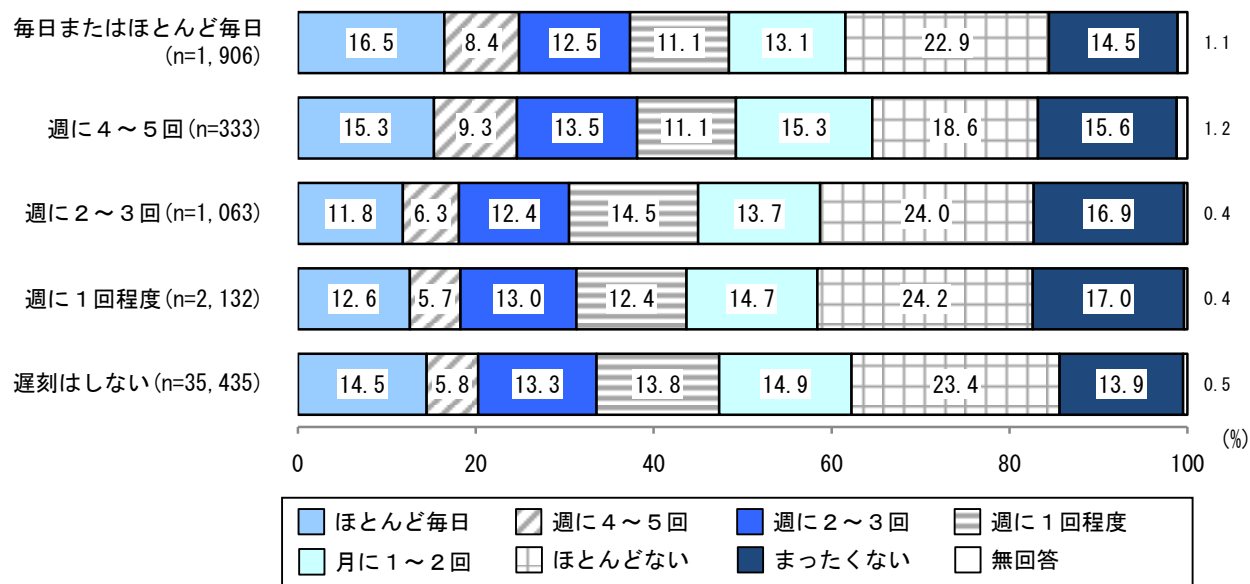


図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「週に4～5回」遅刻をする子どもにおいて「ほとんど毎日」と「まったくない」の割合が、それぞれ44.4%、11.1%と最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<門真市>

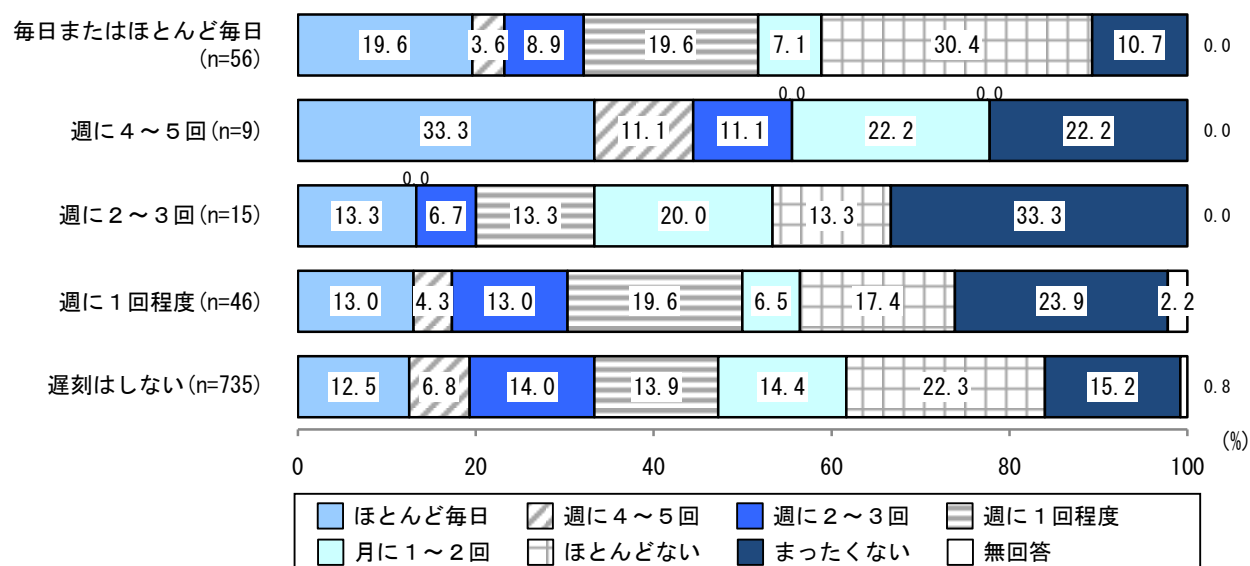
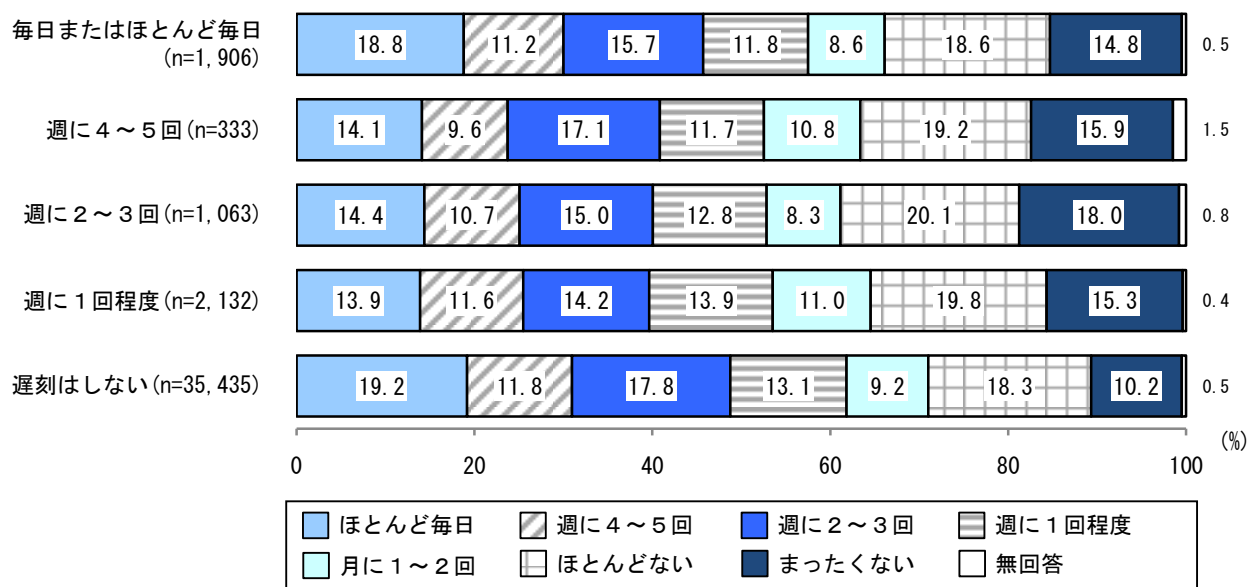


図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は「週に4～5回」遅刻をしている子どもが33.3%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は「週に2～3回」遅刻をしている子どもの割合が33.3%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<門真市>

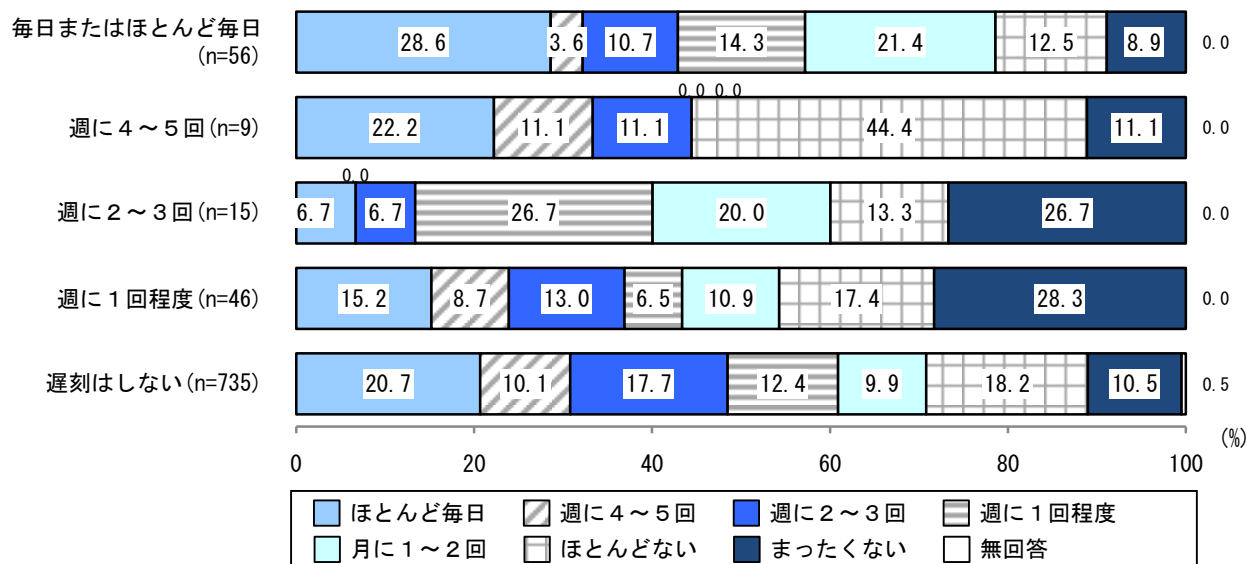
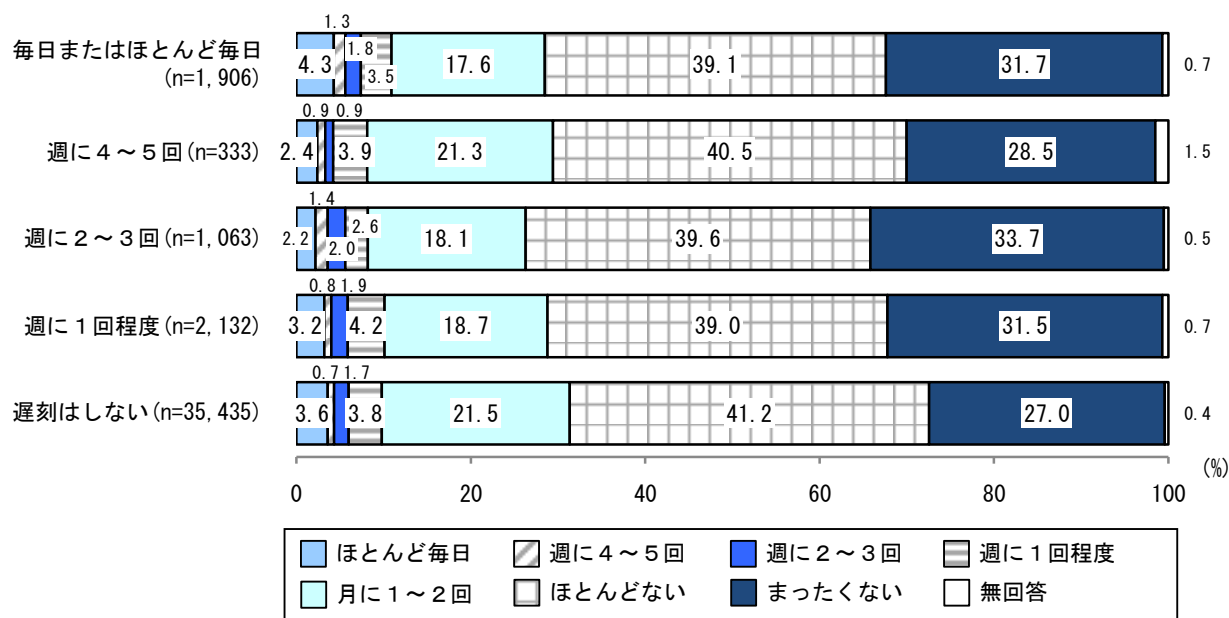


図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は「毎日またはほとんど毎日」遅刻をする子どもが28.6%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は「週に1回程度」遅刻をしている子どもの割合が28.3%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか
(子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<門真市>

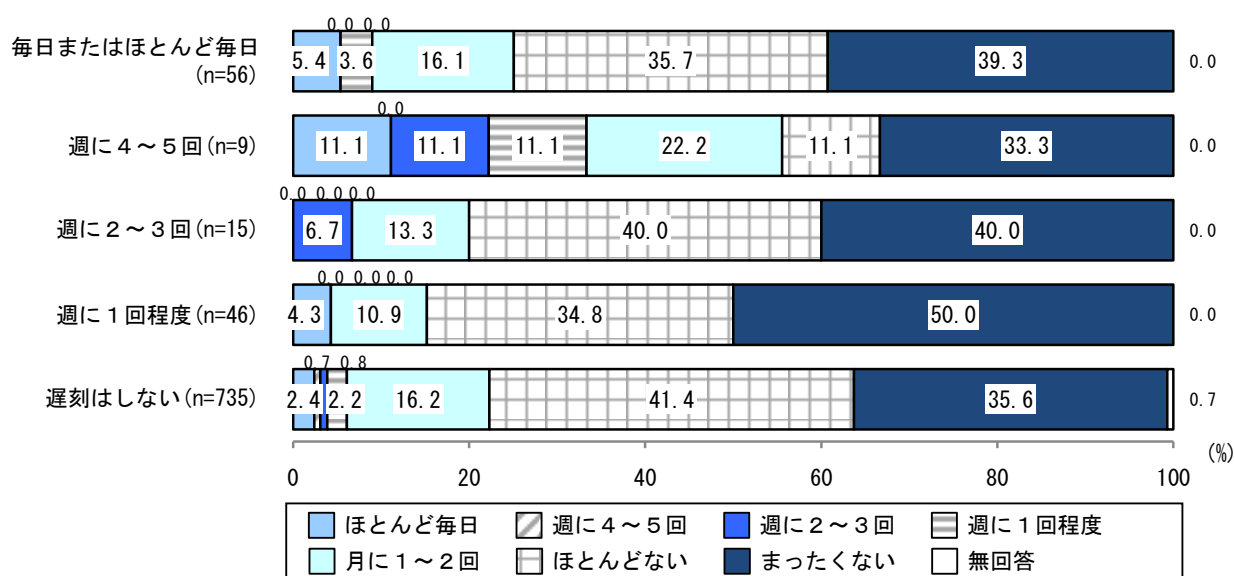
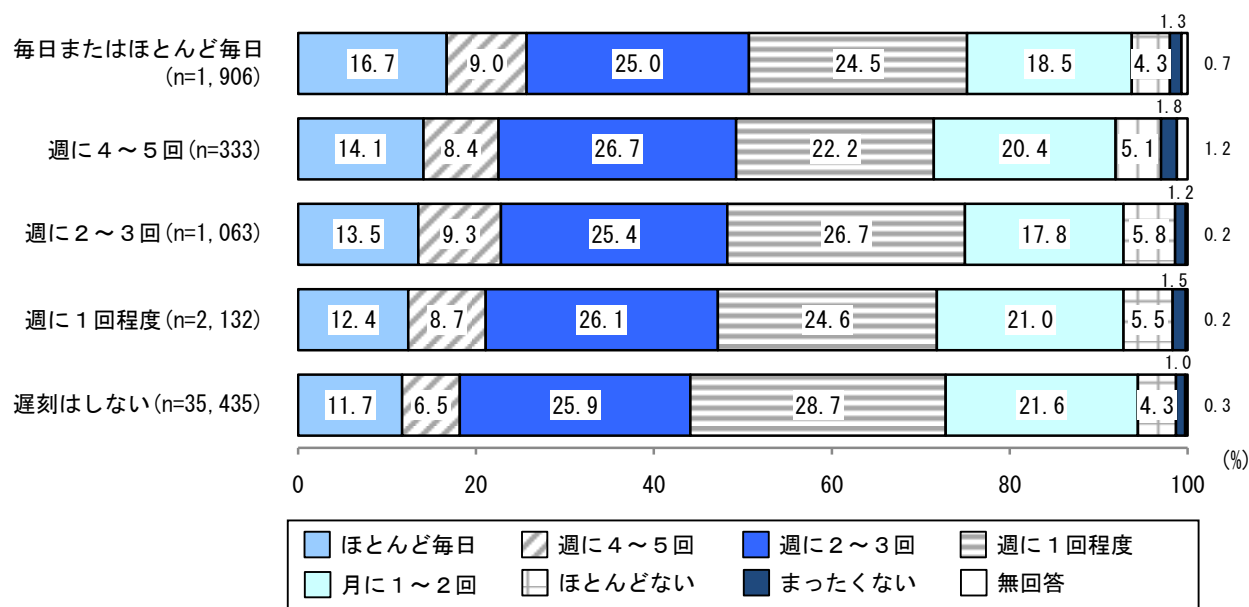


図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「ほとんどない」と回答した割合は、「遅刻はしない」子どもが41.4%で最も多く、次いで「週に2～3回」遅刻をしている子どもが40.0%、「毎日またはほとんど毎日」遅刻をしている子どもが35.7%となっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<門真市>

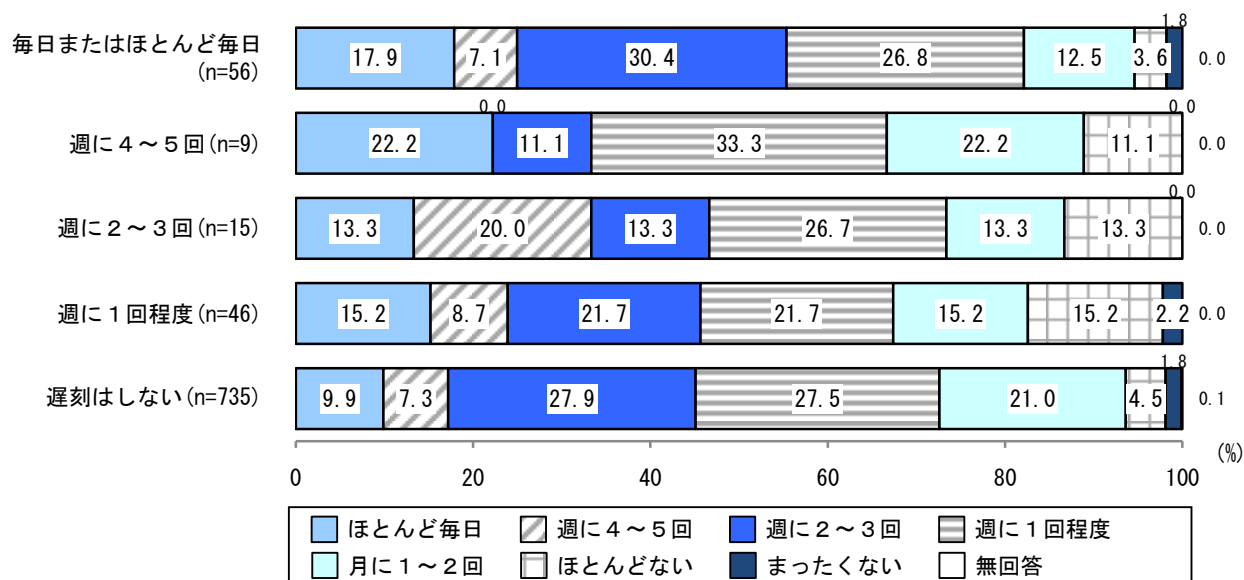
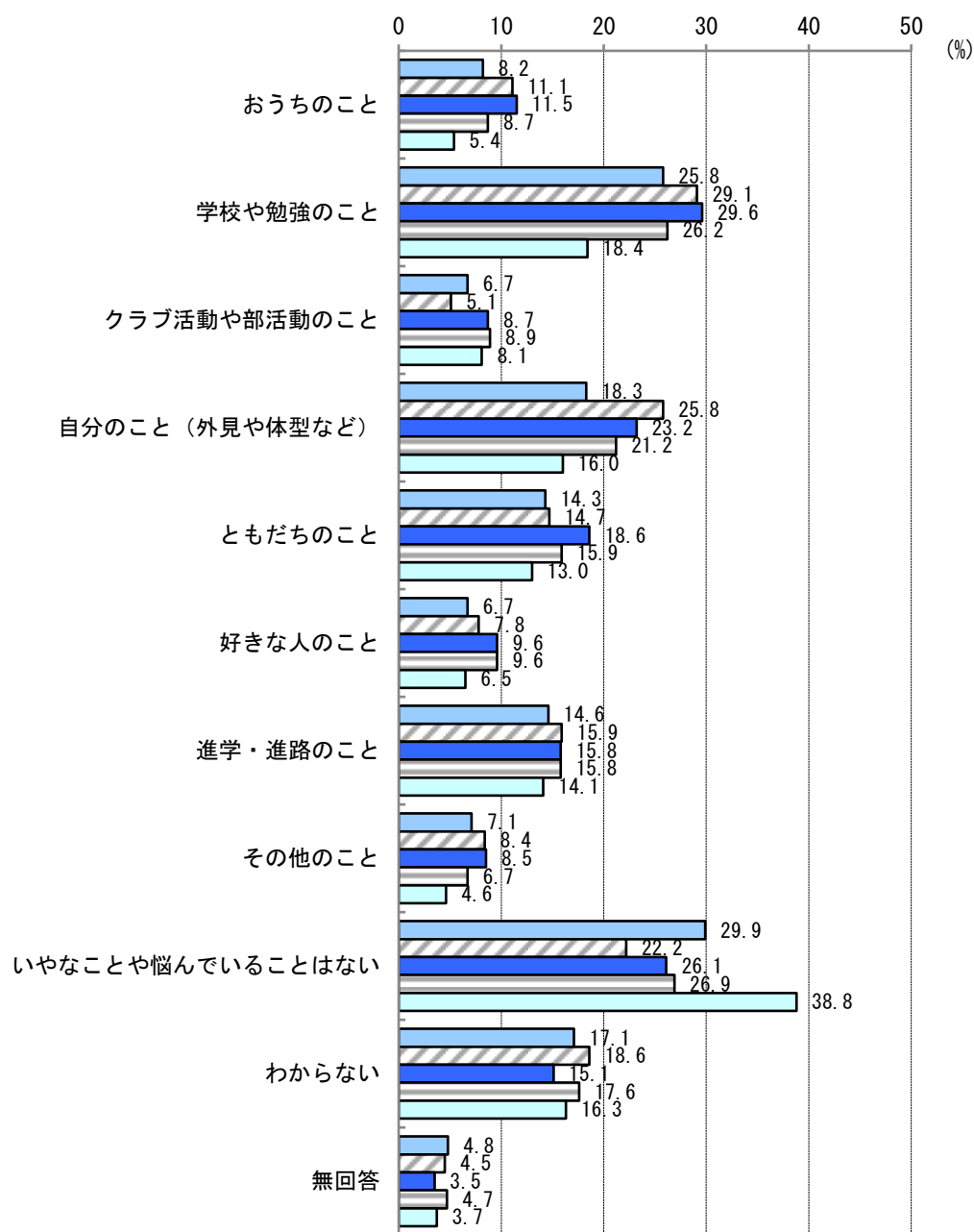


図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は「週に4～5回」遅刻をしている子どもが22.2%で割合が最も高く、一方で、「ほとんどない」は「週に1回程度」遅刻をしている子どもの割合が15.2%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問7×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ 毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)
 ■ 週に4～5回 (n=333)
 ■ 週に2～3回 (n=1,063)
■ 週に1回程度 (n=2,132)
 ■ 遅刻はしない (n=35,435)

<門真市>

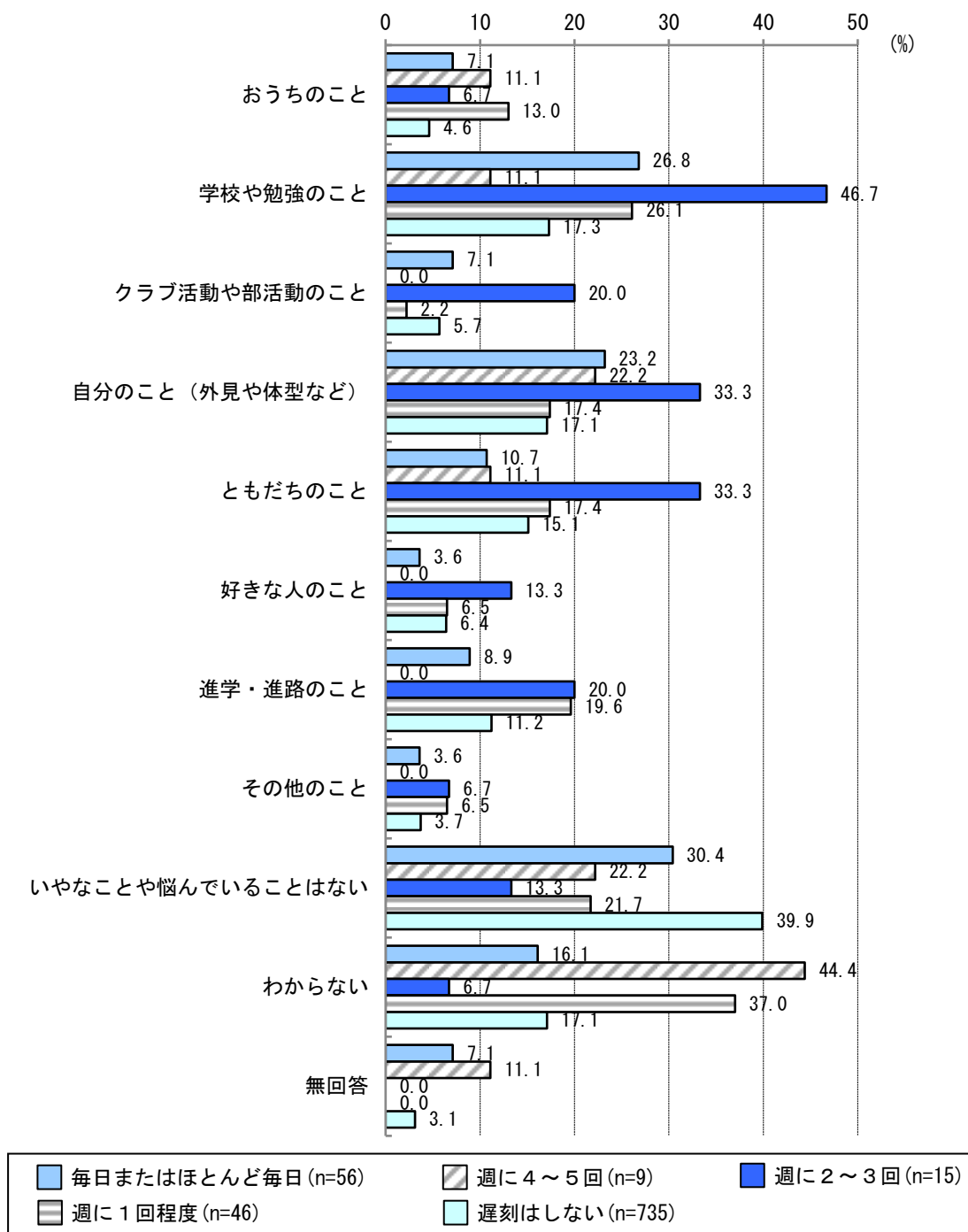
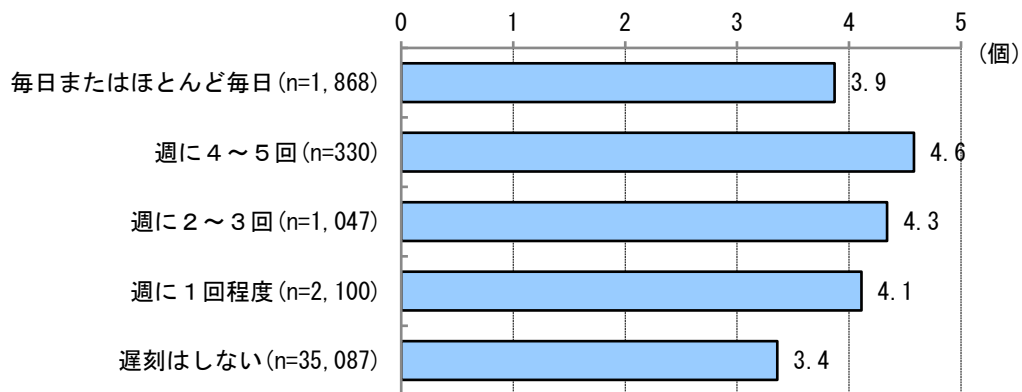


図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「おうちのこと」と回答した割合は「週に1回程度」遅刻をしている子どもが13.0%で最も高く、一方で、「いやなことや悩んでいることはない」と回答した割合は「遅刻はしない」子どもが39.9%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(子ども票問7×子ども票問19・20)

<大阪府内全体>



<門真市>

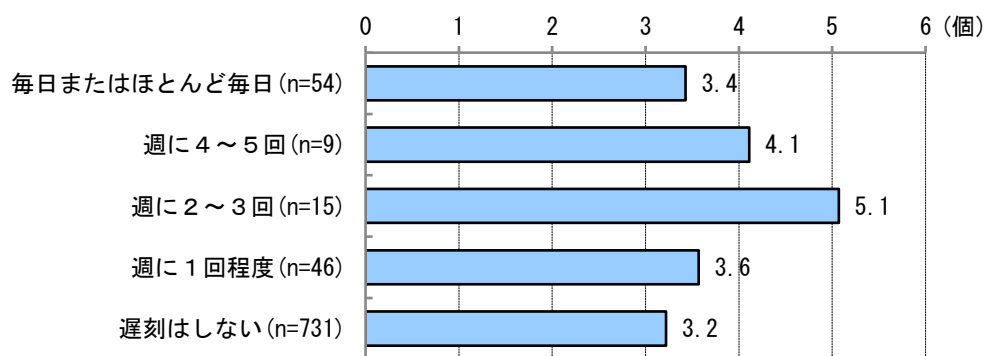
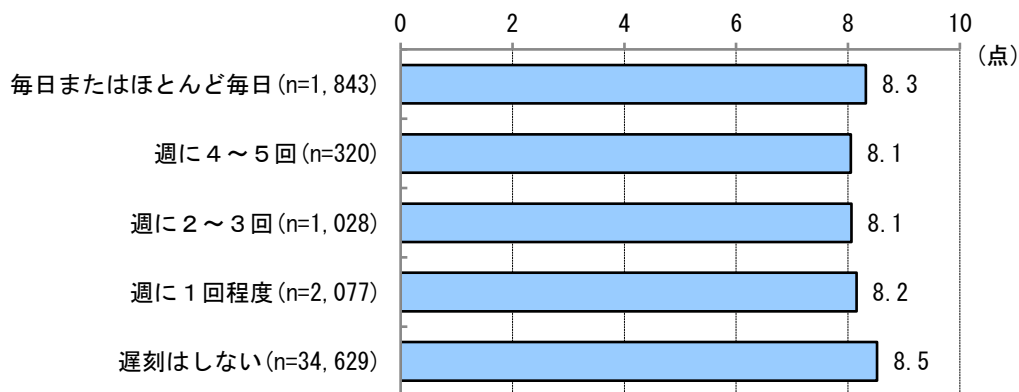


図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週に2～3回」遅刻をしている子どもが5.1個で最も多く、次いで「週に4～5回」遅刻をしている子どもが4.1個となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<門真市>

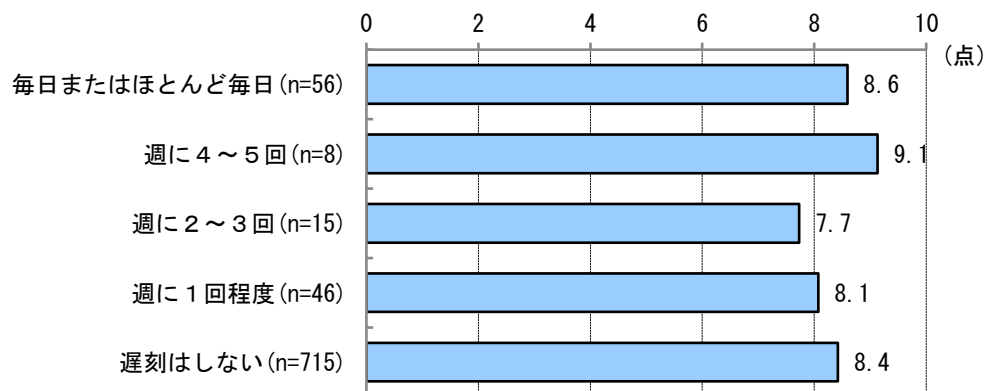
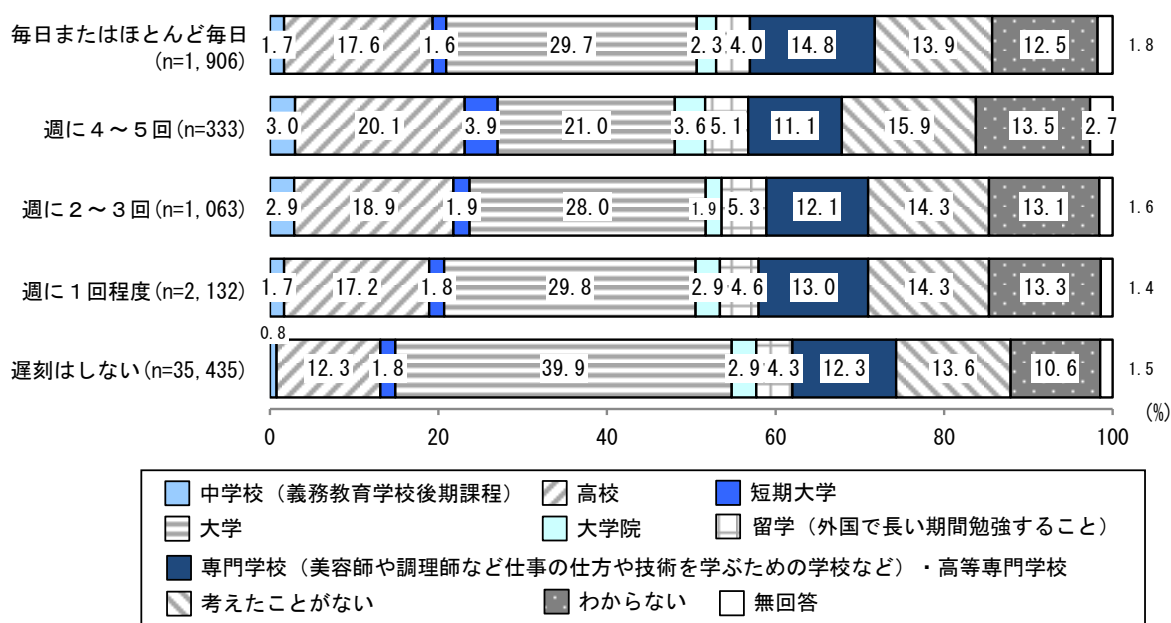


図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻している子どもは「遅刻はしない」子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<門真市>

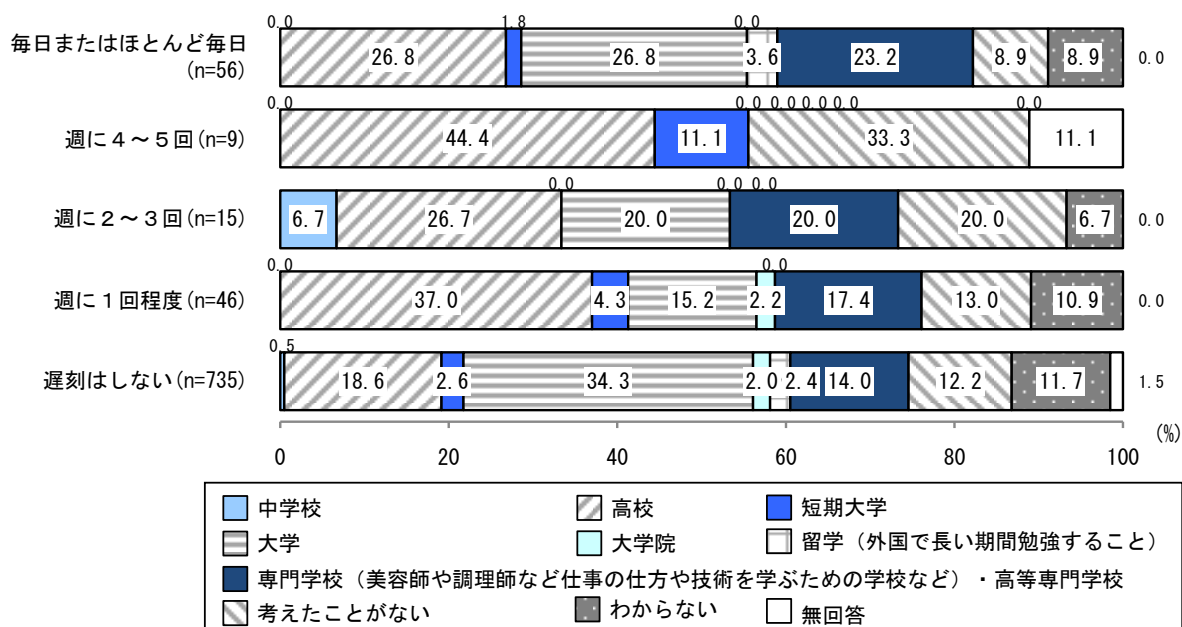
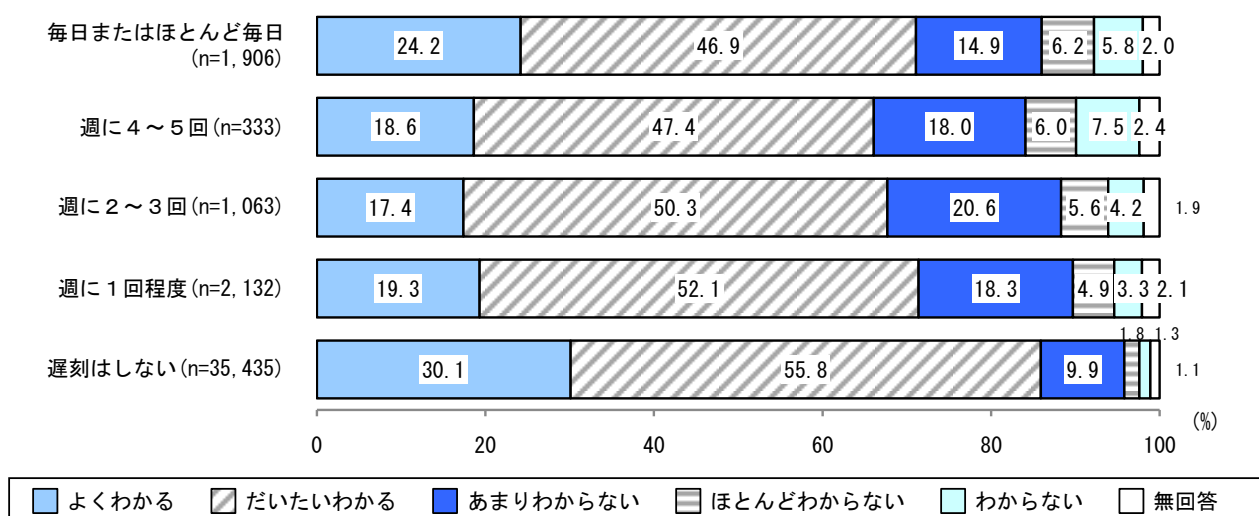


図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」は「遅刻はしない」子どもの割合が34.3%で最も高く、次いで「毎日またはほとんど毎日」遅刻をしている子どもの割合が26.8%となっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

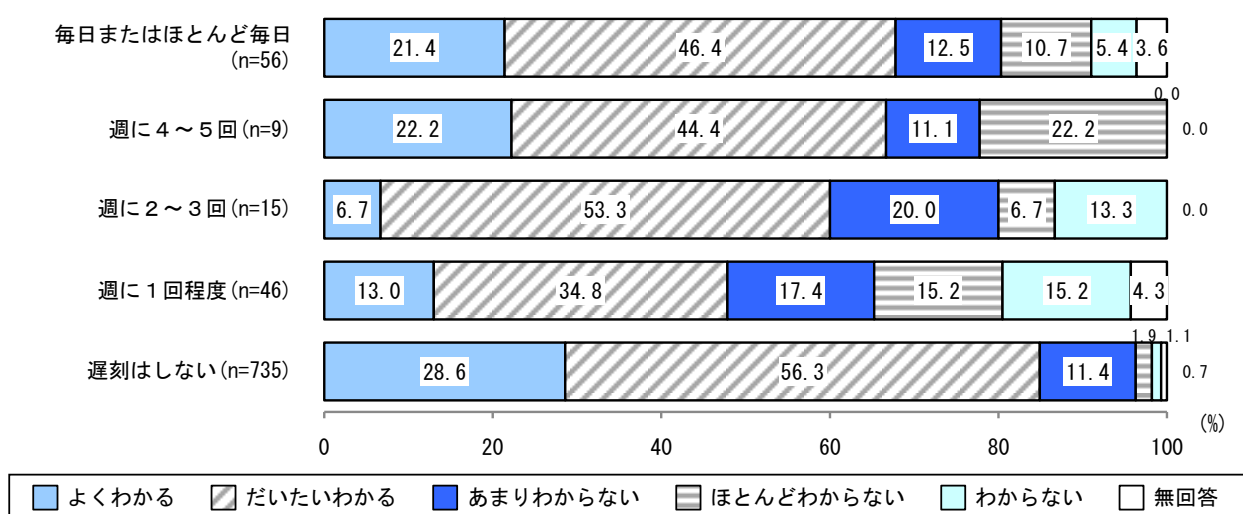
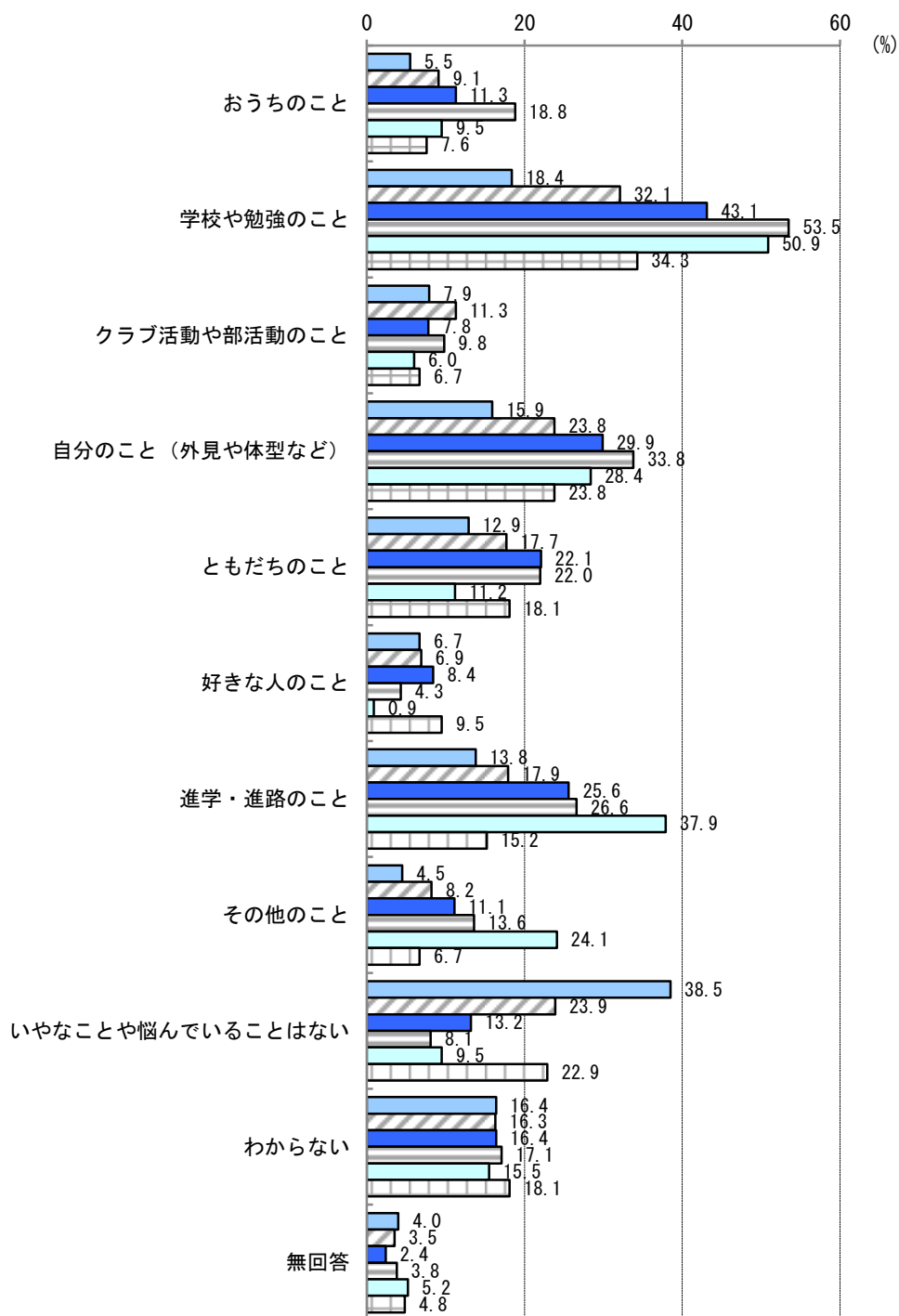


図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」は「遅刻はしない」子どもの割合が28.6%で最も高く、「だいたいわかる」も「遅刻はしない」子どもの割合が56.3%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問 15×子ども票問 17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661) ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)
■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371) ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)
■ 欠席が1年以上続いている (n=116) ■ わからない (n=105)

<門真市>

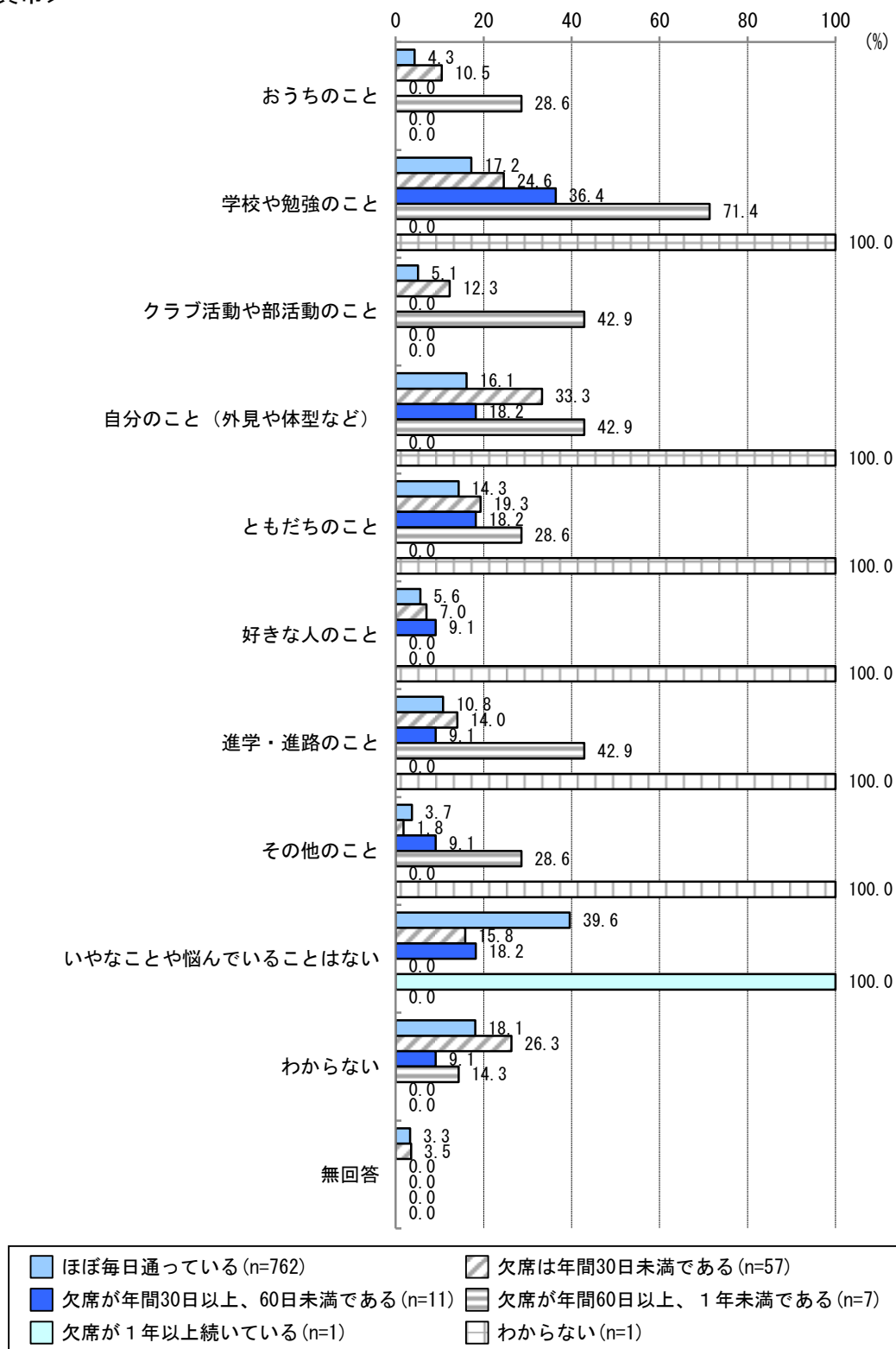
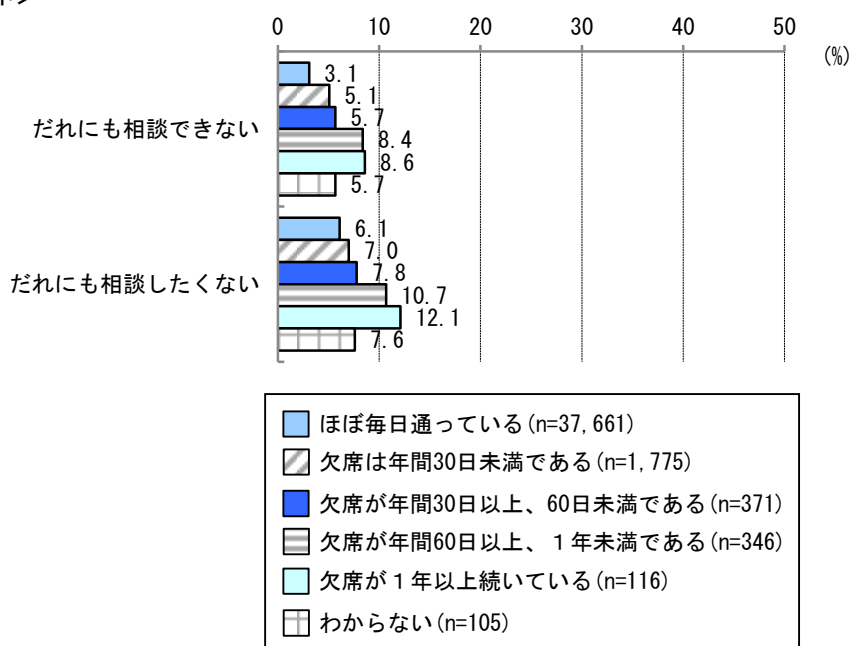


図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが、「いやなことや悩んでいることはない」と回答した割合は、「欠席が1年以上続いている」子どもが100%（1名）で最も高く、次いで「ほぼ毎日通っている」子どもが39.6%となっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合
(保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<門真市>

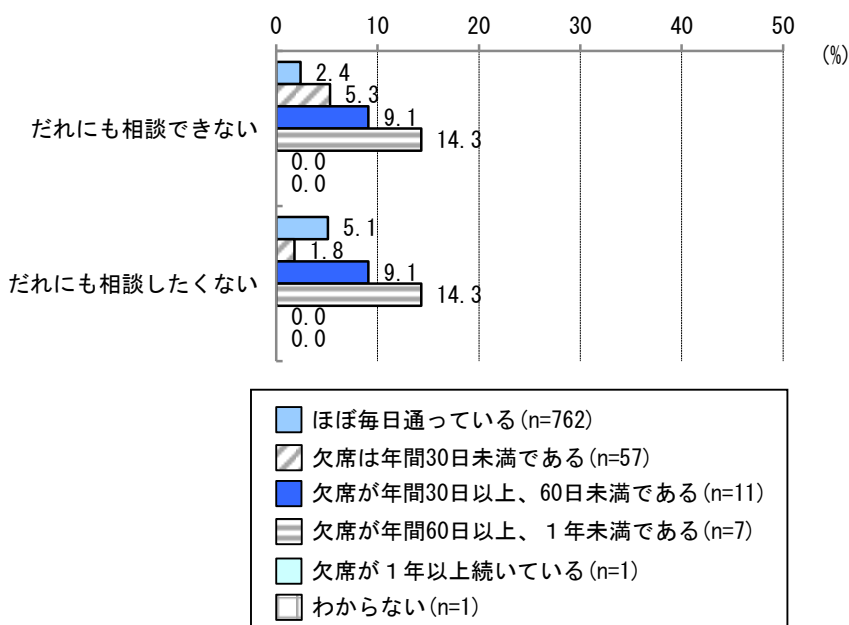
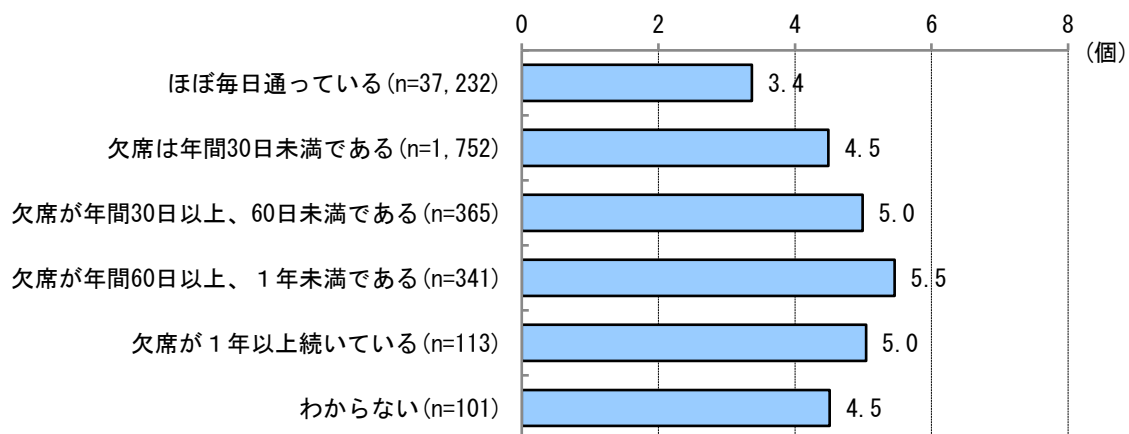


図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、「だれにも相談できない」、「だれにも相談したくない」と回答した人の割合は欠席が年間60日以上、1年未満である人の割合が最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<門真市>

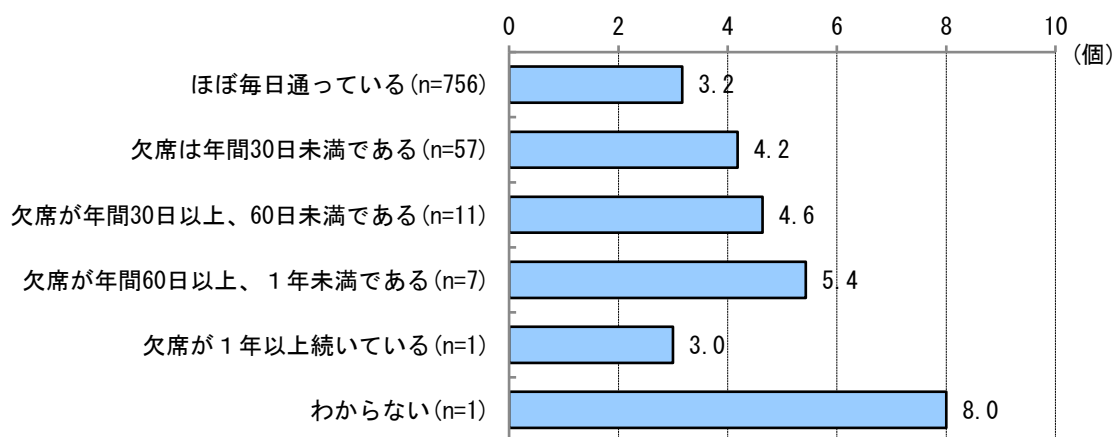
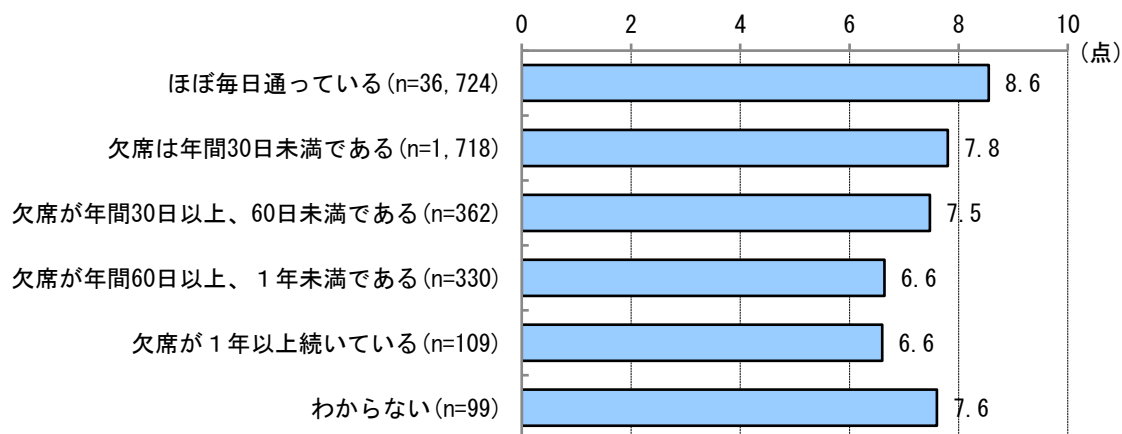


図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、欠席が年間60日以上、1年未満であると回答した人が5.4個で最も多く、次いで欠席が年間30日以上、60日未満であると回答した人が4.6個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<門真市>

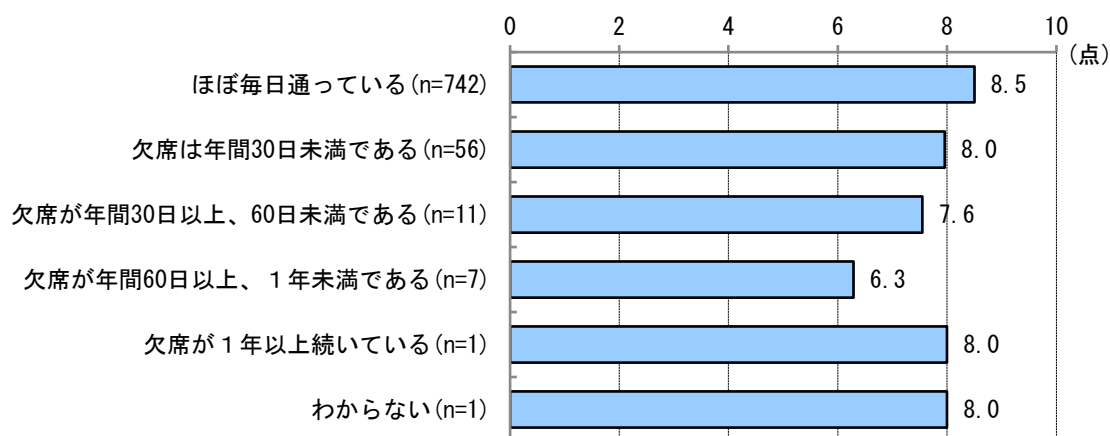
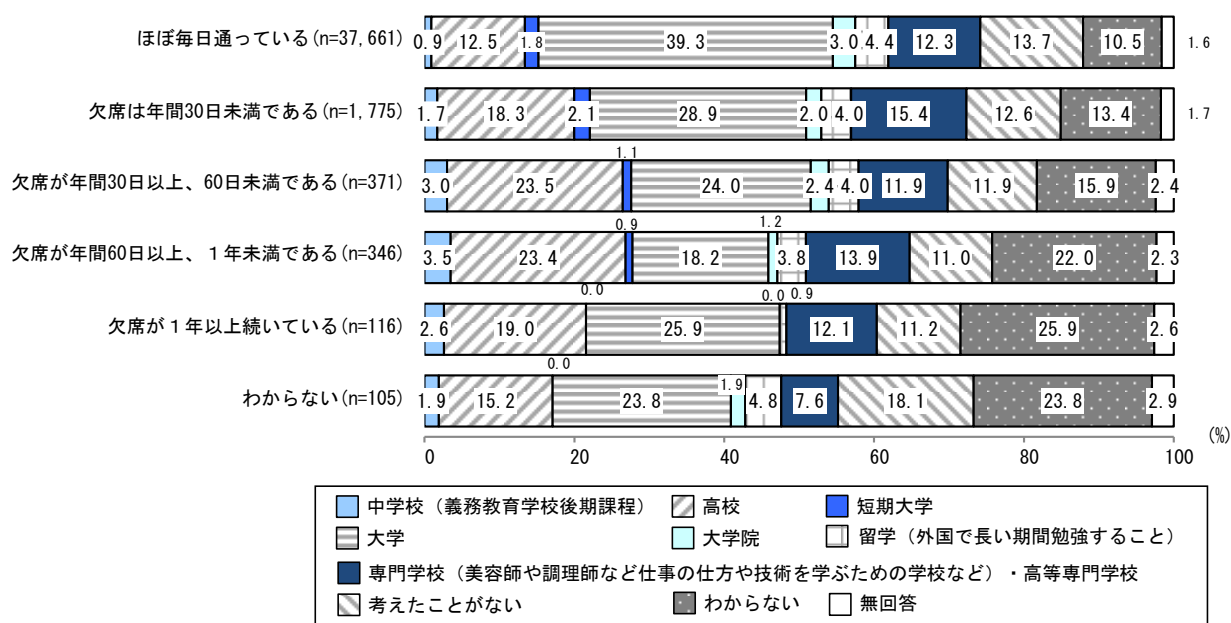


図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の得点が8.5点であるのに対して、「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人は6.3点という結果となった。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<門真市>

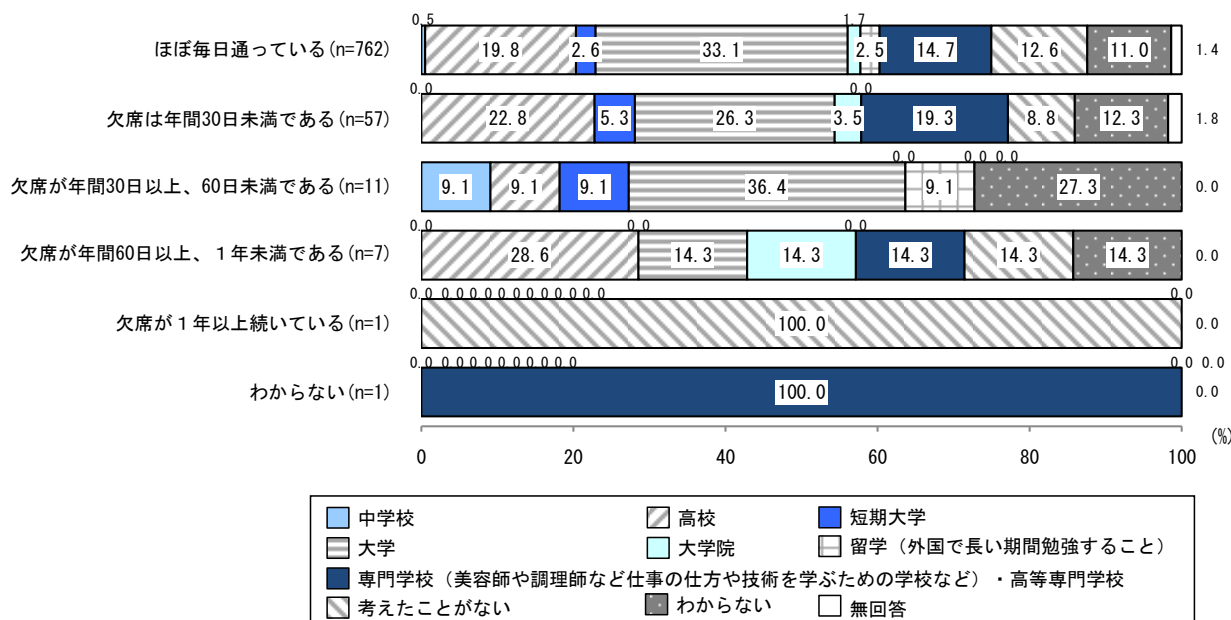
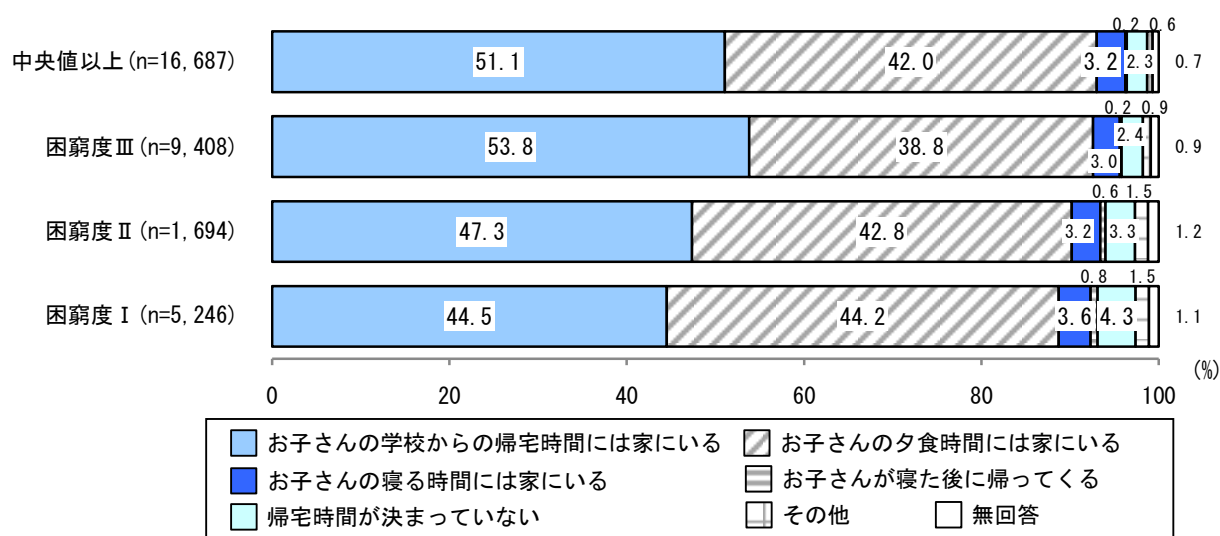


図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、「大学」は「欠席が年間30日以上、60日未満である」と回答した人の割合が36.4%で最も高く、「中学校」は「欠席が年間30日以上、60日未満である」人の割合が9.1%、「高校」は「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人の割合が28.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<門真市>

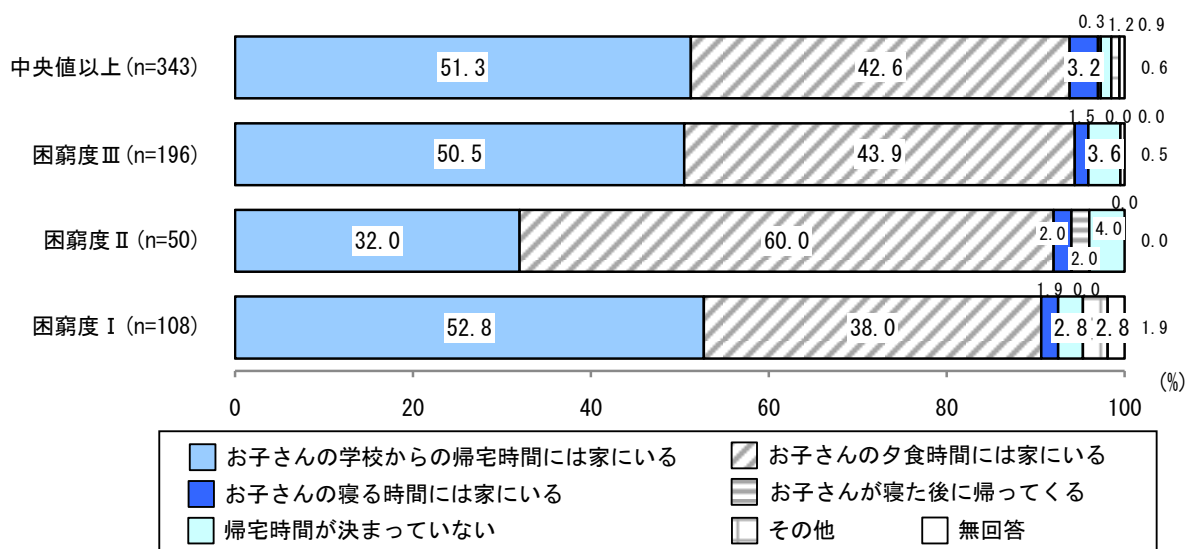
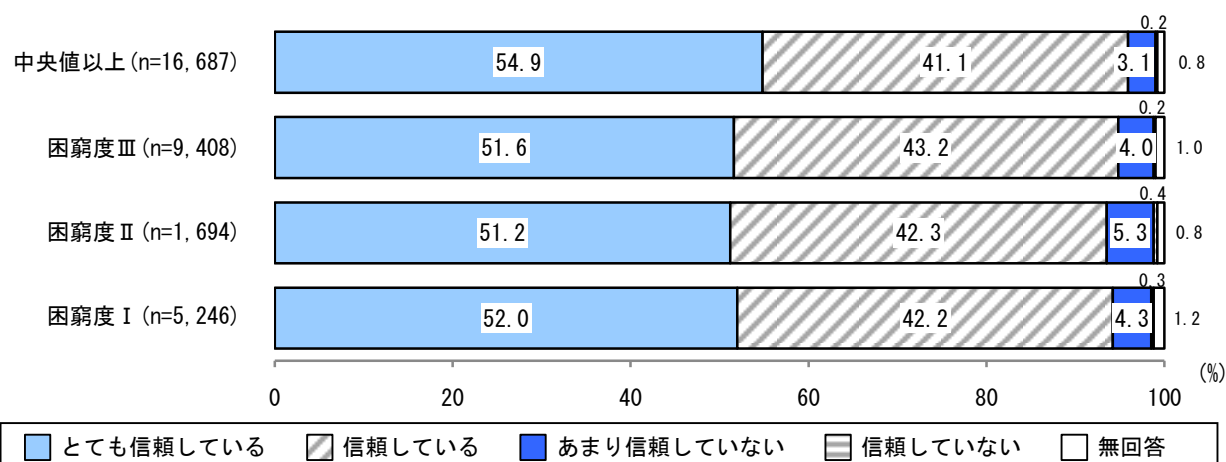


図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、中央値以上群・困窮度Ⅲ群・困窮度Ⅰ群のほうが、困窮度Ⅱ群よりも、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が高い。また、困窮度Ⅱ群では「お子さんの夕食時には家にいる」と回答した割合が高く、60.0%である。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

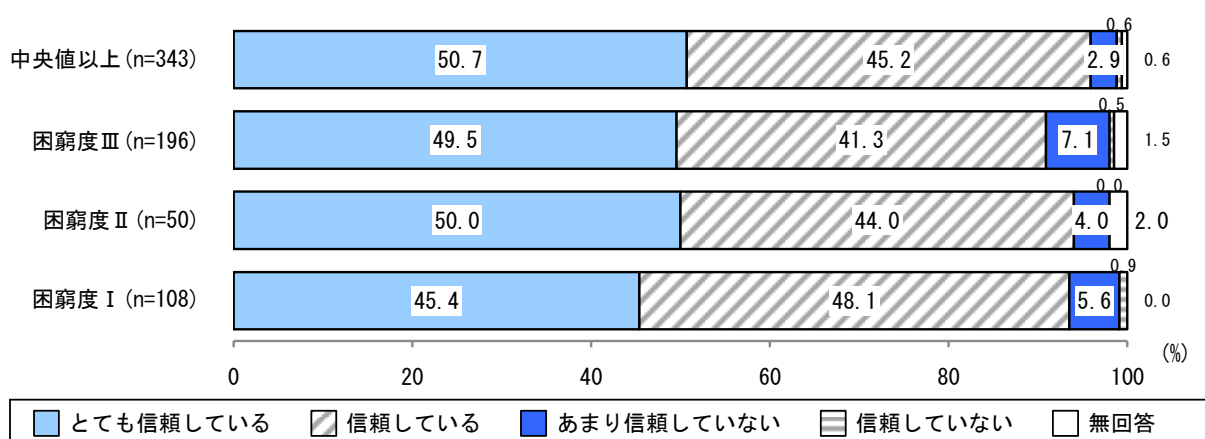
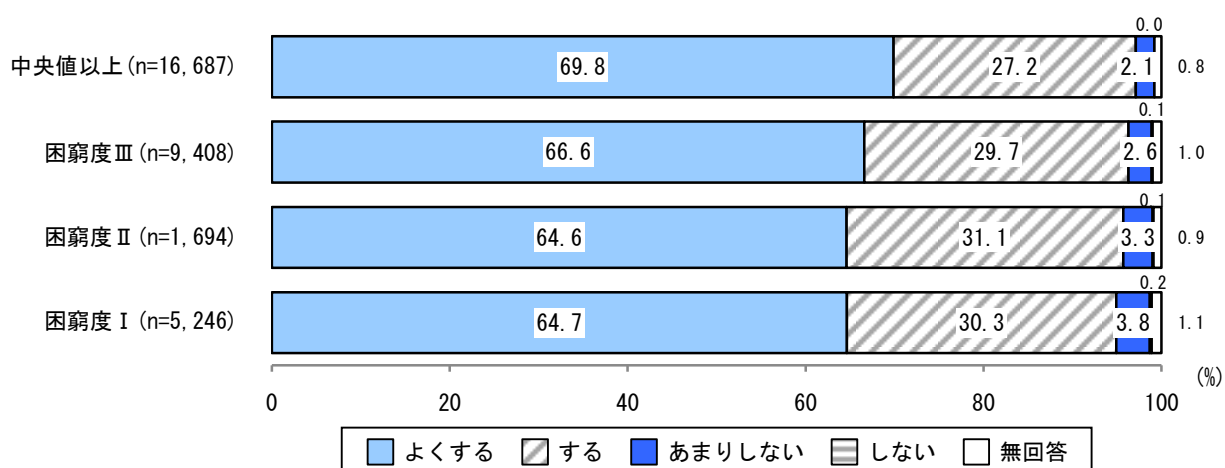


図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が45.4%で最も低い。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<門真市>

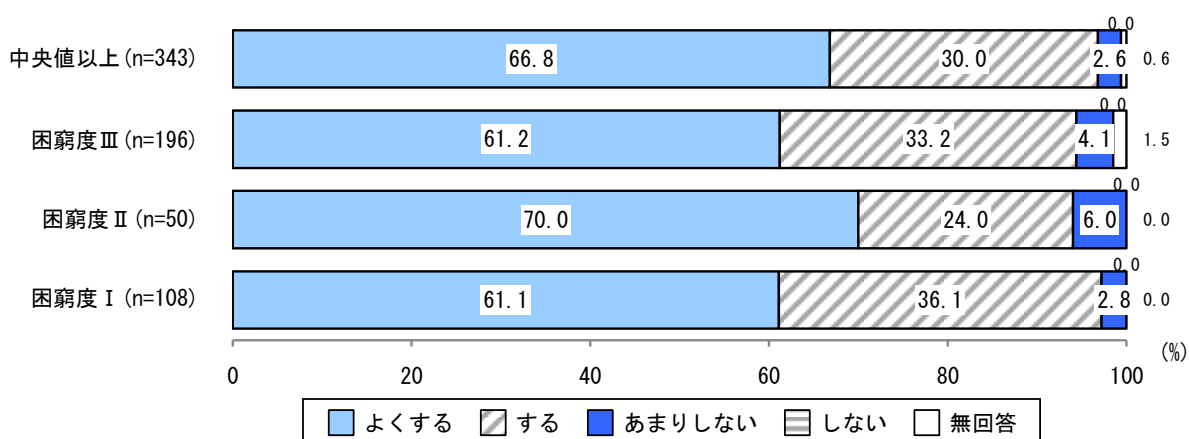
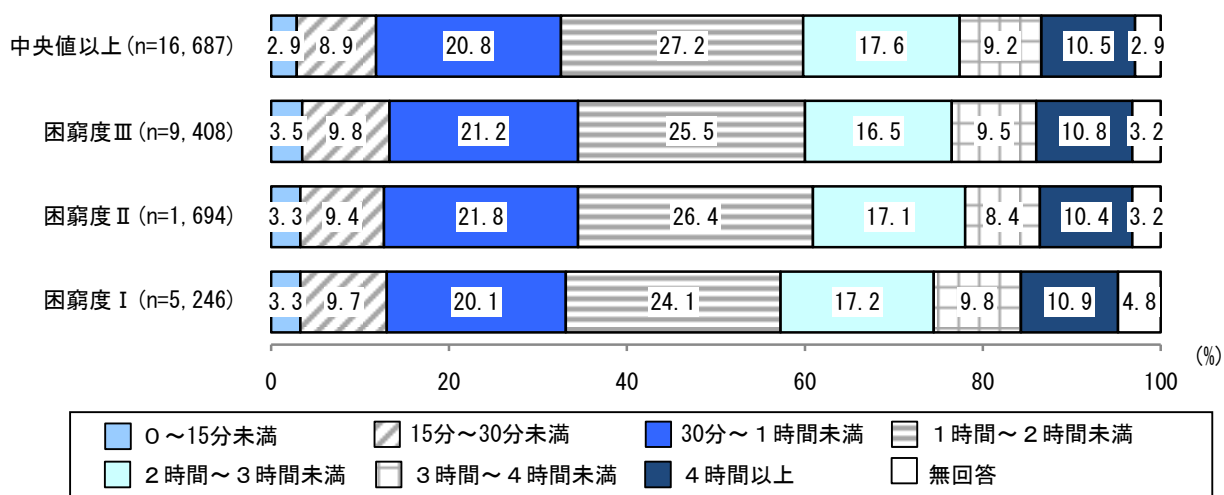


図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、困窮度Ⅰ群では「よくする」と回答した割合が最も低く、61.1%である。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<門真市>

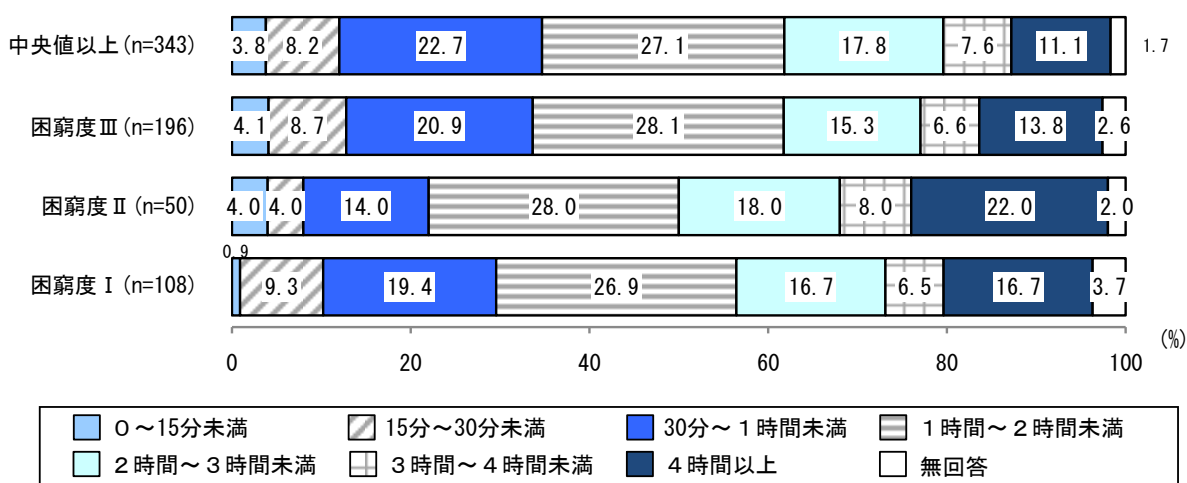
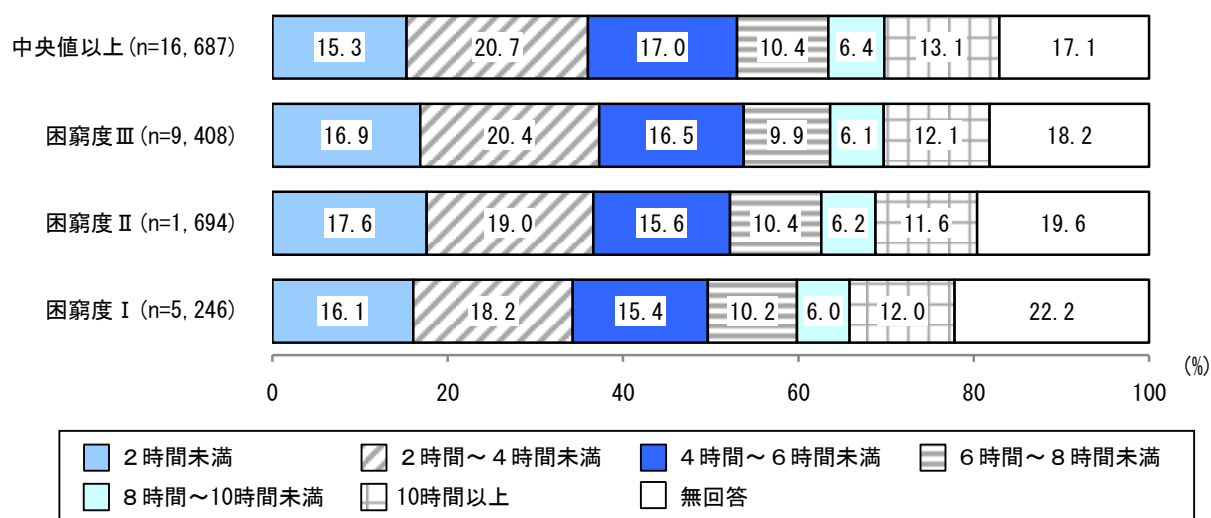


図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「4時間以上」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群で最も高く、22.0%である。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<門真市>

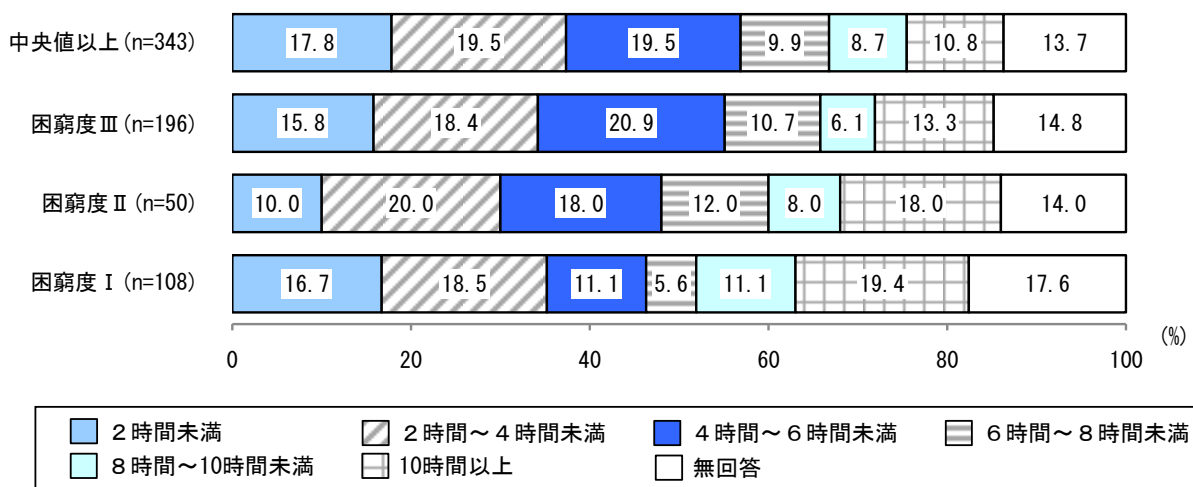
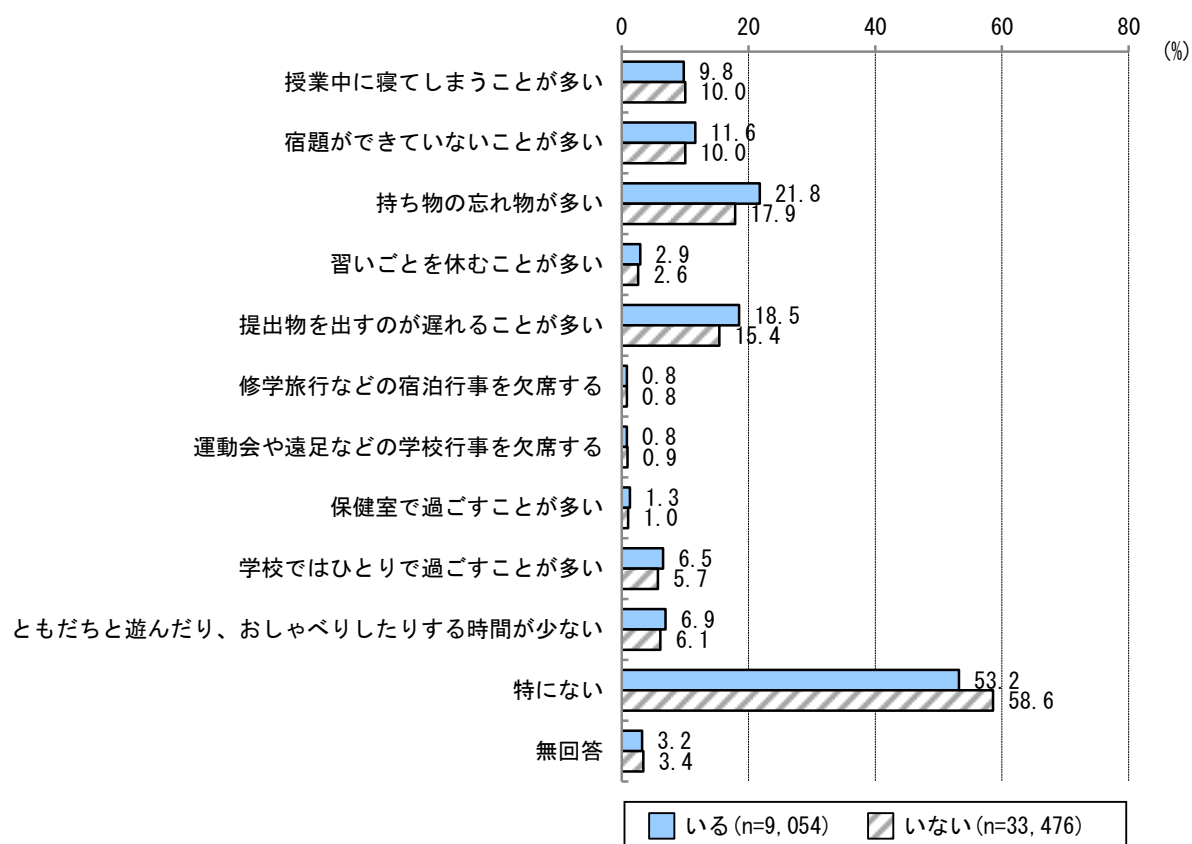


図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2 時間未満」と回答した割合が中央値以上群で最も高く、17.8%である。また、「2～4 時間未満」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で最も高く、20.0%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



<門真市>

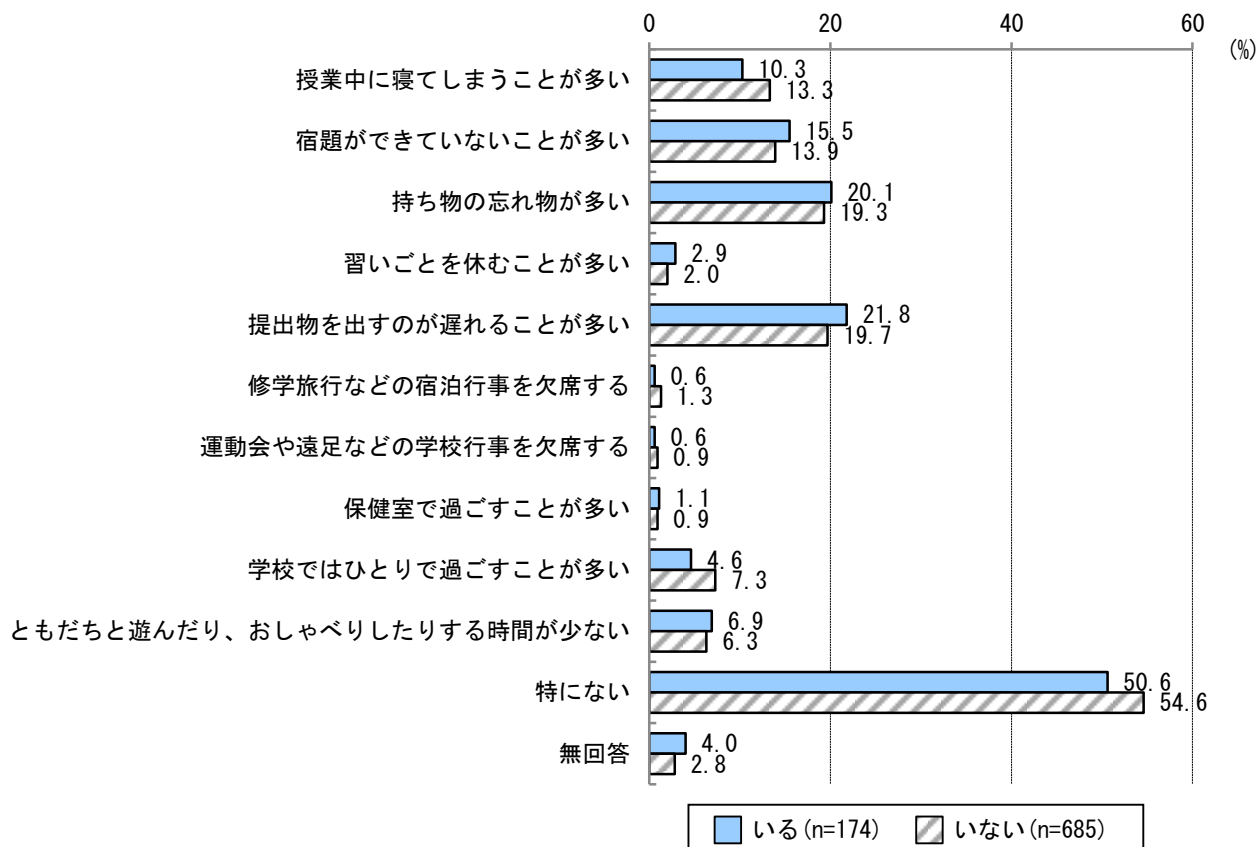
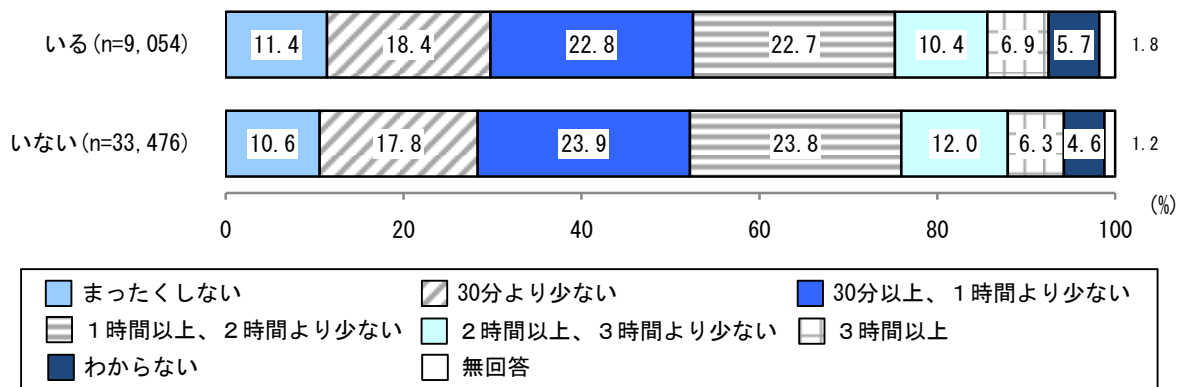


図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、「宿題ができていないことが多い」「持ち物の忘れ物が多い」「習い事を休むことが多い」「提出物を出すのが遅れることが多い」「保健室で過ごすことが多い」「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」割合より「いる」割合のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問26(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<門真市>

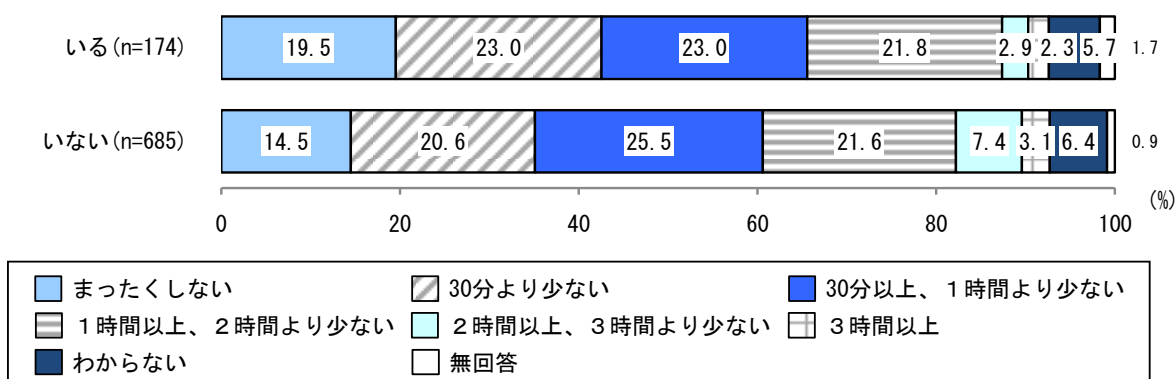
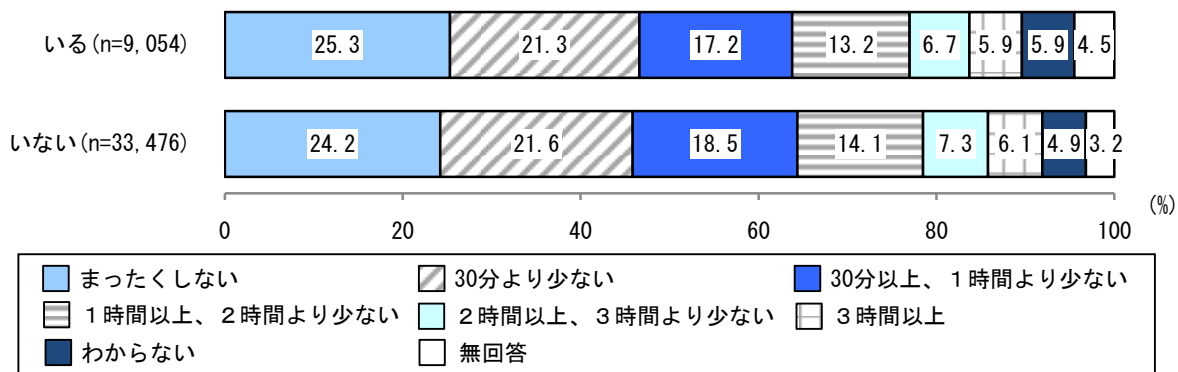


図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<門真市>

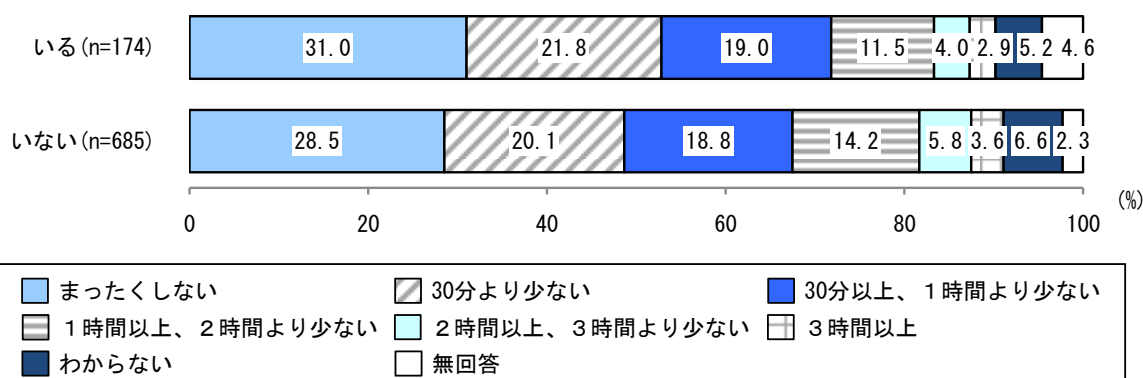


図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合が高くなっている。

<家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目しながら確認する。中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ、おうちの大人の人と朝食をとる頻度を見ると、「ほとんど毎日」(50.9%対42.3%)が7.6ポイント高くなっている。また、おうちの大人の人と夕食をとる頻度を見ると、「ほとんど毎日」(87.9%対81.7%)が6.2ポイント高くなっている。さらに、子どもに対する信頼度を見ると、「とても信頼している」(50.7%対45.4%)が5.3ポイント高くなっている。保護者と子どもの会話頻度を見ると、「よくする」と「する」の合計(96.8%対97.2%)では大きな差異は見られないが、「よくする」(66.8%対61.1%)に限ると5.7ポイント高くなっている。これらの結果から、経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションの深さや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。

次に、学校への遅刻状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について確認する。おうちの大人の人と朝食をとる頻度を見ると、「遅刻はしない」群では「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「ほとんど毎日」(50.2%対41.1%)が9.1ポイント高くなっている。また、おうちの大人の人と学校のできごとについて話す頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻はしない」群と比べ、「ほとんどない」と「まったくない」の合計(23.2%対11.2%)が12ポイント高くなっている。さらに、悩んでいることを見ると、「遅刻はしない」群では「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「悩んでいることはない」(39.9%対30.4%)が9.5ポイント高くなっている。一方、「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻はしない」群と比べ、「学校や勉強のこと」で悩んでいる割合(26.8%対17.3%)が9.5ポイント、「自分のこと」で悩んでいる割合(23.2%対17.1%)が6.1ポイント、高くなっている。これらの結果から、遅刻が多い場合、保護者とコミュニケーションをとる機会が少なくなりやすく、学校のことについて相談する機会も減るため、子ども自身で色んな悩みを抱え込みやすくなる可能性が示唆された。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や進学希望の関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目して述べる。まず、通学状況を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「ほぼ毎日通っている」(91.5%対85.2%)が6.3ポイント高くなっている。学校がある日の勉強時間を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「まったくしない」(22.1%対12.4%)が9.7ポイント、学校がない日の勉強時間を見ると、「まったくしない」(33.7%対25.5%)が8.2ポイント高くなっている。学習理解度を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計(83.9%対65.3%)が18.6ポイント高くなっている。文化活動を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、おうちの大人の人と文化活動をする頻度では「まったくない」(39.4%対33.5%)が5.9ポイント高い。希望進学先を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、子ども自身の希望する進学先で「高校」(27.9%対16.5%)が11.4ポイント、保護者の希望する進学先でも「高校」(34.3%対12.0%)が24.3ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、自宅での学習習慣や大人との文化活動が定着しにくく、学習理解が乏しい可能性が示された。また、子ども自身も保護者も高校より高いレベルの教育を望んでおらず、この背景には経済的事情と学習理解の低さのいずれも存在する可能性がある。

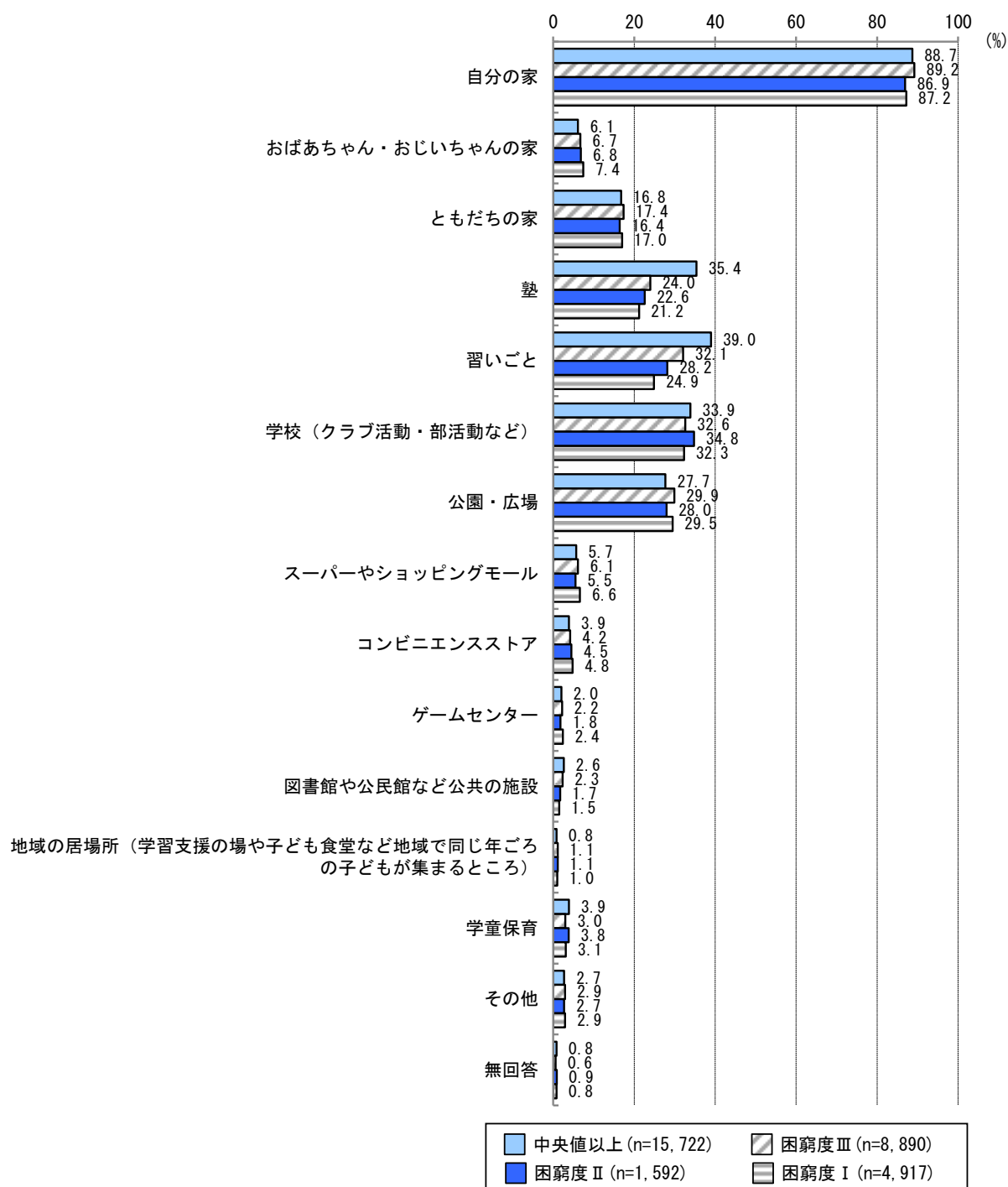
最後に、朝の習慣や学校への遅刻状況と子どもの学習にかかわる習慣の関連について確認する。起床時間の規則性別に学習時間を見ると、ほぼ同じ時刻に「起きていない」群は「起きている」群と比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(57.1%対12.1%)が45.0ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(57.1%対26.4%)が20.7ポイント、授業以外の読書時間では「まったくしない」(76.2%対56.1%)が20.1ポイント高くなっている。朝食の頻度

別に見ると、朝食を「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べる群に比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(34.9%対12.1%)が22.8ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(41.9%対26.1%)が15.8ポイント、授業以外の読書時間では「まったくしない」(74.4%対55.4%)が19.0ポイント高くなっている。学校への遅刻頻度別に学習理解度を見ると、「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計(84.9%対67.8%)が17.1ポイント高くなっている。これらの結果から、朝の習慣が身についていないことは、学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、朝の習慣が身についていないと遅刻につながり、授業を受けられていないため、学習理解に影響がでている可能性がある。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問 11）

<大阪府内全体>



<門真市>

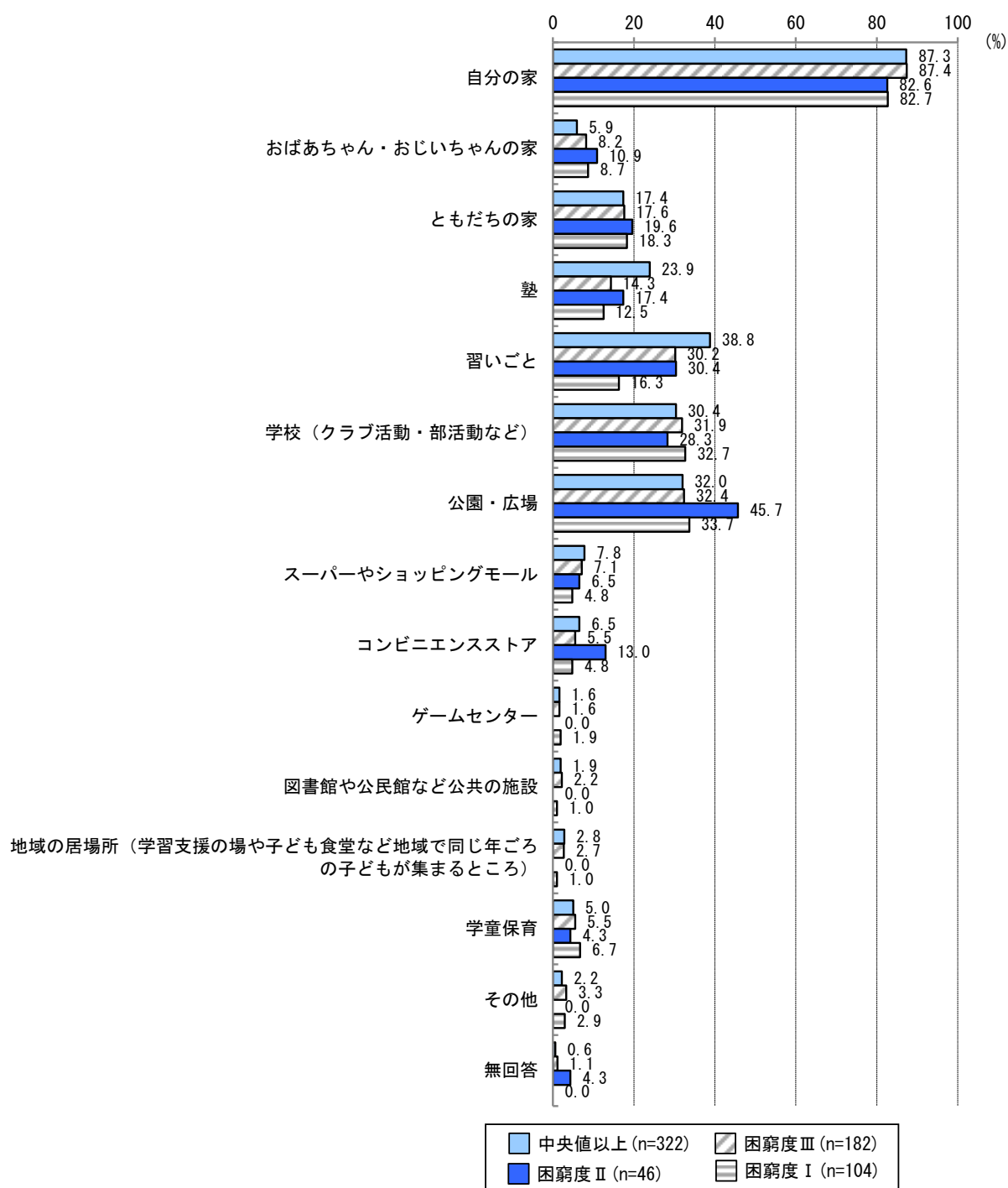
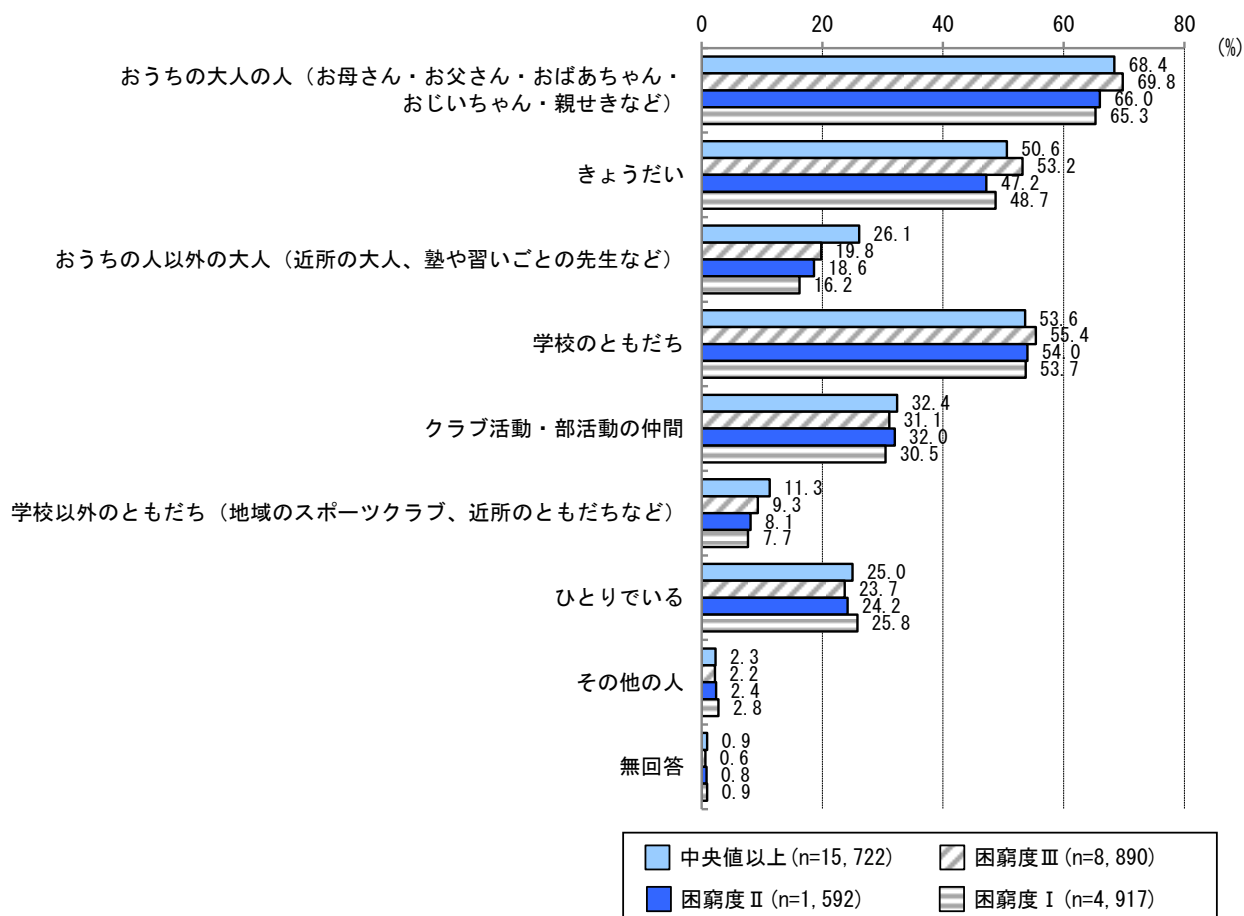


図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」8.7%（中央値以上群に対して1.5倍）、「学童保育」6.7%（同じく1.3倍）となっている。一方、中央値以上群では、「地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）」2.8%（困窮度Ⅰ群に対して2.8倍）、「習いごと」38.8%（同じく2.4倍）などが高かった。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問 10）

<大阪府内全体>



<門真市>

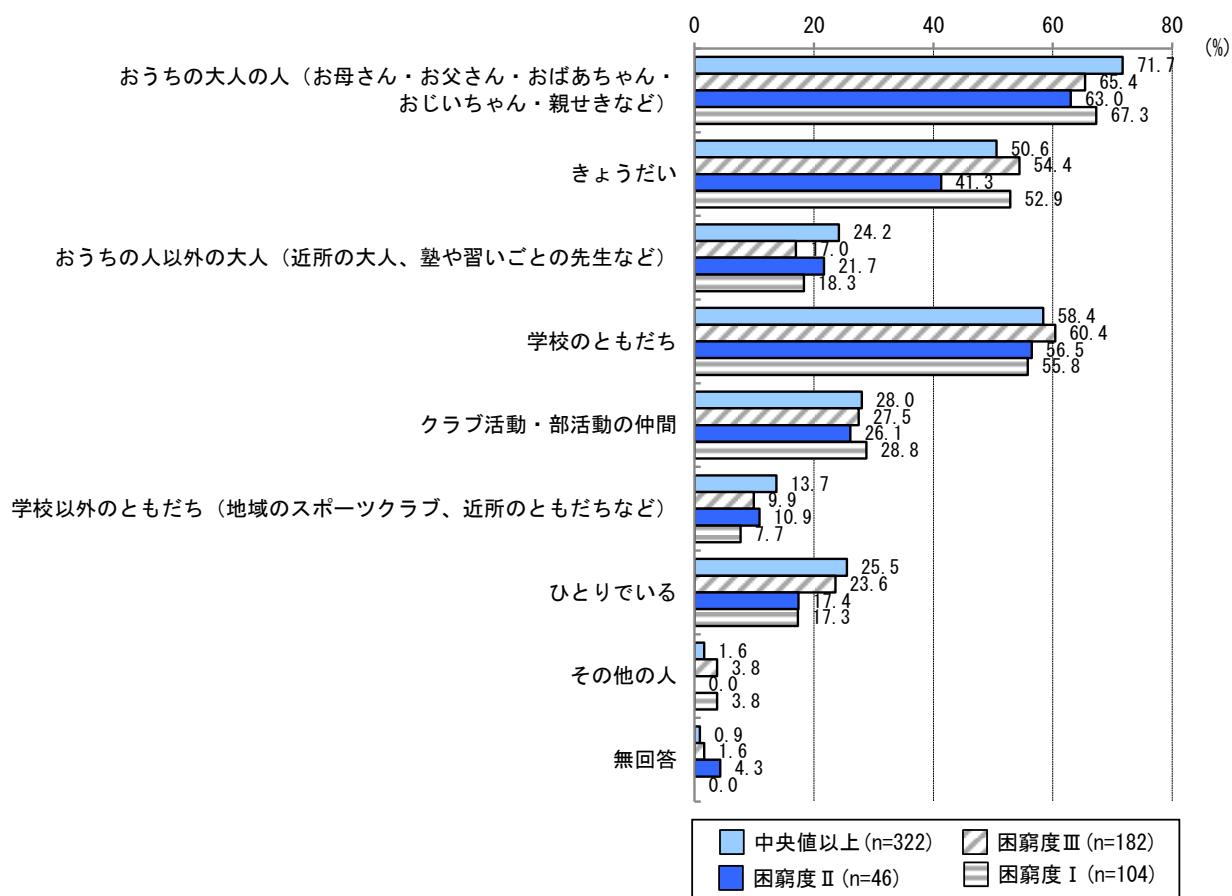
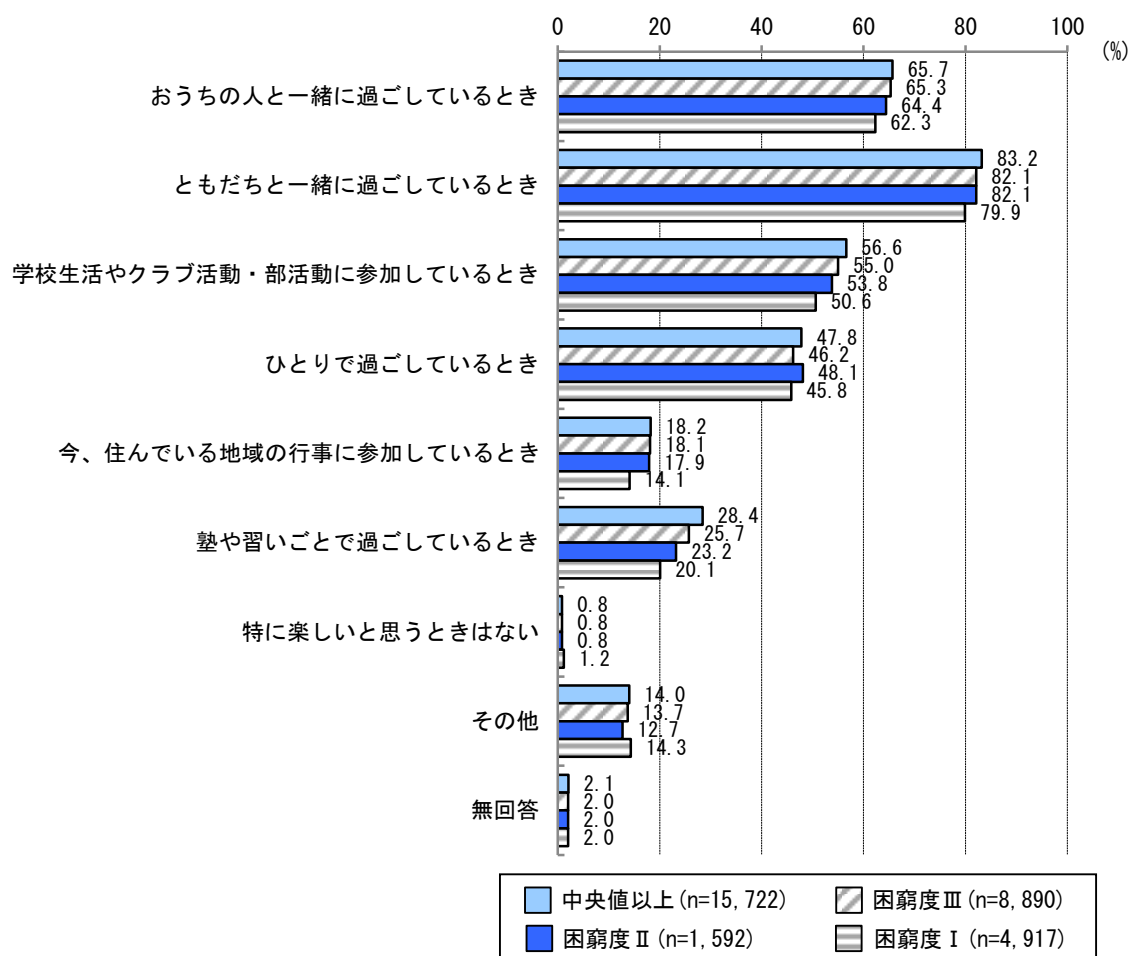


図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」13.7%（困窮度Ⅰ群に対して1.8倍）、「ひとりでいる」25.5%（同じく1.5倍）、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」24.2%（同じく1.3倍）が高かった。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



<門真市>

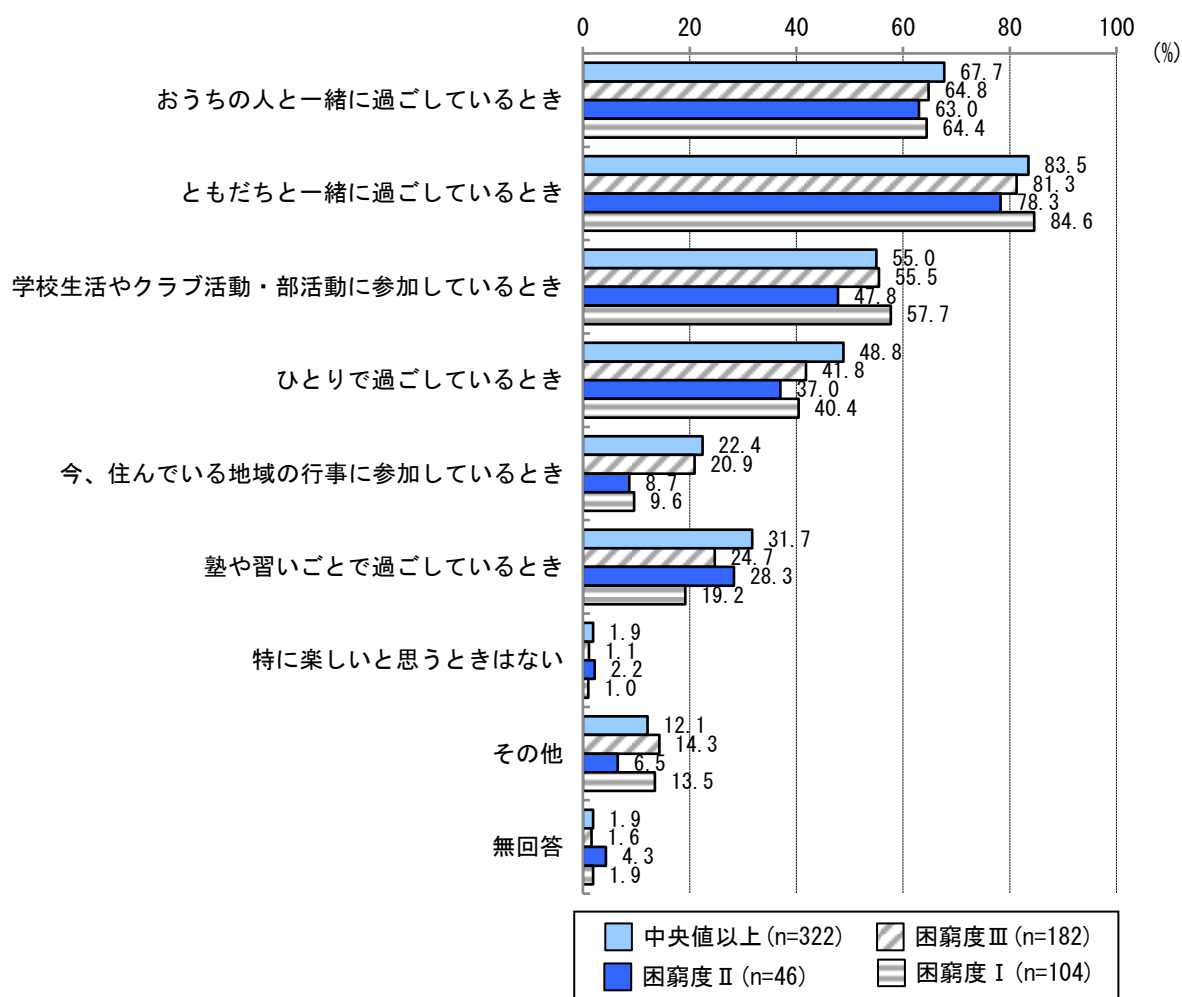
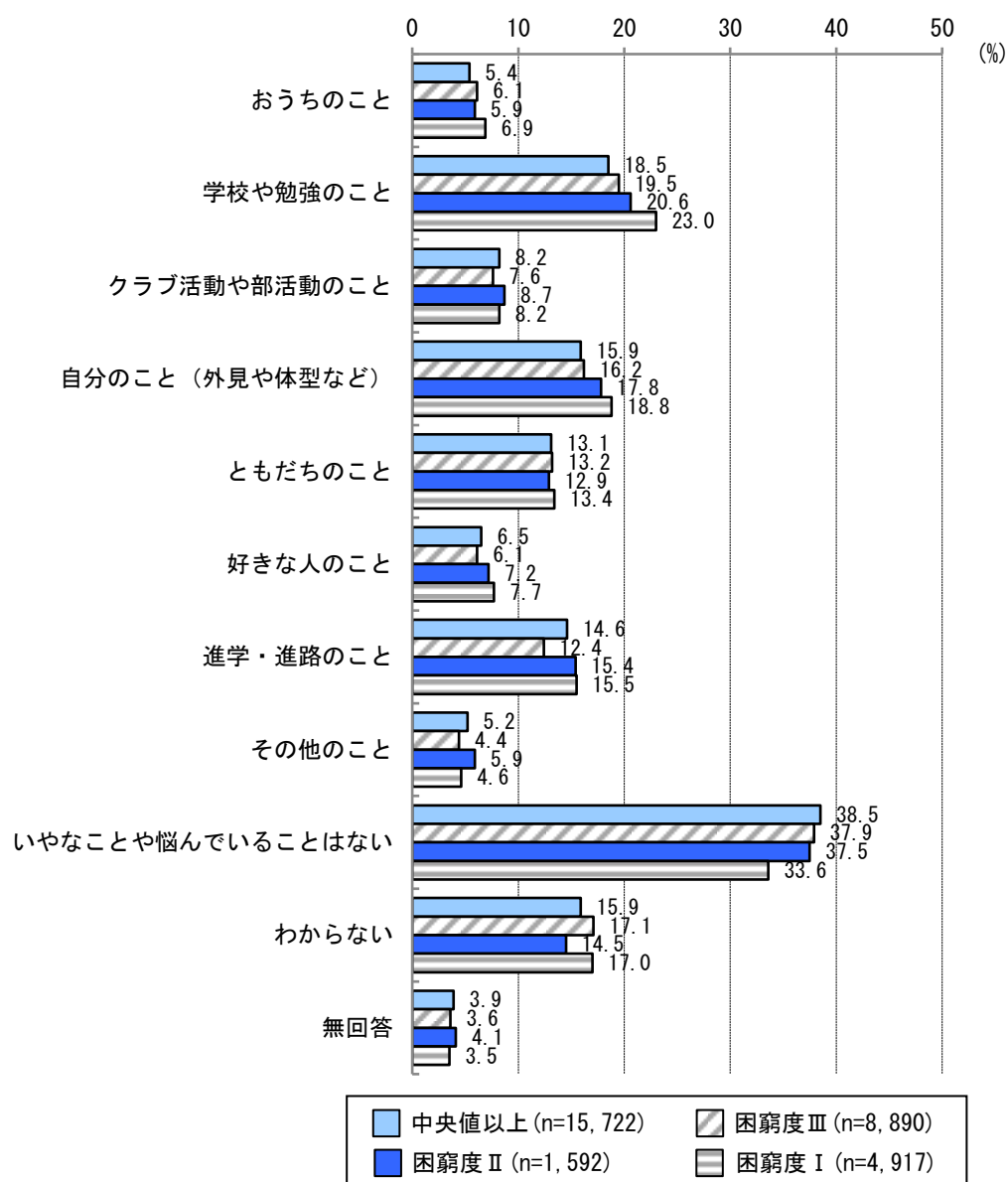


図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」22.4%（困窮度Ⅰ群に対して2.3倍）、「特に楽しいと思うときはない」1.9%（同様に1.9倍）、「塾や習いごとで過ごしているとき」31.7%（同様に1.7倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



<門真市>

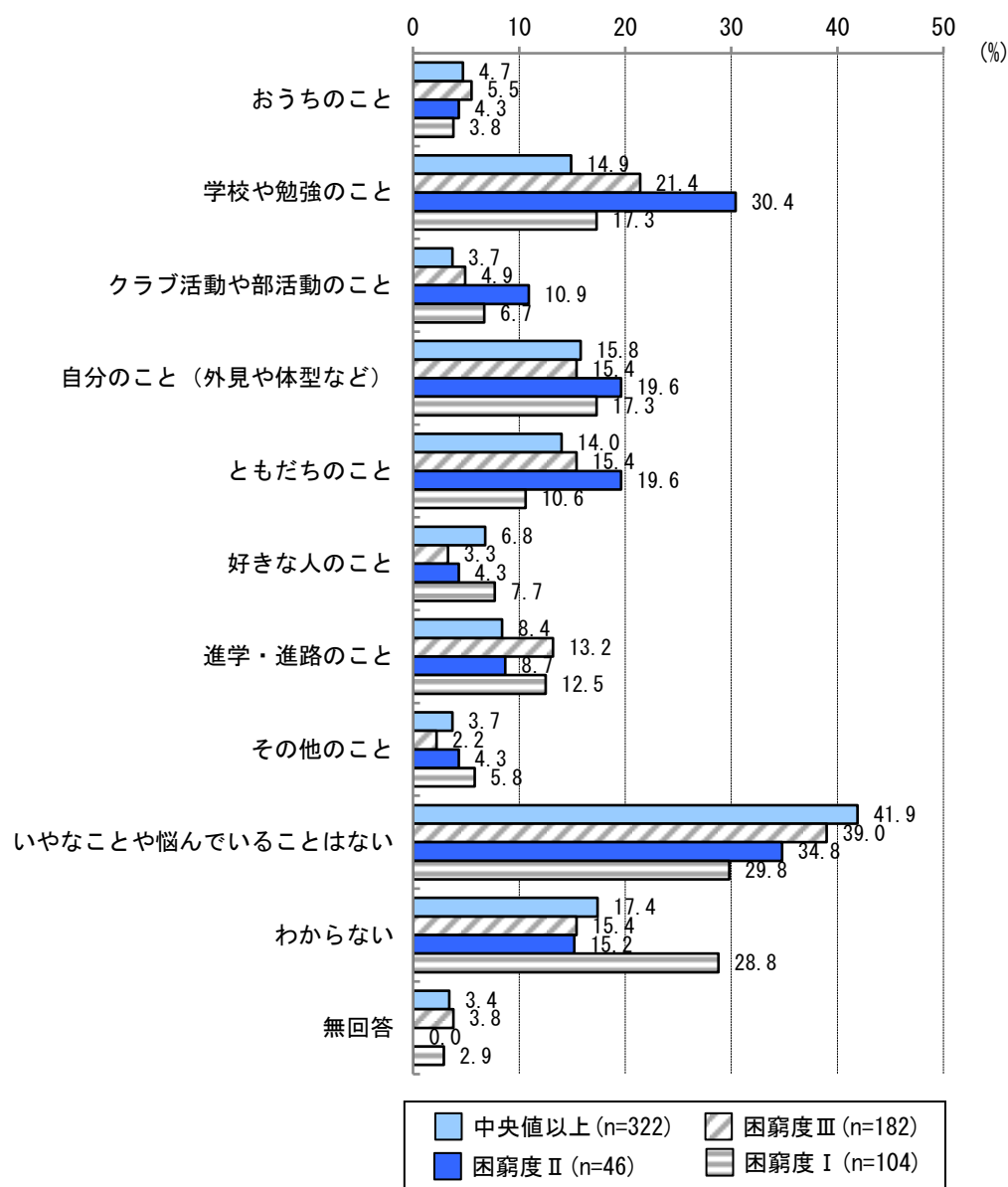
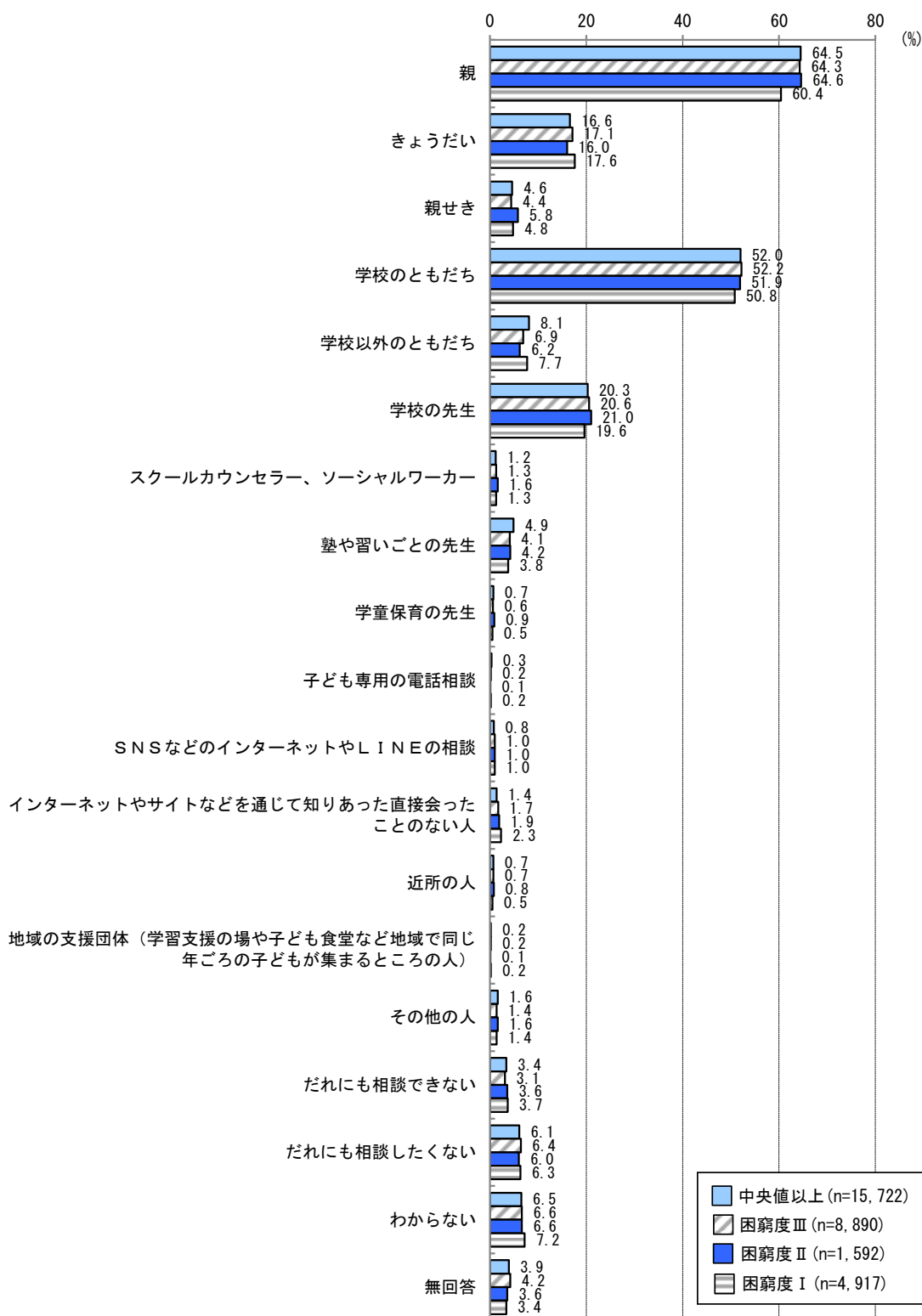


図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「クラブ活動や部活動のこと」6.7%（中央値以上群に対して1.8倍）、「進学・進路のこと」12.5%（同じく1.5倍）、「学校や勉強のこと」17.3%（同じく1.2倍）が高く、中央値以上群では「いやなことや悩んでいることはない」41.9%（困窮度Ⅰ群に対して1.4倍）、「ともだちのこと」14.0%（同じく1.3倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 18）

<大阪府内全体>



<門真市>

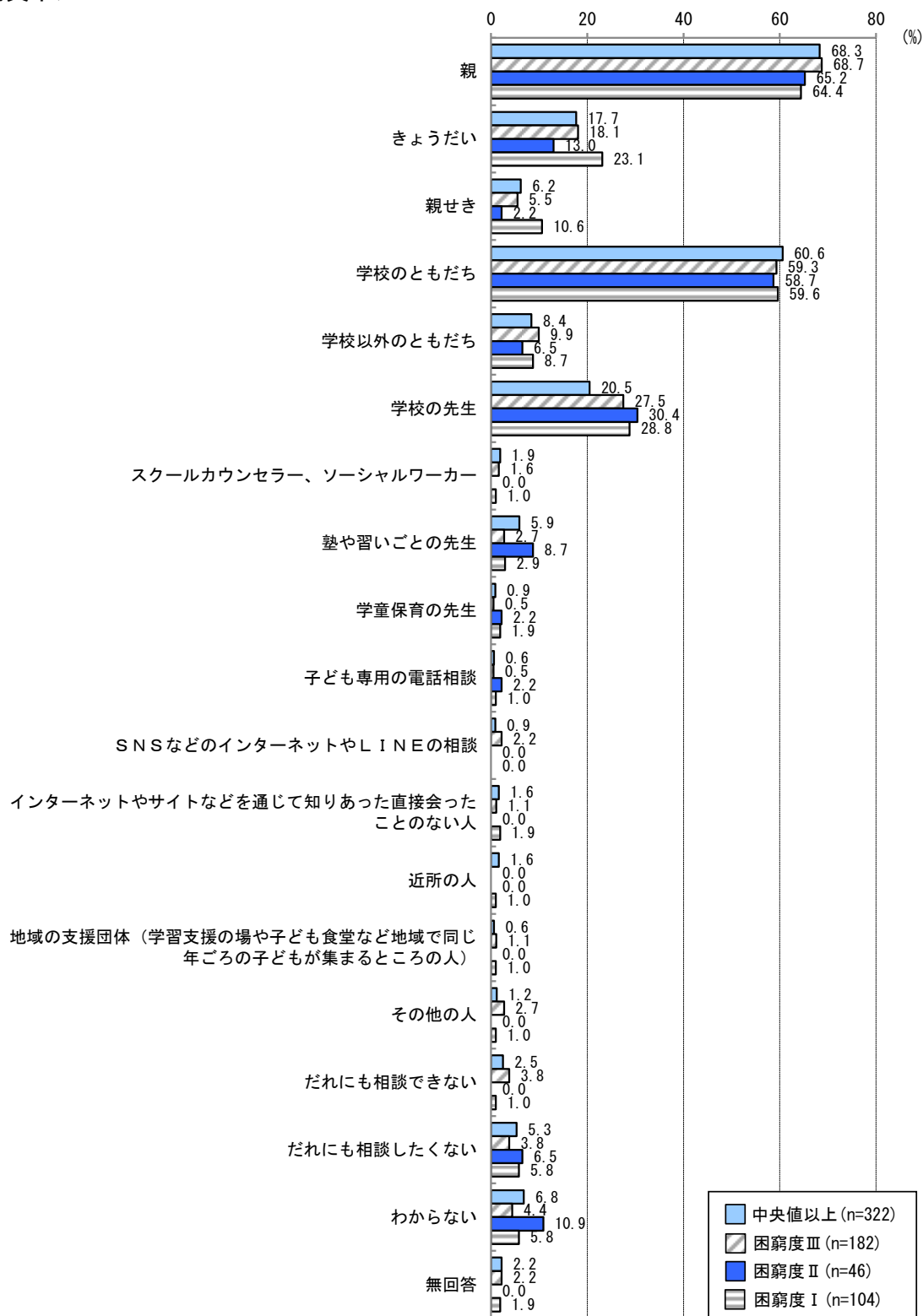
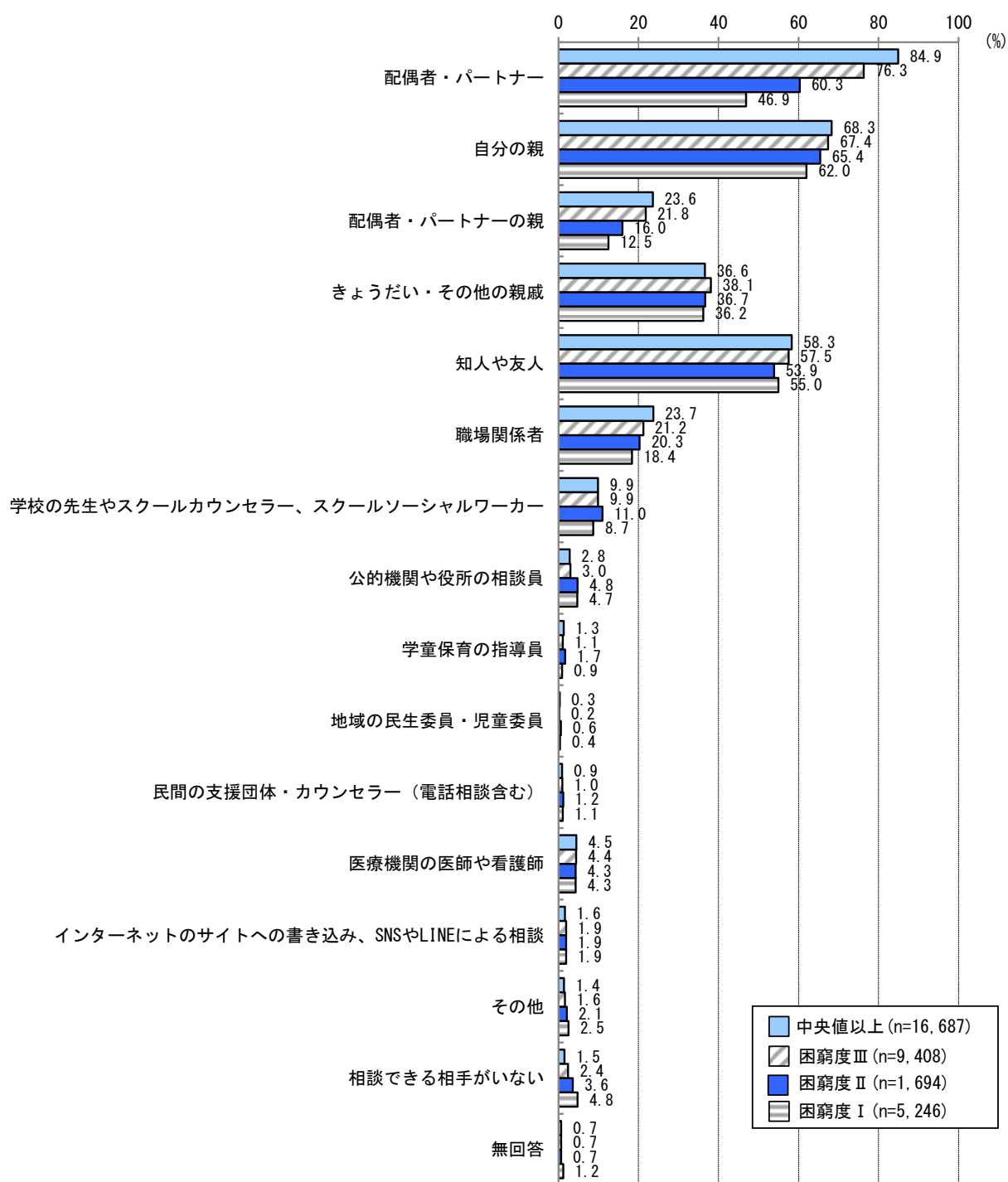


図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「学童保育の先生」1.9%（中央値以上群に対して2.1倍）、「親せき」10.6%（同じく1.7倍）、「子ども専用の電話相談」1.0%（同じく1.7倍）、「地域の支援団体（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところの人）」1.0%（同じく1.7倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



<門真市>

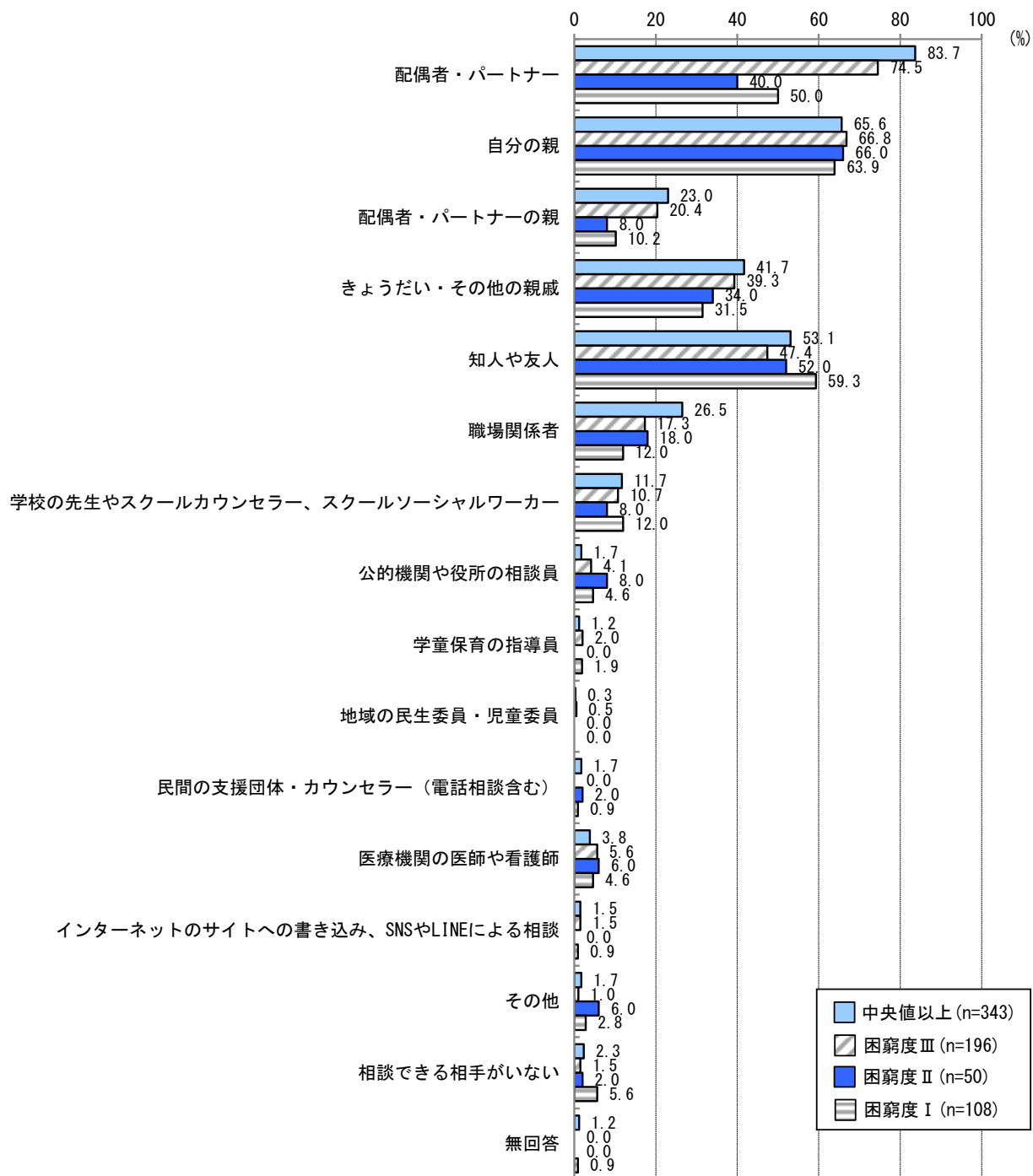
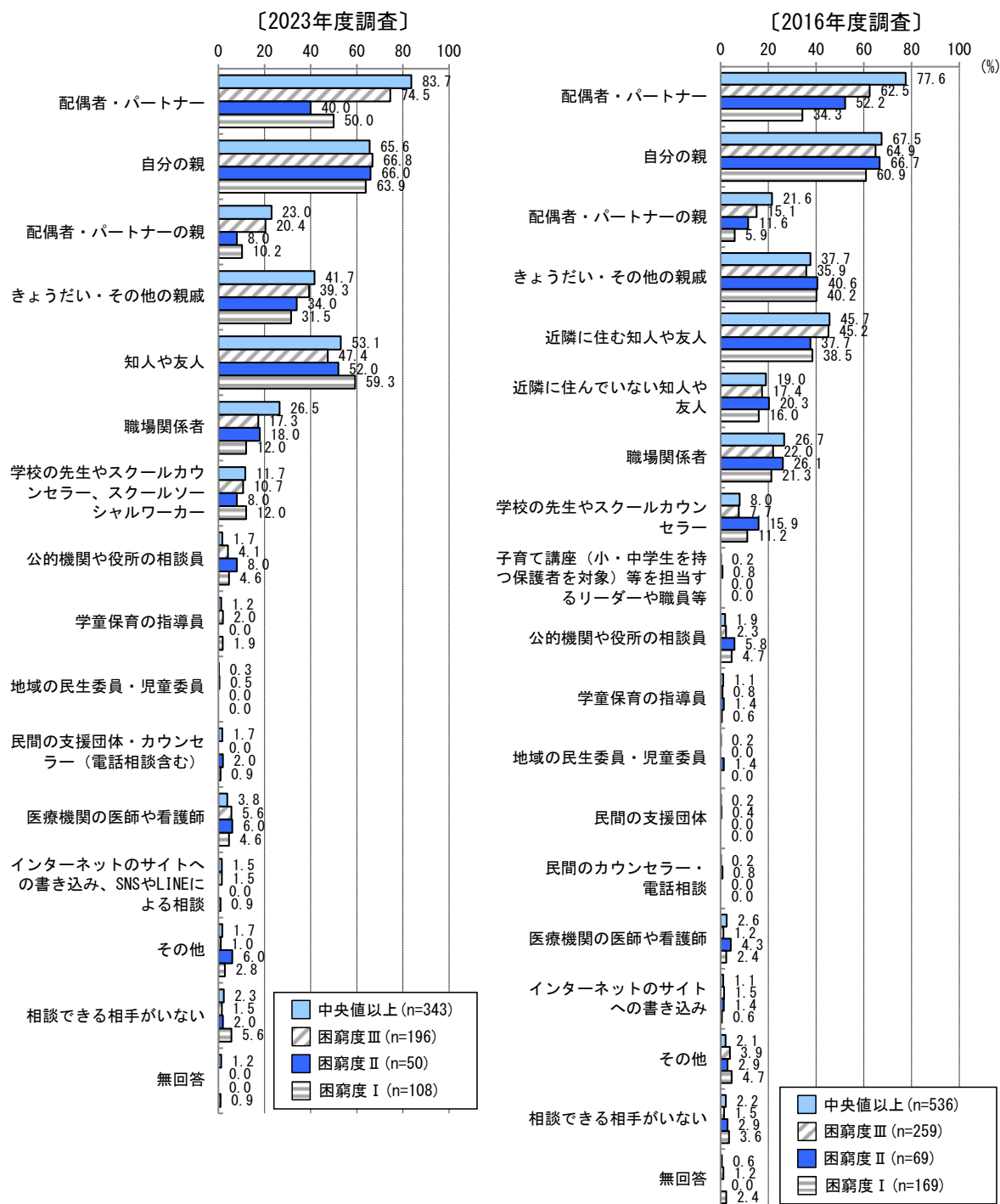


図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「公的機関や役所の相談員」4.6%（中央値以上群に対して2.7倍）、「学童保育の指導員」1.9%（同にく1.6倍）となっている。中央値以上群の数値を挙げると、「配偶者・パートナーの親」23.0%（困窮度Ⅰ群に対して2.3倍）、「職場関係者」26.5%（同にく2.2倍）、「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」1.7%（同にく1.9倍）となっている。

<2016 年度調査との比較／門真市>



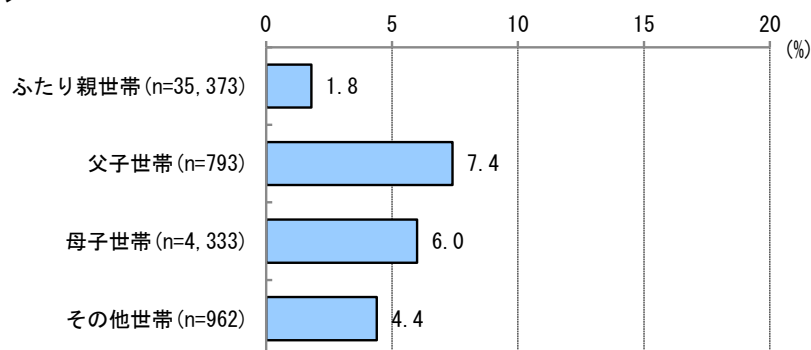
- ※1 「知人や友人」は、2016年度調査では「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」
 ※2 「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」は、2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」
 ※3 2016年度調査の「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」は今回は削除
 ※3 「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」は、2016年度調査では「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」
 ※4 「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」は、2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「医療機関の医師や看護師」と回答した割合は、いずれの困窮度
 も2016年度調査に比べて高くなっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<門真市>

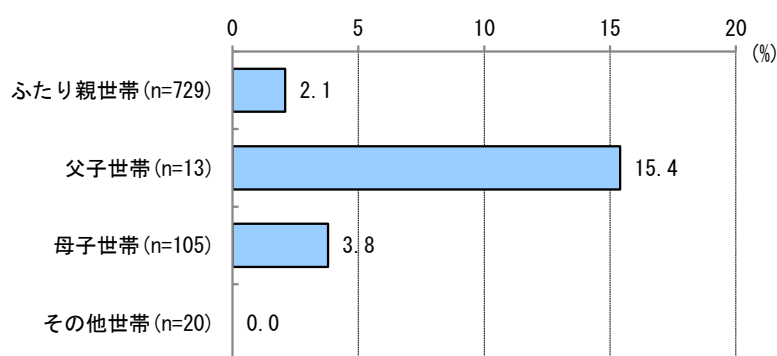


図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「相談できる相手がない」と回答した人は、父子世帯で15.4%、母子世帯で3.8%となっている。

<2016年度調査との比較／門真市>

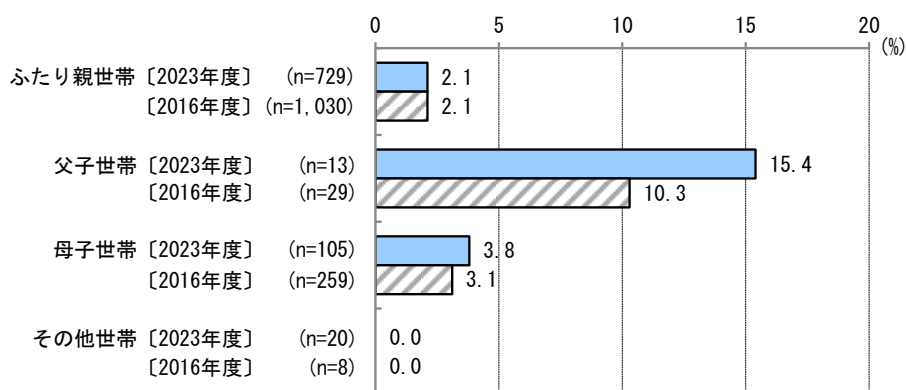
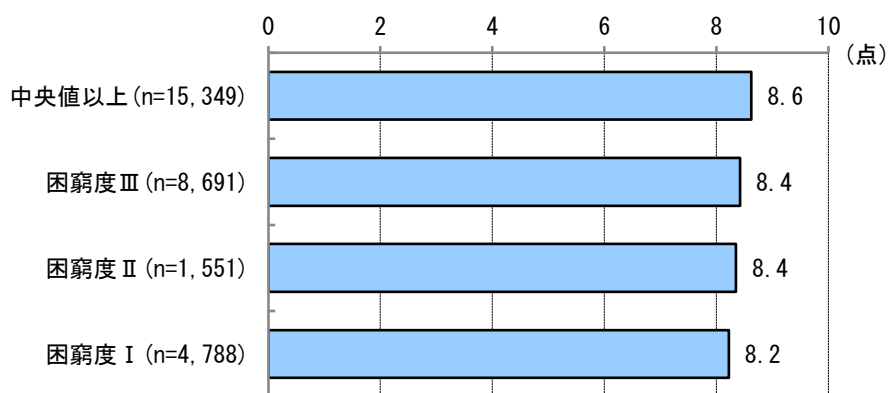


図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合 (2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、父子世帯、母子世帯の割合は、2016年度調査に比べて高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<門真市>

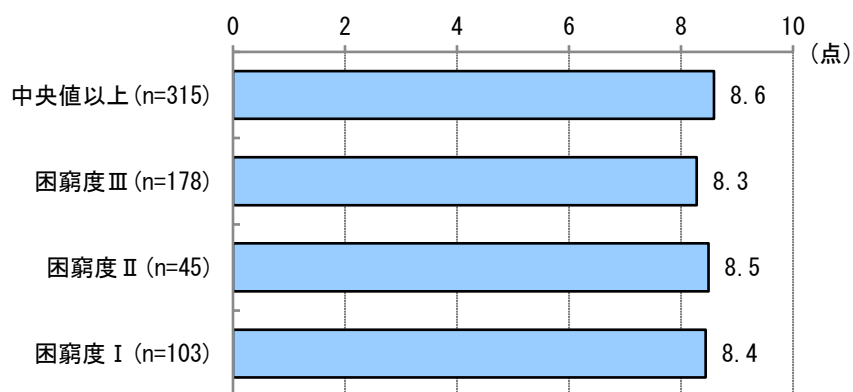
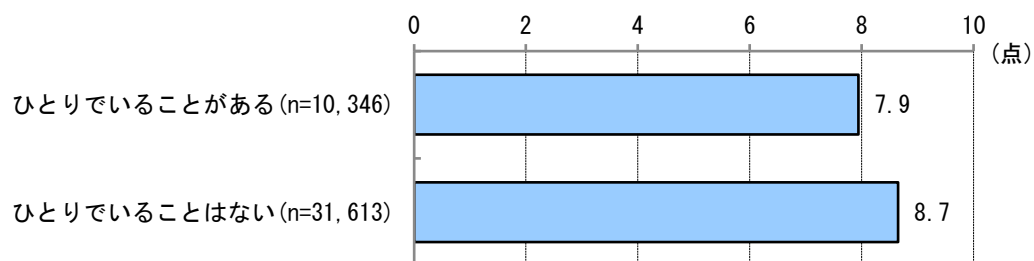


図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群において、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が8.6点と最も高くなっている。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<門真市>

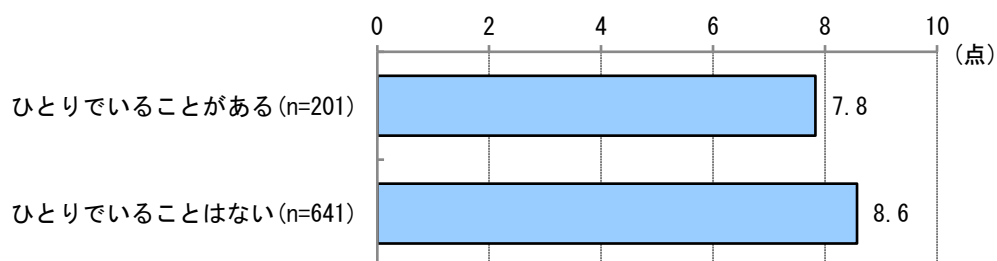


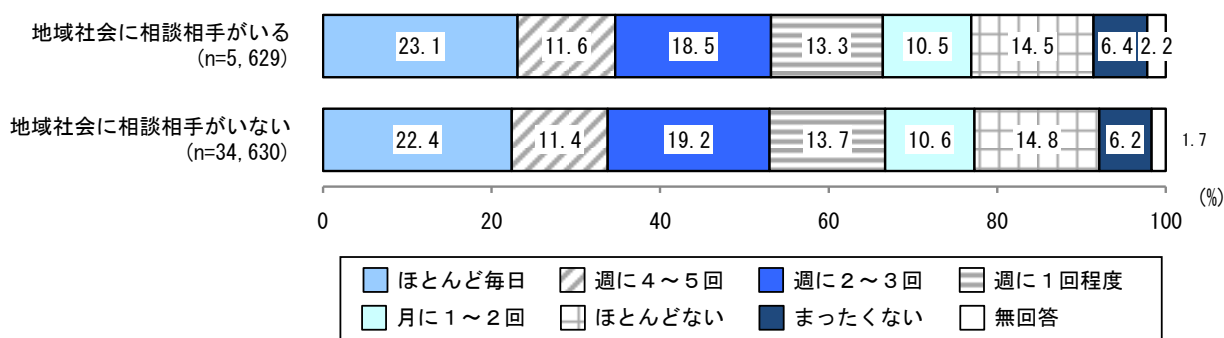
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方がそれでない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか
(保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<門真市>

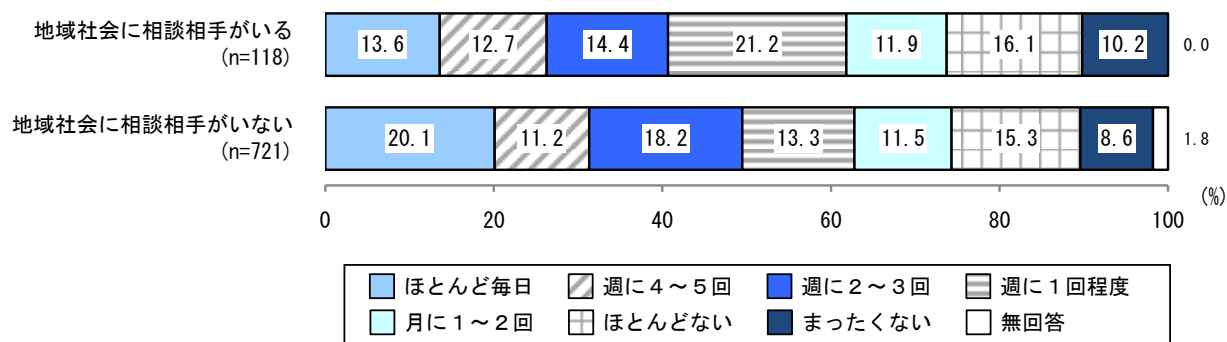
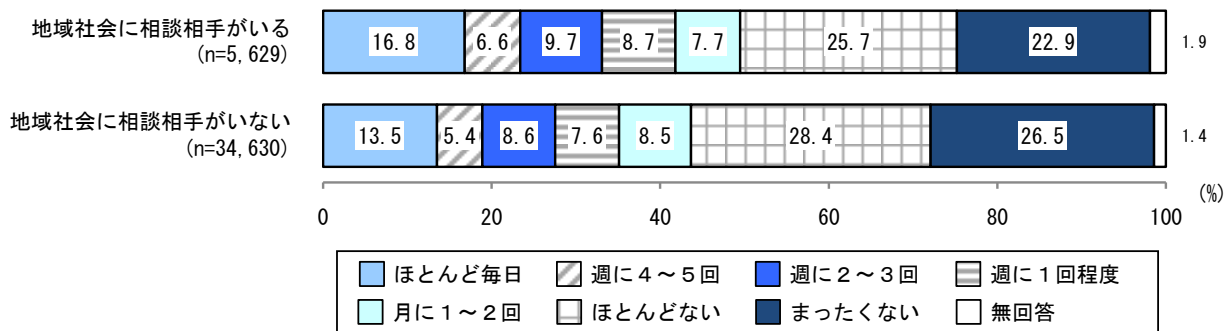


図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「ほとんど毎日」と回答する割合が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑤）

<大阪府内全体>



<門真市>

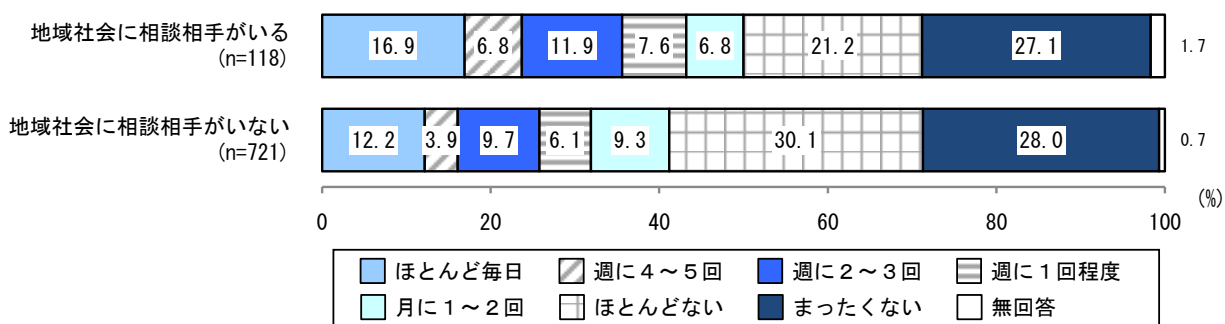
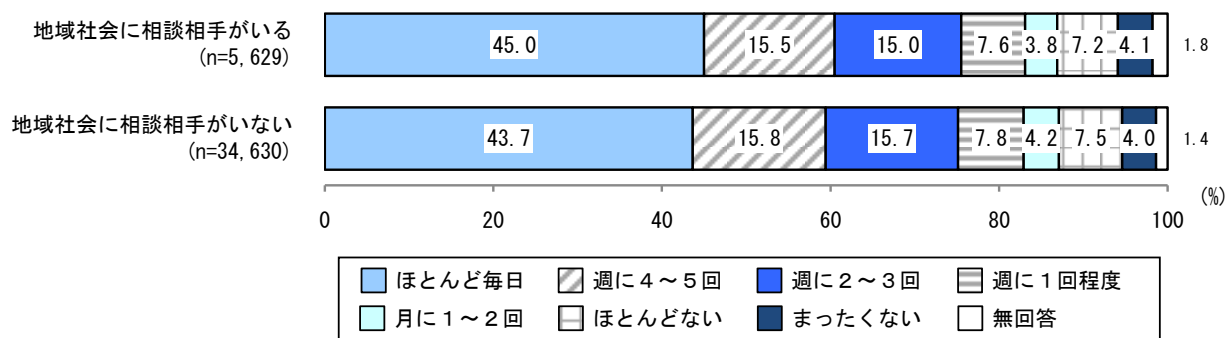


図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑥）

<大阪府内全体>



<門真市>

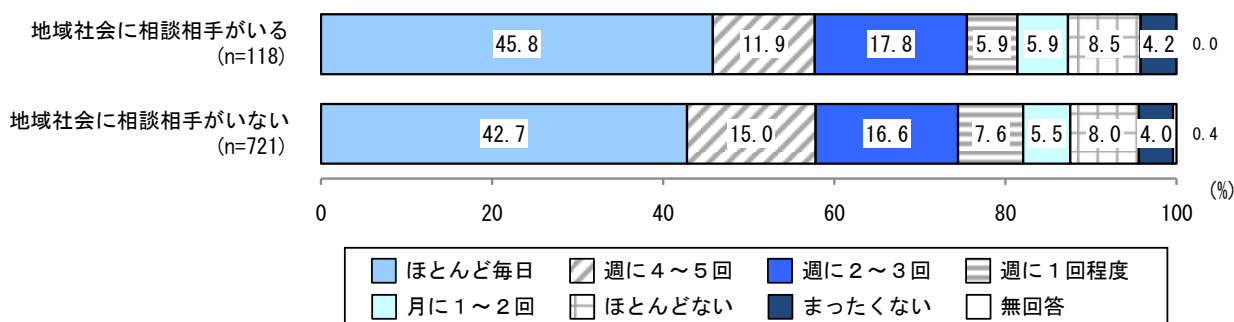
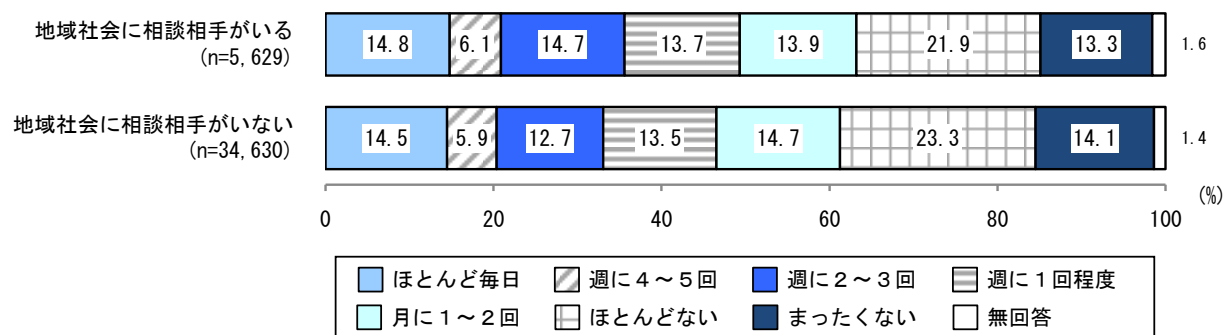


図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑦)

<大阪府内全体>



<門真市>

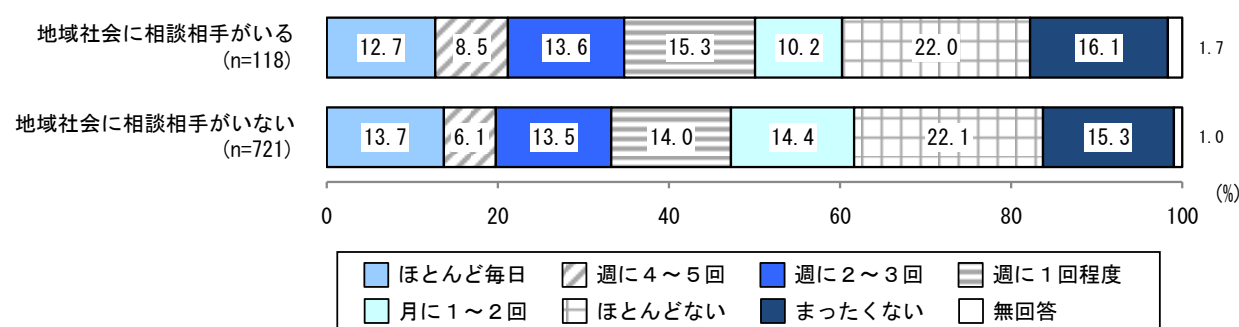
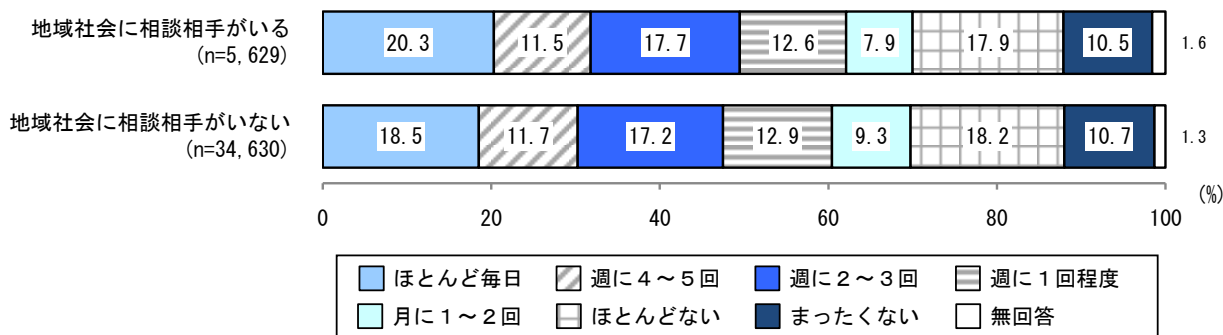


図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに「ほとんど毎日」と回答する割合が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<門真市>

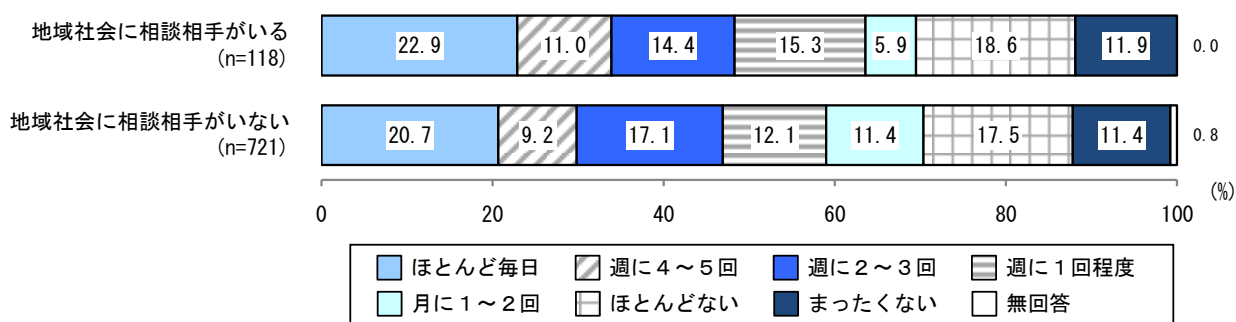
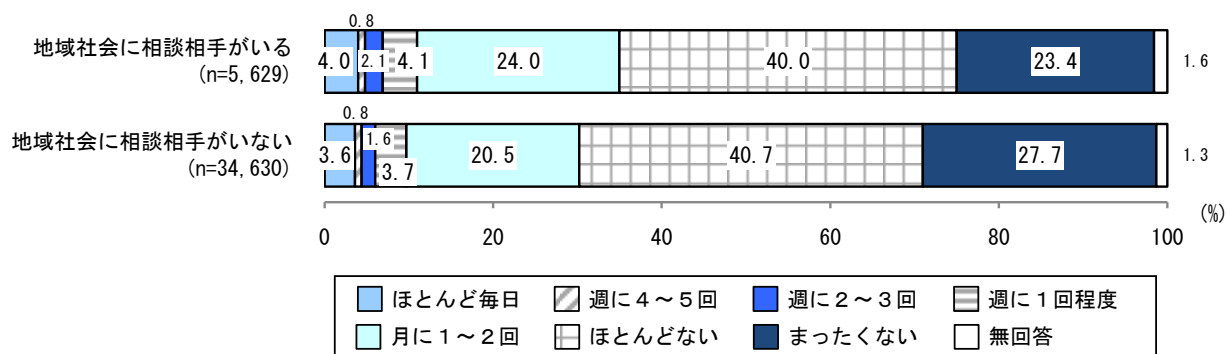


図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑨)

<大阪府内全体>



<門真市>

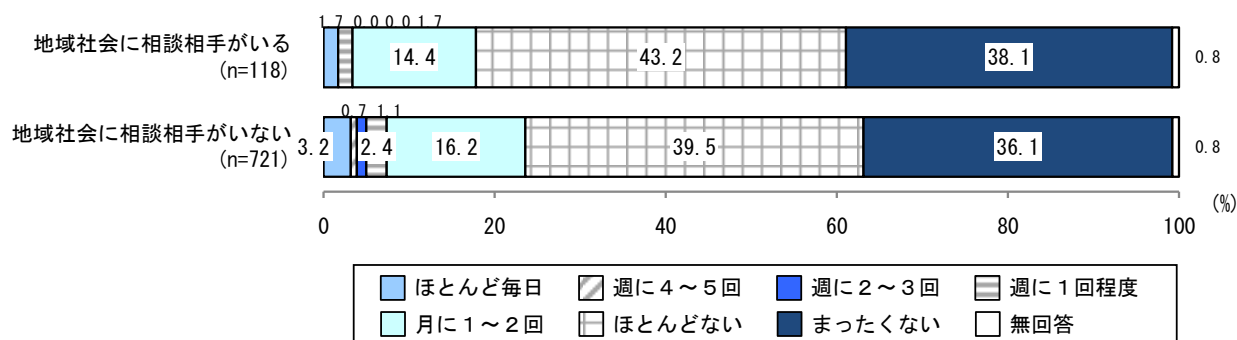
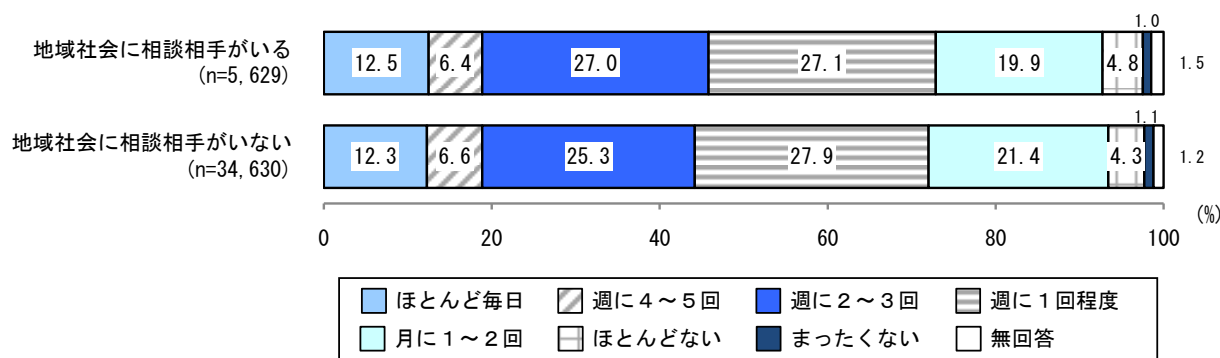


図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と文化活動をするかに「ほとんど毎日」と回答する割合が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<門真市>

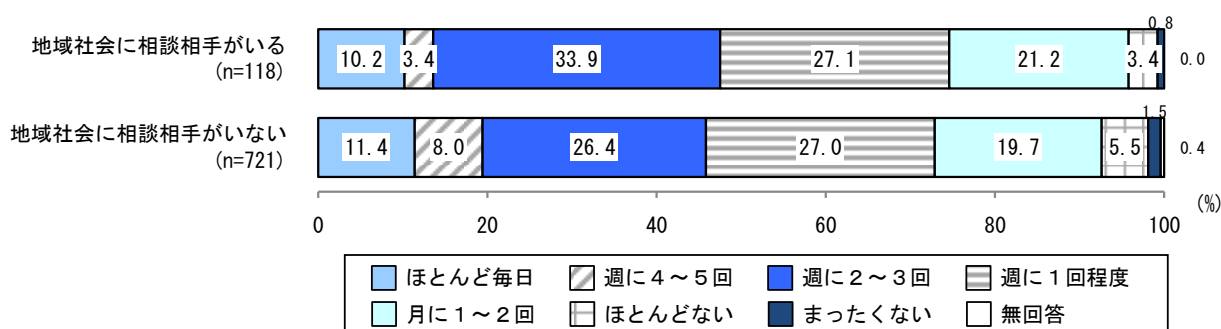
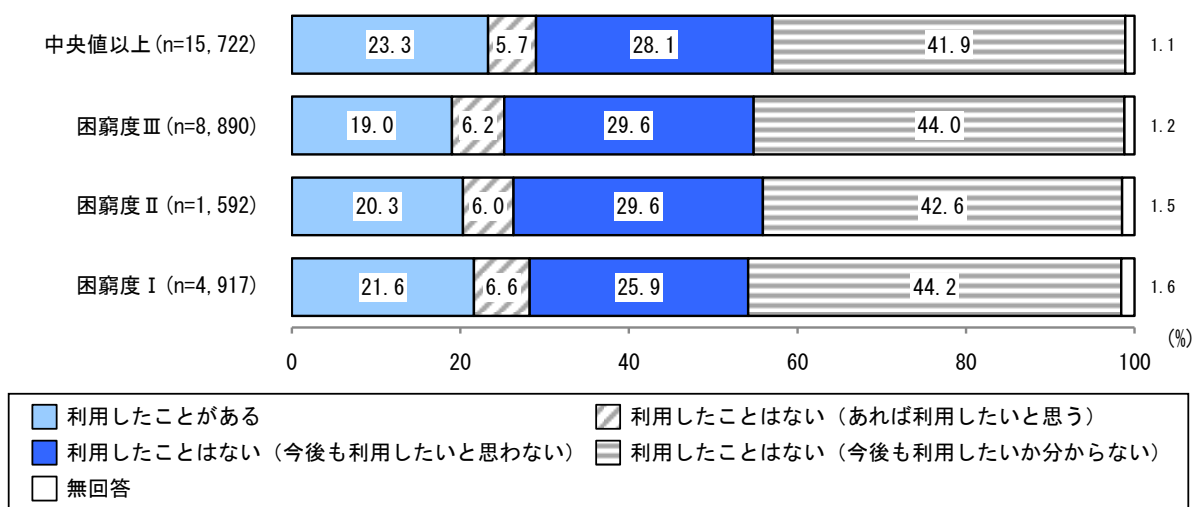


図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と一緒に外出するかに「ほとんど毎日」と回答する割合が低かった。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<門真市>

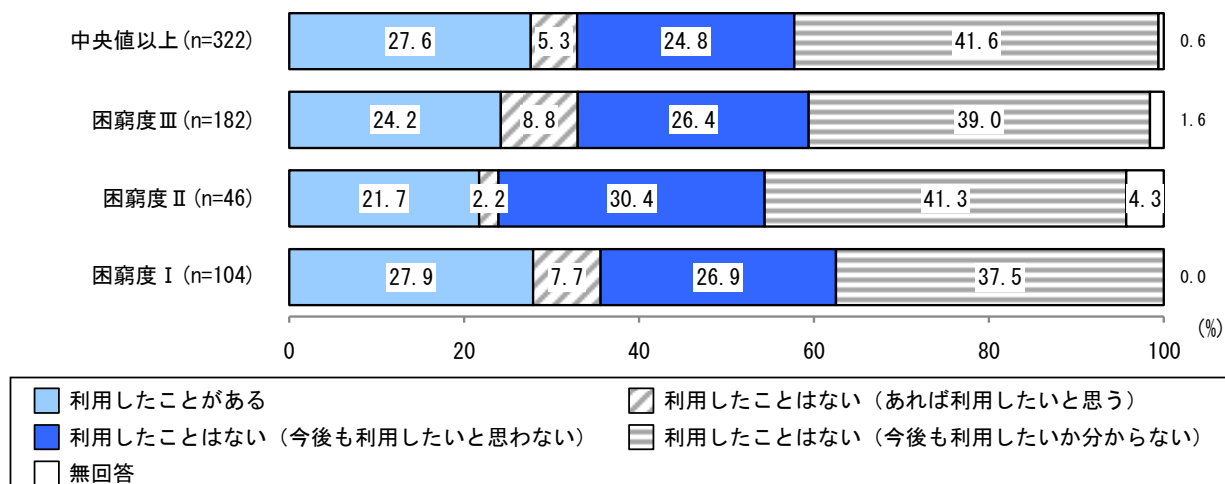
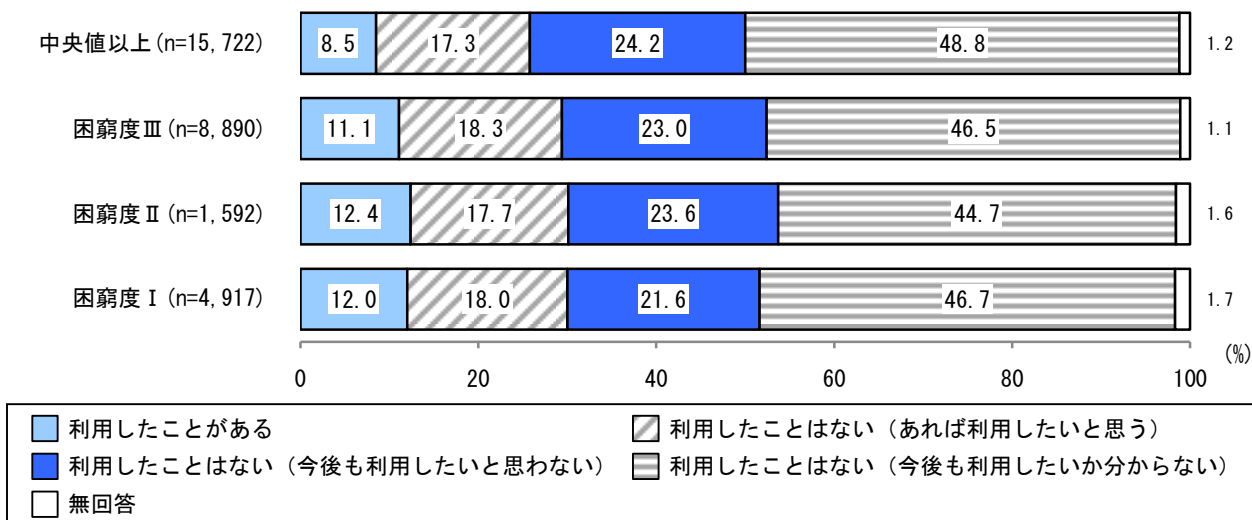


図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で27.9%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所
(子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<門真市>

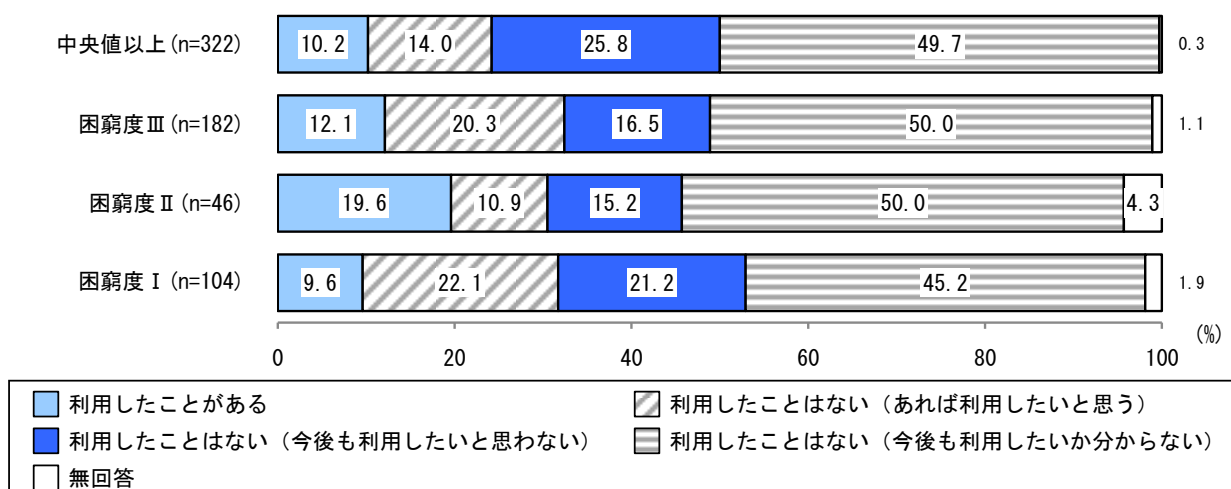
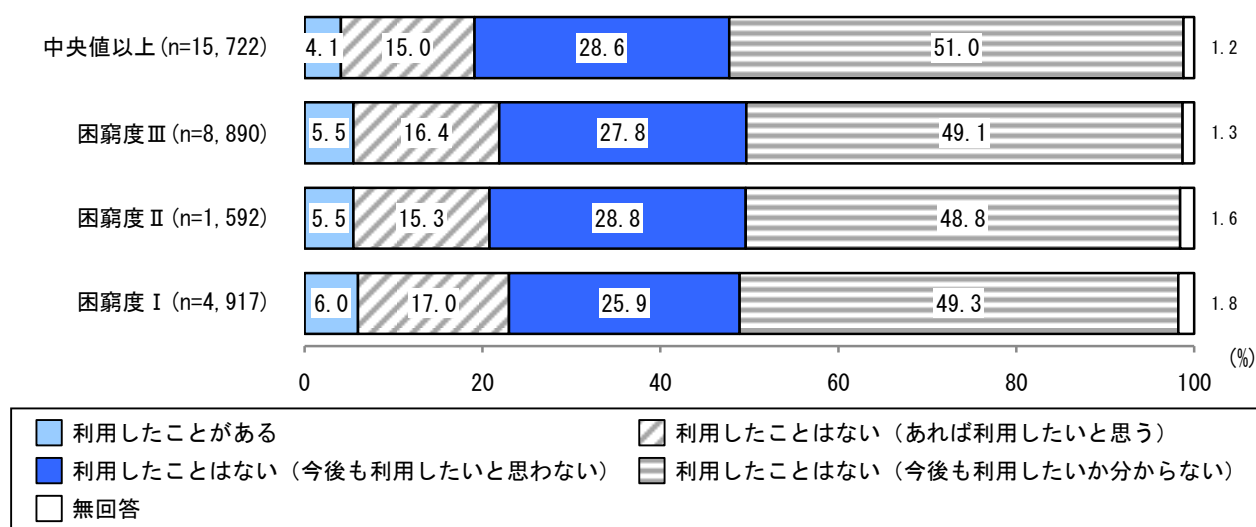


図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことはない (今後も利用したいか分からない)」と回答する割合が困窮度Ⅰ群で45.2%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<門真市>

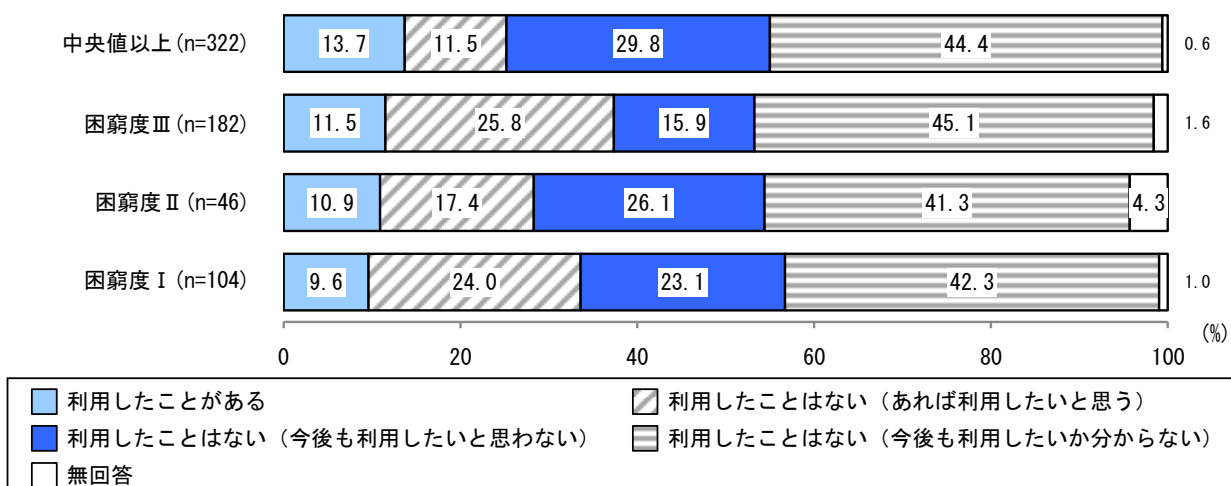
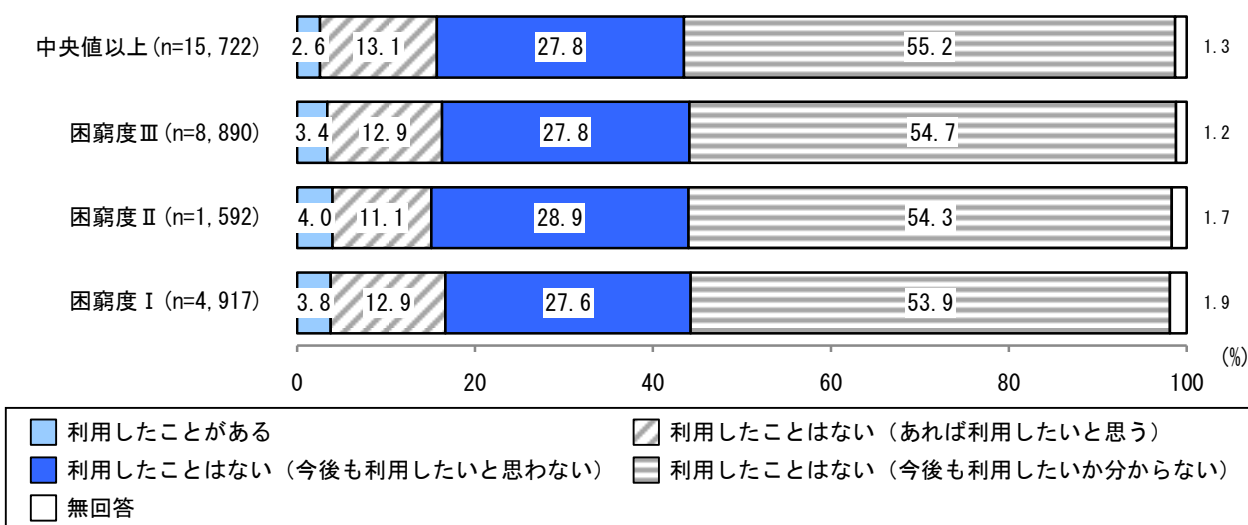


図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅰ群で9.6%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



<門真市>

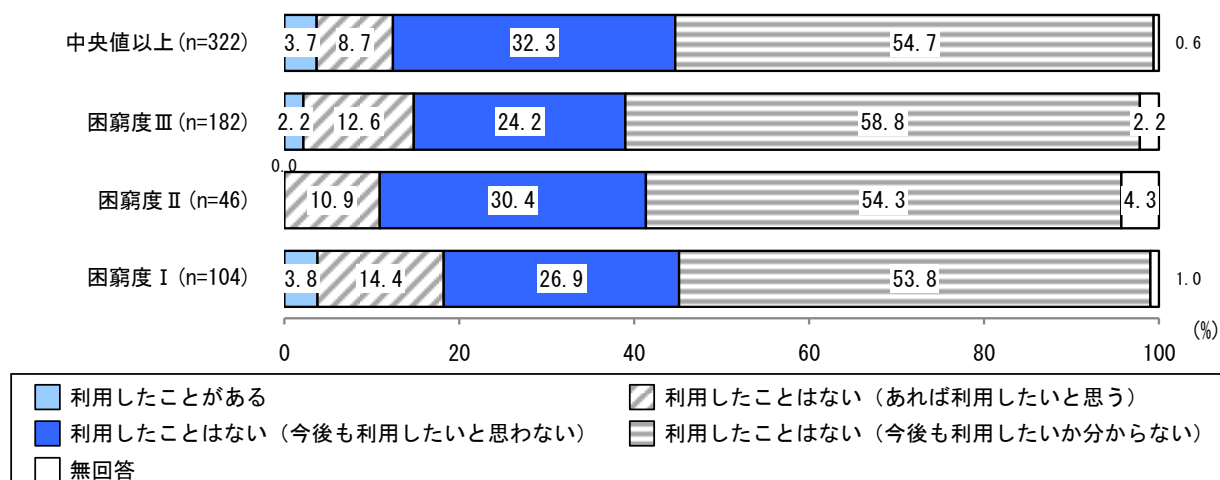
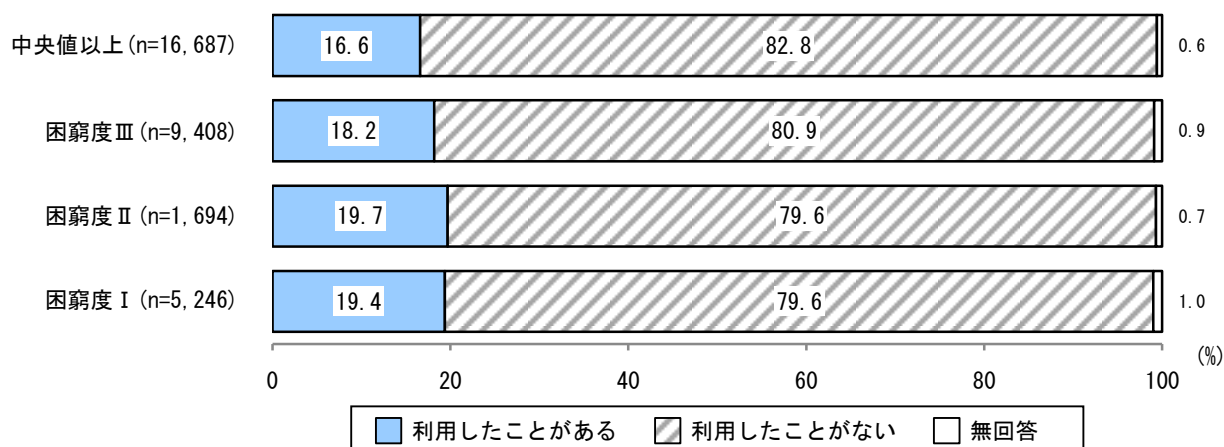


図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で3.8%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<門真市>

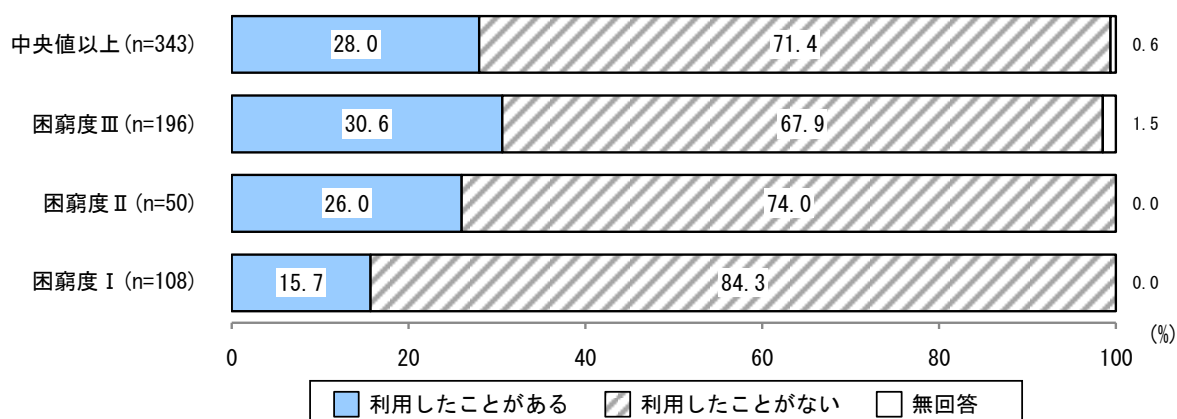
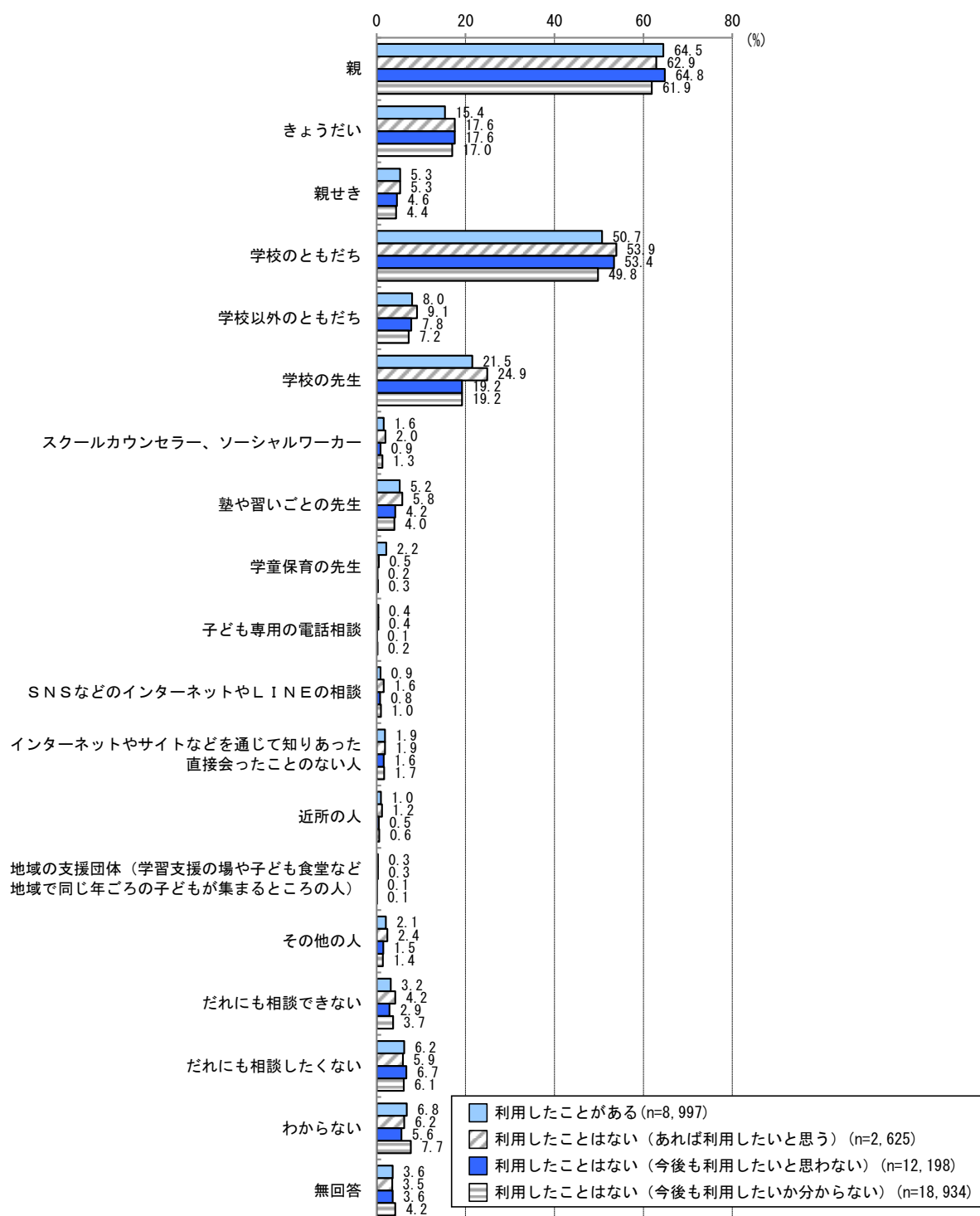


図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は困窮度Ⅰ群が15.7%で最も低く、困窮度Ⅲ群が30.6%で最も高くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<門真市>

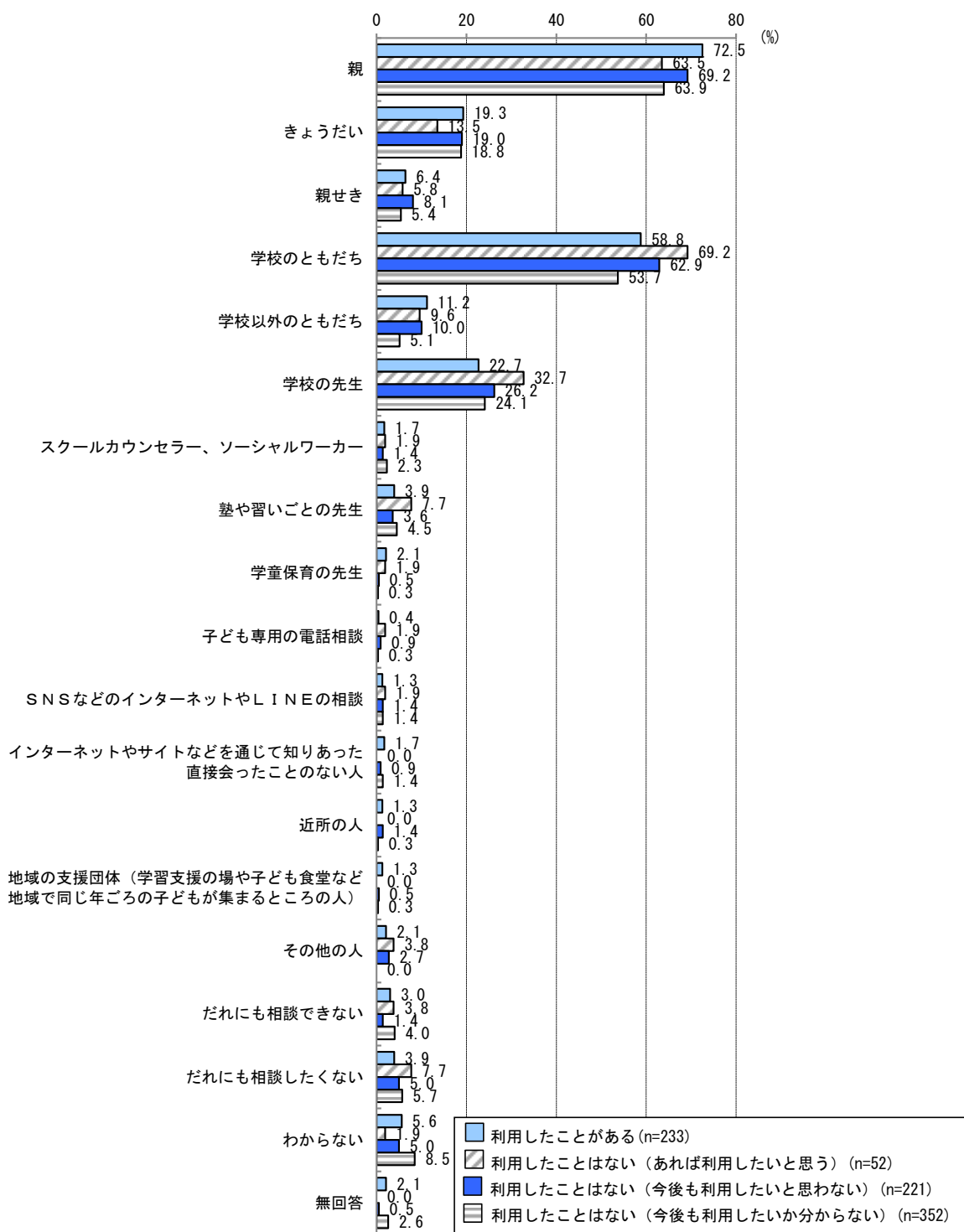
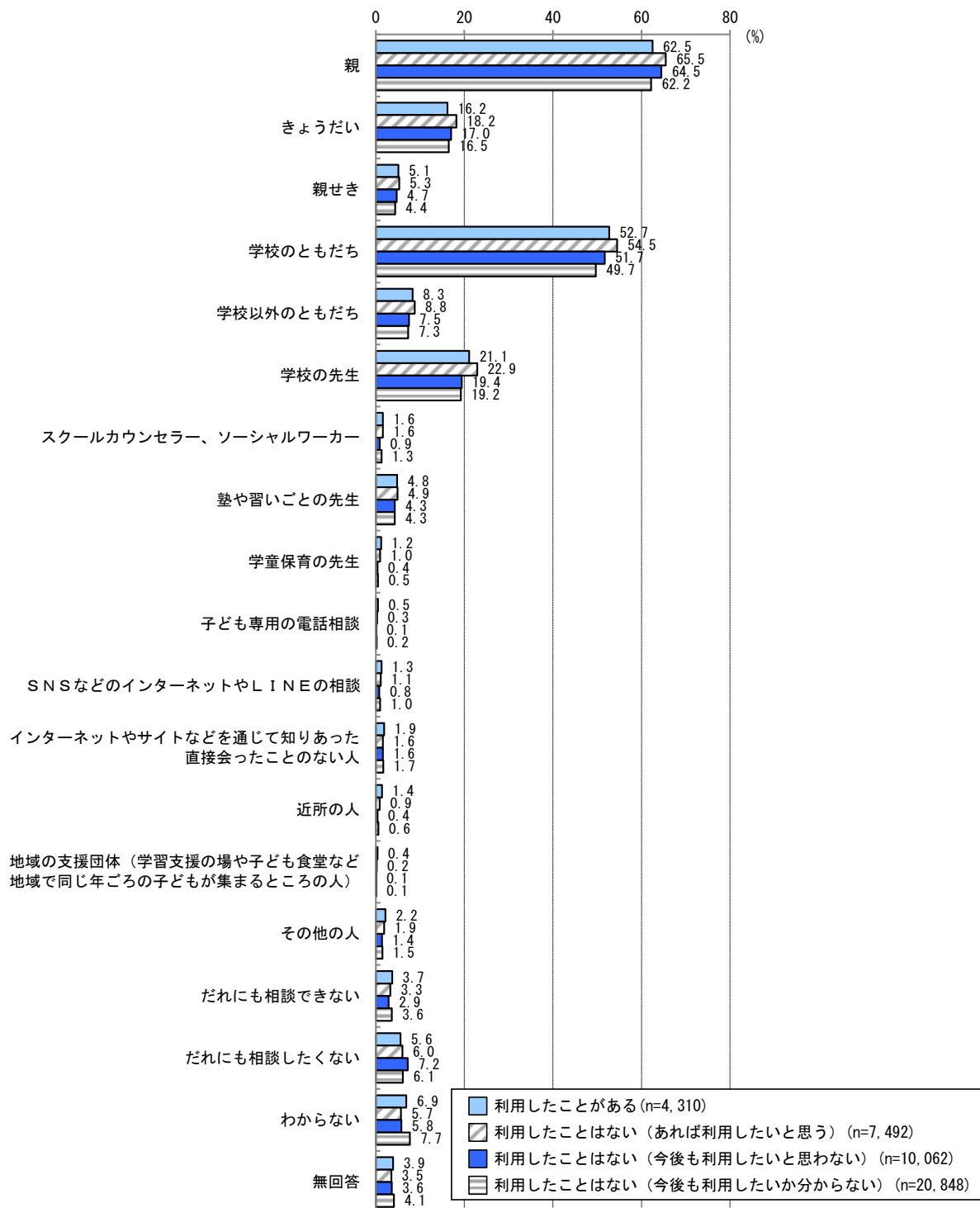


図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25 (1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<門真市>

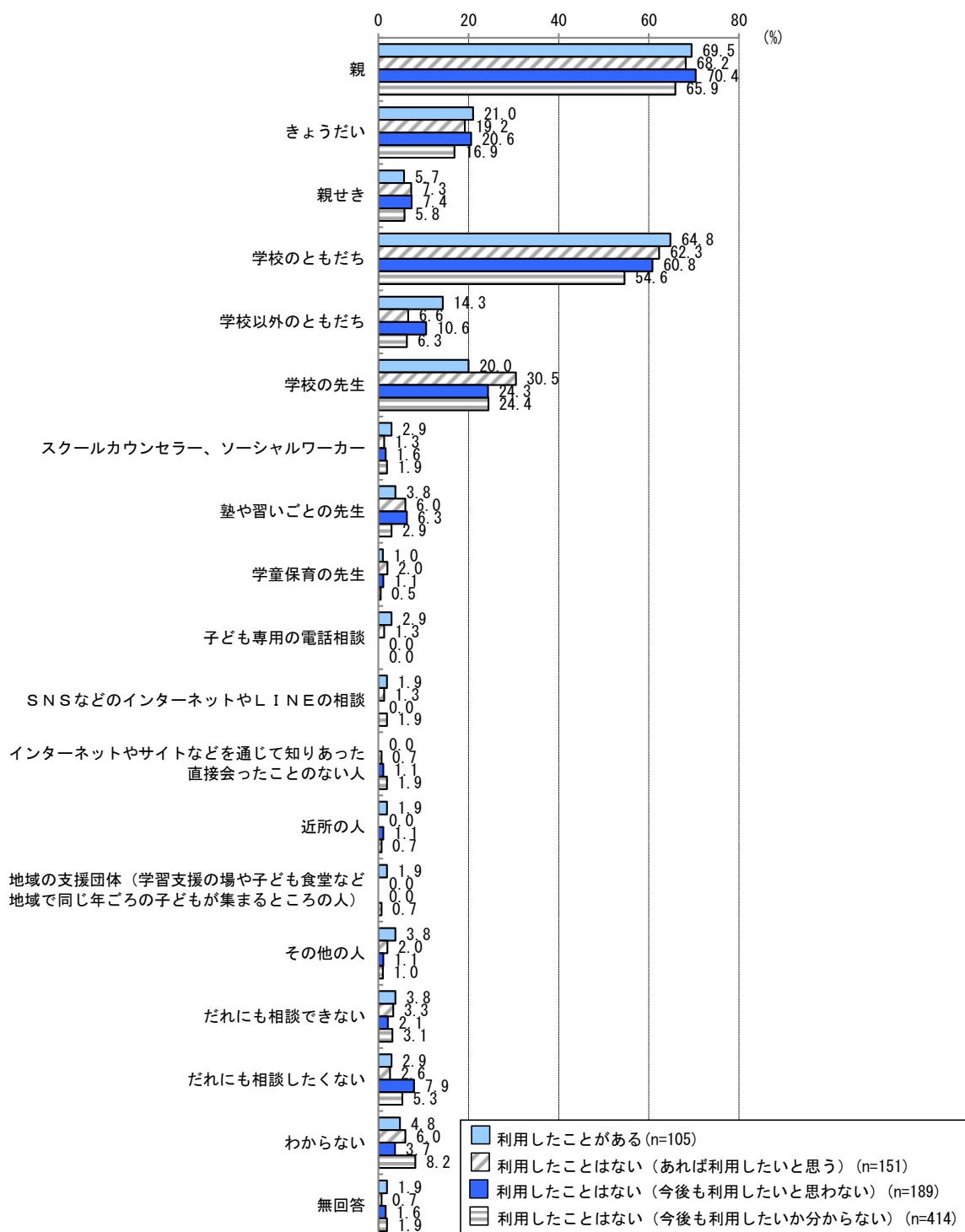
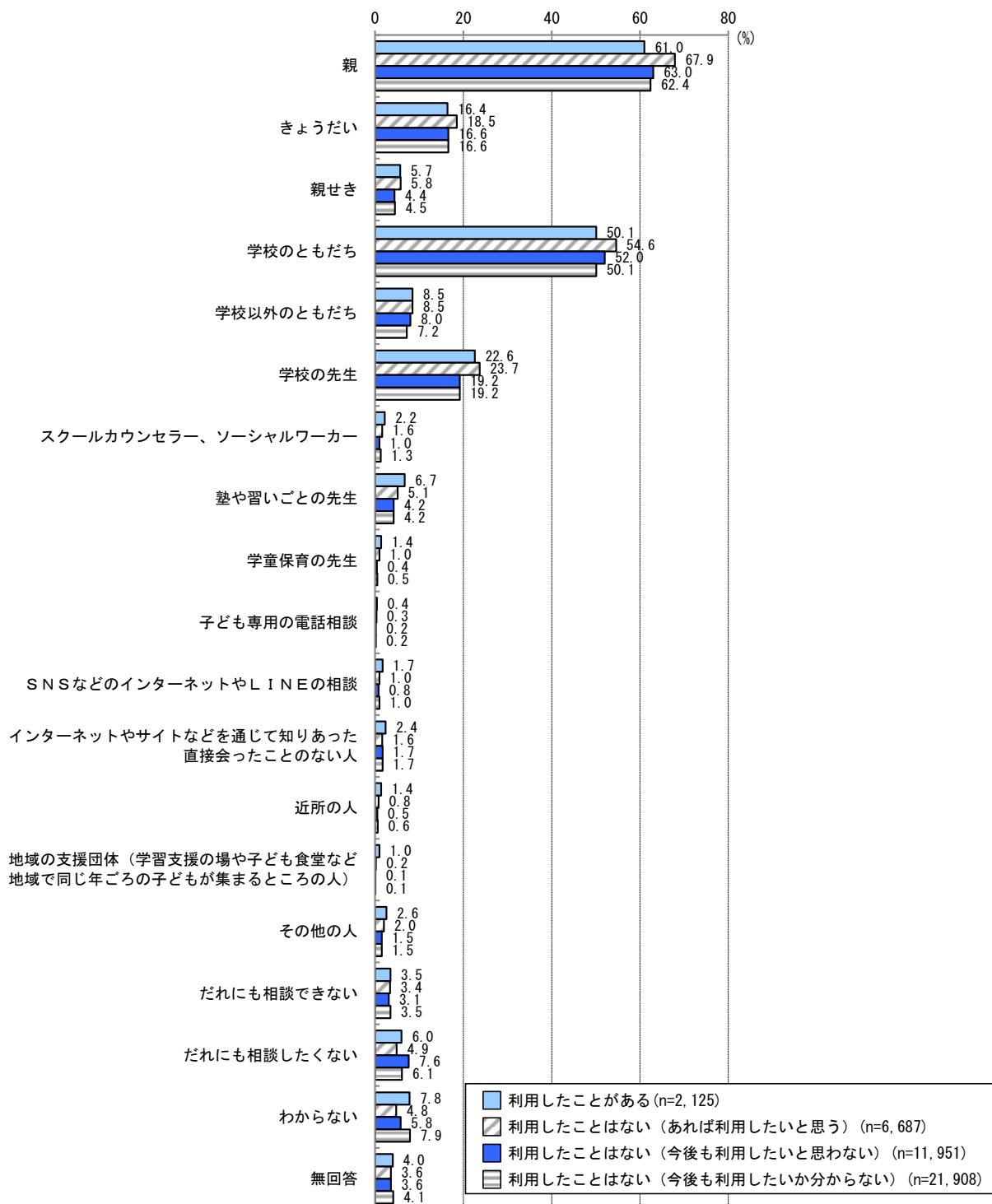


図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「きょうだい」や「学校のともだち」、「スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー」、「子ども専用の電話相談」、「近所の人」、「地域の支援団体（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところの人）」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<門真市>

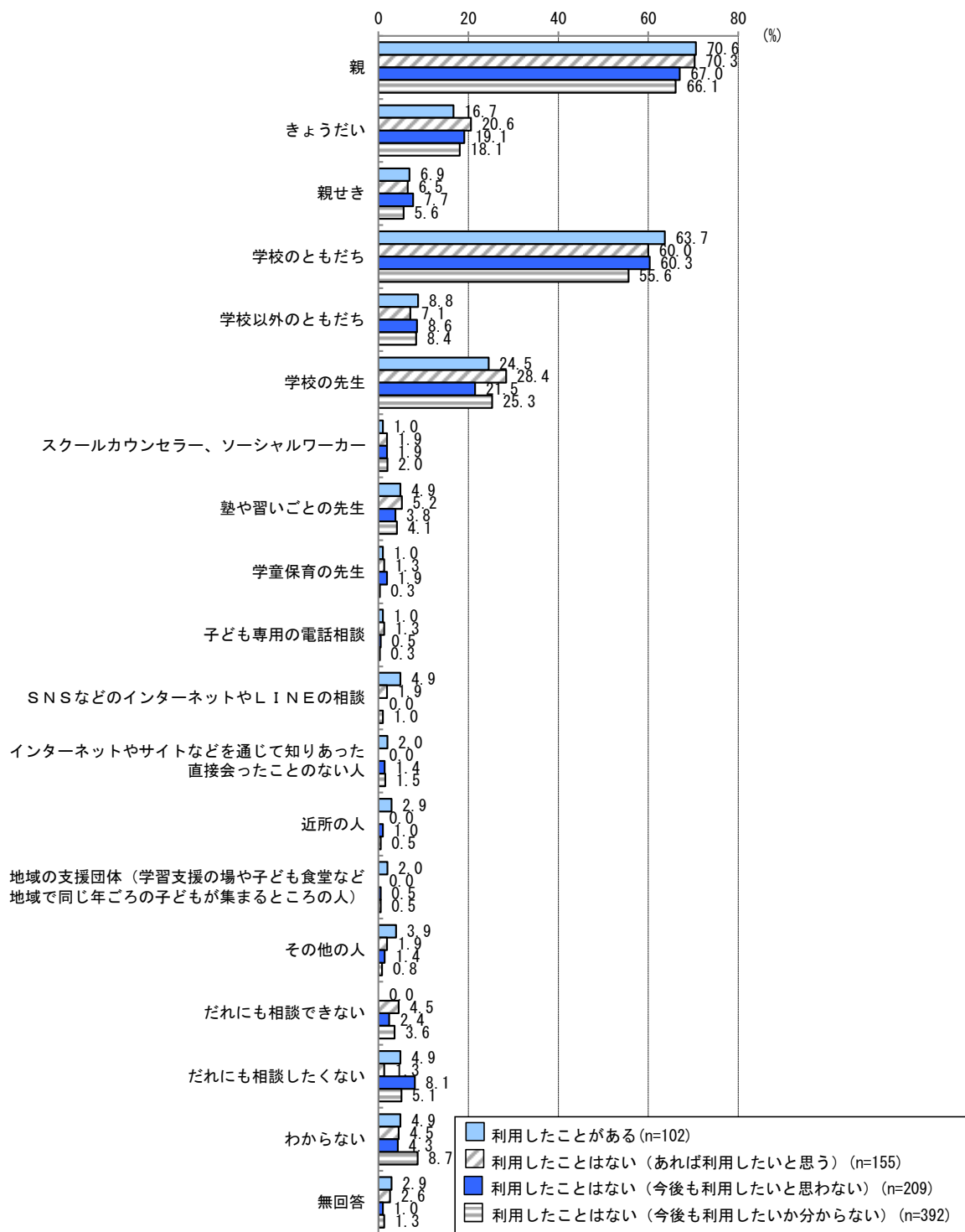
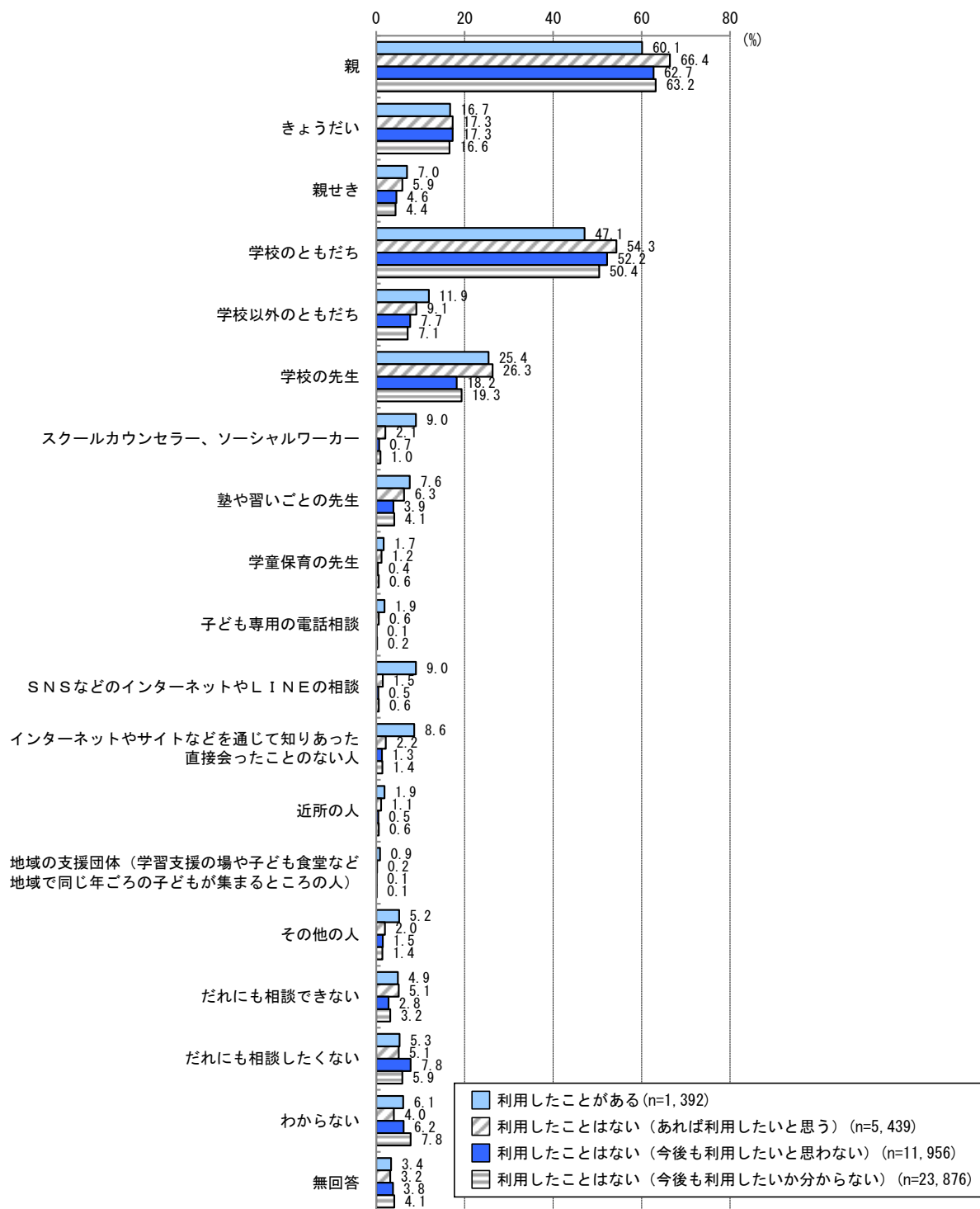


図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」や「学校のともだち」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<門真市>

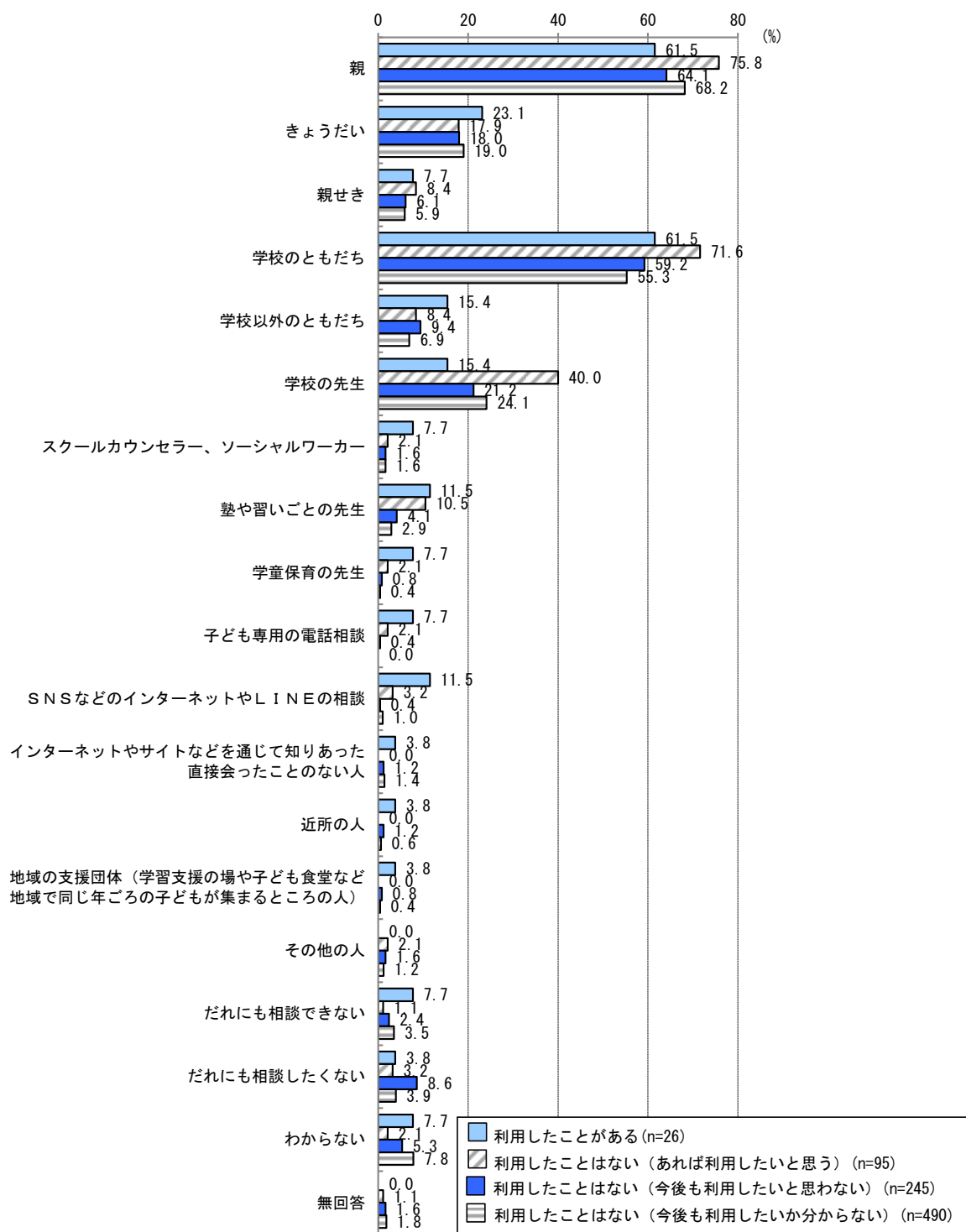
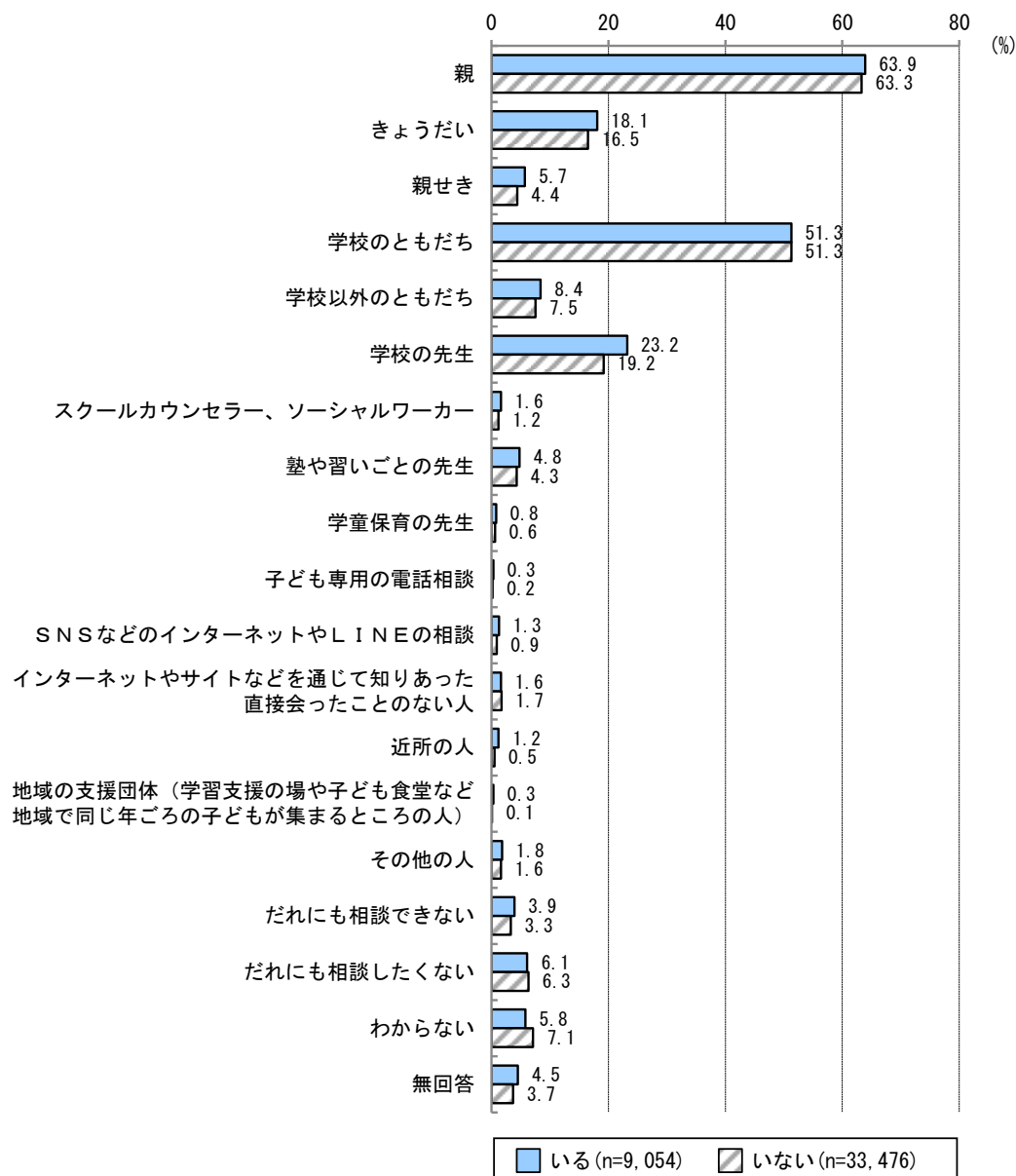


図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」や「学校の先生」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<門真市>

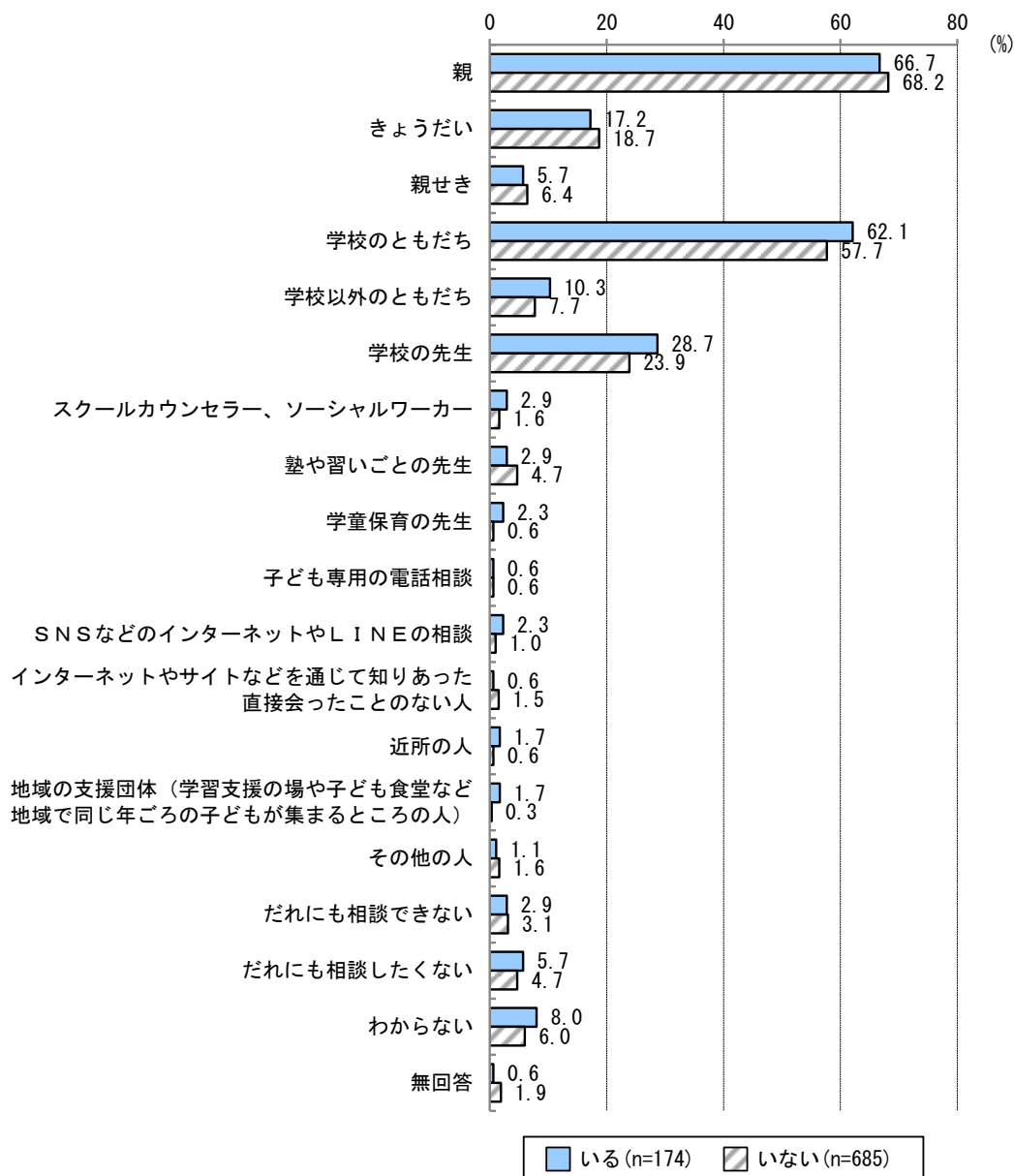
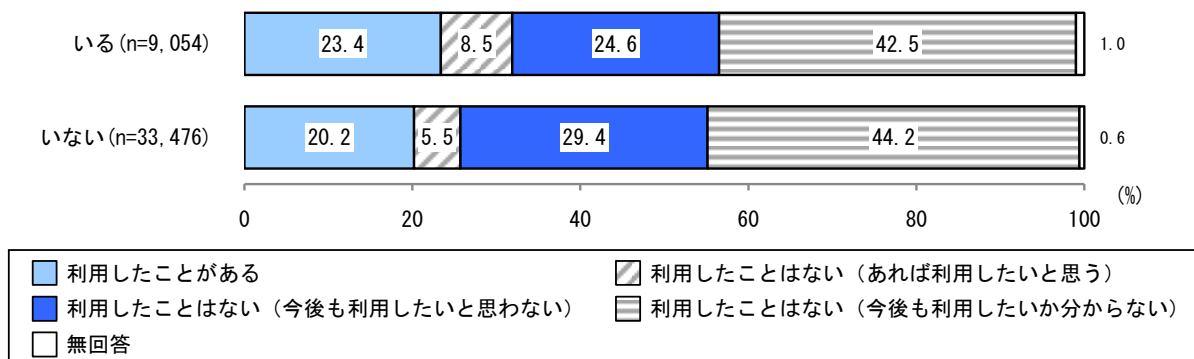


図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、相談相手が「きょうだい」や「親せき」、「塾や習いごとの先生」、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いる」人より「いない」人のほうが割合が高く、世話をしていない人では18.7%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<門真市>

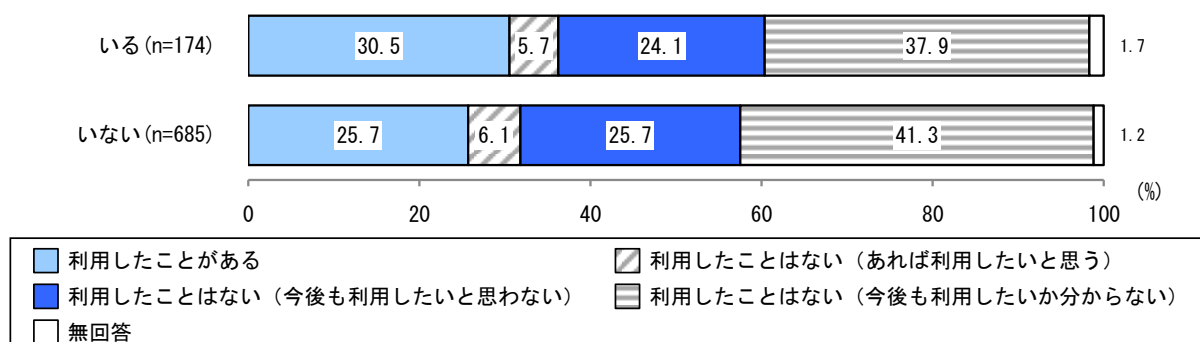
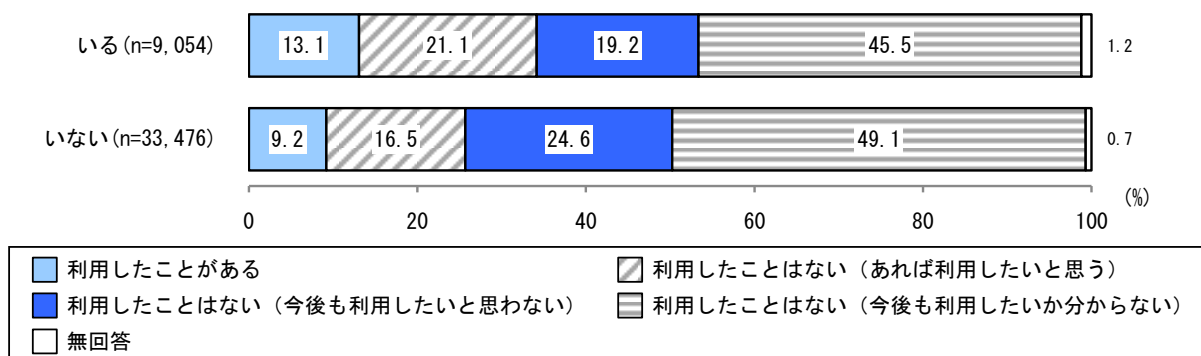


図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<門真市>

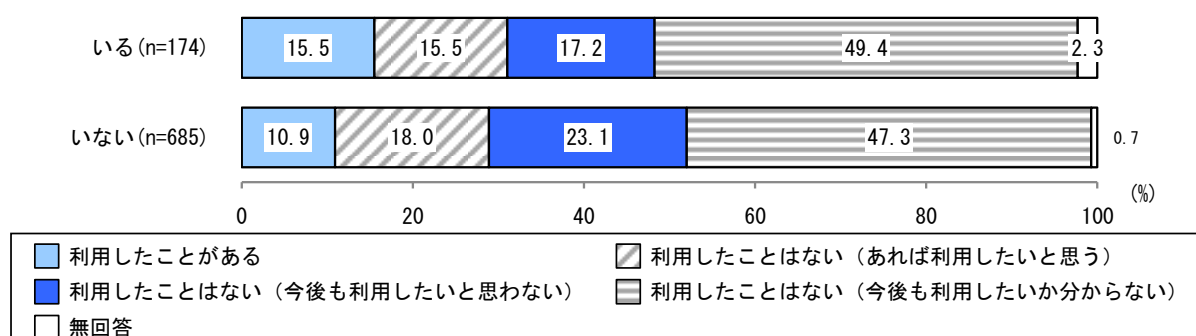
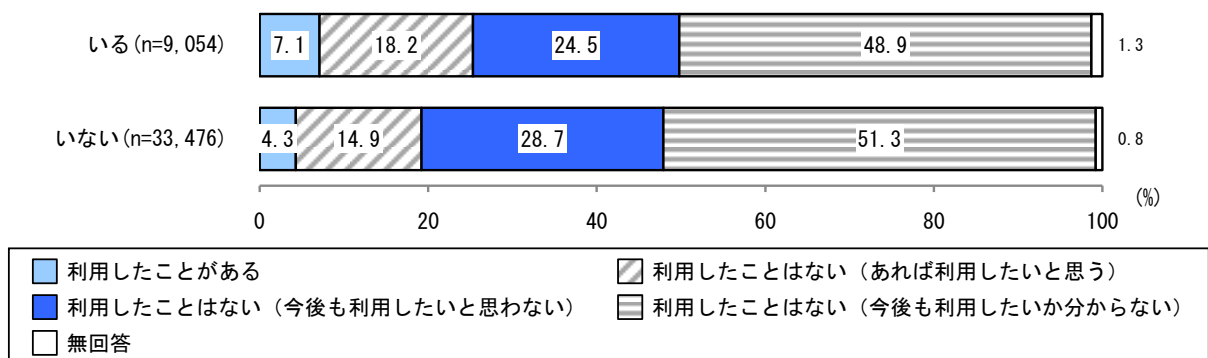


図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことがある」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<門真市>

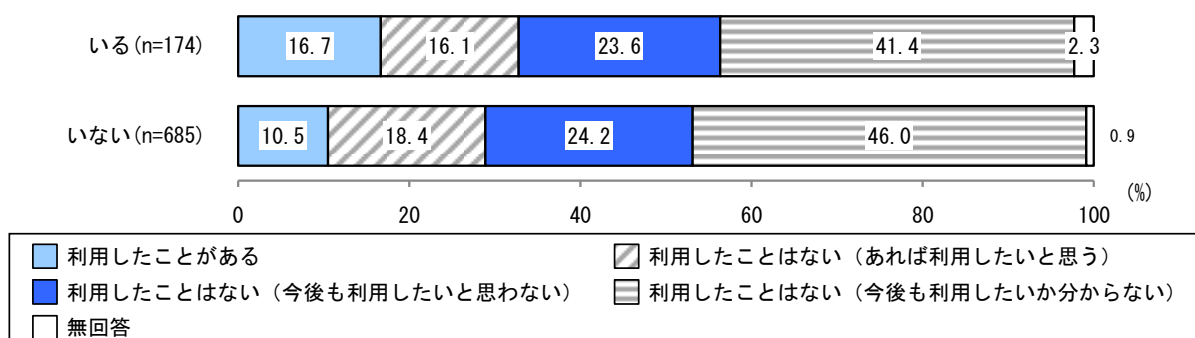
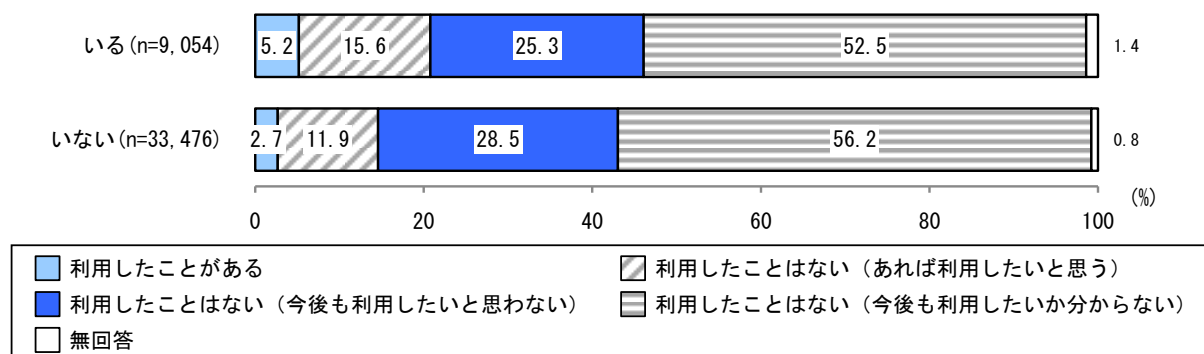


図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を「利用したことがある」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<門真市>

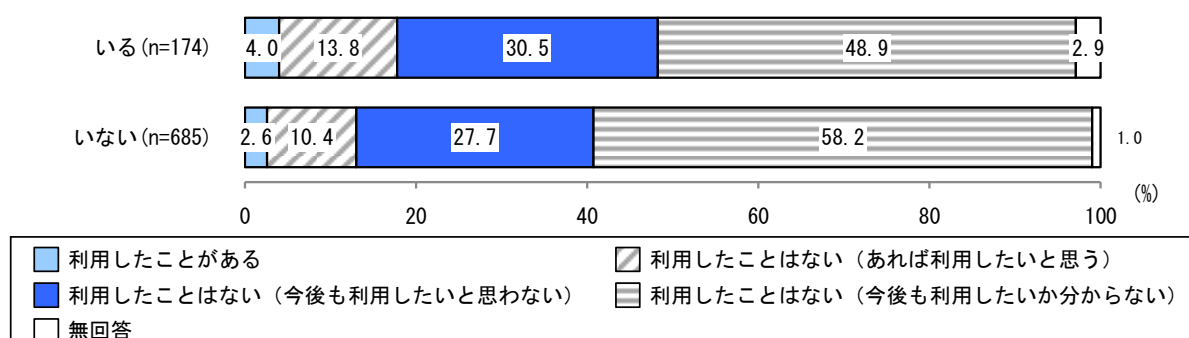
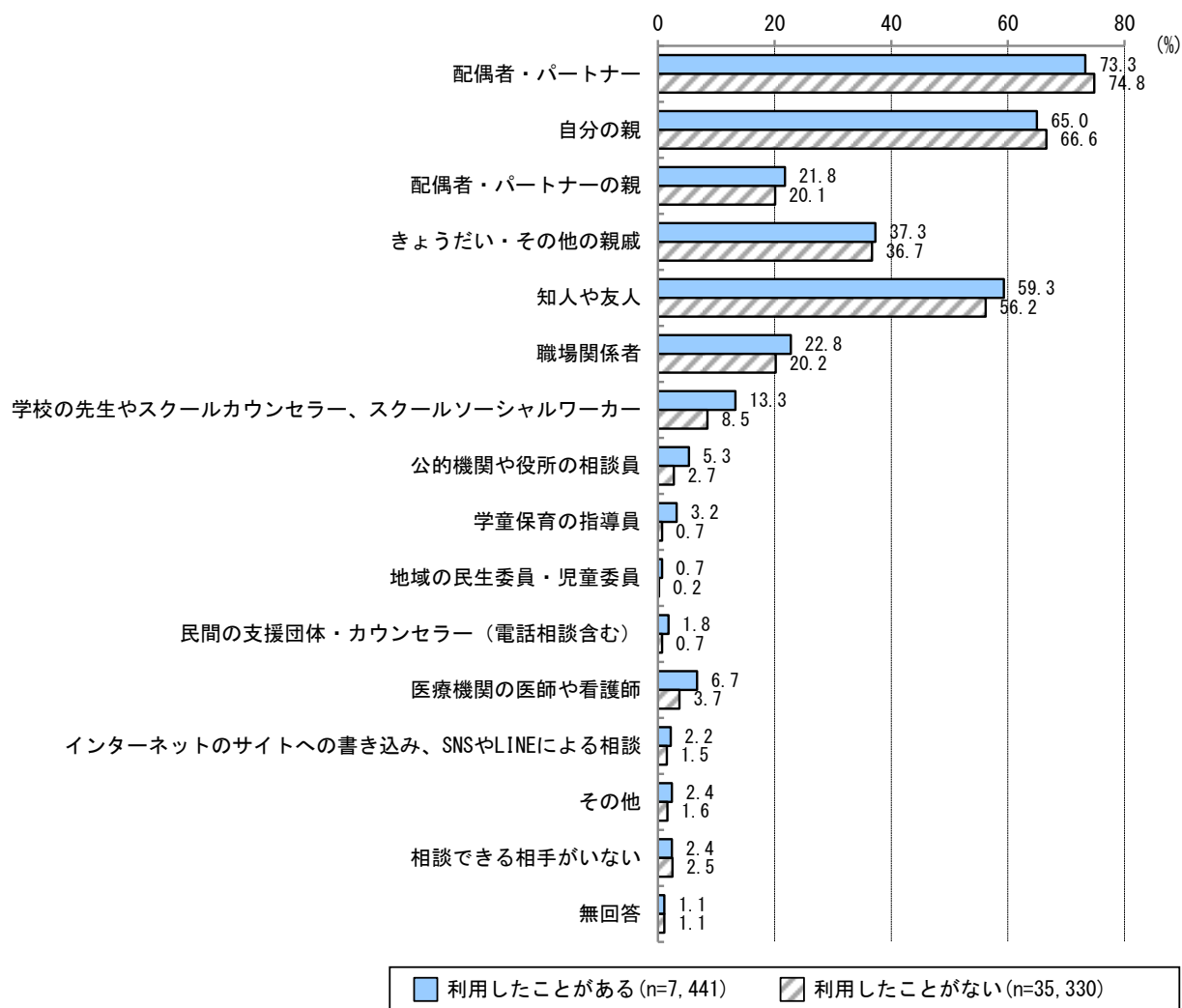


図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ると、何でも相談できる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



<門真市>

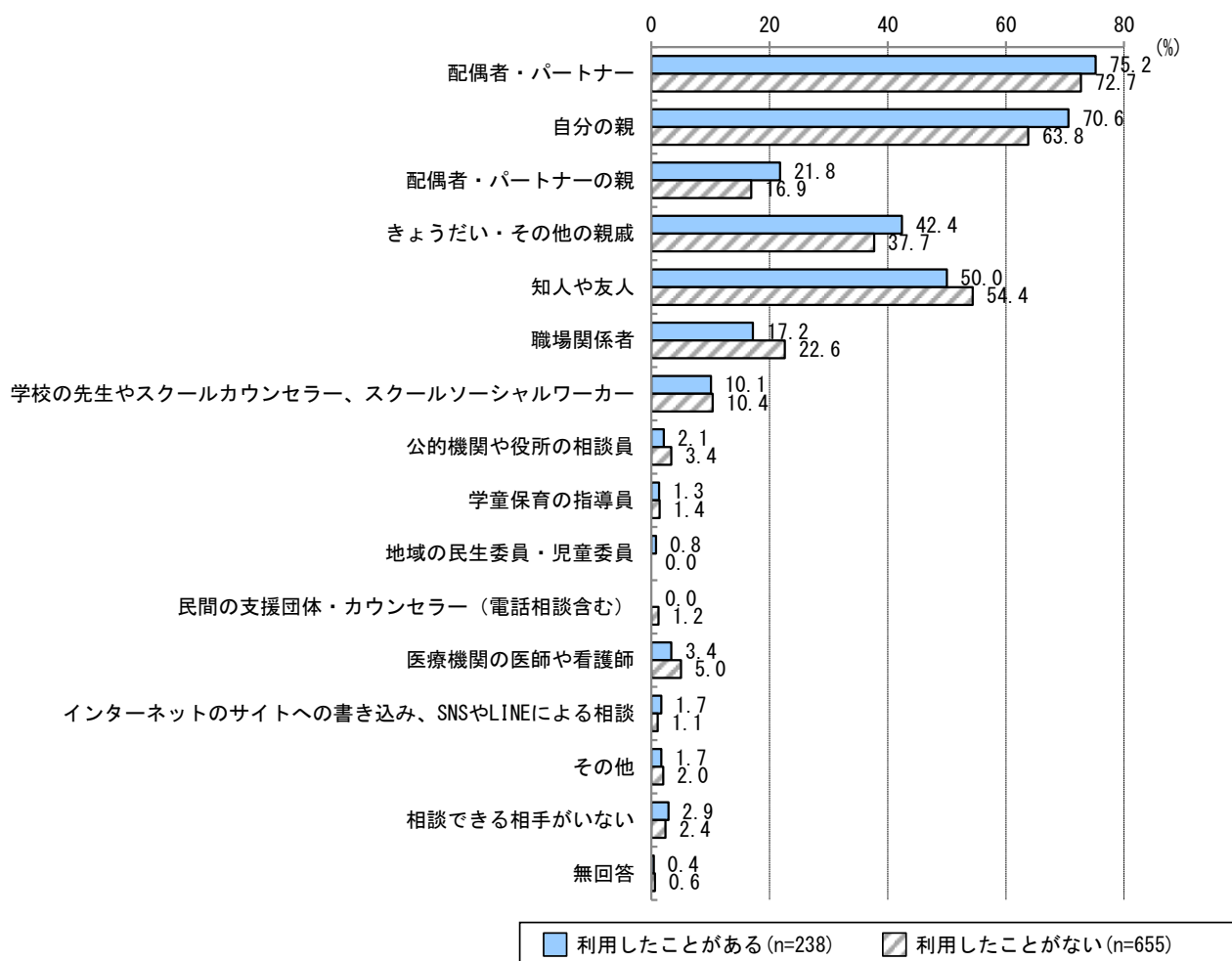
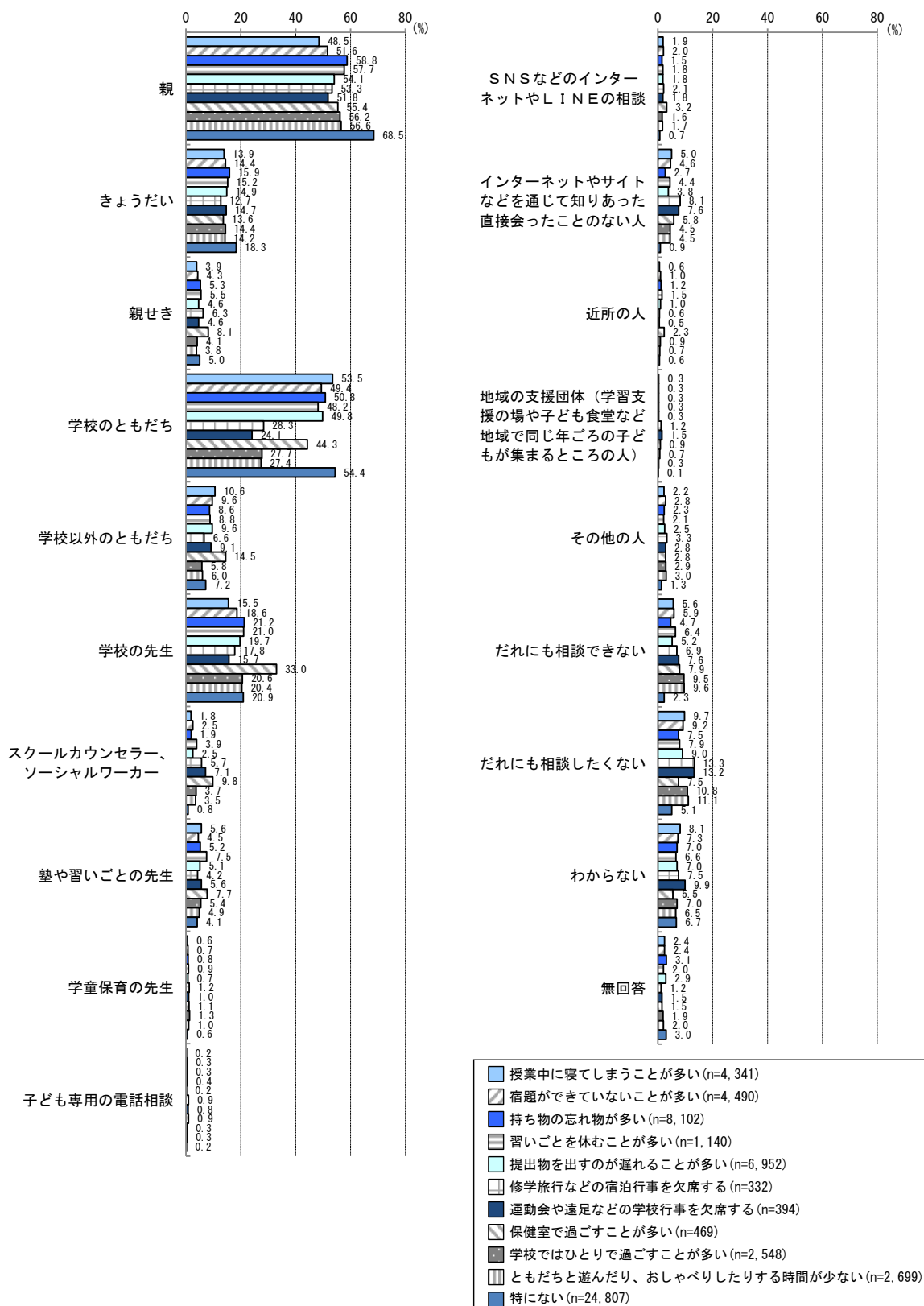


図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「自分の親」と回答した人の割合は、子どもの居場所を利用したことがない人より利用したことがある人のほうが割合が高くなっている。一方、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」や「公的機関や役所の相談員」、「医療機関の医師や看護師」と回答した人の割合は子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 16×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<門真市>

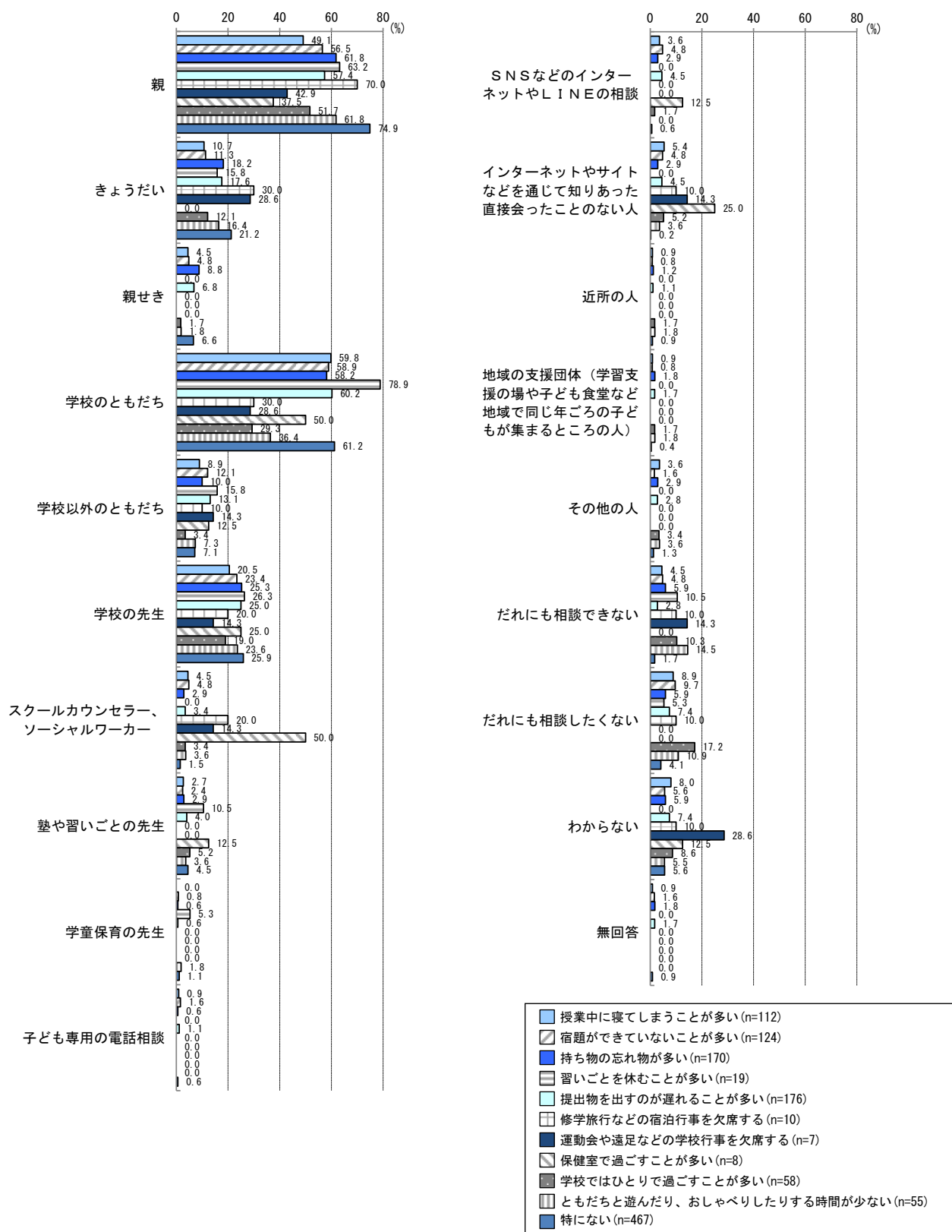
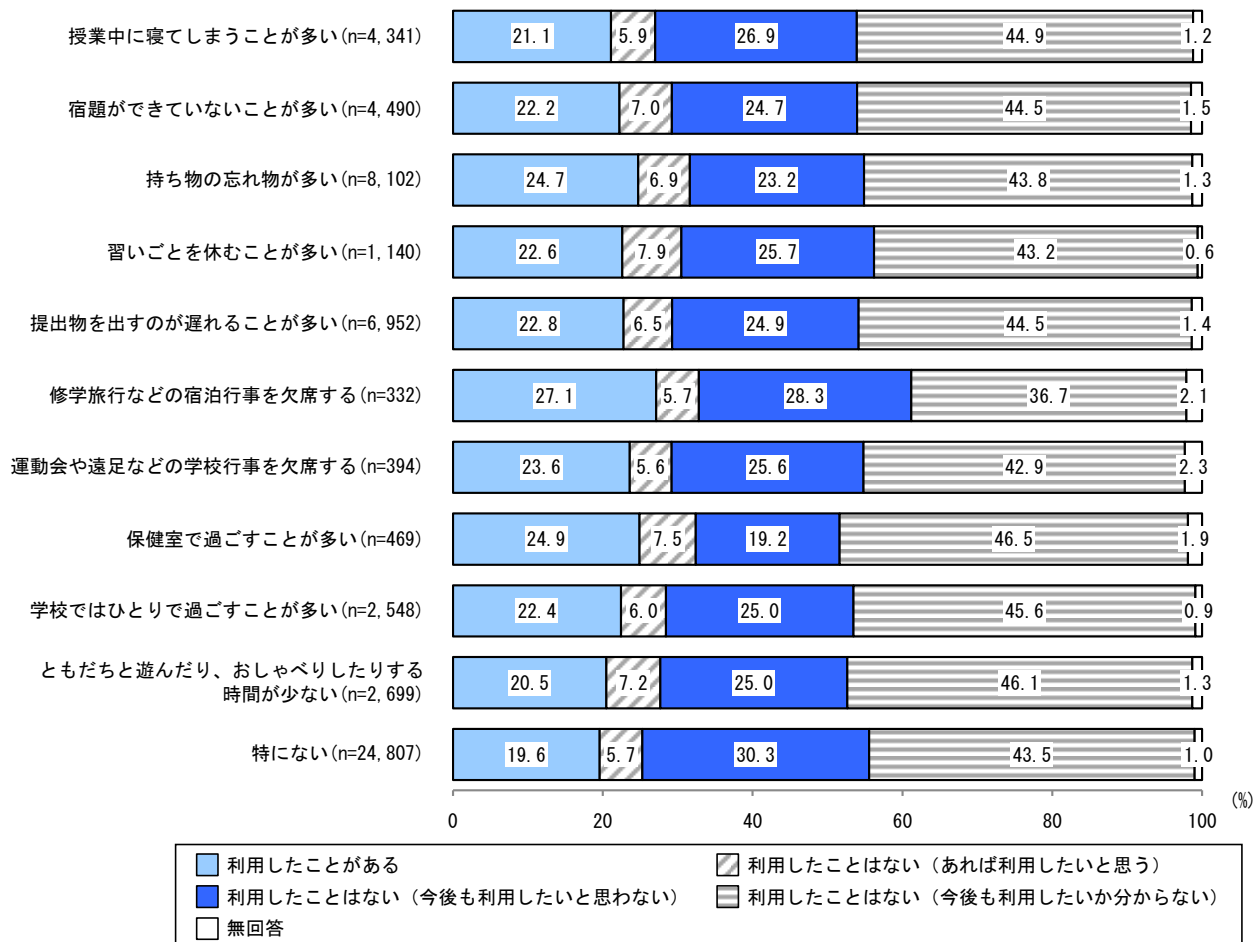


図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「親」と回答した人の割合は「特にない」と回答した人の割合が74.9%で最も高く、「保健室で過ごすことが多い」と回答した人の割合が37.5%で最も低くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<門真市>

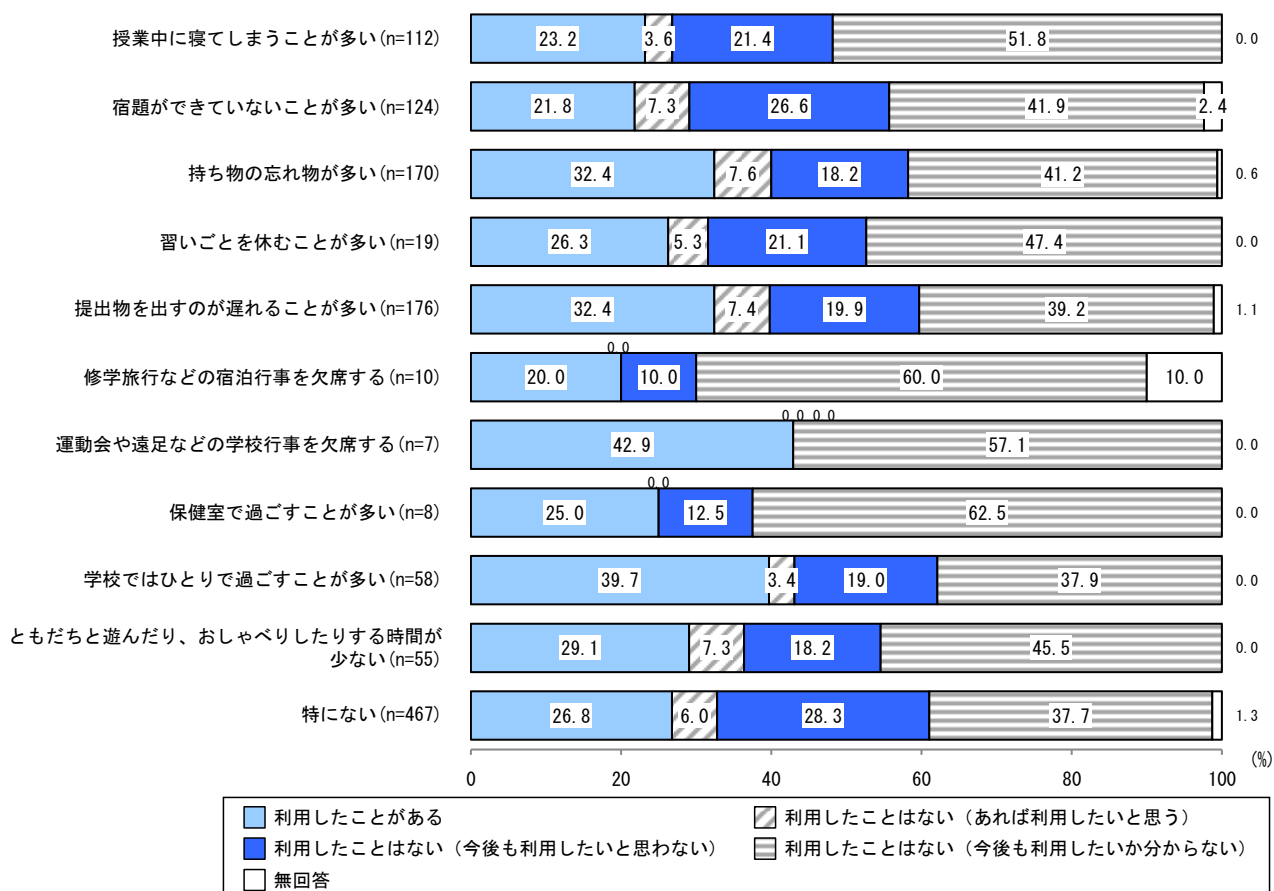
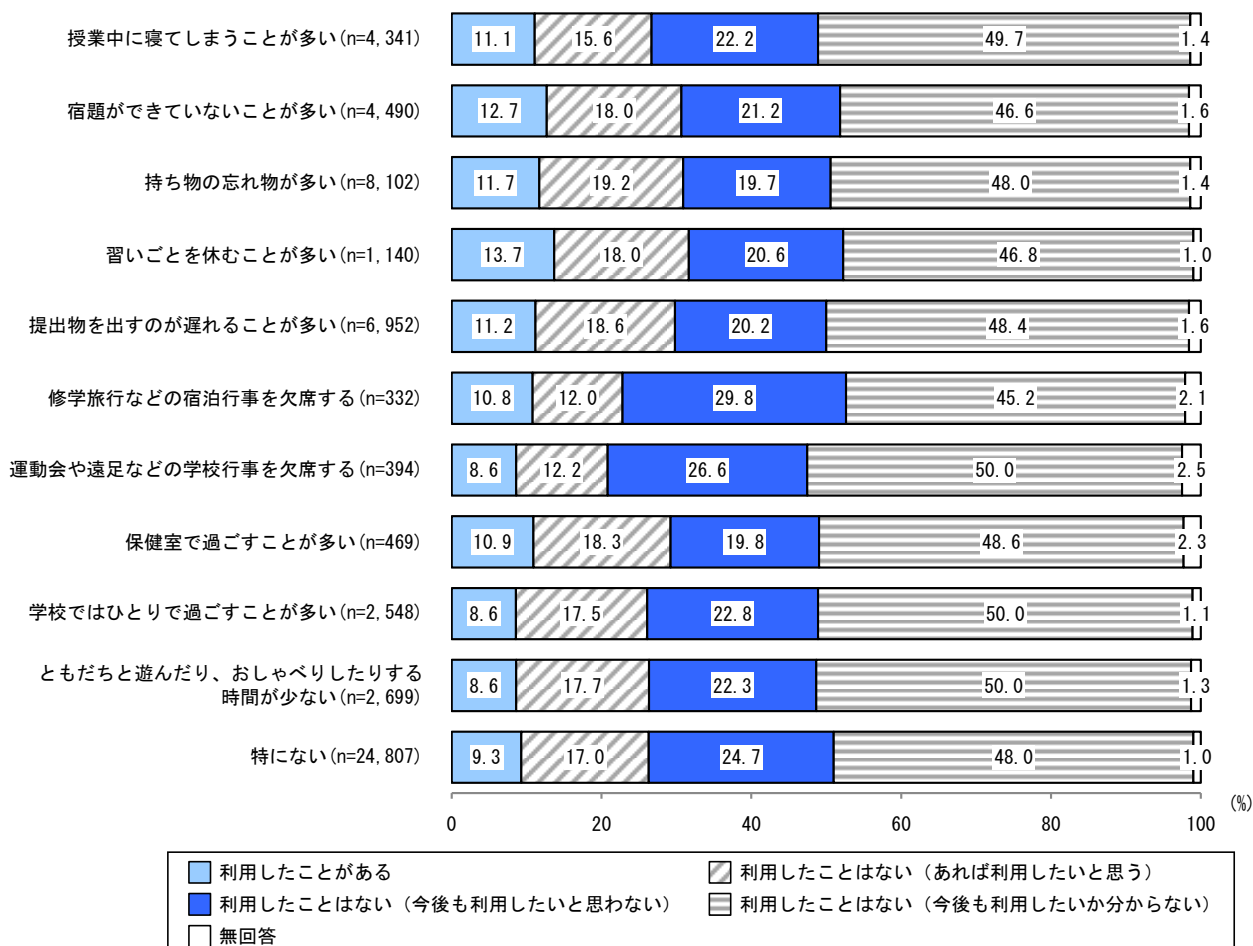


図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」が20.0%で最も低く、次いで「宿題ができていないことが多い」が21.8%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<門真市>

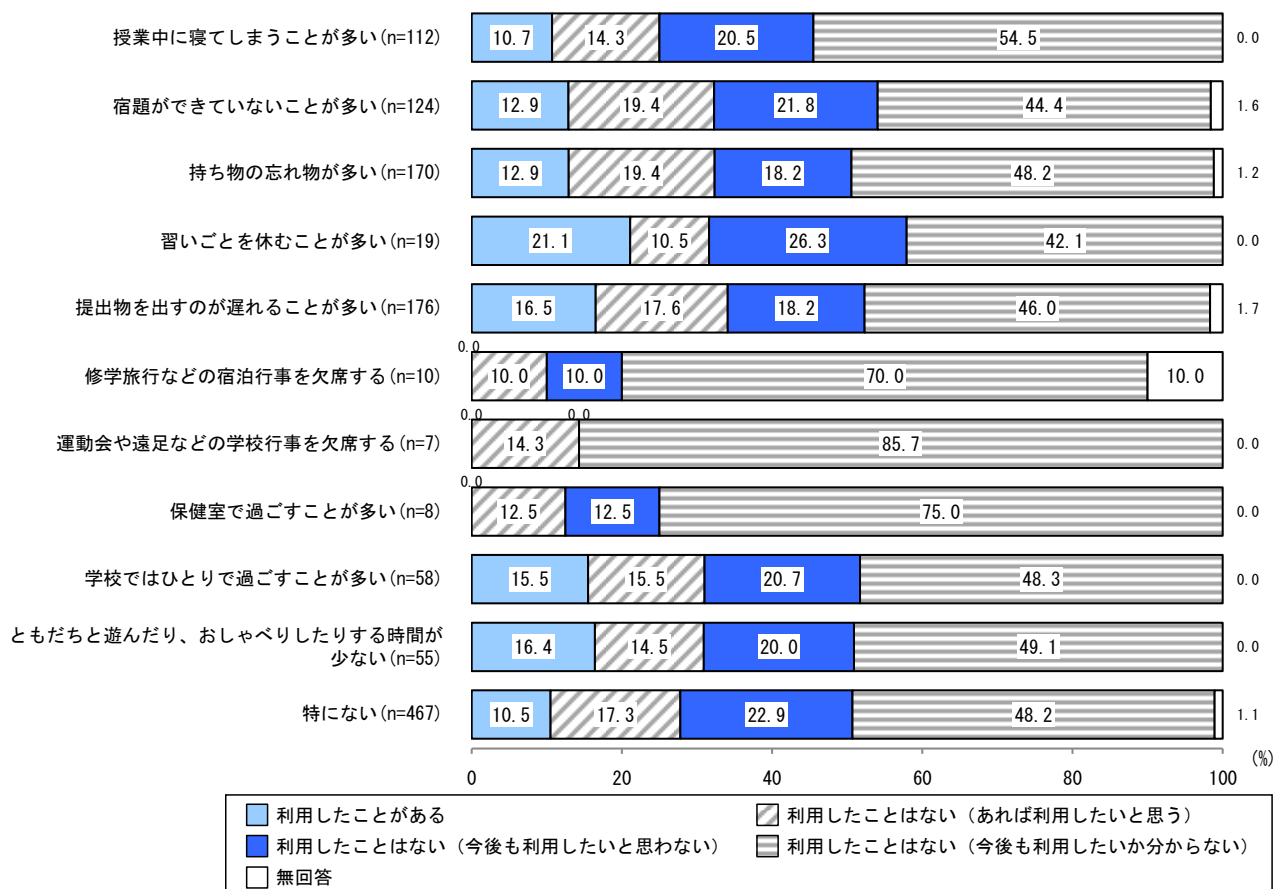
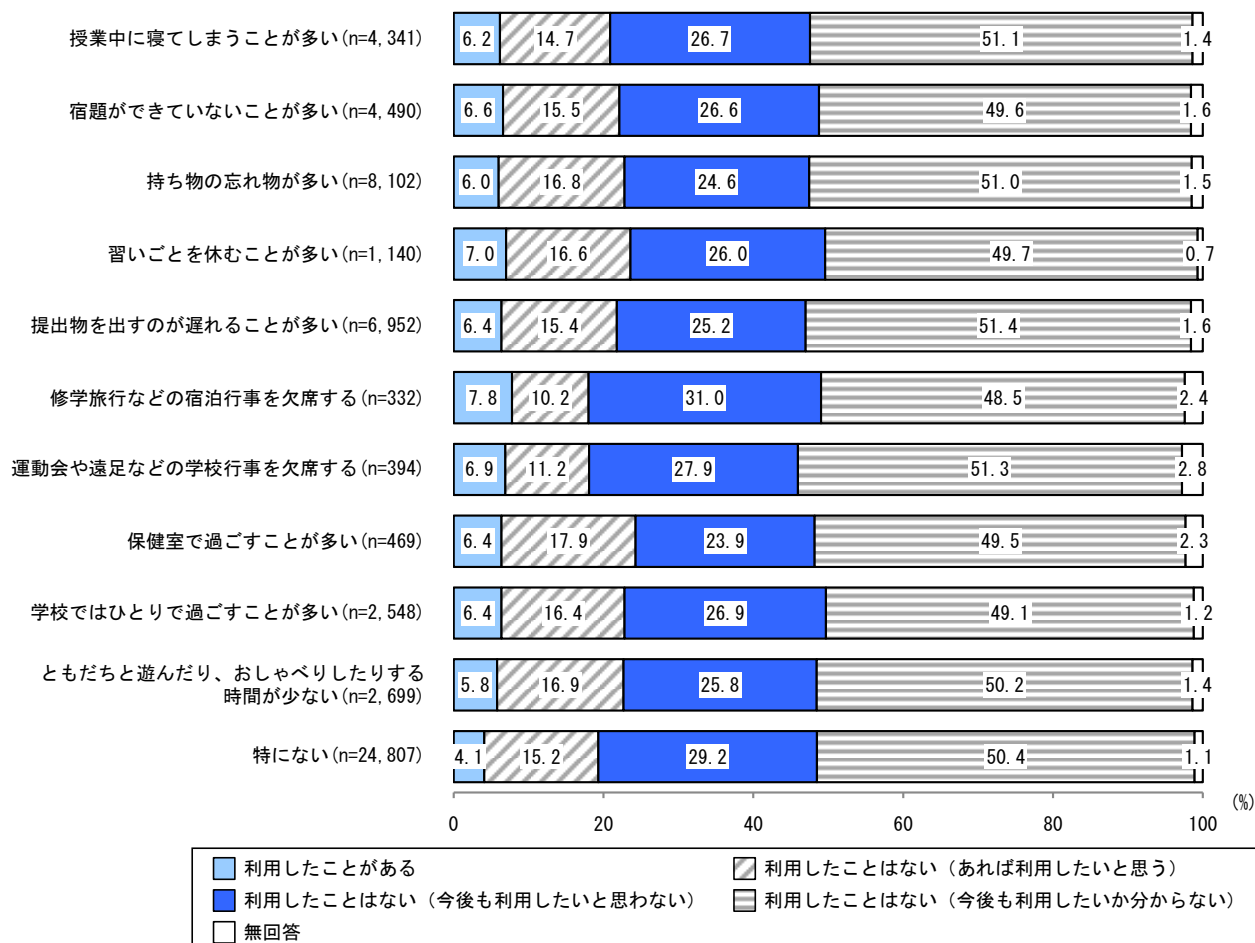


図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「習いごとを休むことが多い」が21.1%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<門真市>

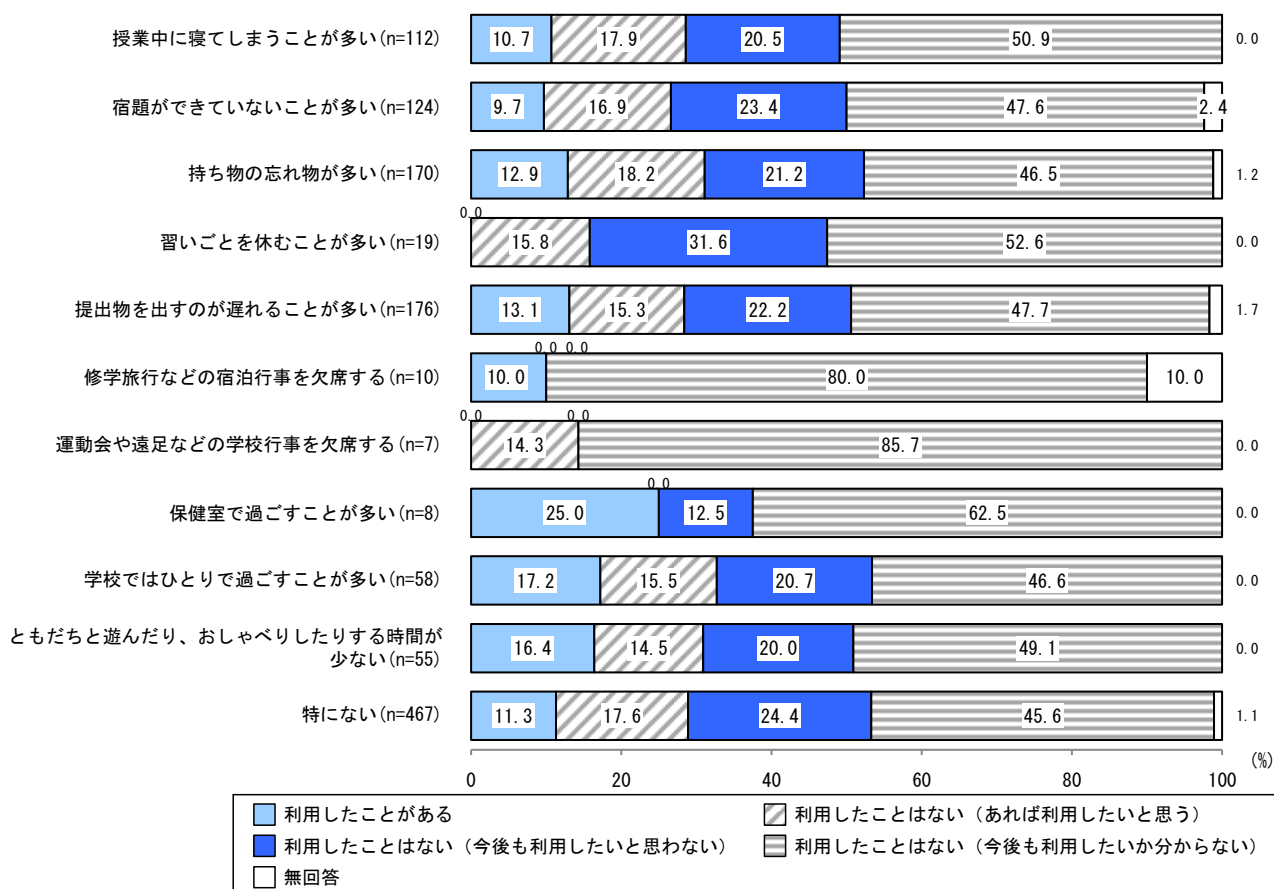
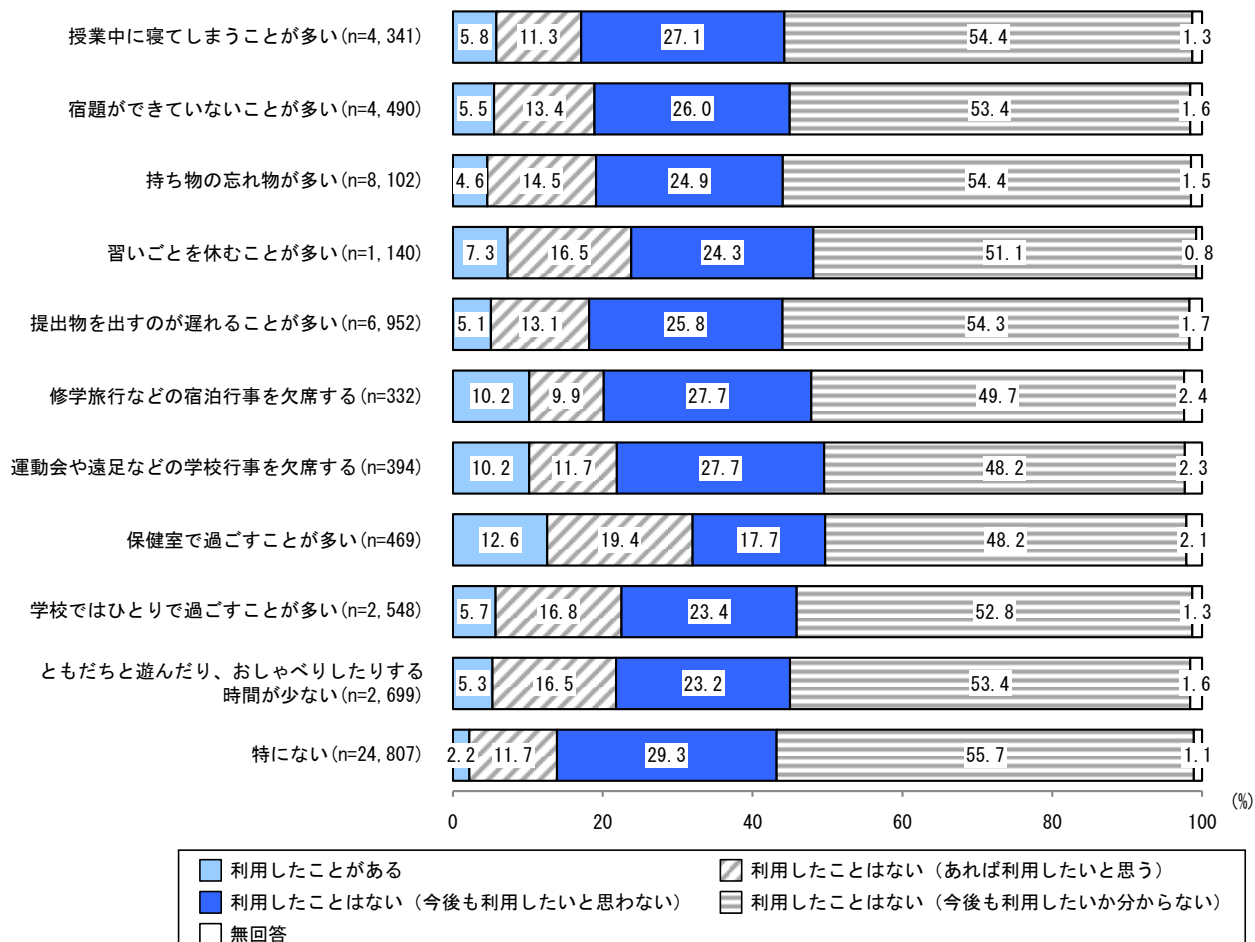


図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため一概には言えないが「利用したことがある」と回答した人の割合は「保健室で過ごすことが多い」が25.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<門真市>

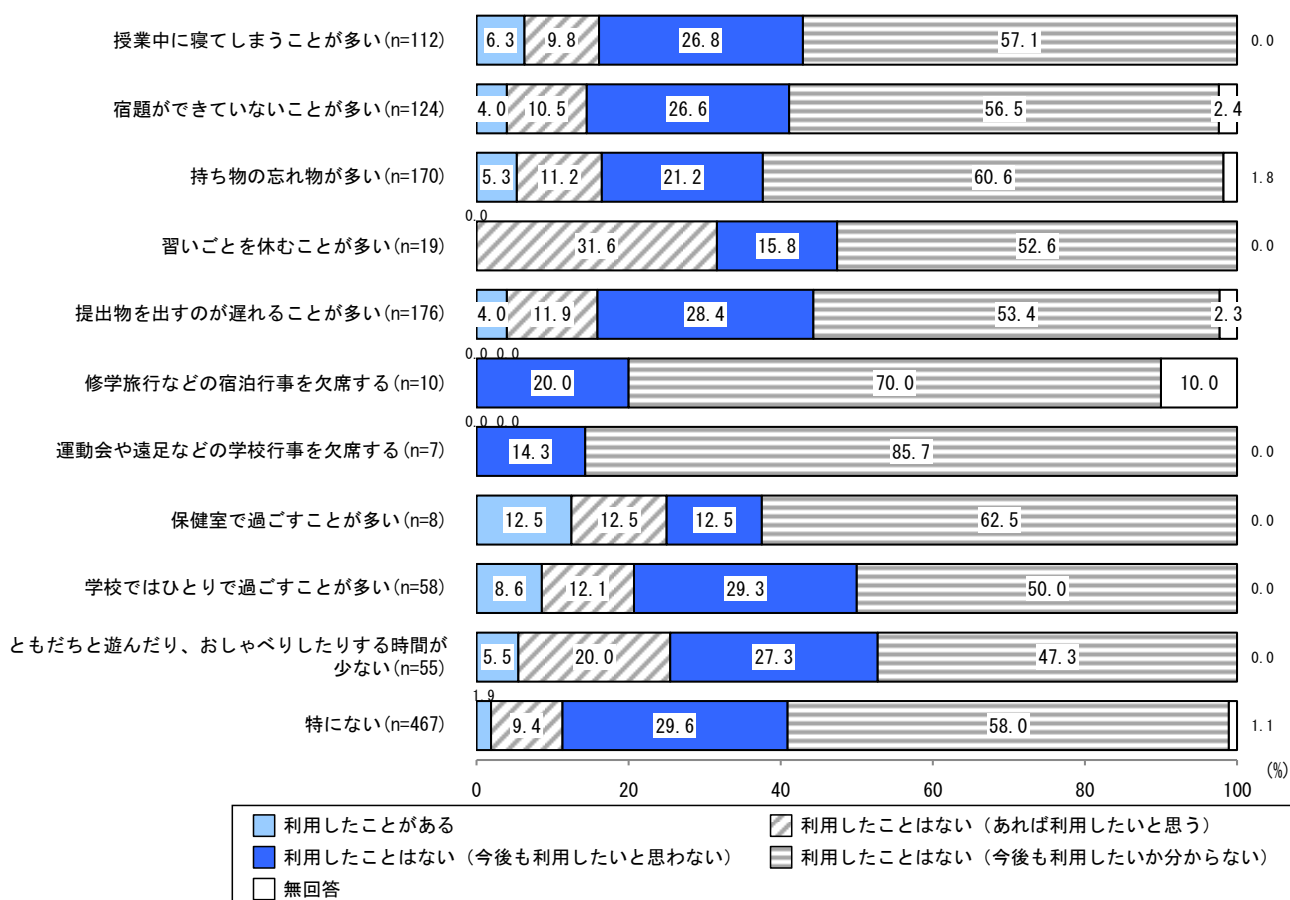
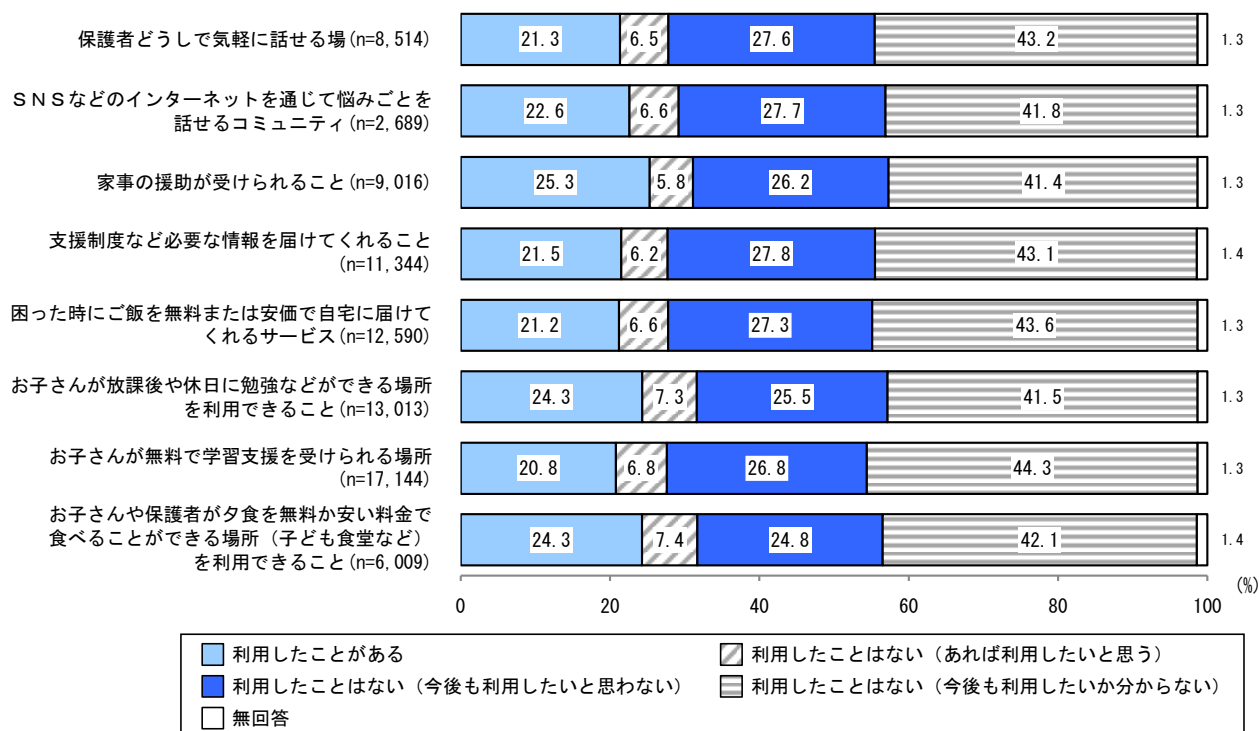


図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことがある」と回答した人の割合は「保健室で過ごすことが多い」が12.5%で最も高く、次いで「学校ではひとりで過ごすことが多い」が8.6%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<門真市>

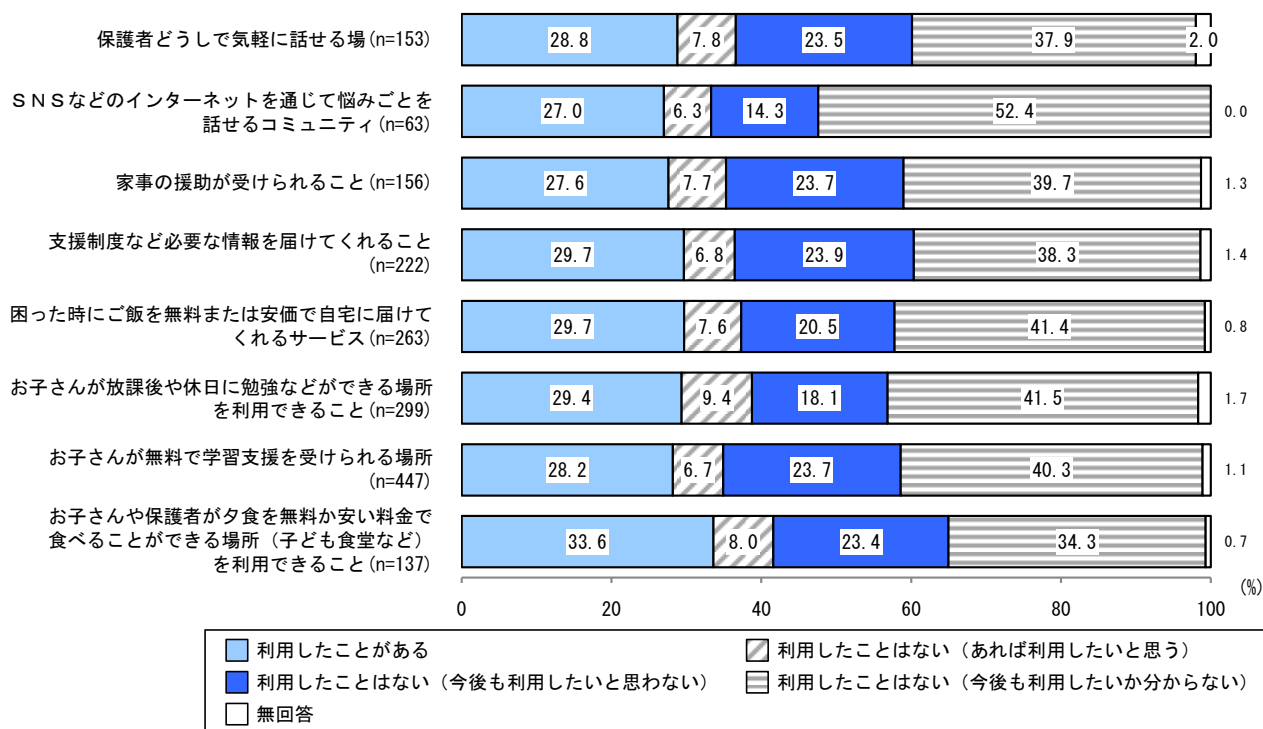
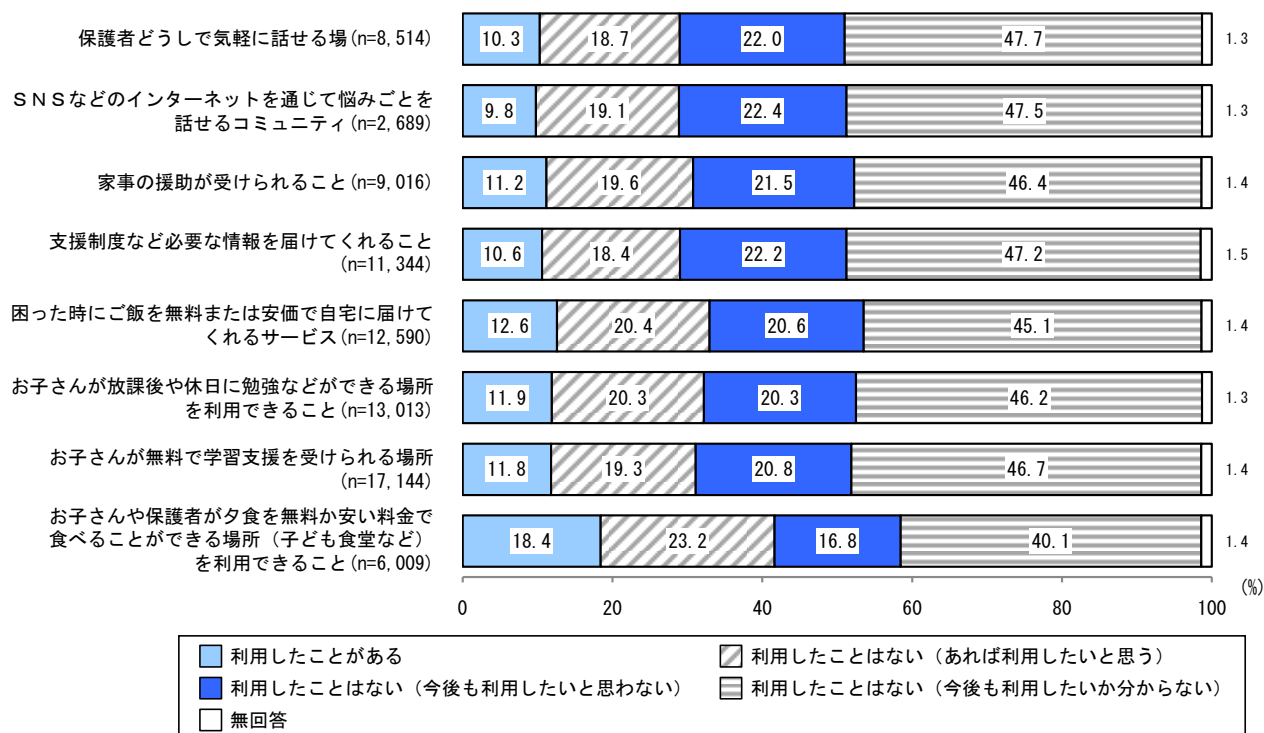


図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が33.6%で最も高く、次いで「支援制度など必要な情報を届けてくれること」と「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」がともに29.7%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<門真市>

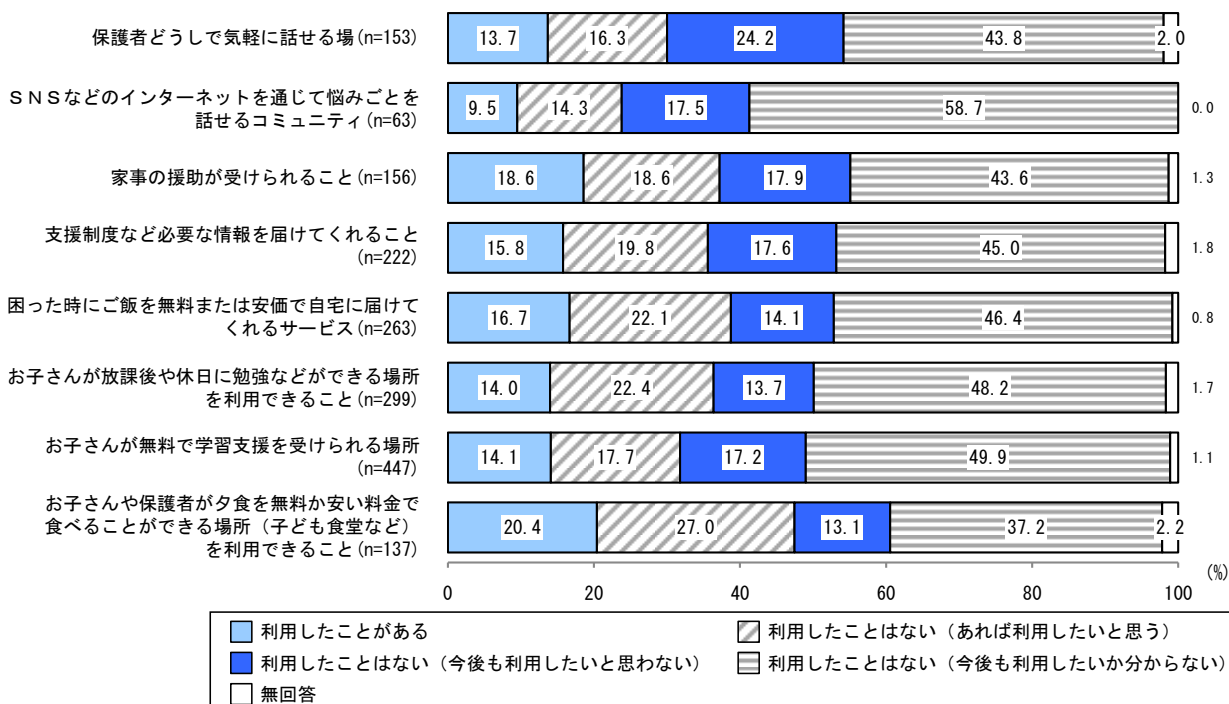
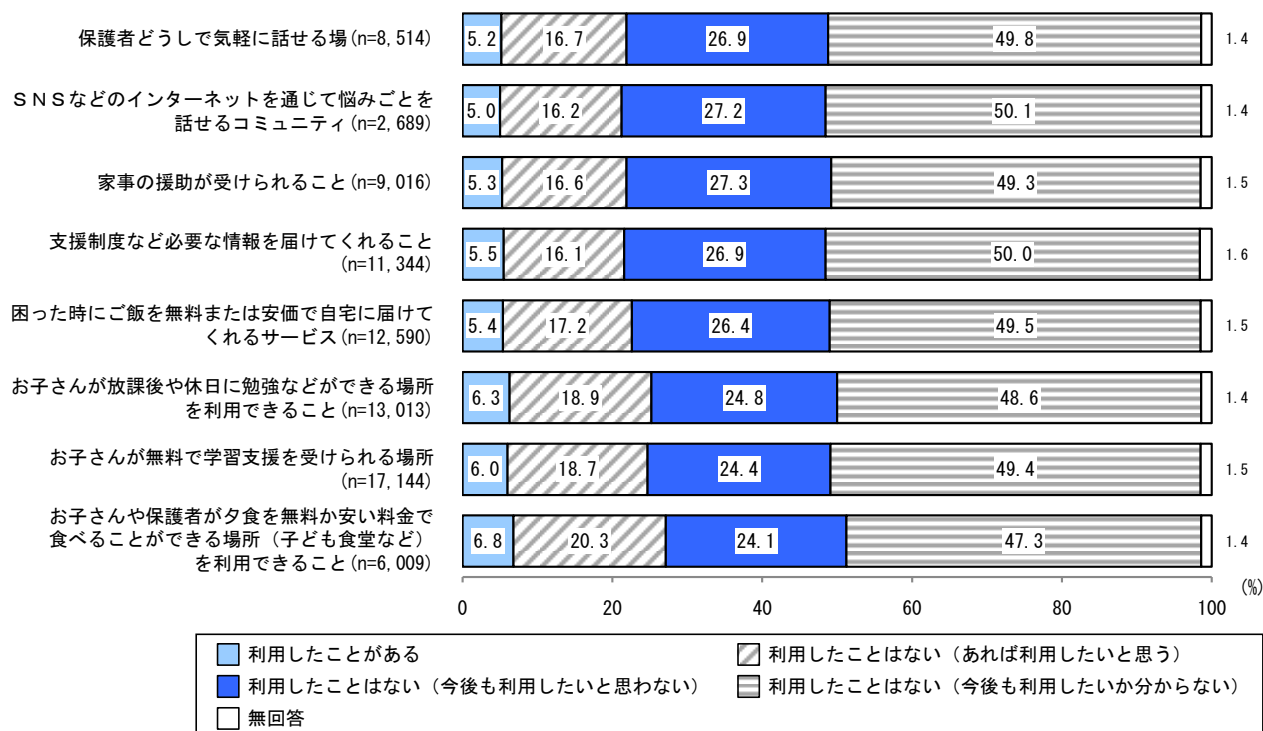


図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が20.4%で最も高く、次いで「家事の援助が受けられること」が18.6%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<門真市>

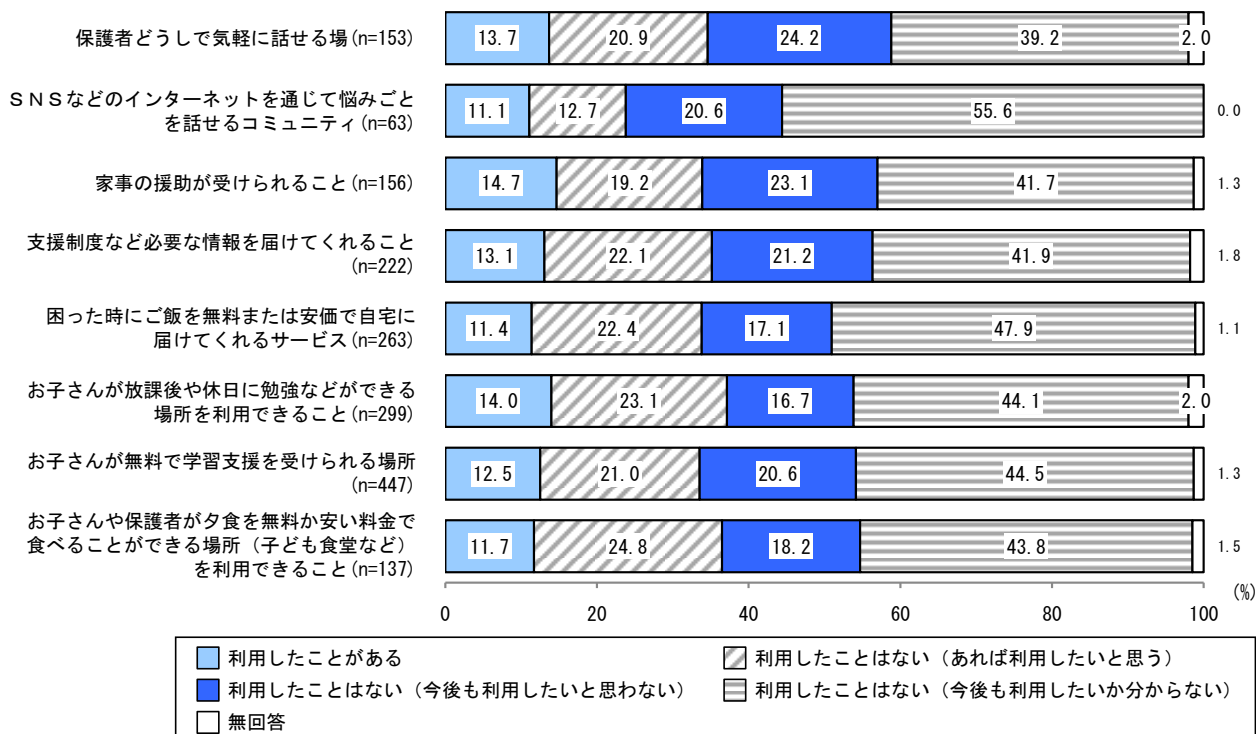
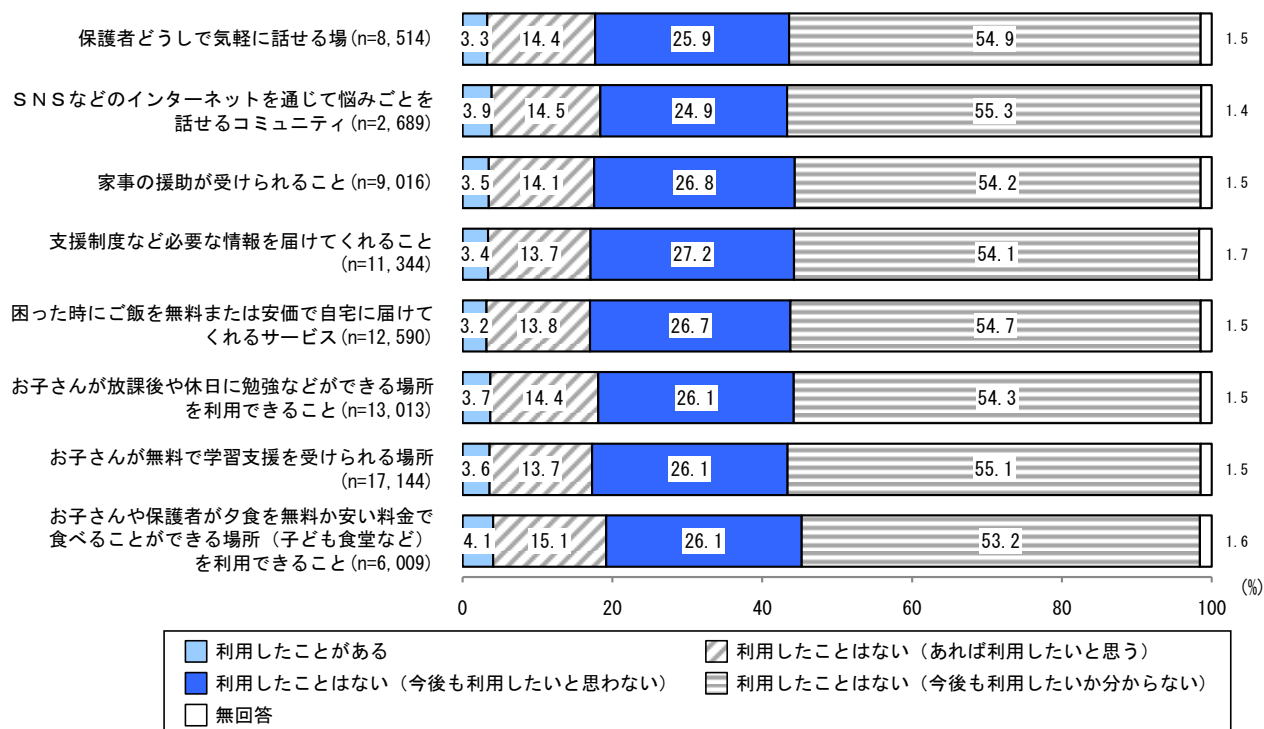


図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「家事の援助が受けられること」が14.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<門真市>

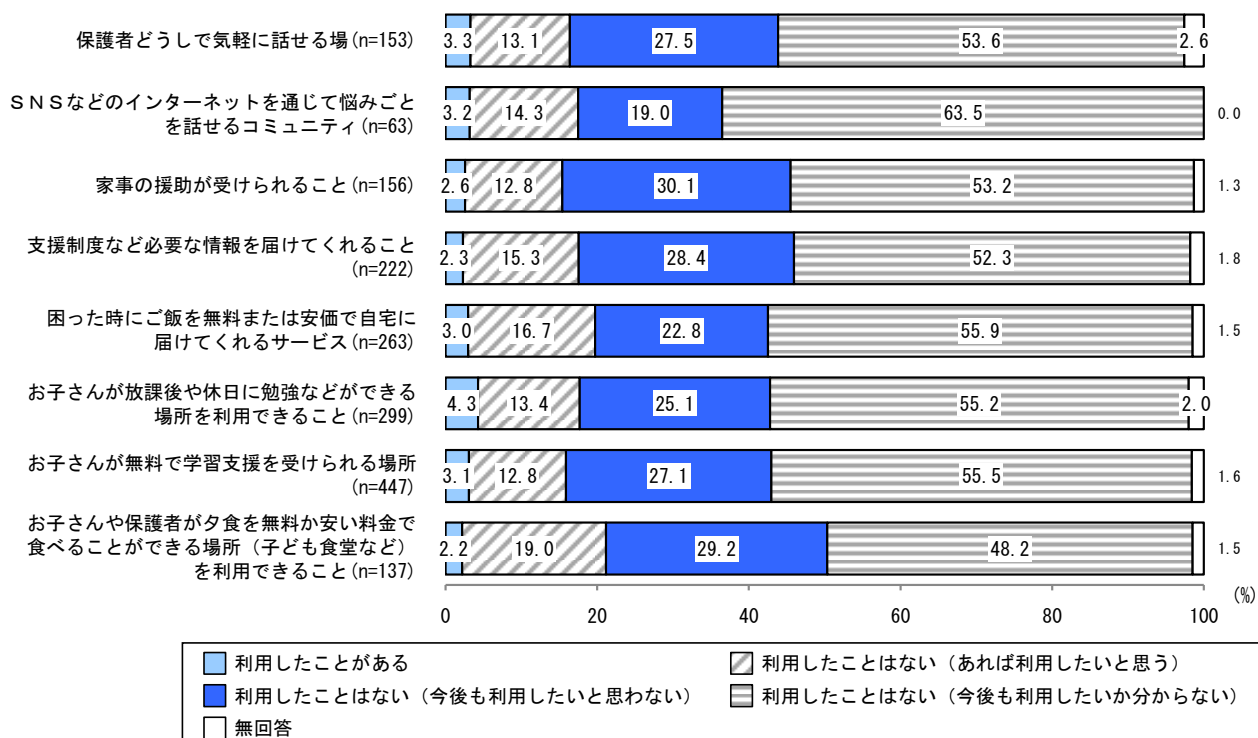
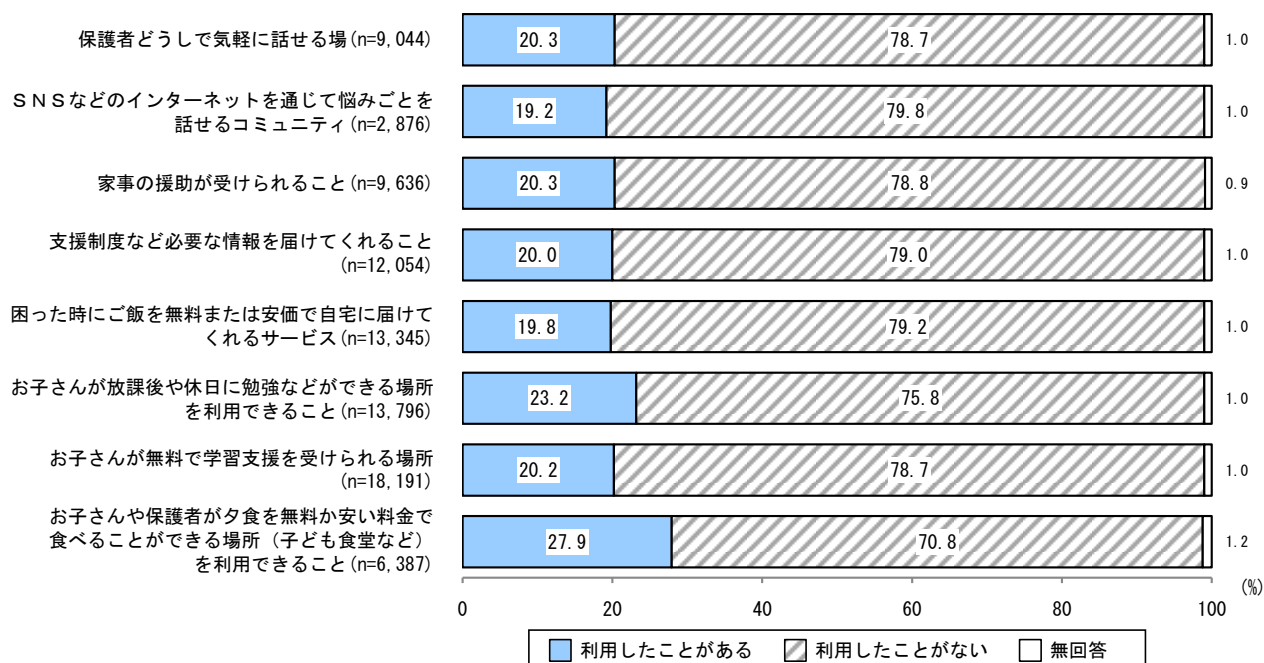


図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が4.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無
(保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



<門真市>

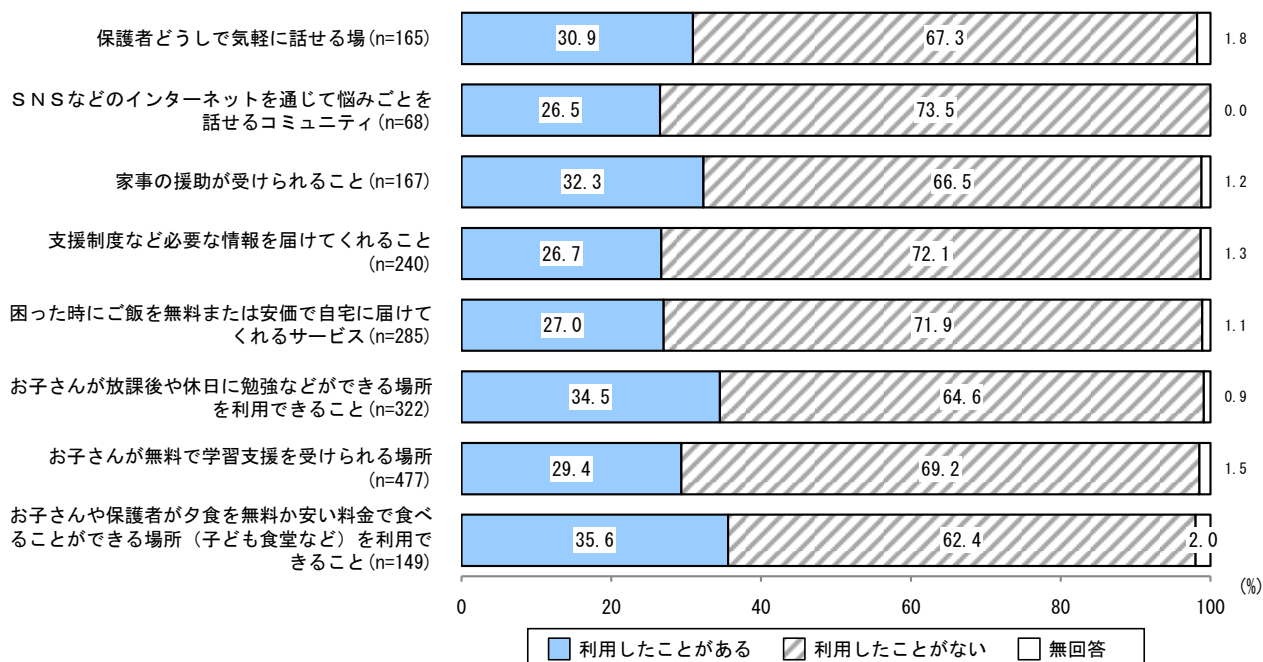
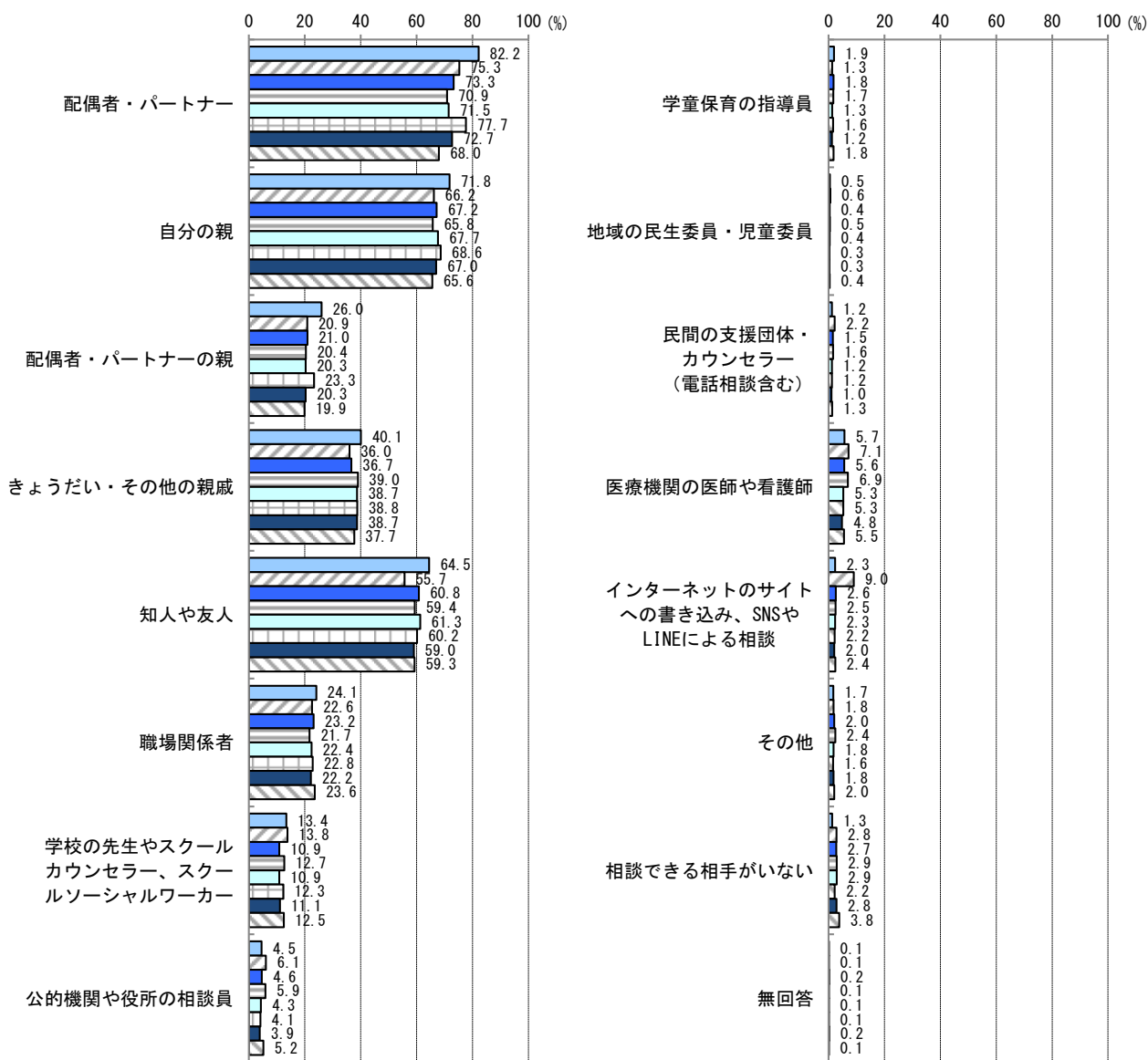


図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金を食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が35.6%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が34.5%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9, 044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2, 876)
- 家事の援助が受けられること (n=9, 636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12, 054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13, 345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13, 796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18, 191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること (n=6, 387)

<門真市>

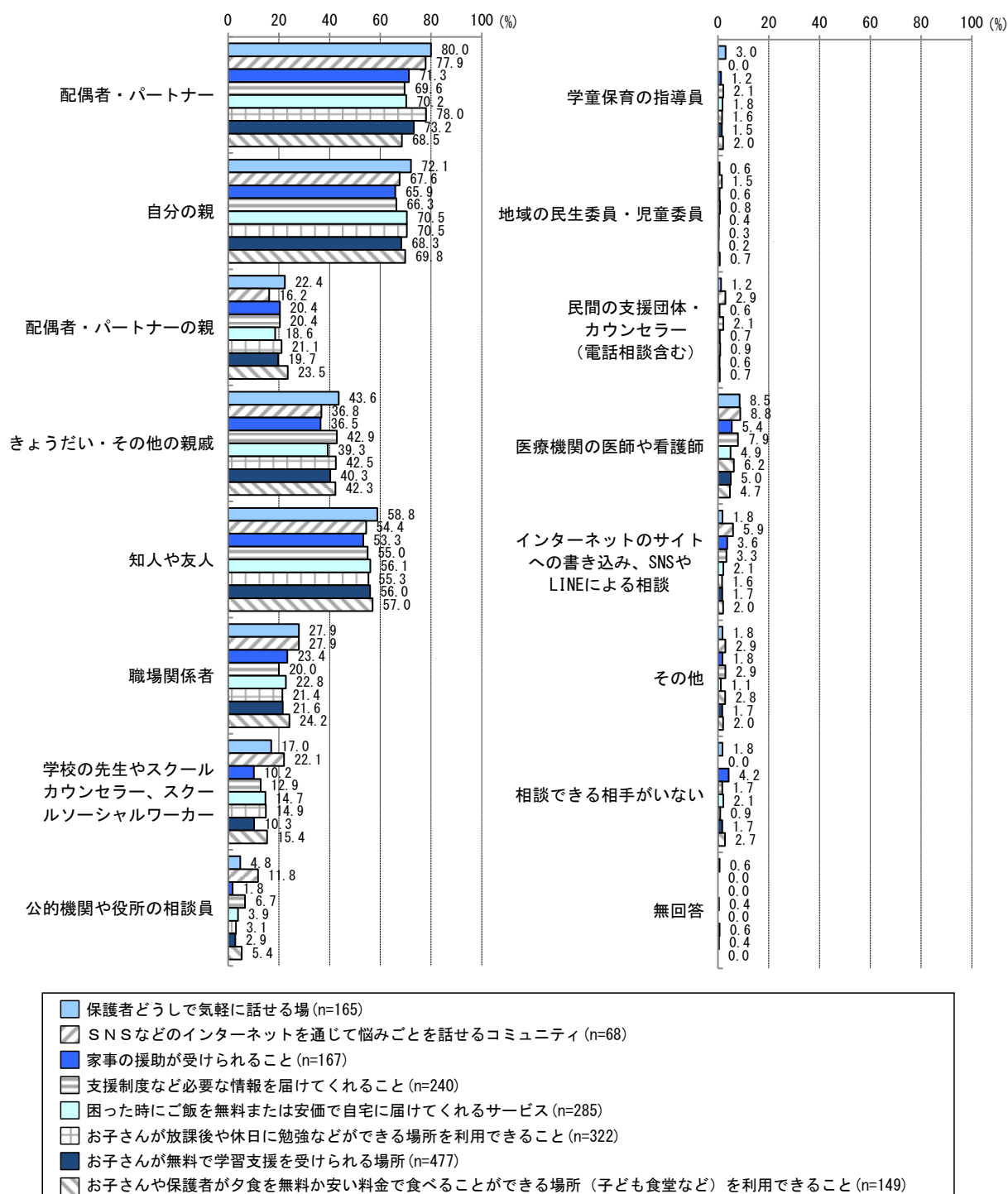


図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「保護者どうして気軽に話せる場」が80.0%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が78.0%となっている。

＜対人関係に関する考察＞

中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目した分析結果を以下にまとめる。子どもが放課後に過ごす場所では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「塾」(23.9%対12.5%)と「習い事」(38.8%対16.3%)の利用率が約2倍である。子どもが放課後に一緒に過ごしている人物では、中央値以上は困窮度Ⅰ群と比べ、「おうちの人以外の大人」(24.2%対18.3%)、「ひとりでいる」(25.5%対17.3%)、「学校以外のともだち」(13.7%対7.7%)と回答した割合がいずれも5ポイント以上高くなっている。更に、「生活での楽しいこと」と「悩んでいること」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」(22.4%対9.6%)、「塾や習いごとで過ごしているとき」(31.7%対19.2%)、「ひとりで過ごしているとき」(48.8%対40.4%)を「楽しいこと」として多くあげている。一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「学校や勉強のこと」(17.3%対14.9%)、「進学・進路のこと」(12.5%対8.4%)を「悩んでいること」として多くあげている。また、子どもの自己効力感について、放課後ひとりでいることがある群は、そうでない群よりも自己効力感が低くなっている(平均値7.83対8.57)。これらの結果から、経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、将来に対する不安が増長される可能性が示唆された。一方で経済状況によらず、社会的コミュニティで過ごす時間の充実度は、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があり、社会的帰属感を高めるサポートの充実が求められる。

困窮度別に子どもが世話をしている人の有無をみると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、誰かの世話をしている割合が高くなっている(25.0%対16.5%)。また、子どもが世話をしている人の有無別に相談相手をみると、世話をしている子どもはそうでない子どもと比べて、「学校のともだち」(62.1%対57.7%)、「学校の先生」(28.7%対23.9%)と相談する割合が高く、「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」(30.5%対25.7%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所」(15.5%対10.9%)、「勉強を無料か安い料金でみってくれる場所」(16.7%対10.5%)、「何でも相談できる場所」(4.0%対2.6%)といった居場所を利用している割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周囲の支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。

一方、困窮度別に保護者の相談相手は、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「配偶者・パートナー」(83.7%対50.0%)と相談する割合が30ポイント以上高くなっている。また、世帯構成別に保護者の相談相手は、父子世帯はふたり親世帯と比べ、「相談できる相手がいない」割合(15.4%対2.1%)は10ポイント以上高くなっている。これらの結果は、経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示唆された。

また、子どもの居場所の利用有無別に保護者の相談相手・相談先をみると、子どもが居場所を利用していない家庭は、そうである家庭と比べて、「職場関係者」(22.6%対17.2%)、「知人や友人」(54.4%対50.0%)と相談する割合が高くなっている。これらの結果から、子どもの居場所を利用していない家庭は、子どもと関係が薄いコミュニティを頼る機会が多く、学校を代表とした子どもと密な公的機関や施設によるサポートが十全にいきわたっていない可能性が示唆された。

Ⅲ 総合考察

本報告書における「子どもの貧困」概念の捉え方であるが、基本的に、2016年度の調査で扱った貧困概念に基づいている。簡単に述べると、子どもの貧困を相対的貧困で捉えた上で、①所得や資産などの経済的資本、②健康や教育などのヒューマン・キャピタル、③つながりやネットワークなどのソーシャル・キャピタルの3つのキャピタルの欠如を枠組みとしている。この数年で、「子どもの貧困」「相対的貧困」概念も十分に知られるようになったことから、詳細な説明はここでは割愛するが、山野則子編著（2019）を参照されたい。

次に、総合考察においては門真市が実施した数値で検討を行う。各ページにはグラフコメントやクロスの分析を考察したセクションコメント（経済状況、雇用、健康、家庭状況制度、家庭生活と学習、対人関係）を記載している。総合考察において、同じことを書くのではなく、総合考察として、これらセクションコメントを踏まえ、2016年度と比較し変化のあるものや新規項目など、まさに考察すべきものを中心に記載している（一部、要望により同傾向でも記載あり）。単純集計はセクションコメントに出てこないのもので、可能な限り数字を入れて説明する。そして、全体はこれらの結果から政策の評価を行うものである。

1）大阪府共同調査の意義

本調査では、門真市の調査のみならず大阪府内43自治体で共同実施して把握したことは、その回答者数の多さにおいても都道府県レベルで域内すべての自治体の対象者が入っている点においても、意義がある。その上で、大阪府内全自治体の結果は、傾向として門真市の調査結果を裏付けけるものであった。これは無作為抽出であっても全体と比較してみると、傾向の把握が可能であり、信頼性があることを示すものとなった。

本報告では、すべての項目に大阪府内全自治体のグラフを入れることで、結果をわかりやすくしている。本調査は、子どもの貧困対策の評価につながる基礎調査である。

2）単純集計

<経済面・家庭状況制度面>

門真市では、2016年度の前回調査（以後、前回調査とする）では32.4%の世帯が赤字であったが、今回はやや低くなり、27.8%であった。この数値は、前回と同様に、中2の世帯が小5の世帯よりも高くなっている。前回と同傾向であったことから、前回明らかにした、クラブや塾などが小学生よりも中学生において家計を圧迫していることに十分対応できていないことが考えられる。また、子どものための貯蓄をしたいができない状態が、前回52.4%が今回46.5%であった。持ち家率は前回72.8%だったのが、今回75.4%とやや上がった結果である。赤字・貯蓄ともにおおむね5ポイントくらいよくなった結果の中で、持ち家の傾向をどう見るのかは、コロナも含め災害が多発することで持ち家への価値観が変化してきたとも考えられる。

経済的な理由で経験できなかったこと（はく奪項目）について、生活における食費の切り詰めやレジャーを控えるなどの項目は、2016年度に比較して該当率が下がっている。それに呼応して、どれにもあてはまらないという回答は前回20.6%、今回25.2%と高くなっている。家計の赤字の数も減り、全体を見たときに、2016年度から少しではあるが、好転しているようにとらえられる。

ただし、経済的理由による子どもに関する経験（子どものはく奪）に関しては、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」が前回2.3%、今回0.6%、と四分の一まで減少して

おり、この結果は、医療面での子どものいる世帯への施策が、各自治体において広く実施された成果であると思われる。他にも好転した項目が多く、「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」が前回11.7%、今回10.5%、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が前回16.7%、今回15.3%、「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」が前回12.3%、今回11.3%、「どれにもあてはまらない」は前回49.0%、今回59.2%と、10ポイント以上伸びた。その中で、「子どもの進路を変更した」は前回2.6%、今回3.0%、「子どもを習い事に通わすことができなかった」が前回14.0%、今回14.2%、進路に影響する項目で該当割合が横ばいとなっている。

また、子どもが持っているものや使えるものを見ると、本は前回58.1%、今回57.0%、子ども部屋前回72.8%、今回67.4%、パソコン（前回32.9%、今回29.3%）、運動用具（前回72.3%、今回69.2%）と下がっているものが多い中、極端に上がったのは、スマートフォンやタブレット（前回67.1%、今回77.9%）であり、これらは学校からの配布の成果であろう。以上から、家計の状況は少し改善がみられ、医療補助を受けられない究極のケースは少なくなるなど効果的であったが、基本的には家計の改善を子どもに回す余裕には至っていない。経済的理由による子どもにできなかった経験（上記に挙げたようなこと）がどの家庭でも実現できるような方策が非常に重要である。

2016年度に養育費の取り決めについては設問を入れていなかったため、門真市での正確な比較はできないが、今回養育費の取り決めをして受け取っているのは約2割であった。反面、養育費取り決めをしておらず受け取っていないのは4割を超えていた。2016年度全国ひとり親世帯等調査（厚生労働省2017）では、ひとり親家庭のうち養育費についての取り決めをしている割合が母子世帯で62.9%、父子世帯で20.8%、ひとり親家庭で養育費を受け取っていない子どもの割合が、母子世帯69.8%、父子世帯90.2%という値であり、今回の結果は、養育費関連の施策の成果はあったのではないかと推測できる。

<雇用・健康>

持ち家など居住形態は2016年度と大きな変化はない。学歴については、母親の学歴を取り上げると、高校卒業が前回41.9%、今回39.3%、約3ポイント減少、大学卒業が前回5.8%、今回13.5%、約8ポイント上昇した。雇用状況では、何らかの仕事をしている母親は、前回79.8%、今回86.3%と上昇している。そのなかで、正規職員が前回17.5%、今回24.7%で約8ポイント増えている。これらは、世の中の人手不足と相まって働く人が増加したことにより、可処分所得も増加したことと関連するであろう。社会の認識の変化や政策による変化があったのではないかと考えられる。子どもの貧困の世論が広まり、各所に出された政策の効果と考えられよう。

支援制度の利用状況は、就学援助は前回20.5%、今回15.3%、児童扶養手当が前回13.4%、今回16.8%、生活保護が前回4.2%、今回2.1%であった。就学援助制度について、「利用したことがない」との回答が前回43.0%、今回68.0%であり、かなり増加し、その理由を今回のみ聞いているが、「自身が該当しない」が85.4%でほぼ皆がそう思っていることがわかった。この数値は可処分所得の結果から考えてももっと受けることができる世帯があると思われるが、受けていない。前回も「あなたには受ける権利がある」メッセージを必要な人にどう届けるのか大きな課題であったが、改善に至っていない。各制度を正しく知らせ、他人ごとにせず、そこでのスティグマを無くし受けやすくする工夫がさらに必要である。

<健康・家庭生活・学習・対人関係>

まず食事から確認する。「朝食を食べない」（週に1回も食べていない）が前回3.4%、今回4.9%、

約1ポイントではあるが増えている。食べない理由に「用意されていないから」が、前回7.2%、今回5.0%、「食べる習慣がない」が前回4.8%、今回9.4%であった。小学生の71名が毎日食べていない。このことは、2016年度も話題になったが、改善すべき喫緊の課題である。また、家族の人と食事をしていない子どもは、「ほとんどない」、「まったくない」を合計して、朝食では、小学5年生の子どもが121名いること、夕食では小学5年生で8名の子どもがうちの人と夕食を食べていない。これらは2016年度の1回目に警鐘をならすべきこととしてとらえられていたが、より重視すべきである。

おうちの人と関わる設問は、2016年度と傾向はほぼ変わらなかった。放課後過ごす場所は、「友だちの家」が前回21.6%、今回17.4%、「学校(クラブ活動など)」が前回37.1%、今回31.2%と減っており、コロナの影響による社会的交流が減ったことからの可能性が考えられる。友人との関係性が薄れることは、孤立や孤独へ向かう懸念も生じる。

勉強に関しては、今回調査から「授業がわからなくなった時期」小学生なら3,4年生(40.0%)、中学生なら1年生(48.2%)でつまづいていることがわかった。相談相手では、誰にも相談できない、相談したくないと感じている子どもは、前回16.0%、今回は8.1%と2016年度よりも減っている。前は身体や気持ちで気になることを聞き、今回は身体で気になること、「この1週間の気持ちの状況」で気になることを聞いているため単純に比較はできないが、「とくに気になるところはない」が前回19.4%、今回38.9%(体調)、「やる気が起きない」において「そんなことはない」が33.3%であった。

悩みについては、2016年度と数値も傾向も変わらない。最も多いのが、「学校や勉強のこと」について「自分のこと(外見や体型のこと)」「進学・進路のこと」であった。

制度やサービスでいうと、子どもの居場所において、「平日の夜や休日過ごす居場所」の利用では小5で31.5%、中2で20.2%の子どもが利用したことがあり、「食事提供の居場所」は小5で13.2%、中2で10.6%、「学習支援の居場所」は小5で15.1%、中2で7.3%、「何でも相談できる場所」は、小5で3.5%、中2で2.3%の子どもが利用したことがあった。これらと併せて、居場所の効果として「友だちの増加」が小学生で34.4%、中学生で29.8%、「生活の中に楽しみなことが増えた」は小5が19.6%、中2が12.4%、「気軽に話せる大人が増えた」は小5で11.5%、中2で12.4%という結果であった。このことは今後の展開に大きな意味をなすであろう。ただし、中学2年生は、友達が増えたと回答する反面、同じくらい「特に変化なし」(33.1%)と回答している。そのため、早期に居場所に繋ぎ、居場所が誰にとっても当たり前の選択肢にする必要がある。「平日の夜や休日過ごせる居場所」以外は、利用頻度は「食事提供の居場所」約10%、「学習支援の居場所」約10%、「何でも相談できる場所」は3.0%と少なくなり、将来の利用に関する積極的な利用希望も「食事提供の居場所」が小中合わせて17.4%、「学習支援の居場所」が小中合わせて17.8%になる。子どもたちの希望があるととらえられ、「放課後過ごす場所」において、「友だちの家」や「学校(クラブ活動など)」が減少していることと併せて、子どもたちに多くの選択肢を提供できる方がよいと考えられること、自分には関係ない考える傾向があるかもしれないこと、などから居場所の充実とより自然な提供が望まれる。

最後に、ヤングケアラーの項目である「家族に世話をしている人」がいるかどうかについては、厚生労働省の研究事業として実施された調査結果と比べると、小学生6.5%(日本総研2022)、中学生5.7%(MURC2021)という値よりはるかに高い、小5が24.2%、中2が14.6%であり、内容もきょうだいの世話が最も多く、小5は69.6%(小学6年生28.5%:日本総研2022)、中2が70.7%(中学生79.8%:MURC2021)である。小学生の世話が国に比べてきょうだいの世話の割合が高い。「家事」は、本調査では複数の質問にまたがっていることや複数回答可にしていることから単純に比較できないが、先述した厚生労働省の研究事業では、小6の世話の内容を家事と答えた

のが、35.2%（日本総研2022）できょうだいの世話より高いが、本調査では逆であった。時間をみると1時間未満が最も多く、定義のあいまいさが子どもに答えにくくさせている可能性もあるであろう。今後、イギリスのように定義を明確にしていくことも検討を行う必要がある。

今回の調査で保護者が身近にあるといいと思うことは、上位3つが「無料で学習支援が受けられる場所」52.8%、「放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」35.6%、「困ったときにご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」31.5%であった。学習に関して最も気にしていることがわかり、これらのサービスを利用している率の低さから、身近に届けられるような工夫が必要である。

3) クロス集計

各セクションコメントでは、2023年度の項目のみで確認してきたが、ここでは可能な限り2016年度と比較する。まず経済面では、できなかった経験、つまりはく奪指標として、2016年度も検討してきた項目でまず確認する。

経済面から確認する。「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」「電話（固定・携帯）など通信料の支払いが滞ったことがある」「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」「国民年金の支払いが滞ったことがある」などの項目では2016年度よりも減少、特に困窮度Ⅰ群においては半減に近い減少がみられる。ただし「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」の減少はそこまで大きくなく、将来への不安感の減少にまで至っていない。経済的な大人のはく奪に比べ、子どものはく奪に関して、「お子さんの進路を変更した」、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」、「子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかった」など2016年度と比較して増加している。これは、コロナ禍となったこともあり、経済的リスクのしわ寄せが子どもに向かった可能性がある。しかし、これは絶対に避けなければならないことであり、警鐘を鳴らす必要性とともに対策を講ずべきである。また家計を住居形態別にみると、「府営、市営の住宅」において、家計が赤字の世帯の割合が約4割（前回38.3%、今回37.5%）、子どものために「貯蓄したいが、できていない」割合が約6～7割（前回63.3%、今回75.0%）と他と比較して家計の厳しさが示されたと言える。

支援制度に関しては、まず就学援助制度は、申請すれば利用できるはずである困窮度Ⅰ群であっても利用したことがない人が、2016年度14.8%あり、これを減らすことを第一目的に考えたほどであったが、2023年度最も厳しい困窮度Ⅰ群において31.5%と増加している。現在利用している人をとってみても、2016年度58.6%だったところ2023年度は50.0%と減少している。児童扶養手当は困窮度Ⅰ群で利用したことがない人が、2016年度25.4%、2023年度5.0%とかなり減少している。「生活保護制度」について、困窮度Ⅰ群において「利用している」が2016年度13.6%から2023年度6.5%と半減しており、やはり利用は全体的に少ない。これら設問の文言（例「受けたことがある」→「利用したことがある」など）の違いはあるものの、困窮度Ⅰ群にとって、つまり厳しい家庭にとって、制度利用は決して進んでおらず、さらに厳しい状況となったとも推察できる。

子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況は、本調査において全体で9.0%、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金は1.1%である。全国レベルのデータを見ると、2020年コロナ発生後の10月の調査（厚生労働科学特別研究）において、収入200万未満の世帯で35.6%（山野研究室2021）である。これらの数値を直接比較することはできないが、いずれにおいても割合の低さから、2016年以降子どもの貧困が周知されるようになり、コロナ禍となって、さらに支援制度の広がりや周知が今まで以上になされたが、大阪においてもその活用が広がり切れなかったと言わざるを得ない。これら最も厳しい世帯における利用が減少した要因を探る必要があろう。

10代で親になった世帯の厳しさは2016年度同様であり、たとえば母親の最終学歴について初めて親となった年齢別では、中卒（「中学校卒業」および「高等学校中途退学」）が半数近く、他の年齢群に比べて高い割合を示している。また、就労状況において正規社員の割合が、他の年齢群と比べて低くなっている。出産などによって学業を中断せざるを得なかった10代への教育支援や就業支援もさることながら、そもそもの予防的支援として、自分を大切にすることや将来を見ずえるような教育的支援が必要である。例えば、小学生から高校生まで、性教育含む生きる教育（西澤・西岡ほか2022）の積極的な導入を進めるべきである。またスウェーデンで行われる、実際の社会問題と向き合い、制度を知り選択できる力を養う社会科授業の実施など、思い切った根本的な教育改革が必要である。

雇用に関しては、質問形態が違うため安易に2016年度と比較できないが、非正規雇用の方が、困窮度が増すことや、最終学歴が低いほど困窮度Ⅰ群に占める割合が高くなる傾向は2016年度と同じである。世帯構成と就労状況の関係をみると、ふたり親世帯と比べて、母子世帯では非正規雇用の割合が前回45.9%、今回30.5%と約15ポイント減少しているが、母子世帯へのさらなる重点支援を検討すべきである。健康に関しては傾向は、2016年度と2023年度はほぼ変わらない。つまり困窮度が増すほど身体面、精神面不調が高くなる。セクションコメントで述べてきたように、毎日の規則正しい朝食・昼食摂取が、保護者と子どもがよりよい関係となって、子どもの自己効力感を高める可能性があり、自己肯定感や将来の夢や目標があるほど、日常生活の中で元気に過ごしているという傾向があることから、基本的な生活習慣を維持できるような取り組み、将来の夢や目標が持てるような取り組みの工夫が必要である。

家庭生活や学習に関する傾向も2016年度の調査と変わらない。経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。遅刻頻度の多さは保護者と子どものコミュニケーション不足を暗示しうる。経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や家庭内での文化活動の習慣がなく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。子どもの将来に関して、困窮度Ⅰ群と中央値以上群の差は2016年度から変わっていない。つまり、経済的に困難な世帯の子どもは、将来への希望が持てていない。

経済状況が生活習慣や学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、生活習慣が身についていないと遅刻につながり、学習理解に影響が出ている可能性がある。こうした学習習慣と家庭状況は大きく関係するため、横断的に判断できて支援に繋ぐような、例えば家庭学習を補完するためにも、学習支援や学校での少し先輩である就学前児童なら小学生、小学生なら中学生、中学生なら高校生、など年齢の近い年上の子ども・若者を各所で導入する仕組みを作ったり、校内でサポートを展開するメンターの導入などが望ましい。（イギリスやアメリカで活用されるメンター制度など）

対人関係においても2016年度の結果とクロスの傾向は変わらない。変わったところで述べると、放課後過ごす人の回答は「学校以外の友だち」が今回、困窮度Ⅰ群が7.7%、中央値以上群が13.7%と倍ほどであり、前回の差（困窮度Ⅰ群が14.1%と中央値以上群が14.3%）より全体が低く、差ははるかに広がった。また、場所としても、前回は困窮度Ⅰ群対中央値以上群ではスーパーが6.7%対5.8%、コンビニ9.2%対4.1%と特徴的で困窮度Ⅰ群の方が高かったが、今回は、スーパーが4.8%対7.8%、コンビニ4.8%対6.5%と、これらの項目がやや逆転した。塾や習い事は、前回は困窮度Ⅰ群対中央値以上群では、塾11.7%対24.1%、習い事22.1%対34.6%が、今回は同じく塾12.5%対23.9%、習いごと16.3%対38.8%と格差が広がった。コロナ禍でコンビニにさえ出かけなくなっていることも懸念される。

経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。また、経済的困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

最後に、子どもが保護者以外と話せる機会が必要である。しかし、家庭と学校しかソーシャル・キャピタルを持たない子どもたちにとって、今回の調査において、「おうちの人に関する悩み」は「おうちの人」と「学校の友だち」に話しにくいという結果であった。これは、ますます経済的に厳しい子どもたちを孤立させ、ソーシャル・キャピタルを欠如させてしまう。おうちの人や学校の友だちに相談すること自体難しいと考えられるが、おうちの人や友だちに話せないという今回の結果から、自然と話せるような場や人材を確保し、すべての子どもが自然に通う、学校から自然に構えずに参加できる、流れるような仕組みを創設または充実させる必要がある。

まとめ

今回の調査結果から、子どもの貧困に関する対策の結果として、親の就労や学歴、所得状況は改善がみられ、中央値は上昇する結果であった。これは2021年度の厚生労働省の国民生活基礎調査の結果をみても同様の傾向である。

しかし、その分が子どもに回っておらず、物価高の影響等々考えられる。肝心の困窮度Ⅰ群の世帯あるいは子どもの状況の改善は見られず、悪化している部分もあった。このことは子どもの貧困を考える立場にとっては厳しい結果である。この解決には、国が縦割りを解消しようとこども家庭庁を設立し、データ連携等々新たな動きをしているなか、同様に教育や福祉という既存の枠組みを越えて、子どもをまんやかに実行できる体制や制度設計を早急に考えるべきである。以下のような覚悟ある対策をとる必要がある。

- ① 経済面：母子世帯への支援や収入のアップを企業側が実行できるような施策が必要である。
- ② 学習面：学校だけでなく、しかしすべての子どもが通う学校と連携した学びの保障を検討する。方策として、コミュニティスクールや学習支援、無料塾の創設などの活用である。保護者のニーズのある無料塾は、例えば沖縄で導入している。貧困調査の結果から支援員を大々的に投入し、訪問による給付や支援の申請書書きのサポートなどの人的支援方策を実施した。そういう方法を検討する必要がある。あるいはそれをクラウドデータで行えるようなデータ連携と社会資源を選択できるよう可視化と自治体内でどここの部署でも所持するような共有化が必要である。
- ③ 無償化の対象にならない部活の費用などの補助を行う。塾代助成のような方策を検討し、かつ申請をしなくても必要な人には利用できるよう、塾側に措置費のような形で配分する枠組みの提示や方策の提案を行う。
- ④ 価値の創造：教育の力はすべての子どもに影響することが出来る。年齢に応じて子どもの人権や生きる価値など人間尊重の理念から獲得できるような学びとその方法を導入する。小学1年生から体験的に教育を受ける生きる教育（西澤・西岡 2022）やブレインストーミングのように子どもたちとの対話で進めるフィンランドの教育（北川 2005）、実際的な生活課題から制度やサービス、権利に関して体験的に学ぶスウェーデンの社会科（リンドクウィスト・ウエ

ステル 1997) のように、その年齢に合わせて体験型であり、自身の意見を出し、周りの意見を聞きながら進めるレクチャー型ではない教育の進め方を根本から検討すべきである。そのことによって、10 代の妊娠やいじめ、ヤングケアラーなど家庭状況を抱えるようになってからも早期に SOS が出せたり、自身で支援を選択できる力を養うことができる。

- ⑤ 地域資源：支援の場所を周知することである。自治体のパンフなど見やすい形で大阪府下全市に拡充する必要がある。子ども食堂に限らず、様々な機能（駄菓子屋や公園などほっと寄れるような場を使ったたまり場など）を持つ居場所や体験交流できる場かつ子どもが自力で行ける小学校区に必要である。学校が場所を開放するのがベストである。その場所が子どもにとっても親にとってもわかりやすく、行きやすい場所にあり、選択肢が増え、可視化し利用しやすくする必要がある。相談機関を増やしても子どもや親からの相談の数値は決して上がらず、居場所などの場の方が有効である。
- ⑥ 連携の考え方：連携とは個人情報共有をしなければできないわけではない。個人情報は把握しないまま連携することが重要である。これが社会資源を知らない教師と個人情報を持ってない地域の居場所の新しい連携の方法であり、これらを周知徹底させることである。
- ⑦ すべての子どもを視野に入れ、そこから自然につながる仕組みなど、今までの縦割りとは次元の違う支援の仕組みが必要である。
- ⑧ 社会福祉協議会など居場所の中間支援を行う機関の役割を明確化し、機能的に促進させる。社会教育分野が持つ公民館や図書館や博物館なども場であり、さらなる協働を明確にする。（子ども食堂等居場所の活動団体が無料で入れる、利用できるなど）
- ⑨ 全数からの仕組み：必要な子どもが確実に発見され自然につながるためには、スクリーニングから繋ぐ機能まで持った、例えば文部科学省推奨（2020）の YOSS スクリーニング（山野研究室 2021）の仕組みが必要である。今回の調査で 2016 年度からの比較によってアウトリーチでは乗り越えられなかった壁が明かになった。相談ではなく、自然に伴走する支援を厳しい家庭の保護者や子どもたちは求めていることがわかる。必要な子どもを早期に発見し、伴走しながら、必要な制度や仕組みを紹介し、利用を増やすことで生活の改善をはかることと、伴走することで子どもや保護者本人の力をアップさせ、資源を活用できるようにする機能が必要である。
- ⑩ システム化：洩れなく持続可能に巡回させるためには、人に頼るだけでなく、福祉と学校のデータ連携を推奨し、地域資源の可視化のためにクラウド化することも考慮すべき点である。クラウドによっていち早く支援場所や居場所が学校にもすぐにわかり、地域活動と支援の必要な子どもを結び、支援提供を展開する必要がある。
- ⑪ 人材：これら学校においてすべての子どもの検討、発見から支援に繋ぐ校内の体制作りができる人材養成に力を入れる必要がある。スキルを取得する訓練講座の予算化や新たな認定制度になることも家庭ソーシャルワーカー養成制度の活用などである。
- ⑫ その専門職の 1 つがスクールソーシャルワーカーである。各校に 1 名配置できるよう、正規職化への働きかけ、あるいは各自治体での正規職化計画を立てる必要がある。
- ⑬ 法制化：これらは連携ではなく仕組み作りであり、制度化である。要項や規定を作成し、自治体や機関として動きやすいように作成すべきである。
- ⑭ 制度設計：デジタル化のために補助金や助成金を検討することも必要である。なぜなら、どこに必要な子どもが存在するのかがわからない。データ連携することでどこに必要な子どもが存在し、様々な制度を活用してどうだったかを検証できるように作りこむことである。これらのシステム費用がベンダーロックにより莫大な金額がかかる課題がある。企業を巻き込むと同時に、自治体や政府からクラウド化に向けた助成制度を創設する必要がある。

引用・参考文献

- アーネ・リンドクウィスト&ヤン・ウェステル, 川上 邦夫 (翻訳) (1997)『あなた自身の社会: スウェーデンの中学教科書』新評論.
- 大阪府 (2023)「大阪府子ども (子育て世帯) に対する食費支援事業 (第2弾)」
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/20980/00457638/2-9.pdf>)
- 大阪府立大学 (2017)「大阪府子どもの生活実態調査」
- 北川達夫 (2005)「図解フィンランド・メソッド入門」経済界.
- 厚生労働省 (2004)「ワークシェアリング導入促進に関する秘訣集及びリーフレットについて」
(<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/06/h0630-2.html>)
- 厚生労働省 (2017)「平成28年度 全国ひとり親世帯等調査結果報告」
(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11923000-Kodomokateikyoku-Kateifukishika/0000190325.pdf>)
- 厚生労働省 (2022)「2022 (令和4) 年国民生活基礎調査の概況」
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>)
- 柴田悠 (2016)『子育て支援が日本を救う—政策効果の統計分析』勁草書房.
- 内閣府 (2010)「平成21年度インターネットによる子育て費用に関する調査」
(https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa21/net_hiyo/mokuji_pdf.html)
- 西澤哲・西岡加名恵ほか (2022)『『生きる』教育: 自己肯定感を育み, 自分と相手を大切にする方法を学ぶ』日本標準.
- 日本総研 (2022)「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業: ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省.
- 三菱UFJリサーチコンサルティング(株) (2021)「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業: ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省.
- 文部科学省 (2023)「令和5年度就学援助の実施状況」
(https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt_shuugaku-000013450_27.pdf)
- 文部科学省・山野研究室 (2020)「スクリーニング活用ガイド」
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2020/03/27/20200327_mxt_kouhou02_2.pdf)
- 山野則子編著 (2019)『子どもの貧困調査—子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの』明石書店.
- 山野則子 (2018)『学校プラットフォーム』有斐閣.
- 山野則子研究室 (2021)「コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究 保護者調査・子ども調査報告書」厚生労働省.
- 山野則子研究室 (2021)「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」文部科学省.
- 柳澤靖明・福島尚子 (2019)『隠れ教育費: 公立小中学校でかかるお金を徹底検証』太郎次郎社エディタス.
- UNESCO(2020) ‘International technical guidance on sexuality education: an evidence-informed approach (jpn)’ (<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374167>)

図表目次

図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験	183
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験	185
図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの.....	187
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均.....	188
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均.....	189
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均.....	190
図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成	191
図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）	192
図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況	193
図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数	194
図 11. 困窮度別に見た、住居形態	195
図 12. 困窮度別に見た、家計の状況	196
図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	197
図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無	198
図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況	201
図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016 年度調査との比較）.....	202
図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	203
図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016 年度調査との比較）	204
図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況	205
図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016 年度調査との比較）	206
図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）	207
図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢	208
図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）	209
図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	210
図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	211
図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）	212
図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）	214
図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ） ...	216
図 29. 住居形態別に見た、家計の状況	217
図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	218
図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況.....	219
図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況.....	220
図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	221
図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	222
図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	223
図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況 ...	224
図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	225
図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況.....	227
図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況.....	229
図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	231
図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	233
図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	235

図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況 ...	237
図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況.....	239
図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況.....	240
図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況.....	241
図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況.....	242
図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）.....	243
図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況.....	244
図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況.....	245
図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況 ...	246
図 52. 困窮度別に見た、就労状況.....	248
図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴.....	249
図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴.....	250
図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況.....	251
図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況.....	252
図 57. 世帯構成別に見た、就労状況.....	253
図 58. 就労状況別に見た、家計の状況.....	254
図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度.....	256
図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度.....	257
図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度.....	258
図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度.....	259
図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間.....	260
図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間.....	261
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度.....	262
図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	263
図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）.....	264
図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある.....	265
図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ.....	266
図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ.....	267
図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる.....	268
図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする.....	269
図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる.....	270
図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる.....	271
図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない.....	272
図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする.....	273
図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること.....	275
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある ..	276
図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	277
図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ.....	278
図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる..	279
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする.....	280
図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	281
図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	282
図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない.....	283

図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする	284
図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること	286
図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること	288
図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること	290
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	291
図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点	292
図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）	293
図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）	294
図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）	295
図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）	296
図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか	299
図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか	300
図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか	301
図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとと文化活動をするか	302
図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	303
図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	304
図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間	305
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの	306
図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がある日）	307
図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がない日）	308
図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	309
図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	310
図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	311
図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	312
図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間	313
図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間	314
図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連	315
図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連	316
図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度	317
図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度	318
図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間	319
図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間	320
図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度	321
図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度	322
図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先	323
図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）	324
図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学	325
図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻	326
図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況	327
図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか	328
図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか	329
図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか	330
図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか	331

図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか.....	332
図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか.....	333
図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと文化活動をするか.....	334
図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に外出するか.....	335
図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること	337
図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	338
図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	339
図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先	340
図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの.....	341
図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること.....	343
図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処をしてくれる人のいない割合.....	344
図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	345
図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	346
図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先	347
図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯	348
図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度	349
図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度	350
図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	351
図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	352
図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況.....	354
図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日） ..	355
図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日） ..	356
図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所	360
図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人	362
図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと	364
図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること	366
図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	368
図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先.....	370
図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較） ..	371
図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合	372
図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合（2016年度調査との比較） ..	372
図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	373
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	374
図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか.....	375
図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか.....	376
図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか	377
図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか	378
図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか.....	379
図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと文化活動をするか.....	380
図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと一緒に外出するか.....	381
図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	382
図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	383
図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所.....	384

図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所	385
図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験	386
図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	388
図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	390
図 176. 勉強を無料か安い料金でみってくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	392
図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	394
図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	396
図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	397
図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	398
図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみってくれる場所	399
図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所.....	400
図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	402
図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	404
図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	406
図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	408
図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみってくれる場所	410
図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所.....	412
図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	414
図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	416
図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみってくれる場所	418
図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所.....	420
図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無.....	422
図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	424

IV 資料編

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査

しょうがくせい ちゅうがく せい む ちようさ ちようさひよう かどまし
小学生・中学生向け調査 調査票 【門真市】

ちようさ きょうりよく ねが
< 調査への協力のお願い >

- ◆この調査は、大阪府内の小学生・中学生のみなさんの学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望などについてたずねるものです。
- ◆この調査は、小学生または中学生のあなたが自分で答えてください。
- ◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
- ◆答えたくない質問は答える必要はありません。
- ◆答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- ◆あなたが答えた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
- ◆門真市はこの調査結果を参考に、子どもたちのために何ができるかを考えていきますので、ご協力をお願いします。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年7月20日までに回答してください。

うえぶ かいとう
(1) Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをざらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

かみ ちようさ ひよう かいとう
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「小学生・中学生用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、おうちの人に渡してください。

きげん れいわ ねん がつ にち もくようび
◆期限： 令和5年7月20日（木曜日）◆

ちようさ かん といあわ さき
【調査に関するお問合せ先】

かどまし ぶ せいさく せいさく
門真市子ども部子ども政策課子ども政策グループ

でんわ ちようづう
電話 06-6902-6095（直通） ※9:00～17:30 土・日曜日・祝日を除く

めーる
メール chi01@city.kadoma.osaka.jp

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように答えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

あなたについておたずねします。

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 小学生	2. 中学生

あなたのふだんの生活のことについておたずねします。

問2 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時刻に起きていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 起きている	3. あまり、起きていない
2. どちらかといえば、起きている	4. 起きていない

問3 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 午後9時より前	4. 午後11時台	7. きまっていない
2. 午後9時台	5. 午前0時台	
3. 午後10時台	6. 午前1時より後	

問4 朝食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、朝食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが朝食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問5 夕食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、夕食を食べていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが夕食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問6 お休みの日の昼食についておたずねします。

(1) あなたは、学校がお休みの日に昼食を食べますか。(夏休みなどの長期のお休みの日もふくみます。)(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 必ず食べる	3. 食べないことが多い	5. わからない
2. 食べることが多い	4. 食べない	

(2) 前の質問で「1. 必ず食べる」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが、学校がお休みの日に昼食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問7 あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 遅刻はしない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	



とい 問8 あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。（①～⑩それぞれについて、あてはまる番号ばんごう
ひと まる
1つに○をつけてください）

	ほとんど毎日 まいにち	週に4～5回 しゅう かい	週に2～3回 しゅう かい	週に1回程度 しゅう かい いど	月に1～2回 つき かい	ほとんどない	まったくない
① おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
② おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
③ おうちの大人のひとに朝、起こしてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
④ おうちの手伝いをしていますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑤ おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑥ おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑦ おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑧ おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑨ おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑩ おうちの大人のひとと一緒に外出しますか。（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）	1	2	3	4	5	6	7

とい 問9 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいとおもいますか。

（あてはまる番号ばんごうすべてに○をつけてください）

1. おうちのひとと一緒に過ごしているとき	5. 今、住んでいる地域の行事に参加しているとき
2. ともだちと一緒に過ごしているとき	6. 塾や習いごとで過ごしているとき
3. 学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	7. 特に楽しいと思うときはない
4. ひとりで過ごしているとき	8. その他

とい
問10 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）
2. きょうだい
3. おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）
4. 学校のともだち
5. クラブ活動・部活動の仲間
6. 学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）
7. ひとりでいる
8. その他の人

とい
問11 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 自分の家	9. コンビニエンスストア
2. おばあちゃん・おじいちゃんの家	10. ゲームセンター
3. ともだちの家	11. 図書館や公民館など公共の施設
4. 塾	12. 地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）
5. 習いごと	13. 学童保育（※）
6. 学校（クラブ活動・部活動など）	14. その他
7. 公園・広場	
8. スーパーやショッピングモール	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

とい
問12 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。
※勉強には学校の宿題もふくみます。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. 自分で勉強する	6. おうちの人に教えてもらう
2. 塾で勉強する	7. ともだちと勉強する
3. 学校の補習を受ける	8. その他
4. 家庭教師に教えてもらう	9. 学校の授業以外で勉強はしない
5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	

とい 問13 あなたは、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (塾などの時間もふくみます。) (①、②それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	わからない
① 学校がある日 (月～金曜日)	1	2	3	4	5	6	7
② 学校がない日 (土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6	7

はんぶん
あと半分だよ。
がんばってね！

とい 問14 学校の勉強についておたずねします。
 (1) 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。
 (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくわかる	3. あまりわからない	5. わからない
2. だいたいわかる	4. ほとんどわからない	

(2) 前の質問で「3. あまりわからない」「4. ほとんどわからない」「5. わからない」に○をつけた方に
 おたずねします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

1. 小学1・2年生のころ	3. 小学5年生になってから	5. 中学1年生のころ
2. 小学3・4年生のころ	4. 小学6年生のころ	6. 中学2年生になってから

とい 問15 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。
 (教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。) (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. まったくしない	5. 2時間以上、3時間より少ない
2. 30分より少ない	6. 3時間以上
3. 30分以上、1時間より少ない	7. わからない
4. 1時間以上、2時間より少ない	

とい 問16 あなたは、^{がっこう}学校や^{がっこう}学校の^{ぎょうじ}行事等で次のようなことがありますか。

(あてはまる^{ばんごう}番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{じゅぎょう} 授業中に ^ね 寝てしまうことが多い	7. ^{うんどうかい} 運動会や ^{えんそく} 遠足などの ^{がっこうぎょうじ} 学校行事を ^{けっせき} 欠席する
2. ^{しゅくだい} 宿題ができていないことが多い	8. ^{ほけんしつ} 保健室で ^す 過ごすことが多い
3. ^も 持ち物の ^{わす} 忘れ物が ^も 多い	9. ^{がっこう} 学校では ^{ひとり} ひとりで ^す 過ごすことが多い
4. ^{なら} 新しいことを ^{やす} 休むことが ^{おほ} 多い	10. ^{ともだち} ともだちと ^{あそ} 遊んだり、 ^{おしゃべり} おしゃべりしたりする ^{じかん} 時間が
5. ^{ていしゅつぶつ} 提出物を ^だ 出すのが ^{おく} 遅れることが ^{おほ} 多い	^{すく} 少ない
6. ^{しゅうがくりょこう} 修学旅行などの ^{しゅくはくぎょうじ} 宿泊行事を ^{けっせき} 欠席する	11. ^{とく} 特にない

とい 問17 今、あなたは、いやなことや^{なや}悩んでいることはありますか。

(あてはまる^{ばんごう}番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{うち} おうちのこと	6. ^す 好きな ^{ひと} 人のこと
2. ^{がっこう} 学校や ^{べんきょう} 勉強のこと	7. ^{しんがく} 進学・ ^{しんろ} 進路のこと
3. ^{くらぶ} クラブ活動や ^{ぶかつどう} 部活動のこと	8. ^た その他のこと
4. ^{じぶん} 自分のこと(外見や ^{がいけん} 体型など)	9. いやなことや ^{なや} 悩んでいることはない
5. ^{ともだち} ともだちのこと	10. ^{わからぬ} わからない

とい 問18 あなたは、いやなことや^{なや}悩んでいることがあるとき、だれかに^{そうだん}相談しますか。(だれに^{はな}話しますか。)

(あてはまる^{ばんごう}番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{おや} 親	12. ^{いんたーねっと} インターネットや ^{さいと} サイトなどを ^{つうし} 通じて ^し 知りあった
2. ^{きょうだい} きょうだい	^{ちよくせつ} 直接会ったことのない ^{ひと} 人
3. ^{しん} 親せき	13. ^{きんじよ} 近所の ^{ひと} 人
4. ^{がっこう} 学校の ^{ともだち} ともだち	14. ^{ちいき} 地域の ^{しえんだんたい} 支援団体
5. ^{がっこう} 学校以外の ^い ともだち	^{がくしゅうしえん} (学習支援の ^ば 場や ^こ 子ども ^{しょくどう} 食堂など ^{ちいき} 地域で
6. ^{がっこう} 学校の ^{せんせい} 先生	^{おなとし} 同じ ^こ 年ごろの ^{あつ} 子どもが ^{ひと} 集まるところの ^{ひと} 人)
7. ^{すくー} スクール ^{かうんせらー} カウンセラー、 ^{そーしゃるわーかー} ソーシャルワーカー	15. ^た その他の ^{ひと} 人
8. ^{じゅく} 塾や ^{なら} 習いごとの ^{せんせい} 先生	16. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談できない
9. ^{がくどうほいく} 学童保育の ^{せんせい} 先生(※)	17. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談したくない
10. ^こ 子ども ^{せんよう} 専用の ^{でんわ} 電話 ^{そうだん} 相談	18. ^{わからぬ} わからない
11. ^{えすえぬえす} SNSなどの ^{いんたーねっと} インターネットや ^{らいん} LINEの ^{そうだん} 相談	

※「学童保育」とは、「^{がくどうほいく}放課後児童クラブ」、「^{ほしかぎ}いきいき放課後児童クラブ」、「^{るす}留守家庭児童会(室)」、「^{がくどうくらぶ}学童クラブ」、「^{なかよ}仲良し^{くらぶ}クラブ」もふくみます。

問19 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。あなたが、この一週間、どんな気持ちや状況だったのか、教えてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。

(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

	そいつ だも	ときどき そうだ	そんな ないこと
① 楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
② 遊びにでかけるのが好きだ	1	2	3
③ 元気いっぱいだ	1	2	3
④ やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
⑤ 一人ぼっちのような気がする	1	2	3
⑥ 不安な気持ちになる	1	2	3
⑦ まわりが気になる	1	2	3
⑧ やる気が起きない	1	2	3
⑨ いらいらする	1	2	3

問20 あなたは、自分の体の状態で気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	6. よくかゆくなる
2. よく頭がいたくなる	7. とくに気になるところはない
3. 歯がいたい	8. その他
4. よくおなかがいたくなる	9. わからない
5. よくかぜをひく	



答えたくない質問は答える必要はないよ。

答えに迷うときは、あなたの気持ちや考えに

できるだけ近いものを選んでね。

とい 問21 あなたが、持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 本 (学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく)	8. テレビ
2. マンガ・雑誌	9. けいたい電話
3. 子ども部屋 (ひとり部屋やきょうだいと 一緒に使っている部屋など)	10. スマートフォン・タブレット機器
4. インターネットにつながるパソコン (学校のパソコンはのぞく)	11. 化粧品・アクセサリ
5. 運動用具 (ボール・ラケットなど)	12. 習いごとなどの道具 (ピアノなど)
6. ゲーム機	13. 自分で選んだ服
7. 自転車	14. キャラクターグッズ
	15. その他
	16. あてはまるものはない

あなたが、ふだん 考 えていることについておたずねします。

とい 問22 あなたは、つらいことがあってもすぐ立ち直ることができますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. そう思う	3. どちらかというそう思わない
2. どちらかというそう思う	4. そう思わない

とい 問23 あなたがふだん 考 えていることについて、次の (1) ~ (3) について教えてください。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

(1) 自分に自信がある

1. ある	3. どちらかというたない
2. どちらかというとある	4. ない

(2) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

1. できる	3. どちらかというとできない
2. どちらかというとできる	4. できない

(3) 自分の将来の夢や目標を持っている

1. 持っている	3. どちらかというと持っていない
2. どちらかというと持っている	4. 持っていない

とい 問24 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	6. 留学 (外国で長い期間勉強すること)
2. 高校	7. 専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など) ・高等
3. 短期大学	せんもんがっこう 専門学校
4. 大学	8. 考えたことがない
5. 大学院	9. わからない

あともう少しだよ！

がんばってね！



©2014 大阪府もずやん

あなたのことについて、おたずねします。

問25 自分やともだちの家以外の場所についておたずねします。

- (1) あなたは、次の①～④のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。

(①～④それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	利用したことがある	利用したことはない (あれば利用したい と思う)	利用したことはない (今後も利用したい と思わない)	利用したことはない (今後も利用したい か分からない)
① 平日の夜や休日を過ごすことができる 場所 (学童保育など)	1	2	3	4
② 昼食や夕食、お弁当を無料か安い 料金で食べることができる場所 (子 ども食堂など)	1	2	3	4
③ 勉強を無料か安い料金でみくれる 場所 (一般的な学習塾とはちがう 学習支援など)	1	2	3	4
④ 何でも相談できる場所 (電話や ネットの相談をふくむ。)	1	2	3	4

- (2) 前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。そこを利用したことで、次のような変化がありましたか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ともだちが増えた	6. 勉強がわかるようになった
2. 気軽に話せる大人が増えた	7. 勉強する時間が増えた
3. 生活の中で楽しみなことが増えた	8. その他
4. ほっとできる時間が増えた	9. 特に変化はない
5. 栄養のある食事をとれることが増えた	

(3) 問25(1)の質問で、「利用したことがある」に○をつけた方以外におたずねします。利用したことがないのはなぜですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから	7. Wi-fi (インターネット通信環境) がないから
2. 家の近く(ひとりで行ける場所)にないから	8. 行きたいと思わないから
3. 家で過ごしたいと思うから	9. 何をしているかわからないから
4. 楽しくなさそうだから	10. 利用していることを近所の人やともだちに知られたくないから
5. 「行っははいけない」と親などの大人に言われるから	11. その他
6. 行きたい日・時間に開いていないから	

問26 あなたがおうちでしているお世話の様子についておたずねします。

(1) おうちの人のなかあなたがお世話をしている人はいますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. いない

(2) 前の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。誰のお世話をしていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじいちゃん
2. お父さん	5. きょうだい
3. おばあちゃん	6. その他

(3) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 料理や買い物、食器洗いなど	5. 病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など
2. 洗濯など	6. その他
3. そうじやゴミ捨てなど	
4. きょうだいのめんどろを見ることや保育所のおむかえなど	

(4) 前の質問で「6. その他」に○をつけた方は、具体的な内容を書いてください。

(5) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をするのはどれくらいありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日	3. 週に1日または2日
2. 週に3日～5日	4. 1か月に数日

(6) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。学校がある日に、お世話を1日のうちどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 1時間より少ない	4. 3時間以上、5時間より少ない
2. 1時間以上、2時間より少ない	5. 5時間以上、7時間より少ない
3. 2時間以上、3時間より少ない	6. 7時間より多い

(7) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をしていることによって次のようなことがありますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちの人と話したり遊んだりすることが ふ 増える	8. とても疲れることがある
2. 時間の使い方を工夫できる	9. いろいろしやすい
3. 家の中で気持ちよく過ごすことができる	10. 気持ちが落ち込む
4. おうちの人健康に過ごすことができる	11. 学校を欠席や遅刻、早退することがある
5. 「お世話」にやりがいを感じる	12. その他
6. おうちの人以外と話す時間が減る	13. 特にない
7. 自分のことをする時間がない	

問27 あなたの性別をえらんでください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 男子	3. その他
2. 女子	4. 答えたくない

質問はこれで終わりです。調査にご協力いただきありがとうございました。

「小学生・中学生用」と書いてある封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、保護者の方に渡してください。

相談窓口のご案内

○親子やきょうだいのことなど家庭での悩みについては

<子どもの悩み相談フリーダイヤル>

TEL : 0 1 2 0 - 7 2 8 5 - 2 5

24時間 365日

LINE <https://www.pref.osaka.lg.jp/kateishien/sodanliner3/index.html>

<親子のための相談LINE>

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html

○友人関係など学校での悩みについては

<すこやかホットライン>

TEL : 0 6 - 6 6 0 7 - 7 3 6 1

月曜日～金曜日 : 9時～17時30分 (※祝日・年末年始を除く)

Eメール sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp



@2014 大阪府もずやん

【ひとりで悩まないで、相談してね。】

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

■ WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。

■ 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src/2700082>

- ◆ 最初の画面がでてきたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

お お さ か ふ こ せ い か つ か ん じ ャ ャ い ち ょ う さ
大阪府子どもの生活に関する実態調査
ほ ご し や む ち ょ う さ ち ょ う さ ひ ょ う か ど ま し
保護者向け調査 調査票 【門真市】

ち ょ う さ き ょ う り よ く ね が
< 調査への協力をお願い >

- ◆この調査は、保護者の方に家庭状況などをお聞きし、門真市の子どものための支援策に役立てるために実施します。皆様からの回答を支援策の充実や改善につなげていきたいと考えていますので、お忙しい中お手数ですが、調査への協力をお願いします。
- ◆調査の対象は、小学5年生と中学2年生です。
- ◆お名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◆この調査で「お子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。「お子さん」と書かれた質問には調査票を受け取ったお子さんについてのみお答えください。
- ◆ごきょうだいなどで、この調査用紙が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、それぞれの調査用紙（またはWebフォーム）に回答してください。
- ◆回答するときには、お子さんと別々に、お互いの回答を見ないように記入してください。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年7月20日までに回答してください。

う え ぶ か い と う
(1) Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをごらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

か み ち ょ う さ ひ ょ う か い と う
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「保護者用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがして封をしてください。お子さんの回答のいった「小学生・中学生用封筒」と「保護者用封筒」を返信用封筒にまとめて入れ、お子さんから学校の担任の先生へ渡してもらってください。
- ※学校の先生が調査票の記入内容を見ることはありません。

き げ ん れ い わ ね ん が つ に ち も く よ う び
◆期限： 令和5年7月20日（木曜日）◆

ち ょ う さ か ん と い あ わ さ き
【調査に関するお問合せ先】

か ど ま し ぶ せ い さ く
門真市こども部こども政策課こども政策グループ

で ん わ ち ょ う づ ど に ち ょ う び し ゅ く じ つ の ぞ
電話 06-6902-6095（直通） ※9:00～17:30 土・日曜日・祝日を除く

めーる
メール chi01@city.kadoma.osaka.jp

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などと書いてありますので、それにしがってください。

最初に、あなたとお子さんの関係についておたずねします。

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじ、おばなど親戚
2. お父さん	5. 施設職員・ファミリーホーム・里親
3. おじいさん・おばあさん	6. その他の人

世帯の状況についておたずねします。

※あなたの世帯について、令和5年4月1日現在の状況を教えてください。

※世帯とは、普段、住居と生計を共にしている方々(世帯員)の集まりをいいます。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含んでください。また、単身赴任の方も含まれます。

※世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人を含みます。

※また、病院・診療所に入院している人を含みますが、住民登録を病院・診療所に移している人は除きます。さらに、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人を除きます。

問2 あなたの世帯の構成と人数をお答えください。（①～⑧それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください）（⑧は、あなたや対象のお子さんを含んだ人数をお答えください。）

①おばあさん	②おじいさん	③お母さん	④お父さん	⑧合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人	0. いない 1. 1人	1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上
⑤姉・兄	対象のお子さん (本人) (※)	⑥妹・弟	⑦その他	
0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	1人	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	

※「対象のお子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。

問3 お子さんと同居し、生計を共にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 結婚している（再婚や事実婚を含む。）	4. 未婚
2. 離婚	5. わからない
3. 死別	6. いない

問4 前の質問で「2. 離婚」に○をつけた方におたずねします。

離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。

また養育費を現在受け取っていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 取り決めをしており、受け取っている
2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている
3. 取り決めをしているが、受け取っていない
4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問5 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	4. 民間の賃貸住宅
2. 府営・市営の住宅	5. 官舎・社宅
3. UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	6. その他

問6 あなたの家計の収支状況についておたずねします。

（1）前年（2022年）の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 貯蓄ができています	3. 赤字でもなく黒字でもない
2. 赤字である	4. わからない

（2）お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 貯蓄をしている	3. 貯蓄をするつもりはない
2. 貯蓄をしたいが、できていない	

問7 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 食費を切りつめた	13. 鉄道やバスの利用を控え、自転車を使ったり歩くようにした
2. 電気・ガス・水道などが止められた	14. 電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある
3. 医療機関を受診できなかった	15. 家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある
4. 国民健康保険料の支払いが滞ったことがある	16. 趣味やレジャーの出費を減らした
5. 国民年金の支払いが滞ったことがある	17. 冷暖房の使用を控えた
6. 金融機関などに借金をしたことがある	18. 友人・知人との外食を控えた
7. クレジットカードの利用が停止になったことがある	19. 敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した
8. 新しい衣服・靴を買うのを控えた	20. 理髪店・美容院に行く回数を減らした
9. 新聞や雑誌を買うのを控えた	21. 子ども部屋が欲しかったがつくれなかった
10. スマートフォンへの切替・利用を断念した	22. 1～21の項目には、どれもあてはまらない
11. 冠婚葬祭のつきあいを控えた	
12. 生活の見通しがたたなくて不安になったことがある	

問8 お子さんのお母さんとお父さんの最後に通った学校を教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）（現在、ひとりでお子さんを育てている場合（ひとり親の場合）はあてはまる方だけに○をつけてください。）

お母さん	お父さん
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校中途退学	2. 高等学校中途退学
3. 高等学校卒業	3. 高等学校卒業
4. 高専、短大、専門学校等卒業	4. 高専、短大、専門学校等卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他の教育機関卒業	7. その他の教育機関卒業
8. 答えたくない	8. 答えたくない

問9 お子さんの保護者の方の現在の就業状況についておたずねします。（複数か所にお勤めされている方はあてはまる番号をすべて選んでください）

※お母さん、お父さん以外の方が主として家計を支えている場合、「お母さん、お父さん以外の方」にもご記入をお願いします。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号を選んでください。

お母さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

とう お父さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

お母さん、お父さん以外に主として家計を支えている方（おばあさん、おじいさん、おじ、おば、親戚など）	
1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

問10 お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で、多い時間帯を選んでください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※保護者の方には、おばあさん、おじいさん、おじ、おばなど親戚を含みます。

※自宅が仕事場の場合は、お仕事が終わる時間帯を選んでください。

1. お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	4. お子さんが寝た後に帰ってくる
2. お子さんの夕食時間には家にいる	5. 帰宅時間が決まっていない
3. お子さんの寝る時間には家にいる	6. その他

問11 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

お子さんに関することについておたずねします。

問12 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（おおむね1年の間でお考えください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. お子さんを医療機関に受診させることができなかった	9. お子さんを学習塾に通わせることができなかった
2. お子さんの進路を変更した	10. お子さんの誕生日を祝えなかった
3. お子さんのための本や絵本が買えなかった	11. お子さんにお年玉をあげることができなかった
4. お子さんにおこづかいを渡すことができなかった	12. お子さんの学校行事などに参加することができなかった
5. お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった	13. 子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった
6. お子さんを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	14. 家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった
7. お子さんを習い事に通わすことができなかった	15. 1～14の項目には、どれにもあてはまらない
8. お子さんを学校のクラブ活動・部活動に参加させられなかった	

問13 あなたとお子さんとの関係について、次の項目でもっとも近いものを選んでください。

(1) あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても信頼している	3. あまり信頼していない
2. 信頼している	4. 信頼していない

(2) あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よくする	3. あまりしない
2. する	4. しない

(3) あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1 日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(平日、休日それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

平日	休日
1. 0～15 分未満	1. 2 時間未満
2. 15 分～30 分未満	2. 2 時間～4 時間未満
3. 30 分～1 時間未満	3. 4 時間～6 時間未満
4. 1 時間～2 時間未満	4. 6 時間～8 時間未満
5. 2 時間～3 時間未満	5. 8 時間～10 時間未満
6. 3 時間～4 時間未満	6. 10 時間以上
7. 4 時間以上	

(4) あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても期待している	3. あまり期待していない
2. 期待している	4. 期待していない

(5) お子さんの授業参観や運動会などの学校行事に参加していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よく参加している	3. あまり参加していない
2. ときどき参加している	4. まったく参加していない

問14 あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	4. 大学	7. 専門学校・高等専門学校
2. 高校	5. 大学院	8. 考えたことがない
3. 短期大学	6. 留学	9. わからない

問15 お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日通っている
2. 欠席は年間30日未満である
3. 欠席が年間30日以上、60日未満である
4. 欠席が年間60日以上、1年未満である
5. 欠席が1年以上続いている
6. わからない

問16 子どもの居場所について、おたずねします。

(1) あなたのお子さんは、次のような「子どもの居場所」を利用したことがありますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- ・自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所
- ・子どもが無料又は低額で食事ができる場所（子ども食堂）
- ・自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場

1. 利用したことがある	2. 利用したことがない

(2) 前の質問で「1. 利用したことがある」と答えた方におたずねします。

お子さんが子どもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 地域の人とつながれるから 2. お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから 3. 栄養バランスのとれた食事がとれるから 4. 運営者が相談に乗ってくれるから 5. 低額（または無料）でご飯が食べられるから	6. 宿題など勉強を見ってくれるから 7. お子さんが楽しんでいるから 8. 特になし 9. その他

(3) 問16 (1) の質問で「2. 利用したことがない」と答えた方におたずねします。

子どもの居場所を利用しないのはなぜですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. どこにあるか知らないから 2. 家の近く（小学校区内）にないから 3. 家で過ごしてほしいと思うから 4. 居場所のイメージがよくないから 5. お子さんが「行きたくない」と言っているから	6. 行きたい日・時間に開いていないから 7. 利用したいと思わないから 8. 何をしているかわからないから 9. その他

あなたのことについておたずねします。

問17 初めて親となった年齢はいくつですか。(実子以外も含みます)

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 10代	3. 24～26歳	5. 31～34歳	7. 40歳以上
2. 20～23歳	4. 27～30歳	6. 35～39歳	

問18 次の①～⑦について、おうちの方を含め(お子さんは除く)、あなたを支えてくれて、手伝ってくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

	いる	いない	わからない
① 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人	1	2	3
② あなたの気持ちを察して思いやってくれる人	1	2	3
③ 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人	1	2	3
④ お子さんとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人	1	2	3
⑤ お子さんの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人 (運動や文化活動)	1	2	3
⑥ お子さんの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人	1	2	3
⑦ 留守を頼める人	1	2	3

問19 あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 配偶者・パートナー	9. 学童保育の指導員(※)
2. 自分の親	10. 地域の民生委員・児童委員
3. 配偶者・パートナーの親	11. 民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)
4. きょうだい・その他の親戚	12. 医療機関の医師や看護師
5. 知人や友人	13. インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談
6. 職場関係者	14. その他
7. 学校の先生やスクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	15. 相談できる相手がいない
8. 公的機関や役所の相談員	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会(室)」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」も含みます。

とい つぎ み ぢ か おも なん ばんごう まる
問20 次のうち、身近にあるといいと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 保護者^{ほごしや}どうして気軽に^{きがる}話せる^{はな}場^ば 2. SNSなどのインターネット^{えすえぬえす いんたーねっと}を通じて^{つう}悩みごと^{なや}を話せる^{はな}コミュニティ^{こみゆにてい} 3. 家事^{かじ}の援助^{えんじょ}が受けられる^うこと 4. 支援^{しえん}制度^{せいど}など必要な^{ひつよう}情報^{じょうほう}を届けて^{とど}くれること 5. 困った^{こま}時^{とき}にご飯^{はん}を無料^{わりよう}または安価^{あんか}で自宅^{じたく}に届^{とど}けてくれるサービス^{さーびす}	6. お子^こさんが放課後^{ほうかご}や休日^{きゅうじつ}に勉強^{べんきょう}などができる^{ばしよ}場所^{ばしよ}を利用^{りよう}できること 7. お子^こさんが無料^{わりよう}で学習^{がくしゅう}支援^{しえん}を受けられる^う場所^{ばしよ} 8. お子^こさんや保護者^{ほごしや}が夕食^{ゆうしよく}を無料^{わりよう}か安い^{やす}料金^{りょうきん}で食べる^たこととができる^{ばしよ}場所^{ばしよ}（子ども食堂^{こどもしきどう}など）を利用^{りよう}できること

とい
問21 あなたの心^{こころ}の状態^{じょうたい}についておたずねします。

（1）生活^{せいかつ}を楽し^{たの}んでいますか（仕事^{しごと}や家事^{かじ}、育児^{いくじ}など）。

（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. とても楽し ^{たの} んでいる	3. あまり楽し ^{たの} んでいない	5. わからない
2. 楽し ^{たの} んでいる	4. 楽し ^{たの} んでいない	

（2）将来^{しょうらい}に対して希望^{たい}を持^もっていますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てる	3. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てない
2. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てるときもあれば、持 ^も てないときもある	4. わからない

（3）ストレス^{すとれす}を発散^{はっさん}できるものがありますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. ある	3. ない
2. あるときもあれば、ないときもある	4. わからない

（4）あなたは、ご自分^{じぶん}が幸^{しあわ}せだと思^{おも}いますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. とても幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} う	4. 幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} わない
2. 幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} う	5. わからない
3. あまり幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} わない	

とい
問22 あなたは、自分の^{じぶん}体^{からだ}や^き気^も持^きちで^き気^きになることはありますか。

(あてはまる^{ばんごう}番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	10. まわりが ^き 気 ^き になる
2. よく ^{あたま} 頭 ^{あたま} がいたくなる	11. やる ^き 気 ^き が ^お 起きない
3. ^は 歯 ^は がいたい	12. ^{いら} イ ^{いら} ライ ^{いら} ラする
4. ^{ふあん} 不安 ^き な ^も 気 ^も 持 ^き ちになる	13. よく ^{かた} 肩 ^{かた} がこる
5. ものを見 ^み づらい	14. よく ^{こし} 腰 ^{こし} がいたくなる
6. ^き 聞 ^き こえにくい	15. とくに ^き 気 ^き になるところはない
7. よくおなかがいたくなる	16. その他 ^た
8. よくかぜをひく	17. わからない
9. よくかゆくなる	

^{こた}答^{こた}え^{しつもん}たくない^{こた}質^{ひつよう}問^{ひつよう}に^{こた}答^{ひつよう}える^{ひつよう}必要^{ひつよう}はありません。

^{こた}答^{こた}え^{まよ}に^{ばあい}迷^{まよ}う^{まよ}場^{まよ}合^{まよ}には、あなたの^き気^も持^きちや^{かんが}考^{かんが}え^{かんが}に^{ちか}で^{ちか}き^{ちか}る^{ちか}だ^{ちか}け^{ちか}近^{ちか}い^{ちか}もの^{えら}を^{えら}選^{えら}ぶ^{えら}よう^{えら}に^{えら}し^{えら}て^{えら}く^{えら}だ^{えら}さい。

問23 あなたの世帯では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

(a～gそれぞれについて、1～3のあてはまる番号1つに○をつけてください)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまる番号1つに○をつけてください)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の 自立支援相談窓口 ※3	d 児童扶養手当 ※4	e 母子家庭等就業・ 自立支援センター ※5	f 低所得 の子育て世帯に対する子育て 世帯生活支援特別給付金 ※6	g 新型コロナウイルス感染症に伴う 生活福祉資金(貸付金) ※7
現在利用している	1	1	1	1	1	1	1
現在利用していないが、 以前利用したことがある	2	2	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3	3	3
制度の対象外 (収入などの条件を 満たさない) だと思う から	①	①	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に 利用したいと思わな かったから	②	②	②	②	②	②	②
利用したいが、今まで この支援制度を知ら なかったから	③	③	③	③	③	③	③
利用したいが、手続きが わからなかったり、 利用しにくいから	④	④	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

3に○をつけた場合、
①～⑤のあてはまるもの1つに○をつけてください

(参考)

※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。

- ※ 2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※ 3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※ 4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
- ※ 5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けることができる。
- ※ 6 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金：新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯（児童扶養手当受給者など）に対し子育て世帯生活支援特別給付金を支給する制度。
- ※ 7 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）：新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業などにより、一時的又は継続的に収入減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における生活支援費などを支給する制度。

世帯の経済状況についておたずねします。

問24 前年（2022年）のあなたの世帯の手取り収入の合計額は、およそいくらでしたか。

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※収入には、働いて得た給料だけでなく、株式配当や副収入を含めて合計してください。

税金や社会保険料を払ったあとの額でお答えください。

※また、公的な援助手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

1. 50万円未満	12. 550～600万円未満	23. 1,200～1,300万円未満
2. 50～100万円未満	13. 600～650万円未満	24. 1,300～1,400万円未満
3. 100～150万円未満	14. 650～700万円未満	25. 1,400～1,500万円未満
4. 150～200万円未満	15. 700～750万円未満	26. 1,500～1,750万円未満
5. 200～250万円未満	16. 750～800万円未満	27. 1,750～2,000万円未満
6. 250～300万円未満	17. 800～850万円未満	28. 2,000～2,250万円未満
7. 300～350万円未満	18. 850～900万円未満	29. 2,250～2,500万円未満
8. 350～400万円未満	19. 900～950万円未満	30. 2,500～2,750万円未満
9. 400～450万円未満	20. 950～1,000万円未満	31. 2,750～3,000万円未満
10. 450～500万円未満	21. 1,000～1,100万円未満	32. 3,000万円以上
11. 500～550万円未満	22. 1,100～1,200万円未満	33. わからない

新型コロナウイルスの感染状況についておたずねします。

問25 この1年間でお子さんを含め、同居家族が新型コロナウイルスに感染したのべ回数を教えてください。
（例：母 1回、長男 1回 ⇒ 2回とお答えください。）

かい
回

問26 あなたの住居環境についておたずねします。

（1）あなたがお住まいの住居の間取りは、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号1つに
まる
○をつけてください）

1. ワンルーム	3. 居室2部屋（2K、2DK、2LDK）
2. 居室1部屋（1K、1DK、1LDK）	4. 居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上

（2）その住居には、何人でお住まいですか。（□に数字をお書きください。）

にん
人

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございました。

相談窓口のご案内

○生活困窮者自立支援相談窓口

https://www.pref.osaka.lg.jp/shakaiengo/seikon_gaiyou/index.html#jiritu

○大阪府立母子・父子福祉センター（大阪市、堺市、豊中市は各市の窓口）

<https://osakafu-boshiren.jp/>

○子育てや親子関係の悩みについては

<親子のための相談LINE>

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

- WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。
- 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src/2700081>

- ◆ 最初の画面が表示されたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

子ども・保護者のみなさまに本調査にご協力いただきました。ご多忙の中快くお引き受けくださりご協力くださいましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。

門真市子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

門真市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学